

令和7年度
江東区地域生活に関する調査
(江東区障害者実態調査)
【調査結果報告書】

令和8年3月



目 次

第1章 調査の概要.....	1
1 調査目的.....	3
2 調査対象.....	3
3 調査期間.....	3
4 抽出方法・調査方法.....	3
5 回収状況.....	4
6 調査結果の表示方法.....	4
7 設問一覧.....	4
第2章 障害者調査.....	9
(1) ご本人の状況について.....	11
(2) 仕事や学校生活について.....	34
(3) 社会参加やコミュニケーションについて.....	57
(4) 情報・相談先について.....	64
(5) サービスの利用について.....	78
(6) 暮らしについて.....	125
(7) 災害時の支援について.....	141
(8) 障害者施策について.....	156
(9) 障害者スポーツについて.....	170
(10) 共生社会について.....	176
(11) 介護者について.....	195
第3章 障害児調査.....	219
(1) 子どもの状況について.....	221
(2) 仕事や学校生活について.....	232
(3) 社会参加やコミュニケーションについて.....	239
(4) 情報・相談先について.....	245
(5) サービスの利用について.....	253
(6) 暮らしについて.....	265
(7) 災害時の支援について.....	275
(8) 障害者施策について.....	285
(9) 障害者スポーツについて.....	295
(10) 共生社会について.....	299
(11) 介護者について.....	312

第4章	サービス提供事業所調査.....	323
(1)	事業所について.....	325
(2)	サービスの提供について.....	338
(3)	事業所運営について.....	360
第5章	障害者団体調査.....	411
(1)	団体一覧.....	413
(2)	回答結果.....	414

第 1 章

調査の概要

1 調査目的

本調査は、障害のある方の地域生活の課題を把握・整理し、「江東区障害者計画」、「江東区障害福祉計画」及び「江東区障害児福祉計画」策定の基礎資料とするとともに、今後の施策のあり方を検討するために3年に1度実施しているものです。

本年度は令和8年度に策定する「第8期江東区障害福祉計画」及び「第4期江東区障害児福祉計画」策定の基礎資料とするため、実施いたします。

2 調査対象

障害者： 江東区に在住する、障害のある18歳以上の方や障害福祉サービスを利用されている方。

障害児： 江東区に在住する、障害のある18歳未満の方や児童発達支援、放課後等デイサービス等に通われているお子様を養育している保護者の方。

サービス提供事業所： 障害福祉サービスや障害児通所支援等を提供されている江東区内の全事業所。

障害者団体： 江東区内で活動されている、障害福祉や障害者支援、障害児支援に関わる全団体。

3 調査期間

(1) 障害者・障害児	令和7年9月19日～10月17日
(2) サービス提供事業所、障害者団体	令和7年9月16日～10月10日
(3) 障害者団体ヒアリング	令和7年10月30日～11月18日

4 抽出方法・調査方法

【抽出方法】

- ・ 障害者・障害児調査：無作為抽出
- ・ サービス提供事業所・障害者団体調査：悉皆調査

【アンケート調査】

- ・ 郵送配布・郵送回収（WEB回答併用）
- ・ 調査期間内に「ご協力のお礼とお願い」（はがき）1回送付

【団体ヒアリング】

- ・ 対面ヒアリング、一部オンライン面談

5 回収状況

調査票の種類	配布数	回収数 (内WEB回答件数)	回収率	《参考》 令和4年度調査
障害者本人	3,992件	2,210件 (613件)	55.4%	39.7%
障害児	1,016件	612件 (340件)	60.2%	46.0%
サービス提供事業所	232件	148件 (96件)	63.8%	64.2%
障害者団体	41件	27件 (15件)	68.6%	68.6%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が少ない場合は、コメントを差し控えています。

7 設問一覧

本調査における設問一覧です。概要版では、障害者、障害児、サービス提供事業所に実施した設問を抜粋して、調査結果を掲載しています。

(1) 障害者・障害児

項目	設問番号		設問内容
	障害者	障害児	
本人の 状況	問1	問1	年齢
	問2	問2	障害種別・身体障害の内訳
	問3	問3	障害者手帳について
	—	問4	発達に関する診断について
	—	問5	発達に関する問題に気づいた年齢
	問4	—	調査回答者
	問5	問6	同居者構成
	問6	—	日常生活の中での介護や支援について
仕事や 学校生活	問7	問7	日常生活の中での医療的ケアについて
	問8	問8	日中の活動について
	問9	—	就業者の現在困っていること／今後の希望

項目	設問番号		設問内容
	障害者	障害児	
	問10	—	家事・育児専従者の現在困っていること／今後の希望
	問11	—	事業所等通所者の現在困っていること／今後の希望
	問12	—	学校等で現在困っていること／希望する進路
	—	問9	こどもの保育や学校生活で心配なこと困っていること／希望する進路
	問13	—	仕事をしていくために必要なこと
	—	問10	療育や支援でさらに充実させるべきこと
社会参加 やコミュニ ケーション	問14	問11	社会参加や余暇活動などで外出するときに困ること
	問15	問12	社会参加の支援サービスについての要望
	問16	問13	余暇の過ごし方
情報・ 相談先	問17	問14	福祉に関する情報入手経路
	問18	問15	福祉サービスの利用で困ったときの相談先
	問19	問16	福祉サービスの利用について区役所などへ相談しやすくするために必要なこと
	問20	問17	情報の取得利用や意思疎通における必要な施策
	問21	—	パソコンやスマートフォン、タブレットの機能の使用について
サービスの 利用	問22	問18	利用状況
	問23	問19	サービス等利用計画の作成状況
	問23-1	問19-1	セルフプラン作成の理由
	問24	問20	利用しているサービスの量や質の満足度
	問25	問21	現在利用しているサービス提供事業者に望むこと
暮らし	問26	問22	江東区の居住状況
	問27	問23	現在の居住形態
	問28	—	住まいに関して必要な支援
	問29	問24	家計の状況
	問30	—	将来希望する暮らし
	問31	問25	希望する暮らしをするために／将来自立した生活を送るために必要なこと
	—	問26	江東区立図書館で充実すべきサービス
	問32	問27	取り組んでみたい文化芸術活動
災害時の 支援	問33	問28	避難行動要支援者名簿の認知度
	問33-1	問28-1	個別避難計画の認知度
	問34	問29	地域の防災訓練への参加意向
	問34-1	問29-1	地域の防災訓練に参加したくない理由
	問35	問30	災害発生時に困ることや不安なこと
	問36	問31	災害時に必要な支援
	問37	問32	災害に対する備え

項目	設問番号		設問内容
	障害者	障害児	
障害者 施策	問38	問33	改正障害者差別解消法（合理的配慮の提供）の認知度
	問39	問34	障害者虐待防止センターの認知度
	問40	問35	差別経験の有無
	問41	問36	障害者への虐待や差別を防ぐために必要なこと
	問42	問37	日常生活の中で周囲からの配慮を感じるか
	問43	問38	3年前と比べて江東区の障害者施策は充実したか
	問44	問39	3年前と比べて江東区の福祉サービスは変化したか
	問45	問40	障害者（児）支援施策への満足度
	問46	問41	周りの人から助けてもらったり、してもらったりしてうれしかったこと
障害者 スポーツ	問47	問42	取り組んでみたいスポーツ
	問48	問43	スポーツ・レクリエーションを行う際に困っていること
共生社会	問49	問44	近所との付き合いの程度
	問50	問45	外出先で手助けや配慮してもらった経験の有無
	問51	問46	江東区での暮らしについて
	問52	問47	江東区に住み続けたいか
	問53	問48	障害のある人もない人も共に生活できる地域社会の実現のために大切なこと
	問54	問49	ヘルプマークの認知度
	問55	—	成年後見制度／日常生活自立支援事業の認知度
	問56	問50	公園で不便に感じていること
	問57	問51	現在の幸福度
	問58	問52	江東区の障害者施策に関する自由意見
介護者	問59	—	主たる介護者続柄／年齢／1日の介護時間
	問60	—	介護するに当たっての悩みや不安
	問61	—	長期間介護できなくなった場合の対応
	問62	—	家族介護への支援について
	問63	問53	主な介護者の要介護度
	—	問54	介護するにあたっての悩みや不安
	問64	問55	主な介護者の勤務形態
	問64-1	問55-1	介護のための働き方の調整
	問64-2	問55-2	仕事と介護の両立に効果的な勤め先からの支援
	問64-3	問55-3	今後の仕事と介護の両立状況
	—	問56	こどもが18歳になった時の希望進路
	問65	問57	将来で不安に思うこと
	問66	問58	医療的ケアを必要とする介護についての困りごとや不安

(2) サービス提供事業所

項目	設問番号	設問内容
事業所	問1	事業所の経営主体
	問2	事業所の職員数
	問3	職員の経験年数
	問4	指定を受けているサービス
	問5	介護保険サービスの指定
	問6	事業所の開業年
サービスの提供	問7	サービス利用者数
	問8	サービスの提供量
	問9	サービスを提供する上での課題
	問10	利用者やご家族からの相談や苦情内容
	問11	スタッフの質の向上や人材育成のための取組
	問12	サービスの質の向上のため取組
	問13	拡充したいと思う支援の分野
	問14	拡充したいと思う知識やスキルの分野
事業所運営	問15	力を入れているサービス
	問16	提供サービスの収入割合
	問17	事業所を経営していく上での課題
	問18	人材確保のための取組
	問19	福祉人材確保・定着のための補助金について
	問20	職員数の充足状況
	問20-1	職員数が不足している理由
	問20-2	職員数が不足している職種
	問21	今年度の収支状況
	問22	前年度との収支状況の比較
	問23	収支の向上や改善についての考え
	問24	新規参入や事業拡大を検討しているサービス
事業所運営	問25	新規参入や事業拡大する上での課題
	問26	新規参入や事業拡大促進のために必要な区の実取組
	問27	I C Tを活用している業務
	問28	医療的ケア／重度心身障害／強度行動障害への対応状況
	問28-1	医療的ケア／重度心身障害／強度行動障害への配慮内容
	問28-2	医療的ケア／重度心身障害／強度行動障害へのサービスで必要なこと
	問29	区全体で不足していると思われるサービスや支援
	問30	共生型サービスの認知度／指定状況
	問31	入所者の地域生活への移行を進める上での課題
	問32	地域生活への移行を進める上で工夫していること
	問33	虐待防止対策の取組
	問34	職員による虐待やハラスメント防止のための工夫
	問35	利用者による暴力やハラスメント防止のための工夫
	問36	利用者の意思決定支援の対応状況
	問37	災害時対策の取組

項目	設問番号	設問内容
連携	問38	地域住民・団体・ボランティア等との関わりについて
	問39	地域との連携を図るために行っていること
	問40	連携している関係機関・団体
	問41	関係機関・団体との連携強化のために必要なこと
自由意見	問42	江東区の障害者施策に関する自由意見

(3) 障害者団体

設問番号	設問内容
問1	相談・情報提供体制、コミュニケーション支援
問2	自立生活支援
問3	保健・医療
問4	ユニバーサルデザイン、生活環境
問5	雇用・就労
問6	地域活動支援
問7	区民の理解・共感の醸成・促進
問8	地域生活環境整備
問9	配慮を必要とするこどもに対する教育・療育
問10	団体運営・活動上の課題等
問11	その他、活動上感じる課題等

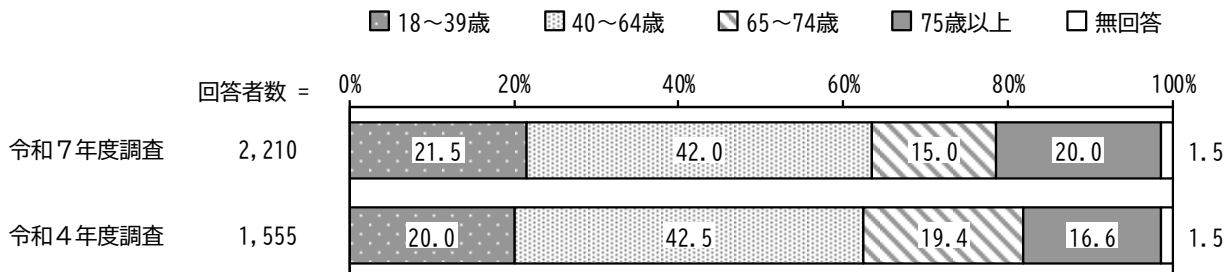
第 2 章

障害者調査

(1) ご本人の状況について

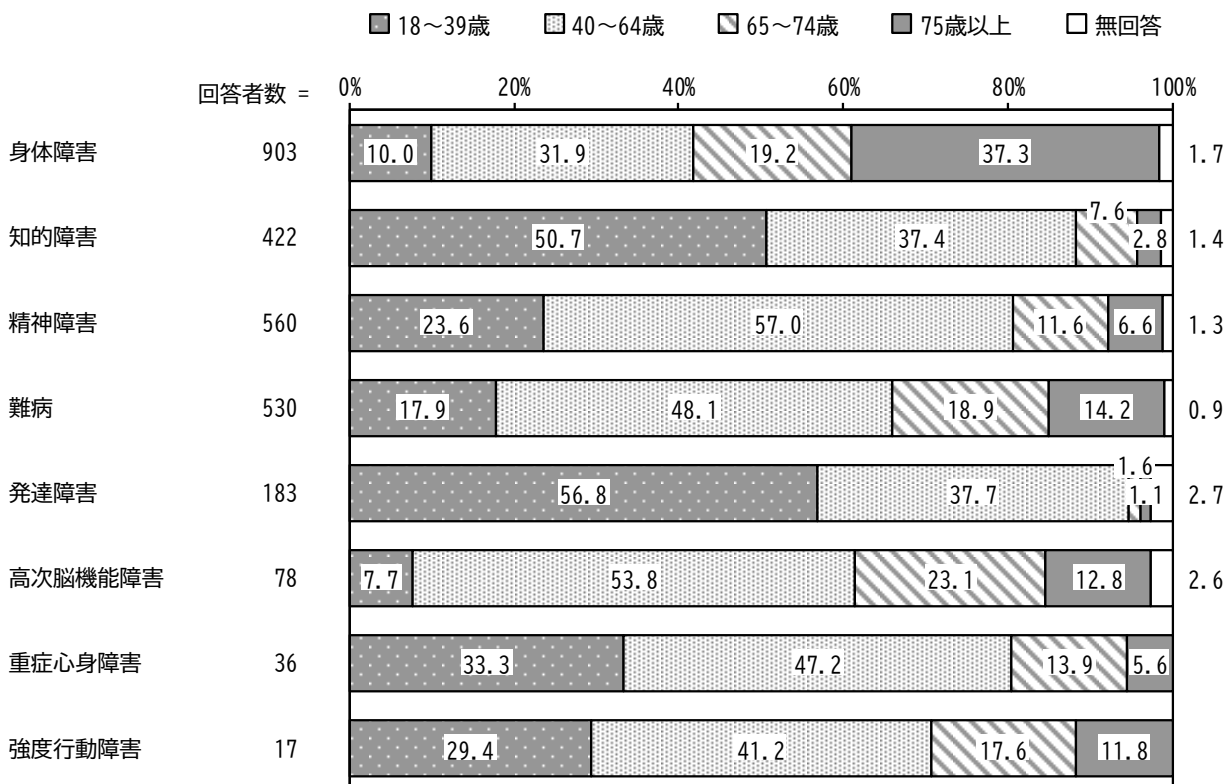
問1 あなた（ご本人）の年齢は、何歳ですか。令和7年9月1日現在の年齢を記入してください。

「40～64歳」の割合が42.0%と最も高く、次いで「18～39歳」の割合が21.5%、「75歳以上」の割合が20.0%となっています。



【障害種別】

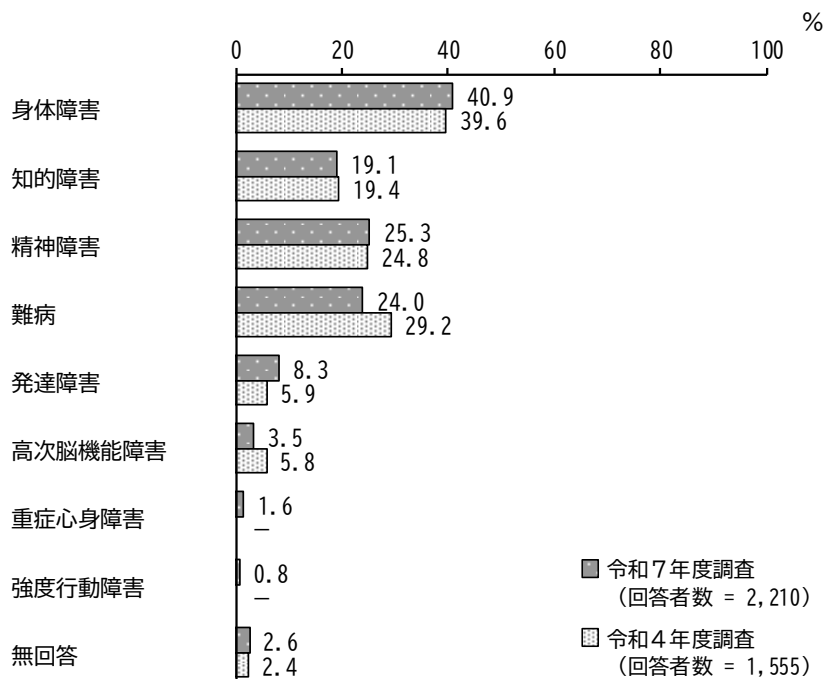
障害種別にみると、発達障害で「18～39歳」、精神障害で「40～64歳」、身体障害で「75歳以上」の割合が高くなっています。



問2 あなた（ご本人）の障害について、お聞きします。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「身体障害」の割合が 40.9%と最も高く、次いで「精神障害」の割合が 25.3%、「難病」の割合が 24.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「難病」の割合が減少しています。



※「重症心身障害」、「強度行動障害」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【年齢別】

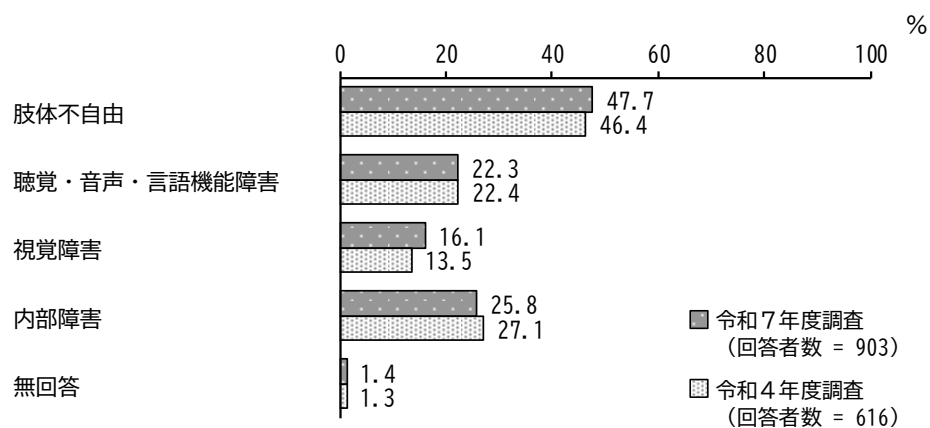
年齢別にみると、年齢が下がるほど「知的障害」「発達障害」の割合が高く、「身体障害」の割合が低くなっています。「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「精神障害」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	身体障害	知的障害	精神障害	難病	発達障害	高次脳機能障害	重症心身障害	強度行動障害	無回答
全 体	2,210	40.9	19.1	25.3	24.0	8.3	3.5	1.6	0.8	2.6
18～39歳	476	18.9	45.0	27.7	20.0	21.8	1.3	2.5	1.1	1.1
40～64歳	929	31.0	17.0	34.3	27.4	7.4	4.5	1.8	0.8	1.4
65～74歳	331	52.3	9.7	19.6	30.2	0.9	5.4	1.5	0.9	3.0
75歳以上	441	76.4	2.7	8.4	17.0	0.5	2.3	0.5	0.5	5.7

身体障害の種類

「肢体不自由」の割合が47.7%と最も高く、次いで「内部障害」の割合が25.8%、「聴覚・音声・言語機能障害」の割合が22.3%となっています。



【年齢別】

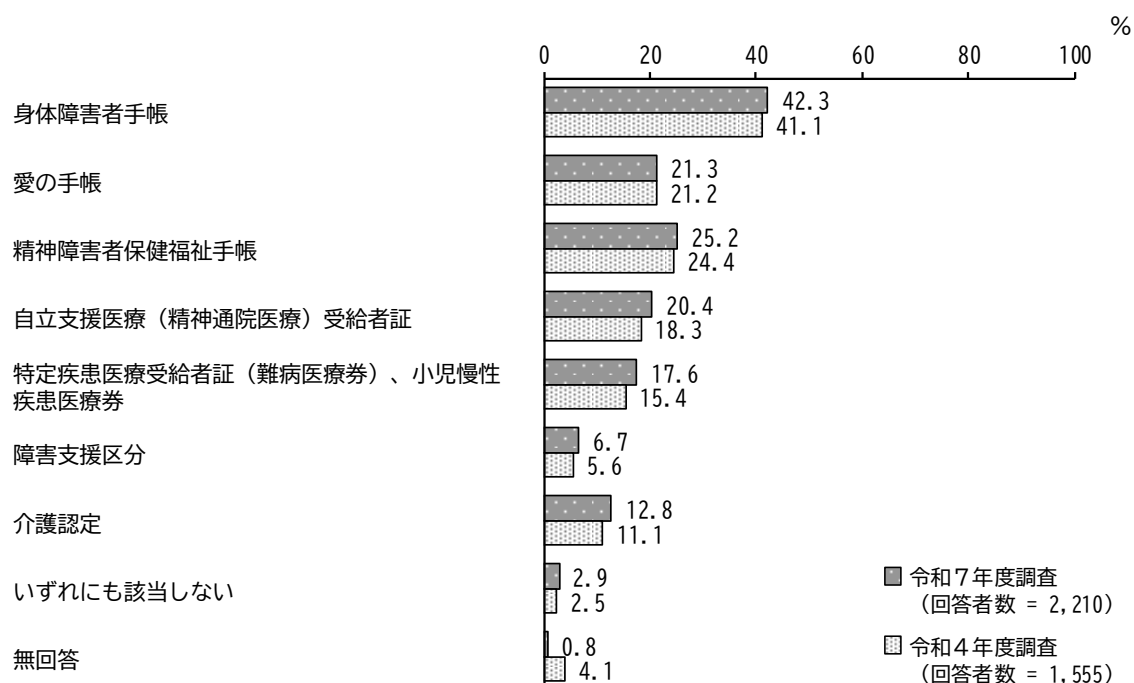
年齢別にみると、年齢が下がるほど「肢体不自由」の割合が高く、「18～39歳」から「65～74歳」まで年齢が上がるほど「視覚障害」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	肢体不自由	聴覚・音声・言語機能障害	視覚障害	内部障害	無回答
全 体	903	47.7	22.3	16.1	25.8	1.4
18～39歳	90	56.7	20.0	4.4	28.9	2.2
40～64歳	288	50.3	19.8	16.3	23.3	1.4
65～74歳	173	44.5	18.5	20.2	30.1	1.7
75歳以上	337	44.2	27.0	16.6	25.8	0.9

問3 あなた（ご本人）がお持ちの障害者手帳などについて、お聞きます。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「身体障害者手帳」の割合が42.3%と最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」の割合が25.2%、「愛の手帳」の割合が21.3%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「愛の手帳」「自立支援医療（精神通院医療）受給者証」「障害支援区分」の割合が高く、「身体障害者手帳」「介護認定」の割合が低くなっています。「40歳以上」から年齢が上がるほど「精神障害者保健福祉手帳」「特定疾患医療受給者証（難病医療券）、小児慢性疾患医療券」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	自立支援医療（精神通院医療）受給者証	特定疾患医療受給者証（難病医療券）、小児慢性疾患医療券	障害支援区分	介護認定	いずれにも該当しない	無回答
全 体	2,210	42.3	21.3	25.2	20.4	17.6	6.7	12.8	2.9	0.8
18～39歳	476	19.1	48.5	31.9	26.9	15.3	11.8	0.6	1.7	0.4
40～64歳	929	31.0	19.3	33.2	25.7	22.1	6.8	4.3	3.6	0.8
65～74歳	331	54.4	11.2	17.8	15.4	21.1	3.6	21.1	4.5	0.6
75歳以上	441	81.6	3.9	6.8	6.1	8.6	3.2	37.4	1.8	0.7

【障害種別】

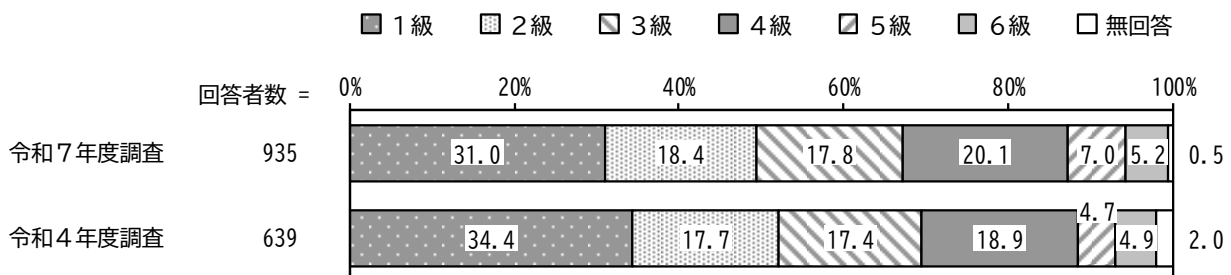
障害種別にみると、身体障害で「身体障害者手帳」、知的障害で「愛の手帳」、精神障害で「精神障害者保健福祉手帳」「自立支援医療（精神通院医療）受給者証」、難病で「特定疾患医療受給者証（難病医療券）、小児慢性疾患医療券」、重症心身障害で「障害支援区分」、高次脳機能障害で「介護認定」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	自立支援医療（精神通院医療）受給者証	特定疾患医療受給者証（難病医療券）、小児慢性疾患医療券	障害支援区分	介護認定	いずれにも該当しない	無回答
全 体	2,210	42.3	21.3	25.2	20.4	17.6	6.7	12.8	2.9	0.8
身体障害	903	92.0	10.9	5.3	5.9	9.4	6.6	23.5	0.6	0.1
知的障害	422	20.4	96.4	9.7	15.2	1.4	23.0	4.7	0.0	0.0
精神障害	560	9.8	10.7	85.9	65.7	3.8	6.4	7.5	0.0	0.4
難病	530	24.9	4.0	4.3	5.3	67.2	3.6	13.4	10.9	0.4
発達障害	183	13.7	48.6	54.6	45.4	3.3	13.1	2.2	0.0	0.5
高次脳機能障害	78	65.4	10.3	34.6	21.8	19.2	10.3	35.9	2.6	0.0
重症心身障害	36	83.3	66.7	5.6	8.3	8.3	41.7	19.4	0.0	0.0
強度行動障害	17	64.7	58.8	17.6	11.8	5.9	29.4	17.6	0.0	0.0

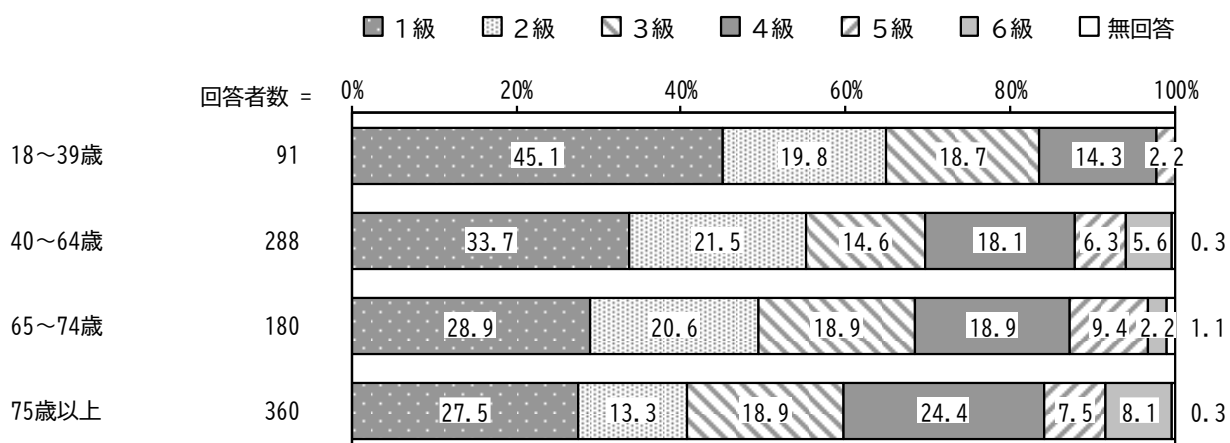
身体障害者手帳の等級

「１級」の割合が 31.0％と最も高く、次いで「４級」の割合が 20.1％、「２級」の割合が 18.4％となっています。



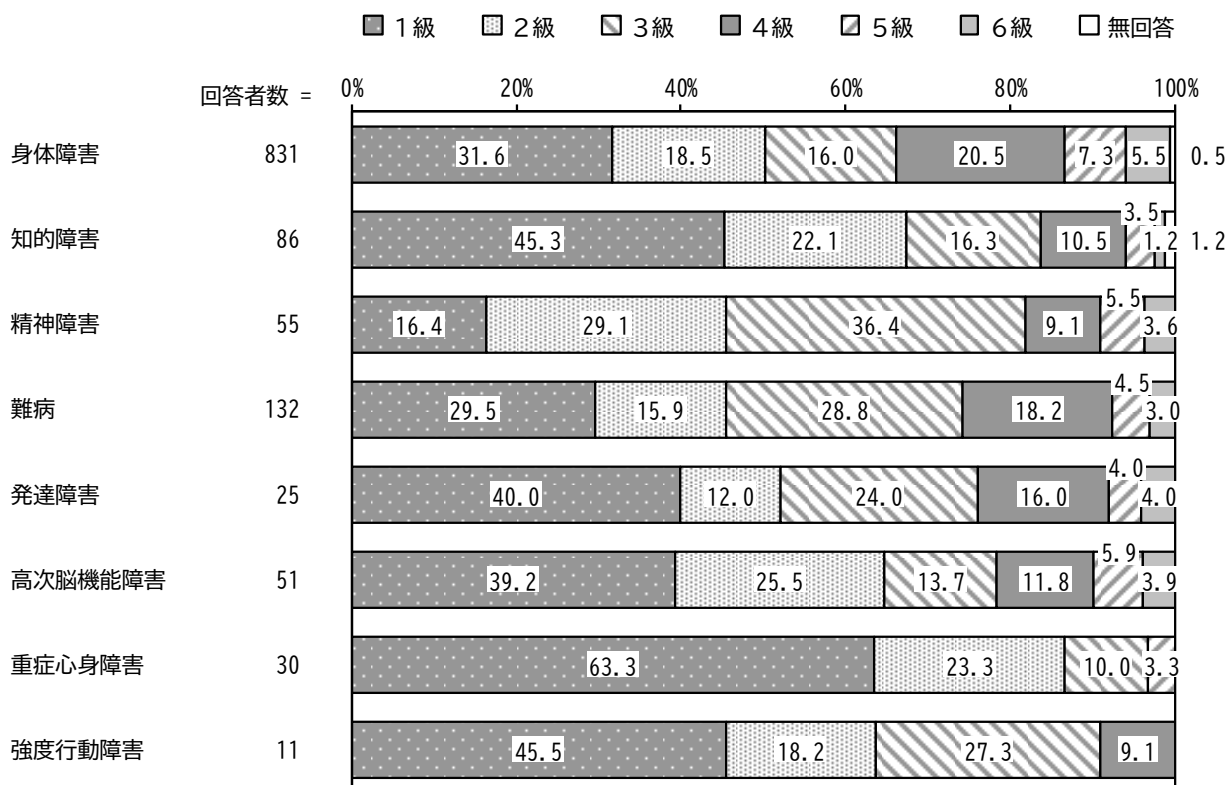
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「4級」の割合が高く、「1級」の割合が低く、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「2級」の割合が高くなっています。



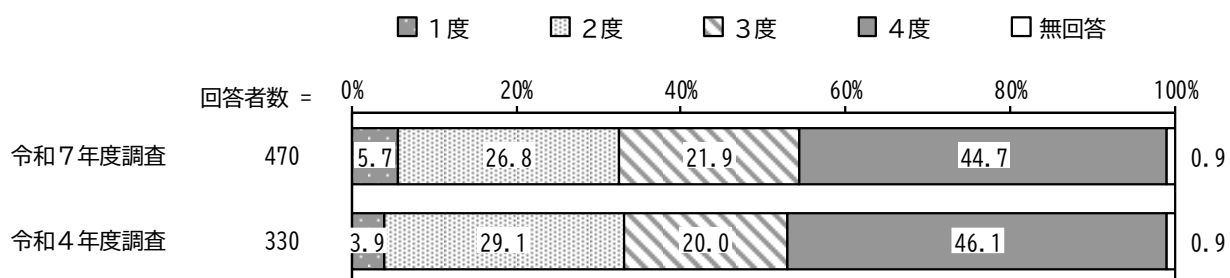
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「1級」、精神障害で「2級」「3級」の割合が高くなっています。



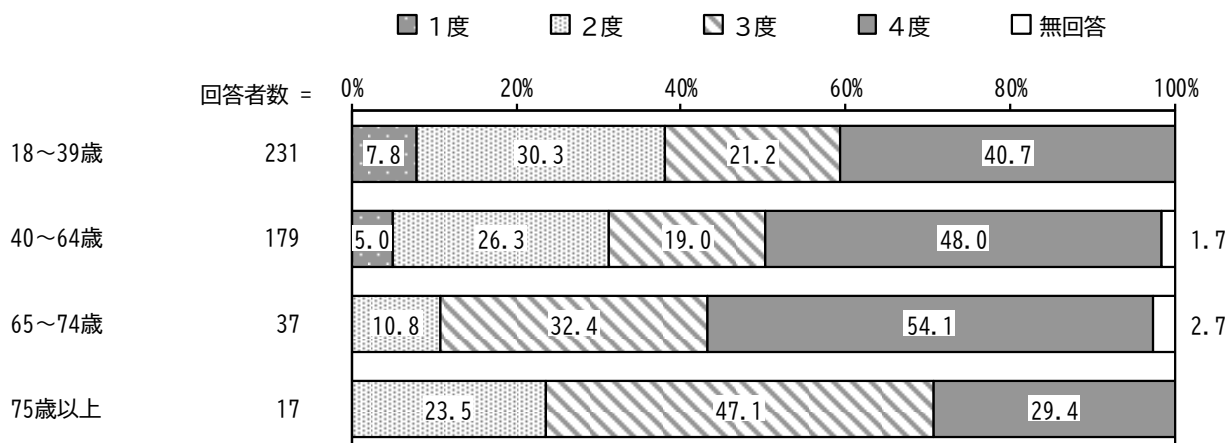
愛の手帳の程度

「4度」の割合が44.7%と最も高く、次いで「2度」の割合が26.8%、「3度」の割合が21.9%となっています。



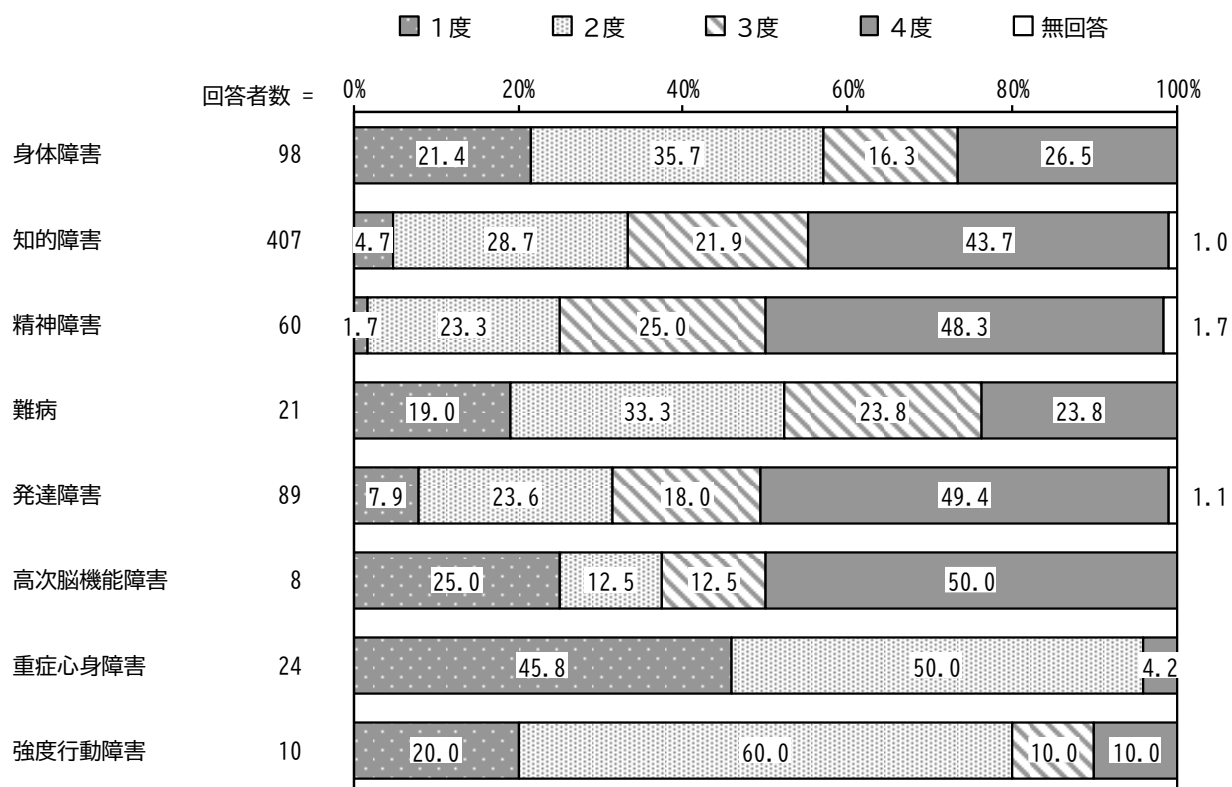
【年齢別】

年齢別にみると、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「3度」の割合が高く、「18～39歳」から「65～74歳」まで年齢が上がるほど「4度」の割合が高く、「2度」の割合が低くなっています。



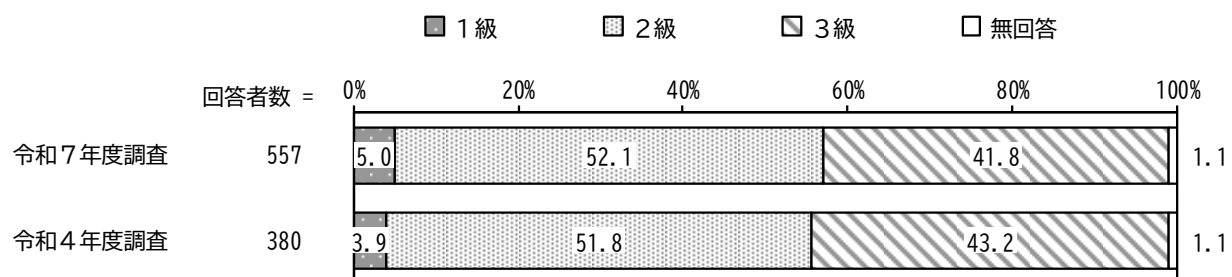
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「1度」、強度行動障害で「2度」の割合が高くなっています。



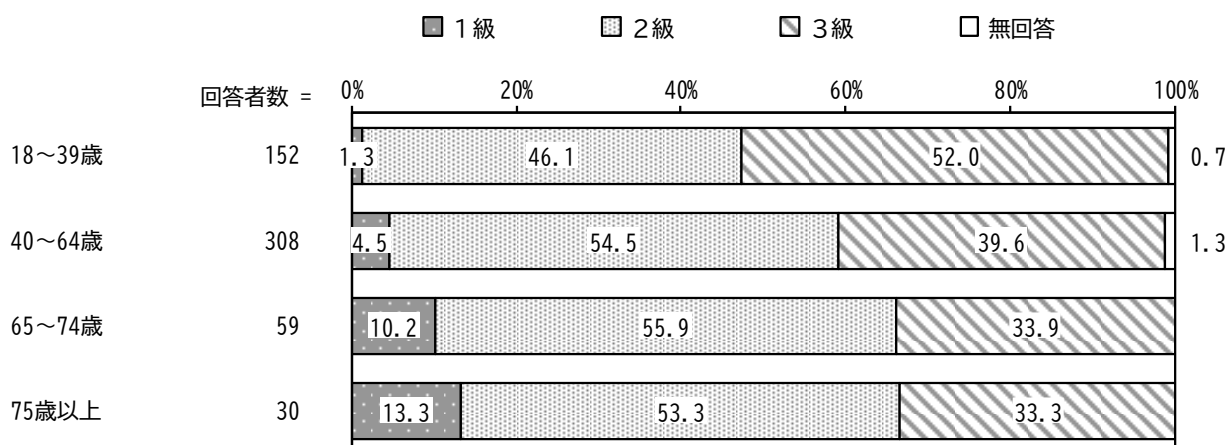
精神障害者保健福祉手帳の等級

「1級」の割合が5.0%、「2級」の割合が52.1%、「3級」の割合が41.8%となっています。



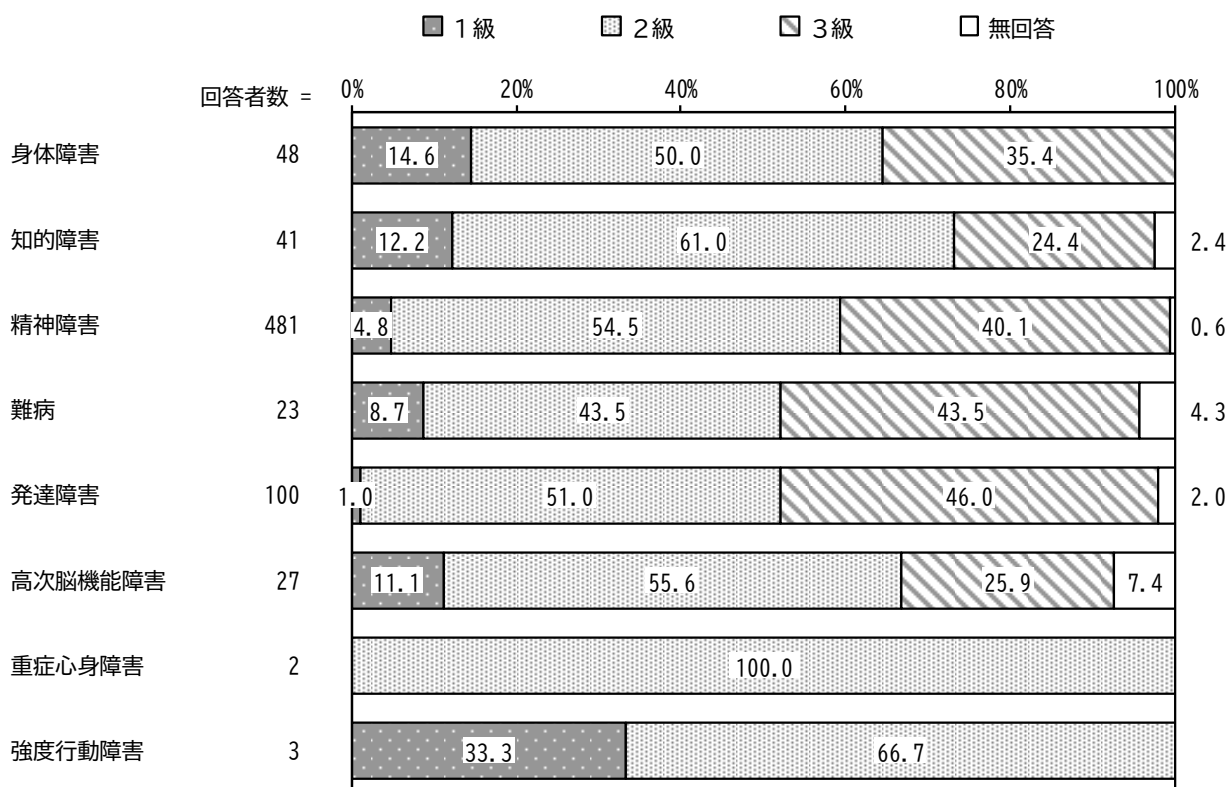
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「１級」の割合が高く、「３級」の割合が低くなっています。



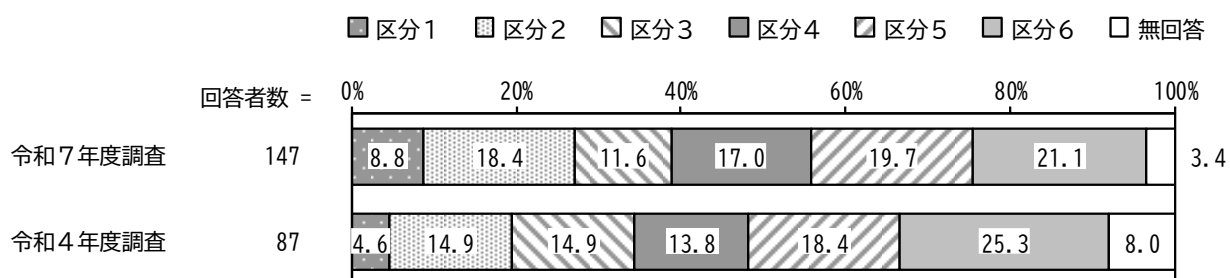
【障害種別】

障害種別にみると、身体障害、知的障害で「１級」、知的障害で「２級」の割合が高くなっています。



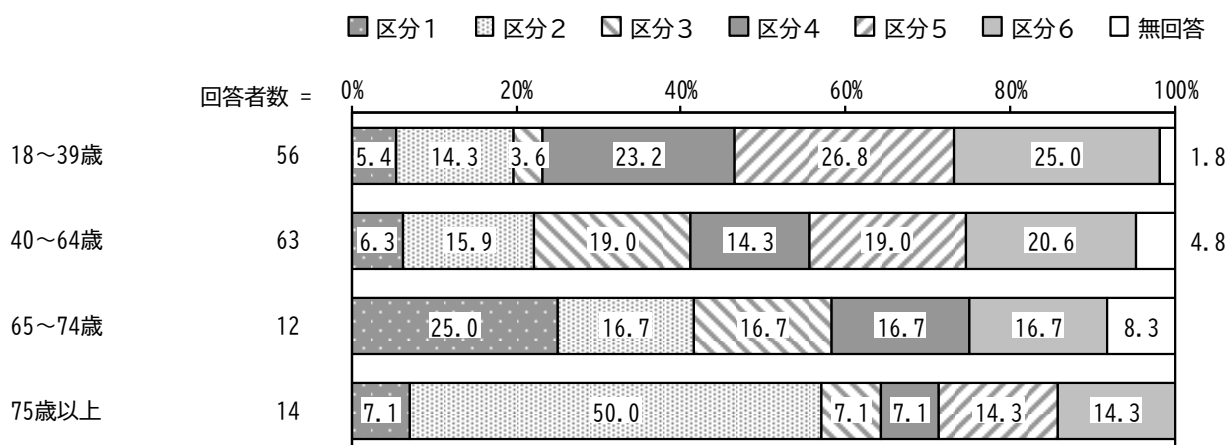
障害支援区分

「区分6」の割合が21.1%と最も高く、次いで「区分5」の割合が19.7%、「区分2」の割合が18.4%となっています。



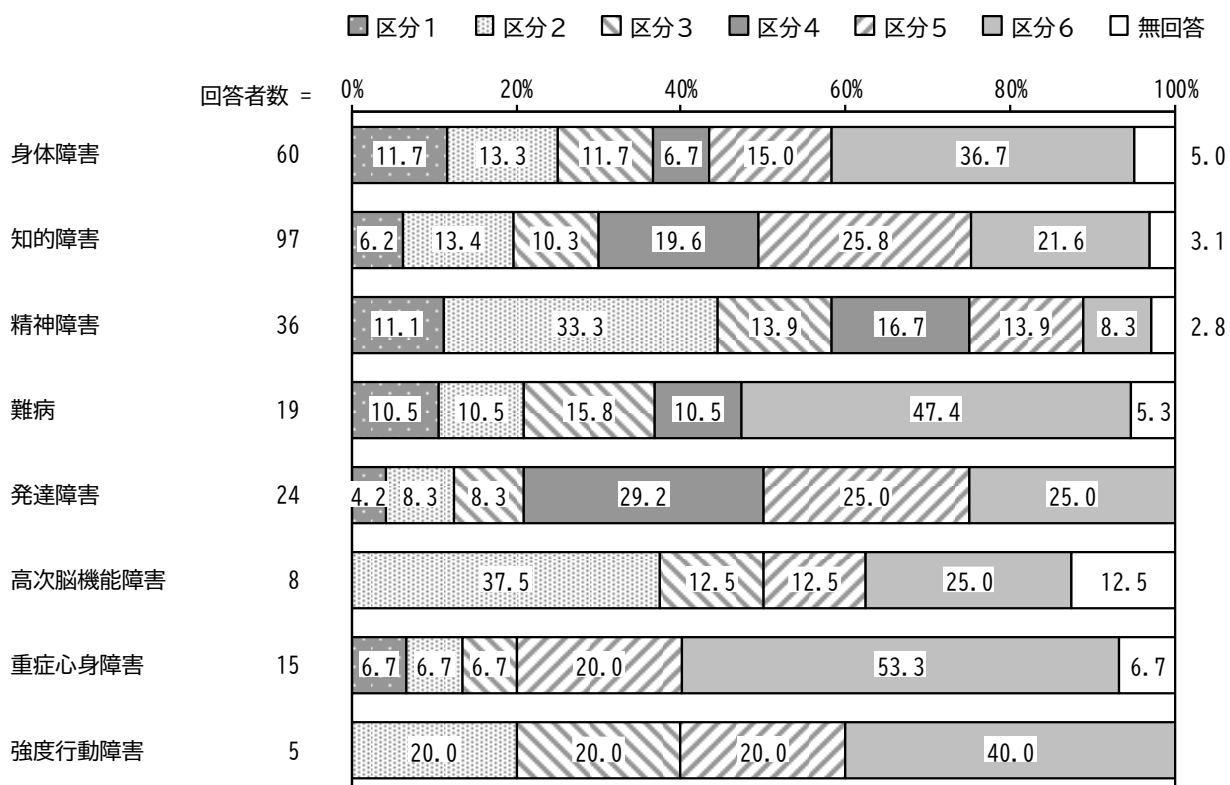
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「区分4」「区分6」の割合が高い傾向にあり、「40～64 歳」から「75 歳以上」まで年齢が上がるほど「区分2」の割合が高く、「区分3」の割合が低くなっています。



【障害種別】

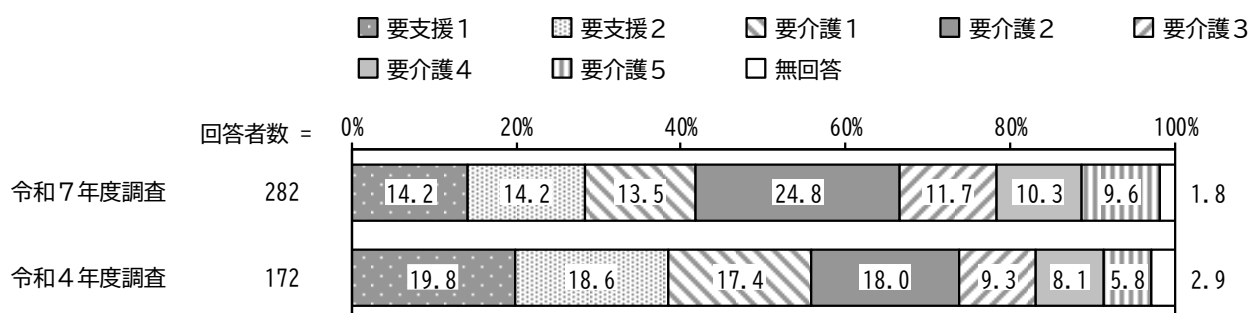
障害種別にみると、精神障害で「区分2」、発達障害で「区分4」、重症心身障害で「区分6」の割合が高くなっています。



介護認定の程度

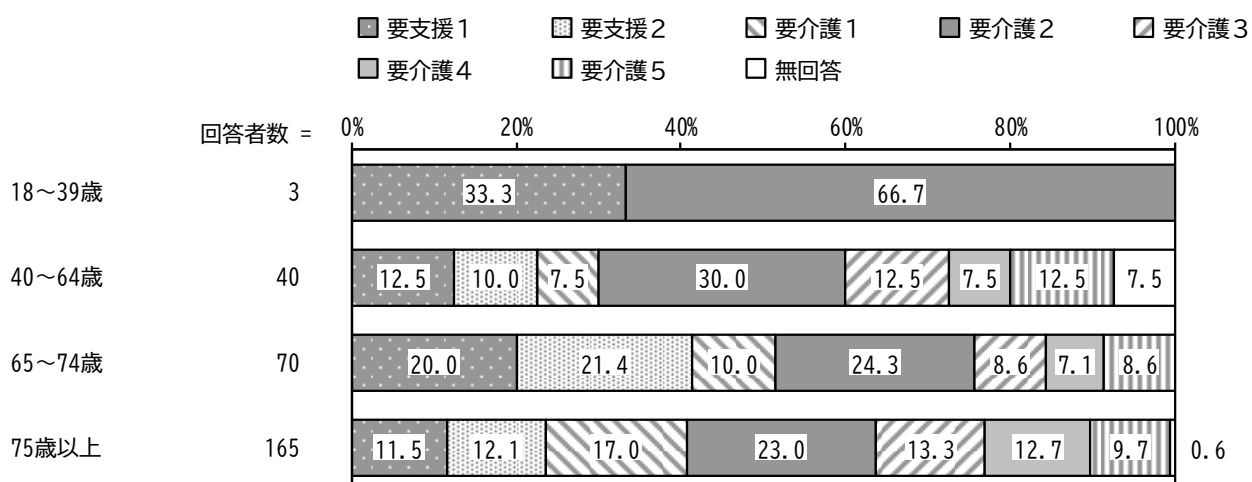
「要介護2」の割合が24.8%と最も高く、次いで「要支援1」、「要支援2」の割合が14.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「要介護2」の割合が増加しています。一方、「要支援1」の割合が減少しています。



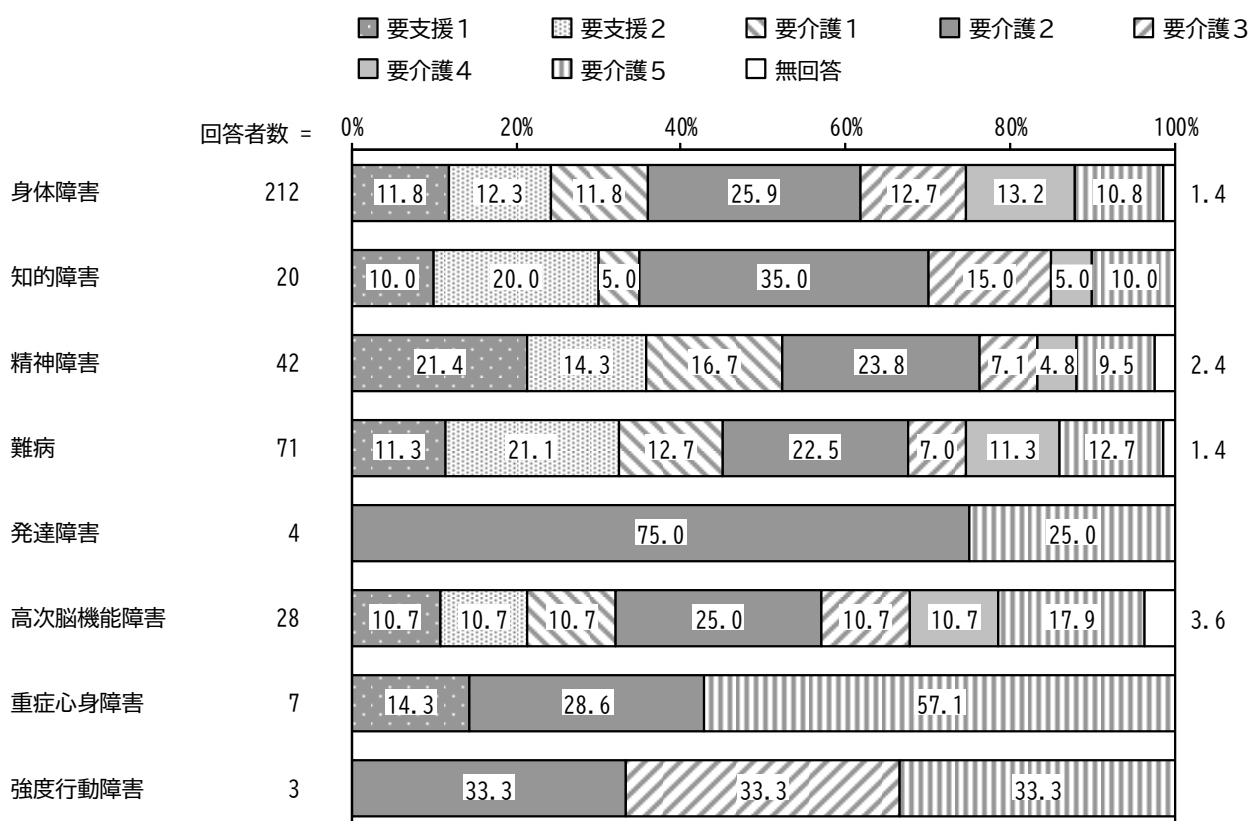
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「要介護1」「要介護4」の割合が高い傾向にあります。



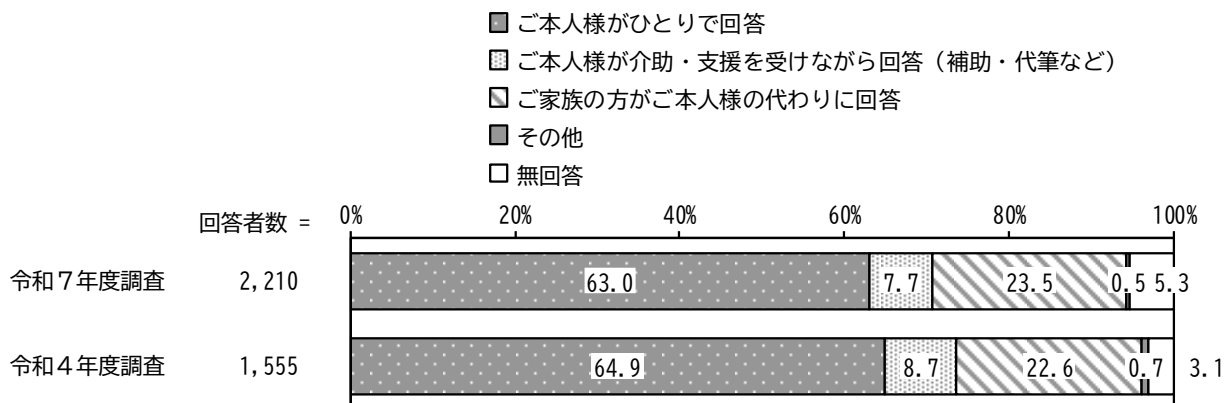
【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で「要支援1」、知的障害、難病で「要支援2」、知的障害で「要介護2」、高次脳機能障害で「要介護5」の割合が高くなっています。



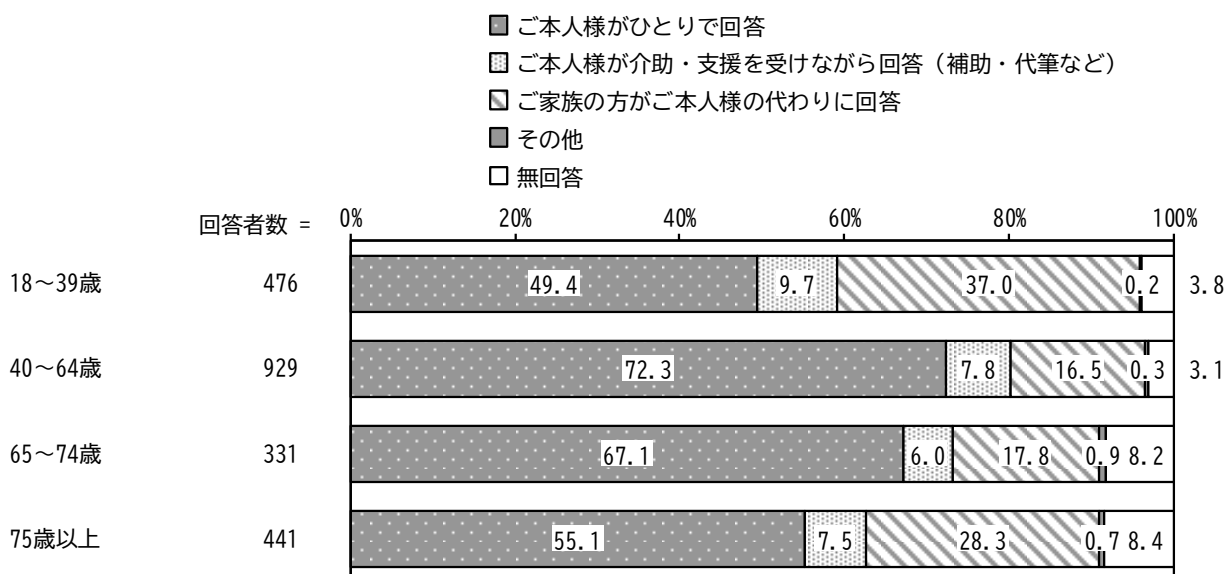
問4 調査にご回答いただいている方はどなたですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「ご本人様がひとりで回答」の割合が63.0%、「ご本人様が介助・支援を受けながら回答（補助・代筆など）」の割合が7.7%、「ご家族の方がご本人様の代わりに回答」の割合が23.5%となっています。



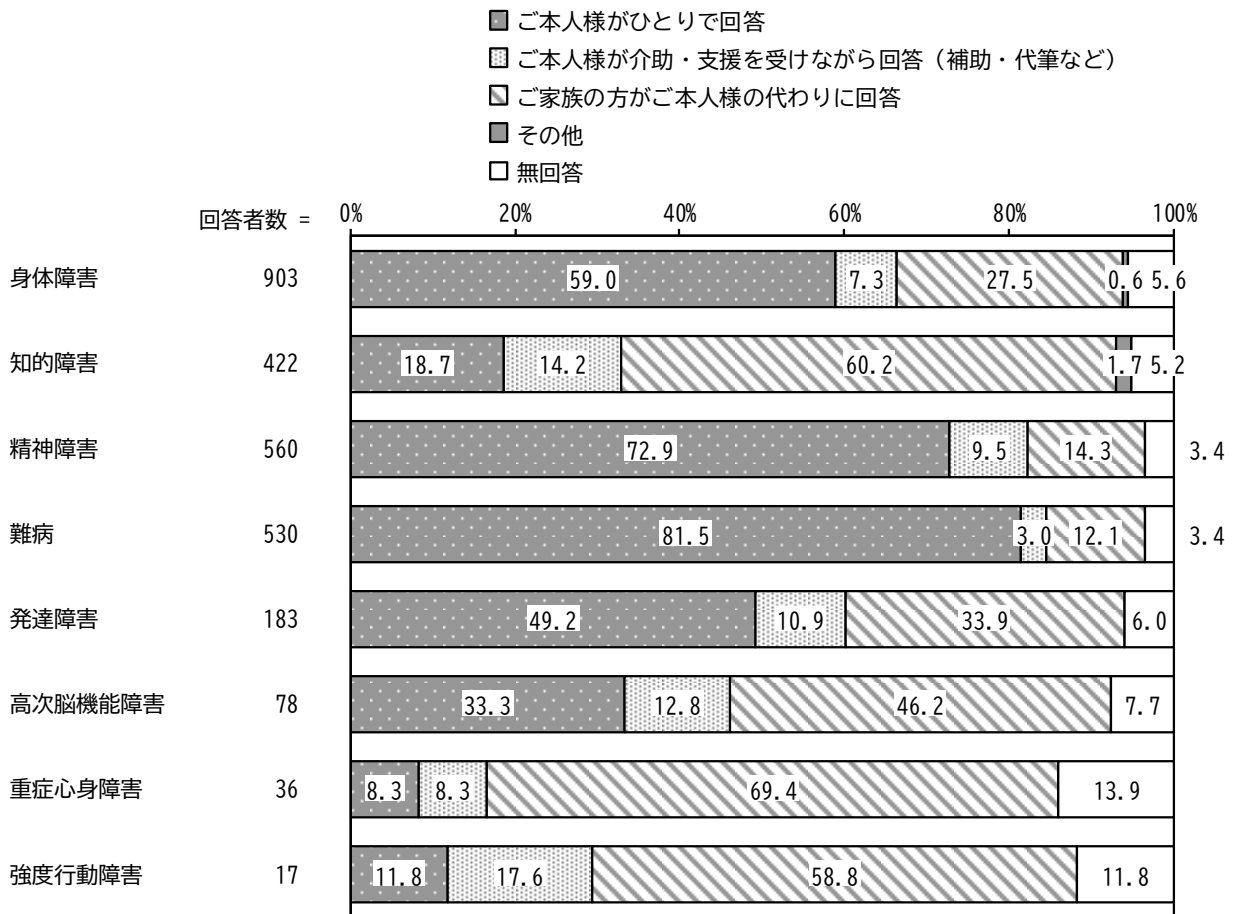
【年齢別】

年齢別にみると、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「ご家族の方がご本人様の代わりに回答」の割合が高く、「ご本人様がひとりで回答」の割合が低くなっています。



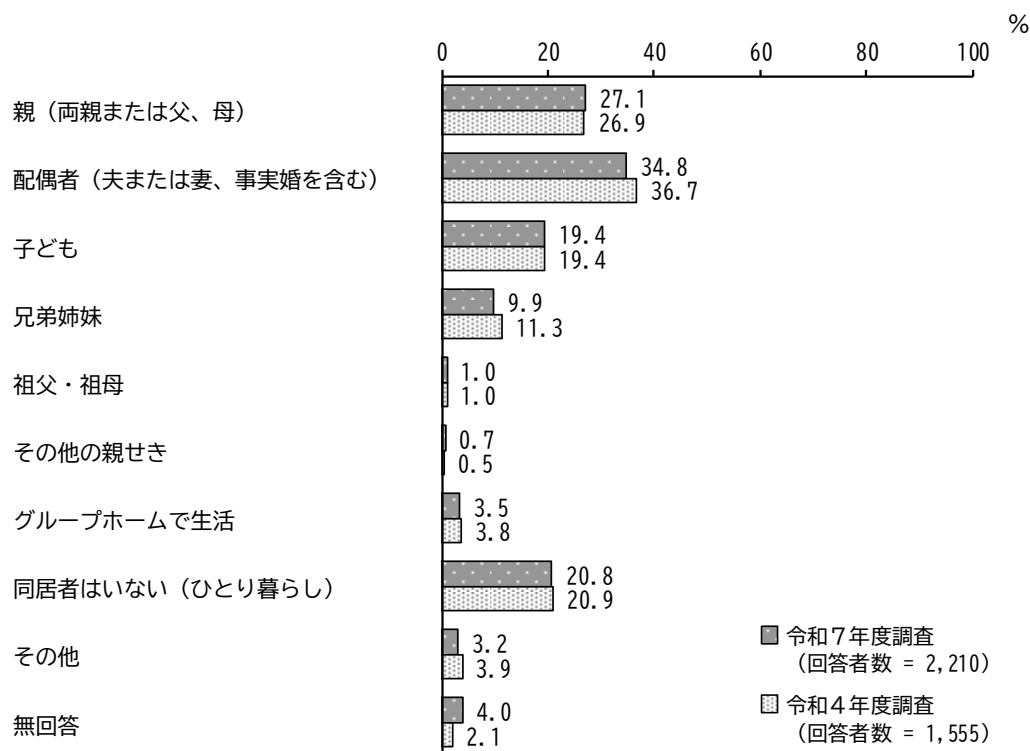
【障害種別】

障害種別にみると、難病で「ご本人様がひとりで回答」、重症心身障害で「ご家族の方がご本人様の代わりに回答」の割合が高くなっています。



問5 あなた（ご本人）は現在、どなたと一緒に暮らしていますか。一緒に生活されている方すべてに○をつけてください。

「配偶者（夫または妻、事実婚を含む）」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「親（両親または父、母）」の割合が 27.1%、「同居者はいない（ひとり暮らし）」の割合が 20.8%となっています。



※令和4年度調査では、「配偶者（夫または妻、事実婚を含む）」が「配偶者（夫または妻）」となっていました。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「親（両親または父、母）」「兄弟姉妹」の割合が高く、「18～39歳」から「65～74歳」まで年齢が上がるほど「配偶者（夫または妻、事実婚を含む）」「同居者はいない（ひとり暮らし）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	親（両親または父、母）	配偶者（夫または妻、事実婚を含む）	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母	その他の親せき	グループホームで生活	同居者はいない（ひとり暮らし）	その他	無回答
全 体	2,210	27.1	34.8	19.4	9.9	1.0	0.7	3.5	20.8	3.2	4.0
18～39歳	476	66.8	12.0	8.8	23.1	4.0	0.4	4.0	11.6	3.2	2.3
40～64歳	929	28.5	37.4	22.8	8.2	0.2	0.5	4.0	22.0	2.7	2.2
65～74歳	331	2.4	48.6	16.6	4.8	0.0	0.6	1.8	27.2	2.7	7.3
75歳以上	441	0.5	43.5	25.6	2.7	0.0	1.1	3.2	24.0	4.5	6.3

【障害種別】

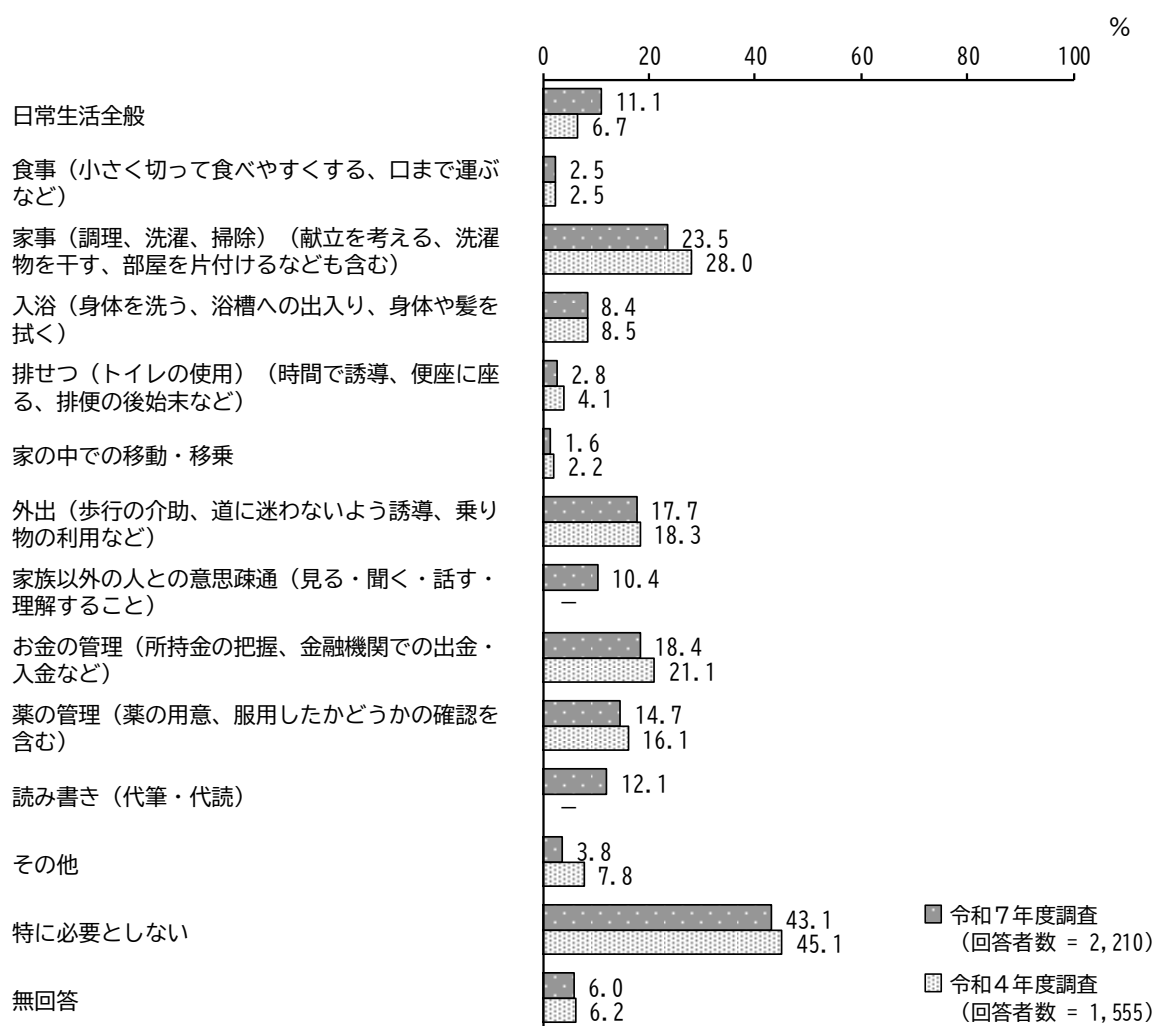
障害種別にみると、知的障害で「親（両親または父、母）」「兄弟姉妹」「グループホームで生活」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	親 (両親または父、 母)	配偶者（夫または 妻、事実婚を含む）	子ども	兄弟姉妹	祖父・祖母	その他の親せき	グループホームで 生活	同居者はいない（ひ とり暮らし）	その他	無回答
全 体	2,210	27.1	34.8	19.4	9.9	1.0	0.7	3.5	20.8	3.2	4.0
身体障害	903	16.6	42.6	22.1	5.8	0.4	0.8	1.7	21.2	4.4	5.0
知的障害	422	68.5	1.7	1.2	24.4	2.8	1.7	14.2	6.9	3.3	2.8
精神障害	560	31.8	26.4	15.7	10.2	0.7	0.7	2.3	28.8	3.8	3.0
難病	530	16.6	51.3	28.3	6.0	0.4	0.4	0.9	20.2	1.9	2.5
発達障害	183	64.5	8.7	4.9	25.1	2.7	2.2	3.8	14.8	3.8	3.3
高次脳機能障害	78	24.4	37.2	12.8	10.3	0.0	1.3	2.6	20.5	9.0	6.4
重症心身障害	36	44.4	2.8	5.6	19.4	2.8	2.8	8.3	13.9	11.1	11.1
強度行動障害	17	47.1	5.9	5.9	29.4	5.9	11.8	5.9	17.6	5.9	5.9

問6 あなた（ご本人）は、日常生活の中で介護や支援が必要です。また、どのようなことに介護などが必要です。あてはまるものすべてに○をつけてください。ただし、以下の「食事～読み書き」までのすべてで介護・支援が必要な場合、「日常生活全般」だけに○をつけてください。

「家事（調理、洗濯、掃除）（献立を考える、洗濯物を干す、部屋を片付けるなども含む）」の割合が23.5%と最も高く、次いで「お金の管理（所持金の把握、金融機関での出金・入金など）」の割合が18.4%、「外出（歩行の介助、道に迷わないよう誘導、乗り物の利用など）」の割合が17.7%となっています。



※「家族以外の人との意思疎通（見る・聞く・話す・理解すること）」、「読み書き（代筆・代読）」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【年齢別】

年齢別にみると、「40～64 歳」から「75 歳以上」まで年齢が上がるほど「入浴（身体を洗う、浴槽への出入り、身体や髪を拭く）」「外出（歩行の介助、道に迷わないよう誘導、乗り物の利用など）」「読み書き（代筆・代読）」の割合が高く、「65～74 歳」から「18～39 歳」まで年齢が下がるほど「日常生活全般」「家事（調理、洗濯、掃除）（献立を考える、洗濯物を干す、部屋を片付けるなども含む）」「家族以外の人との意思疎通（見る・聞く・話す・理解すること）」「お金の管理（所持金の把握、金融機関での出金・入金など）」「薬の管理（薬の用意、服用したかどうかの確認を含む）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	日常生活全般	食事（小さく切って食べやすくする、口まで運ぶなど）	家事（調理、洗濯、掃除）（献立を考える、洗濯物を干す、部屋を片付けるなども含む）	入浴（身体を洗う、浴槽への出入り、身体や髪を拭く）	排泄（トイレの使用）（時間で誘導、便座に座る、排便の後始末など）	家の中での移動・移乗	外出（歩行の介助、道に迷わないよう誘導、乗り物の利用など）
全 体	2,210	11.1	2.5	23.5	8.4	2.8	1.6	17.7
18～39歳	476	12.6	3.4	31.1	9.9	5.0	0.6	21.6
40～64歳	929	8.7	1.8	21.3	4.5	1.5	0.9	13.3
65～74歳	331	8.5	2.1	19.6	9.1	1.8	2.1	17.2
75歳以上	441	17.2	3.2	22.7	14.7	3.9	3.9	22.7

区分	家族以外の人との意思疎通（見る・聞く・話す・理解すること）	お金の管理（所持金の把握、金融機関での出金・入金など）	薬の管理（薬の用意、服用したかどうかの確認を含む）	読み書き（代筆・代読）	その他	特に必要としない	無回答
全 体	10.4	18.4	14.7	12.1	3.8	43.1	6.0
18～39歳	19.1	32.4	25.2	17.2	4.0	36.6	2.9
40～64歳	8.2	14.5	10.9	8.8	4.5	49.9	4.2
65～74歳	7.9	13.0	9.4	11.8	3.3	46.8	9.1
75歳以上	7.5	15.6	15.2	14.1	2.5	33.6	10.2

【障害種別】

障害種別にみると、知的障害で「お金の管理（所持金の把握、金融機関での出金・入金など）」「薬の管理（薬の用意、服用したかどうかの確認を含む）」「読み書き（代筆・代読）」の割合が高くなっています。

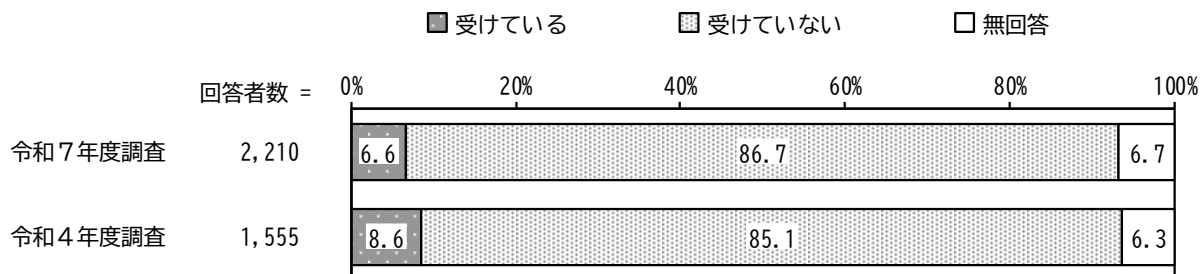
単位：％

区分	回答者数 (件)	日常生活全般	食事（小さく切って食べやすくする、口まで運ぶなど）	家事（調理、洗濯、掃除）（献立を考える、洗濯物を干す、部屋を片付けるなども含む）	入浴（身体を洗う、浴槽への出入り、身体や髪を拭く）	排泄（トイレの使用）（時間で誘導、便座に座る、排便の後始末など）	家の中での移動・移乗	外出（歩行の介助、道に迷わないよう誘導、乗り物の利用など）
全 体	2,210	11.1	2.5	23.5	8.4	2.8	1.6	17.7
身体障害	903	16.8	3.1	21.6	11.6	3.3	2.8	21.4
知的障害	422	22.7	5.2	38.6	13.5	8.1	0.9	27.3
精神障害	560	8.9	2.0	32.3	5.9	1.3	1.4	16.8
難病	530	8.1	1.9	10.9	5.8	1.1	1.9	10.9
発達障害	183	13.7	3.3	36.1	10.9	8.2	1.1	19.7
高次脳機能障害	78	21.8	6.4	30.8	11.5	3.8	3.8	30.8
重症心身障害	36	77.8	2.8	11.1	8.3	0.0	2.8	5.6
強度行動障害	17	47.1	17.6	35.3	29.4	17.6	5.9	23.5

区分	家族以外の人との意思疎通（見る・聞く・話す・理解すること）	お金の管理（所持金の把握、金融機関での出金・入金など）	薬の管理（薬の用意、服用したかどうかの確認を含む）	読み書き（代筆・代読）	その他	特に必要としない	無回答
全 体	10.4	18.4	14.7	12.1	3.8	43.1	6.0
身体障害	7.6	13.7	12.1	13.5	4.9	37.7	6.3
知的障害	23.5	46.2	32.0	31.5	2.8	15.9	4.0
精神障害	13.9	20.4	19.1	6.4	3.8	36.6	4.8
難病	2.5	4.9	4.7	5.1	3.4	66.6	4.5
発達障害	25.1	38.3	26.8	19.1	6.6	25.7	3.8
高次脳機能障害	21.8	32.1	25.6	21.8	10.3	16.7	6.4
重症心身障害	2.8	5.6	5.6	2.8	0.0	0.0	5.6
強度行動障害	17.6	29.4	23.5	23.5	5.9	5.9	5.9

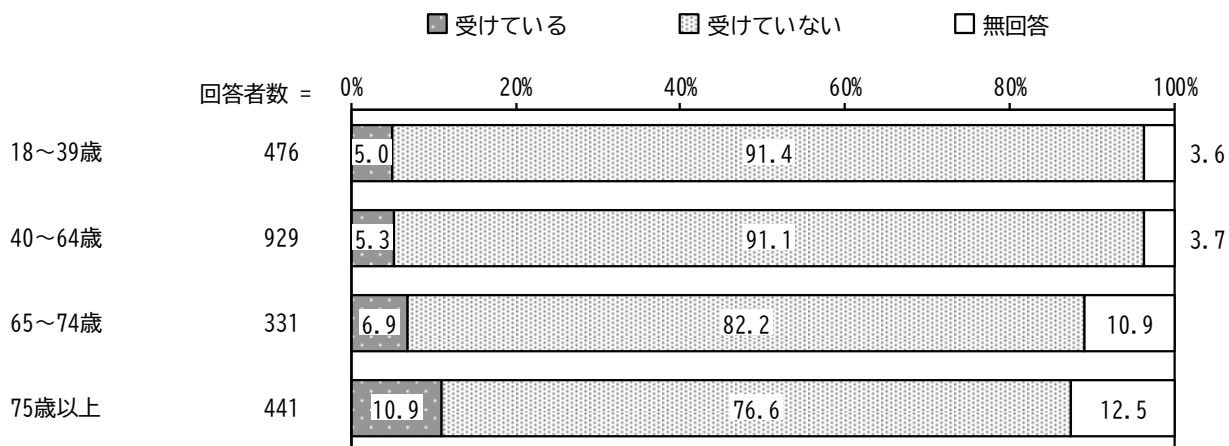
問7 あなた（ご本人）は、日常生活の中で、医療的なケア（在宅における医療的な支援）を受けていますか。受けている場合はどのような医療的なケアを受けていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「受けている」の割合が6.6%、「受けていない」の割合が86.7%となっています。



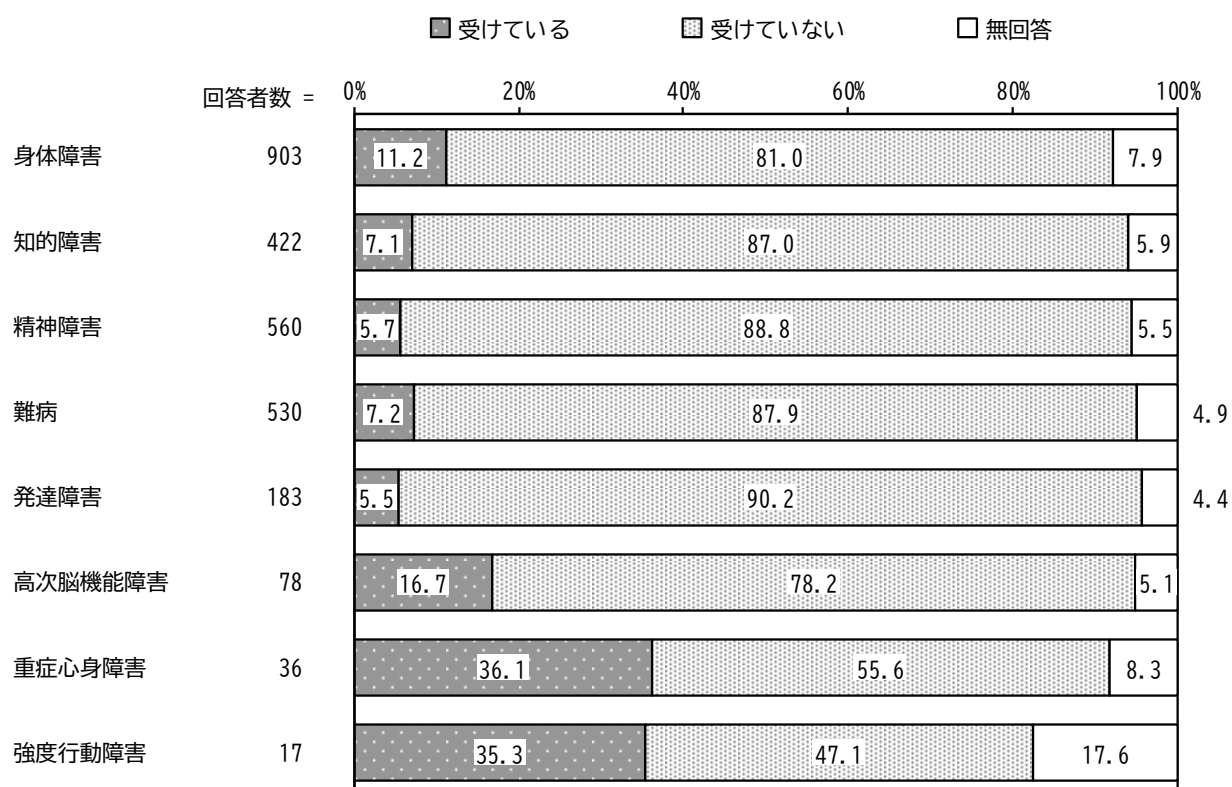
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「受けていない」の割合が高くなっています。



【障害種別】

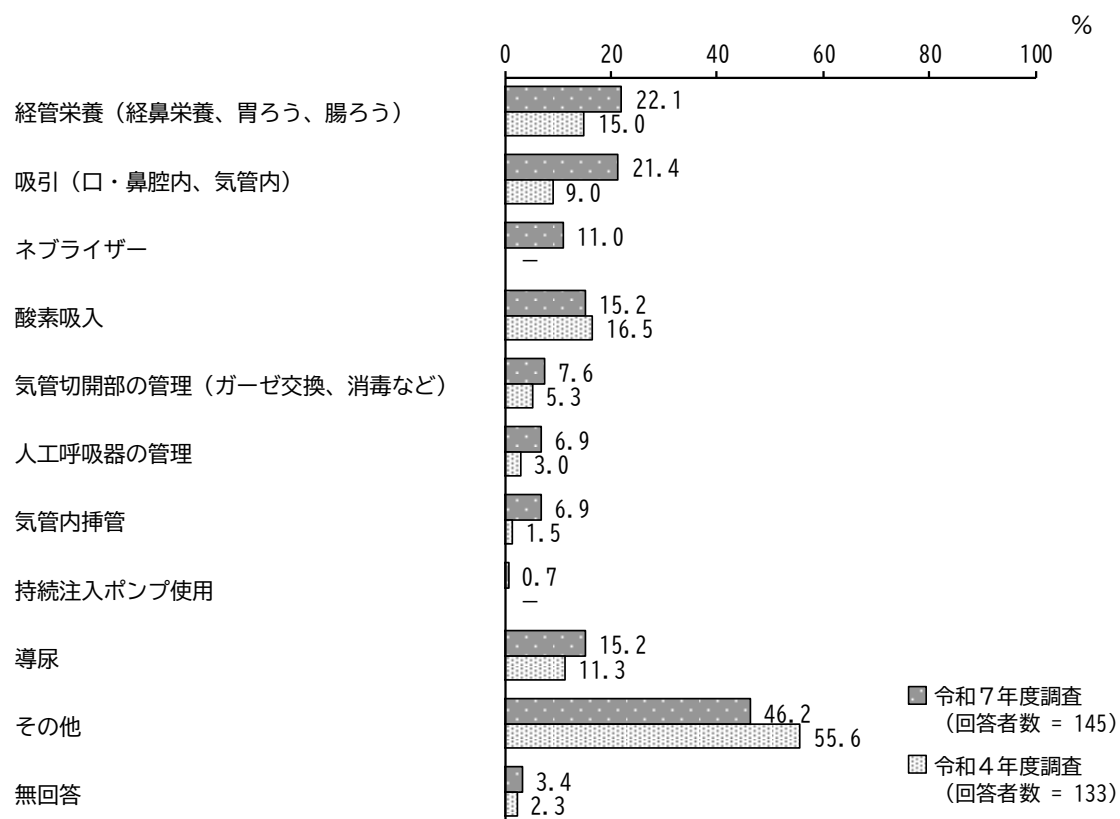
障害種別にみると、重症心身障害、強度行動障害で「受けている」の割合が高くなっています。



受けている医療的なケア

「経管栄養（経鼻栄養、胃ろう、腸ろう）」の割合が22.1%と最も高く、次いで「吸引（口・鼻腔内、気管内）」の割合が21.4%、「酸素吸入」、「導尿」の割合が15.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「経管栄養（経鼻栄養、胃ろう、腸ろう）」「吸引（口・鼻腔内、気管内）」「気管内挿管」の割合が増加しています。



※「ネブライザー」、「持続注入ポンプ使用」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【年齢別】

年齢別にみると、「18～39 歳」で年齢が下がるほど「経管栄養（経鼻栄養、胃ろう、腸ろう）」「吸引（口・鼻腔内、気管内）」の割合が高い傾向にあります。また、「65～74 歳」で「導尿」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	経管栄養（経鼻栄養、胃ろう、腸ろう）	吸引（口・鼻腔内、気管内）	ネブライザー	酸素吸入	気管切開部の管理（ガーゼ交換、消毒など）	人工呼吸器の管理	気管内挿管	持続注入ポンプ使用	導尿	その他	無回答
全 体	145	22.1	21.4	11.0	15.2	7.6	6.9	6.9	0.7	15.2	46.2	3.4
18～39歳	24	45.8	41.7	25.0	16.7	20.8	20.8	12.5	0.0	16.7	29.2	0.0
40～64歳	49	24.5	20.4	12.2	12.2	4.1	6.1	4.1	0.0	2.0	53.1	4.1
65～74歳	23	17.4	21.7	0.0	21.7	8.7	0.0	13.0	4.3	30.4	47.8	0.0
75歳以上	48	10.4	10.4	8.3	14.6	4.2	4.2	4.2	0.0	20.8	47.9	6.3

【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害、知的障害、高次脳機能障害で、「経管栄養（経鼻栄養、胃ろう、腸ろう）」「吸引（口・鼻腔内、気管内）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	経管栄養（経鼻栄養、胃ろう、腸ろう）	吸引（口・鼻腔内、気管内）	ネブライザー	酸素吸入	気管切開部の管理（ガーゼ交換、消毒など）	人工呼吸器の管理	気管内挿管	持続注入ポンプ使用	導尿	その他	無回答
全 体	145	22.1	21.4	11.0	15.2	7.6	6.9	6.9	0.7	15.2	46.2	3.4
身体障害	101	25.7	26.7	10.9	15.8	6.9	7.9	6.9	1.0	19.8	39.6	3.0
知的障害	30	53.3	36.7	30.0	16.7	16.7	13.3	13.3	0.0	3.3	30.0	3.3
精神障害	32	6.3	9.4	0.0	12.5	0.0	3.1	0.0	0.0	9.4	68.8	6.3
難病	38	36.8	23.7	10.5	23.7	15.8	15.8	10.5	0.0	10.5	42.1	2.6
発達障害	10	50.0	20.0	20.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	40.0	0.0
高次脳機能障害	13	53.8	46.2	15.4	15.4	23.1	15.4	23.1	0.0	23.1	38.5	0.0
重症心身障害	13	84.6	76.9	30.8	46.2	15.4	30.8	23.1	7.7	7.7	0.0	0.0
強度行動障害	6	83.3	66.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0

(2) 仕事や学校生活について

問8 あなた（ご本人）は、普段（休日以外）は、どのように過ごしていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「会社などで正社員として働いている（産休・育休中なども含む）」の割合が16.0%と最も高く、次いで「アルバイト・契約社員などで働いている」の割合が15.8%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「会社などで正社員として働いている（産休・育休中なども含む）」「アルバイト・契約社員などで働いている」「就労継続支援（B型）事業所に通っている」の割合が高く、「18～39歳」から「65～74歳」まで年齢が上がるほど「自宅で、家事や育児に専念している」の割合が高く、「生活介護事業所（福祉園など）に通っている」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	会社などで正社員として働いている（産休・育休中なども含む）	アルバイト・契約社員などで働いている	自宅で働いている（自営業、家業の手伝い、在宅就業など）	自宅で、家事や育児に専念している	就労移行支援事業所に通っている	就労継続支援（A型）事業所に通っている	就労継続支援（B型）事業所に通っている
全 体	2,210	16.0	15.8	4.2	9.0	1.2	0.8	6.5
18～39歳	476	24.4	21.8	1.7	3.2	4.0	0.6	12.6
40～64歳	929	22.5	19.8	5.8	10.2	0.5	1.0	7.1
65～74歳	331	6.3	11.5	4.5	15.7	0.0	0.3	3.3
75歳以上	441	1.1	3.9	2.7	7.5	0.5	0.2	1.4

区分	生活介護事業所（福祉園など）に通っている	特別支援学校（高等部含む）に通っている	高校・大学・短期大学・専門学校に通っている	職業訓練・就職活動・受験勉強をしている	その他	特に何もしていない・自宅で静養している	無回答
全 体	4.5	0.3	0.7	0.5	4.7	30.3	5.6
18～39歳	11.6	1.5	3.2	0.8	2.9	10.1	1.7
40～64歳	3.1	0.0	0.1	0.6	4.3	21.4	3.4
65～74歳	0.6	0.0	0.0	0.0	5.7	46.5	5.4
75歳以上	2.9	0.0	0.0	0.0	7.0	59.4	13.4

【障害種別】

障害種別にみると、知的障害で「就労継続支援（Ｂ型）事業所に通っている」、発達障害で「アルバイト・契約社員などで働いている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	会社などで正社員として働いている（産休・育休中なども含む）	アルバイト・契約社員などで働いている	自宅で働いている（自営業、家業の手伝い、在宅就業など）	自宅で、家事や育児に専念している	就労移行支援事業所に通っている	就労継続支援（Ａ型）事業所に通っている	就労継続支援（Ｂ型）事業所に通っている
全 体	2,210	16.0	15.8	4.2	9.0	1.2	0.8	6.5
身体障害	903	14.5	8.7	4.2	8.1	0.2	0.4	2.9
知的障害	422	8.1	18.7	0.2	0.9	1.2	2.1	22.3
精神障害	560	12.3	17.3	3.9	9.3	2.3	1.1	7.1
難病	530	23.0	19.8	6.6	17.4	0.6	0.2	1.1
発達障害	183	19.7	20.2	2.7	4.4	4.9	0.0	13.1
高次脳機能障害	78	5.1	11.5	3.8	2.6	0.0	0.0	14.1
重症心身障害	36	0.0	2.8	2.8	0.0	0.0	2.8	2.8
強度行動障害	17	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0

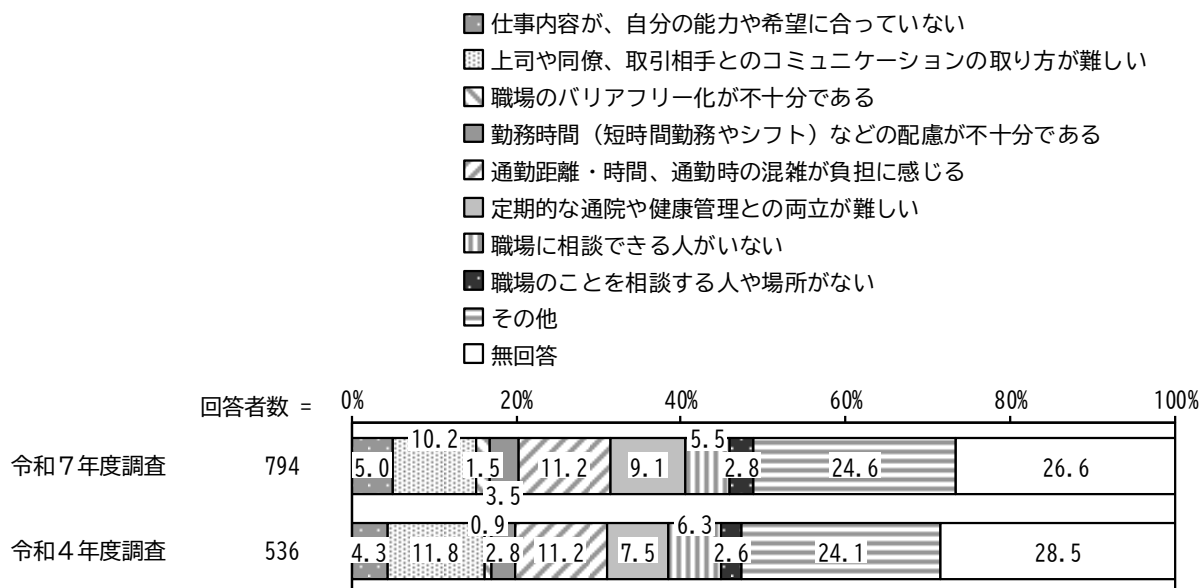
区分	生活介護事業所（福祉園など）に通っている	特別支援学校（高等部含む）に通っている	高校・大学・短期大学・専門学校に通っている	職業訓練・就職活動・受験勉強をしている	その他	特に何もしていない・自宅で静養している	無回答
全 体	4.5	0.3	0.7	0.5	4.7	30.3	5.6
身体障害	5.8	0.0	0.3	0.1	7.5	40.2	7.0
知的障害	17.8	1.4	1.2	0.0	4.5	15.4	6.2
精神障害	1.4	0.4	0.4	1.3	4.1	35.5	3.6
難病	2.3	0.0	0.8	0.4	2.6	22.5	2.8
発達障害	6.6	1.6	2.2	0.5	4.9	15.3	3.8
高次脳機能障害	5.1	0.0	0.0	1.3	9.0	39.7	7.7
重症心身障害	33.3	0.0	0.0	0.0	13.9	22.2	19.4
強度行動障害	47.1	0.0	0.0	0.0	0.0	41.2	5.9

問8で「会社などで正社員として働いている（産休・育休中なども含む）」～「自宅で働いている（自営業、家業の手伝い、在宅就業など）」に○をつけた方にうかがいます。

問9 仕事をする上で困っていることはありますか。また、今後どのような希望がありますか。それぞれもっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

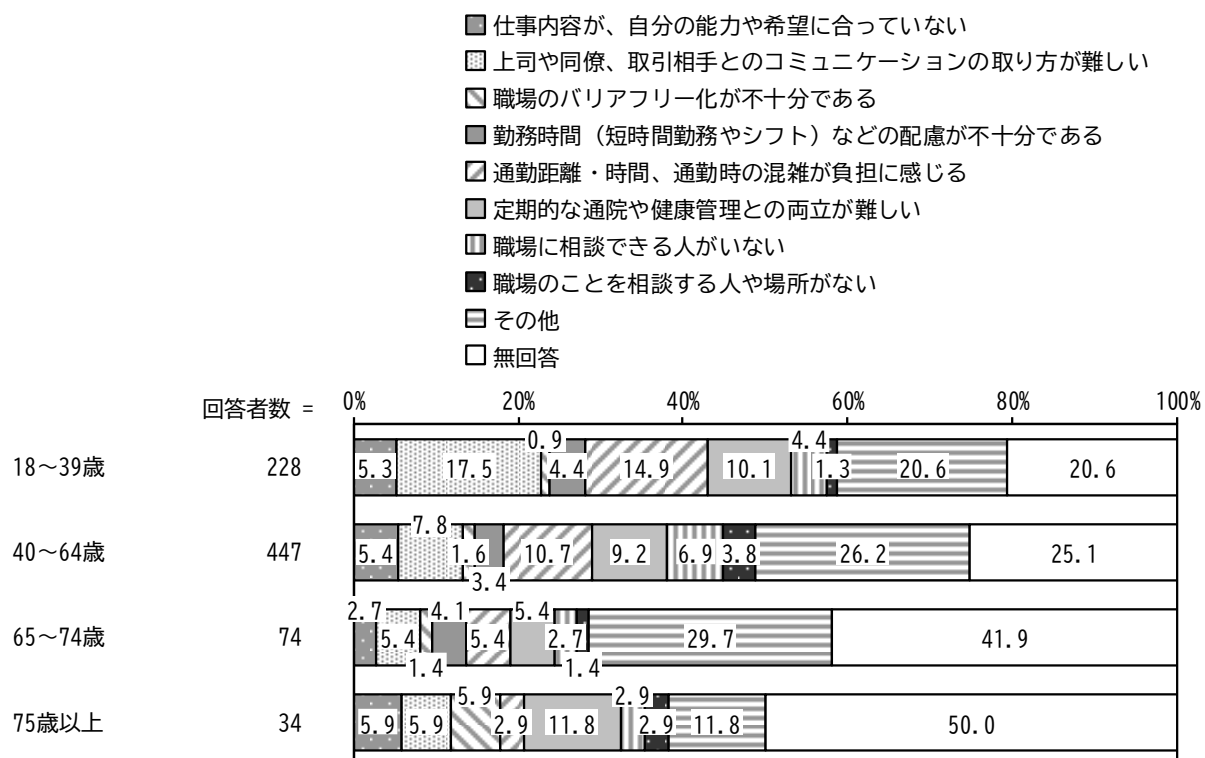
<困っていること>

「通勤距離・時間、通勤時の混雑が負担に感じる」の割合が11.2%と最も高く、次いで「上司や同僚、取引相手とのコミュニケーションの取り方が難しい」の割合が10.2%となっています。



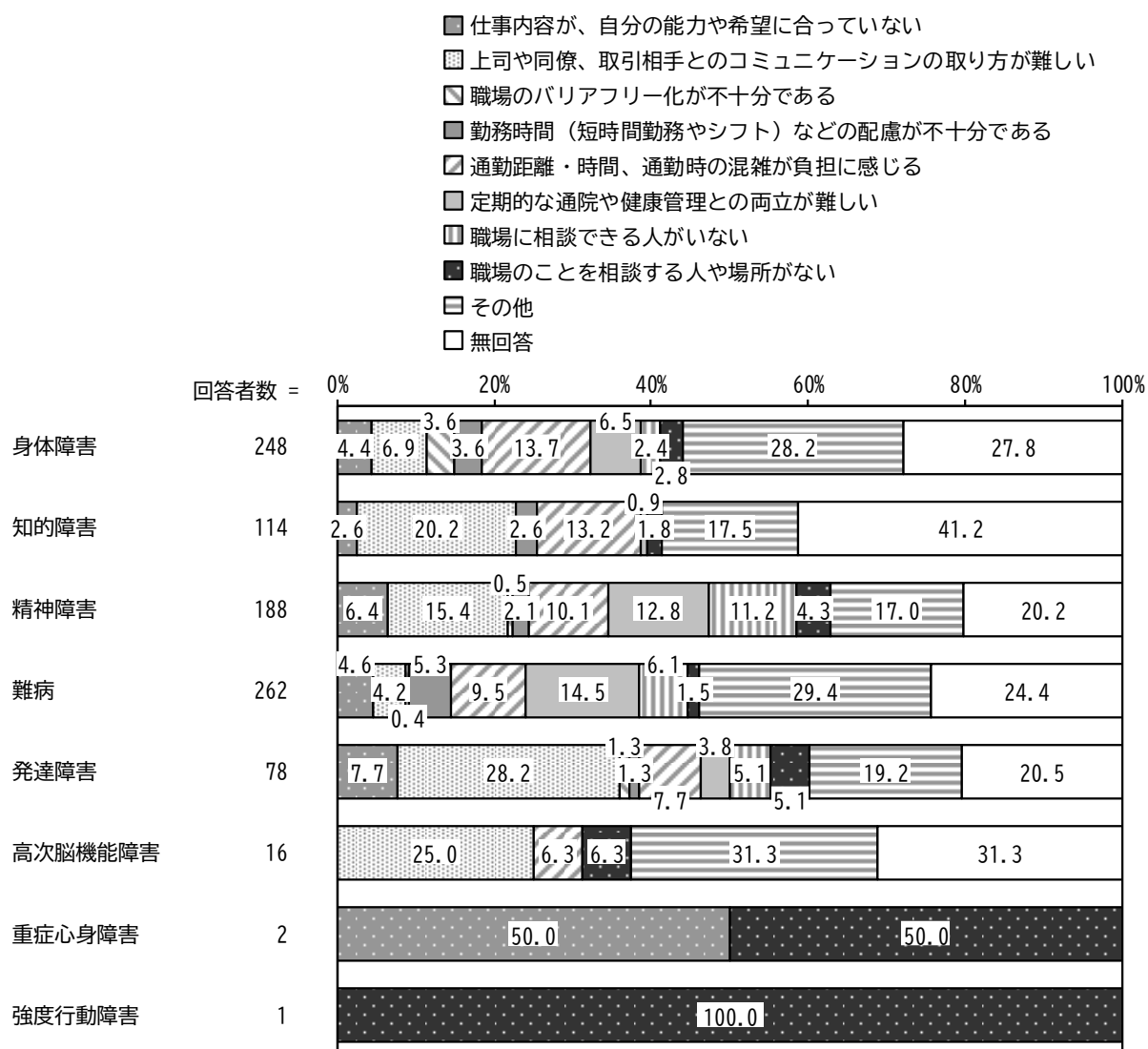
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「通勤距離・時間、通勤時の混雑が負担に感じる」の割合が高く、「65～74歳」から「18～39歳」まで年齢が下がるほど「上司や同僚、取引相手とのコミュニケーションの取り方が難しい」「定期的な通院や健康管理との両立が難しい」の割合が高くなっています。



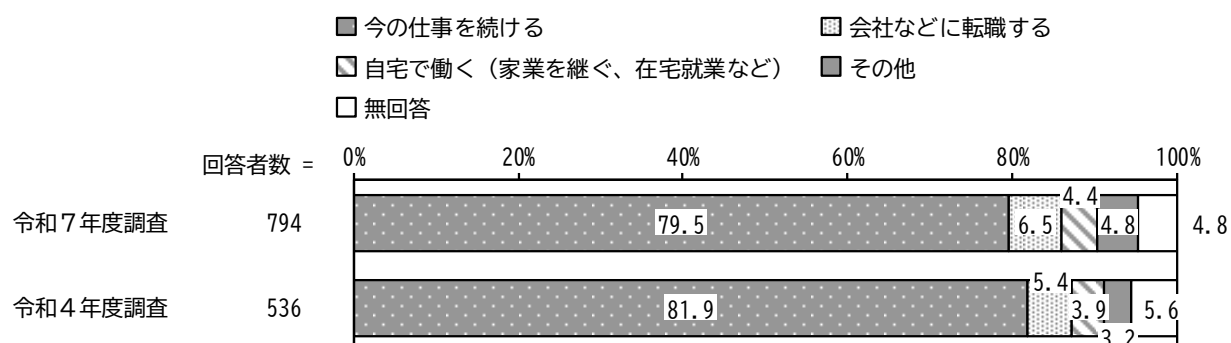
【障害種別】

障害種別にみると、知的障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害で「上司や同僚、取引相手とのコミュニケーションの取り方が難しい」、難病で「定期的な通院や健康管理との両立が難しい」割合が高くなっています。



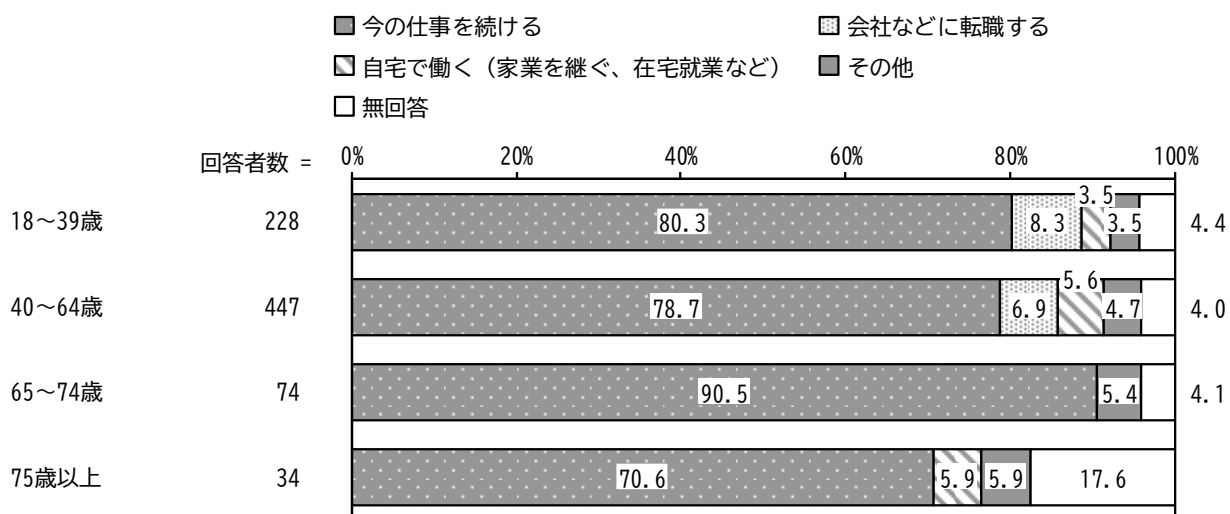
<今後の希望>

「今の仕事を続ける」の割合が79.5%、「会社などに転職する」の割合が6.5%、「自宅で働く（家業を継ぐ、在宅就業など）」の割合が4.4%となっています。



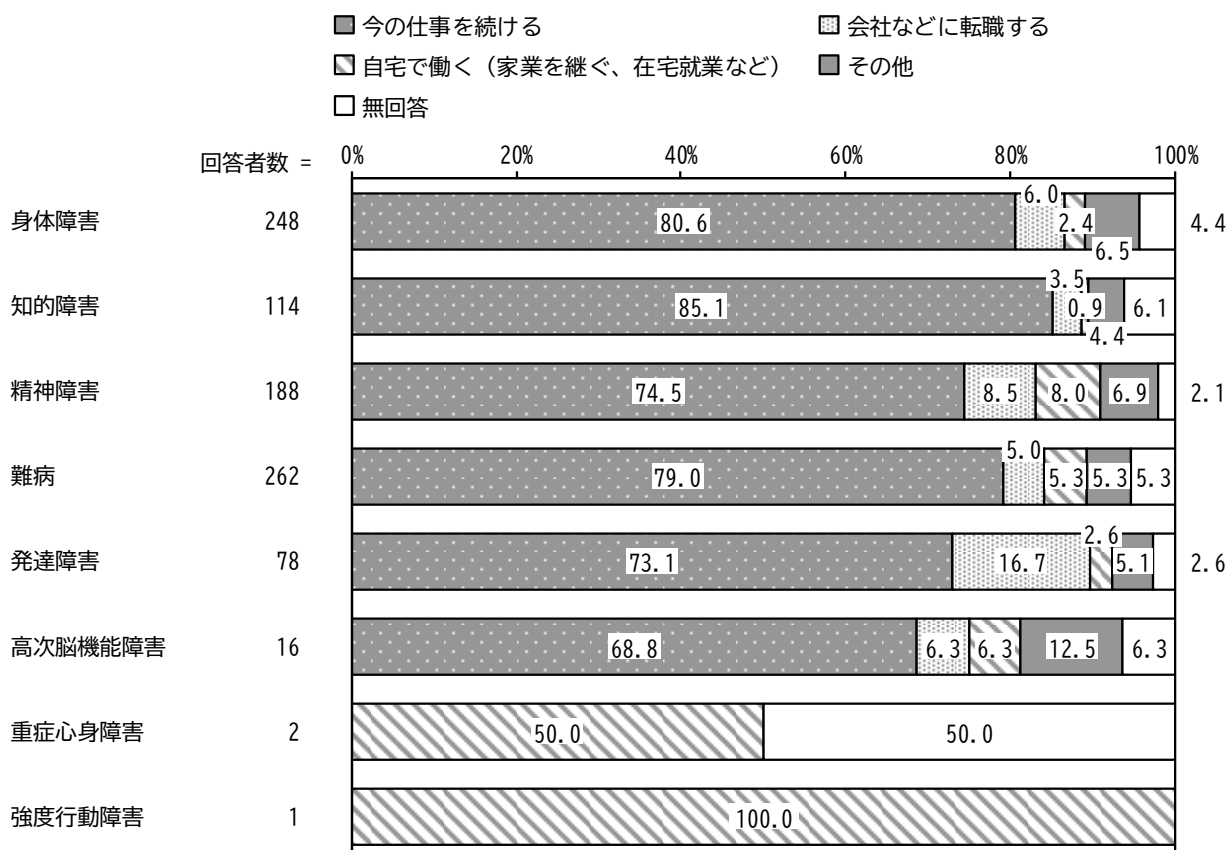
【年齢別】

年齢別にみると、「65～74 歳」で「今の仕事を続ける」の割合が高くなっています。



【障害種別】

障害種別にみると、発達障害で「会社などに転職する」の割合が他の障害に比べて高くなっています。

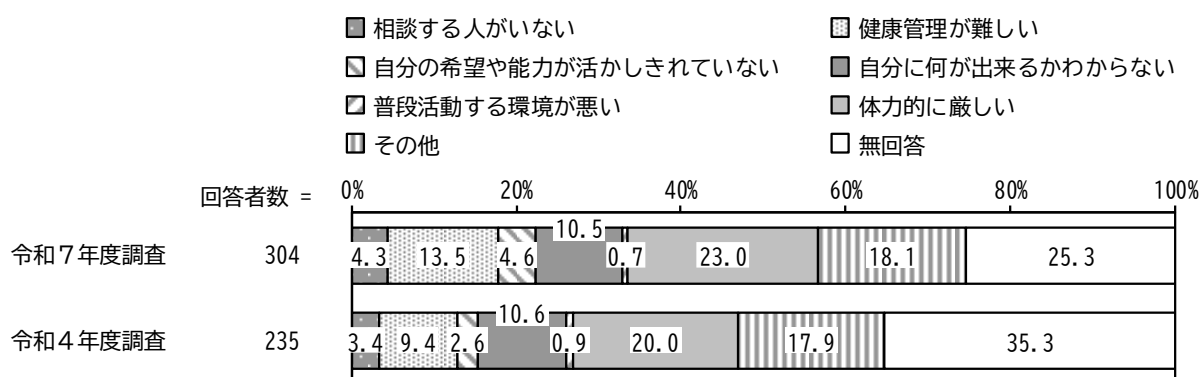


問8で「自宅で、家事や育児に専念している」、「その他」に○をつけた方にうかがいます。

問10 現在困っていることはありますか。また、今後どのような希望がありますか。それぞれもっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

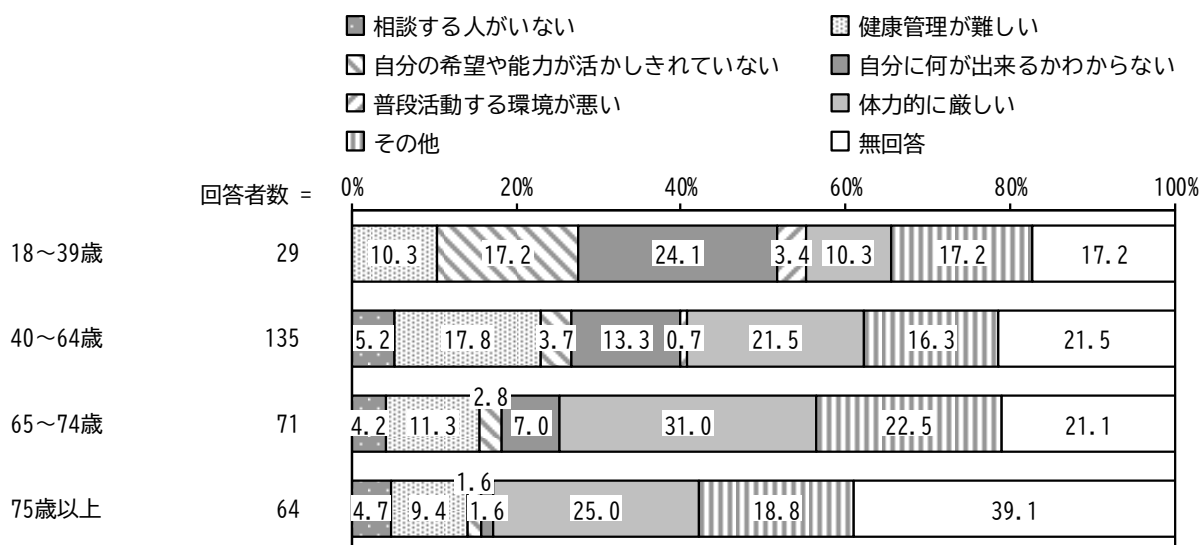
<困っていること>

「体力的に厳しい」の割合が23.0%と最も高く、次いで「健康管理が難しい」の割合が13.5%、「自分に何が出来るかわからない」の割合が10.5%となっています。



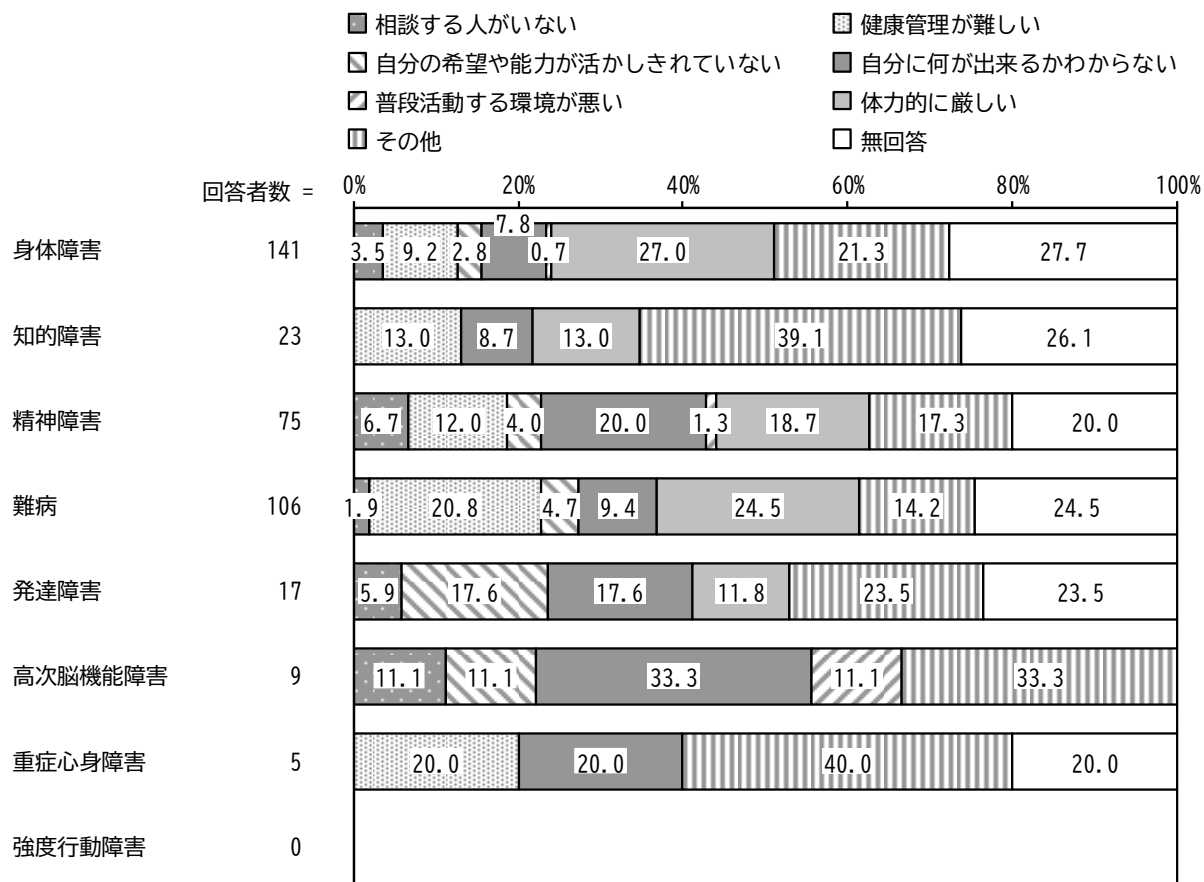
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「自分の希望や能力が活かしきれていない」「自分に何が出来るかわからない」の割合が高い傾向にあり、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「健康管理が難しい」の割合が高くなっています。また、「18～39歳」で「体力的に厳しい」の割合が低くなっています。



【障害種別】

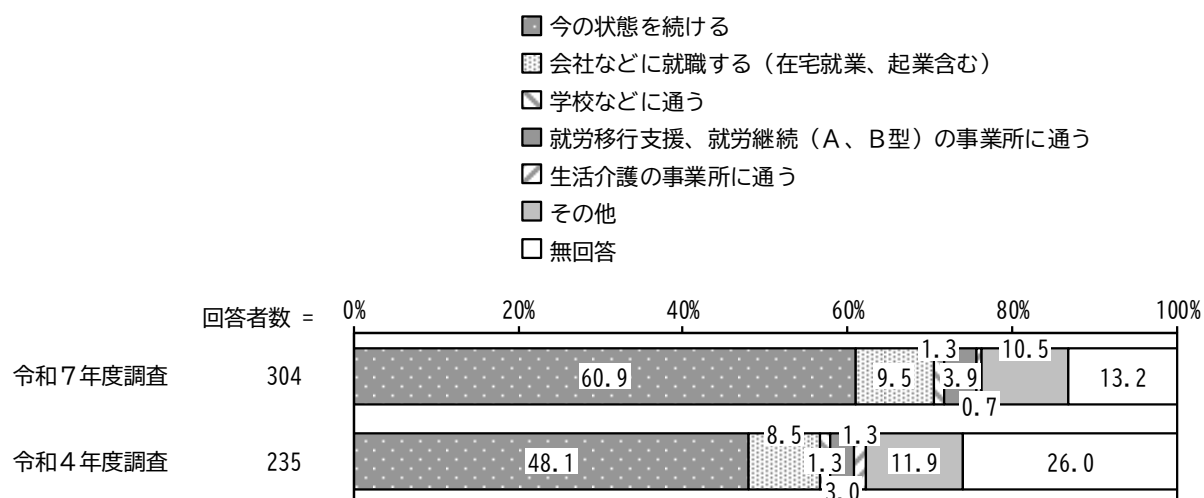
障害種別にみると、身体障害、難病で「体力的に厳しい」が高く、発達障害で「自分の希望や能力が活かしきれていない」、「自分に何が出来のかわからない」の割合が高くなっています。



<今後の希望>

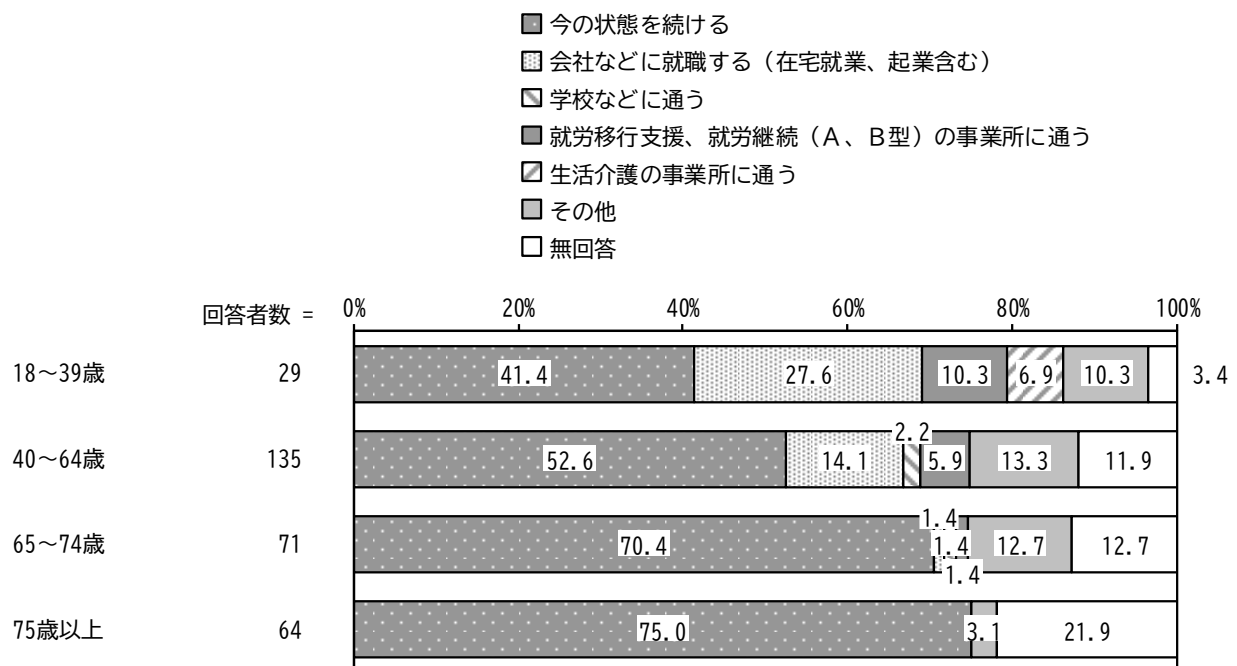
「今の状態を続ける」の割合が60.9%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「今の状態を続ける」の割合が増加しています。



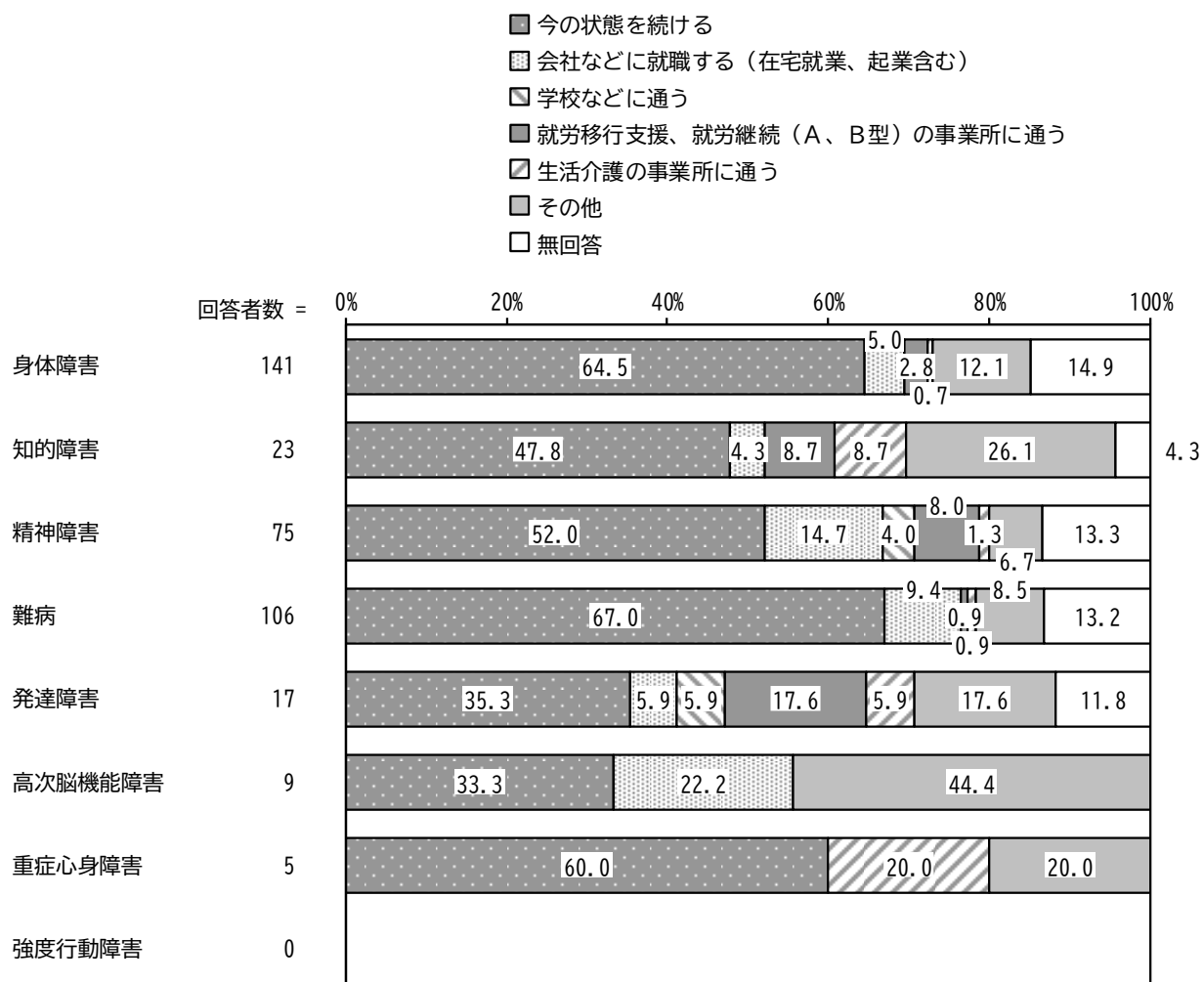
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「会社などに就職する（在宅就業、起業含む）」「就労移行支援、就労継続（A、B型）の事業所に通う」の割合が高く、「今の状態を続ける」の割合が低くなっています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で「会社などに就職する（在宅就業、起業含む）」、発達障害で「就労移行支援、就労継続（A、B型）の事業所に通う」、知的障害、発達障害で「生活介護の事業所に通う」の割合が高くなっています。



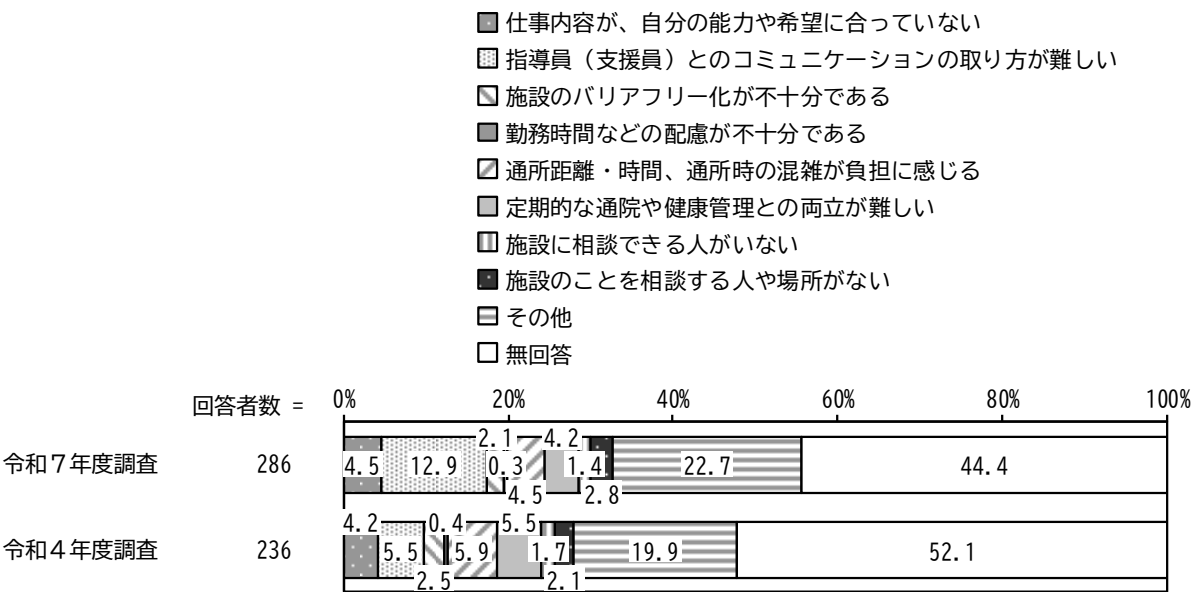
問8で「就労移行支援事業所に通っている」～「生活介護事業所（福祉園など）に通っている」に○をつけた方にうかがいます。

問 11 現在困っていることはありますか。また、今後どのような希望がありますか。それぞれもっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

<困っていること>

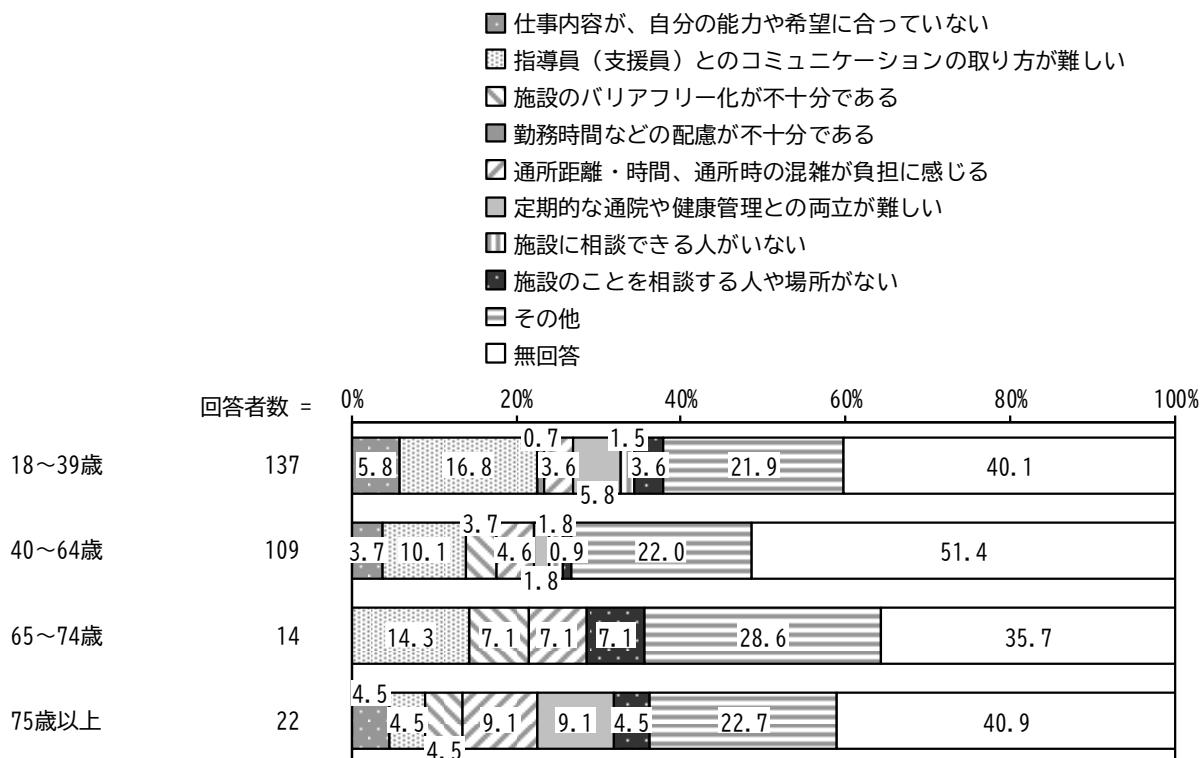
「指導員（支援員）とのコミュニケーションの取り方が難しい」の割合が 12.9%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「指導員（支援員）とのコミュニケーションの取り方が難しい」の割合が増加しています。



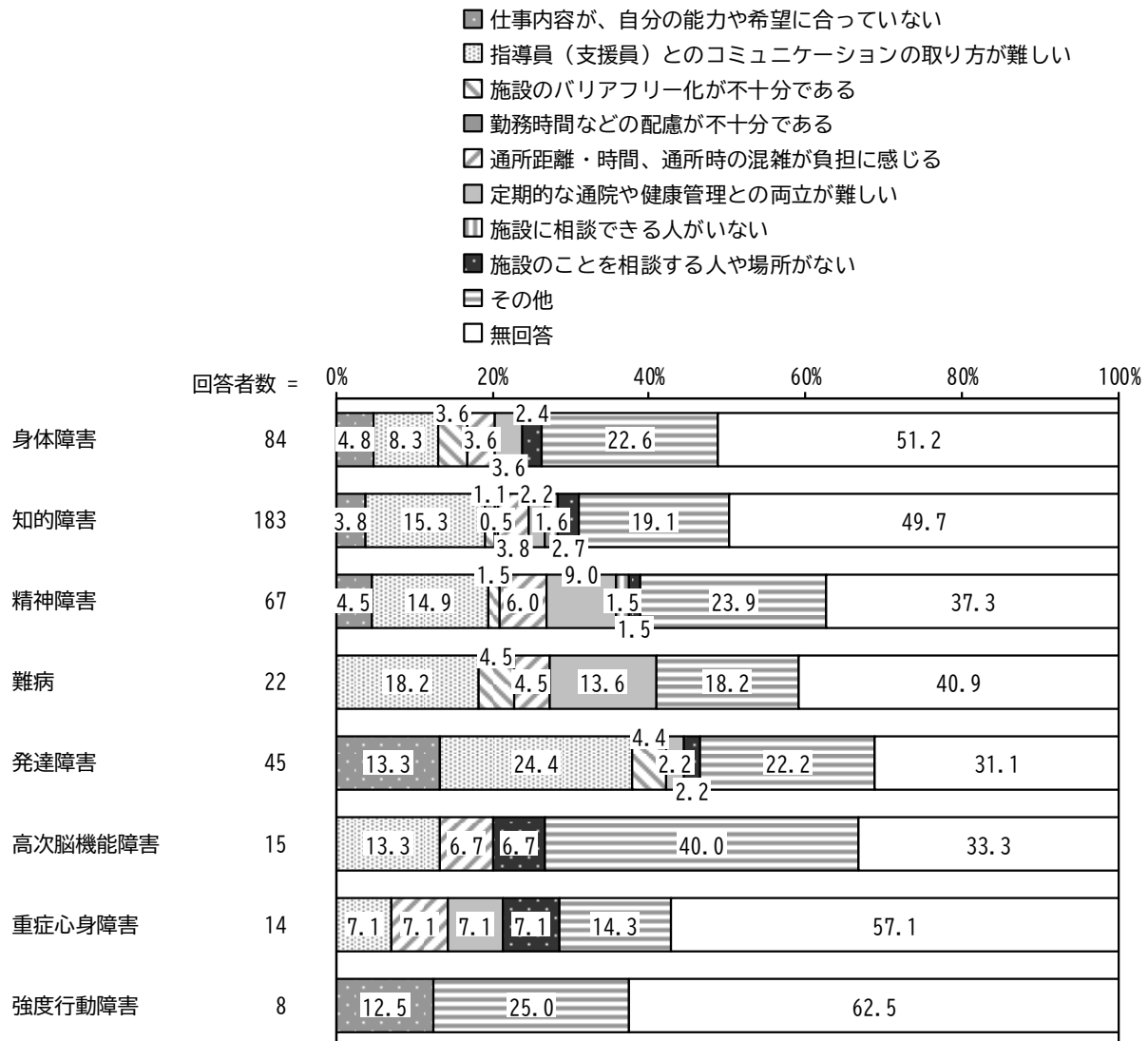
【年齢別】

年齢別にみると、65～74歳で「施設のバリアフリー化が不十分である」の割合が高く、75歳以上で「指導員（支援員）とのコミュニケーションの取り方が難しい」の割合が低くなっています。



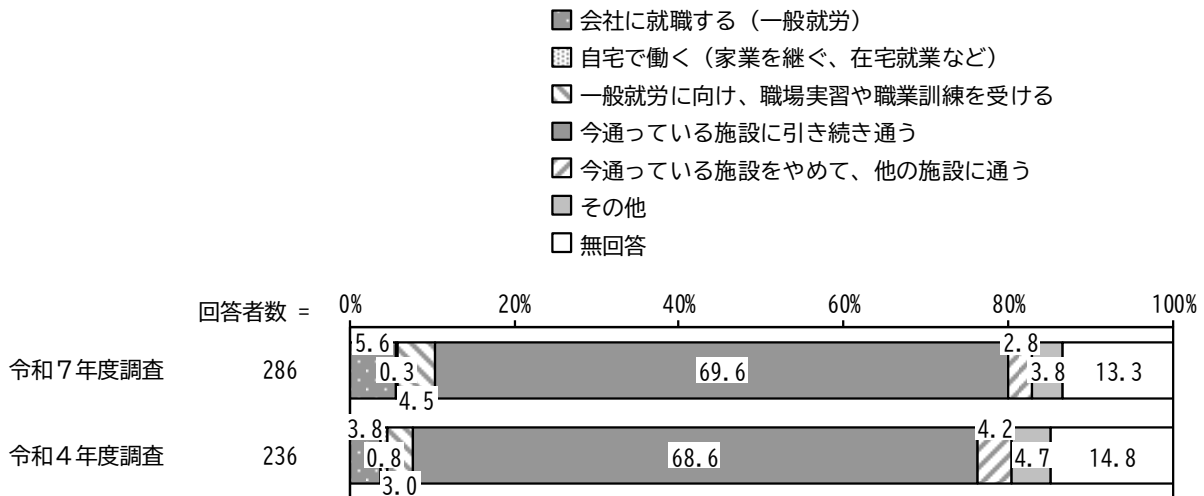
【障害種別】

障害種別にみると、発達障害で「仕事内容が、自分の能力や希望に合っていない」の割合が高くなっています。



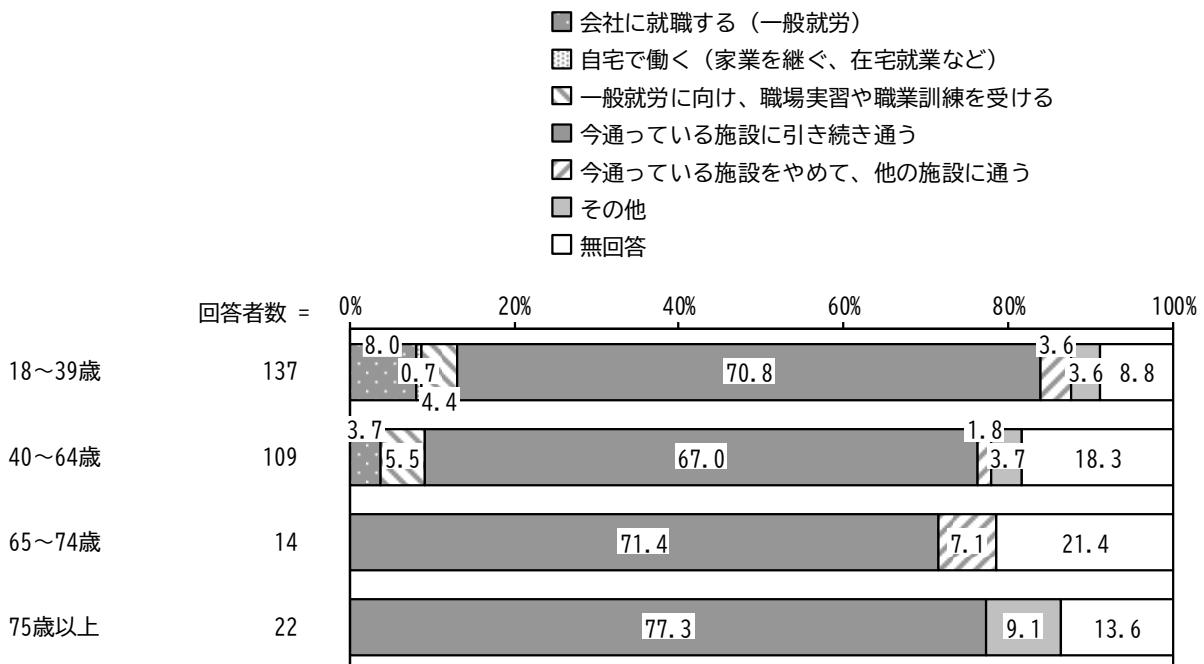
<今後の希望>

「今通っている施設に引き続き通う」の割合が 69.6%と最も高くなっています。



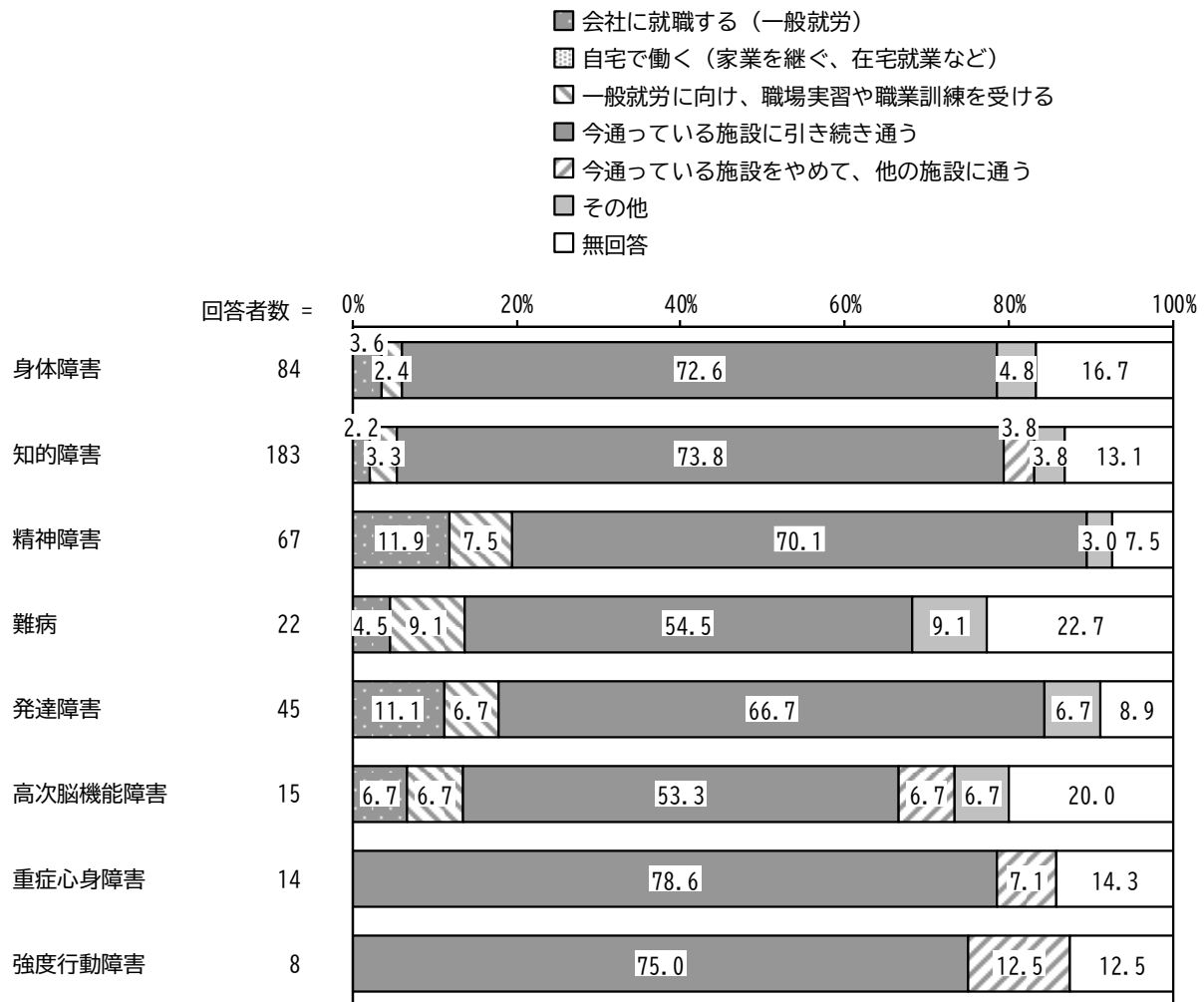
【年齢別】

年齢別にみると、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「今通っている施設に引き続き通う」の割合が高くなっています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神障害、発達障害で「会社に就職する（一般就労）」の割合が、他の障害種別に比べ高くなっています。

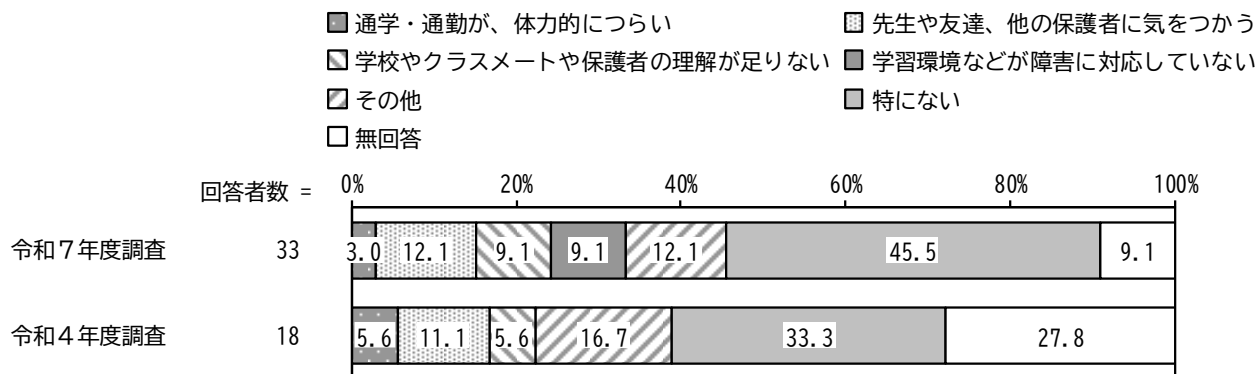


問8で「特別支援学校（高等部含む）に通っている」～「職業訓練・就職活動・受験勉強をしている」に○をつけた方にうかがいます。

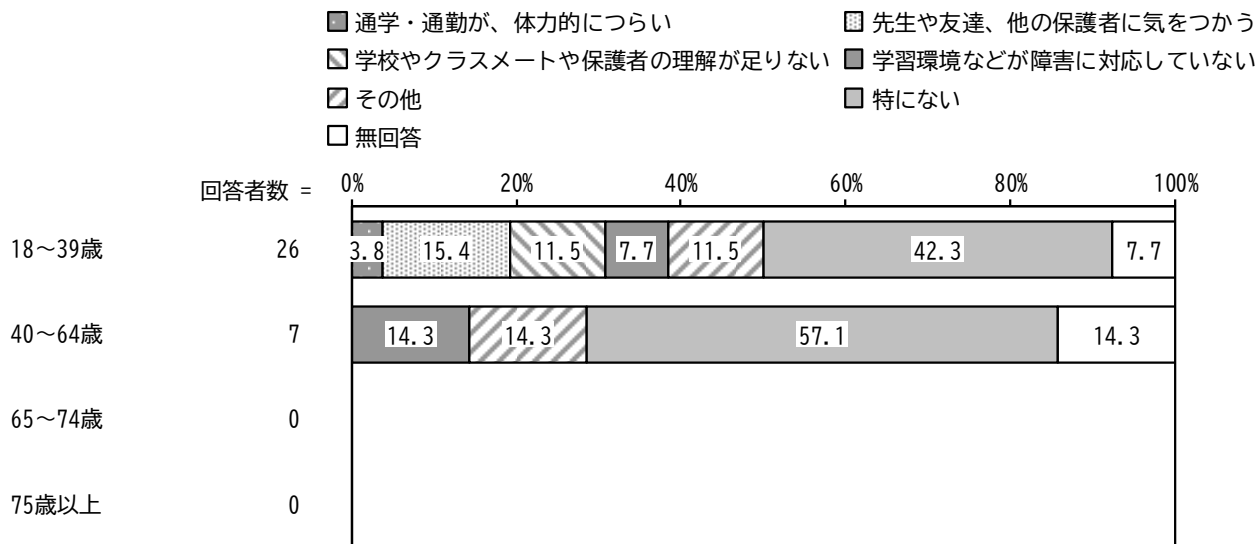
問12 学校などで、困っていることはありますか。また、学校（高校）卒業後は、どのような進路を希望していますか。それぞれもっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

＜困っていること＞

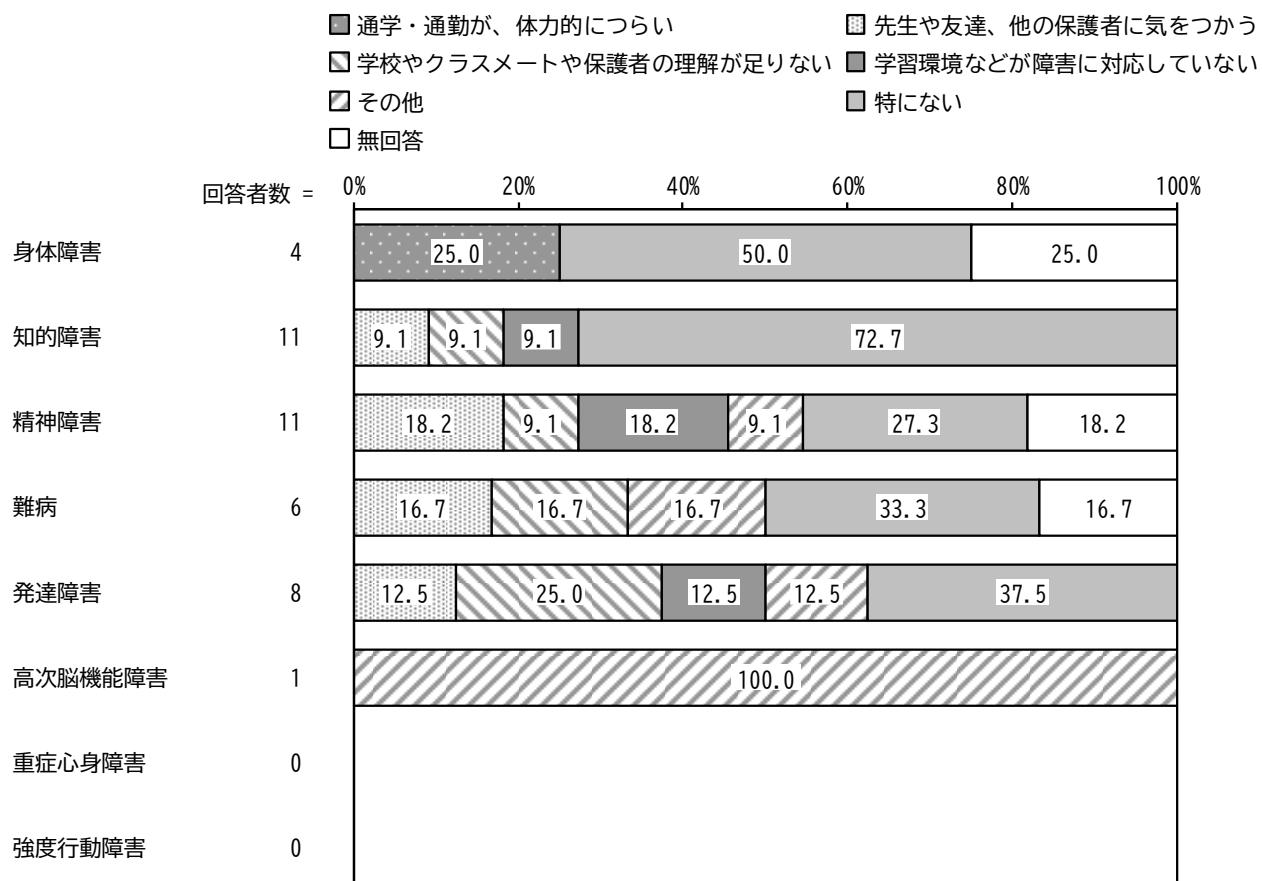
「先生や友達、他の保護者に気をつかう」の割合が12.1%と最も高くなっています。
令和4年度調査と比較すると、「学習環境などが障害に対応していない」の割合が増加しています。



【年齢別】

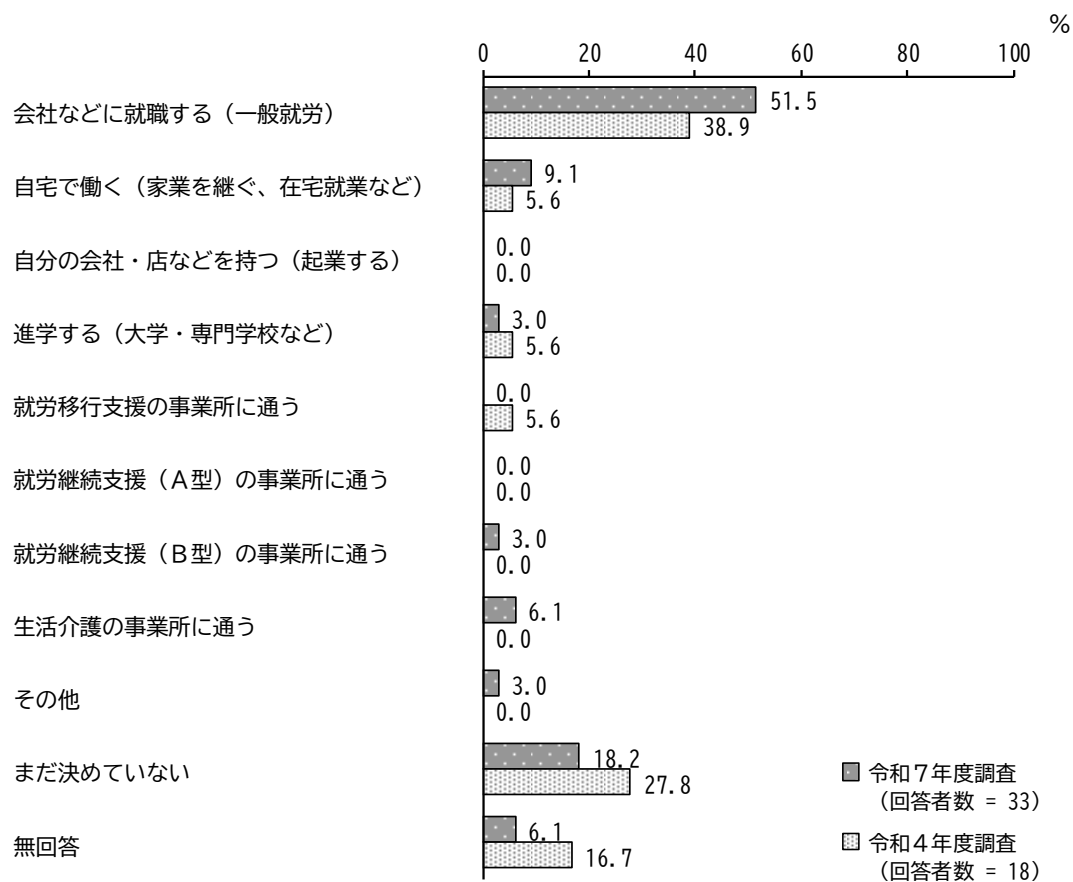


【障害種別】



<卒業後の希望する進路>

「会社などに就職する（一般就労）」の割合が51.5%と最も高くなっています。



【年齢別】

単位：%

区分	回答者数 (件)	会社などに就職する (一般就労)	自宅で働く(家業を継ぐ、在宅就業など)	自分の会社・店などを 持つ(起業する)	進学する(大学・専門 学校など)	就労移行支援の事業 所に通う	就労継続支援(A型) の事業所に通う	就労継続支援(B型) の事業所に通う	生活介護の事業所に 通う	その他	まだ決めていない	無回答
全 体	33	51.5	9.1	0.0	3.0	0.0	0.0	3.0	6.1	3.0	18.2	6.1
18～39歳	26	57.7	3.8	0.0	3.8	0.0	0.0	3.8	7.7	3.8	15.4	3.8
40～64歳	7	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3
65～74歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
75歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

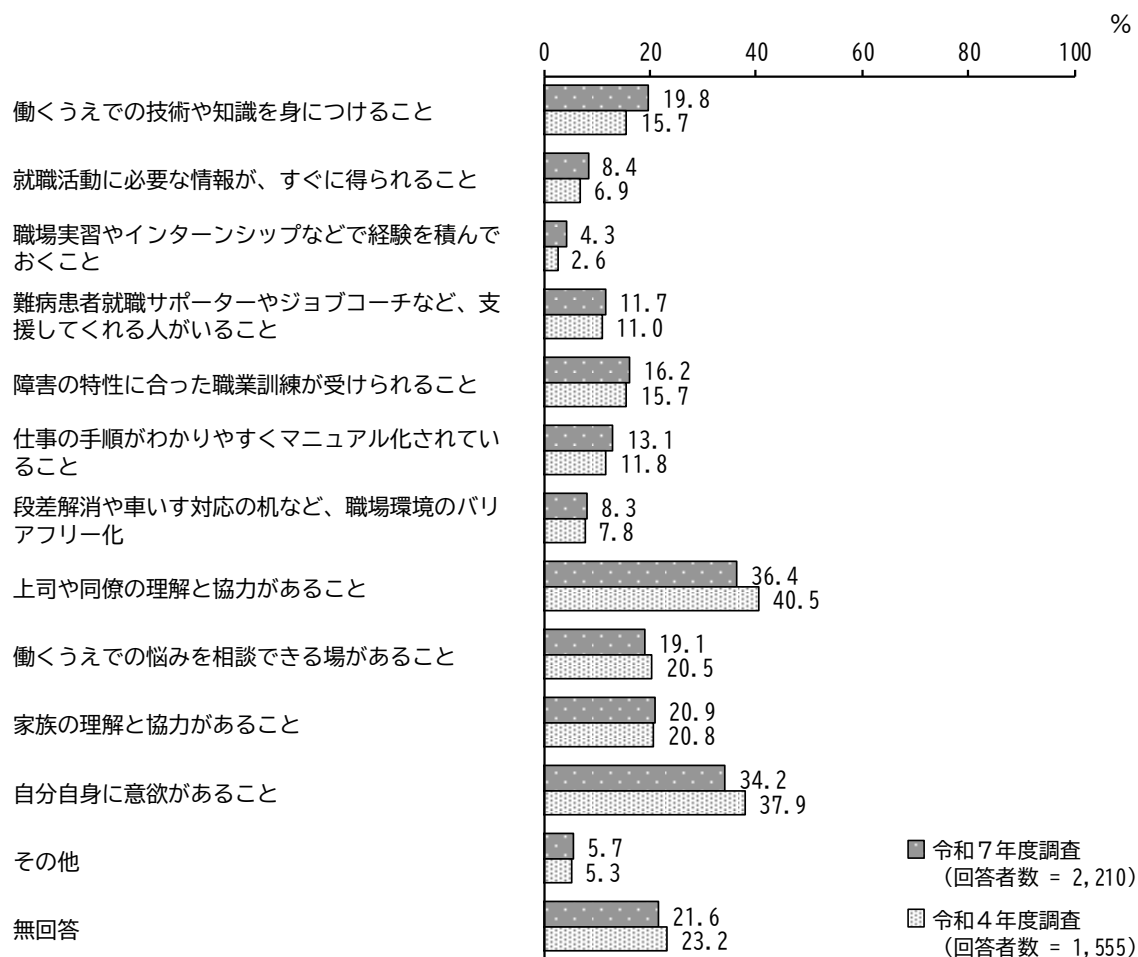
【障害種別】

単位：％

区分	回答者数(件)	会社などに就職する (一般就労)	自宅で働く(家業を継 ぐ、在宅就業など)	自分の会社・店などを 持つ(起業する)	進学する(大学・専門 学校など)	就労移行支援の事業 所に通う	就労継続支援(A型) の事業所に通う	就労継続支援(B型) の事業所に通う	生活介護の事業所に 通う	その他	まだ決めていない	無回答
全 体	33	51.5	9.1	0.0	3.0	0.0	0.0	3.0	6.1	3.0	18.2	6.1
身体障害	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
知的障害	11	63.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	18.2	0.0
精神障害	11	63.6	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2
難病	6	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
発達障害	8	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
重症心身障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問13 障害（難病）のある方が仕事をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「上司や同僚の理解と協力があること」の割合が36.4%と最も高く、次いで「自分自身に意欲があること」の割合が34.2%、「家族の理解と協力があること」の割合が20.9%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「働くうえでの技術や知識を身につけること」「難病患者就職サポーターやジョブコーチなど、支援してくれる人がいること」「仕事の手順がわかりやすくマニュアル化されていること」「上司や同僚の理解と協力があること」「働くうえでの悩みを相談できる場があること」の割合が高く、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「就職活動に必要な情報が、すぐに得られること」「障害の特性に合った職業訓練が受けられること」の割合が高くなっています。また、「65～74歳」で「自分自身に意欲があること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	働くうえでの技術や知識を身につけること	就職活動に必要な情報が、すぐに得られること	職場実習やインターシップなどで経験を積んでおくこと	難病患者就職サポーターやジョブコーチなど、支援してくれる人がいること	障害の特性に合った職業訓練が受けられること	仕事の手順がわかりやすくマニュアル化されていること	段差解消や車いす対応の机など、職場環境のバリアフリー化	上司や同僚の理解と協力があること	働くうえでの悩みを相談できる場があること	家族の理解と協力があること	自分自身に意欲があること	その他	無回答
全 体	2,210	19.8	8.4	4.3	11.7	16.2	13.1	8.3	36.4	19.1	20.9	34.2	5.7	21.6
18～39歳	476	23.9	8.6	9.0	14.3	18.5	23.5	6.1	48.1	28.2	20.2	29.6	4.2	13.4
40～64歳	929	23.5	11.0	4.2	12.6	17.4	13.5	8.4	43.5	22.3	21.3	34.3	6.7	14.5
65～74歳	331	17.8	8.5	2.1	10.9	14.5	7.3	10.9	27.2	14.2	23.0	47.4	4.5	22.1
75歳以上	441	8.8	2.9	0.9	8.2	12.7	5.4	8.6	16.6	7.5	19.3	29.3	6.3	43.5

【障害種別】

障害種別にみると、発達障害で「仕事の手順がわかりやすくマニュアル化されていること」高くなっています。

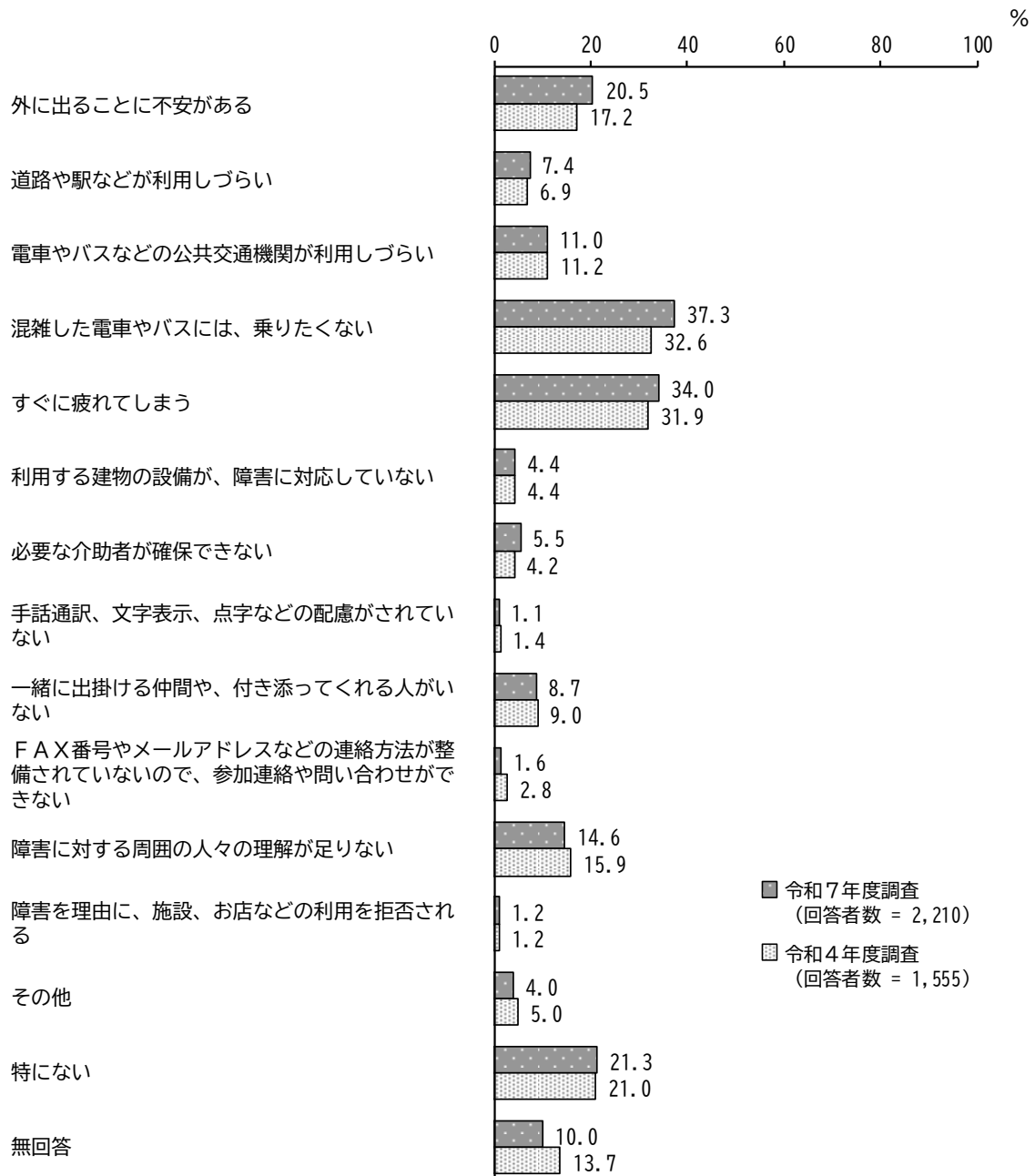
単位：％

区分	回答者数（件）	働くうえで の技術や知識を 身につけること	就職活動に必要 な情報が、すぐ に得られること	職場実習やイン ターンシップな どで経験を積ん でおくこと	難病患者就職サ ポーターやジョ ブコーチなど、支 援してくれる人 がいること	障害の特性に合 った職業訓練が 受けられること	仕事の手順がわ かりやすくマニ ュアル化されて いること	段差解消や車い す対応の机など 、職場環境のバ リアフリー化	上司や同僚の理 解と協力がある こと	働くうえで の悩みを相談で きる場がある こと	家族の理解と協 力があること	自分自身に意欲 があること	その他	無回答
全 体	2,210	19.8	8.4	4.3	11.7	16.2	13.1	8.3	36.4	19.1	20.9	34.2	5.7	21.6
身体障害	903	18.7	7.2	2.5	9.1	15.6	9.0	14.0	28.1	12.7	17.9	35.5	6.3	28.8
知的障害	422	15.2	5.5	7.1	11.8	20.1	21.6	6.4	36.5	17.8	16.8	25.8	3.8	26.8
精神障害	560	24.6	11.3	5.9	10.4	18.6	17.9	3.2	37.0	30.2	17.0	33.4	7.7	16.3
難病	530	18.7	9.1	2.5	20.8	9.6	5.7	8.9	48.7	19.8	29.4	40.9	4.5	13.4
発達障害	183	25.1	10.9	7.1	11.5	23.0	30.1	3.8	44.3	25.1	13.1	23.0	7.7	18.0
高次脳機能障害	78	6.4	10.3	2.6	14.1	25.6	11.5	14.1	32.1	10.3	19.2	30.8	12.8	23.1
重症心身障害	36	13.9	0.0	0.0	5.6	13.9	5.6	13.9	22.2	13.9	13.9	22.2	11.1	44.4
強度行動障害	17	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5	17.6	5.9	5.9	17.6	29.4	23.5	0.0	52.9

(3) 社会参加やコミュニケーションについて

問14 あなた（ご本人）が、社会参加や余暇活動などで外出をするとき、困ることはありますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「混雑した電車やバスには、乗りたくない」の割合が37.3%と最も高く、次いで「すぐに疲れてしまう」の割合が34.0%、「外に出ることに不安がある」の割合が20.5%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「障害に対する周囲の人々の理解が足りない」の割合が高く、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「混雑した電車やバスには、乗りたくない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	外に出ることに不安がある	道路や駅などが利用しづら い	電車やバスなどの公共交通 機関が利用しづらい	混雑した電車やバスには、 乗りたくない	すぐに疲れてしまう	利用する建物の設備が、障 害に対応していない	必要な介助者が確保できな い
全 体	2,210	20.5	7.4	11.0	37.3	34.0	4.4	5.5
18～39歳	476	18.1	5.3	11.3	38.9	31.7	4.8	8.0
40～64歳	929	21.2	6.6	9.8	40.3	38.4	3.1	4.2
65～74歳	331	20.2	10.9	7.9	34.4	29.6	8.2	4.8
75歳以上	441	22.4	8.2	15.0	32.2	31.5	3.6	5.9

区分	手話通訳、文字表示、点字 などの配慮がされていない	一緒に出掛ける仲間や、付 き添ってくれる人がいない	FAX番号やメールアドレス などの連絡方法が整備され ていないので、参加連絡 や問い合わせができない	障害に対する周囲の人々の 理解が足りない	障害を理由に、施設、お店 などの利用を拒否される	その他	特にない	無回答
全 体	1.1	8.7	1.6	14.6	1.2	4.0	21.3	10.0
18～39歳	1.3	12.4	1.3	21.4	1.9	6.3	22.7	4.0
40～64歳	1.5	8.5	1.3	17.2	1.2	3.4	21.0	8.8
65～74歳	0.3	6.6	1.8	10.6	0.6	3.0	24.5	10.3
75歳以上	0.7	6.6	2.5	5.2	1.1	3.9	18.8	17.5

【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で「すぐに疲れてしまう」、重症心身障害で「必要な介助者が確保できない」の割合が高くなっています。

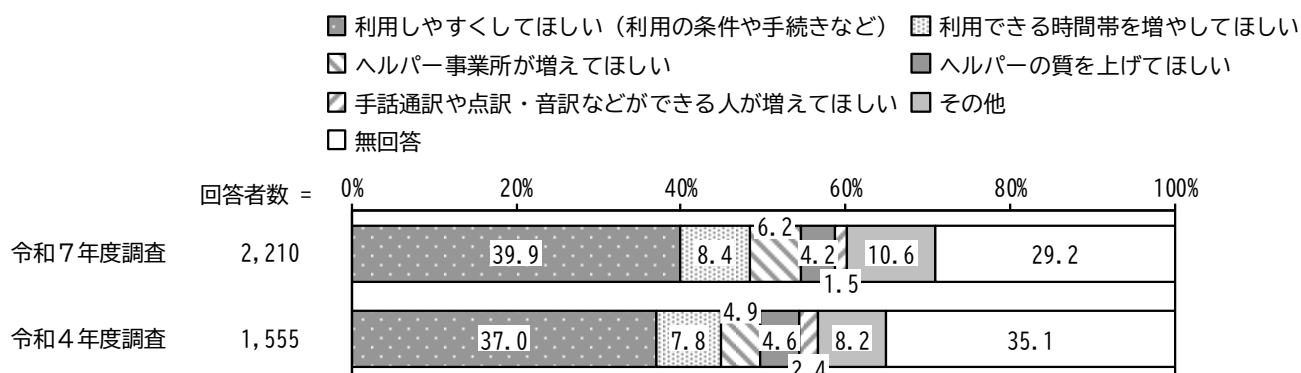
単位：％

区分	回答者数（件）	外に出ることに不安がある	道路や駅などが利用しづらい	電車やバスなどの公共交通機関が利用しづらい	混雑した電車やバスには、乗りたくない	すぐに疲れてしまう	利用する建物の設備が、障害に対応していない	必要な介助者が確保できない
全 体	2,210	20.5	7.4	11.0	37.3	34.0	4.4	5.5
身体障害	903	19.9	12.1	13.6	35.2	29.1	8.2	7.1
知的障害	422	11.6	5.2	11.4	29.9	14.5	3.8	12.8
精神障害	560	35.2	4.1	11.3	46.8	48.2	2.0	2.5
難病	530	16.8	7.2	9.1	39.1	39.4	4.2	3.0
発達障害	183	20.2	2.7	10.9	40.4	33.9	2.7	8.2
高次脳機能障害	78	23.1	7.7	19.2	35.9	34.6	11.5	6.4
重症心身障害	36	0.0	16.7	11.1	19.4	16.7	19.4	22.2
強度行動障害	17	23.5	0.0	5.9	29.4	23.5	0.0	11.8

区分	手話通訳、文字表示、点字などの配慮がされていない	一緒に出かける仲間や、付き添ってくれる人がいない	FAX番号やメールアドレスなどの連絡方法が整備されていないので、参加連絡や問い合わせができない	障害に対する周囲の人々の理解が足りない	障害を理由に、施設、お店などの利用を拒否される	その他	特にな	無回答
全 体	1.1	8.7	1.6	14.6	1.2	4.0	21.3	10.0
身体障害	2.5	7.8	2.3	12.7	1.2	4.1	18.7	11.8
知的障害	0.0	19.2	1.7	23.9	1.7	4.5	20.9	14.2
精神障害	0.0	9.1	0.5	17.5	1.4	4.5	12.1	9.1
難病	0.0	3.2	0.4	8.9	0.8	4.7	29.1	5.8
発達障害	0.5	14.8	0.0	24.6	1.1	5.5	19.7	8.2
高次脳機能障害	0.0	9.0	0.0	15.4	1.3	7.7	16.7	14.1
重症心身障害	0.0	11.1	0.0	19.4	2.8	2.8	13.9	30.6
強度行動障害	0.0	17.6	0.0	11.8	0.0	5.9	5.9	41.2

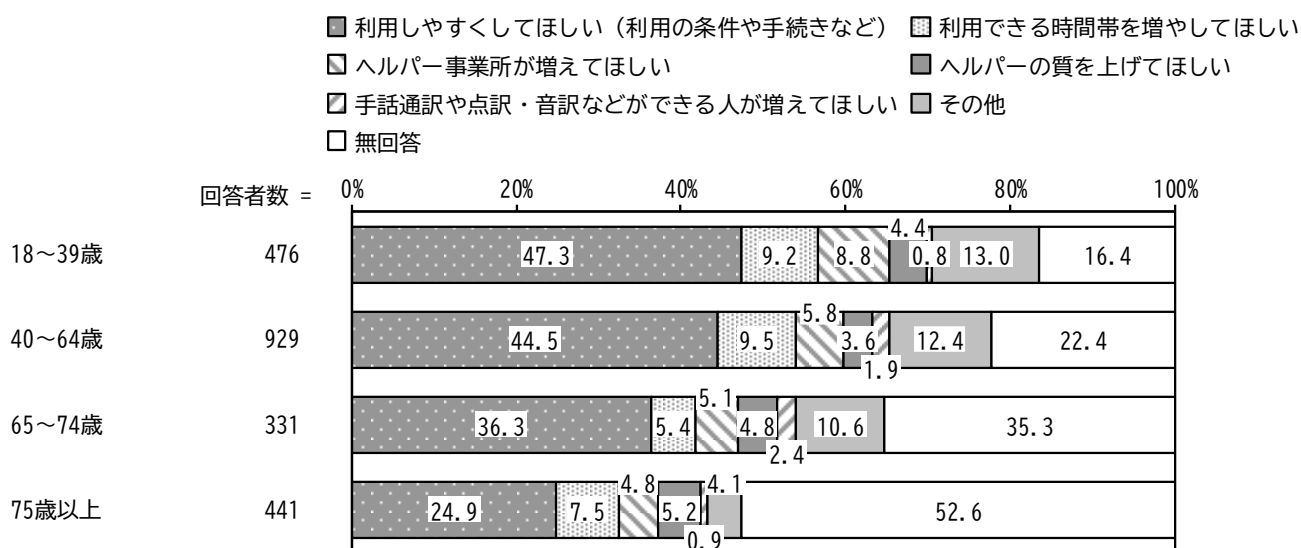
問 15 社会参加の支援サービスについてどのような要望がありますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

「利用しやすくしてほしい（利用の条件や手続きなど）」の割合が 39.9%と最も高くなっています。



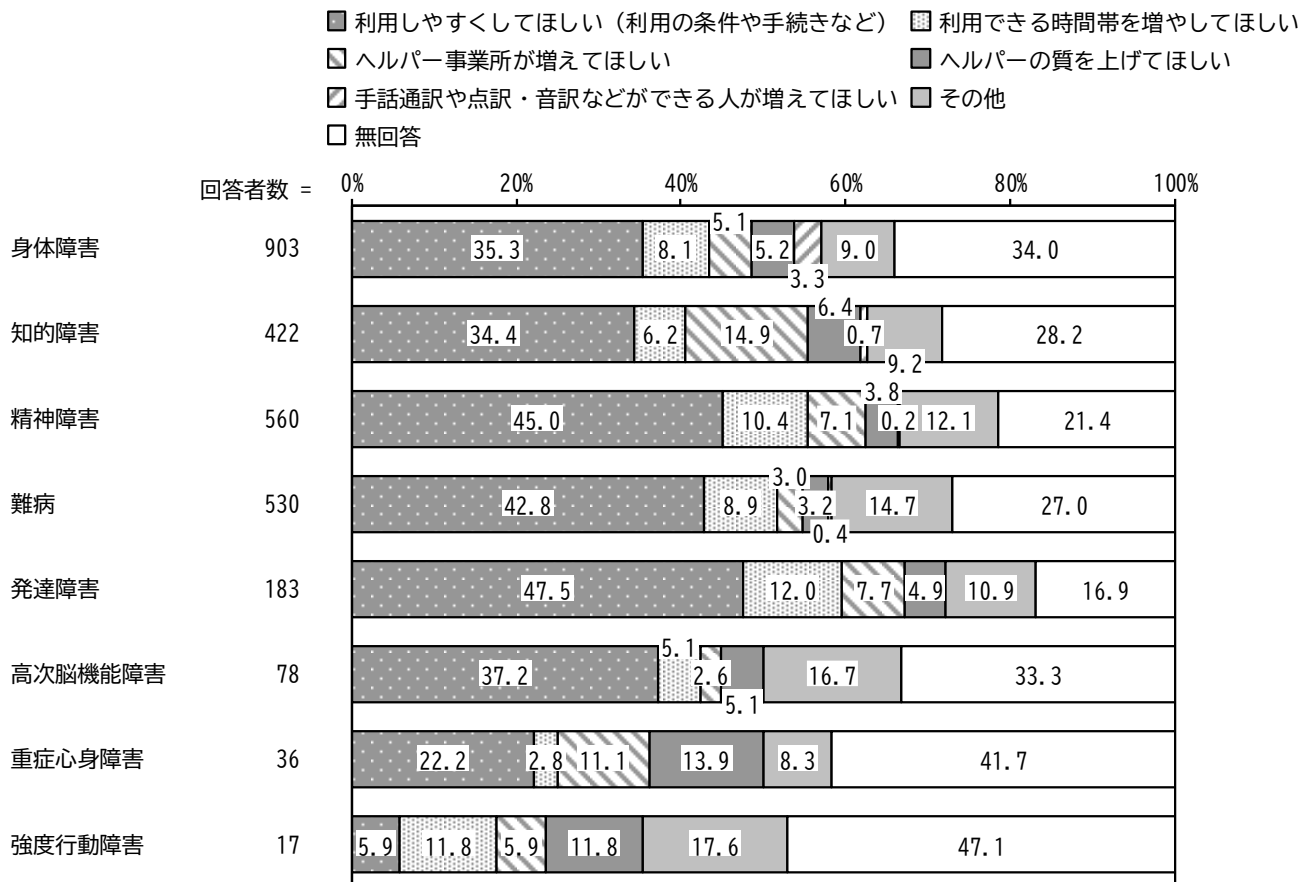
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用しやすくしてほしい（利用の条件や手続きなど）」の割合が高くなっています。



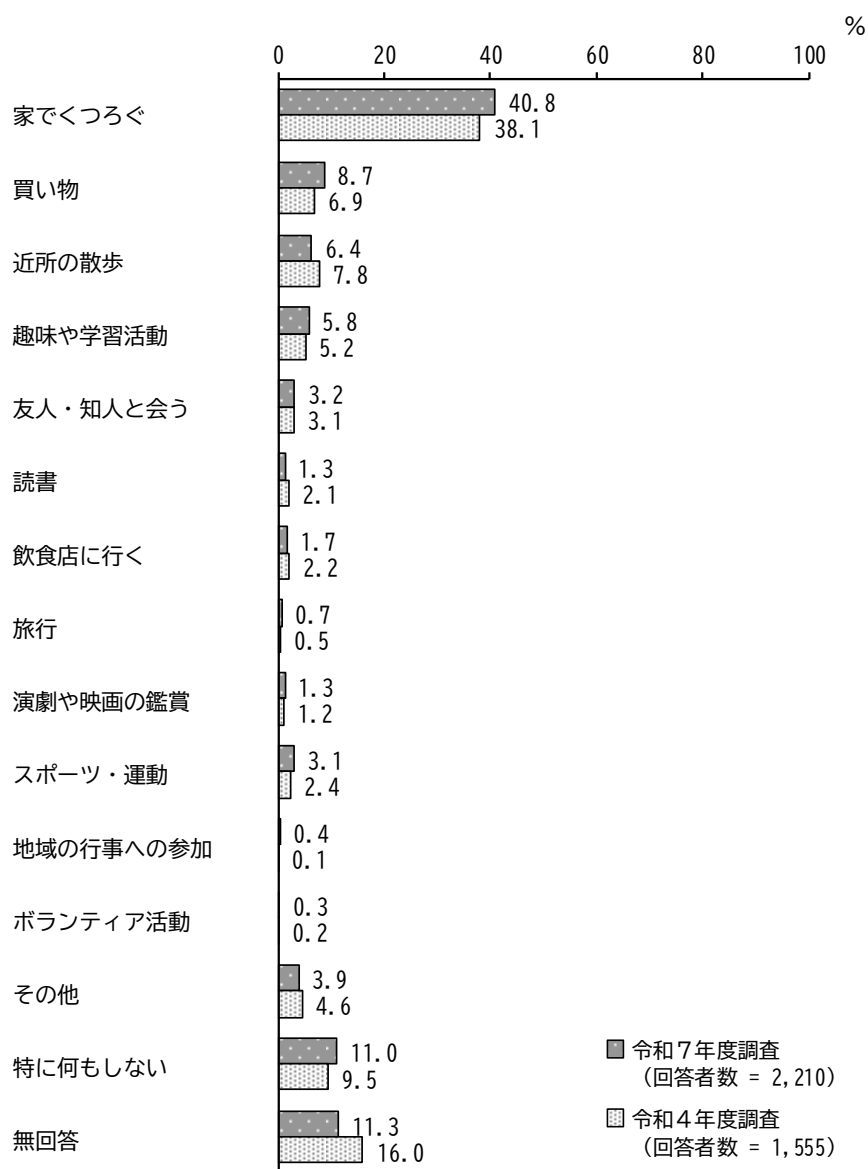
【障害種別】

障害種別にみると、知的障害で「ヘルパー事業所が増えてほしい」、重症心身障害、強度行動障害で「ヘルパーの質を上げてほしい」の割合が他の障害と比べて高くなっています。



問16 余暇（主に休日）は、どのように過ごしていますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

「家でくつろぐ」の割合が40.8%と最も高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「家でくつろぐ」の割合が高く、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「買い物」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家でくつろぐ	買い物	近所の散歩	趣味や学習活動	友人・知人と会う	読書	飲食店に行く	旅行	演劇や映画の鑑賞	スポーツ・運動	加地域の行事への参	ボランティア活動	その他	特に何もしない	無回答
全 体	2,210	40.8	8.7	6.4	5.8	3.2	1.3	1.7	0.7	1.3	3.1	0.4	0.3	3.9	11.0	11.3
18～39歳	476	46.8	7.1	6.1	7.8	5.9	0.4	3.2	1.1	2.1	3.6	0.4	0.0	4.4	5.0	6.1
40～64歳	929	42.3	11.0	6.4	5.6	2.9	1.4	2.0	0.5	1.3	3.7	0.2	0.2	4.8	8.7	8.9
65～74歳	331	39.3	9.4	6.6	6.0	2.1	0.9	0.9	0.9	0.9	2.4	0.3	0.3	3.3	14.5	12.1
75歳以上	441	33.1	5.2	6.8	4.1	2.0	2.3	0.2	0.5	0.9	1.6	0.9	0.9	1.8	20.0	19.7

【障害種別】

障害種別にみると、発達障害、強度行動障害で「趣味や学習活動」、の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家でくつろぐ	買い物	近所の散歩	趣味や学習活動	友人・知人と会う	読書	飲食店に行く
全 体	2,210	40.8	8.7	6.4	5.8	3.2	1.3	1.7
身体障害	903	38.9	7.9	6.8	6.4	2.2	1.6	0.9
知的障害	422	39.8	10.7	7.8	4.5	2.8	0.0	3.3
精神障害	560	41.8	5.5	5.5	4.3	3.8	1.4	1.6
難病	530	48.5	10.0	6.0	6.8	3.4	2.1	1.3
発達障害	183	37.2	8.2	6.0	12.6	3.8	1.6	4.4
高次脳機能障害	78	35.9	5.1	10.3	3.8	1.3	0.0	1.3
重症心身障害	36	38.9	2.8	0.0	2.8	2.8	0.0	0.0
強度行動障害	17	23.5	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0

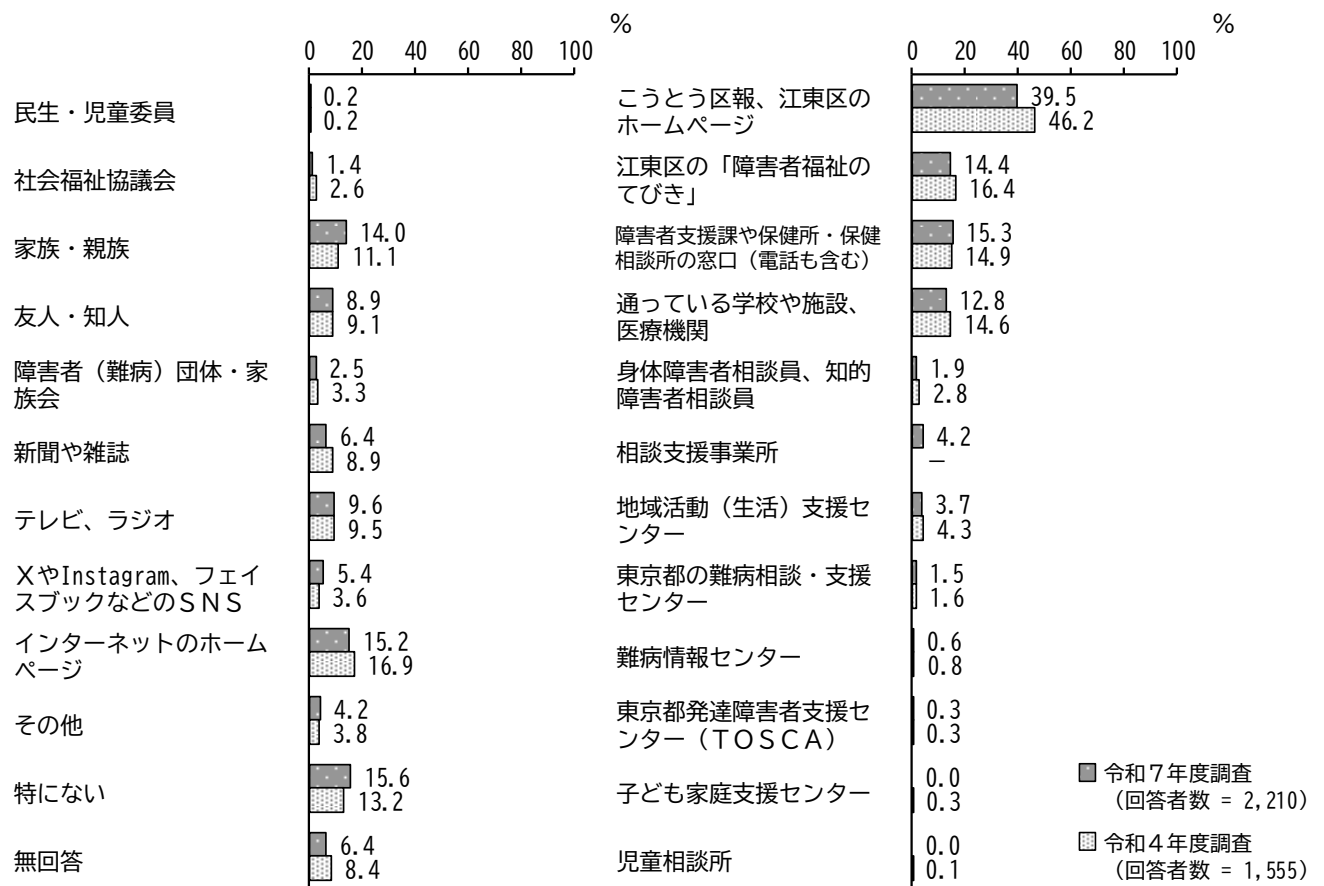
区分	旅行	演劇や映画の鑑賞	スポーツ・運動	加地域の行事への参	ボランティア活動	その他	特に何もしない	無回答
全 体	0.7	1.3	3.1	0.4	0.3	3.9	11.0	11.3
身体障害	0.7	0.8	3.2	0.6	0.6	3.7	12.7	13.3
知的障害	0.7	1.4	4.0	0.5	0.0	5.0	6.6	12.8
精神障害	0.9	1.6	2.1	0.4	0.2	5.0	15.5	10.4
難病	0.4	1.5	2.5	0.0	0.2	3.4	6.8	7.2
発達障害	0.0	1.1	3.3	0.0	0.0	5.5	6.0	10.4
高次脳機能障害	0.0	0.0	2.6	1.3	0.0	11.5	10.3	16.7
重症心身障害	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	5.6	13.9	30.6
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	11.8	0.0	47.1

(4) 情報・相談先について

問 17 福祉に関する情報をどこから得ていますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「こうとう区報、江東区のホームページ」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「障害者支援課や保健所・保健相談所の窓口（電話も含む）」の割合が 15.3%、「インターネットのホームページ」の割合が 15.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「こうとう区報、江東区のホームページ」の割合が減少しています。



※令和4年度調査における選択肢「ツイッターやフェイスブックなどのSNS」は令和7年度調査で「XやInstagram、フェイスブックなどのSNS」に変更しました。また、「相談支援事業所」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「新聞や雑誌」「テレビ、ラジオ」の割合が高く、「通っている学校や施設、医療機関」の割合が低く、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「障害者支援課や保健所・保健相談所の窓口（電話も含む）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	ことうとう区報、江東区のホームページ	江東区の「障害者福祉のてびき」	障害者支援課や保健所・保健相談所の窓口（電話も含む）	通っている学校や施設、医療機関	身体障害者相談員、知的障害者相談員	相談支援事業所	地域活動（生活）支援センター	東京都の難病相談・支援センター	難病情報センター	東京都発達障害者支援センター（TOSCA）	子ども家庭支援センター	児童相談所
全 体	2,210	39.5	14.4	15.3	12.8	1.9	4.2	3.7	1.5	0.6	0.3	0.0	0.0
18～39歳	476	32.6	16.6	17.2	25.8	2.7	7.6	3.4	0.6	0.4	0.2	0.0	0.0
40～64歳	929	41.3	12.5	16.6	12.4	1.8	3.7	2.4	1.9	1.0	0.5	0.0	0.0
65～74歳	331	43.8	13.9	13.0	7.3	0.9	1.5	4.2	2.1	0.3	0.0	0.0	0.0
75歳以上	441	40.8	16.3	12.0	4.5	1.8	3.4	6.6	1.1	0.5	0.0	0.0	0.0

区分	民生・児童委員	社会福祉協議会	家族・親族	友人・知人	障害者（難病）団体・家族会	新聞や雑誌	テレビ、ラジオ	XやInstagram、フェイスブックなどのSNS	インターネットのホームページ	その他	特にない	無回答
全 体	0.2	1.4	14.0	8.9	2.5	6.4	9.6	5.4	15.2	4.2	15.6	6.4
18～39歳	0.0	0.2	20.2	11.6	3.8	1.1	2.7	8.0	18.9	3.8	15.1	1.7
40～64歳	0.0	1.5	9.6	7.5	2.7	5.1	8.4	7.5	19.2	4.5	17.0	5.2
65～74歳	0.6	1.8	13.3	8.5	2.7	8.2	15.4	2.4	14.2	4.5	16.3	7.3
75歳以上	0.5	2.5	17.2	9.5	0.9	14.1	15.9	0.0	3.6	4.1	12.9	12.2

【障害種別】

障害種別にみると、いずれの障害においても「こうとう区報、江東区のホームページ」の割合が高くなっています。また、重症心身障害で「友人・知人」の割合が他の障害に比べて高くなっています。

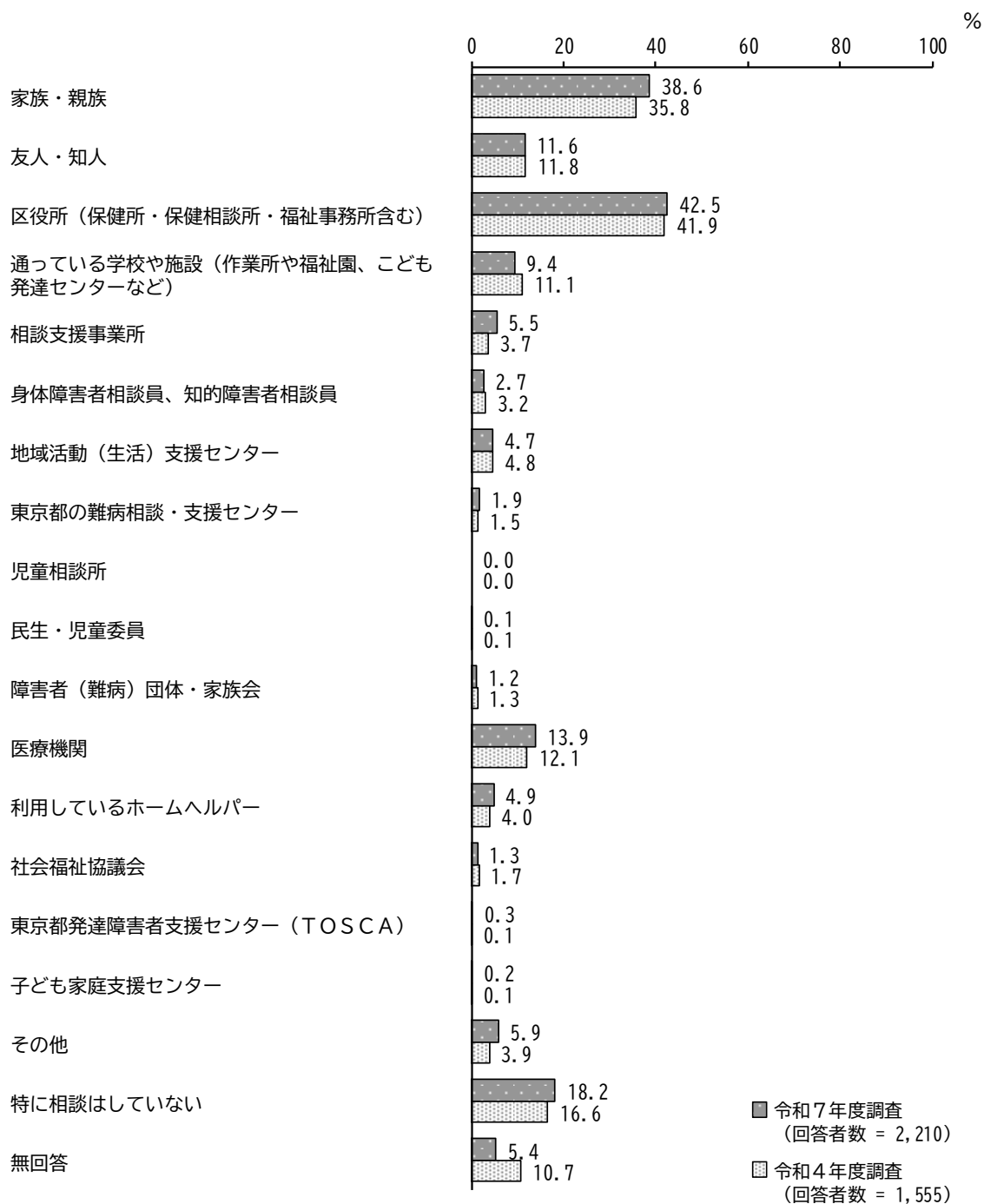
単位：％

区分	回答者数（件）	こうとう区報、江東区のホームページ	江東区の「障害者福祉のてびき」	障害者支援課や保健所・保健相談所の窓口（電話も含む）	通っている学校や施設、医療機関	身体障害者相談員、知的障害者相談員	相談支援事業所	地域活動（生活）支援センター	東京都の難病相談・支援センター	難病情報センター	東京都発達障害者支援センター（TOSCA）	子ども家庭支援センター	児童相談所
全 体	2,210	39.5	14.4	15.3	12.8	1.9	4.2	3.7	1.5	0.6	0.3	0.0	0.0
身体障害	903	42.4	20.3	14.2	9.3	2.0	4.1	4.8	0.9	0.6	0.1	0.0	0.0
知的障害	422	28.2	20.6	13.7	27.5	5.7	9.7	3.6	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0
精神障害	560	35.4	11.4	22.7	15.9	1.1	3.8	4.5	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0
難病	530	46.2	7.9	16.6	8.9	1.1	1.7	2.3	5.7	2.6	0.0	0.0	0.0
発達障害	183	31.7	14.8	19.1	24.0	3.8	10.9	4.9	1.1	0.0	1.1	0.0	0.0
高次脳機能障害	78	26.9	15.4	20.5	14.1	2.6	6.4	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	36	16.7	30.6	8.3	19.4	0.0	11.1	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	17	35.3	5.9	17.6	11.8	11.8	11.8	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	民生・児童委員	社会福祉協議会	家族・親族	友人・知人	障害者（難病）団体・家族会	新聞や雑誌	テレビ、ラジオ	XやInstagram、フェイスブックなどのSNS	インターネットのホームページ	その他	特にない	無回答
全 体	0.2	1.4	14.0	8.9	2.5	6.4	9.6	5.4	15.2	4.2	15.6	6.4
身体障害	0.2	1.3	14.8	10.7	2.3	8.1	12.2	3.8	13.2	5.0	13.6	7.0
知的障害	0.0	1.9	20.4	13.3	6.2	1.7	8.3	1.4	6.9	2.6	13.5	7.6
精神障害	0.2	1.6	12.3	7.3	1.1	4.6	8.4	8.0	17.7	6.1	15.4	5.9
難病	0.2	0.6	9.1	5.8	2.3	7.2	9.1	6.6	20.8	3.0	17.9	4.2
発達障害	0.0	2.2	17.5	8.7	4.4	3.8	3.8	5.5	19.7	4.9	9.8	5.5
高次脳機能障害	0.0	1.3	16.7	5.1	2.6	3.8	9.0	6.4	14.1	14.1	10.3	7.7
重症心身障害	0.0	0.0	2.8	30.6	8.3	0.0	11.1	0.0	8.3	11.1	13.9	13.9
強度行動障害	0.0	0.0	11.8	11.8	5.9	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	5.9	23.5

問18 福祉サービスの利用で困ったとき、誰（どこ）に相談しますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「区役所（保健所・保健相談所・福祉事務所含む）」の割合が42.5%と最も高く、次いで「家族・親族」の割合が38.6%、「医療機関」の割合が13.9%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「通っている学校や施設（作業所や福祉園、こども発達センターなど）」の割合が高く、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「区役所（保健所・保健相談所・福祉事務所含む）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	家族・親族	友人・知人	区役所（保健所・保健相談所・福祉事務所含む）	通っている学校や施設（作業所や福祉園、こども発達センターなど）	相談支援事業所	身体障害者相談員 知的障害者相談員	地域活動（生活）支援センター	東京都の難病相談・支援センター	児童相談所
全 体	2,210	38.6	11.6	42.5	9.4	5.5	2.7	4.7	1.9	0.0
18～39歳	476	45.0	13.4	42.4	21.8	12.2	3.2	2.9	1.3	0.0
40～64歳	929	35.1	11.6	47.4	8.5	4.0	2.9	3.2	2.8	0.1
65～74歳	331	33.5	11.8	41.7	3.3	1.8	2.7	5.4	1.8	0.0
75歳以上	441	43.3	9.3	33.3	2.3	3.9	1.8	9.1	0.9	0.0

区分	民生・児童委員	障害者（難病）団体・家族会	医療機関	利用しているホームヘルパー	社会福祉協議会	東京都発達障害者支援センター（TOSCA）	子ども家庭支援センター	その他	特に相談はしていない	無回答
全 体	0.1	1.2	13.9	4.9	1.3	0.3	0.2	5.9	18.2	5.4
18～39歳	0.2	1.1	14.1	2.9	0.0	0.2	0.4	5.5	15.3	1.9
40～64歳	0.0	1.2	17.0	3.6	1.4	0.6	0.3	5.6	20.5	3.0
65～74歳	0.0	1.5	12.7	6.3	0.9	0.0	0.0	7.3	22.7	6.9
75歳以上	0.2	1.4	9.1	9.1	2.9	0.0	0.0	5.9	14.3	12.0

【障害種別】

障害種別にみると、いずれの障害においても「家族・親族」「区役所」の割合が高くなっています。

単位：％

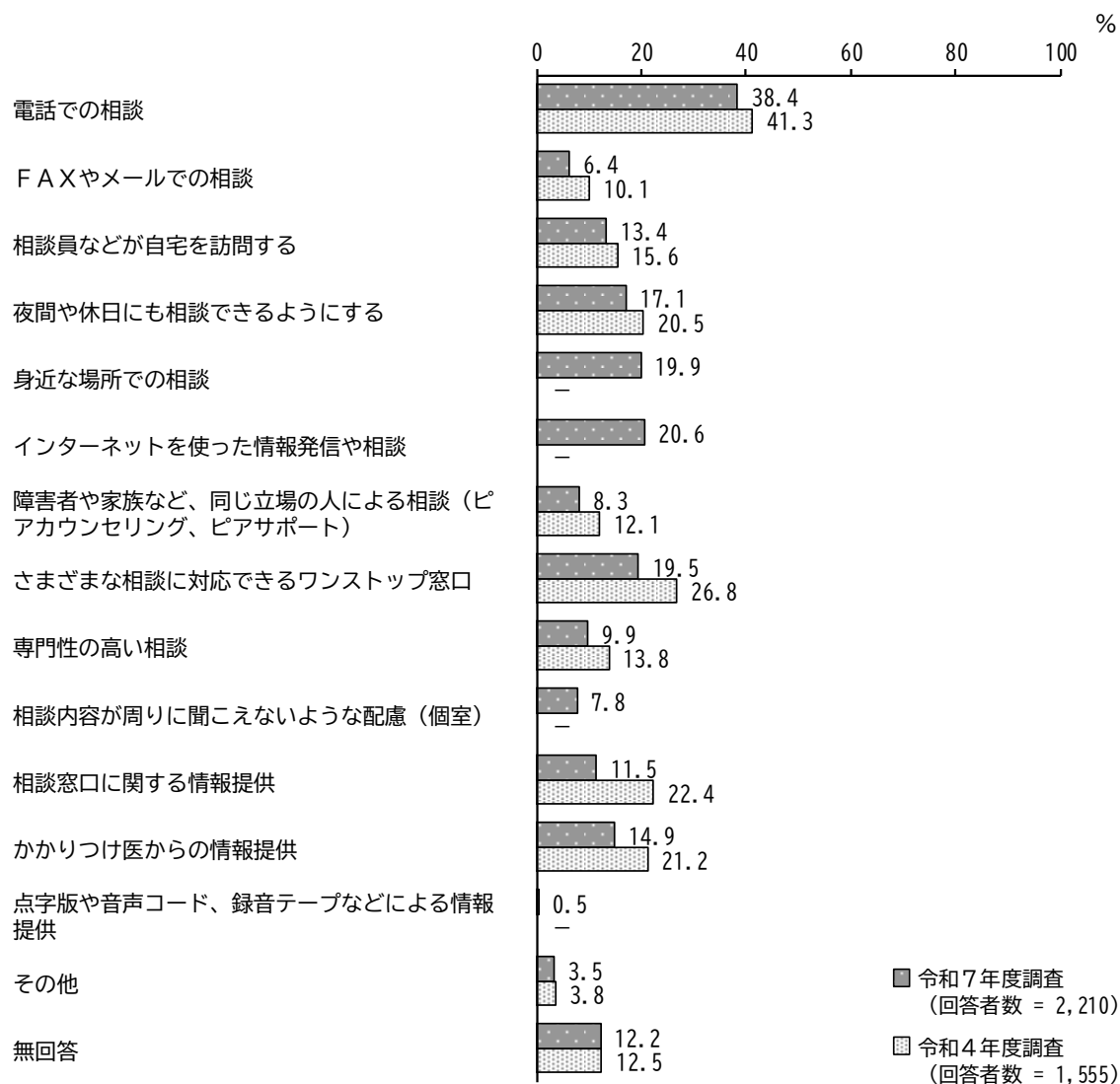
区分	回答者数(件)	家族・親族	友人・知人	区役所(保健所・保健相談所・福祉事務所含む)	通っている学校や施設(作業所や福祉園、こども発達センターなど)	相談支援事業所	身体障害者相談員、知的障害者相談員	地域活動(生活)支援センター	東京都の難病相談・支援センター	児童相談所
全 体	2,210	38.6	11.6	42.5	9.4	5.5	2.7	4.7	1.9	0.0
身体障害	903	40.0	11.8	42.2	6.4	3.8	3.0	6.3	0.8	0.1
知的障害	422	41.0	14.2	33.9	33.4	13.5	6.9	4.0	0.0	0.0
精神障害	560	35.5	11.1	47.0	8.2	7.0	1.3	4.6	1.1	0.2
難病	530	34.5	9.2	47.2	2.6	1.7	0.8	3.4	6.8	0.0
発達障害	183	43.7	10.4	43.7	17.5	15.3	3.8	6.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	78	39.7	10.3	46.2	9.0	3.8	3.8	10.3	0.0	0.0
重症心身障害	36	13.9	27.8	33.3	33.3	8.3	5.6	5.6	0.0	0.0
強度行動障害	17	35.3	17.6	23.5	35.3	11.8	5.9	5.9	0.0	0.0

区分	民生・児童委員	障害者(難病)団体・家族会	医療機関	利用しているホームヘルパー	社会福祉協議会	東京都発達障害者支援センター(TOSCA)	子ども家庭支援センター	その他	特に相談はしていない	無回答
全 体	0.1	1.2	13.9	4.9	1.3	0.3	0.2	5.9	18.2	5.4
身体障害	0.1	1.1	10.6	7.0	1.2	0.3	0.2	6.0	18.1	7.1
知的障害	0.0	1.7	4.5	4.5	0.9	0.7	0.2	5.5	11.4	5.5
精神障害	0.0	0.5	26.1	4.6	1.8	0.4	0.7	8.2	14.5	3.9
難病	0.0	1.5	14.7	4.2	0.8	0.0	0.0	3.6	25.3	3.8
発達障害	0.5	2.2	16.9	4.4	1.6	1.1	0.5	7.7	14.2	2.2
高次脳機能障害	0.0	3.8	14.1	10.3	0.0	0.0	0.0	14.1	12.8	3.8
重症心身障害	0.0	2.8	11.1	13.9	0.0	0.0	0.0	13.9	5.6	8.3
強度行動障害	0.0	0.0	11.8	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9

問 19 福祉サービスの利用について、区役所などへ相談しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「電話での相談」の割合が 38.4%と最も高く、次いで「インターネットを使った情報発信や相談」の割合が 20.6%、「身近な場所での相談」の割合が 19.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「さまざまな相談に対応できるワンストップ窓口」「相談窓口に関する情報提供」「かかりつけ医からの情報提供」の割合が減少しています。



※「身近な場所での相談」、「インターネットを使った情報発信や相談」、「相談内容が周りに聞こえないような配慮（個室）」、「点字版や音声コード、録音テープなどによる情報提供」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「夜間や休日にも相談できるようにする」「インターネットを使った情報発信や相談」「障害者や家族など、同じ立場の人による相談（ピアカウンセリング、ピアサポート）」「さまざまな相談に対応できるワンストップ窓口」「専門性の高い相談」「相談内容が周りに聞こえないような配慮（個室）」の割合が高く、「相談員などが自宅を訪問する」の割合が低い傾向にあり、「18～39歳」から「65～74歳」まで年齢が上がるほど「電話での相談」の割合が高く、「身近な場所での相談」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	電話での相談	FAXやメールでの 相談	相談員などが自宅を 訪問する	夜間や休日にも相談 できるようにする	身近な場所での相談	インターネットを使 った情報発信や相談	障害者や家族など、同 じ立場の人による相 談（ピアカウンセリング 、ピアサポート）
全 体	2,210	38.4	6.4	13.4	17.1	19.9	20.6	8.3
18～39歳	476	26.3	7.8	8.8	25.8	22.5	30.7	12.2
40～64歳	929	40.0	7.4	13.3	18.7	19.8	25.9	8.6
65～74歳	331	44.4	6.0	12.1	10.3	16.6	11.8	6.9
75歳以上	441	42.9	3.6	19.3	9.5	20.4	5.0	5.2

区分	さまざまな相談に対 応できるワンスタッ プ窓口	専門性の高い相談	相談内容が周りに聞 こえないような配慮 (個室)	相談窓口に関する情 報提供	かかりつけ医からの 情報提供	点字版や音声コード、 録音テープなどによ る情報提供	その他	無回答
全 体	19.5	9.9	7.8	11.5	14.9	0.5	3.5	12.2
18～39歳	23.9	13.0	11.3	13.4	14.5	0.4	4.4	5.3
40～64歳	19.5	10.9	9.6	11.8	14.0	0.2	3.4	8.5
65～74歳	19.3	6.6	6.3	10.3	14.2	1.5	4.2	15.4
75歳以上	16.1	6.3	1.8	10.2	17.9	0.7	2.5	23.8

【障害種別】

障害種別にみると、いずれの障害においても「電話での相談」の割合が高くなっています。

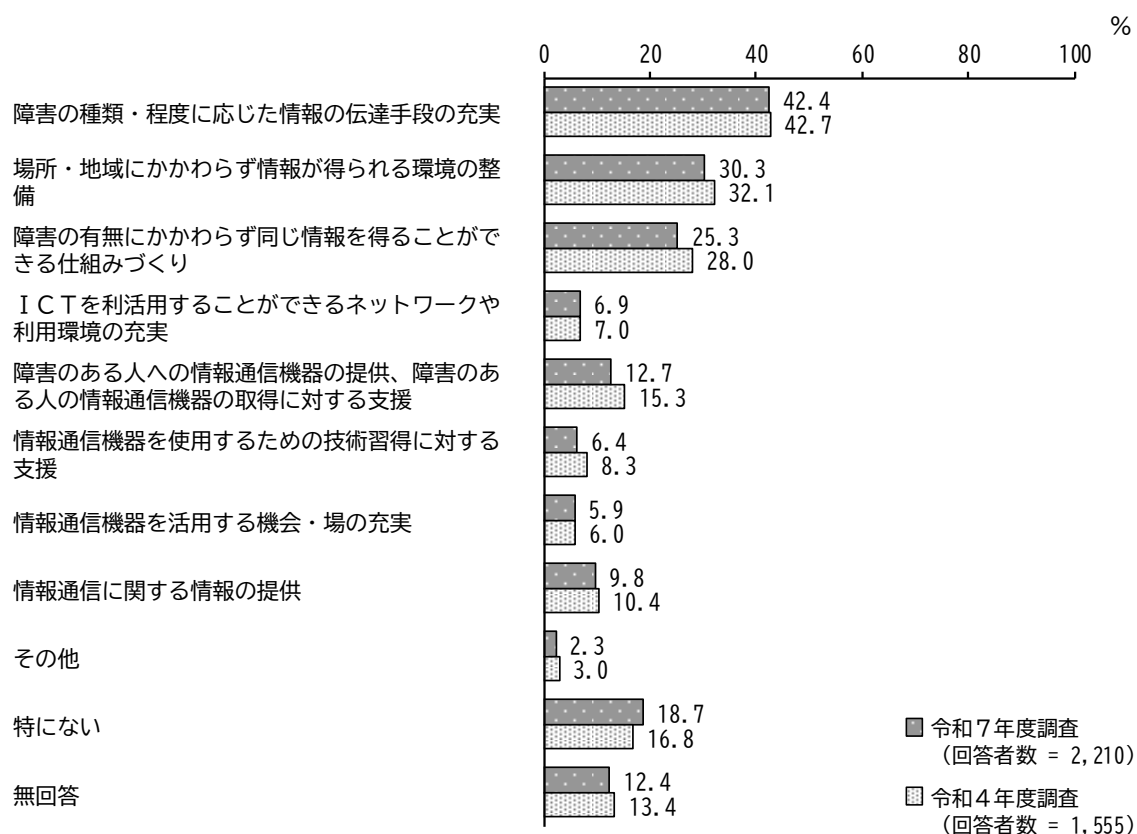
単位：％

区分	回答者数（件）	電話での相談	FAXやメールでの相談	相談員などが自宅を訪問する	夜間や休日にも相談できるようにする	身近な場所での相談	インターネットを使った情報発信や相談	障害者や家族など、同じ立場の人による相談（ピアカウンセリング、ピアサポート）
全 体	2,210	38.4	6.4	13.4	17.1	19.9	20.6	8.3
身体障害	903	41.5	6.6	15.5	11.7	19.0	17.4	8.3
知的障害	422	30.8	4.0	14.7	16.6	23.2	11.1	12.6
精神障害	560	40.0	5.5	15.4	23.2	18.2	24.1	9.5
難病	530	40.6	6.8	8.5	16.6	17.2	26.6	6.8
発達障害	183	34.4	4.4	14.2	24.6	21.9	25.1	10.4
高次脳機能障害	78	26.9	1.3	21.8	16.7	21.8	12.8	12.8
重症心身障害	36	41.7	0.0	11.1	8.3	22.2	5.6	8.3
強度行動障害	17	29.4	0.0	29.4	5.9	11.8	5.9	5.9

区分	さまざまな相談に対応できるワンストップ窓口	専門性の高い相談	相談内容が周りに聞こえないような配慮（個室）	相談窓口に関する情報提供	かかりつけ医からの情報提供	点字版や音声コード、録音テープなどによる情報提供	その他	無回答
全 体	19.5	9.9	7.8	11.5	14.9	0.5	3.5	12.2
身体障害	20.4	8.5	5.1	10.2	13.4	1.2	4.1	14.8
知的障害	28.4	10.2	7.8	14.9	9.0	0.0	3.8	13.5
精神障害	17.7	13.2	12.3	11.1	18.6	0.2	3.8	9.3
難病	16.6	11.3	7.9	11.3	17.5	0.8	3.2	9.2
発達障害	23.0	13.1	13.1	15.8	16.9	0.5	4.9	7.7
高次脳機能障害	30.8	19.2	10.3	15.4	17.9	0.0	6.4	6.4
重症心身障害	22.2	13.9	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	19.4
強度行動障害	11.8	11.8	0.0	5.9	5.9	5.9	5.9	29.4

問 20 「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」では、障害のある人が情報を十分に取得して利用し、スムーズな意思疎通を図れることが重要とされています。あなた（ご本人）は、情報の取得利用や意思疎通において、どのような施策が江東区で特に必要であるとお考えですか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「障害の種類・程度に応じた情報の伝達手段の充実」の割合が 42.4%と最も高く、次いで「場所・地域にかかわらず情報が得られる環境の整備」の割合が 30.3%、「障害の有無にかかわらず同じ情報を得ることができる仕組みづくり」の割合が 25.3%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「場所・地域にかかわらず情報が得られる環境の整備」の割合が高い傾向にあり、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「障害の種類・程度に応じた情報の伝達手段の充実」「障害のある人への情報通信機器の提供、障害のある人の情報通信機器の取得に対する支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	障害の種類・程度に応じた情報の伝達手段の充実	場所・地域にかかわらず情報が得られる環境の整備	障害の有無にかかわらず同じ情報を得ることができる仕組みづくり	ICTを活用することができるとネットワーキや利用環境の充実	障害のある人への情報通信機器の提供、障害のある人の情報通信機器の取得に対する支援
全 体	2,210	42.4	30.3	25.3	6.9	12.7
18～39歳	476	44.7	33.4	26.3	11.8	13.7
40～64歳	929	47.5	33.4	26.8	8.5	14.0
65～74歳	331	36.6	27.5	22.4	2.1	12.4
75歳以上	441	33.8	23.6	23.6	2.3	9.8

区分	情報通信機器を使用するための技術習得に対する支援	情報通信機器を活用する機会・場の充実	情報通信に関する情報の提供	その他	特にない	無回答
全 体	6.4	5.9	9.8	2.3	18.7	12.4
18～39歳	6.7	7.4	9.0	3.2	18.5	5.7
40～64歳	6.7	6.7	11.1	2.6	15.8	9.7
65～74歳	8.2	4.8	11.5	1.2	21.5	14.8
75歳以上	4.5	3.4	6.6	1.6	22.9	22.2

【障害種別】

障害種別にみると、いずれの障害においても「障害の種類・程度に応じた情報の伝達手段の充実」の割合が高くなっています。また、発達障害で「ＩＣＴを利活用することができるネットワークや利用環境の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

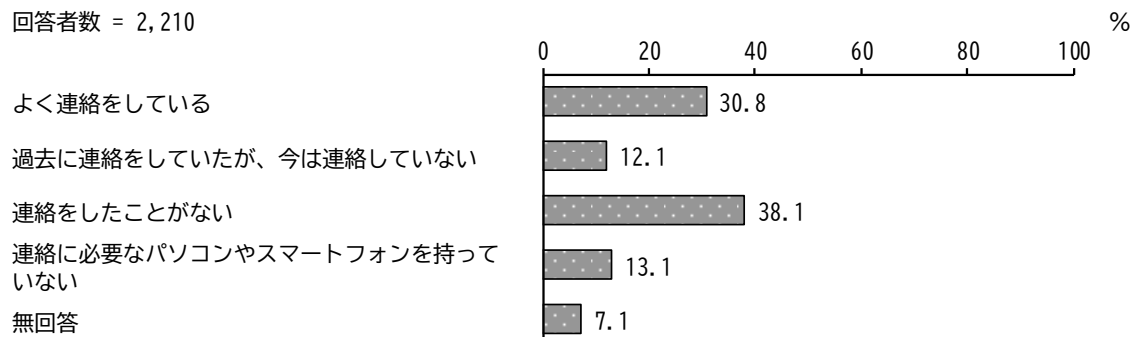
区分	回答者数 (件)	障害の種類・程度に 応じた情報の伝達手段の 充実	場所・地域にかかわら ず情報が得られる環境 の整備	障害の有無にかかわら ず同じ情報を得ること ができる仕組みづくり	ＩＣＴを利活用するこ とができるネットワー クや利用環境の充実	障害のある人への情報 通信機器の提供、障害 のある人の情報通信機 器の取得に対する支援
全 体	2,210	42.4	30.3	25.3	6.9	12.7
身体障害	903	42.6	28.6	26.5	6.5	14.4
知的障害	422	45.0	27.7	19.7	4.7	13.0
精神障害	560	44.6	30.4	25.5	8.9	14.3
難病	530	39.2	33.4	26.2	6.6	10.0
発達障害	183	55.2	33.9	25.7	13.1	19.1
高次脳機能障害	78	48.7	30.8	25.6	7.7	14.1
重症心身障害	36	44.4	25.0	25.0	5.6	16.7
強度行動障害	17	35.3	29.4	23.5	5.9	23.5

区分	情報通信機器を使用す るための技術習得に対 する支援	情報通信機器を活用す る機会・場の充実	情報通信に関する情報 の提供	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	6.4	5.9	9.8	2.3	18.7	12.4
身体障害	7.0	5.2	9.0	1.7	16.9	14.4
知的障害	4.7	3.1	8.3	3.1	20.9	14.9
精神障害	8.0	7.3	11.3	3.8	17.0	9.8
難病	5.8	6.4	11.1	1.7	21.1	9.6
発達障害	7.1	8.2	11.5	2.7	13.1	6.6
高次脳機能障害	12.8	7.7	5.1	5.1	9.0	19.2
重症心身障害	0.0	0.0	16.7	5.6	13.9	25.0
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	11.8	17.6	23.5

問 21 あなたは、パソコンやスマートフォン、タブレットの機能を使って、共通の趣味や関心をもつ人とオンライン上で連絡をとることがありますか。音声だけでなく、メールやSNSなどの文字だけでの連絡も含みます。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「連絡をしたことがない」の割合が 38.1%と最も高く、次いで「よく連絡をしている」の割合が 30.8%、「連絡に必要なパソコンやスマートフォンを持っていない」の割合が 13.1%となっています。

回答者数 = 2,210



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「よく連絡をしている」「過去に連絡をしていたが、今は連絡していない」の割合が高く、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「連絡に必要なパソコンやスマートフォンを持っていない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	よく連絡 をしている	過去に連絡 をしていたが、 今は連絡して いない	連絡をした ことがない	連絡に必要な パソコンや スマートフォン を持っていない	無 回 答
全 体	2,210	30.8	12.1	38.1	13.1	7.1
18～39歳	476	38.4	15.1	35.9	9.0	2.7
40～64歳	929	34.3	13.3	40.2	8.8	4.6
65～74歳	331	26.3	11.5	37.8	16.0	9.1
75歳以上	441	18.1	6.6	37.0	24.9	14.5

【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で「よく連絡をしている」知的障害、難病で「連絡をしたことがない」の割合が高くなっています。

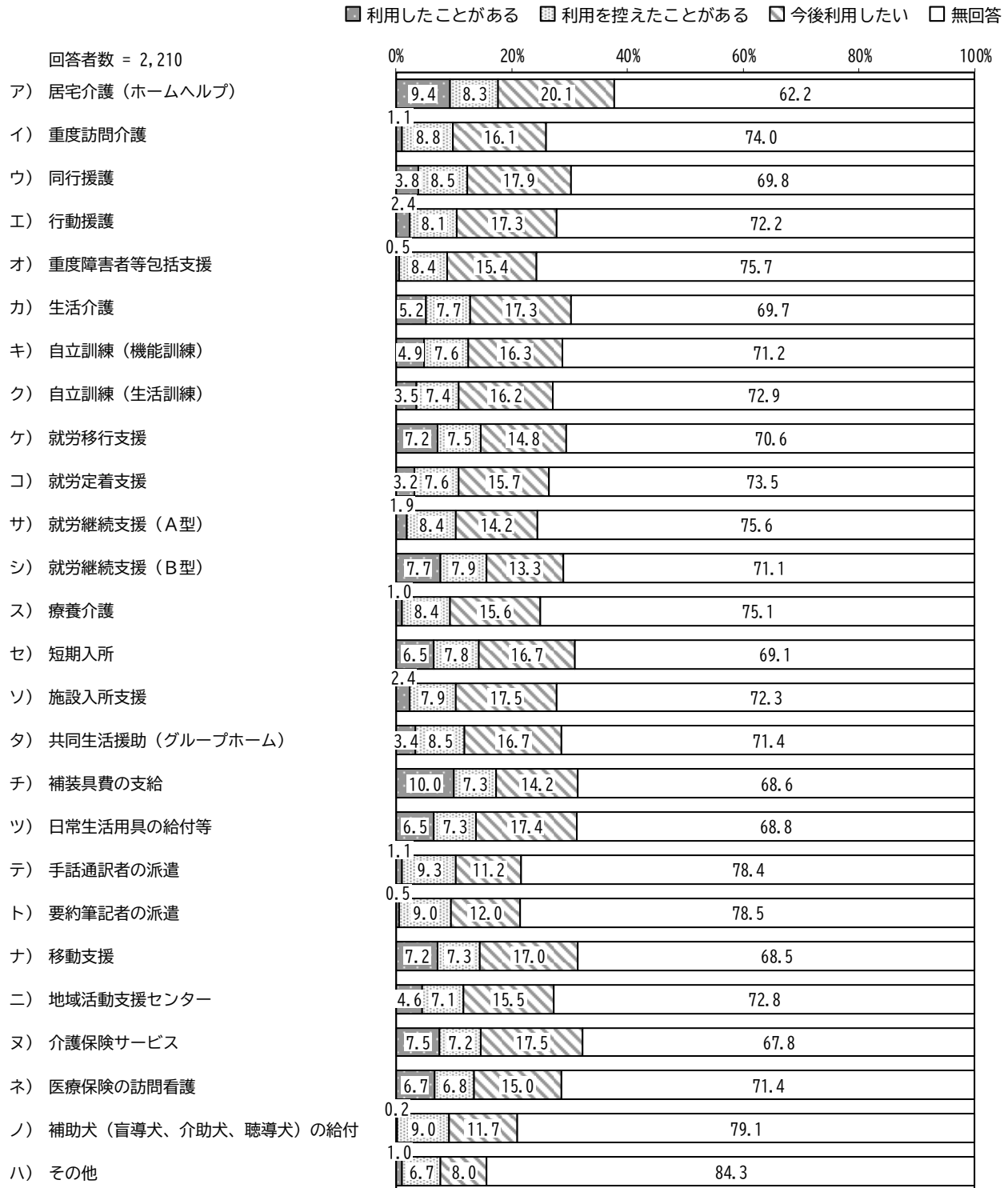
単位：％

区分	回答者数 (件)	よく連絡をしている	過去に連絡をしていたが、今は連絡していない	連絡をしたことがない	連絡に必要なパソコンやスマートフォンを持っていない	無回答
全 体	2,210	30.8	12.1	38.1	13.1	7.1
身体障害	903	27.9	10.5	36.5	17.1	9.0
知的障害	422	16.8	6.6	43.6	25.6	8.8
精神障害	560	37.7	18.8	31.4	8.8	5.2
難病	530	33.8	12.1	44.3	5.1	5.3
発達障害	183	33.9	12.0	42.6	9.8	3.8
高次脳機能障害	78	25.6	16.7	37.2	10.3	11.5
重症心身障害	36	11.1	8.3	30.6	30.6	22.2
強度行動障害	17	5.9	11.8	35.3	23.5	29.4

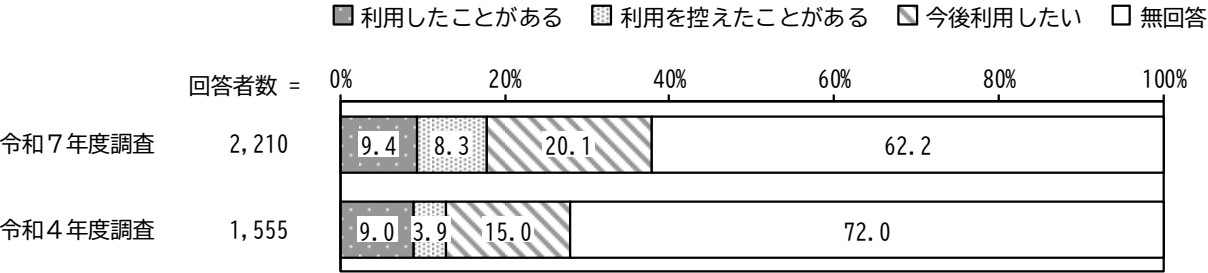
(5) サービスの利用について

問 22 あなた（ご本人）の福祉サービスの利用についてお答えください。それぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。

『チ）補装具費の支給』で「利用したことがある」が、『テ）手話通訳者の派遣』で「利用を控えたことがある」が、『ア）居宅介護（ホームヘルプ）』で「今後利用したい」が高くなっています。

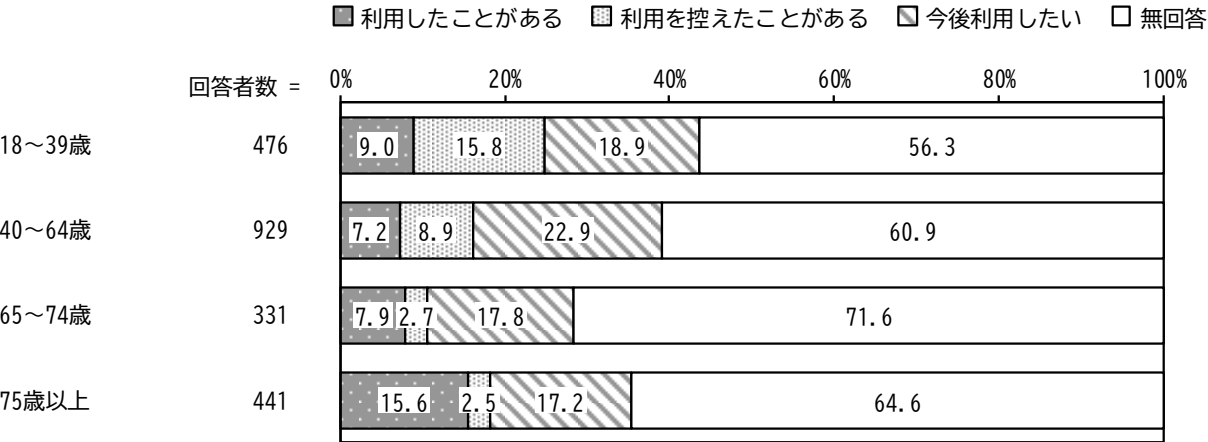


ア) 居宅介護（ホームヘルプ）



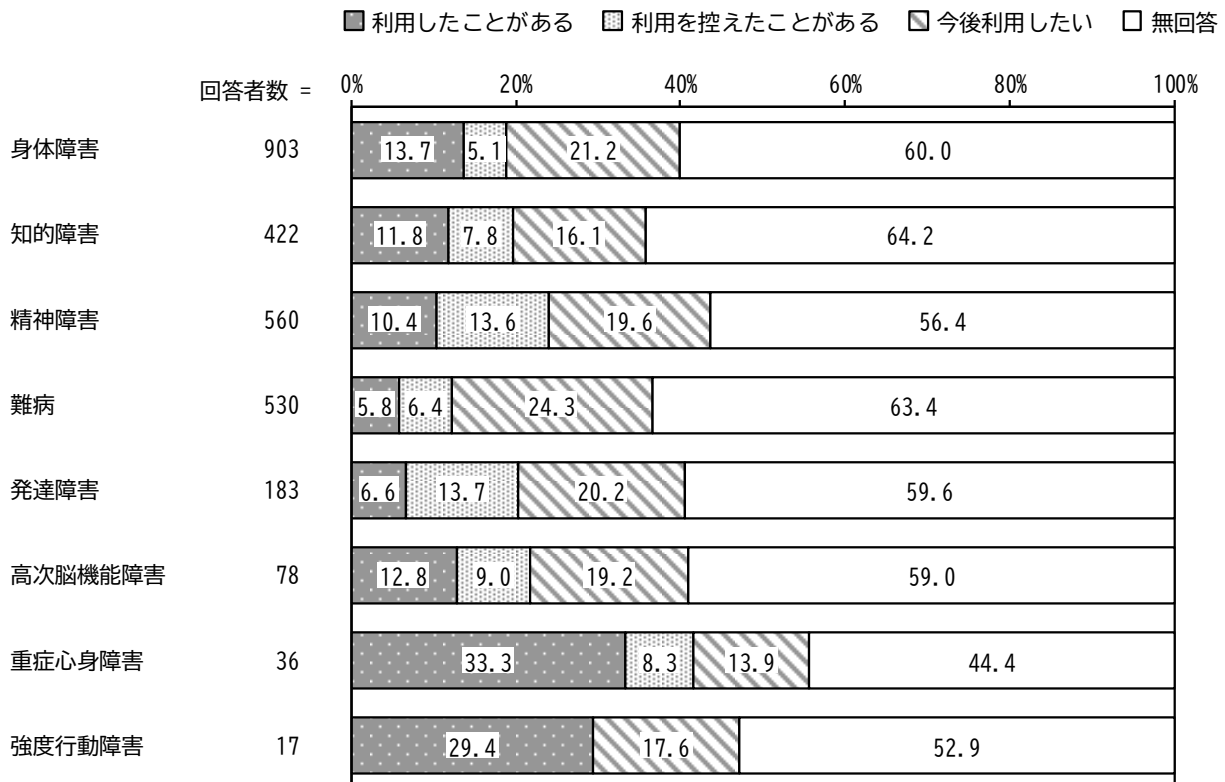
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

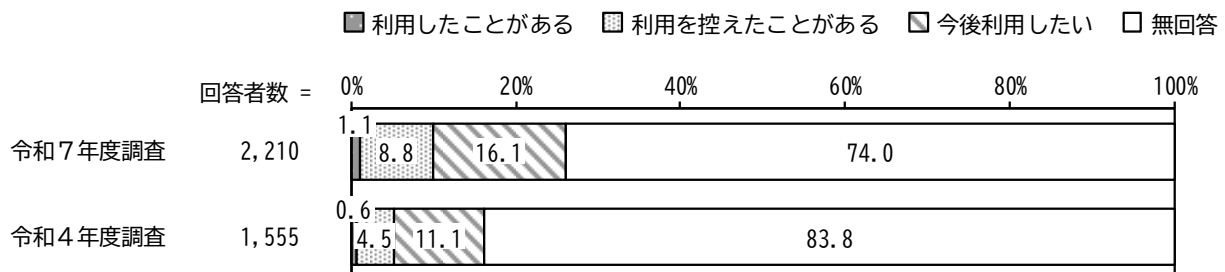


【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

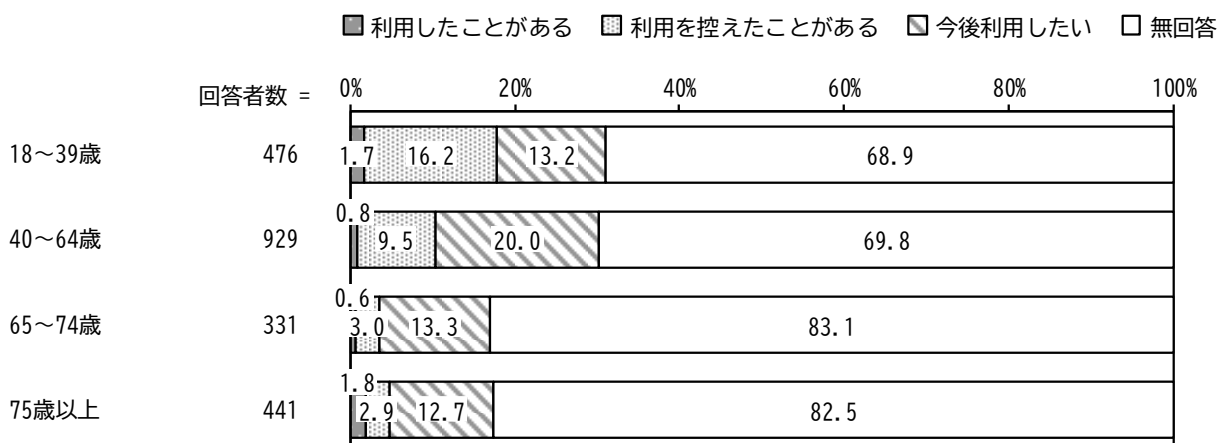


イ) 重度訪問介護



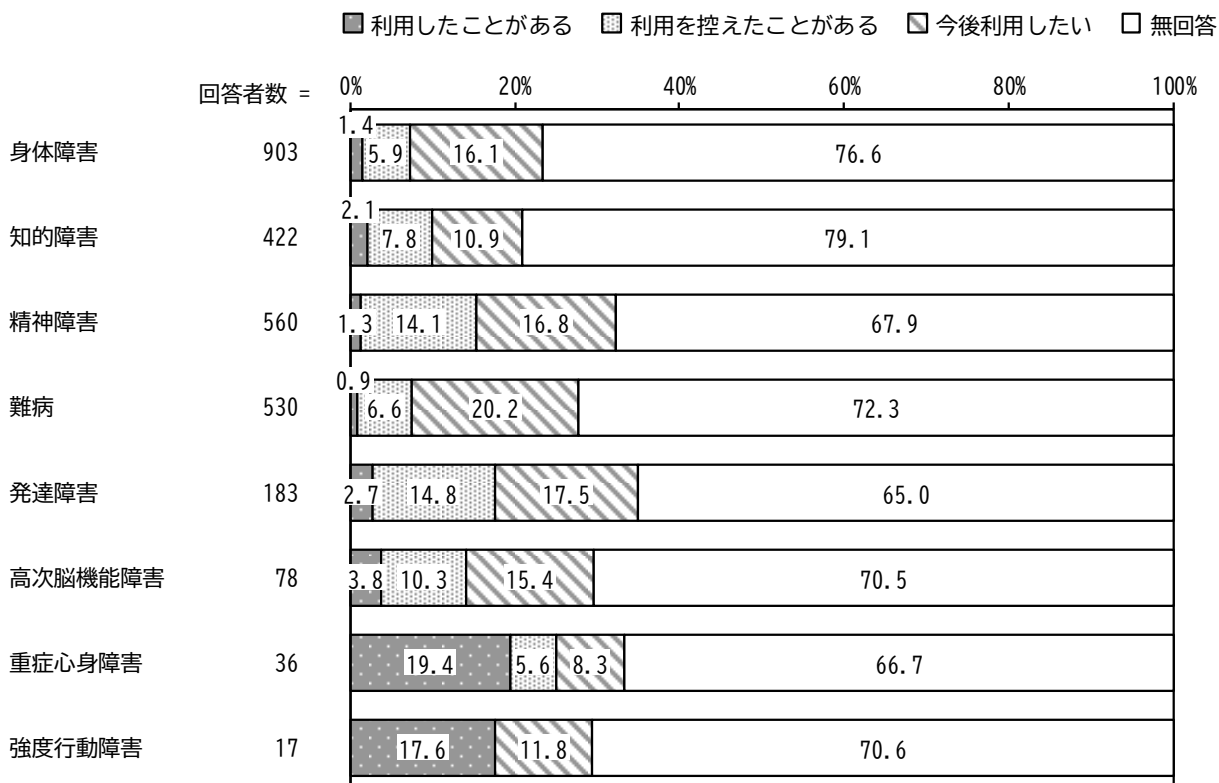
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

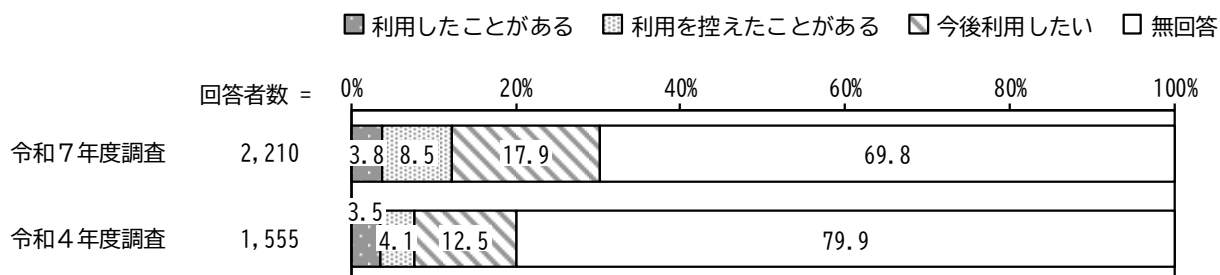


【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害、強度行動障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

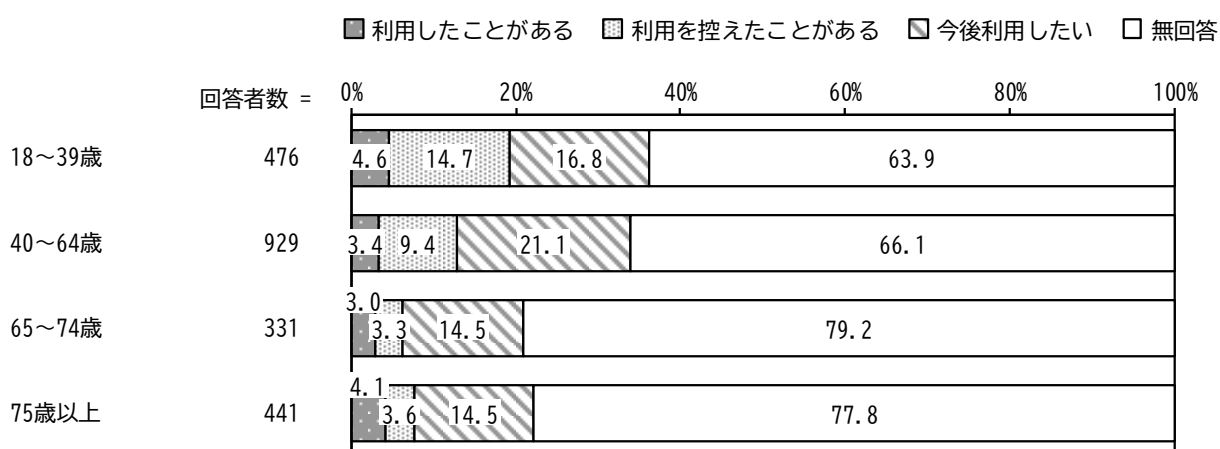


ウ) 同行援護



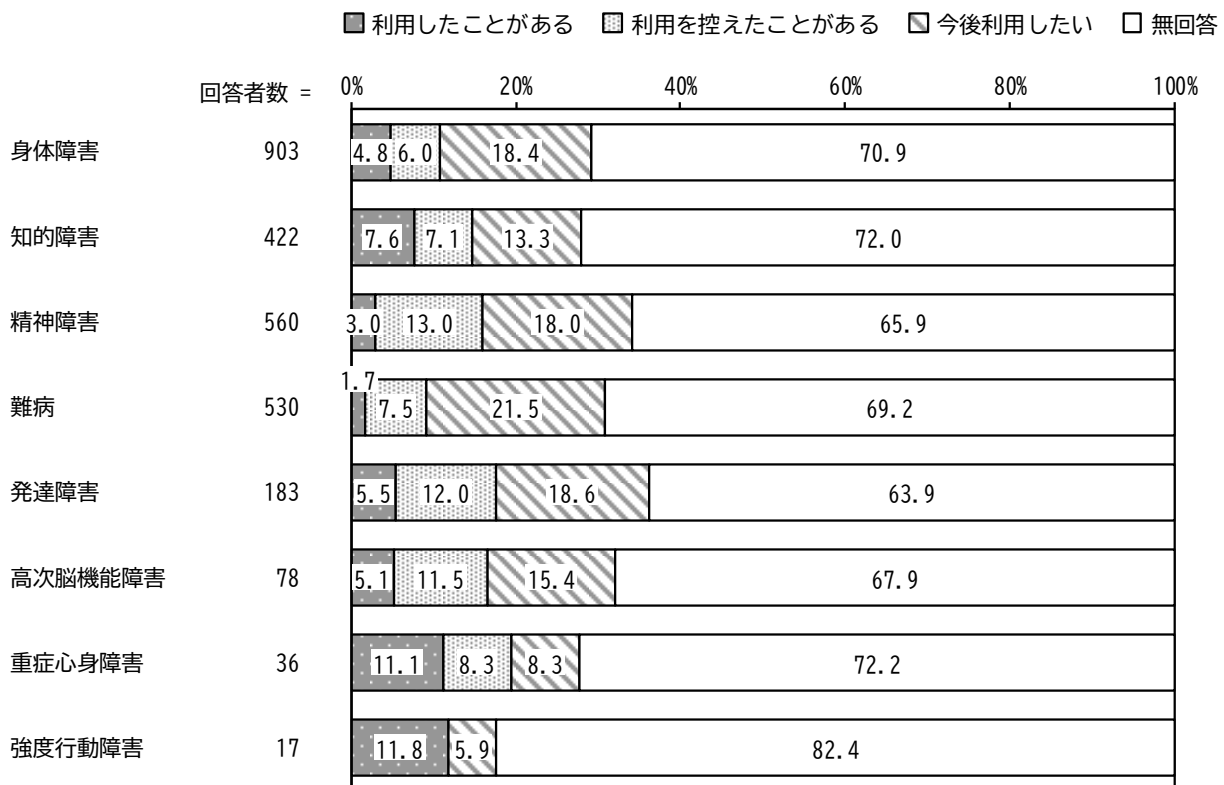
【年齢別】

年齢別にみると、「65～74歳」から「18～39歳」まで年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

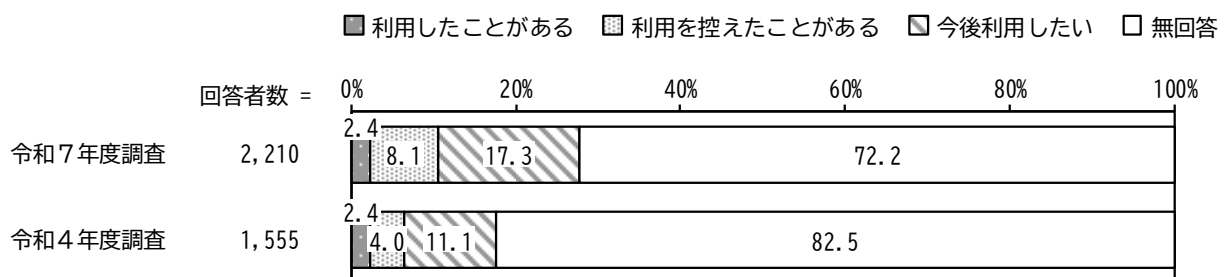


【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害、強度行動障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

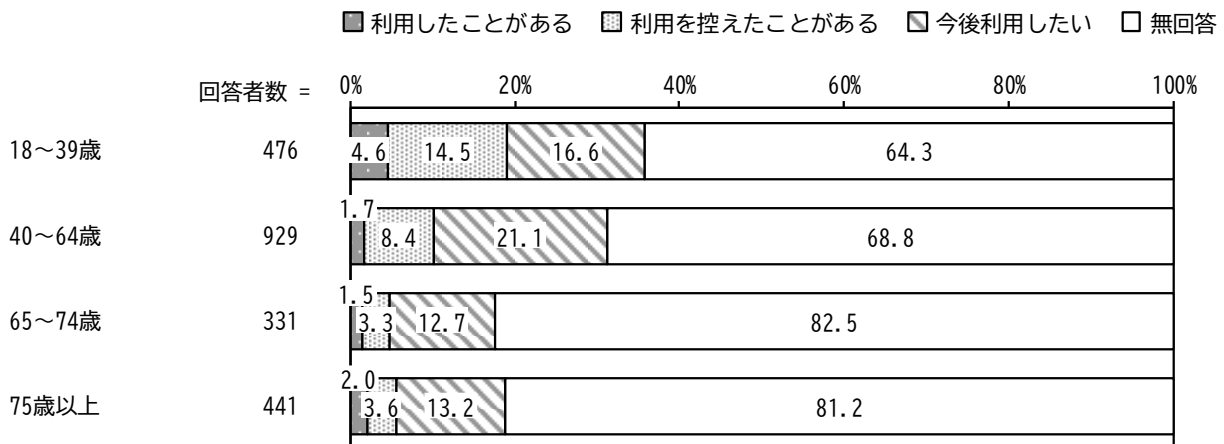


工) 行動援護



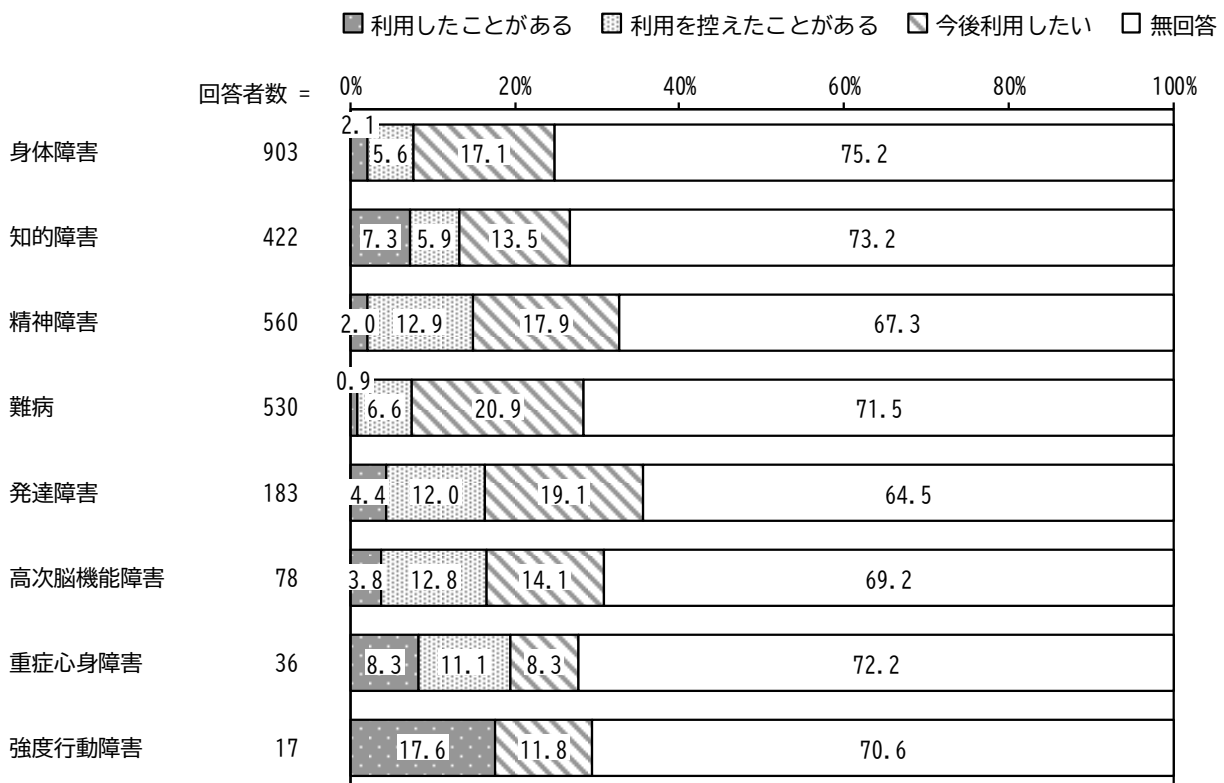
【年齢別】

年齢別にみると、「65～74歳」から「18～39歳」まで年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

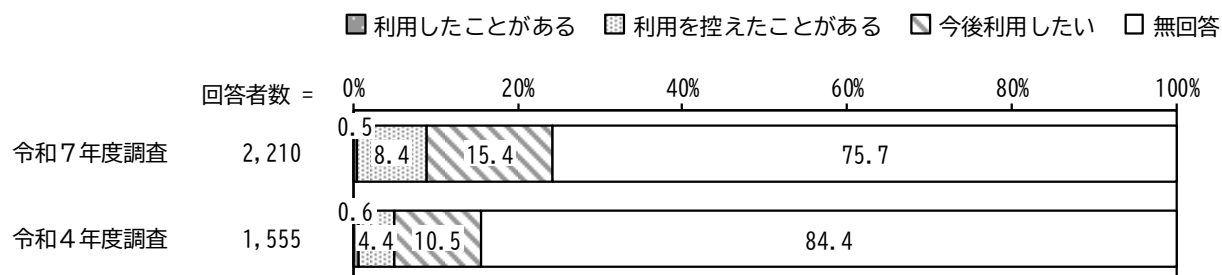


【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

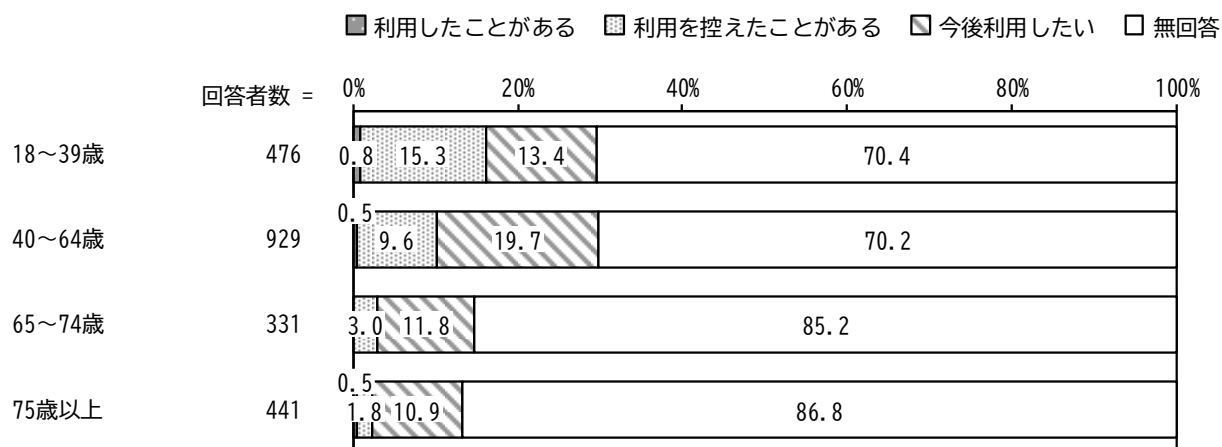


オ) 重度障害者等包括支援



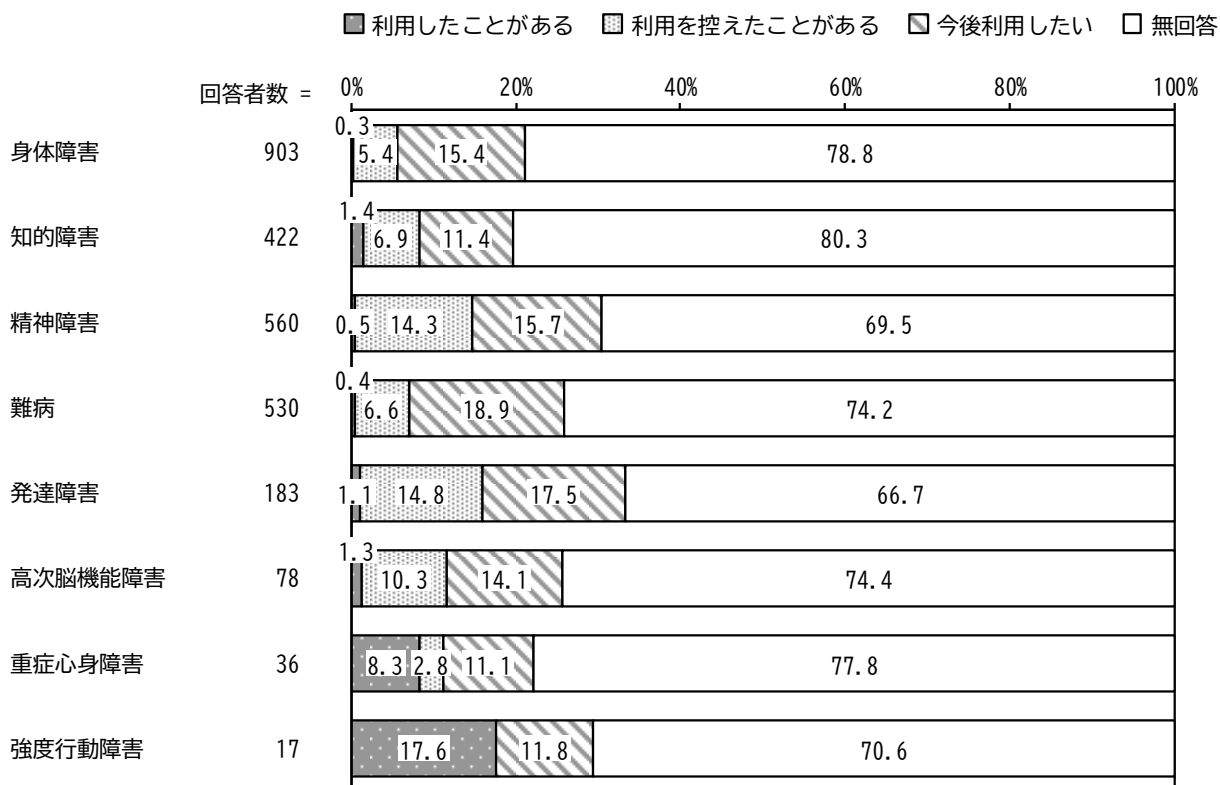
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

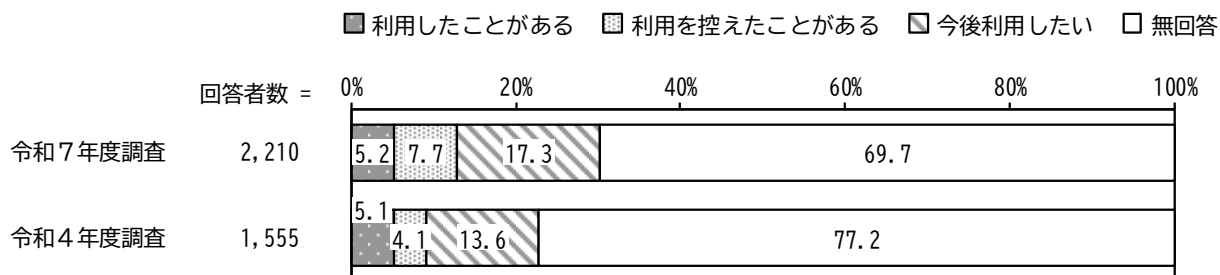


【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

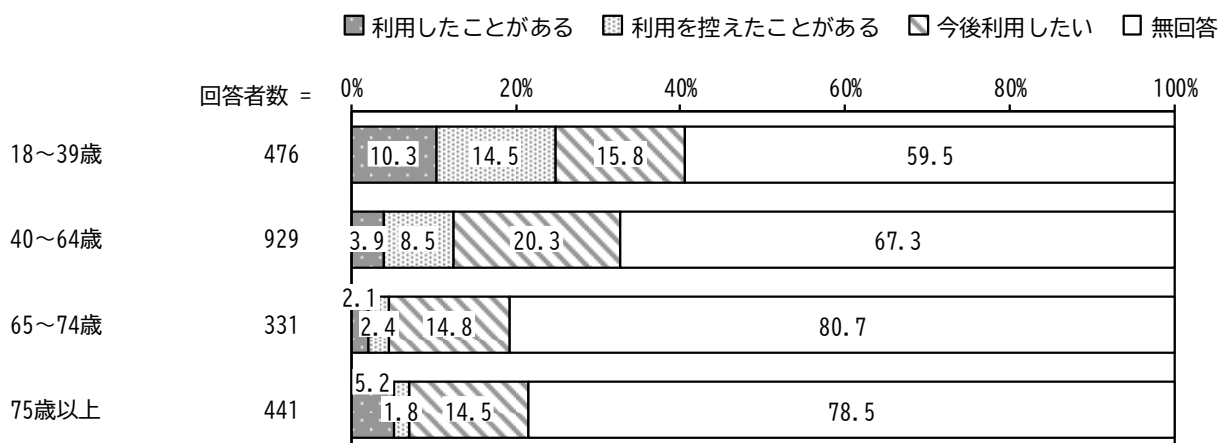


カ) 生活介護



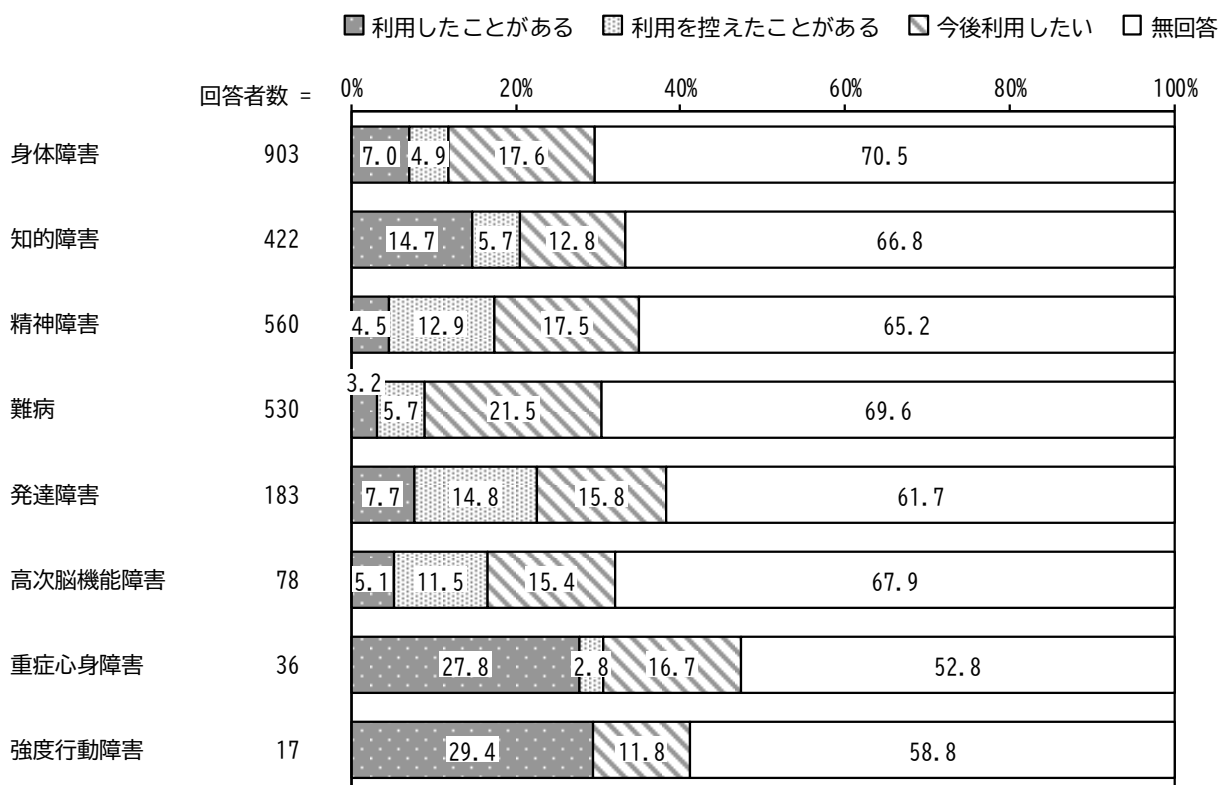
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

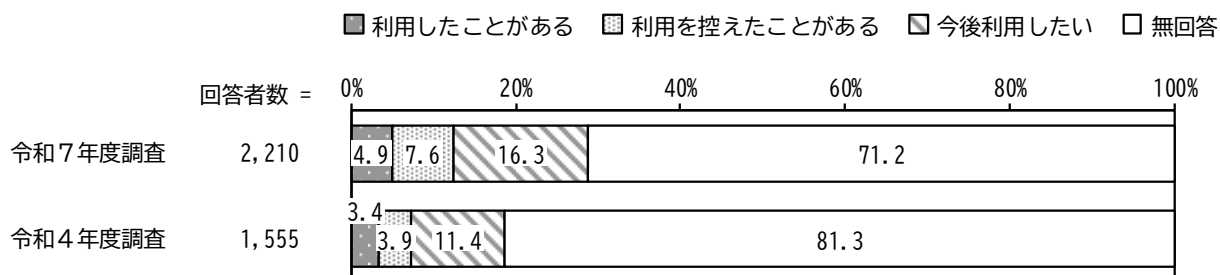


【障害種別】

障害種別にみると、知的障害、重症心身障害、強度行動障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

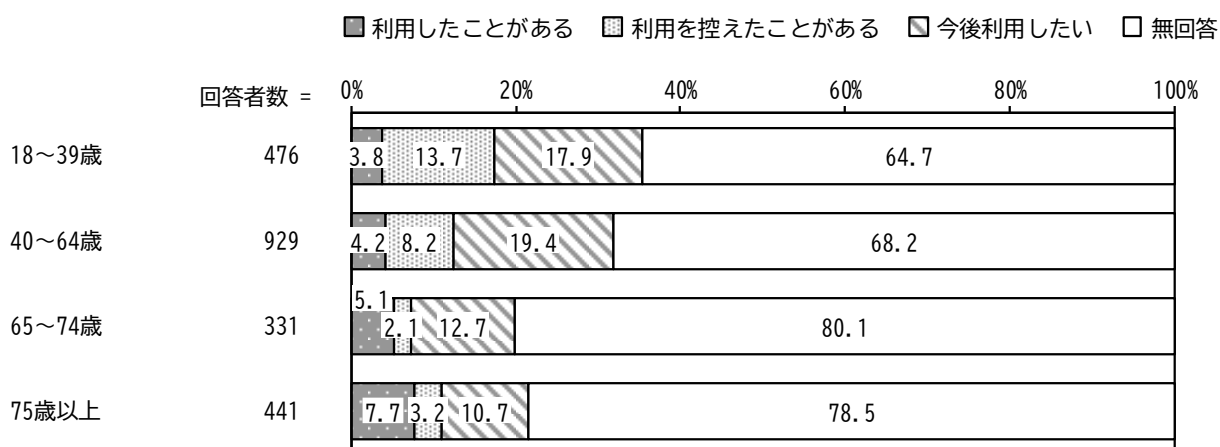


キ) 自立訓練（機能訓練）



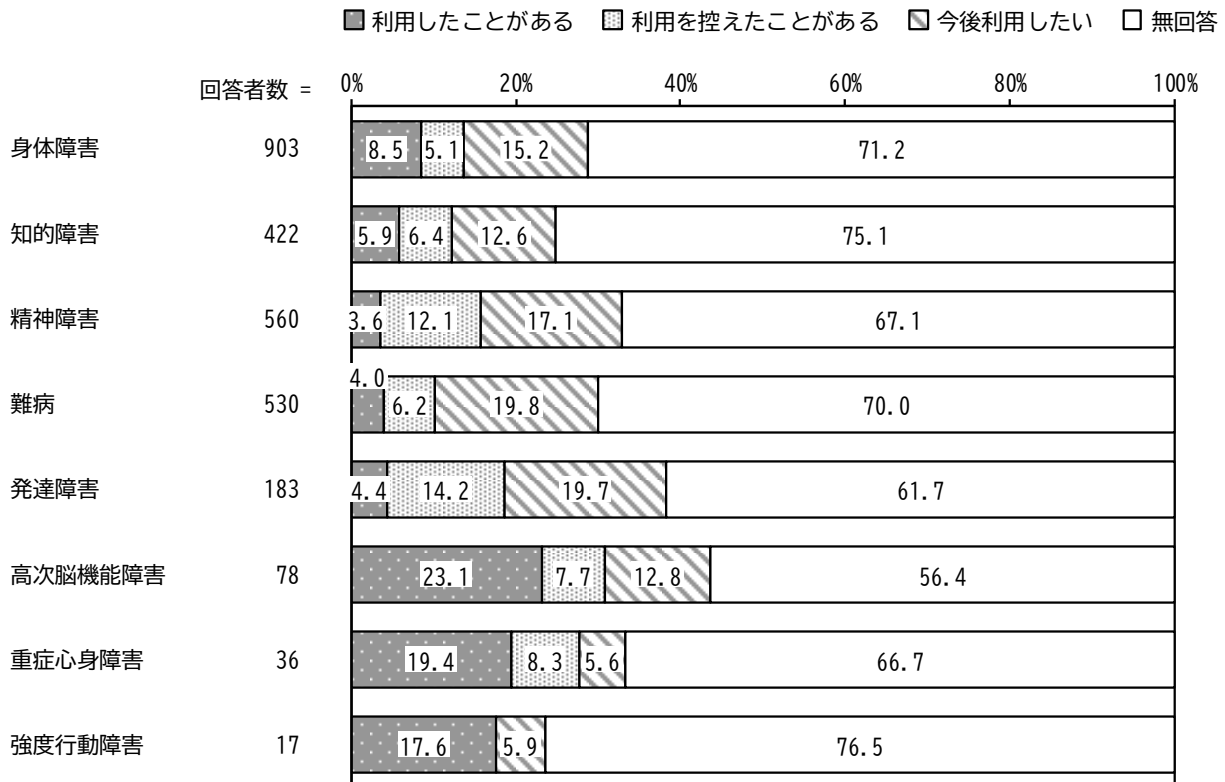
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「今後利用したい」の割合が高くなっています。

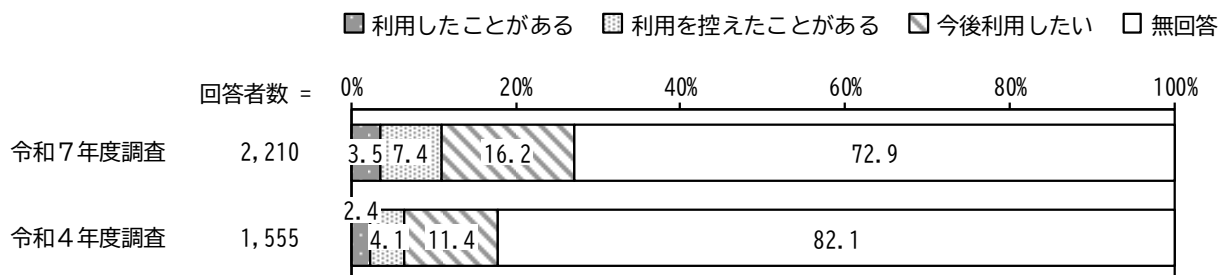


【障害種別】

障害種別にみると、高次脳機能障害、重症心身障害、強度行動障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

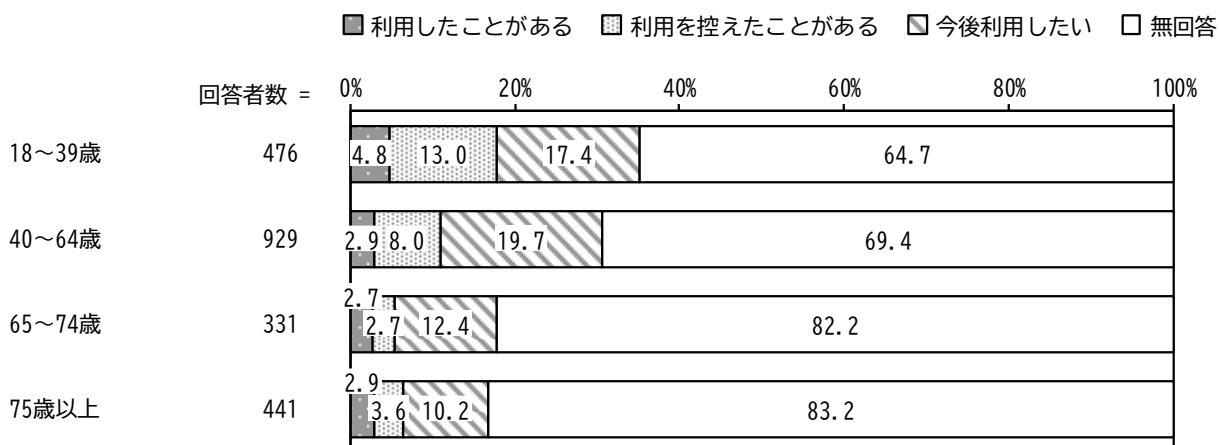


ク) 自立訓練（生活訓練）



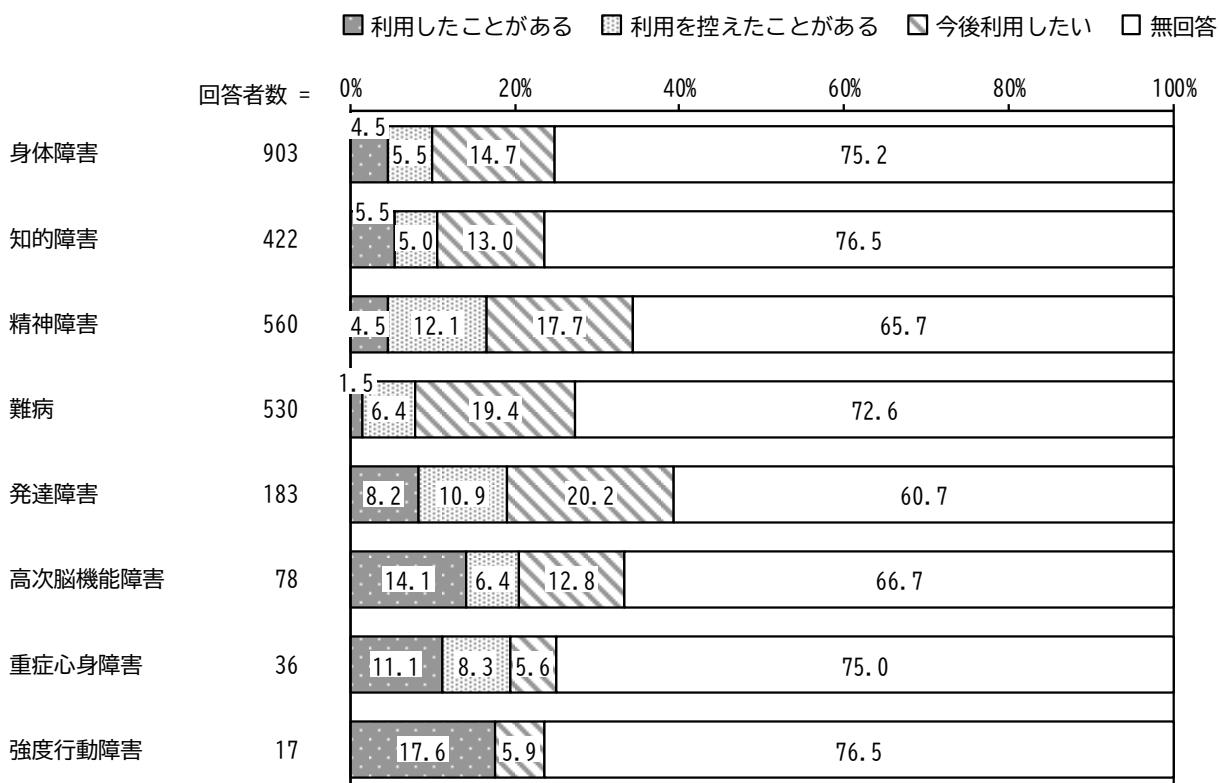
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「今後利用したい」の割合が高くなっています。

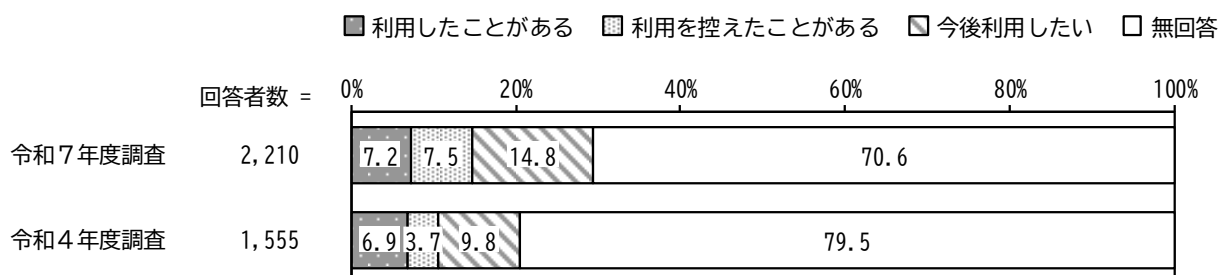


【障害種別】

障害種別にみると、高次脳機能障害、強度行動障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

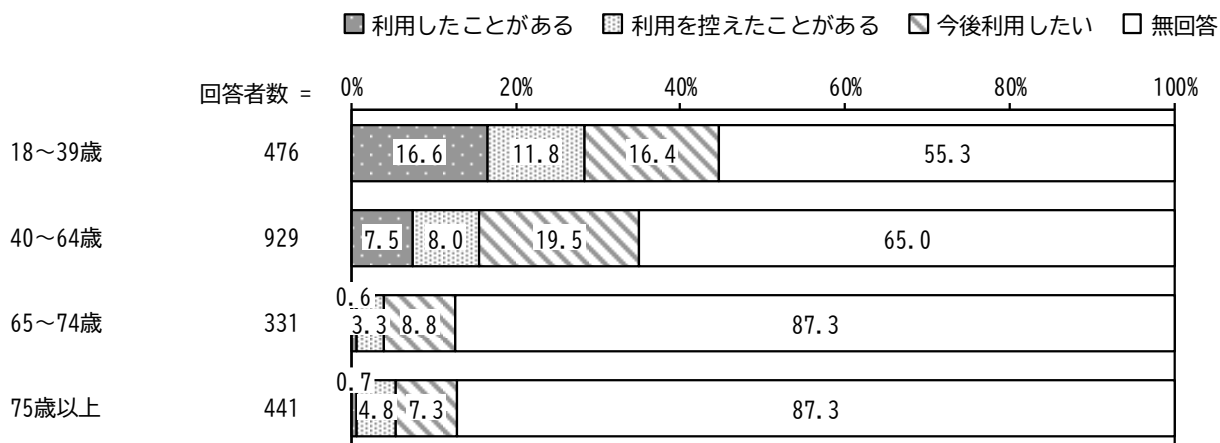


ケ) 就労移行支援



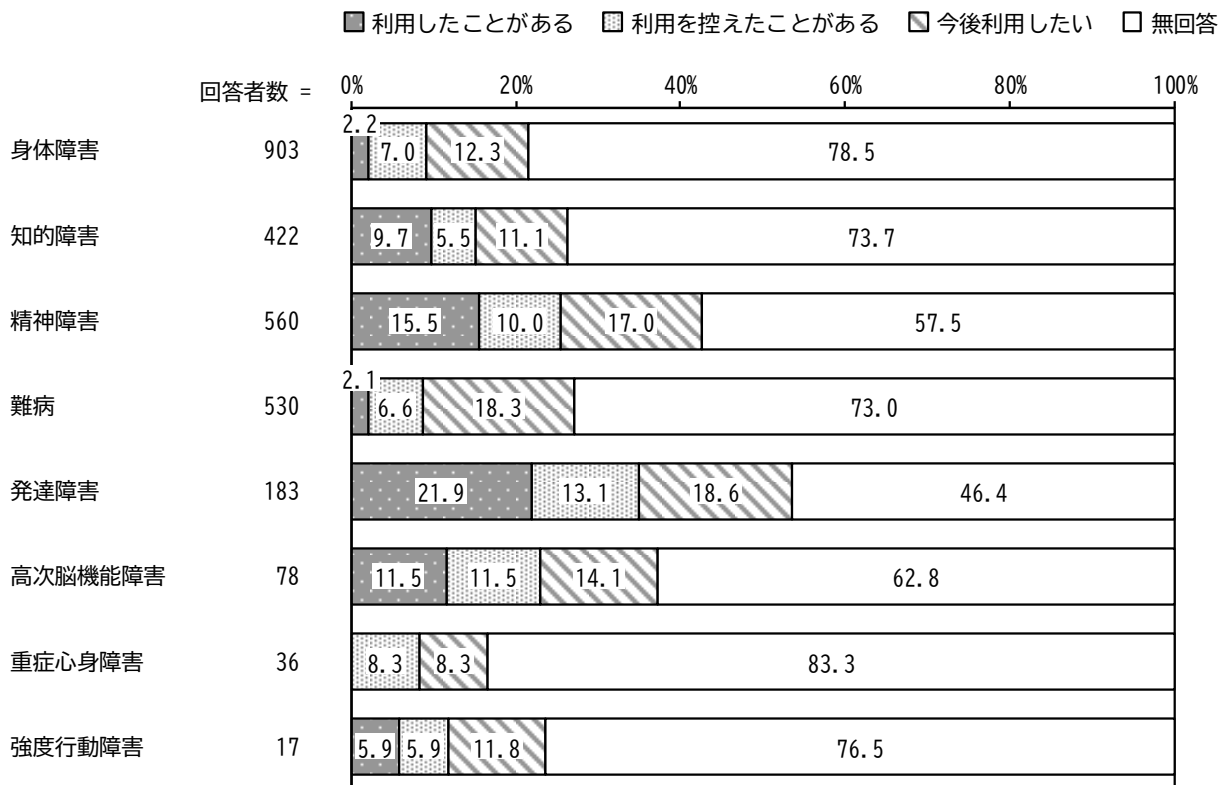
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「今後利用したい」の割合が高くなっています。

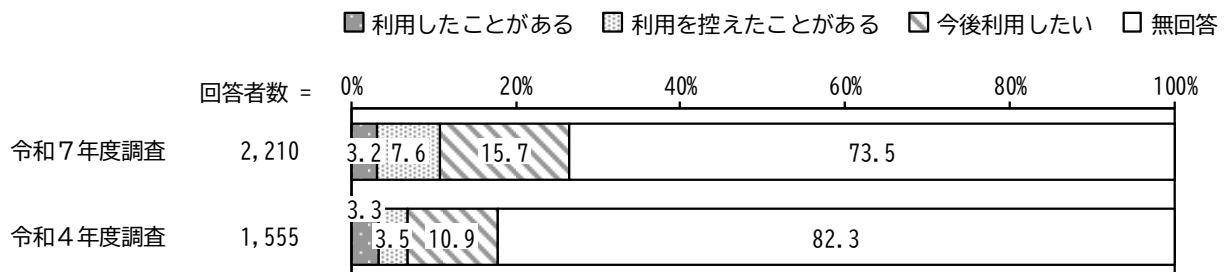


【障害種別】

障害種別にみると、発達障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

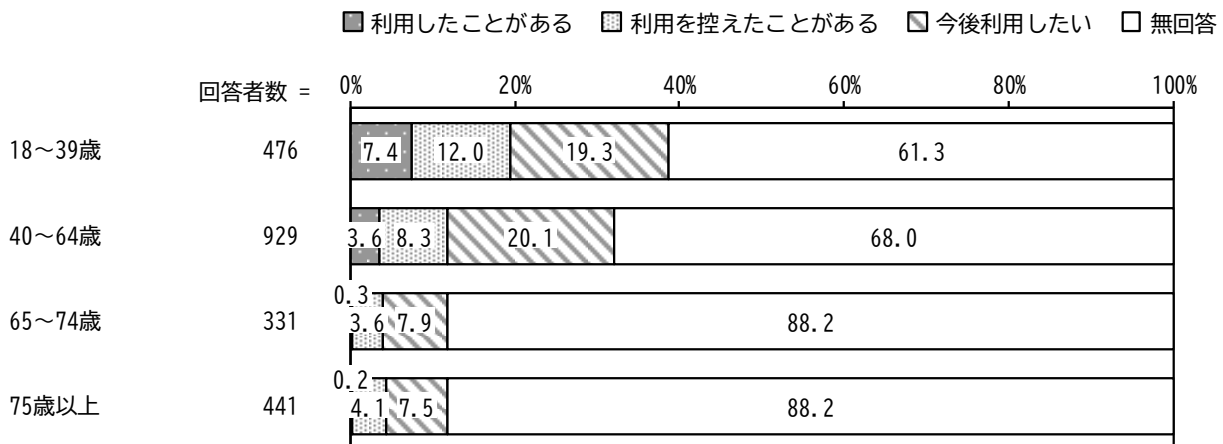


コ) 就労定着支援



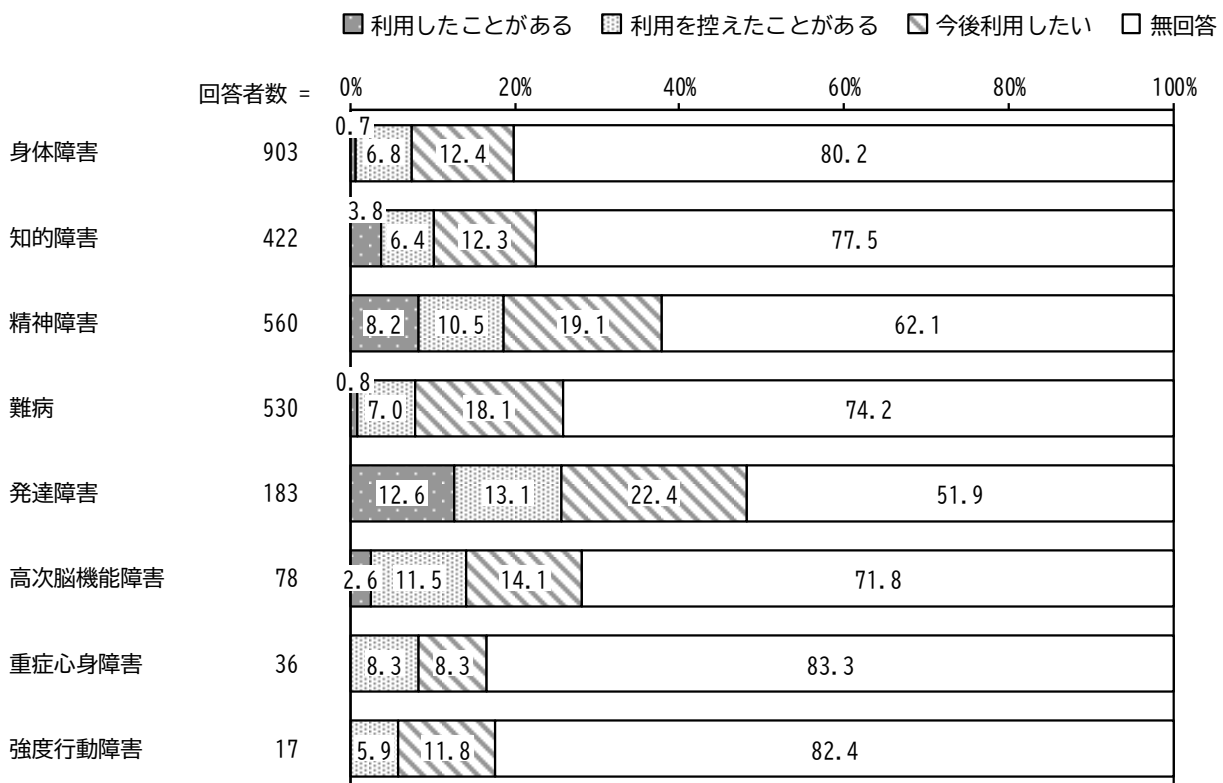
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「今後利用したい」の割合が高くなっています。



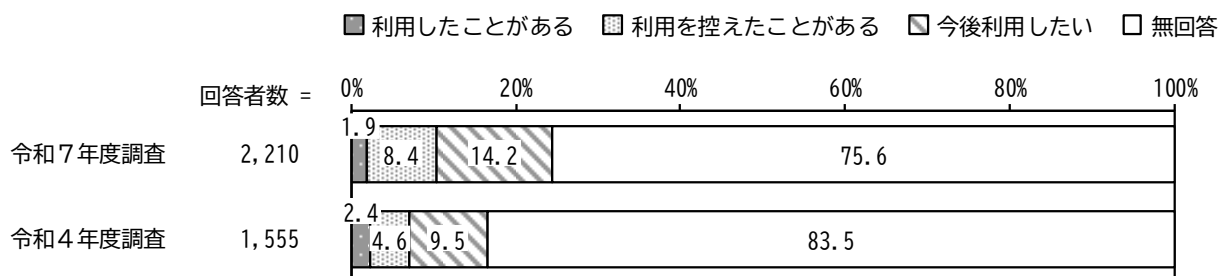
【障害種別】

障害種別にみると、精神障害、発達障害で「今後利用したい」の割合が高くなっています。



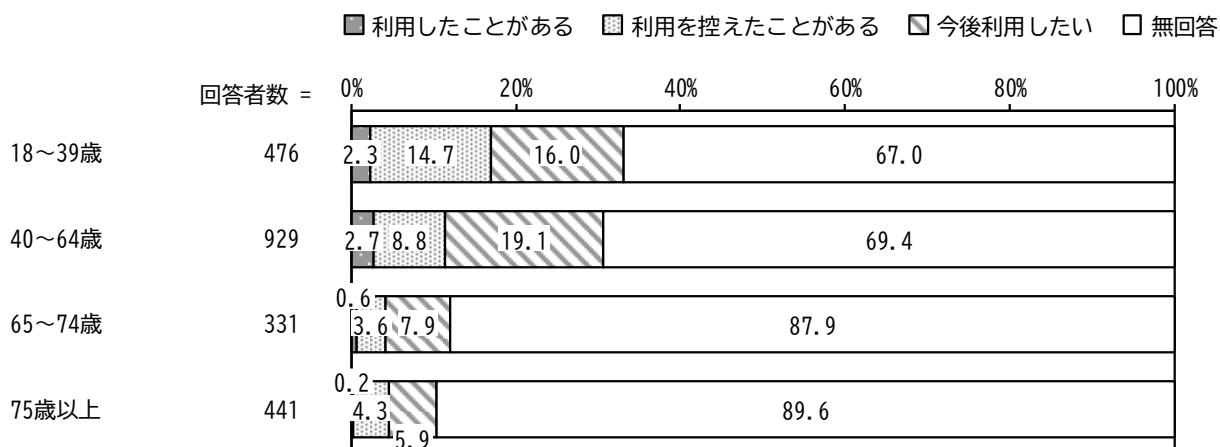
サ) 就労継続支援（A型）

【経年比較】



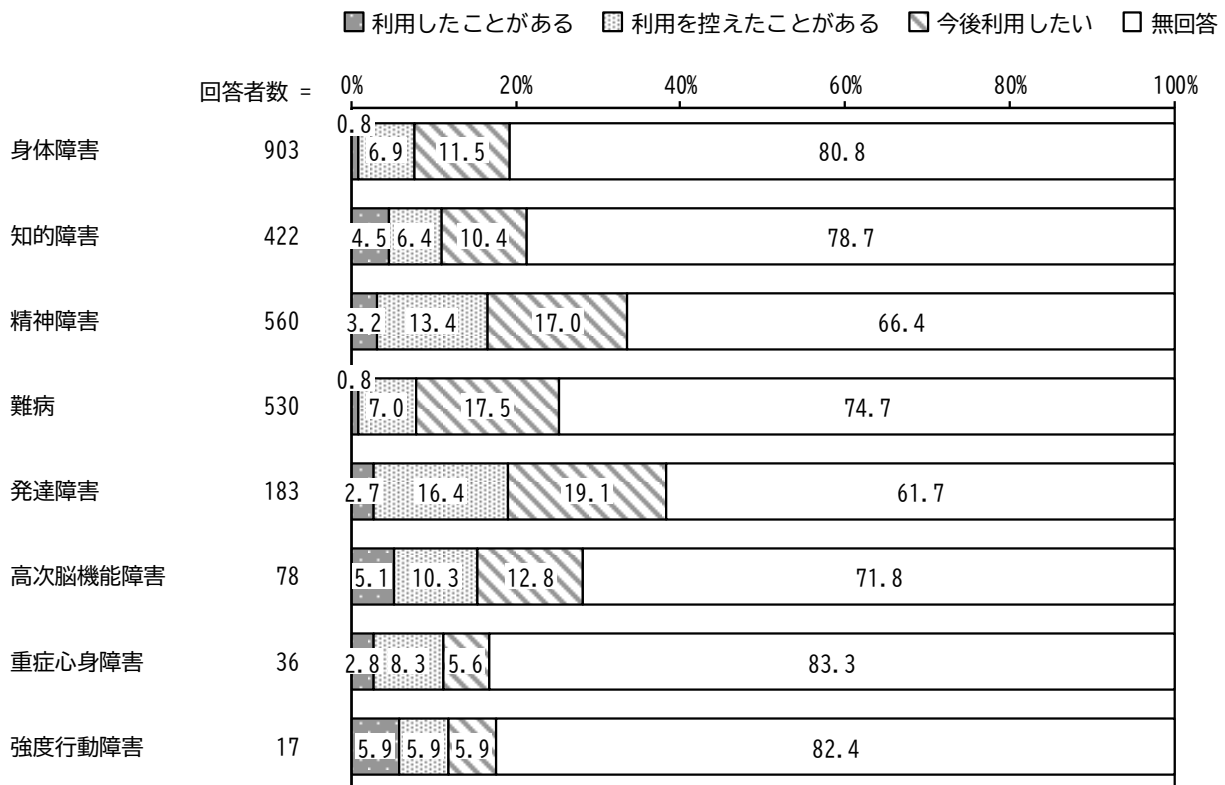
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「今後利用したい」の割合が高くなっています。

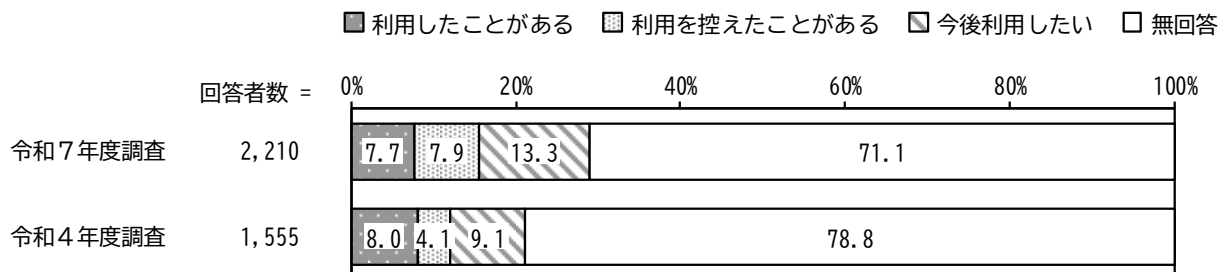


【障害種別】

障害種別にみると、精神障害、難病、発達障害で「今後利用したい」の割合が高くなっています。

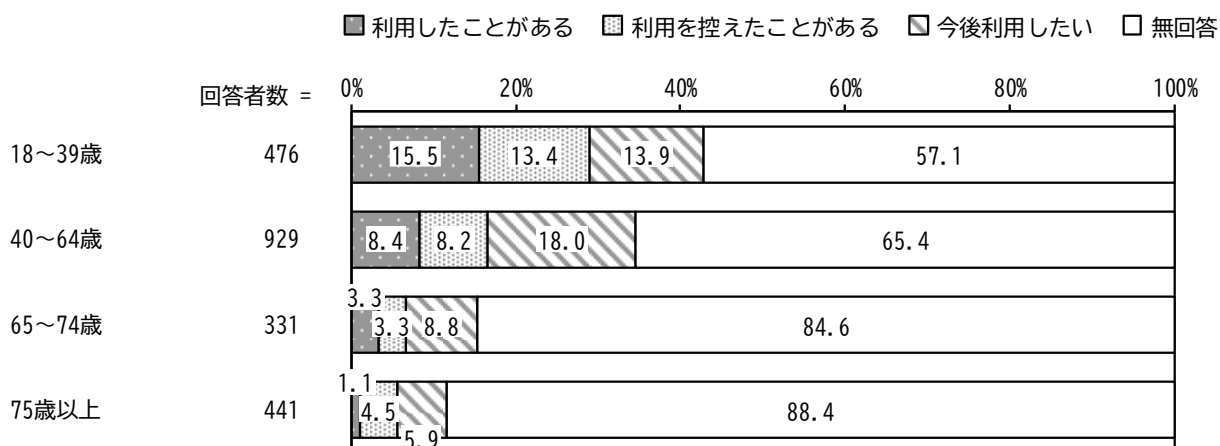


シ) 就労継続支援（B型）



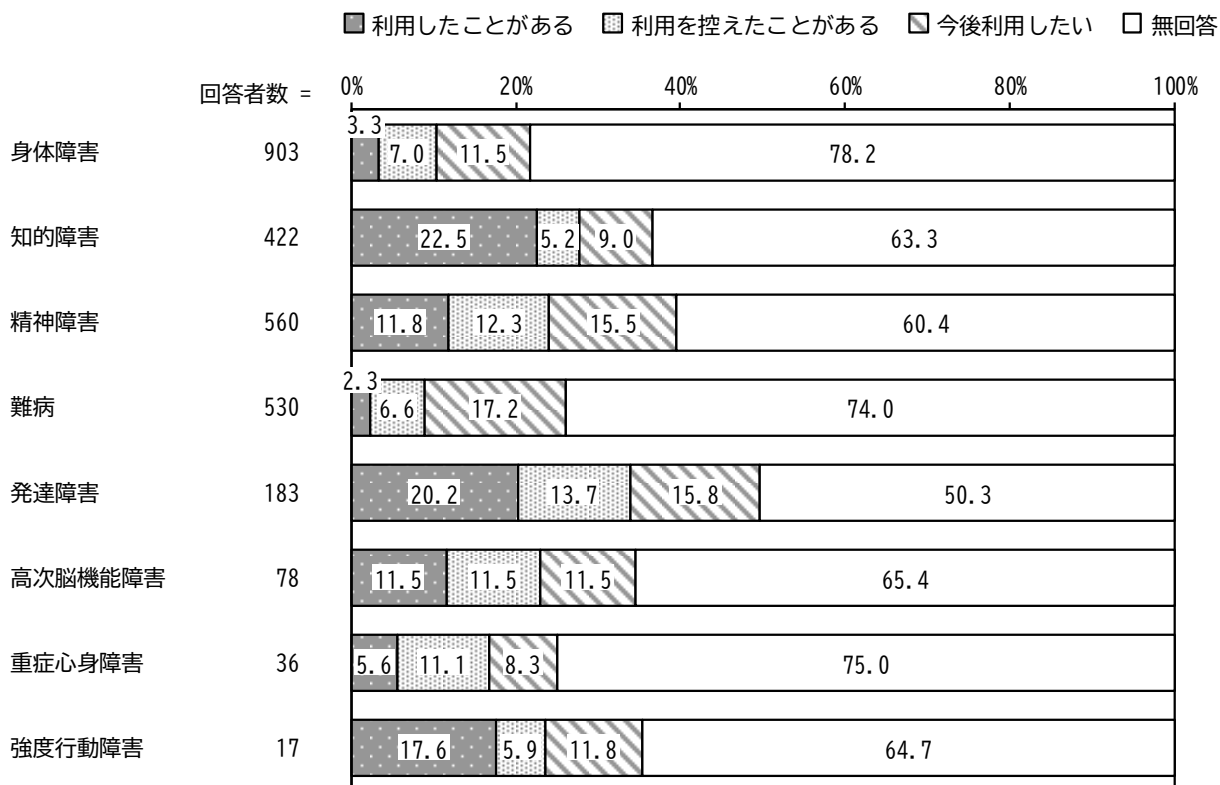
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用したことがある」の割合が高くなっています。

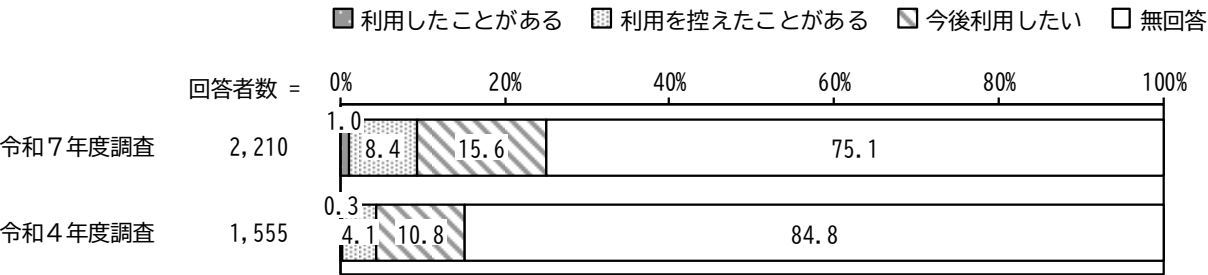


【障害種別】

障害種別にみると、知的障害、発達障害、強度行動障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

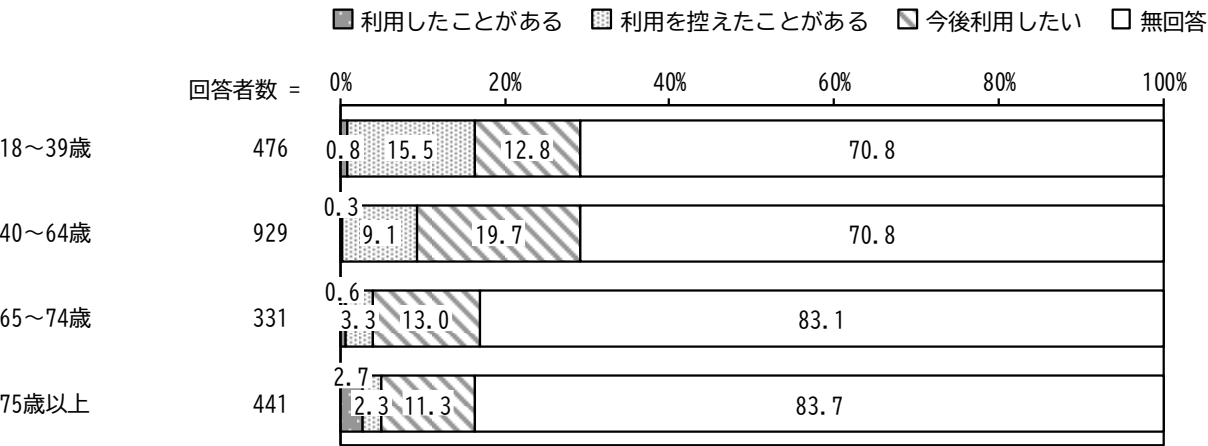


ス) 療養介護



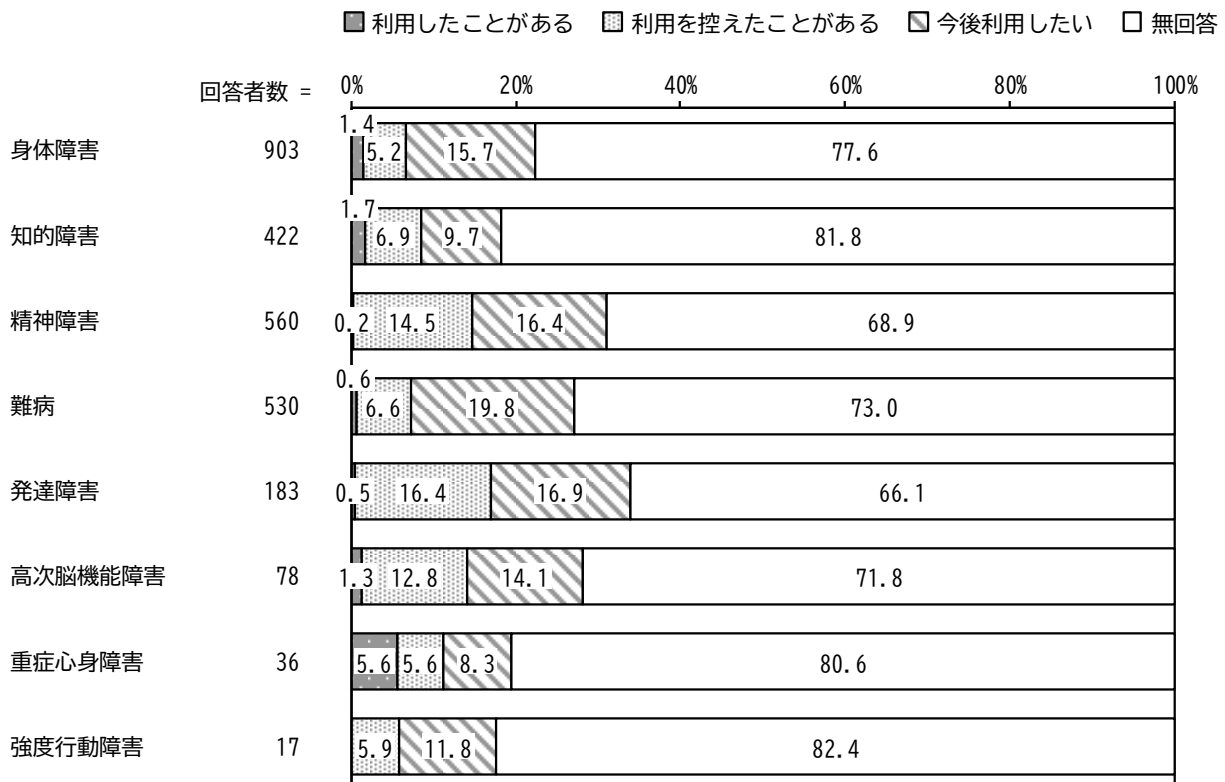
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

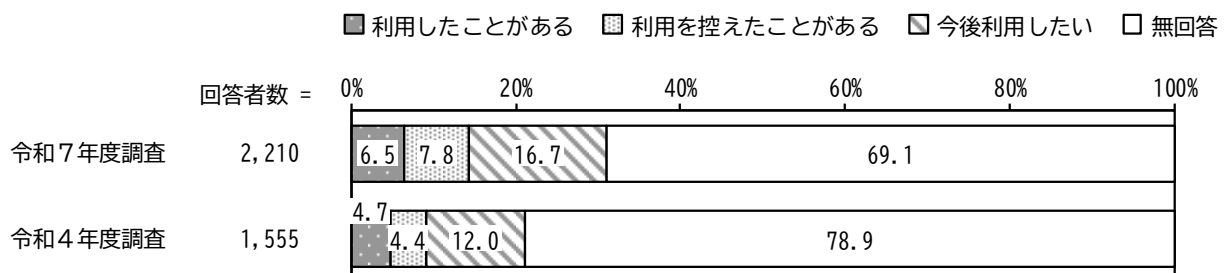


【障害種別】

障害種別にみると、精神障害、発達障害、高次脳機能障害で「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

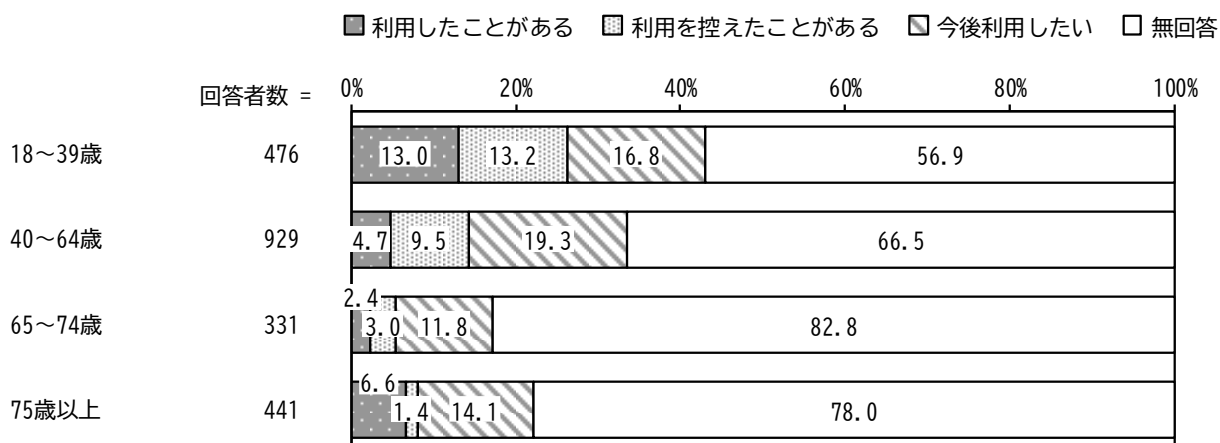


セ) 短期入所



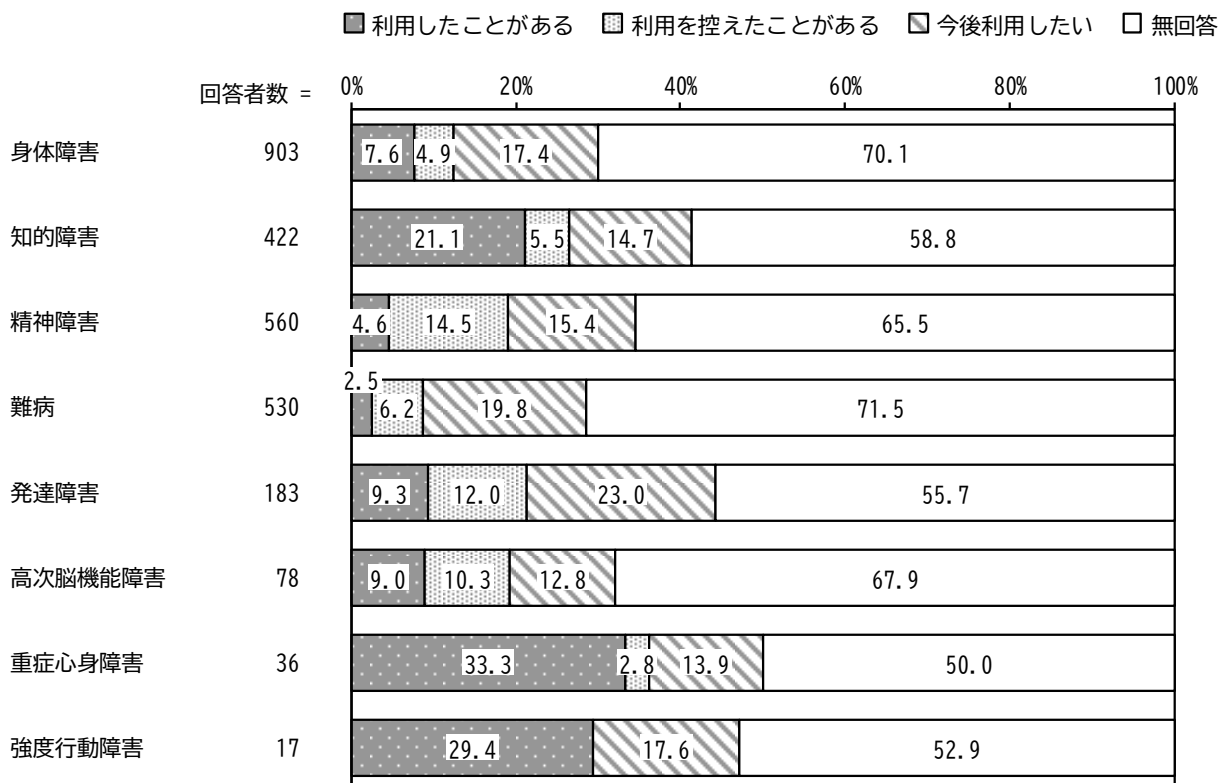
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

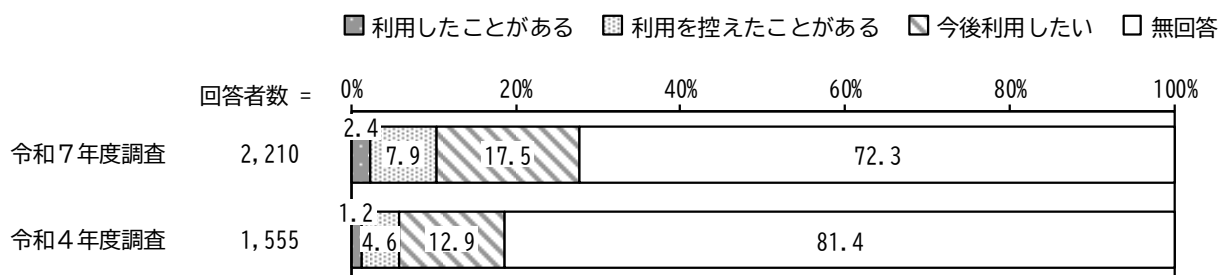


【障害種別】

障害種別にみると、知的障害、重症心身障害、強度行動障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

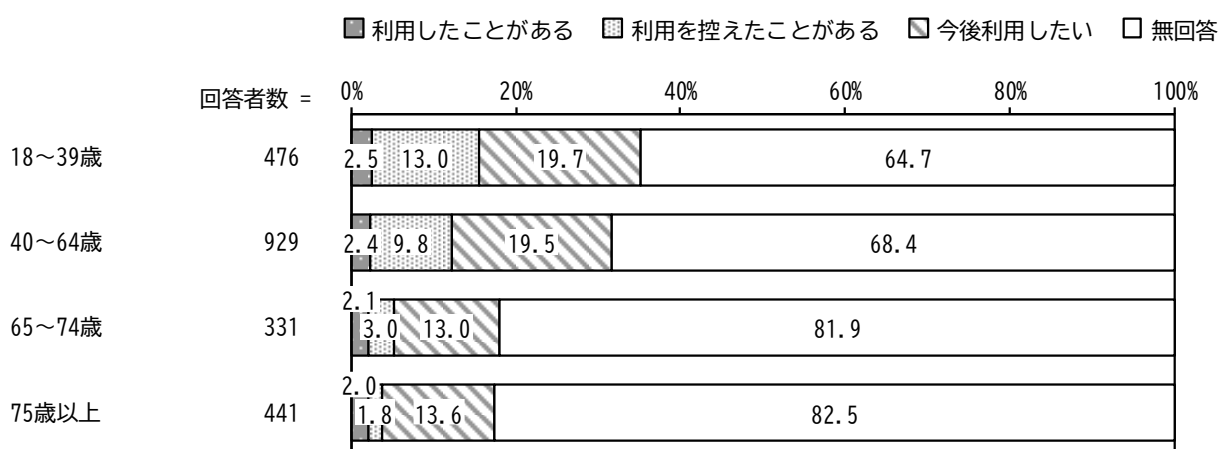


ソ) 施設入所支援



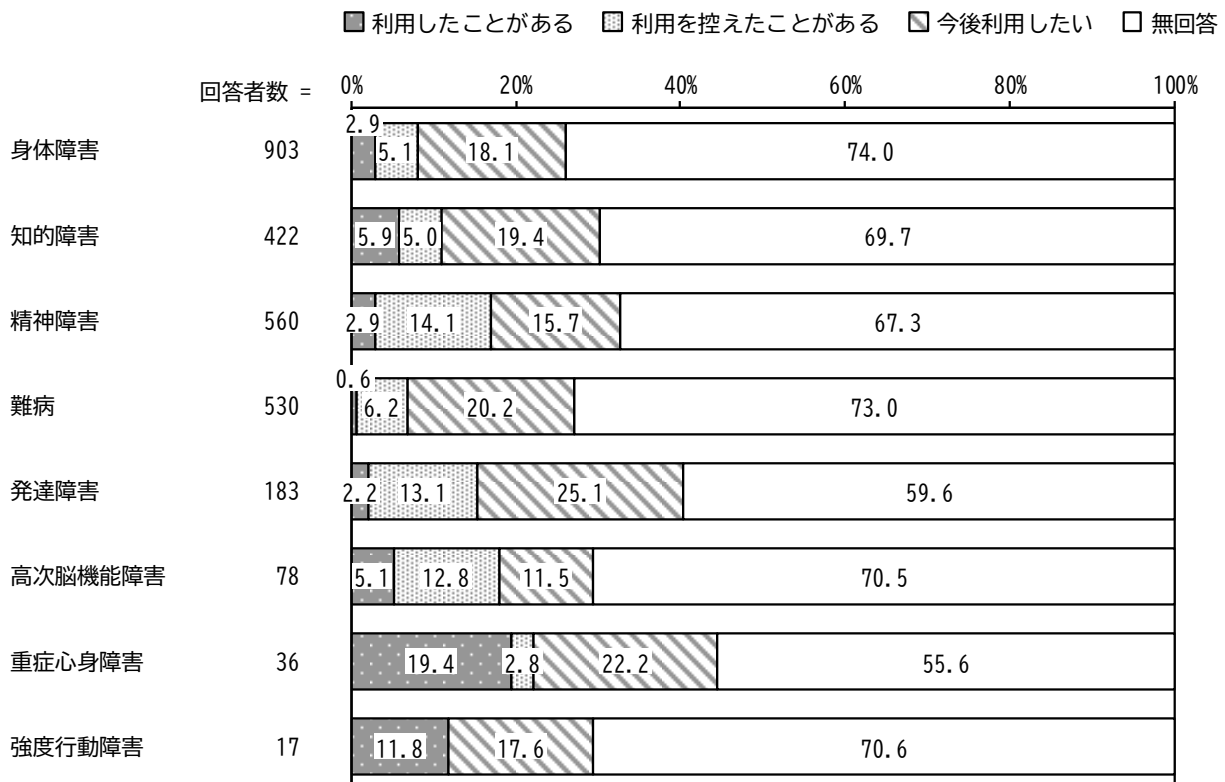
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

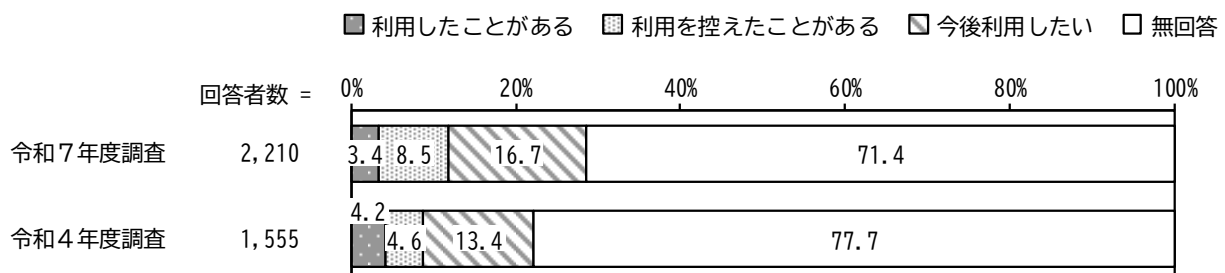


【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「利用したことがある」、「今後利用したい」の割合が高くなっています。また、発達障害で「今後利用したい」の割合が高くなっています。

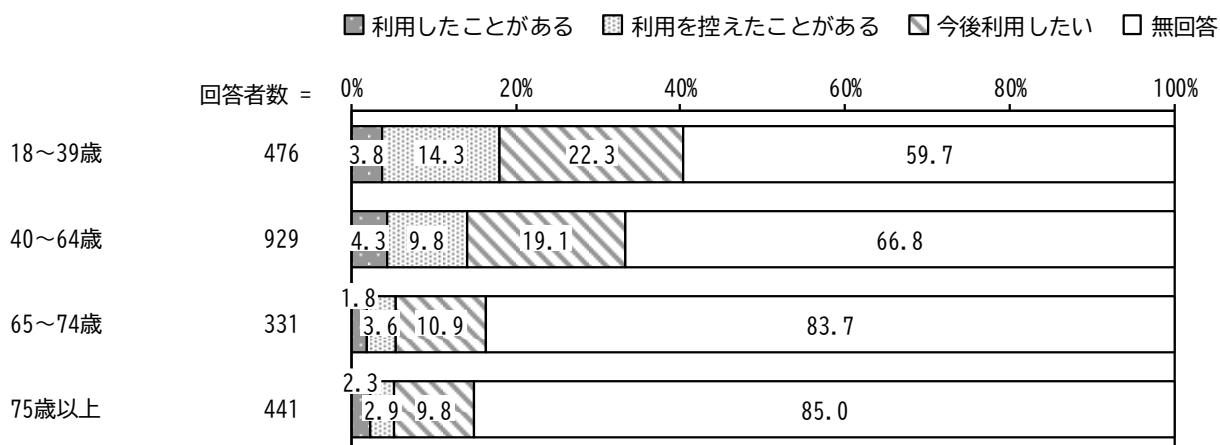


タ) 共同生活援助（グループホーム）



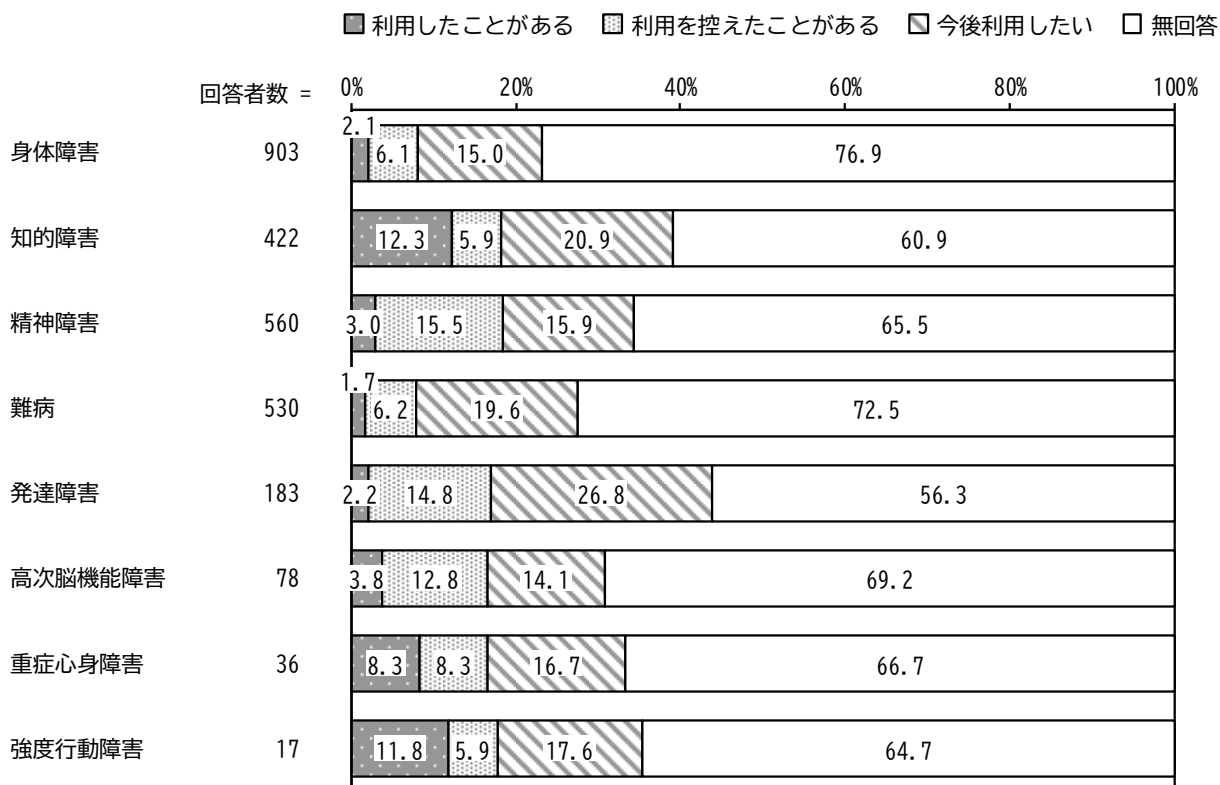
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」「今後利用したい」の割合が高くなっています。

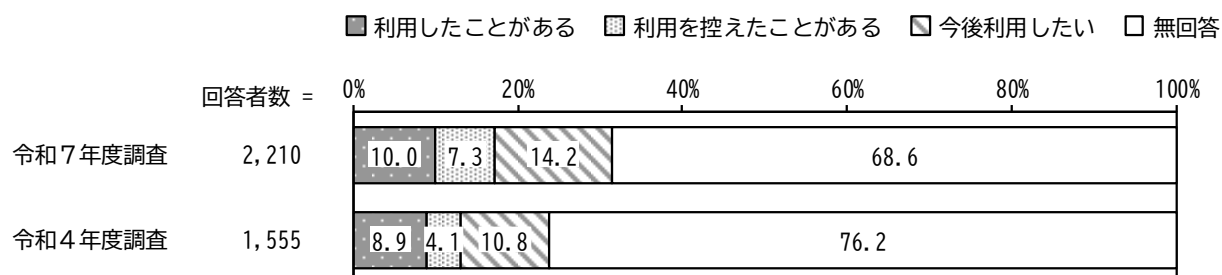


【障害種別】

障害種別にみると、知的障害、発達障害で「今後利用したい」の割合が高くなっています。

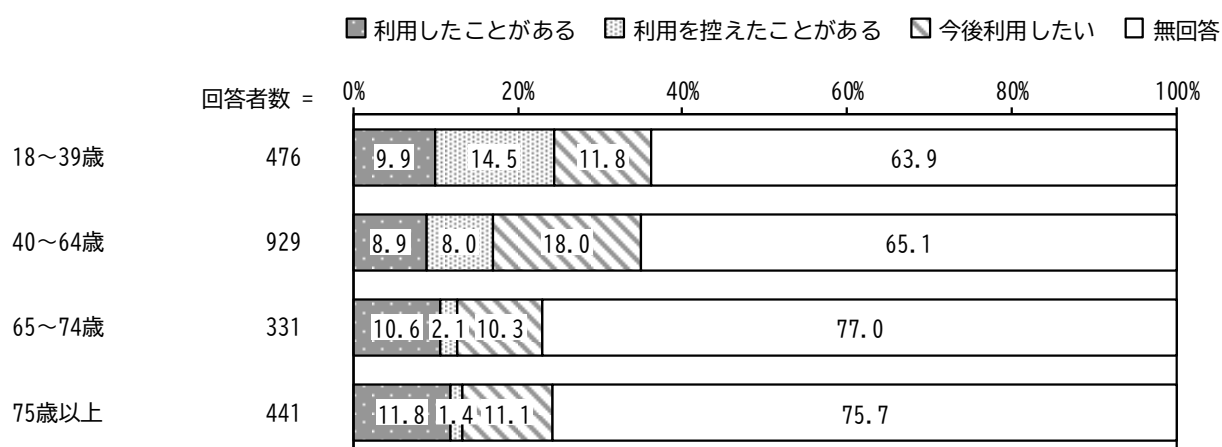


チ) 補装具費の支給



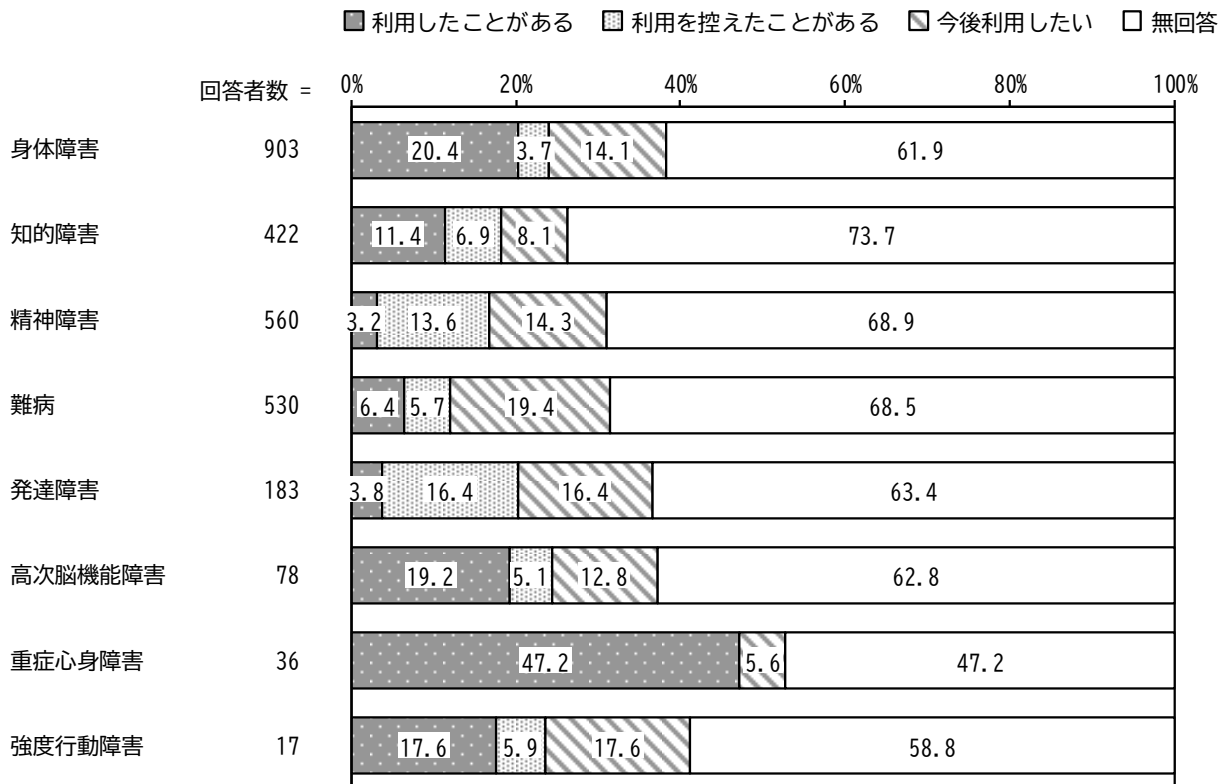
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

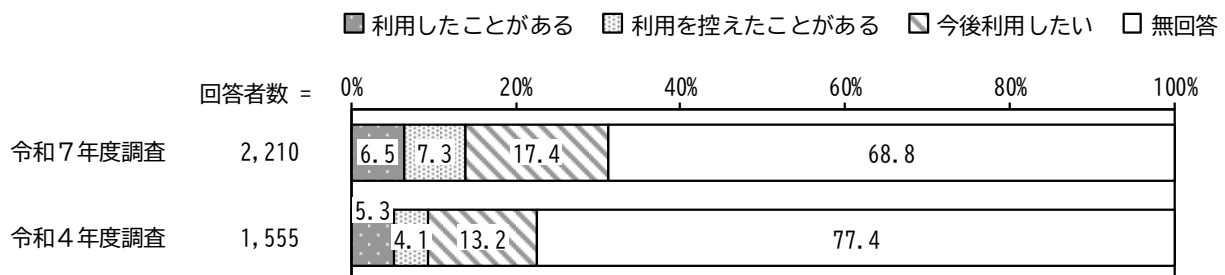


【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

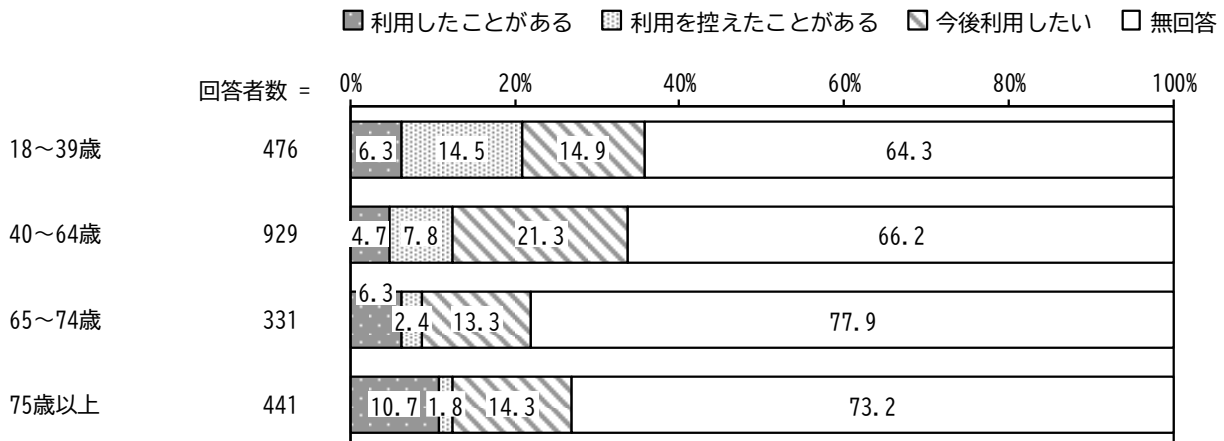


ツ) 日常生活用具の給付等



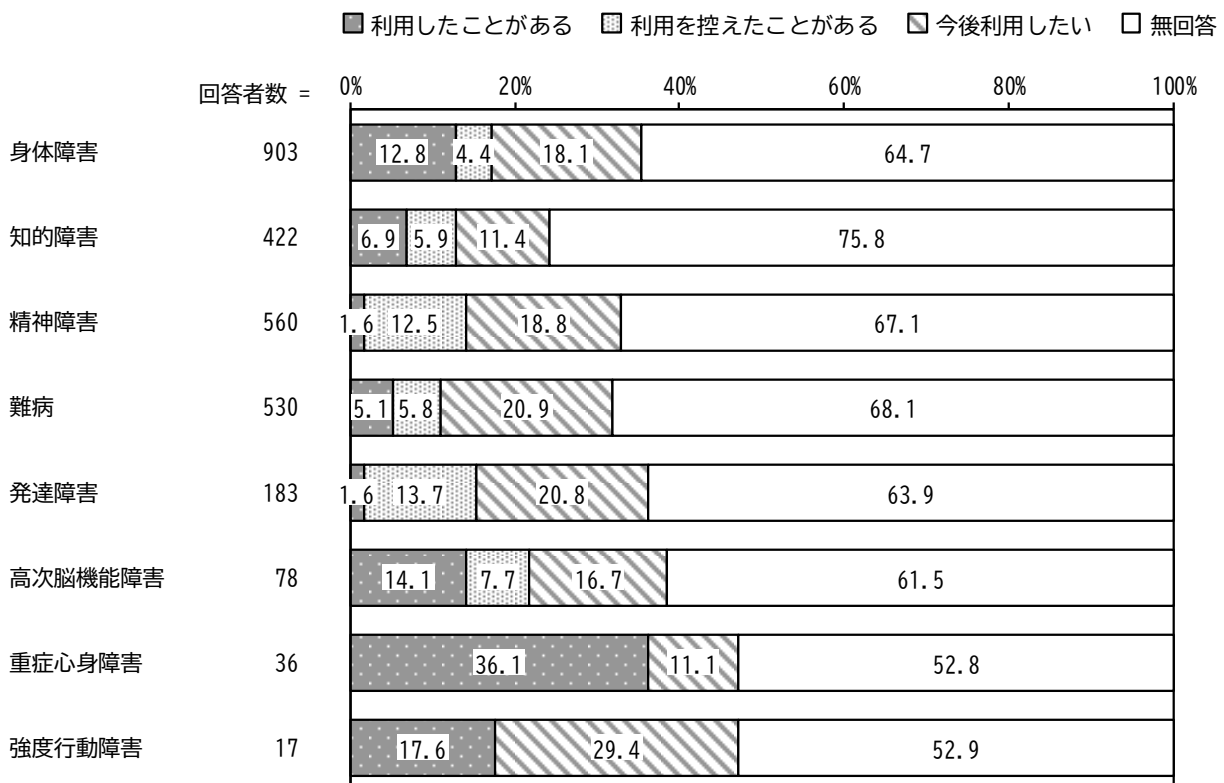
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

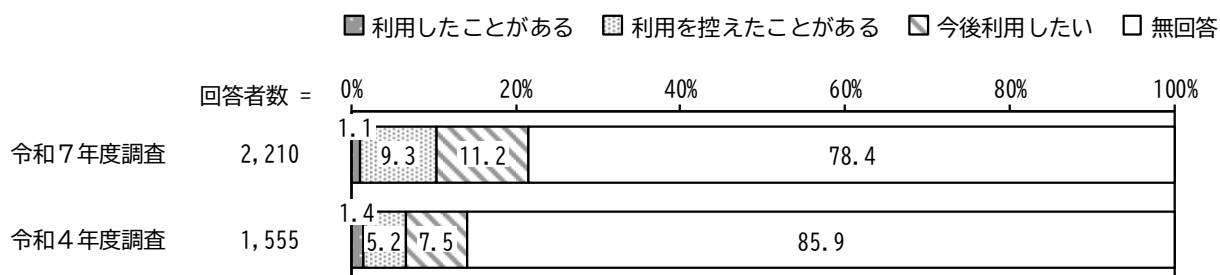


【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「利用したことがある」、強度行動障害で「今後利用したい」の割合が高くなっています。

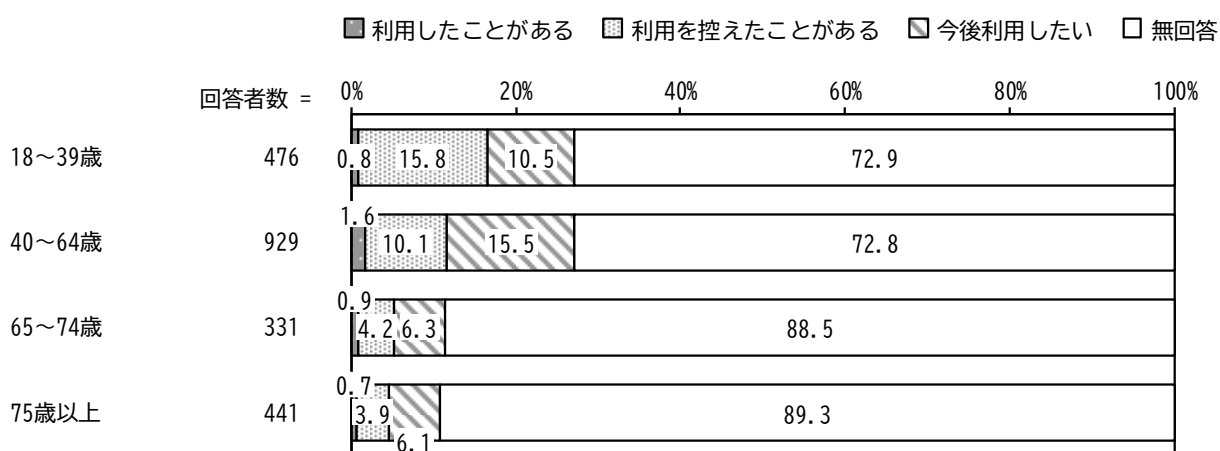


テ) 手話通訳者の派遣

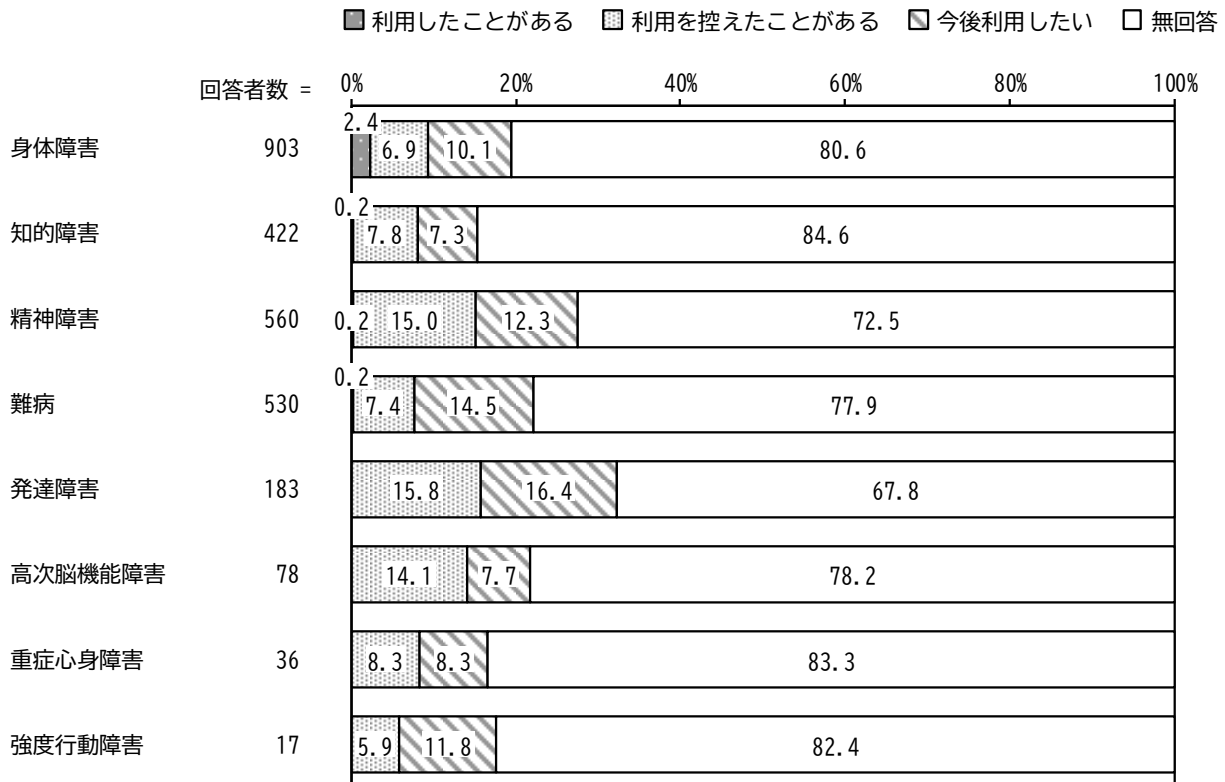


【年齢別】

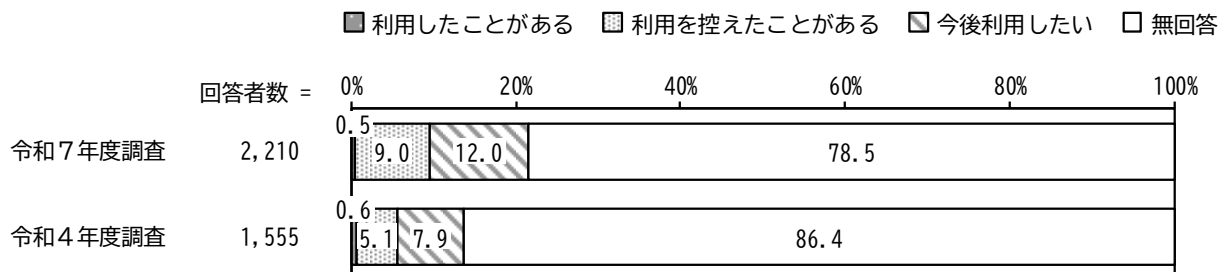
年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。



【障害種別】

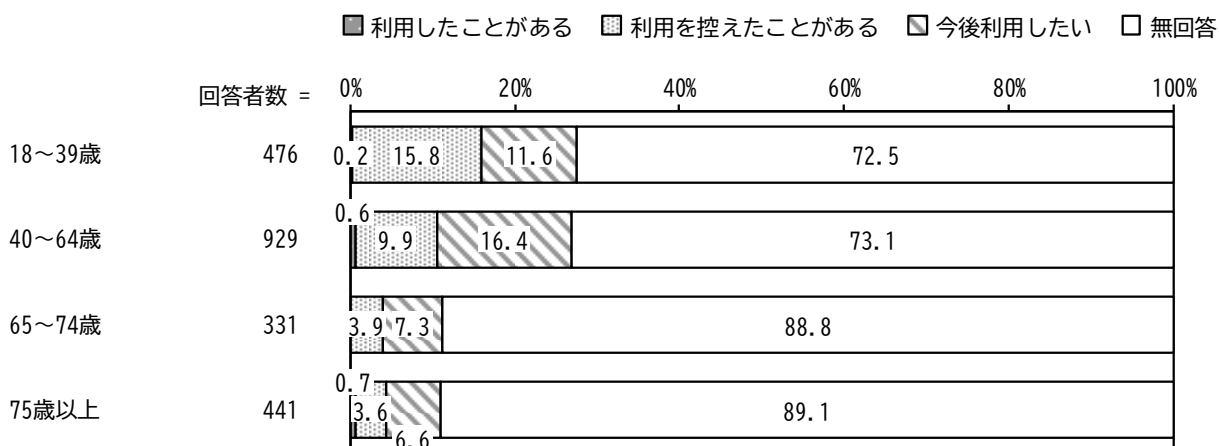


ト) 要約筆記者の派遣

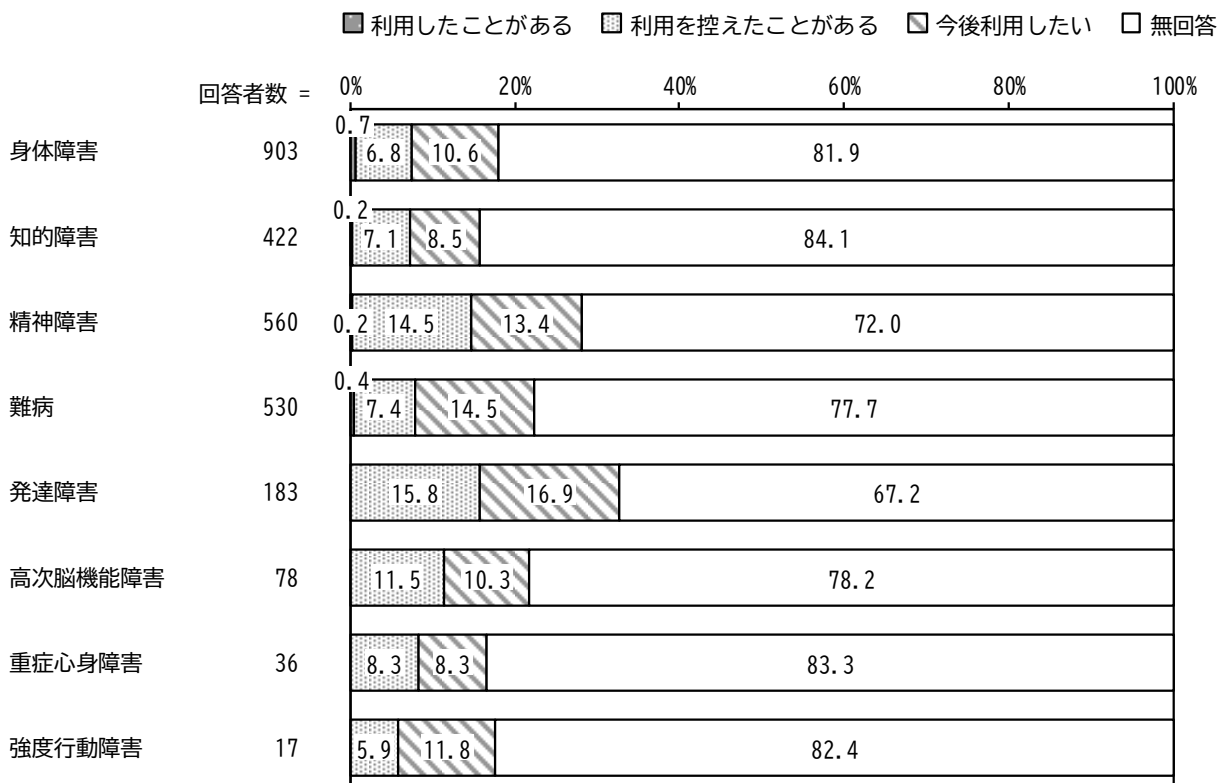


【年齢別】

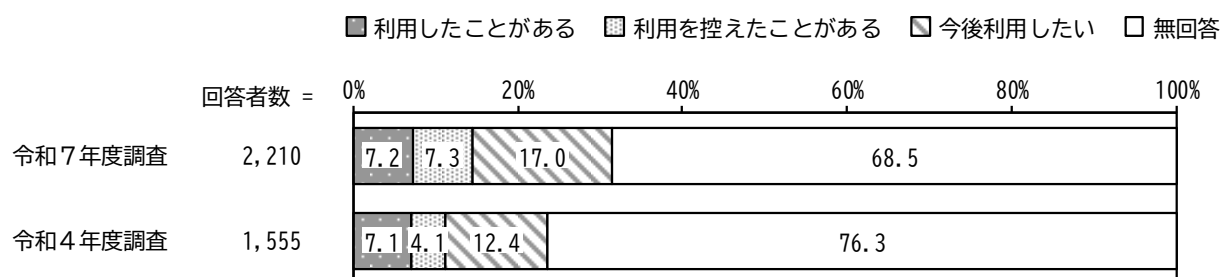
年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。



【障害種別】

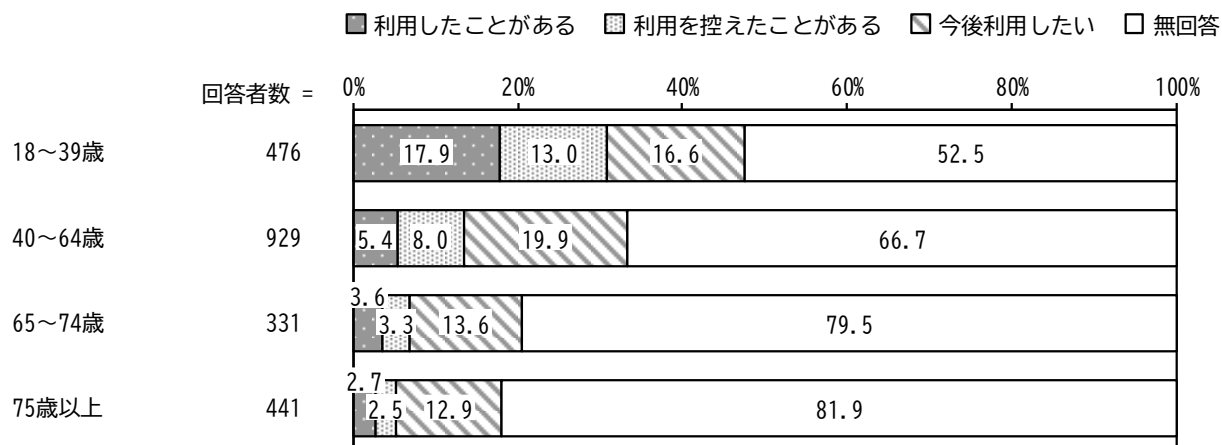


ナ) 移動支援



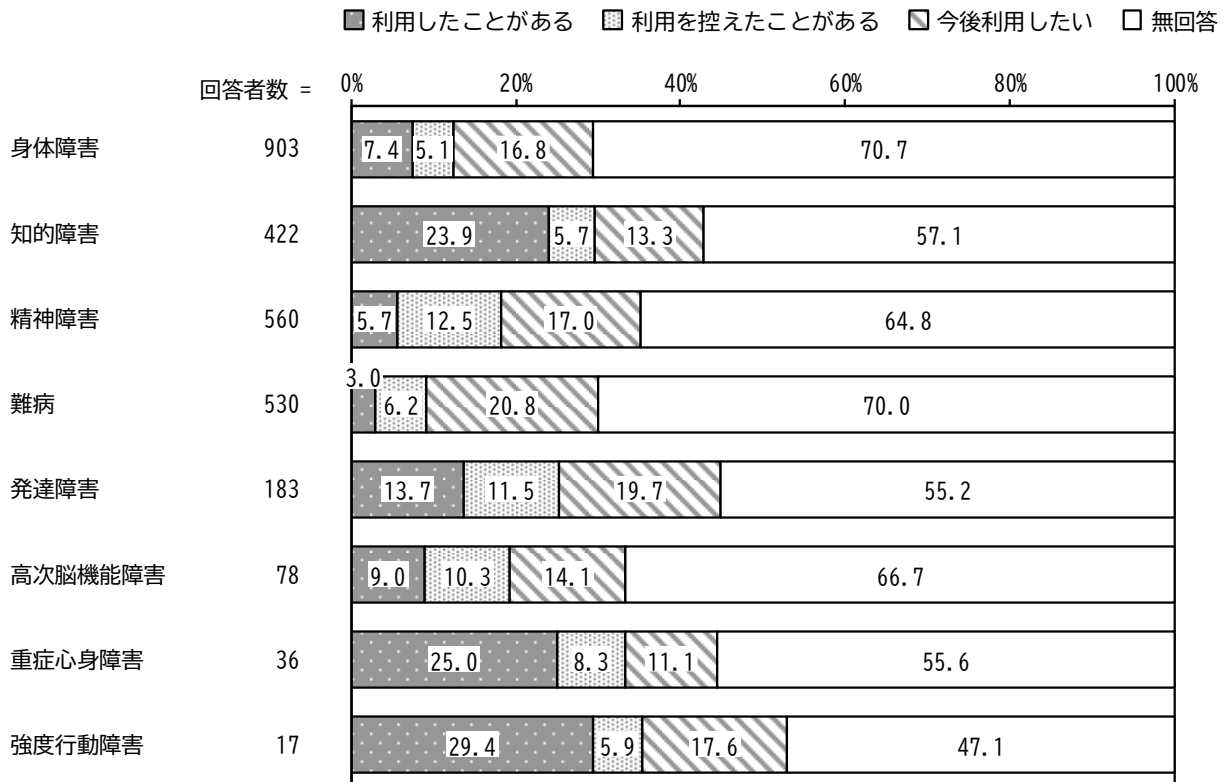
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用したことがある」「利用を控えたことがある」の割合が高い傾向にあります。

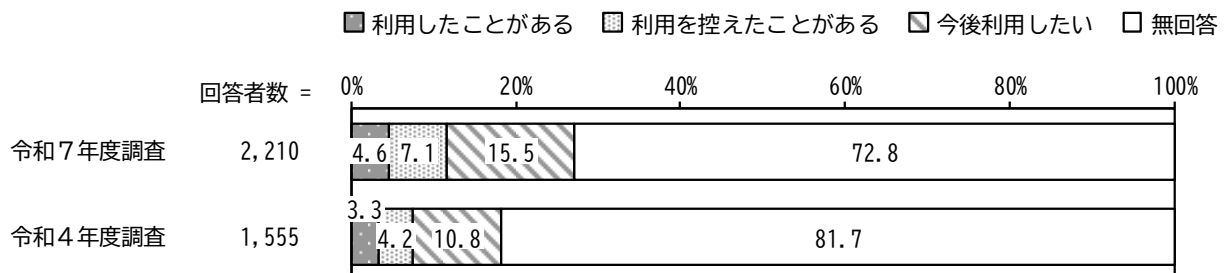


【障害種別】

障害種別にみると、知的障害、重症心身障害、強度行動障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

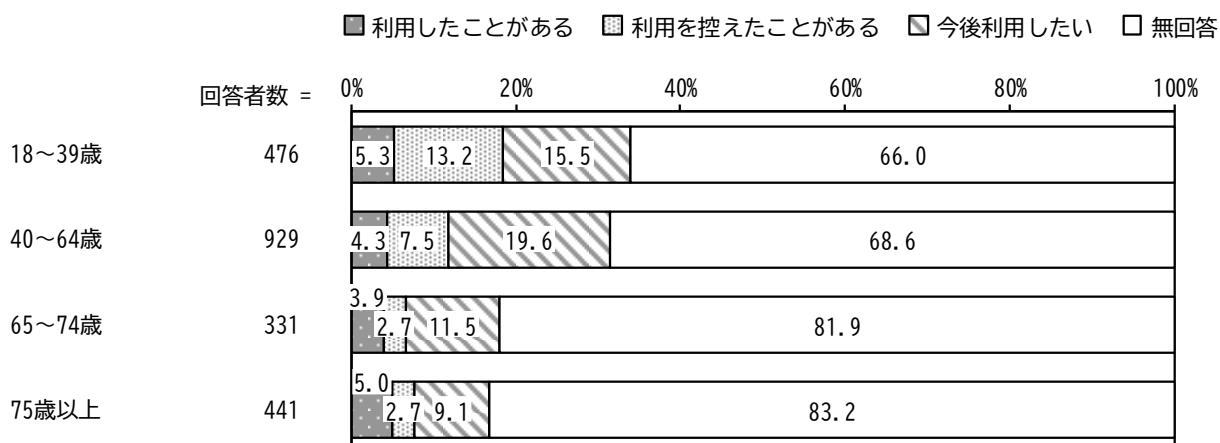


二) 地域活動支援センター



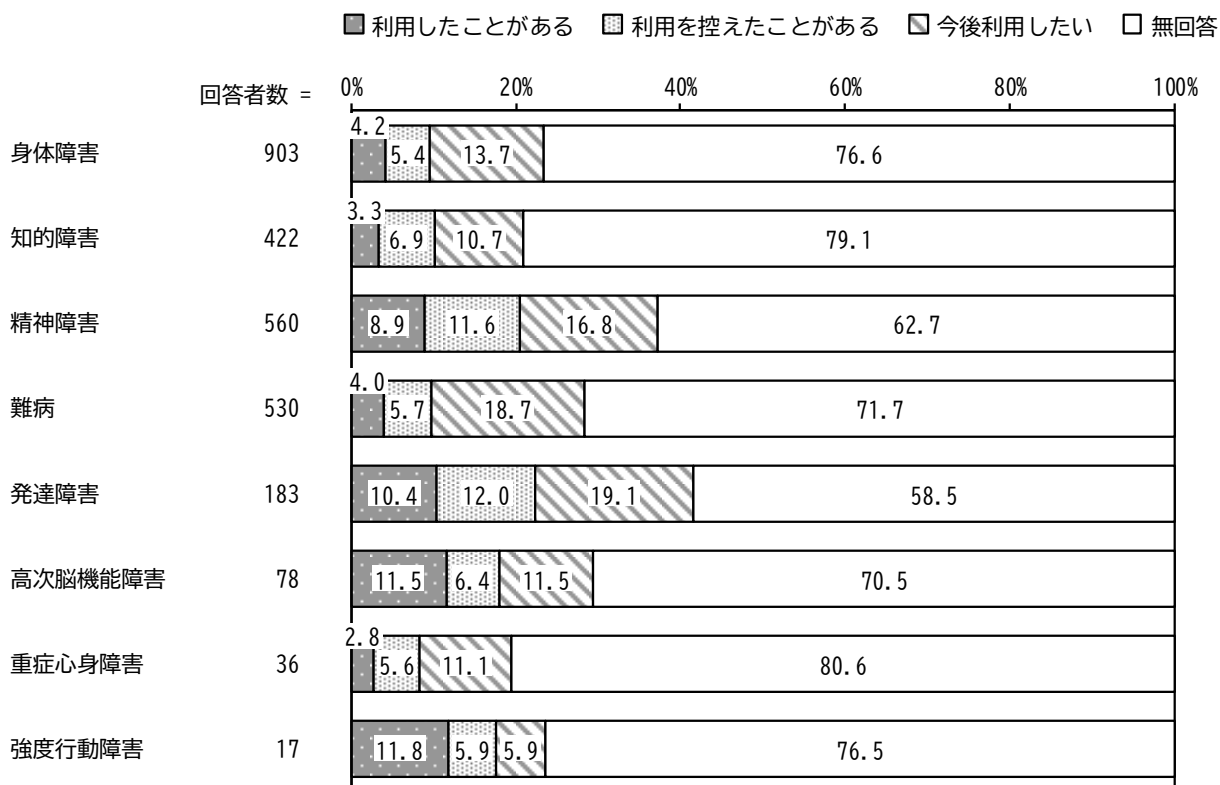
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高い傾向にあります。

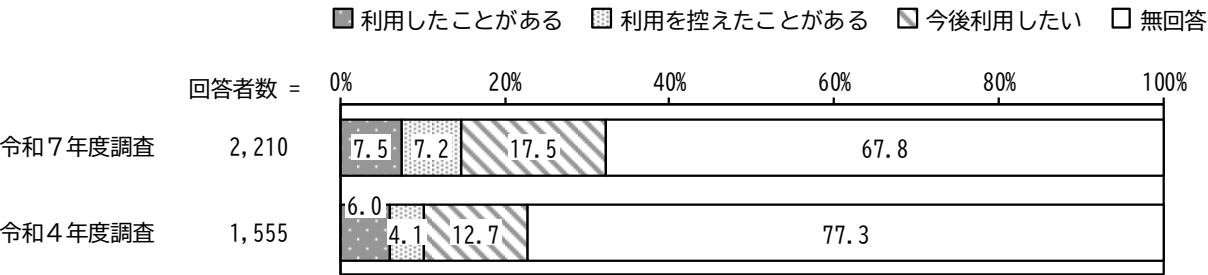


【障害種別】

障害種別にみると、精神障害、発達障害、難病で「今後利用したい」の割合が高くなっています。

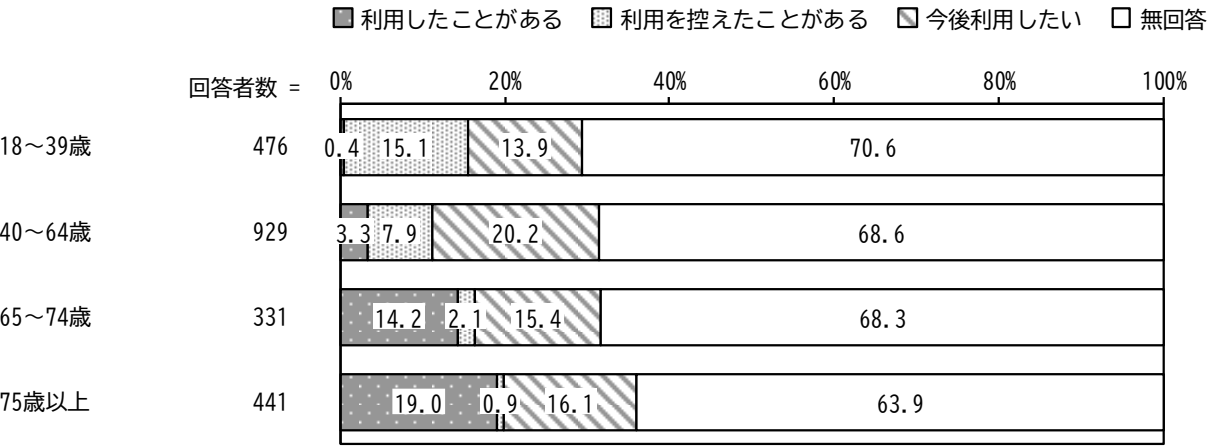


又) 介護保険サービス



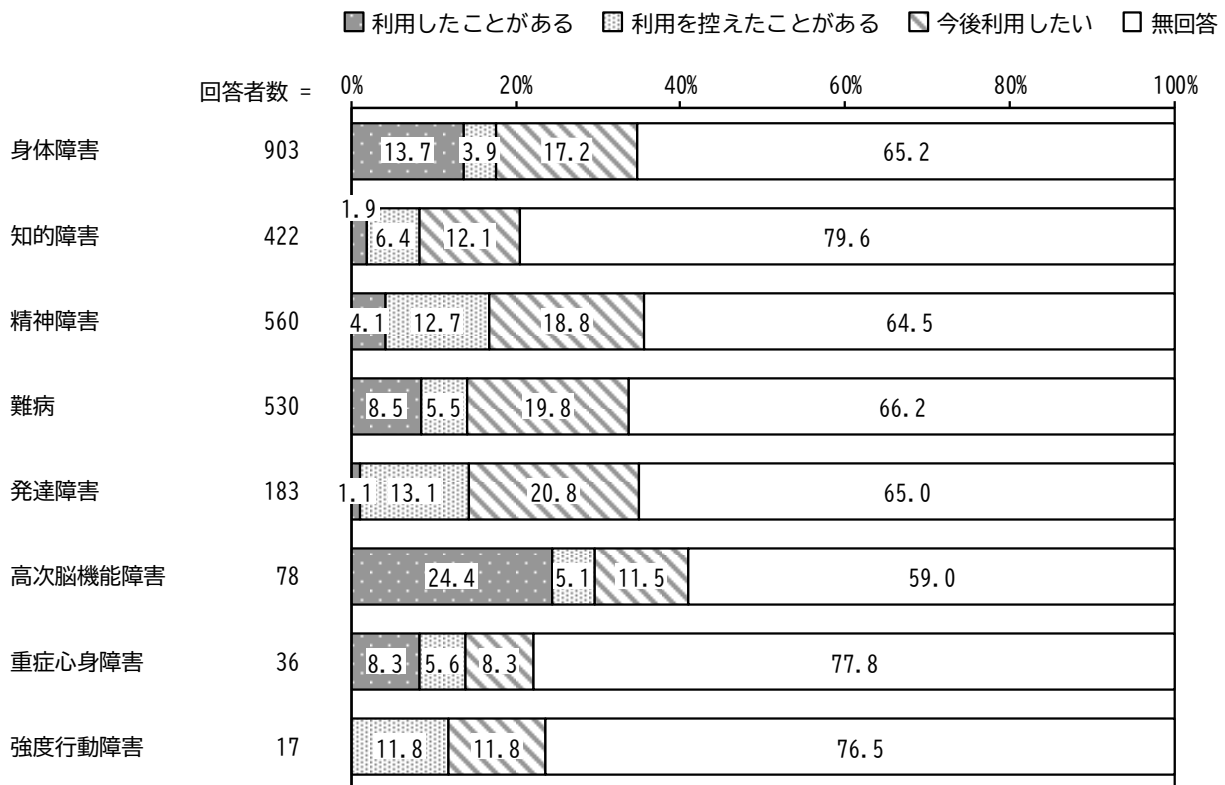
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用したことがある」の割合が高く、「利用を控えたことがある」の割合が低くなっています。

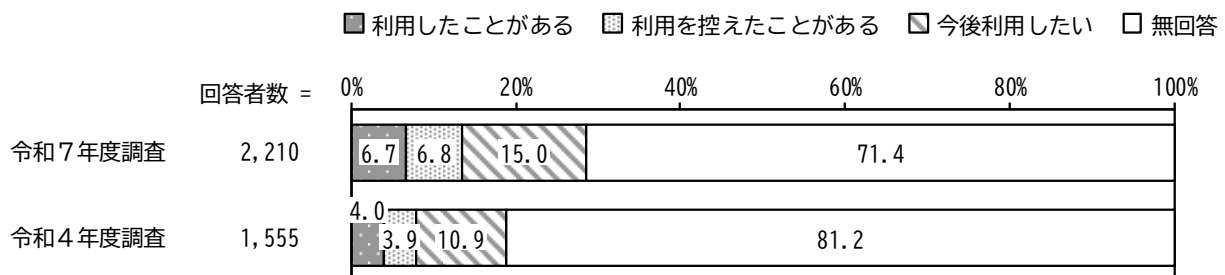


【障害種別】

障害種別にみると、高次脳機能障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。

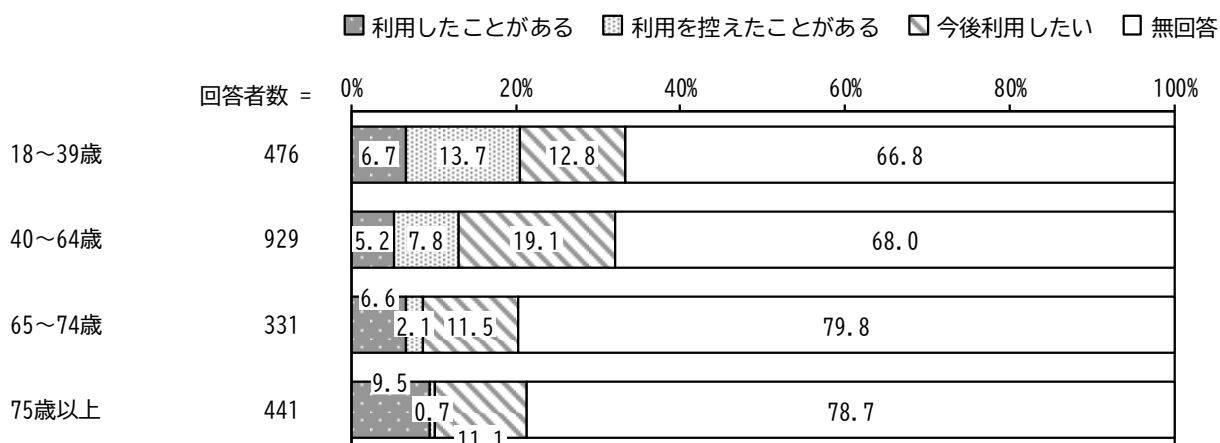


ネ) 医療保険の訪問看護



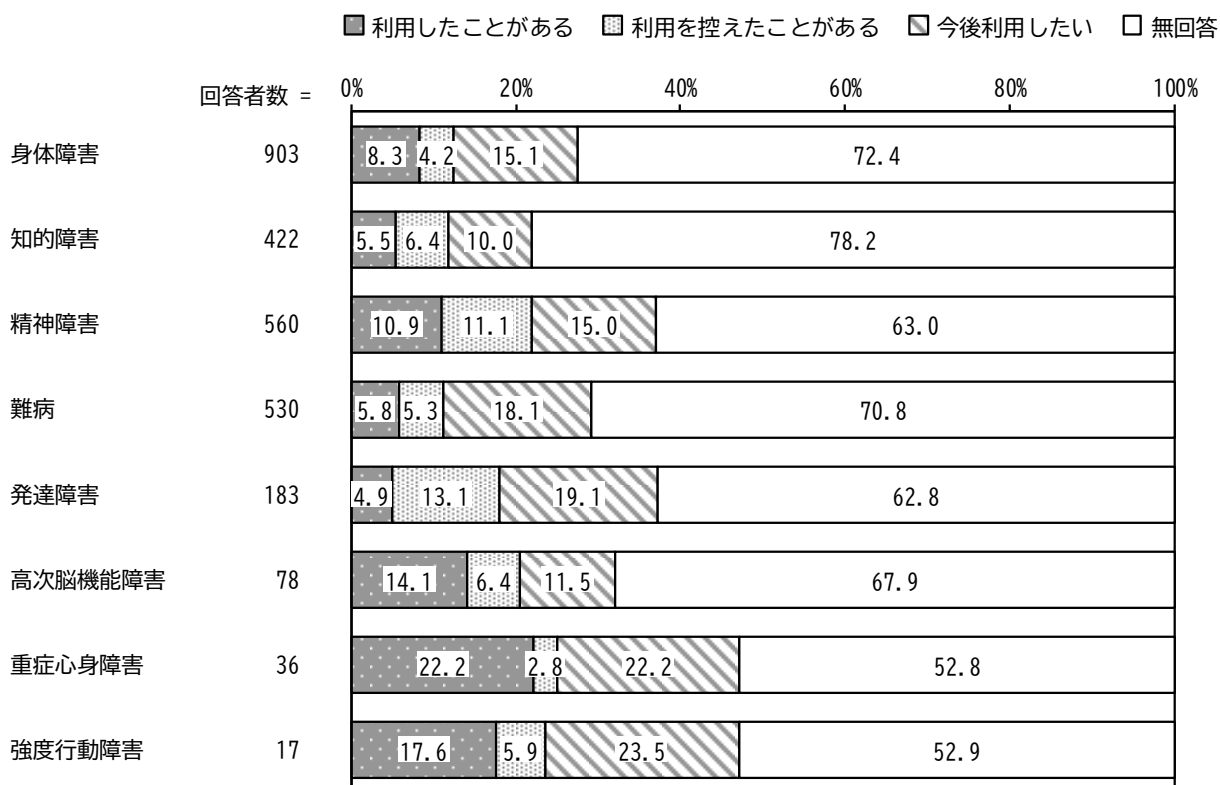
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。

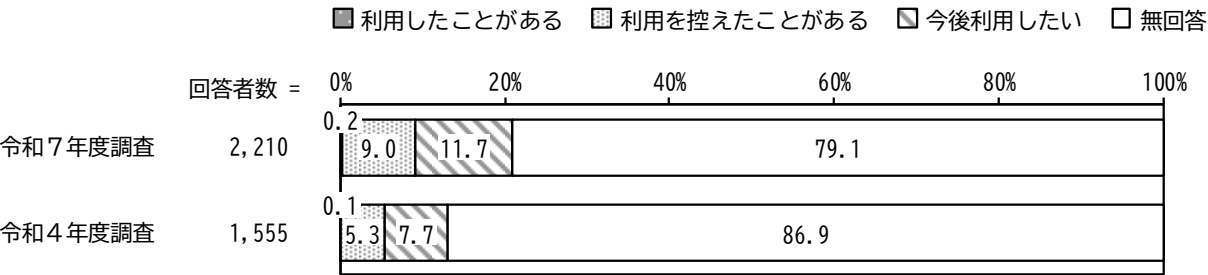


【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害、強度行動障害で「利用したことがある」、「今後利用したい」の割合が高くなっています。

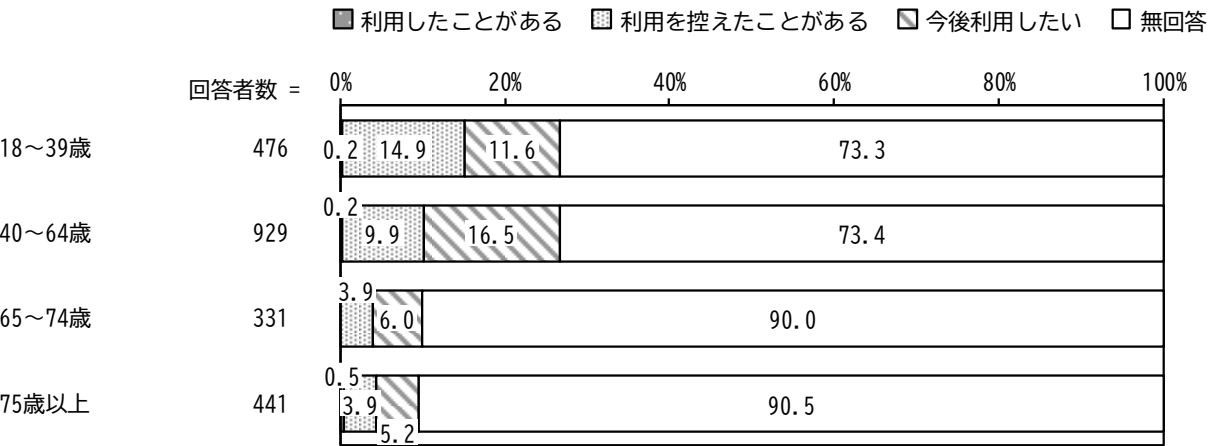


ノ) 補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）の給付

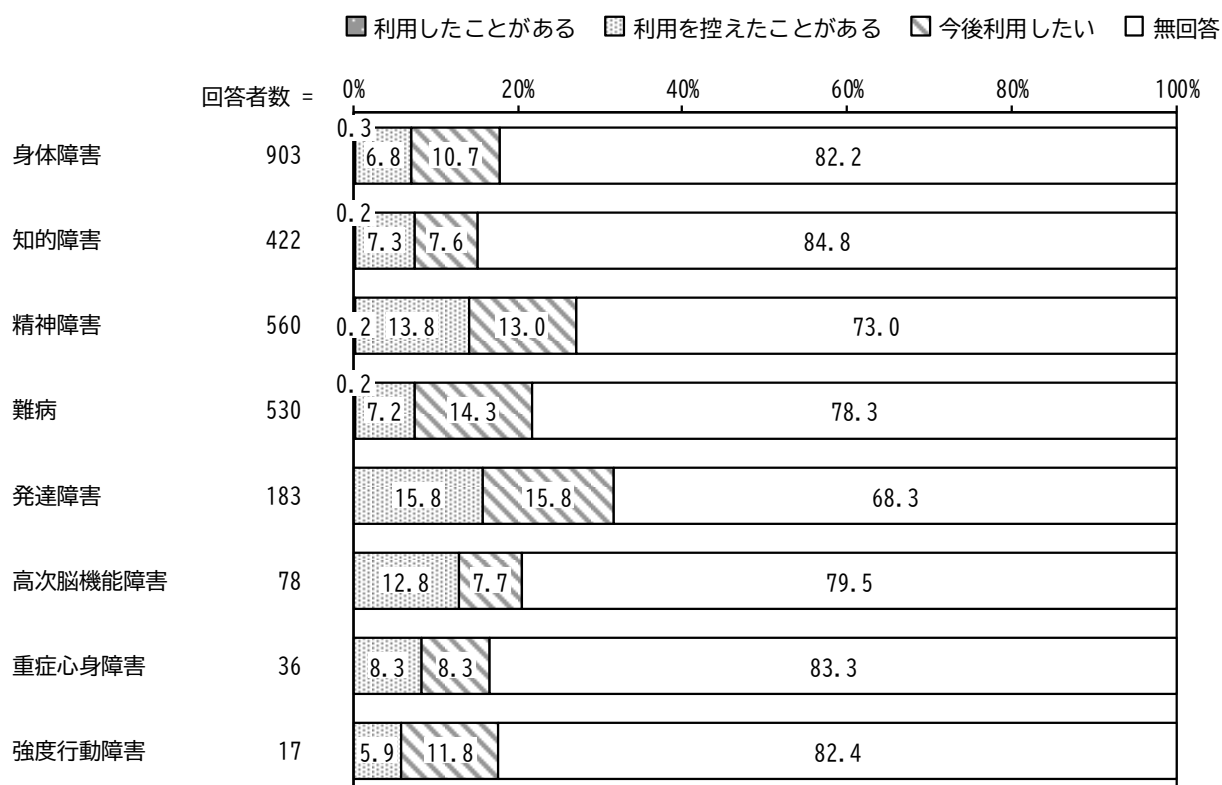


【年齢別】

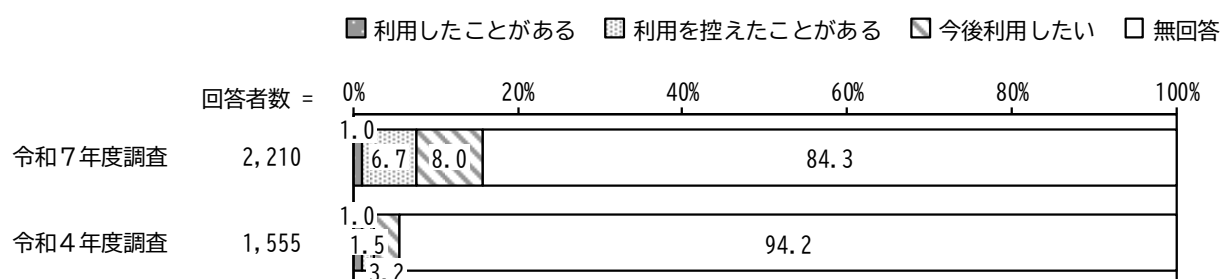
年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用を控えたことがある」の割合が高い傾向にあります。



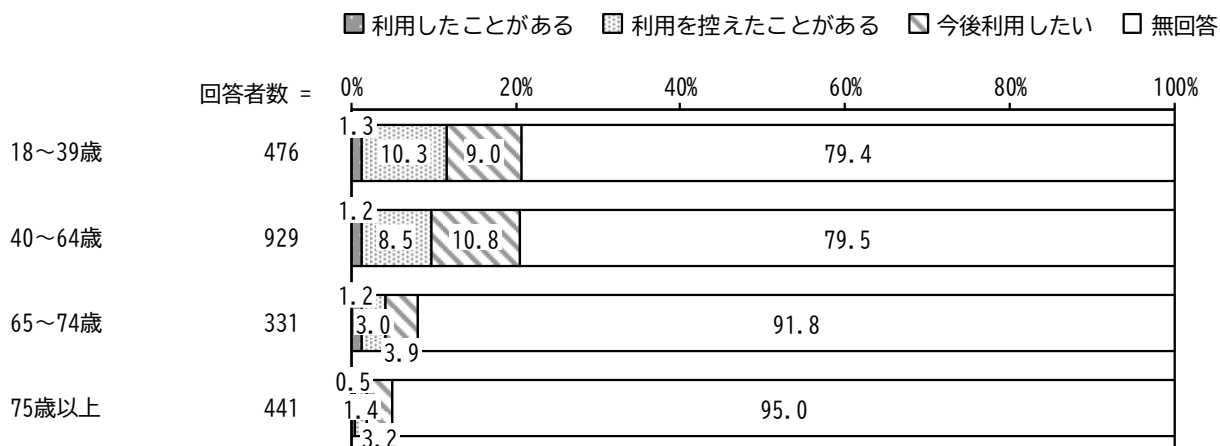
【障害種別】



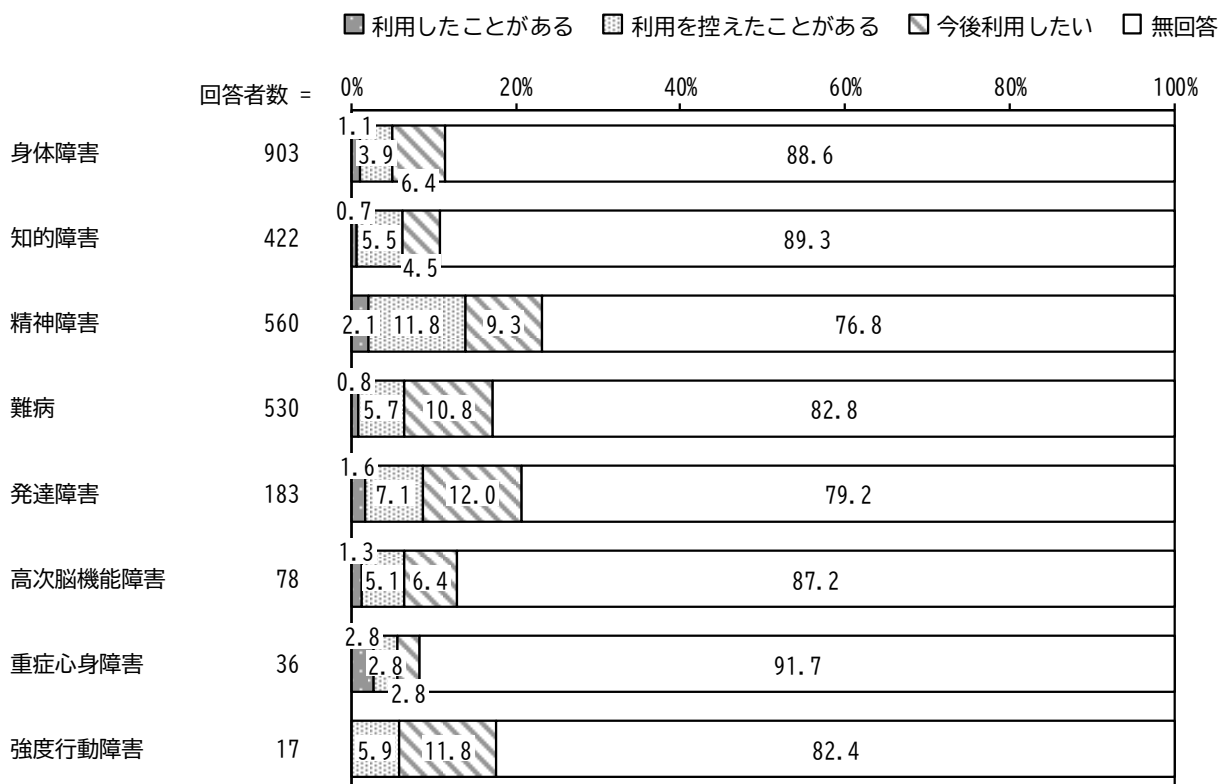
八) その他



【年齢別】

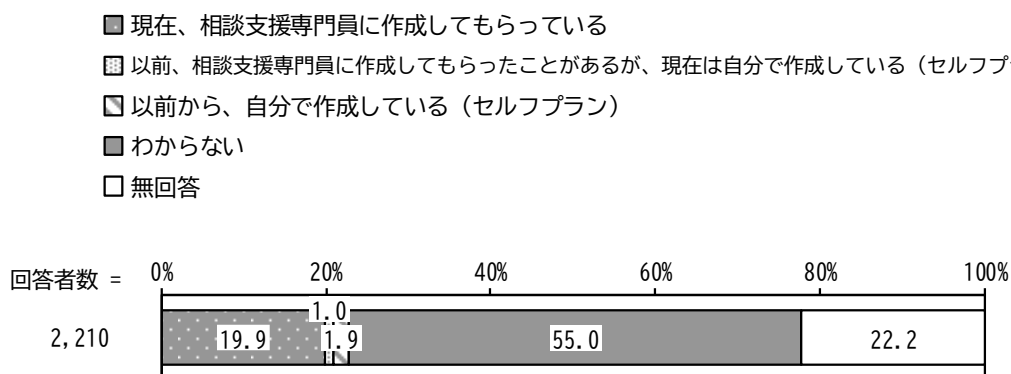


【障害種別】



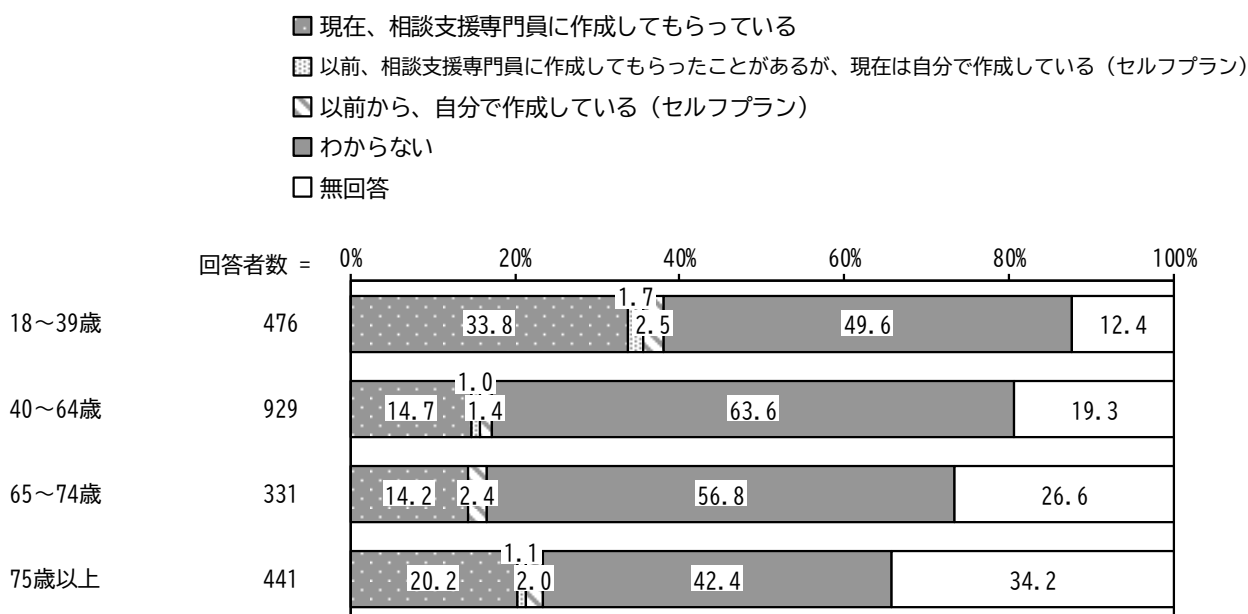
問 23 障害福祉サービスを利用するにあたっては、サービス等利用計画の作成が必要になります。あなたは、どのようにサービス等利用計画を作成していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「現在、相談支援専門員に作成してもらっている」の割合が19.9%、「以前、相談支援専門員に作成してもらったことがあるが、現在は自分で作成している（セルフプラン）」の割合が1.0%、「以前から、自分で作成している（セルフプラン）」の割合が1.9%となっており、「わからない」の割合が55.0%、「無回答」の割合が22.2%となっています。



【年齢別】

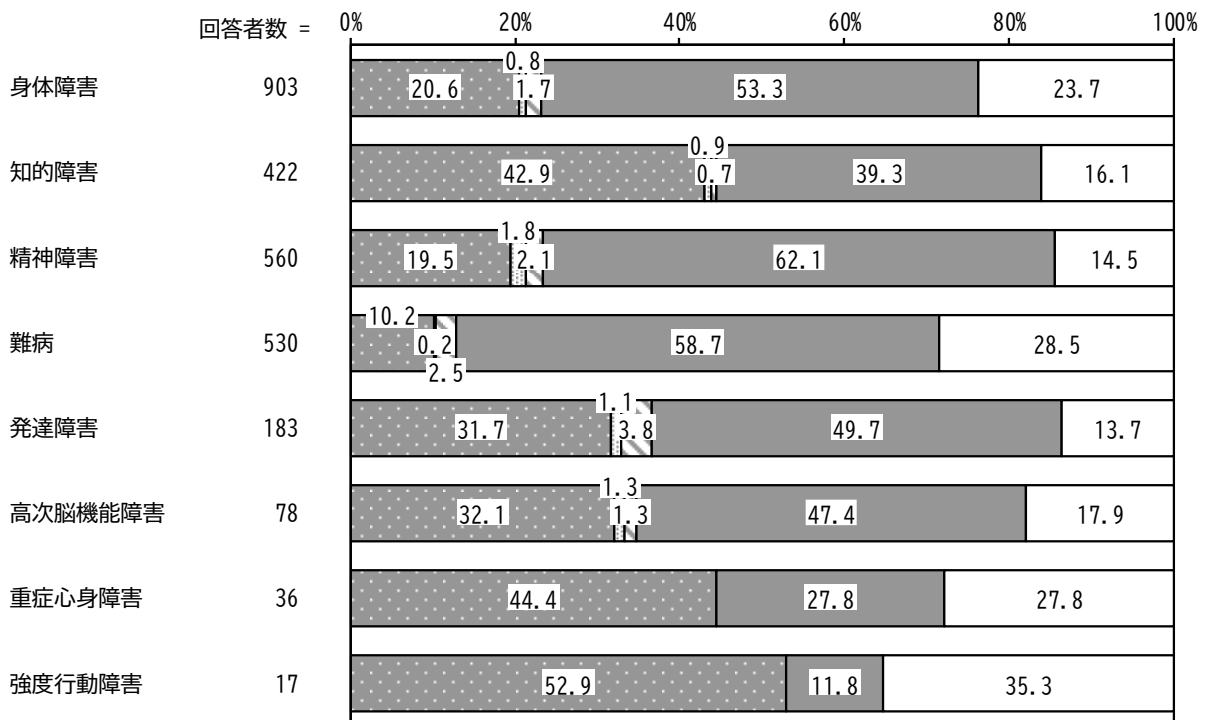
年齢別にみると、「65～74 歳」から「18～39 歳」まで年齢が下がるほど「現在、相談支援専門員に作成してもらっている」の割合が高くなっています。



【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で「現在、相談支援専門員に作成してもらっている」の割合が高くなっています。

- 現在、相談支援専門員に作成してもらっている
- ▨ 以前、相談支援専門員に作成してもらったことがあるが、現在は自分で作成している（セルフプラン）
- ▩ 以前から、自分で作成している（セルフプラン）
- わからない
- 無回答

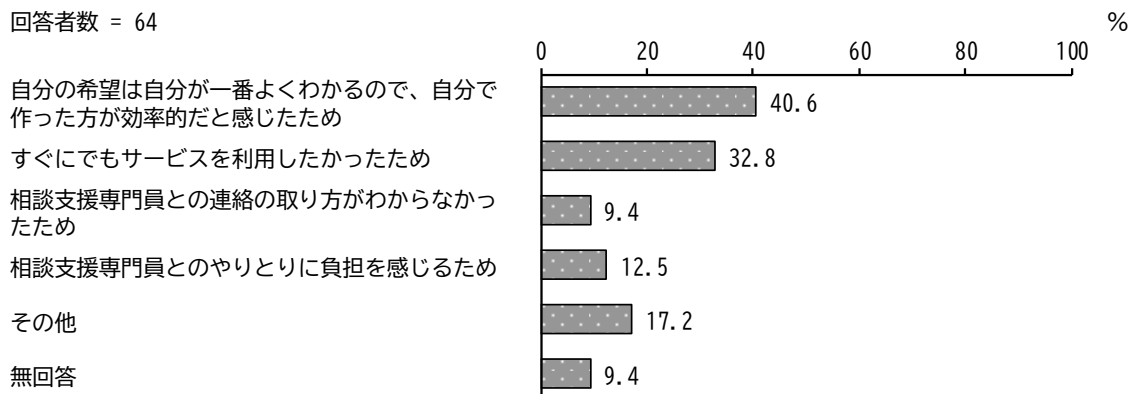


問 23 で「以前、相談支援専門員に作成してもらったことがあるが、現在は自分で作成している（セルフプラン）」、「以前から、自分で作成している（セルフプラン）」に○をつけた方にうかがいます。

問 23－１ サービス等利用計画を自分で作成している（セルフプラン）理由としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

「自分の希望は自分が一番よくわかるので、自分で作った方が効率的だと感じたため」の割合が 40.6%と最も高く、次いで「すぐにでもサービスを利用したかったため」の割合が 32.8%、「相談支援専門員とのやりとりに負担を感じるため」の割合が 12.5%となっています。

回答者数 = 64



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「自分の希望は自分が一番よくわかるので、自分で作った方が効率的だと感じたため」の割合が高く、「すぐにでもサービスを利用したかったため」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	自分の希望は自分が一番よくわかるので、自分で作った方が効率的だと感じたため	すぐにでもサービスを利用したかったため	相談支援専門員との連絡の取り方がわからなかったため	相談支援専門員とのやりとりに負担を感じるため	その他	無回答
全 体	64	40.6	32.8	9.4	12.5	17.2	9.4
18～39歳	20	30.0	55.0	10.0	10.0	25.0	5.0
40～64歳	22	31.8	31.8	0.0	18.2	9.1	18.2
65～74歳	8	50.0	25.0	12.5	0.0	25.0	0.0
75歳以上	14	64.3	7.1	21.4	14.3	14.3	7.1

【障害種別】

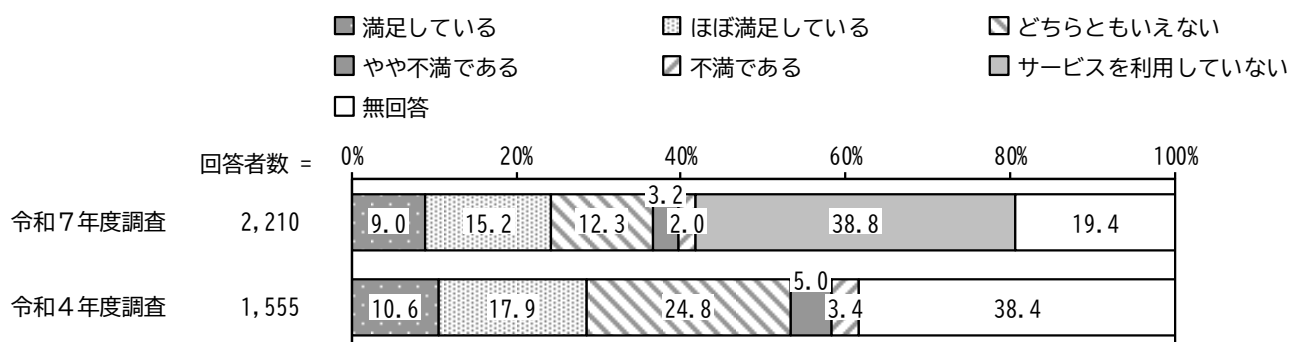
障害種別にみると、いずれの障害においても「自分の希望は自分が一番よくわかるので、自分で作った方が効率的だと感じたため」「すぐにでもサービスを利用したかったため」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分の希望は自分が一番よくわかるので、自分で作った方が効率的だと感じたため	すぐにでもサービスを利用したかったため	相談支援専門員との連絡の取り方がわからなかったため	相談支援専門員とのやりとりで負担を感じるため	その他	無回答
全 体	64	40.6	32.8	9.4	12.5	17.2	9.4
身体障害	22	40.9	40.9	13.6	13.6	13.6	9.1
知的障害	7	0.0	42.9	14.3	0.0	42.9	0.0
精神障害	22	45.5	36.4	0.0	9.1	22.7	9.1
難病	14	57.1	14.3	21.4	28.6	7.1	0.0
発達障害	9	33.3	55.6	0.0	0.0	22.2	22.2
高次脳機能障害	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 24 利用しているサービスの量や質に満足していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

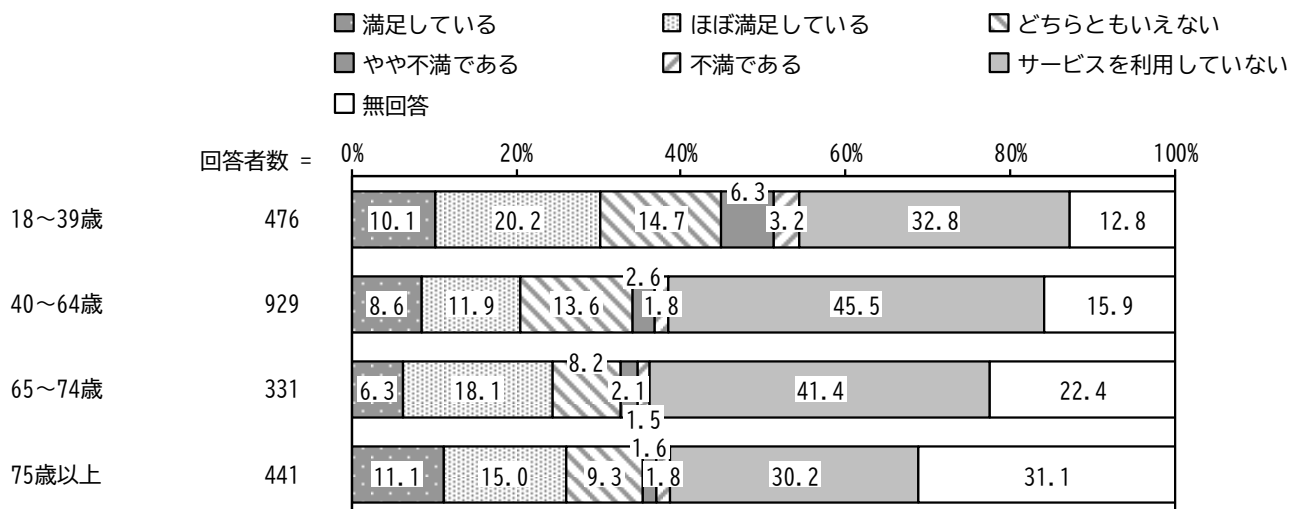
「満足している」「ほぼ満足している」を合わせた“満足している”の割合が 24.2%、「やや不満である」「不満である」を合わせた“不満である”の割合が 5.2%となっています。



※「サービスを利用していない」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

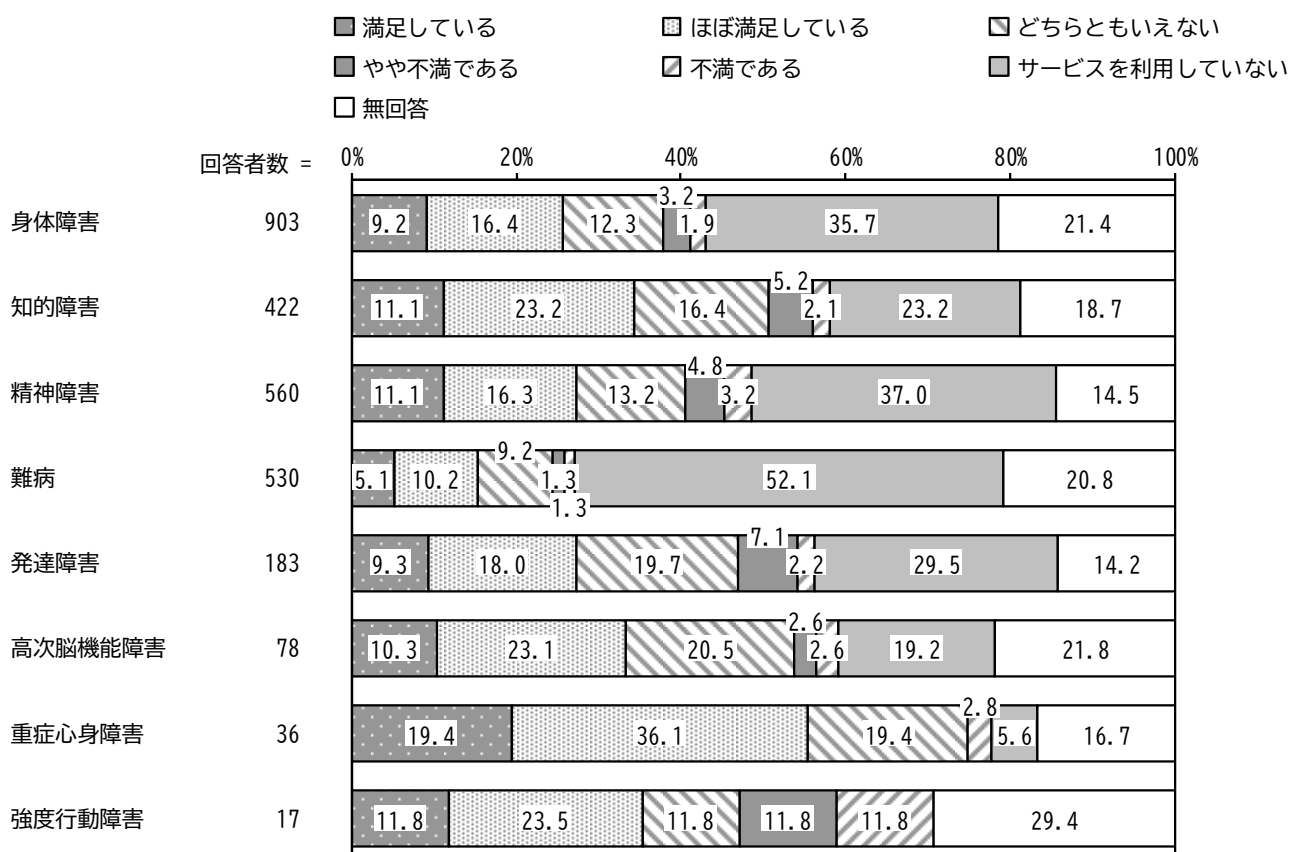
【年齢別】

年齢別にみると、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど“満足している”の割合が高くなっています。



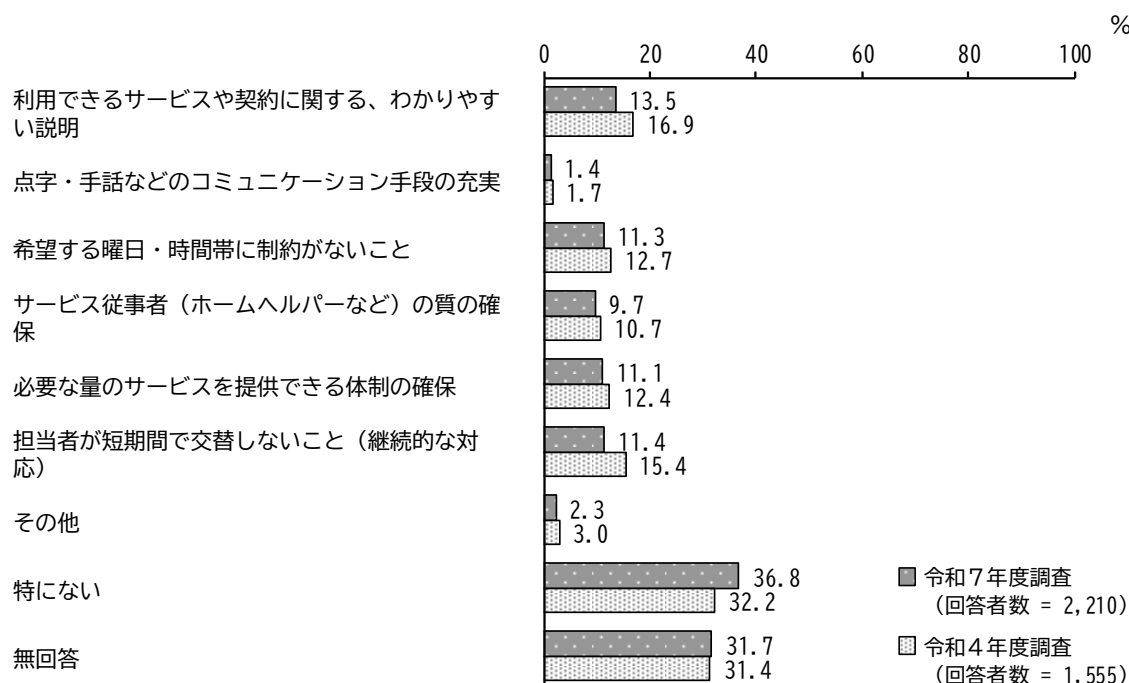
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で“満足している”の割合が高くなっています。



問 25 現在利用しているサービス提供事業者に対して、どのようなことを望んでいますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

「利用できるサービスや契約に関する、わかりやすい説明」の割合が 13.5%と最も高く、次いで「担当者が短期間で交替しないこと（継続的な対応）」の割合が 11.4%、「希望する曜日・時間帯に制約がないこと」の割合が 11.3%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用できるサービスや契約に関する、わかりやすい説明」の割合が高く、「65～74歳」から「18～39歳」まで年齢が下がるほど「希望する曜日・時間帯に制約がないこと」「サービス従事者（ホームヘルパーなど）の質の確保」「必要な量のサービスを提供できる体制の確保」「担当者が短期間で交替しないこと（継続的な対応）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	利用できるサービスや契約に関する、わかりやすい説明	点字・手話などのコミュニケーション手段の充実	希望する曜日・時間帯に制約がないこと	サービス従事者（ホームヘルパーなど）の質の確保	必要な量のサービスを提供できる体制の確保	担当者が短期間で交替しないこと（継続的な対応）	その他	特になし	無回答
全 体	2,210	13.5	1.4	11.3	9.7	11.1	11.4	2.3	36.8	31.7
18～39歳	476	19.1	1.5	18.1	14.7	19.3	16.0	2.9	35.7	20.4
40～64歳	929	14.2	1.5	11.0	8.4	9.8	9.9	2.7	41.2	29.0
65～74歳	331	9.7	1.8	6.9	5.7	6.9	9.4	1.5	35.3	40.5
75歳以上	441	9.1	0.9	8.4	10.2	8.4	11.3	1.6	30.4	42.4

【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で「サービス従事者（ホームヘルパーなど）の質の確保」「担当者が短期間で交替しないこと（継続的な対応）」の割合が高くなっています。

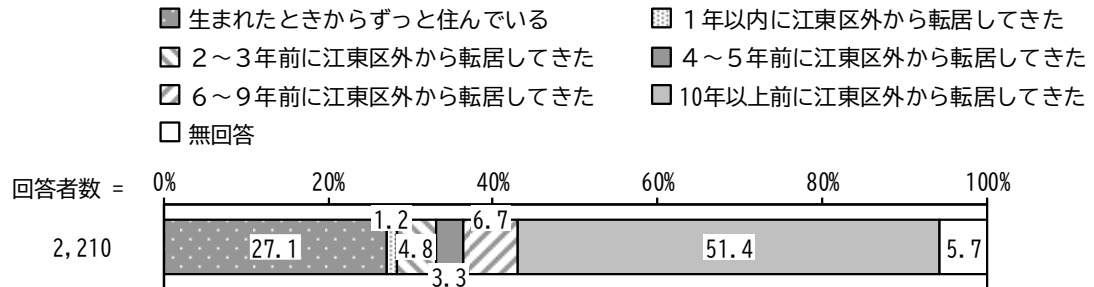
単位：％

区分	回答者数（件）	わかりやすい説明 利用できるサービスや契約に関する	点字・手話などのコミュニケーション 手段の充実	希望する曜日・時間帯に制約がないこと	サービス従事者（ホームヘルパーなど）の質の確保	必要な量のサービスを 提供できる体制の確保	担当者が短期間で 交替しないこと（継続的な対応）	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	2,210	13.5	1.4	11.3	9.7	11.1	11.4	2.3	36.8	31.7
身体障害	903	12.1	2.8	10.9	10.7	12.2	11.2	1.7	36.4	31.7
知的障害	422	17.1	0.7	17.5	17.3	17.8	16.1	3.1	29.1	27.7
精神障害	560	18.2	0.4	14.6	10.0	12.3	15.2	4.5	36.8	23.8
難病	530	8.3	0.8	5.5	5.5	6.4	6.0	1.7	42.3	36.8
発達障害	183	19.7	1.6	20.2	17.5	19.7	18.6	4.9	30.6	23.0
高次脳機能障害	78	17.9	0.0	17.9	16.7	23.1	23.1	2.6	25.6	29.5
重症心身障害	36	13.9	0.0	13.9	27.8	22.2	22.2	2.8	30.6	22.2
強度行動障害	17	23.5	0.0	29.4	35.3	29.4	35.3	5.9	5.9	29.4

(6) 暮らしについて

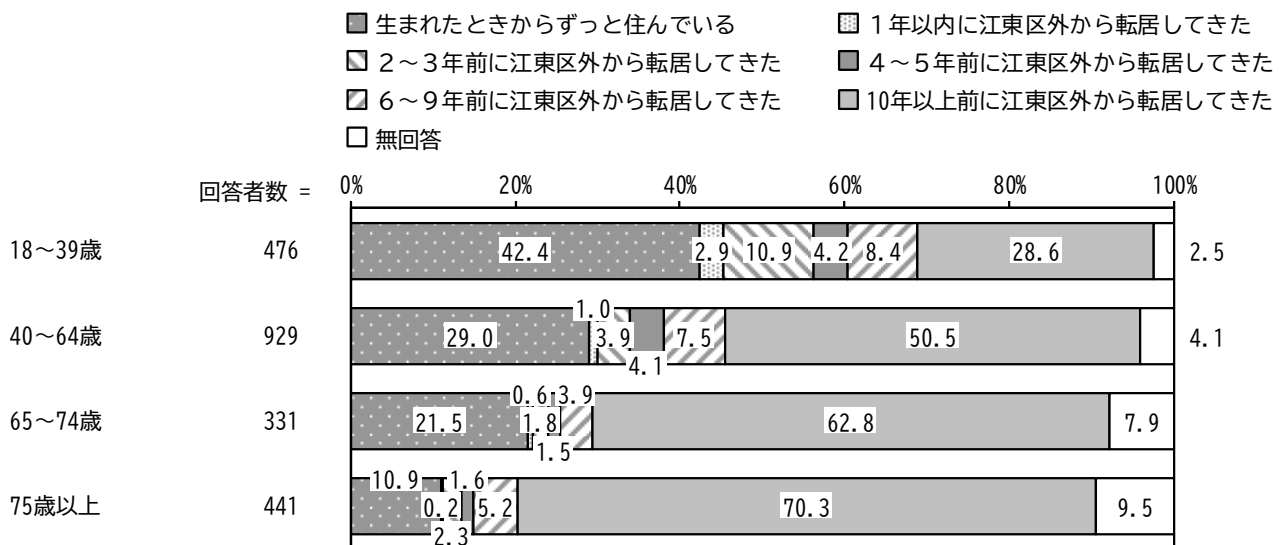
問 26 江東区には、いつからお住まいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「10年以上前に江東区外から転居してきた」の割合が51.4%と最も高く、次いで「生まれたときからずっと住んでいる」の割合が27.1%となっています。



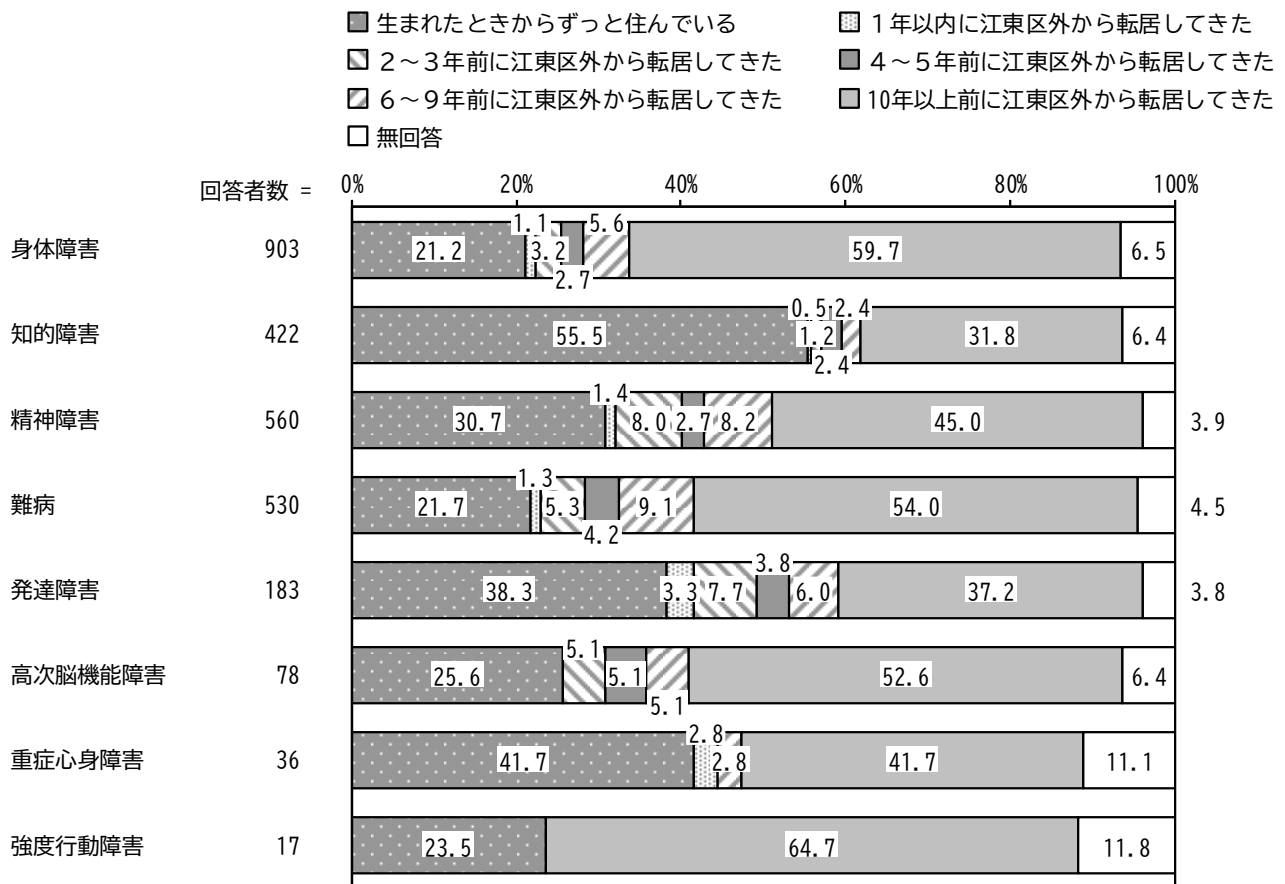
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「10年以上前に江東区外から転居してきた」の割合が高く、「生まれたときからずっと住んでいる」の割合が低く、「65～74歳」から「18～39歳」まで年齢が下がるほど「2～3年前に江東区外から転居してきた」の割合が高くなっています。



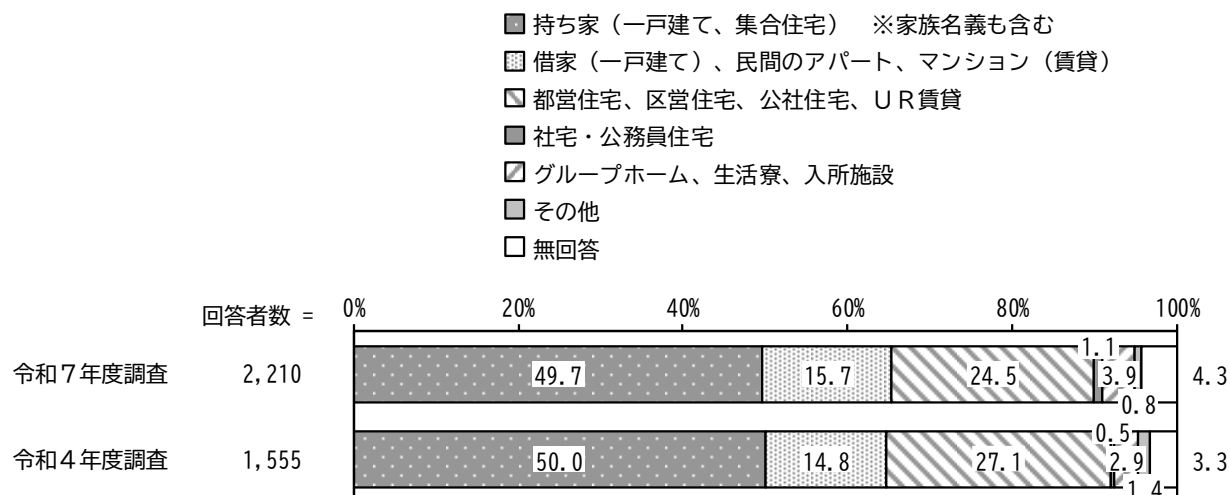
【障害種別】

障害種別にみると、知的障害で「生まれたときからずっと住んでいる」の割合が高くなっています。



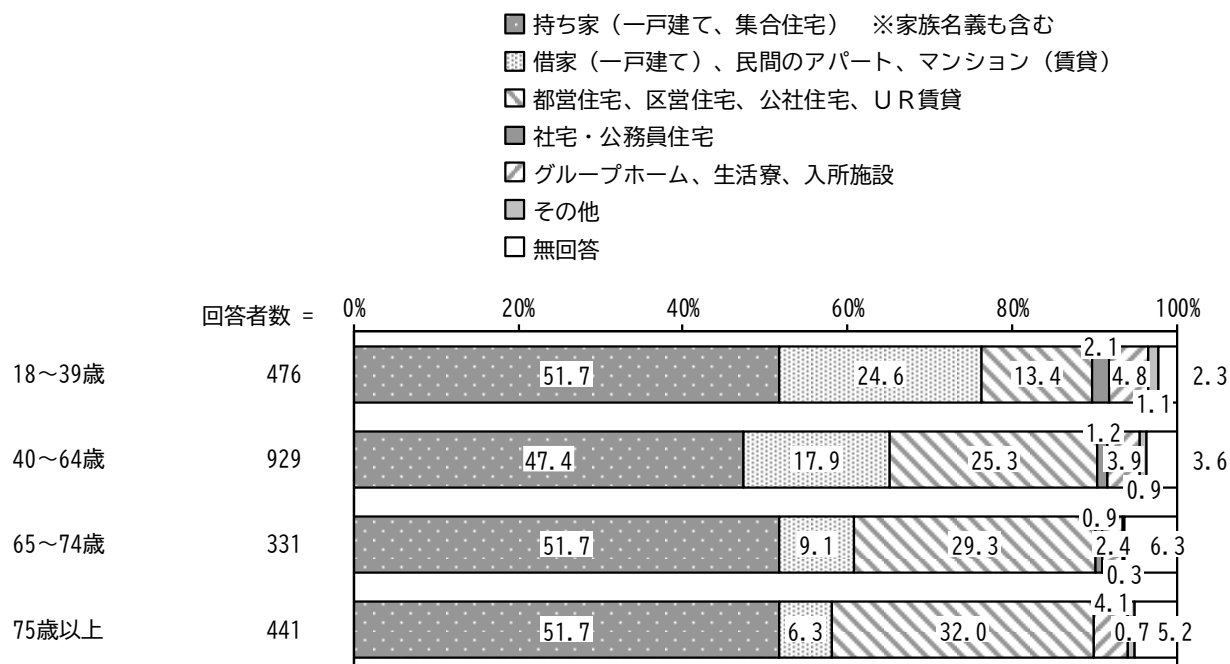
問 27 あなた（ご本人）の現在のお住まいはどのような形態ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「持ち家（一戸建て、集合住宅） ※家族名義も含む」の割合が 49.7%と最も高く、次いで「都営住宅、区営住宅、公社住宅、UR賃貸」の割合が 24.5%、「借家（一戸建て）、民間のアパート、マンション（賃貸）」の割合が 15.7%となっています。



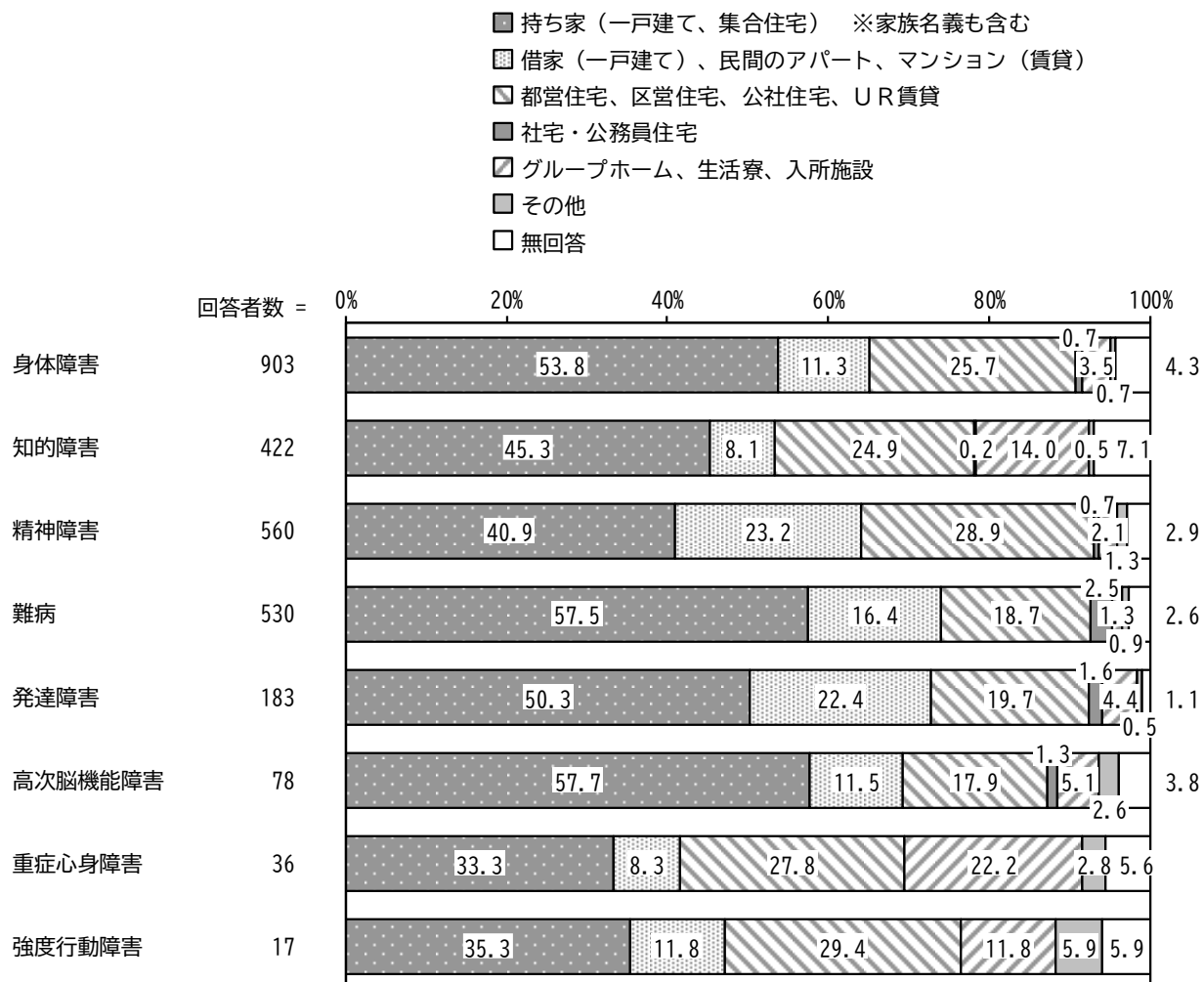
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「都営住宅、区営住宅、公社住宅、UR賃貸」の割合が高く、「借家（一戸建て）、民間のアパート、マンション（賃貸）」の割合が低くなっています。



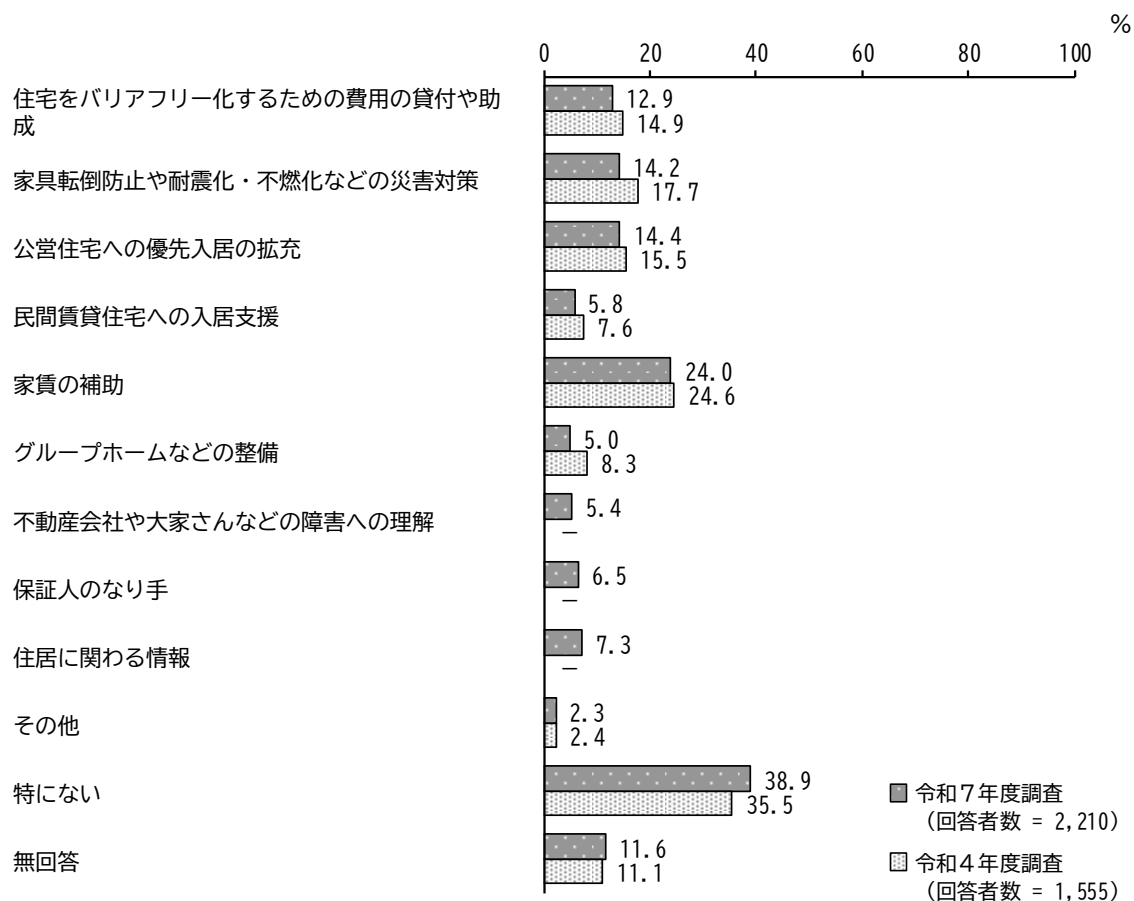
【障害種別】

障害種別にみると、難病、高次脳機能障害で「持ち家（一戸建て、集合住宅） ※家族名義も含む」、精神障害、発達障害で「借家（一戸建て）、民間のアパート、マンション（賃貸）」、重症心身障害で「グループホーム、生活寮、入所施設」の割合が高くなっています。



問 28 あなた（ご本人）は、お住まいに関し、どのような支援を必要としていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「家賃の補助」の割合が 24.0%と最も高く、次いで「公営住宅への優先入居の拡充」の割合が 14.4%、「家具転倒防止や耐震化・不燃化などの災害対策」の割合が 14.2%となっています。



※「不動産会社や大家さんなどの障害への理解」、「保証人のなり手」、「住居に関わる情報」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「住宅をバリアフリー化するための費用の貸付や助成」「家具転倒防止や耐震化・不燃化などの災害対策」の割合が高く、「家賃の補助」の割合が低い傾向にあり、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「公営住宅への優先入居の拡充」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	住宅をバリアフリー化するための費用の貸付や助成	家具転倒防止や耐震化・不燃化などの災害対策	公営住宅への優先入居の拡充	民間賃貸住宅への入居支援	家賃の補助	グループホームなどの整備	不動産会社や大家さんなどの障害への理解	保証人のなり手	住居に関する情報	その他	特にない	無回答
全 体	2,210	12.9	14.2	14.4	5.8	24.0	5.0	5.4	6.5	7.3	2.3	38.9	11.6
18～39歳	476	8.6	10.7	15.1	7.6	30.7	12.4	8.6	5.9	8.8	1.3	41.0	6.7
40～64歳	929	11.7	14.0	18.8	7.3	28.3	4.0	5.8	9.1	8.4	2.9	39.1	8.7
65～74歳	331	13.0	15.1	10.3	3.3	15.1	1.5	4.2	3.9	6.0	2.4	41.4	14.8
75歳以上	441	20.4	17.7	7.3	2.3	14.7	2.0	1.8	3.6	4.5	2.0	34.9	19.5

【障害種別】

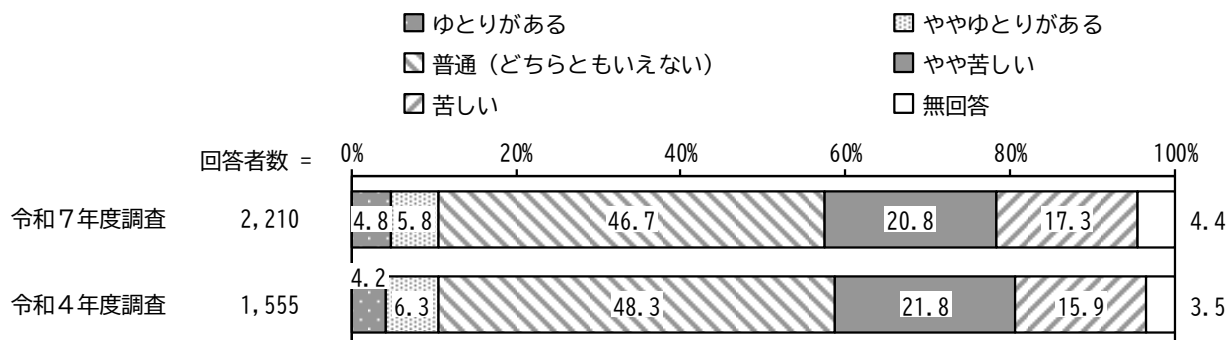
障害種別にみると、身体障害、重症心身障害で「住宅をバリアフリー化するための費用の貸付や助成」、強度行動障害で「家具転倒防止や耐震化・不燃化などの災害対策」、発達障害、重症心身障害で「公営住宅への優先入居の拡充」、重症心身障害で「民間賃貸住宅への入居支援」、精神障害、発達障害で「家賃の補助」、知的障害、強度行動障害で「グループホームなどの整備」、発達障害で「不動産会社や大家さんなどの障害への理解」「保証人のなり手」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	住宅をバリアフリー化するための費用の貸付や助成	家具転倒防止や耐震化・不燃化などの災害対策	公営住宅への優先入居の拡充	民間賃貸住宅への入居支援	家賃の補助	グループホームなどの整備	不動産会社や大家さんなどの障害への理解	保証人のなり手	住居に関する情報	その他	特にない	無回答
全 体	2,210	12.9	14.2	14.4	5.8	24.0	5.0	5.4	6.5	7.3	2.3	38.9	11.6
身体障害	903	20.0	17.3	12.2	4.7	20.0	3.7	3.8	5.2	7.0	2.3	36.4	13.5
知的障害	422	8.5	12.6	10.0	3.6	18.5	18.5	6.9	5.7	6.2	1.9	35.5	17.5
精神障害	560	5.7	13.9	21.3	8.6	34.8	3.6	9.1	12.3	11.6	3.4	35.7	8.9
難病	530	15.1	13.6	13.4	5.3	22.1	1.3	3.4	4.0	6.0	1.9	45.3	7.9
発達障害	183	6.0	10.9	22.4	9.3	32.2	13.1	13.7	15.3	10.4	2.2	37.2	9.8
高次脳機能障害	78	17.9	17.9	21.8	9.0	29.5	9.0	9.0	10.3	11.5	2.6	38.5	6.4
重症心身障害	36	22.2	13.9	25.0	13.9	25.0	2.8	8.3	5.6	5.6	2.8	27.8	30.6
強度行動障害	17	5.9	23.5	17.6	5.9	23.5	17.6	5.9	5.9	11.8	11.8	23.5	23.5

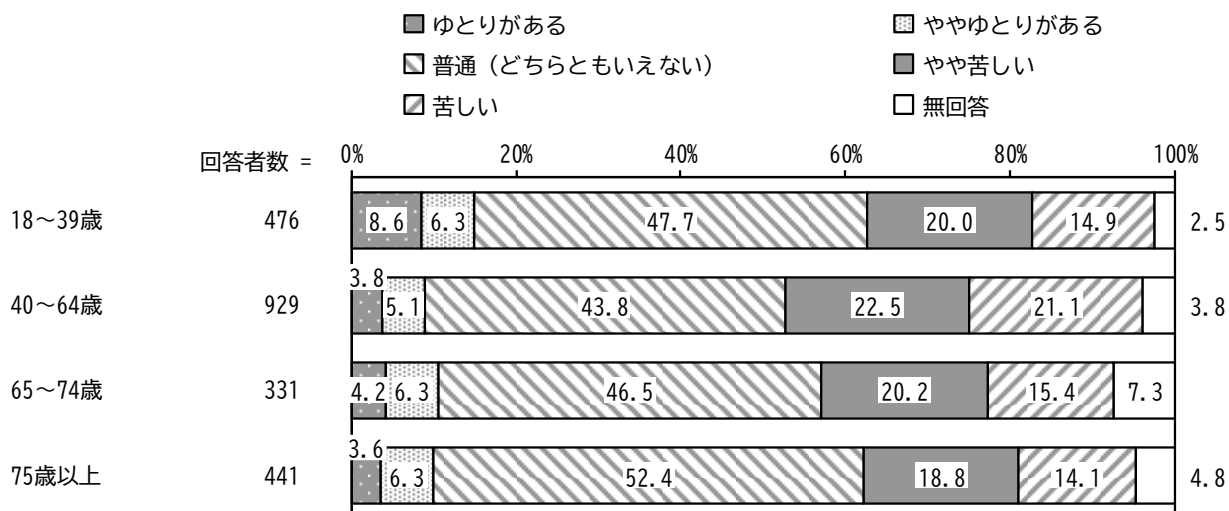
問 29 現在の暮らし向き（家計の状況）について、どう感じていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「ゆとりがある」「ややゆとりがある」を合わせた“ゆとりがある”の割合が10.6%、「やや苦しい」「苦しい」を合わせた“苦しい”の割合が38.1%となっています。



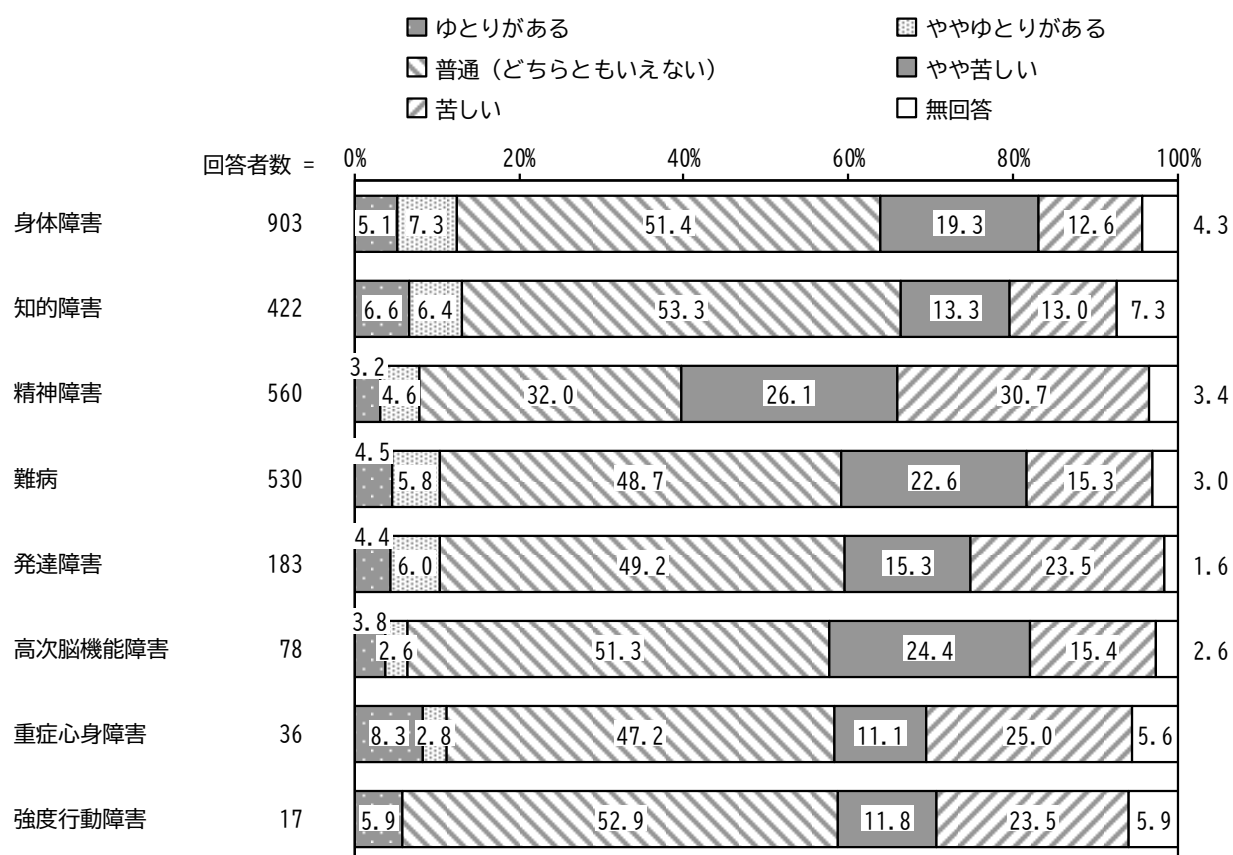
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど“苦しい”の割合が高くなっています。



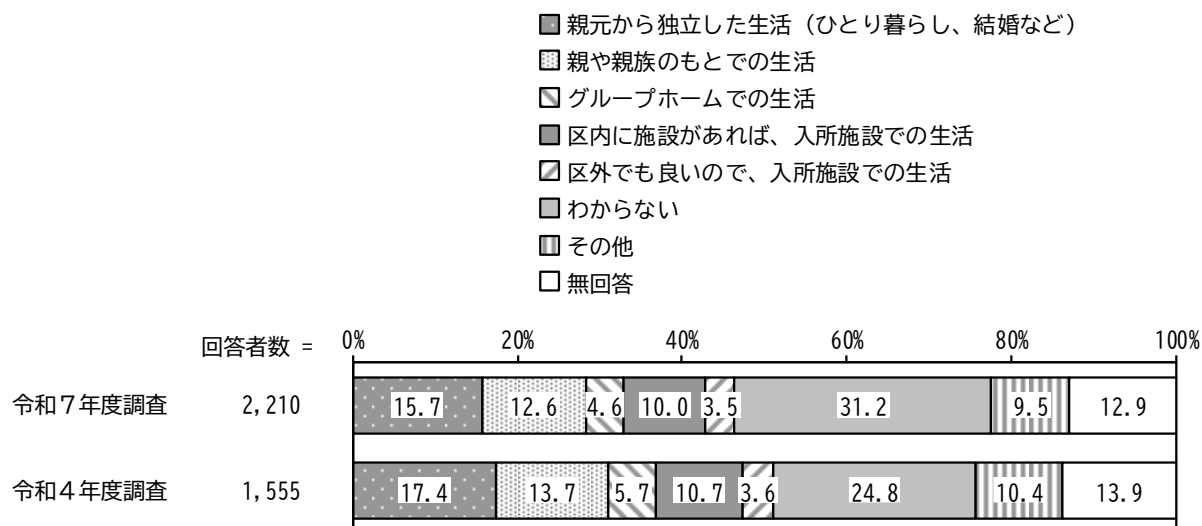
【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で“苦しい”の割合が高くなっています。



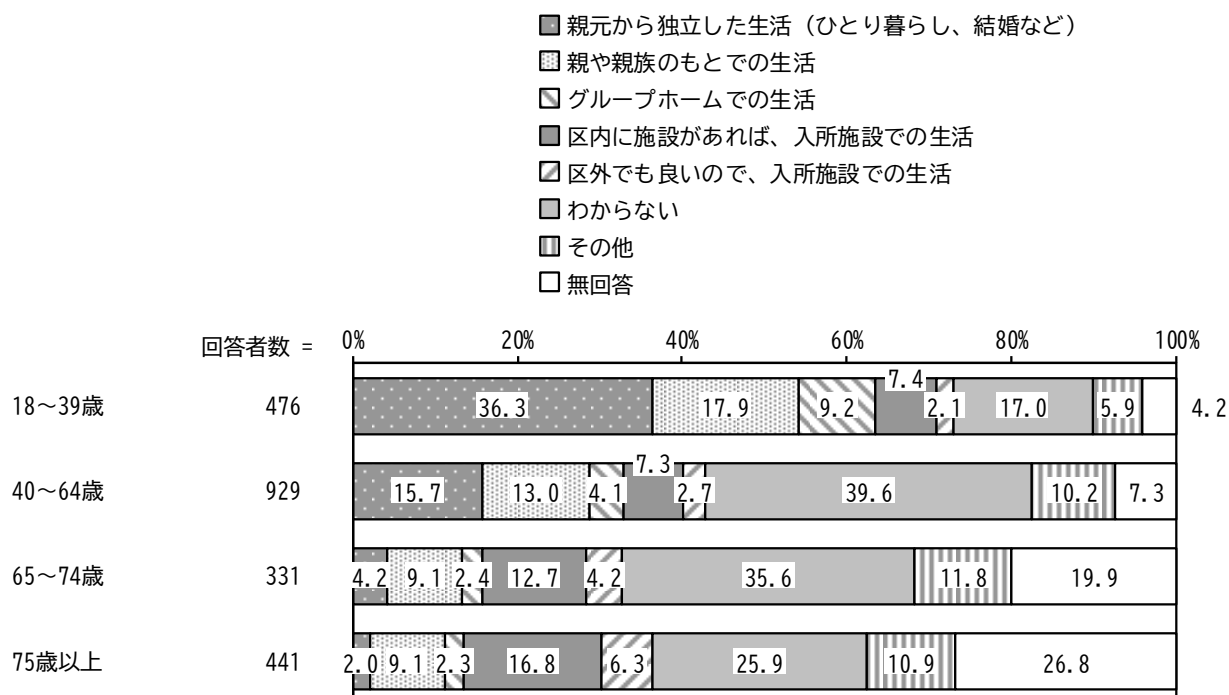
問 30 あなた（ご本人）は、将来どのような暮らしを希望していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。※今の暮らしを続けていきたい方は、今の状況をお答えください。

「親元から独立した生活（ひとり暮らし、結婚など）」の割合が 15.7%と最も高く、次いで「親や親族のもとでの生活」の割合が 12.6%、「区内に施設があれば、入所施設での生活」の割合が 10.0%となっています。



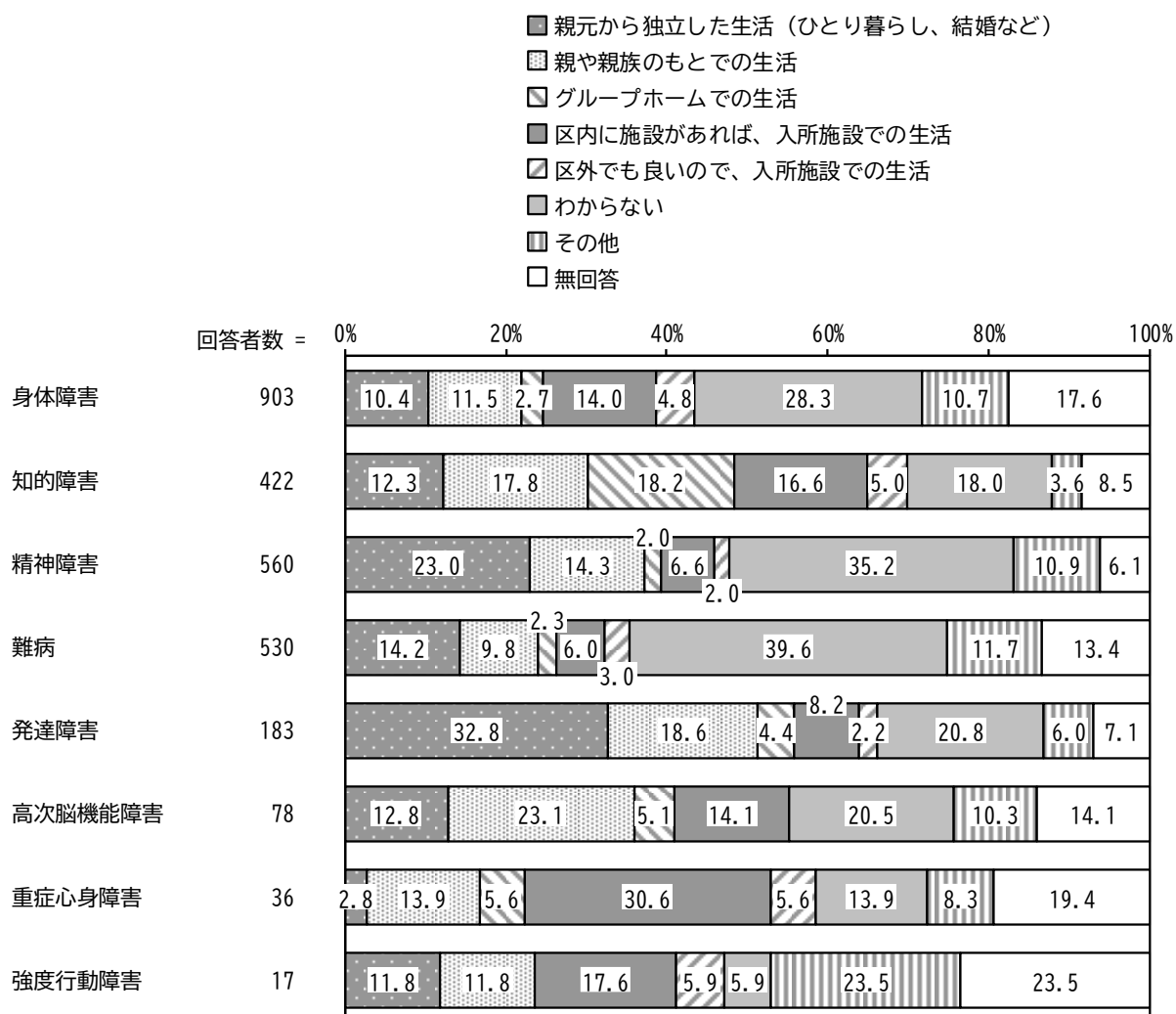
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「親元から独立した生活（ひとり暮らし、結婚など）」「親や親族のもとでの生活」の割合が高い傾向にあり、「40～64 歳」から 75 歳以上まで年齢が上がるほど「区内に施設があれば、入所施設での生活」の割合が高くなっています。



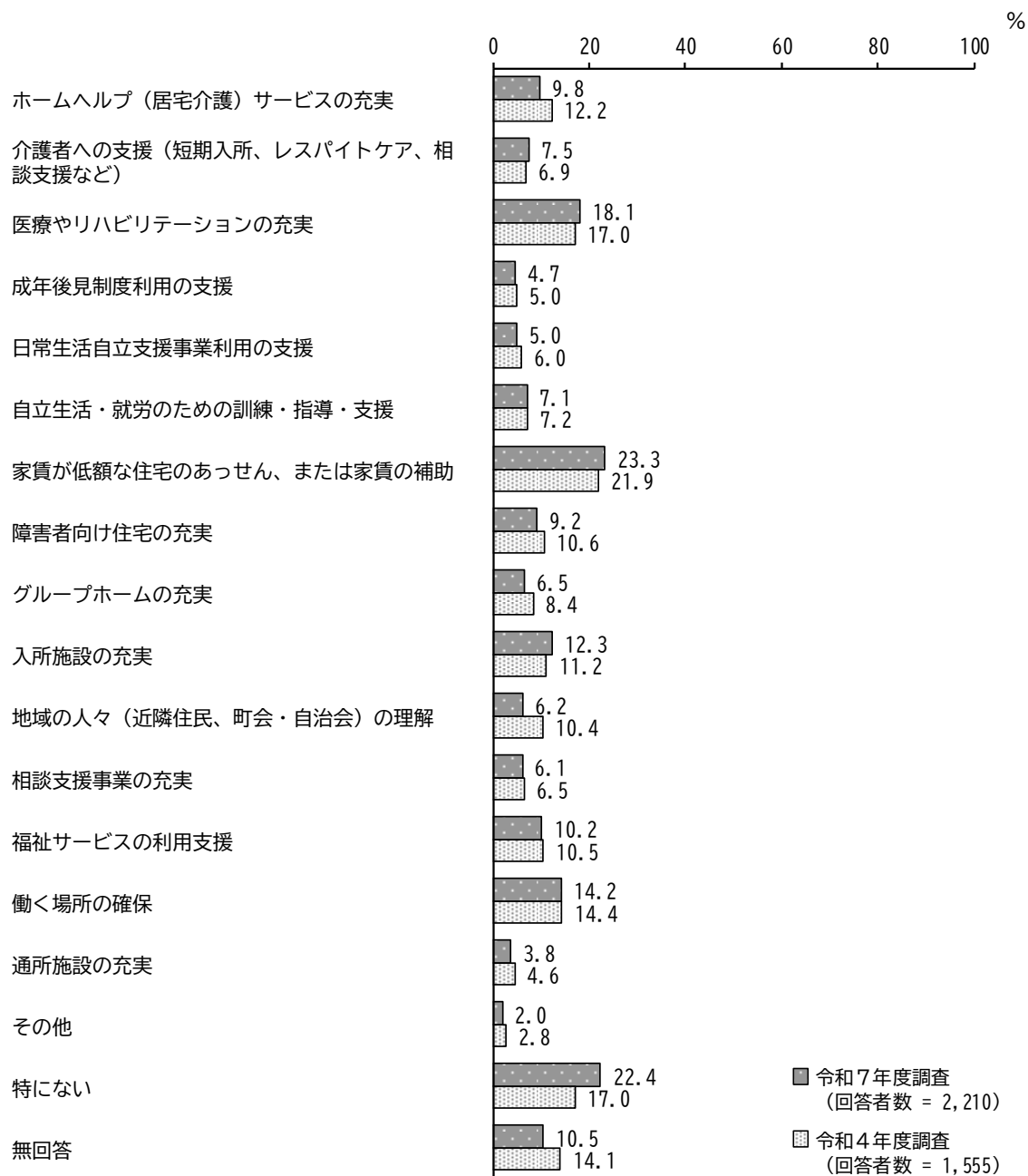
【障害種別】

障害種別にみると、発達障害で「親元から独立した生活（ひとり暮らし、結婚など）」、高次脳機能障害で「親や親族のもとでの生活」、知的障害で「グループホームでの生活」、重症心身障害で「区内に施設があれば、入所施設での生活」の割合が高くなっています。



問 31 あなた（ご本人）が希望する暮らしをするために必要なことは、何ですか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「家賃が低額な住宅のあっせん、または家賃の補助」の割合が 23.3%と最も高く、次いで「医療やリハビリテーションの充実」の割合が 18.1%、「働く場所の確保」の割合が 14.2%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「ホームヘルプ（居宅介護）サービスの充実」「医療やリハビリテーションの充実」の割合が高く、「家賃が低額な住宅のあっせん、または家賃の補助」「働く場所の確保」の割合が低く、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「介護者への支援（短期入所、レスパイトケア、相談支援など）」「入所施設の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	実 介護 ホームヘルプ（居宅 サービス）の充 実	介 護 者 へ の 支 援 （ 短 期 入 所 、 レ ス パ イ ト ケ ア 、 相 談 支 援 な ど）	医 療 や リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン の 充 実	成 年 後 見 制 度 利 用 の 支 援	日 常 生 活 自 立 支 援 事 業 利 用 の 支 援	自 立 生 活 ・ 就 労 の た め の 訓 練 ・ 指 導 ・ 支 援	家 賃 が 低 額 な 住 宅 の あ っ せ ん 、 ま た は 家 賃 の 補 助	障 害 者 向 け 住 宅 の 充 実	グ ル ー プ ホ ー ム の 充 実
全 体	2,210	9.8	7.5	18.1	4.7	5.0	7.1	23.3	9.2	6.5
18～39歳	476	6.3	10.3	9.5	7.4	6.5	12.2	31.1	10.5	13.0
40～64歳	929	6.4	4.5	17.1	5.7	5.2	8.2	27.7	9.4	6.5
65～74歳	331	11.5	6.9	23.6	1.8	4.5	2.4	13.9	10.0	2.4
75歳以上	441	19.3	11.1	24.5	1.8	3.6	2.5	12.9	7.3	2.9

区分	入 所 施 設 の 充 実	理 解 地 域 の 人 々 （ 近 隣 住 民 、 町 会 ・ 自 治 会 ） の	相 談 支 援 事 業 の 充 実	支 援 福 祉 サ ー ビ ス の 利 用	働 く 場 所 の 確 保	通 所 施 設 の 充 実	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	12.3	6.2	6.1	10.2	14.2	3.8	2.0	22.4	10.5
18～39歳	13.2	7.6	8.0	10.9	20.8	5.5	2.1	17.9	6.9
40～64歳	10.2	6.9	7.3	8.8	20.2	2.7	2.3	22.6	7.9
65～74歳	11.2	4.2	3.0	11.5	5.1	3.6	1.8	29.9	12.7
75歳以上	17.5	5.0	4.1	11.6	1.6	4.3	1.6	21.5	17.0

【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害、強度行動障害で「ホームヘルプ（居宅介護）サービスの充実」、重症心身障害で「介護者への支援（短期入所、レスパイトケア、相談支援など）」「入所施設の充実」、高次脳機能障害で「医療やリハビリテーションの充実」、発達障害で「自立生活・就労のための訓練・指導・支援」「働く場所の確保」、精神障害で「家賃が低額な住宅のあっせん、または家賃の補助」、強度行動障害で「障害者向け住宅の充実」、知的障害で「グループホームの充実」の割合が高くなっています。

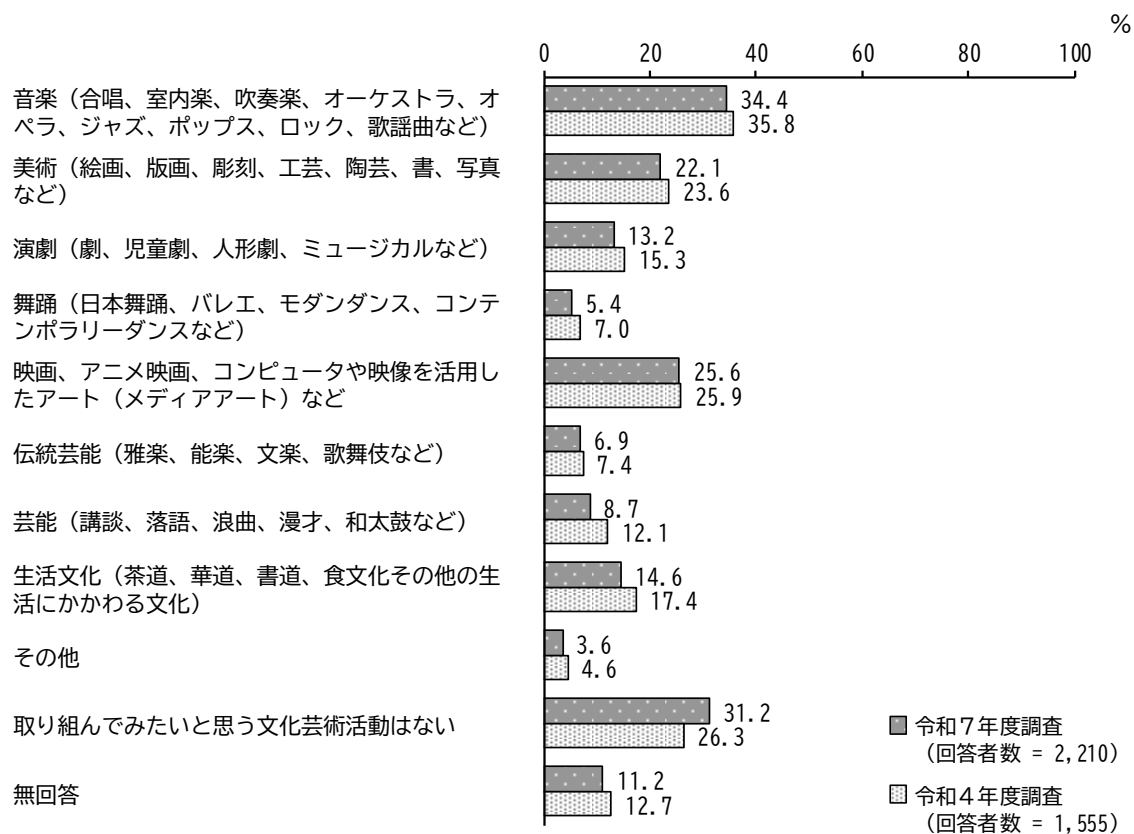
単位：％

区分	回答者数（件）	実 ホームヘルプ（居宅介護）サービスの充 実	介 護者への支援（短 期入所、レスパイト ケア、相談支援など）	医 療やリハビリテー ションの充実	成 年 後見制度利用の 支援	日 常生活自立支援事 業利用の支援	自 立生活・就労のた めの訓練・指導・支 援	家 賃が低額な住宅の あっせん、または家 賃の補助	実 障害者向け住宅の充 実	実 グル ープホームの充 実
全 体	2,210	9.8	7.5	18.1	4.7	5.0	7.1	23.3	9.2	6.5
身体障害	903	14.2	11.6	24.5	3.2	3.2	4.1	16.9	11.0	3.8
知的障害	422	8.1	15.2	8.3	12.8	3.8	6.9	15.9	12.3	23.7
精神障害	560	8.8	3.0	13.9	5.2	9.3	13.2	34.5	8.9	4.1
難病	530	8.9	5.1	23.2	3.2	3.4	5.7	22.5	5.8	2.8
発達障害	183	6.0	6.6	7.7	9.8	9.3	18.0	31.1	11.5	12.0
高次脳機能障害	78	7.7	10.3	43.6	3.8	6.4	16.7	21.8	14.1	7.7
重症心身障害	36	22.2	27.8	19.4	5.6	5.6	2.8	11.1	19.4	5.6
強度行動障害	17	23.5	5.9	0.0	11.8	5.9	0.0	11.8	23.5	5.9

区分	入 所施設の充実	地 域の人々（近隣住 民、町会・自治会）の 理解	相 談支援事業の充実	支 援 福祉サービスの利用	働 く場所の確保	通 所施設の充実	そ 他	特 に な い	無 回 答
全 体	12.3	6.2	6.1	10.2	14.2	3.8	2.0	22.4	10.5
身体障害	15.0	5.5	4.0	11.1	8.6	3.8	2.1	23.5	12.1
知的障害	26.5	10.4	8.1	10.2	9.7	7.6	1.7	14.2	9.7
精神障害	6.6	8.0	8.8	10.5	20.9	3.4	2.9	18.0	9.1
難病	8.5	3.0	5.1	9.8	14.0	2.6	2.1	29.1	8.9
発達障害	13.7	11.5	12.0	12.0	25.1	6.0	2.2	10.9	7.1
高次脳機能障害	11.5	5.1	2.6	2.6	14.1	10.3	3.8	9.0	12.8
重症心身障害	41.7	11.1	0.0	2.8	2.8	5.6	2.8	13.9	11.1
強度行動障害	29.4	11.8	5.9	5.9	0.0	5.9	5.9	5.9	29.4

問 32 あなた（ご本人）が取り組んでみたい（参加したい、鑑賞したい、体験したい）と思う文化芸術活動は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「音楽（合唱、室内楽、吹奏楽、オーケストラ、オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」の割合が 34.4%と最も高く、次いで「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など」の割合が 25.6%、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）」の割合が 22.1%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「音楽（合唱、室内楽、吹奏楽、オーケストラ、オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）」「演劇（劇、児童劇、人形劇、ミュージカルなど）」「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など」の割合が高く、「65～74 歳」から「18～39 歳」まで年齢が下がるほど「生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活にかかわる文化）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	音楽（合唱、室内楽、吹奏楽、オーケストラ、オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）	演劇（劇、児童劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど）	映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など
全 体	2,210	34.4	22.1	13.2	5.4	25.6
18～39歳	476	43.3	27.9	17.2	8.8	39.5
40～64歳	929	36.8	24.0	16.1	5.7	30.1
65～74歳	331	26.9	20.2	8.8	3.0	14.8
75歳以上	441	25.6	14.3	6.3	2.9	9.5

区分	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活にかかわる文化）	その他	取り組んでみたいと思う文化芸術活動はない	無回答
全 体	6.9	8.7	14.6	3.6	31.2	11.2
18～39歳	7.6	9.5	17.4	4.8	24.8	6.1
40～64歳	7.9	9.5	15.2	3.3	31.1	8.0
65～74歳	6.3	8.5	12.7	2.7	36.6	13.0
75歳以上	5.0	7.0	12.2	3.4	35.4	21.1

【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で「音楽（合唱、室内楽、吹奏楽、オーケストラ、オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」、発達障害で「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）」「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など」「芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）」の割合が高くなっています。

単位：％

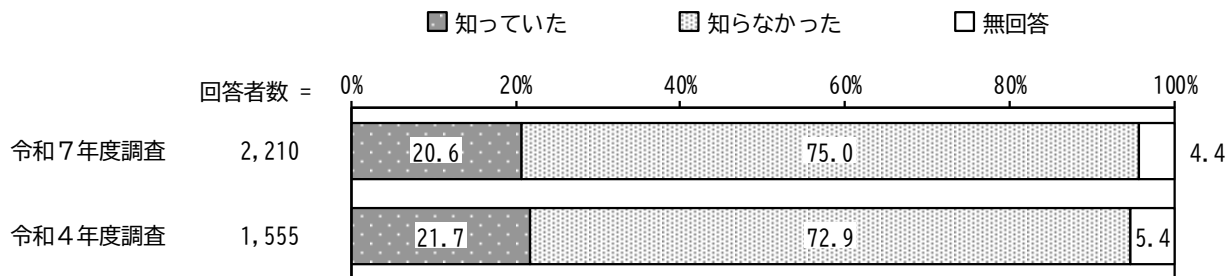
区分	回答者数（件）	音楽（合唱、室内楽、吹奏楽、オーケストラ、オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）	演劇（劇、児童劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど）	映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など
全 体	2,210	34.4	22.1	13.2	5.4	25.6
身体障害	903	30.5	20.9	11.8	4.5	19.5
知的障害	422	32.0	15.4	12.1	3.8	26.1
精神障害	560	39.8	24.6	14.8	6.4	33.2
難病	530	38.7	26.2	16.6	6.0	26.6
発達障害	183	39.3	30.1	16.9	7.7	43.7
高次脳機能障害	78	35.9	21.8	14.1	9.0	21.8
重症心身障害	36	38.9	13.9	13.9	5.6	16.7
強度行動障害	17	23.5	11.8	5.9	0.0	0.0

区分	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、浪曲、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活にかかわる文化）	その他	取り組んでみたいと思う文化芸術活動はない	無回答
全 体	6.9	8.7	14.6	3.6	31.2	11.2
身体障害	6.6	9.3	15.1	2.8	32.9	13.8
知的障害	1.4	6.2	4.5	4.7	32.7	14.5
精神障害	9.5	10.2	15.4	5.7	30.9	6.1
難病	7.2	7.4	17.7	1.9	28.5	8.9
発達障害	8.7	13.7	17.5	7.7	25.7	4.4
高次脳機能障害	5.1	11.5	14.1	5.1	32.1	20.5
重症心身障害	2.8	5.6	5.6	5.6	30.6	19.4
強度行動障害	0.0	5.9	0.0	17.6	29.4	29.4

(7) 災害時の支援について

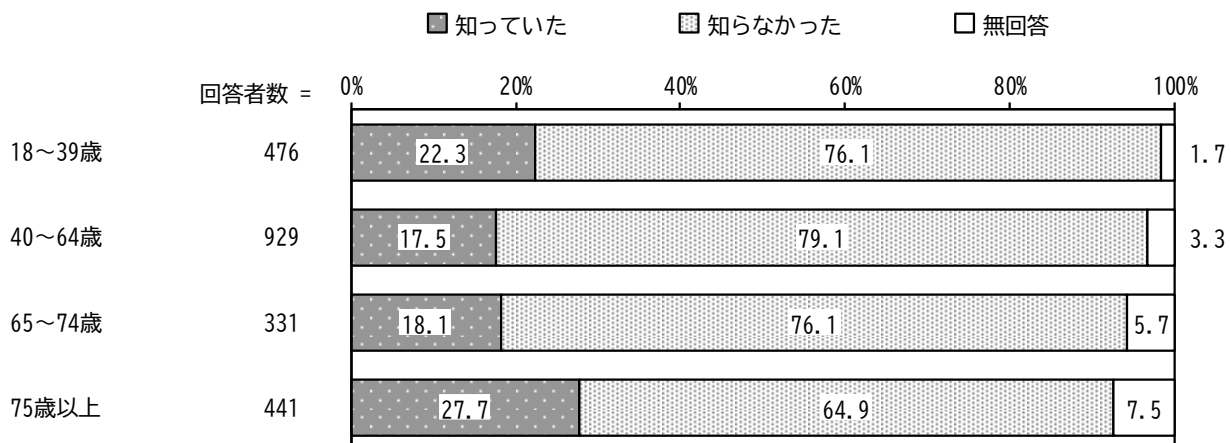
問 33 区では、災害が起きた時に避難することが難しい方、希望する方の情報を掲載した「避難行動要支援者名簿」を作成し、区役所や消防署、警察などで共有して災害時に役立てることとしています。この名簿について知っていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「知っていた」の割合が20.6%、「知らなかった」の割合が75.0%となっています。



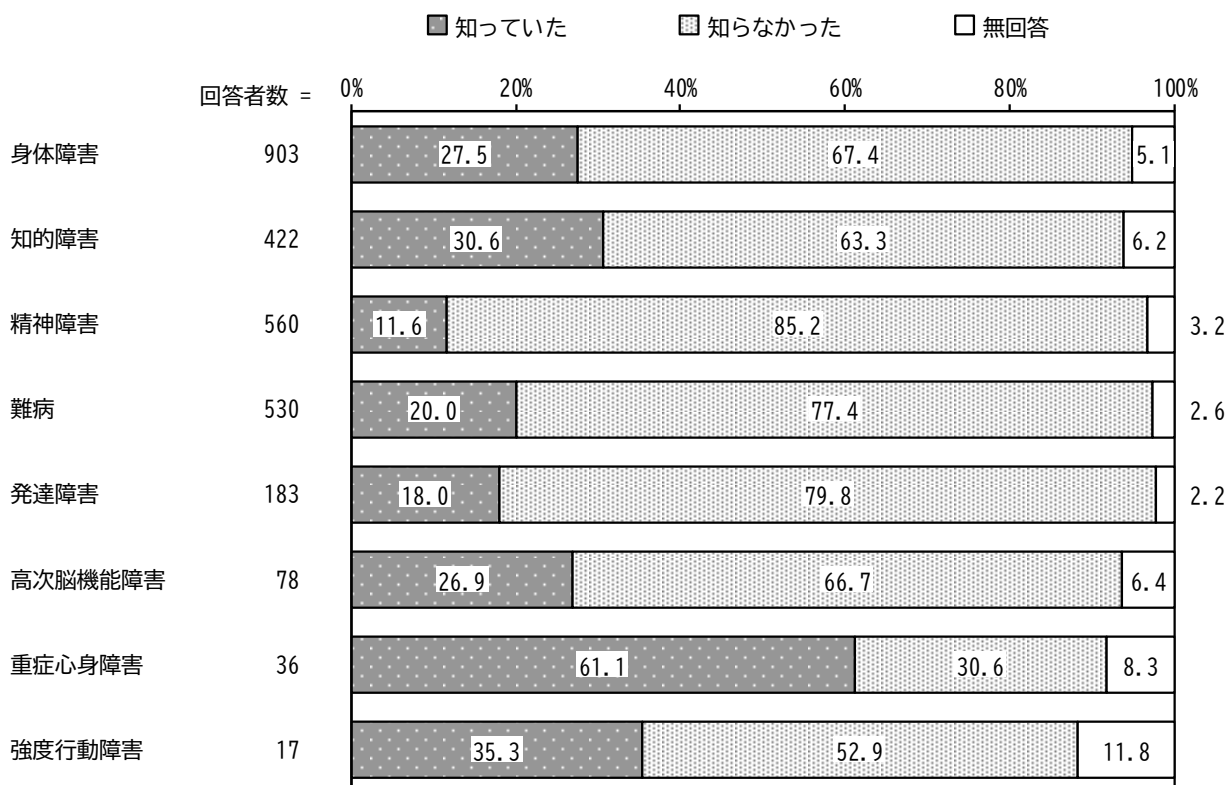
【年齢別】

年齢別にみると、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっています。



【障害種別】

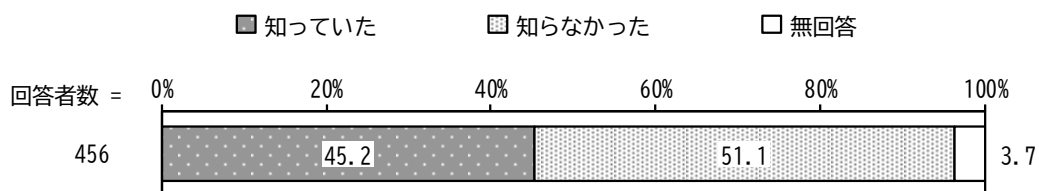
障害種別にみると、重症心身障害で「知っていた」、精神障害で「知らなかった」の割合が高くなっています。



問 33 で「知っていた」に○をつけた方にうかがいます。

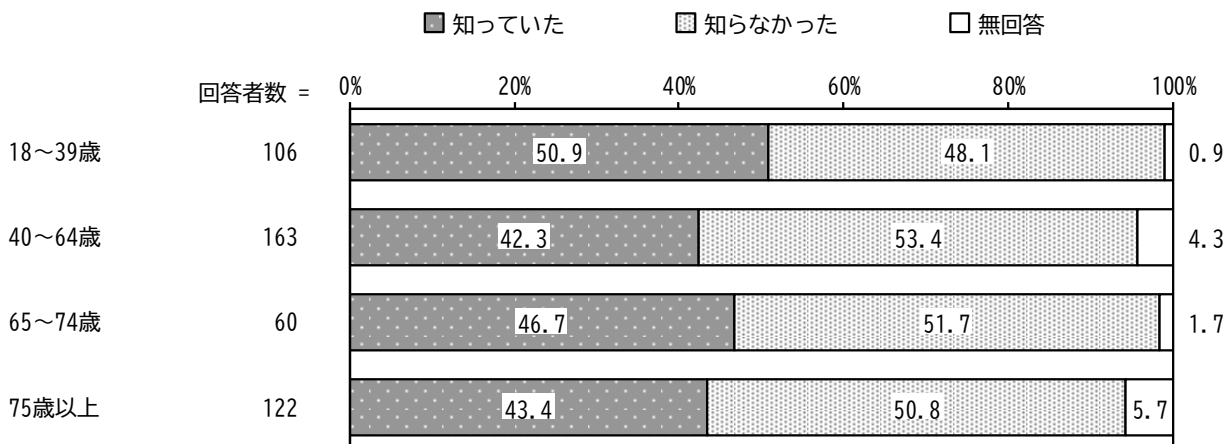
問 33－1 「避難行動要支援者名簿」に掲載された方は、地域の災害協力隊や福祉専門職（相談支援専門員等）の訪問や調査を経て、個々の状況に応じた避難方法や支援を計画する「個別避難計画」を作成してもらい、拠点避難所に名簿と計画（写）を設置します。「個別避難計画」について知っていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「知っていた」の割合が 45.2%、「知らなかった」の割合が 51.1%となっています。



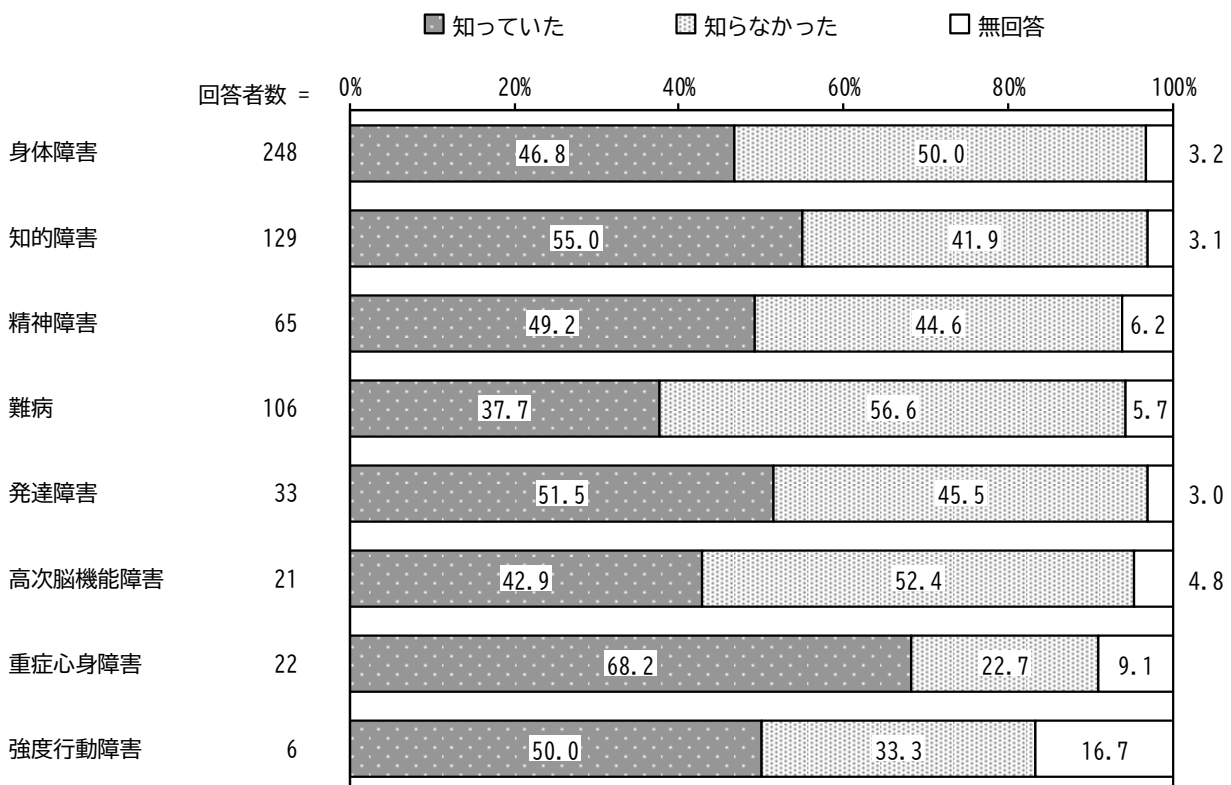
【年齢別】

年齢別にみると、「18～39 歳」で「知っていた」の割合が高くなっています。



【障害種別】

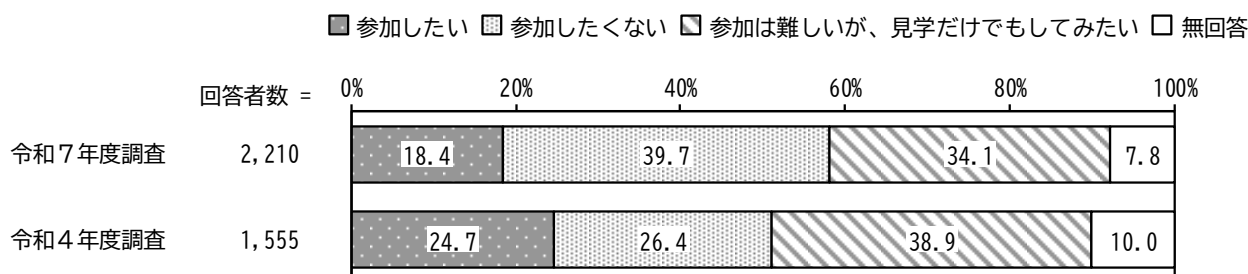
障害種別にみると、重症心身障害で「知っていた」の割合が高くなっています。



問 34 地域（町会・自治会）の防災訓練に参加してみたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

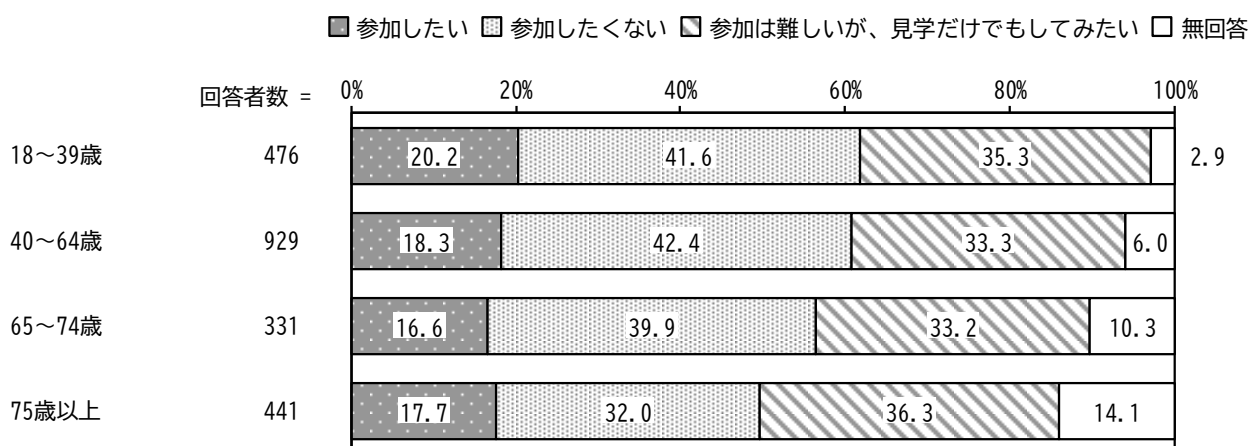
「参加したい」の割合が18.4%、「参加したくない」の割合が39.7%、「参加は難しいが、見学だけでもしてみたい」の割合が34.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「参加したくない」の割合が増加しています。一方、「参加したい」の割合が減少しています。



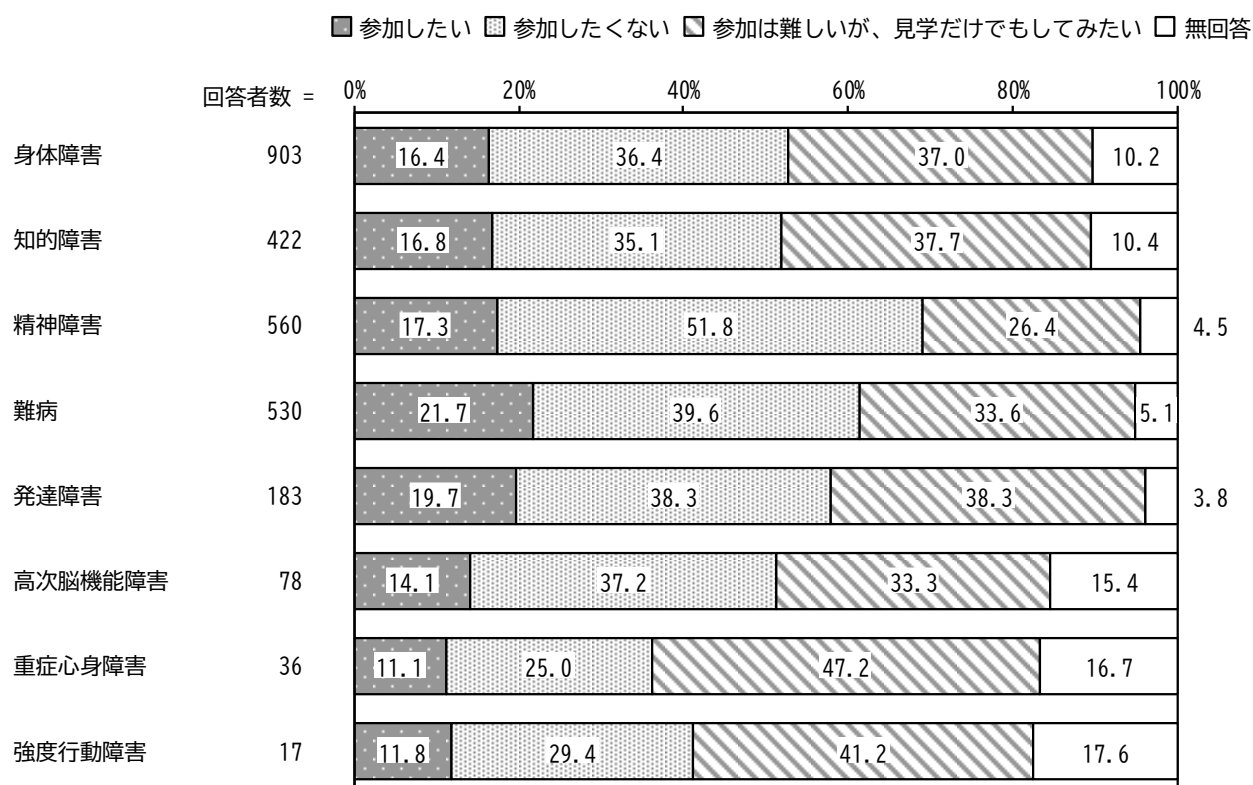
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「参加したくない」の割合が高くなっています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で「参加したくない」、重症心身障害で「参加は難しいが、見学だけでもしてみたい」の割合が高くなっています。



問 34 で「参加したくない」に○をつけた方にうかがいます。

問 34－1 参加したくないと思われる理由を記入してください。

・参加が面倒・億劫であることについて(111 件)

参加が大変なので

・移動・歩行・外出の困難について(102 件)

移動が困難

・人間関係・近所付き合いの煩わしさについて(99 件)

あまり地域の方と接点がないから

・身体的負担・体力不足について(97 件)

以前に防災訓練には参加していたが、今は体力がない。

・障害・病気・体調面の不安について(85 件)

本人の参加も見学も難しいため。家族が参加や見学をするのは可能。

・見知らぬ人・集団・人混みへの苦手意識について(85 件)

知らない人との集まりに参加するのは気が引ける。

・参加時間の確保・多忙・スケジュール調整について(78 件)

時間に制約がある

・コミュニケーション・意思疎通の困難さについて(39 件)

他者とのコミュニケーションが困難なため

・職場・施設・マンション等で既に訓練済みであることについて(36 件)

マンションで防災訓練は行われているため

・精神的負担・パニック・ストレスについて(34 件)

本人を連れて参加は難しく、参加する事による後の精神状態の変化でパニック等につながる事もあるため

・訓練内容の実用性・意義への疑問について(33 件)

参加しても災害が防げないのではと思っているから

・自治会・町会などの組織に対する不満・不信感について(26 件)

自治会がどこまで機能しているか全く分からないから

・障害への周囲の無理解・偏見・視線について(25 件)

障害への理解が足りないと思うから

・訓練への関心・興味のなさについて(23 件)

興味がないため

・介助者・支援者・同行者の不在について(20 件)

家族や支援者がいないと参加できないから。

・参加によって周囲へ迷惑をかける懸念について(18 件)

迷惑をかける可能性があるため

・情報不足・参加方法や内容が不明であることについて(16 件)

いつ行われているのか分からない

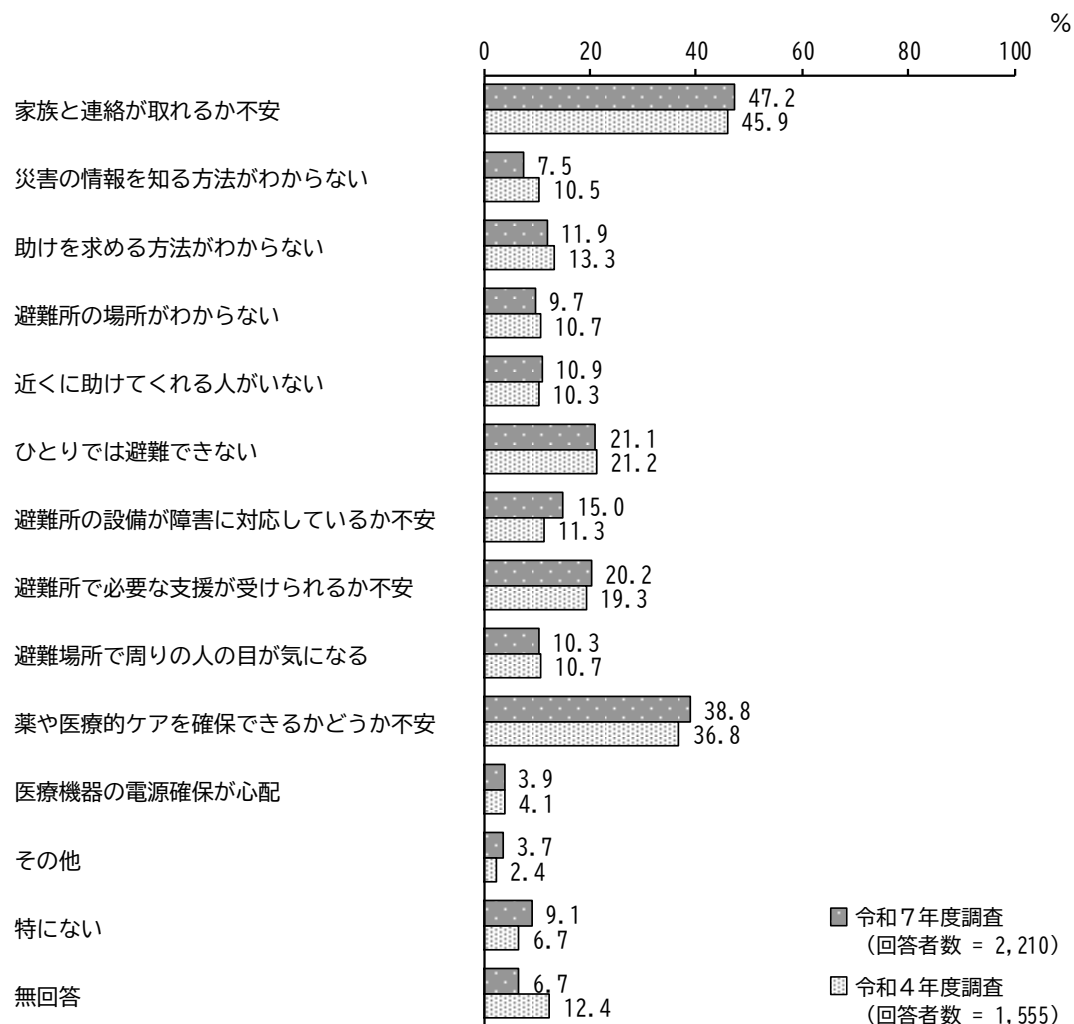
・感染症やケガなど二次的リスクの懸念について(10 件)

避難訓練などで後ろから押されそうになるから

・その他(33 件)

問 35 あなた（ご本人）が、地震などの災害が発生した時に困ることや不安なことは何ですか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「家族と連絡が取れるか不安」の割合が 47.2%と最も高く、次いで「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」の割合が 38.8%、「ひとりでは避難できない」の割合が 21.1%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「家族と連絡が取れるか不安」「避難場所で周りの人の目が気になる」の割合が高く、「40～64 歳」から「75 歳以上」まで年齢が上がるほど「ひとりでは避難できない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族と連絡が取れるか不安	災害の情報を 知ることが わからない	助けを 求める方法 がわからない	避難所の場所がわからない	近くに 助けてくれる 人がいない	ひとりでは避難できない	避難所の設備が 害に対応している か不安
全 体	2,210	47.2	7.5	11.9	9.7	10.9	21.1	15.0
18～39歳	476	56.3	7.8	14.3	10.1	8.4	25.6	15.1
40～64歳	929	49.6	7.9	12.5	9.4	12.4	14.1	13.5
65～74歳	331	40.8	6.3	7.3	10.6	9.1	19.3	17.8
75歳以上	441	38.1	7.0	11.8	9.3	11.3	32.7	16.6

区分	避難所で必要な支援が受けられるか不安	避難場所で周りの人の目が気になる	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	医療機器の電源確保が心配	その他	特にない	無回答
全 体	20.2	10.3	38.8	3.9	3.7	9.1	6.7
18～39歳	18.7	15.5	33.4	3.4	4.8	6.7	4.4
40～64歳	19.3	12.4	43.2	4.1	4.4	9.8	5.4
65～74歳	25.1	5.7	44.4	6.0	1.8	10.3	7.6
75歳以上	21.1	3.9	32.0	2.7	2.7	9.5	10.7

【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で「助けを求める方法がわからない」「ひとりでは避難できない」、重症心身障害で「避難所の設備が障害に対応しているか不安」「医療機器の電源確保が心配」、高次脳機能障害で「避難所で必要な支援が受けられるか不安」、発達障害で「避難場所で周りの人の目が気になる」、難病で「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」の割合が高くなっています。

単位：％

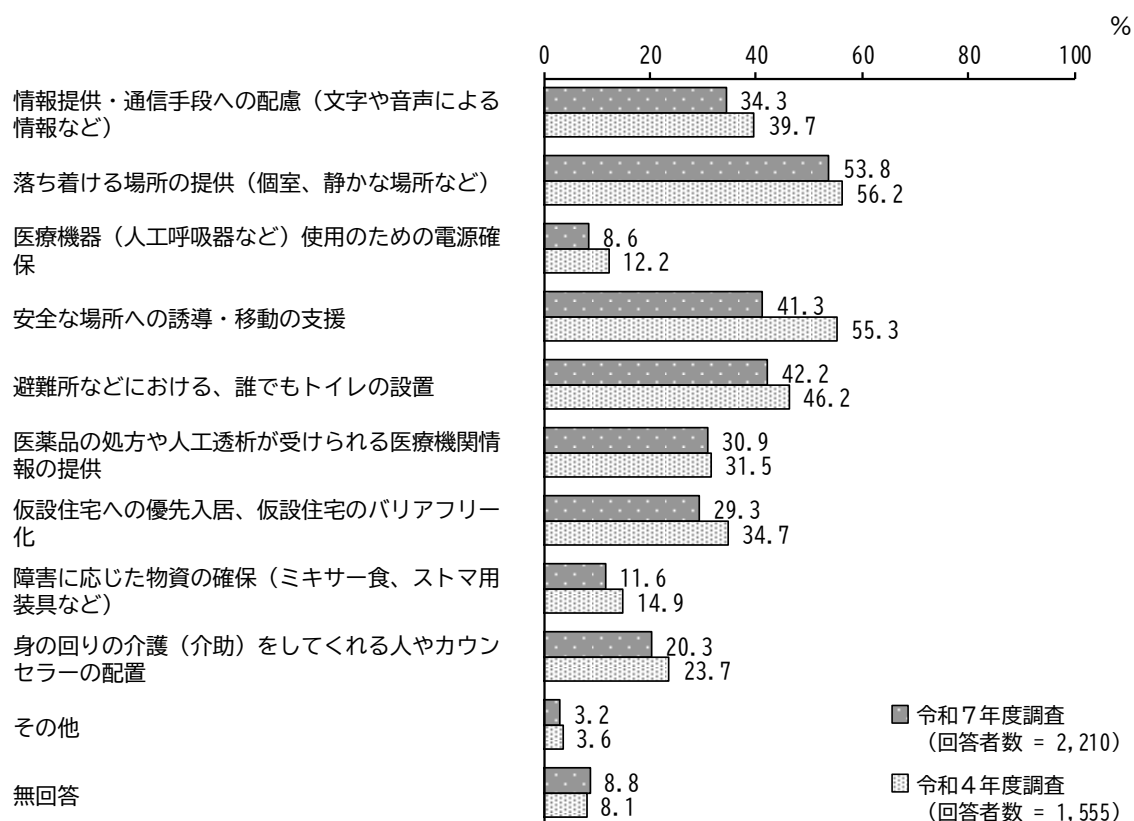
区分	回答者数 (件)	家族と連絡が 取れるか不安	災害の情報を知 る方法がわから ない	助けを求め る方法がわ からない	避難所の場 所がわから ない	近くに助け てくれる人 がいない	ひとりでは 避難できな い	避難所の設 備が障害に 対応してい るか不安
全 体	2,210	47.2	7.5	11.9	9.7	10.9	21.1	15.0
身体障害	903	41.3	7.2	11.8	8.6	8.7	27.6	20.7
知的障害	422	50.2	7.8	18.5	11.8	7.8	41.2	16.1
精神障害	560	48.2	7.5	13.9	10.9	16.1	12.5	11.4
難病	530	49.6	4.9	6.6	7.7	8.5	11.7	10.9
発達障害	183	51.9	9.8	14.8	12.6	12.6	20.2	13.1
高次脳機能障害	78	38.5	3.8	15.4	7.7	7.7	26.9	23.1
重症心身障害	36	25.0	0.0	8.3	2.8	2.8	41.7	27.8
強度行動障害	17	23.5	0.0	23.5	5.9	0.0	47.1	5.9

区分	避難所で必要 な支援が受け られるか不安	避難場所 で周りの人 の目が気にな る	薬や医療的 ケアを確保 できるかど うか不安	医療機器 の電源確保 が心配	その他	特 に な い	無 回 答
全 体	20.2	10.3	38.8	3.9	3.7	9.1	6.7
身体障害	22.6	6.0	33.7	5.3	2.8	10.0	7.9
知的障害	19.7	16.1	17.5	2.6	2.6	5.9	9.5
精神障害	19.6	16.4	46.3	2.9	5.0	7.9	6.4
難病	22.3	6.2	57.5	5.5	5.1	8.3	4.3
発達障害	21.3	21.9	30.1	0.5	6.0	11.5	3.8
高次脳機能障害	32.1	2.6	44.9	7.7	6.4	10.3	5.1
重症心身障害	25.0	0.0	22.2	13.9	0.0	5.6	19.4
強度行動障害	17.6	11.8	17.6	5.9	0.0	5.9	29.4

問 36 災害時には、どのような支援が必要ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「落ち着ける場所の提供（個室、静かな場所など）」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「避難所などにおける、誰でもトイレの設置」の割合が 42.2%、「安全な場所への誘導・移動の支援」の割合が 41.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「情報提供・通信手段への配慮（文字や音声による情報など）」「安全な場所への誘導・移動の支援」「仮設住宅への優先入居、仮設住宅のバリアフリー化」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「情報提供・通信手段への配慮（文字や音声による情報など）」「避難所などにおける、誰でもトイレの設置」の割合が高く、「落ち着ける場所の提供（個室、静かな場所など）」の割合が低く、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「安全な場所への誘導・移動の支援」「身の回りの介護（介助）をしてくれる人やカウンセラーの配置」の割合が高く、「医薬品の処方や人工透析が受けられる医療機関情報の提供」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	情報提供・通信手段への配慮（文字や音声による情報など）	落ち着ける場所の提供（個室、静かな場所など）	医療機器（人工呼吸器など）使用のための電源確保	安全な場所への誘導・移動の支援	避難所などにおける、誰でもトイレの設置	医薬品の処方や人工透析が受けられる医療機関情報の提供	仮設住宅への優先入居、仮設住宅のバリアフリー化	障害に応じた物資の確保（ミキサー食、ストマ用器具など）	身の回りの介護（介助）をしてくれる人やカウンセラーの配置	その他	無回答
全 体	2,210	34.3	53.8	8.6	41.3	42.2	30.9	29.3	11.6	20.3	3.2	8.8
18～39歳	476	29.4	64.3	9.5	44.7	36.6	29.6	24.8	13.7	20.6	2.9	5.5
40～64歳	929	34.9	56.9	8.0	36.7	41.9	37.7	33.3	10.7	17.2	3.4	7.5
65～74歳	331	36.6	47.4	7.6	39.0	45.6	28.4	25.1	11.2	17.5	3.0	10.6
75歳以上	441	36.7	41.7	9.3	50.3	46.7	20.9	29.3	12.0	29.0	3.2	13.2

【障害種別】

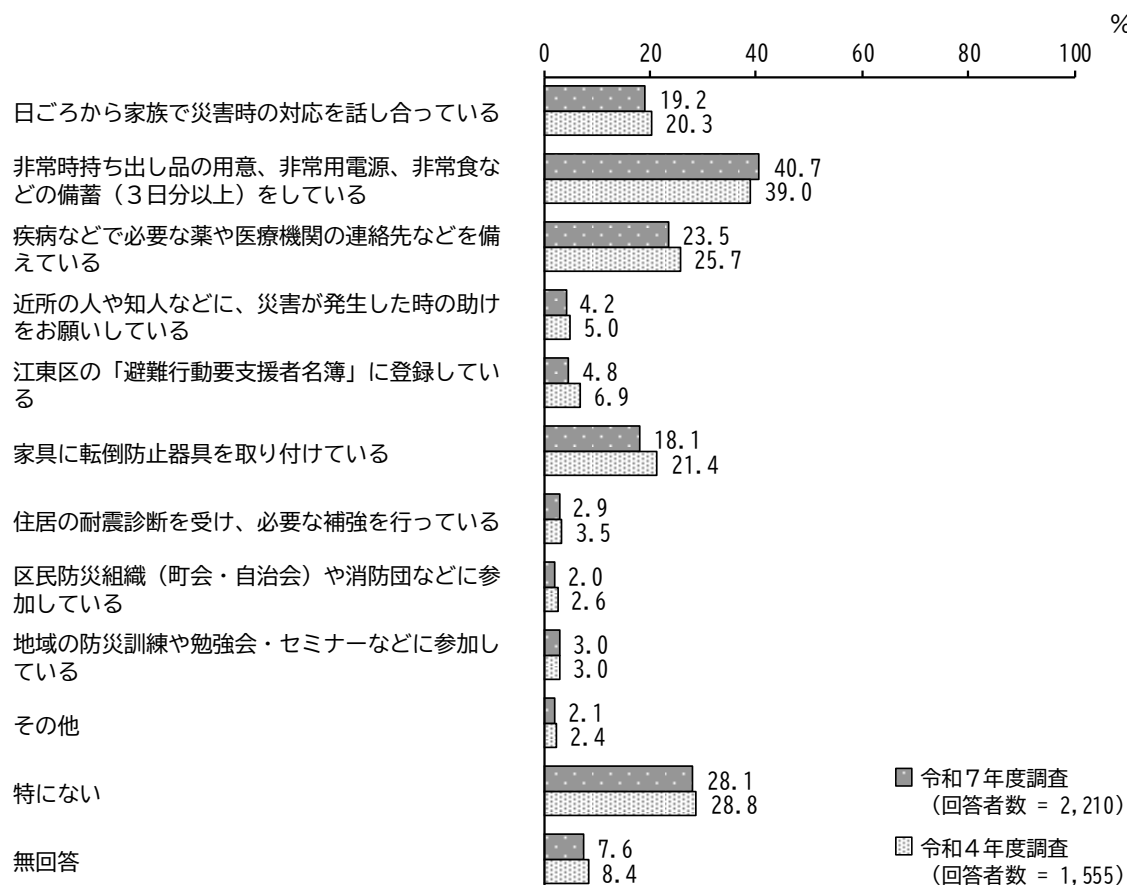
障害種別にみると、精神障害、発達障害で「落ち着ける場所の提供（個室、静かな場所など）」、重症心身障害で「医療機器（人工呼吸器など）使用のための電源確保」「障害に応じた物資の確保（ミキサー食、ストマ用装具など）」、知的障害、高次脳機能障害で「安全な場所への誘導・移動の支援」、高次脳機能障害で「避難所などにおける、誰でもトイレの設置」、難病で「医薬品の処方や人工透析が受けられる医療機関情報の提供」、高次脳機能障害、重症心身障害で「仮設住宅への優先入居、仮設住宅のバリアフリー化」、強度行動障害で「身の回りの介護（介助）をしてくれる人やカウンセラーの配置」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	情報提供・通信手段への配慮（文字や音声による情報など）	落ち着ける場所の提供（個室、静かな場所など）	医療機器（人工呼吸器など）使用のための電源確保	安全な場所への誘導・移動の支援	避難所などにおける、誰でもトイレの設置	医薬品の処方や人工透析が受けられる医療機関情報の提供	仮設住宅への優先入居、仮設住宅のバリアフリー化	障害に応じた物資の確保（ミキサー食、ストマ用装具など）	身の回りの介護（介助）をしてくれる人やカウンセラーの配置	その他	無回答
全 体	2,210	34.3	53.8	8.6	41.3	42.2	30.9	29.3	11.6	20.3	3.2	8.8
身体障害	903	40.1	46.6	10.7	46.4	46.0	26.4	33.2	15.5	26.7	3.2	8.4
知的障害	422	29.4	58.8	6.6	55.9	42.2	14.9	28.4	15.2	31.8	3.8	10.7
精神障害	560	30.9	68.8	7.5	38.0	38.9	38.4	29.1	8.4	19.8	3.4	6.4
難病	530	30.6	47.4	10.4	30.6	44.9	44.0	27.0	10.4	13.8	3.4	7.7
発達障害	183	32.8	69.9	7.7	47.0	38.3	29.5	27.9	10.9	28.4	5.5	4.4
高次脳機能障害	78	35.9	60.3	11.5	57.7	53.8	33.3	41.0	14.1	29.5	5.1	9.0
重症心身障害	36	30.6	52.8	25.0	50.0	44.4	36.1	41.7	38.9	55.6	11.1	11.1
強度行動障害	17	23.5	41.2	17.6	52.9	29.4	23.5	29.4	23.5	58.8	11.8	11.8

問 37 あなた（ご本人）は、災害に対してどのような備えをしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「非常時持ち出し品の用意、非常用電源、非常食などの備蓄（3日分以上）をしている」の割合が40.7%と最も高く、次いで「疾病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」の割合が23.5%、「日ごろから家族で災害時の対応を話し合っている」の割合が19.2%となっています。



※令和4年度調査では、「非常時持ち出し品の用意、非常用電源、非常食などの備蓄（3日分以上）をしている」が「非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄（3日分程度）をしている」となっていました。

【年齢別】

年齢別にみると、「18～39 歳」から「65～74 歳」まで年齢が上がるほど「疾病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」の割合が高く、「非常時持ち出し品の用意、非常用電源、非常食などの備蓄（3日分以上）をしている」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	日ごろから家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常用電源、非常食などの備蓄（3日分以上）をしている	疾病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人などに、災害が発生した時の助けをお願いしている	江東区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている
全 体	2,210	19.2	40.7	23.5	4.2	4.8	18.1
18～39歳	476	20.6	43.9	21.4	4.2	8.6	15.5
40～64歳	929	19.2	41.2	23.4	4.0	3.2	18.3
65～74歳	331	17.2	39.3	26.9	3.9	2.1	18.4
75歳以上	441	20.0	38.8	24.0	4.5	6.1	21.5

区分	住居の耐震診断を受けて、必要な補強を行っている	区民防災組織（町会・自治会）や消防団などに参加している	地域の防災訓練や勉強会・セミナーなどに参加している	その他	特にない	無回答
全 体	2.9	2.0	3.0	2.1	28.1	7.6
18～39歳	1.5	0.8	2.9	2.3	29.4	3.4
40～64歳	2.9	1.9	2.5	2.3	28.5	6.7
65～74歳	2.7	2.1	2.7	1.8	31.4	7.3
75歳以上	4.5	3.4	4.3	1.8	23.4	12.2

【障害種別】

障害種別にみると、難病で「非常時持ち出し品の用意、非常用電源、非常食などの備蓄（3日分以上）をしている」「疾病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」「家具に転倒防止器具を取り付けている」、重症心身障害で「近所の人や知人などに、災害が発生した時の助けをお願いしている」「江東区の「避難行動要支援者名簿」に登録している」の割合が高くなっています。

単位：％

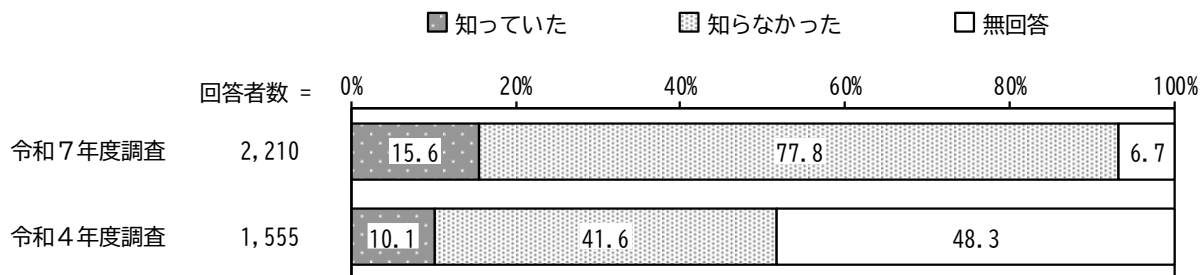
区分	回答者数（件）	日ごろから家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常用電源、非常食などの備蓄（3日以上）をしている	疾病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人などに、災害が発生した時の助けをお願いしている	江東区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている
全 体	2,210	19.2	40.7	23.5	4.2	4.8	18.1
身体障害	903	20.6	42.5	24.7	5.2	7.2	20.6
知的障害	422	17.3	38.9	14.7	7.6	11.1	13.5
精神障害	560	16.4	36.3	22.7	3.6	1.8	12.7
難病	530	20.9	50.9	33.4	3.0	2.3	25.1
発達障害	183	20.8	41.5	21.3	6.6	4.9	14.2
高次脳機能障害	78	19.2	30.8	28.2	3.8	6.4	16.7
重症心身障害	36	11.1	41.7	25.0	22.2	30.6	8.3
強度行動障害	17	17.6	47.1	29.4	5.9	5.9	5.9

区分	住居の耐震診断を受けている、必要な補強を行っている	区民防災組織（町会・自治会）や消防団などに参加している	地域の防災訓練や勉強会・セミナーなどに参加している	その他	特にない	無回答
全 体	2.9	2.0	3.0	2.1	28.1	7.6
身体障害	3.9	2.4	3.9	1.8	25.4	8.7
知的障害	1.9	1.7	3.3	3.1	29.1	10.0
精神障害	2.3	1.4	3.2	3.2	34.8	6.1
難病	2.3	2.8	2.1	1.7	21.1	4.2
発達障害	2.7	2.2	4.4	3.3	32.2	4.4
高次脳機能障害	1.3	0.0	3.8	2.6	32.1	10.3
重症心身障害	0.0	2.8	5.6	2.8	19.4	19.4
強度行動障害	0.0	0.0	5.9	11.8	11.8	17.6

(8) 障害者施策について

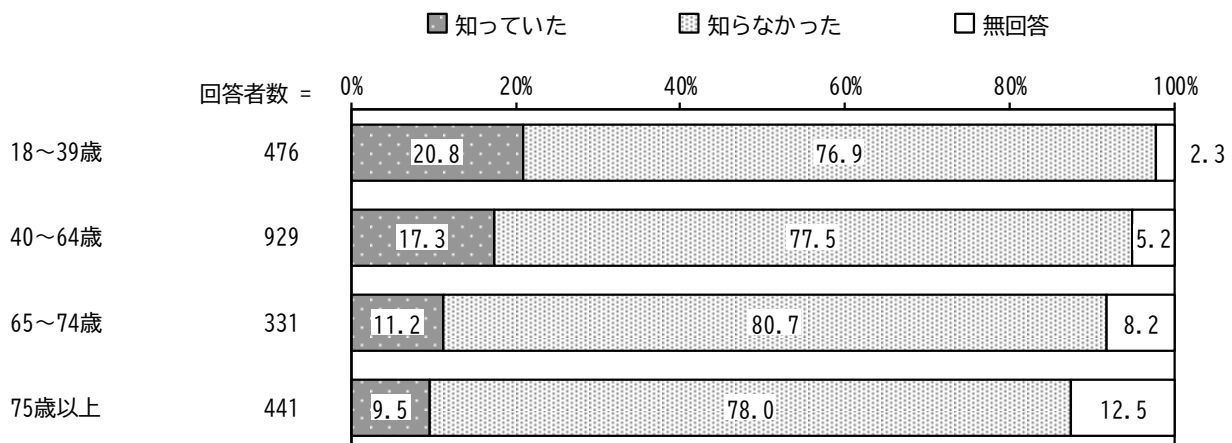
問 38 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が改正され、令和6年4月から事業者による障害者への合理的配慮の提供が義務となりました。このことを知っていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「知っていた」の割合が15.6%、「知らなかった」の割合が77.8%となっています。
令和4年度調査と比較すると、「知らなかった」の割合が増加しています。



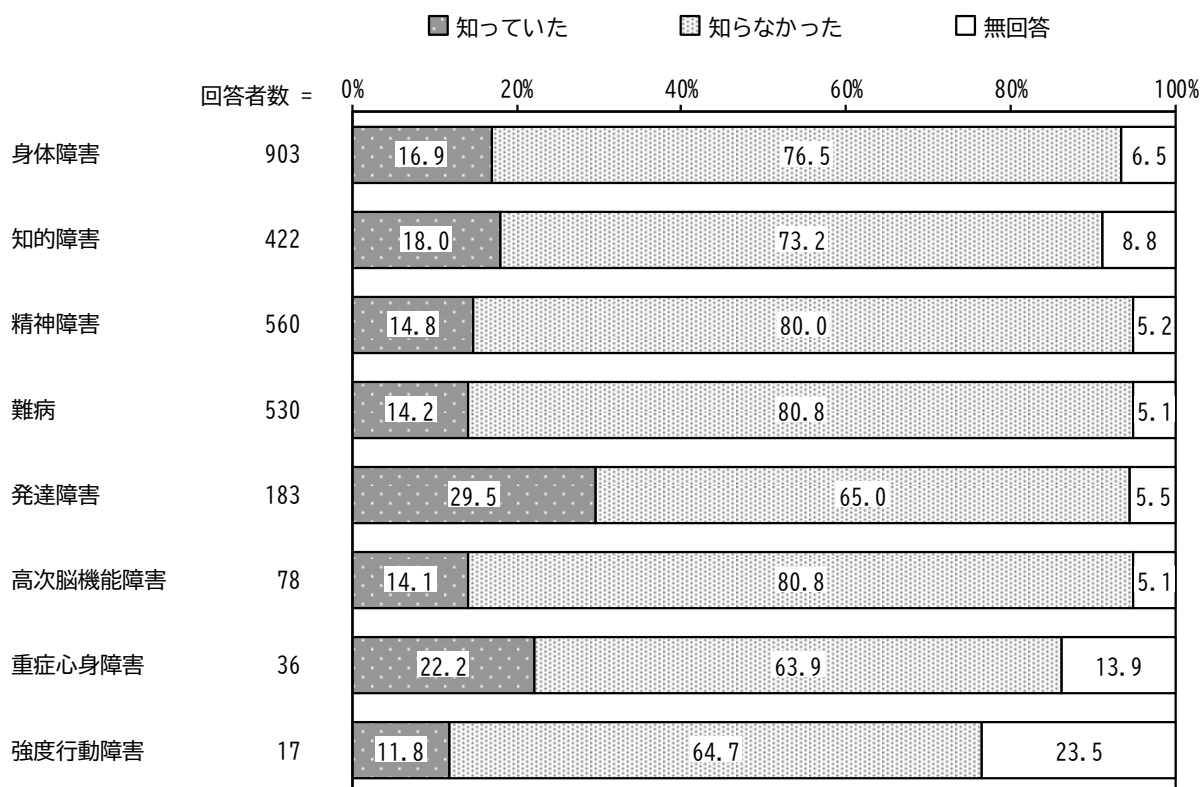
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っていた」の割合が高くなっています。



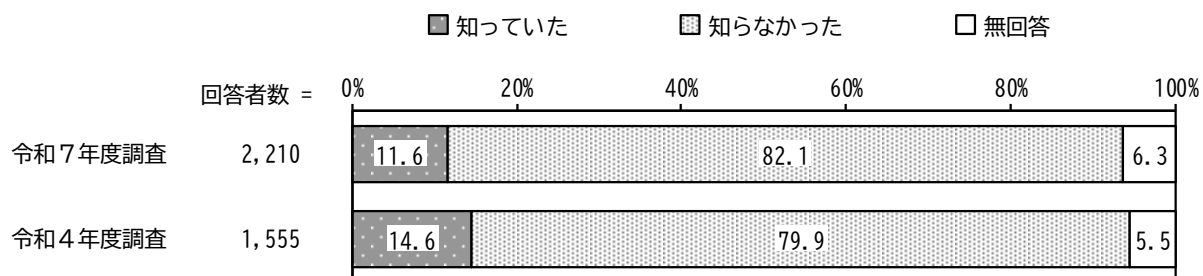
【障害種別】

障害種別にみると、発達障害で「知っていた」の割合が高くなっています。



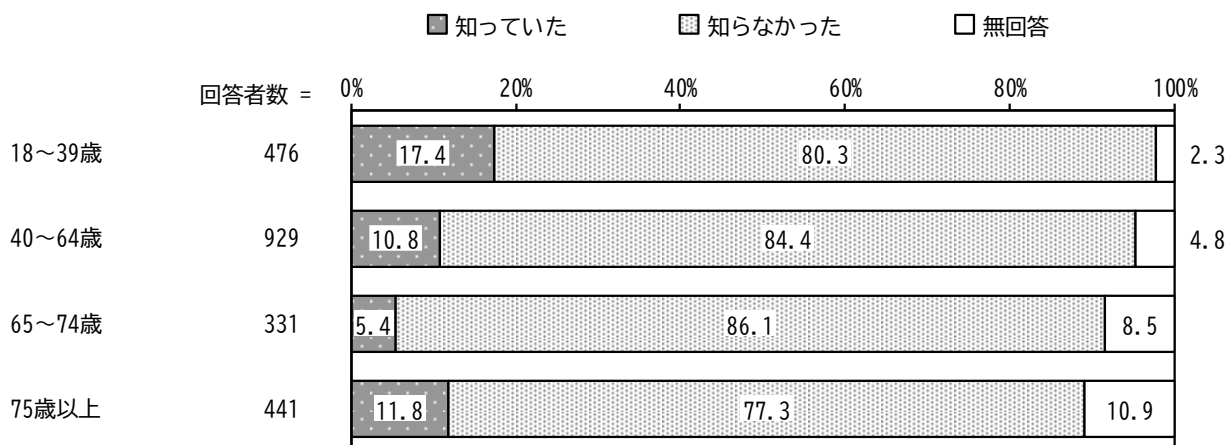
問 39 区では、「障害者虐待防止センター」を障害者支援課の中に設置し、虐待の通報受付や、虐待防止のための相談などを行っています。このことを知っていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「知っていた」の割合が11.6%、「知らなかった」の割合が82.1%となっています。



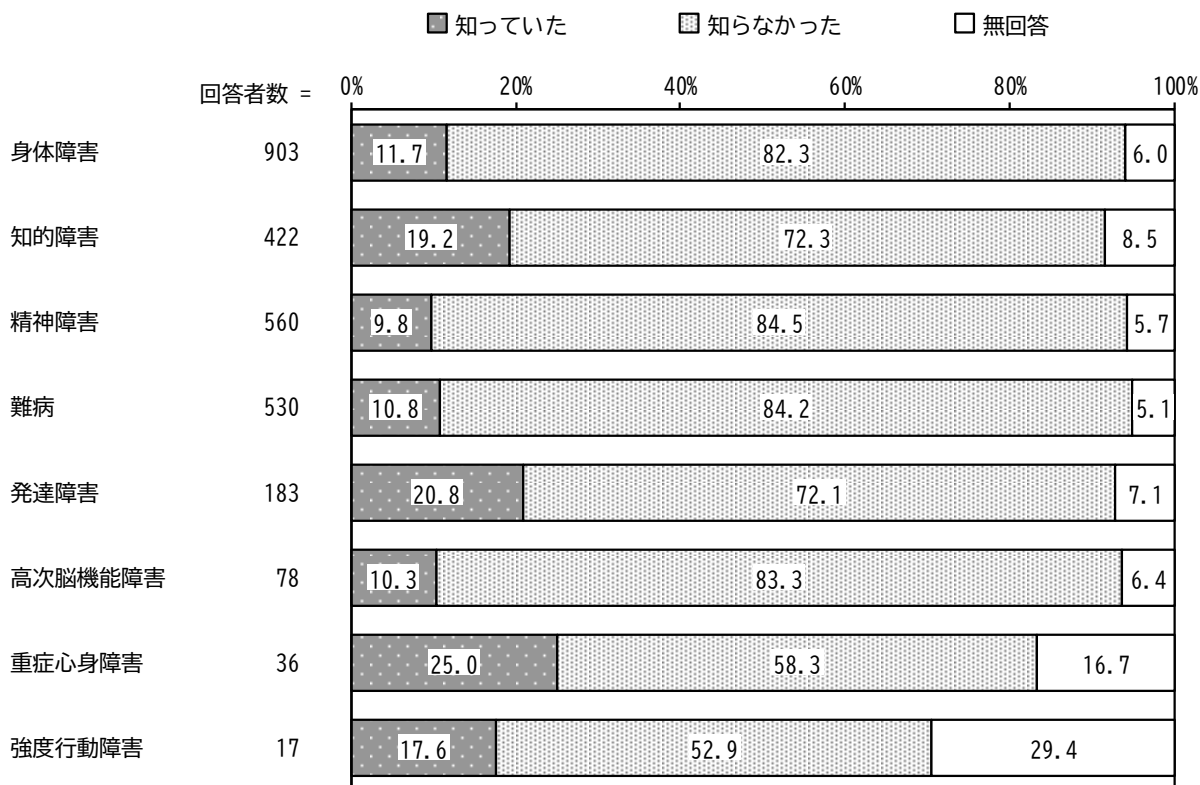
【年齢別】

年齢別にみると、「18～39 歳」から「65～74 歳」まで年齢が上がるほど「知らなかった」の割合が高くなっています。



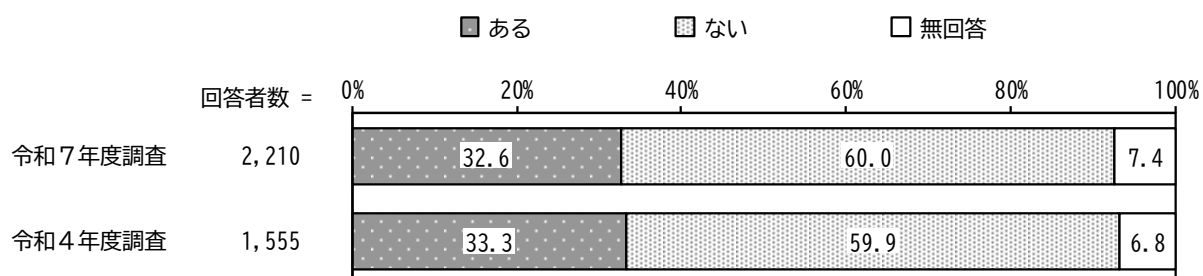
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「知っていた」の割合が高くなっています。



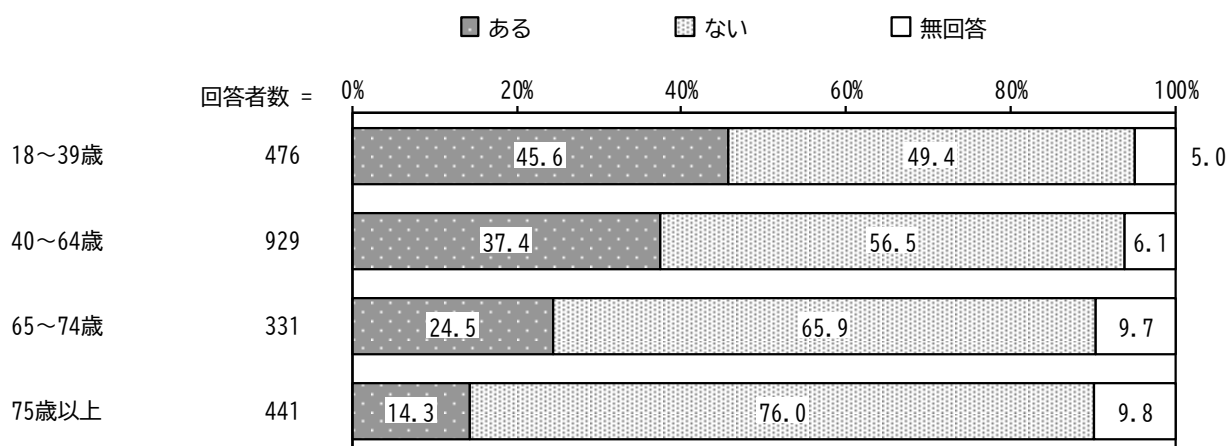
問 40 あなた（ご本人）は、これまでに差別をされたと感じた経験はありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「ある」の割合が 32.6%、「ない」の割合が 60.0%となっています。



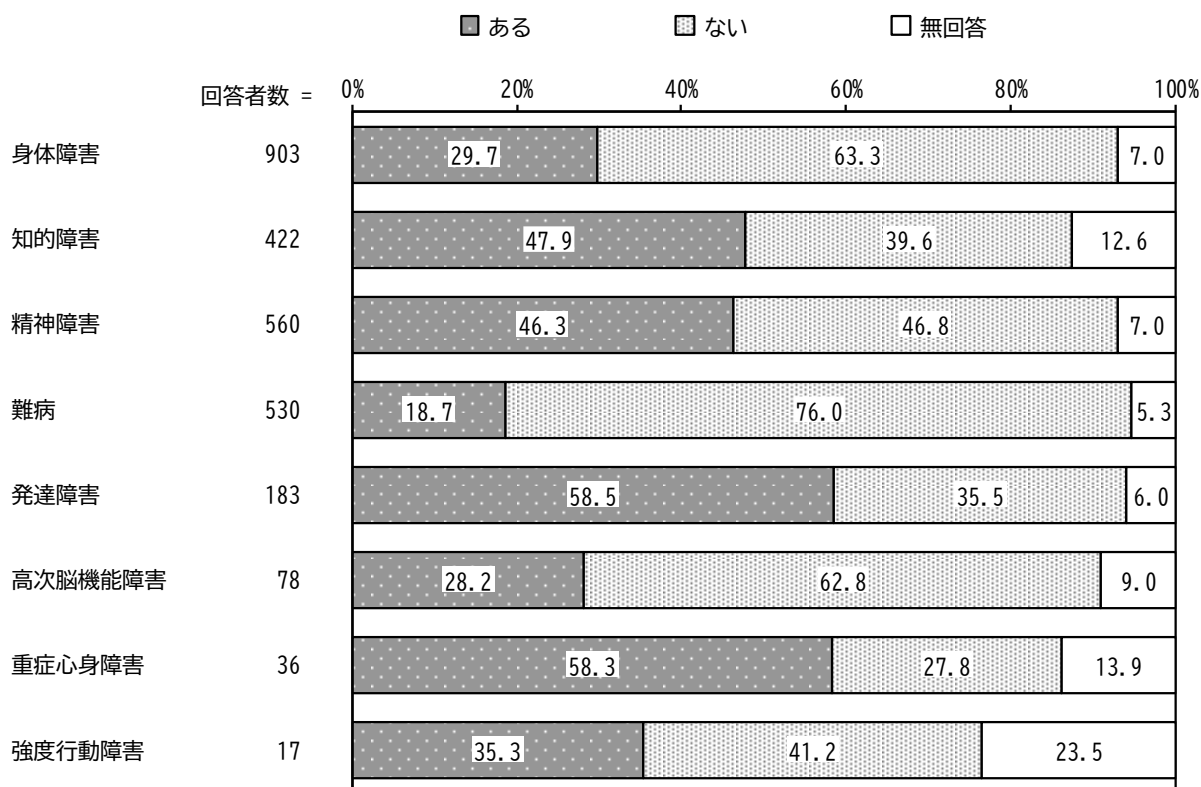
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「ない」の割合が高くなっています。



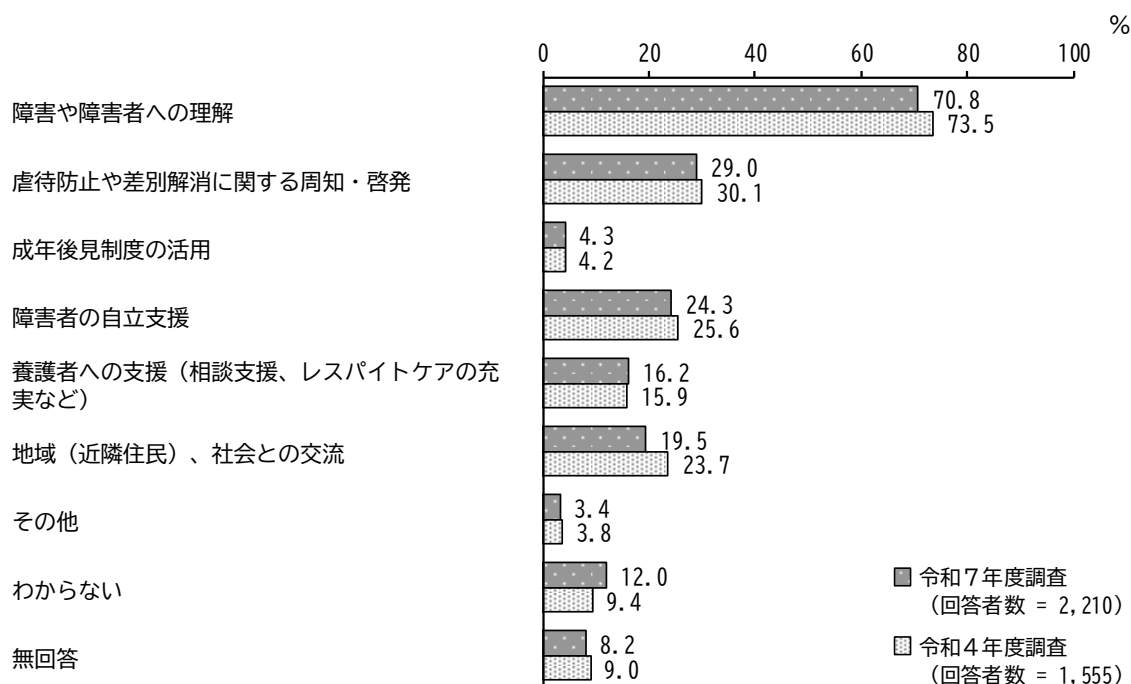
【障害種別】

障害種別にみると、発達障害、重症心身障害で「ある」、難病で「ない」の割合が高くなっています。



問 41 障害者への虐待や差別を防ぐには、何が必要だと思いますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「障害や障害者への理解」の割合が70.8%と最も高く、次いで「虐待防止や差別解消に関する周知・啓発」の割合が29.0%、「障害者の自立支援」の割合が24.3%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「障害や障害者への理解」の割合が高く、「75 歳以上」から「40～64 歳」まで年齢が下がるほど「虐待防止や差別解消に関する周知・啓発」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	障害や障害者への 理解	虐待防止や差別 解消に関する周知・啓 発	成年後見制度の活 用	障害者の自立支援	養護者への支援(相 談支援、レスパイト ケアの充実など)	地域(近隣住民)、 社会との交流	その他	わからない	無回答
全 体	2,210	70.8	29.0	4.3	24.3	16.2	19.5	3.4	12.0	8.2
18～39歳	476	78.6	32.1	4.6	26.1	18.9	20.2	4.2	9.9	3.8
40～64歳	929	74.1	33.4	5.8	25.5	15.8	19.7	4.3	11.6	5.4
65～74歳	331	65.0	26.0	2.1	22.1	10.6	18.1	2.4	14.8	11.5
75歳以上	441	61.0	19.7	2.7	22.0	19.0	19.3	0.9	13.8	15.0

【障害種別】

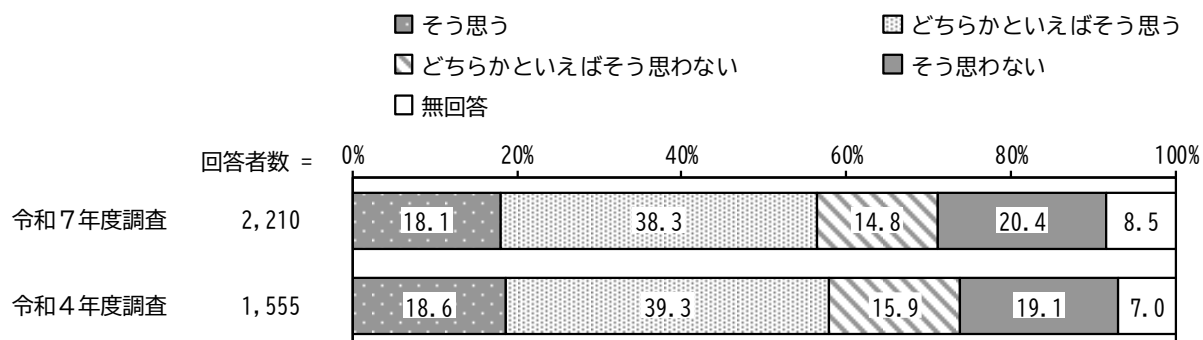
障害種別にみると、発達障害で「障害や障害者への理解」「障害者の自立支援」、重症心身障害で「虐待防止や差別解消に関する周知・啓発」「成年後見制度の活用」「地域(近隣住民)、社会との交流」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	障害や障害者への 理解	虐待防止や差別 解消に関する周知・啓 発	成年後見制度の活 用	障害者の自立支援	養護者への支援(相 談支援、レスパイト ケアの充実など)	地域(近隣住民)、 社会との交流	その他	わからない	無回答
全 体	2,210	70.8	29.0	4.3	24.3	16.2	19.5	3.4	12.0	8.2
身体障害	903	70.4	26.5	3.7	22.8	14.6	19.6	3.1	11.7	9.4
知的障害	422	71.8	31.8	8.5	22.0	20.6	22.5	3.1	11.1	9.2
精神障害	560	71.8	32.5	5.4	30.7	12.0	17.7	4.5	11.3	7.1
難病	530	71.1	29.2	2.8	20.0	20.2	18.9	3.2	12.6	6.8
発達障害	183	77.6	33.9	6.0	33.9	19.7	19.1	8.7	6.0	7.1
高次脳機能障害	78	74.4	26.9	5.1	25.6	17.9	20.5	9.0	6.4	10.3
重症心身障害	36	72.2	36.1	11.1	8.3	19.4	27.8	2.8	2.8	16.7
強度行動障害	17	41.2	5.9	0.0	23.5	17.6	11.8	11.8	11.8	29.4

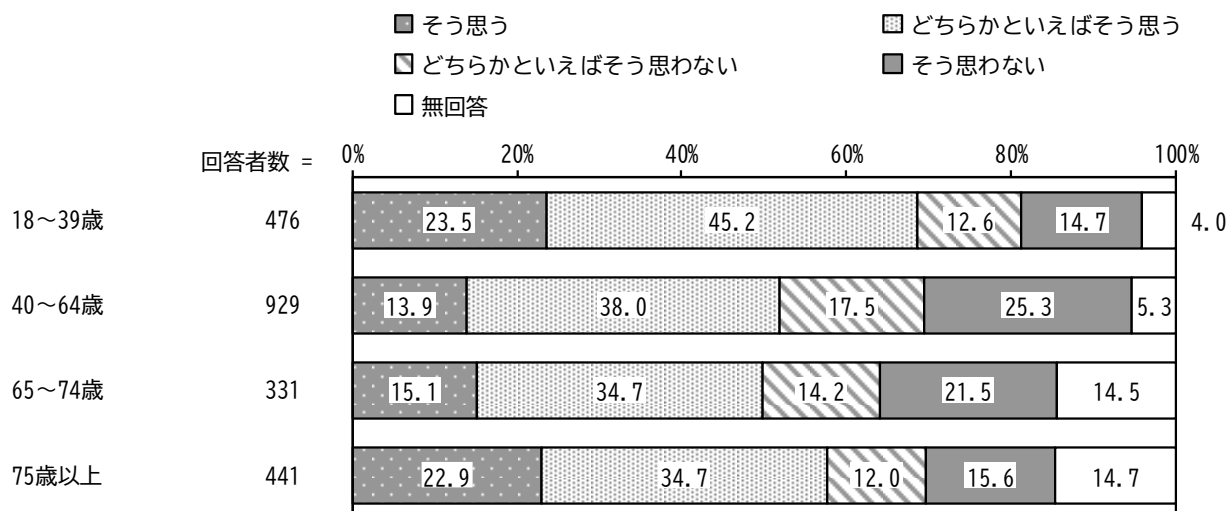
問 42 あなた（ご本人）は、日常生活の中で周囲から配慮されていると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が 56.4%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が 35.2%となっています。



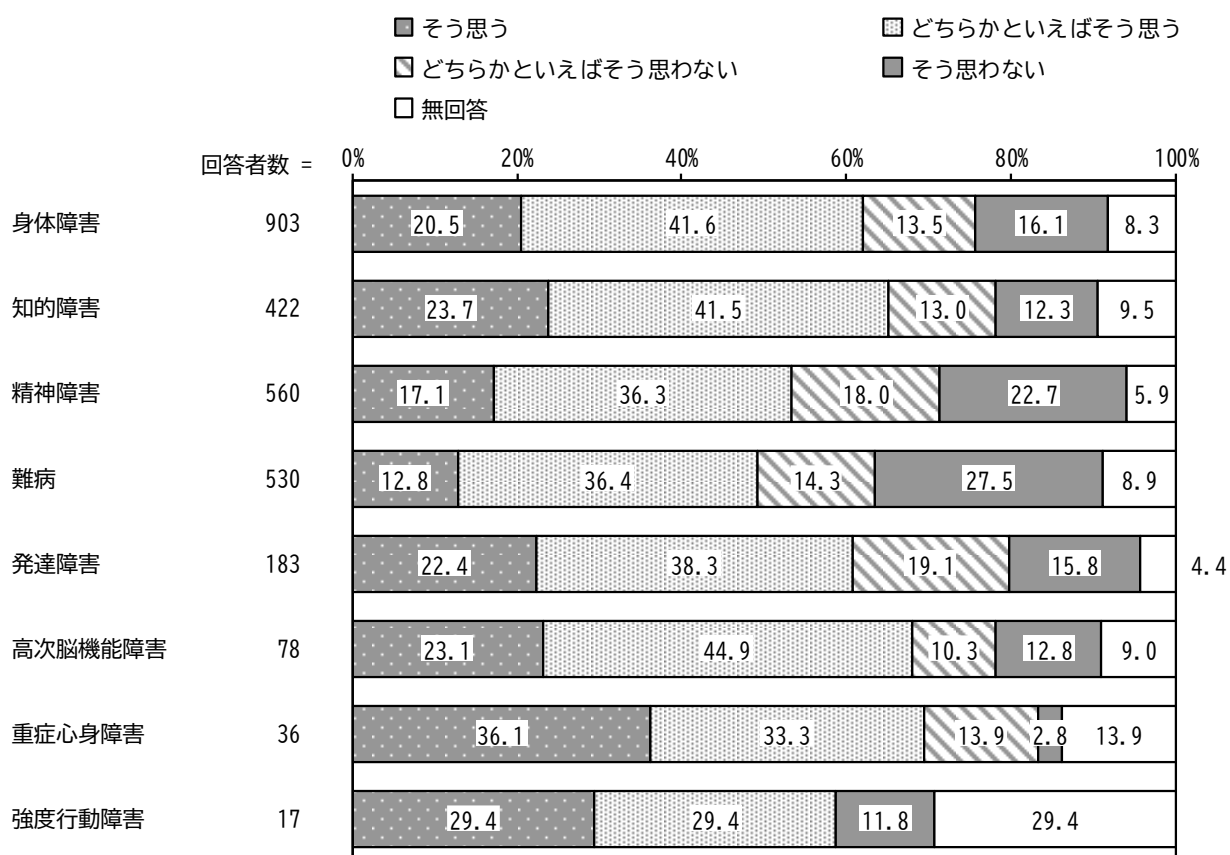
【年齢別】

年齢別にみると、75歳以上から「40～64歳」まで年齢が下がるほど“そう思わない”の割合が高くなっています。



【障害種別】

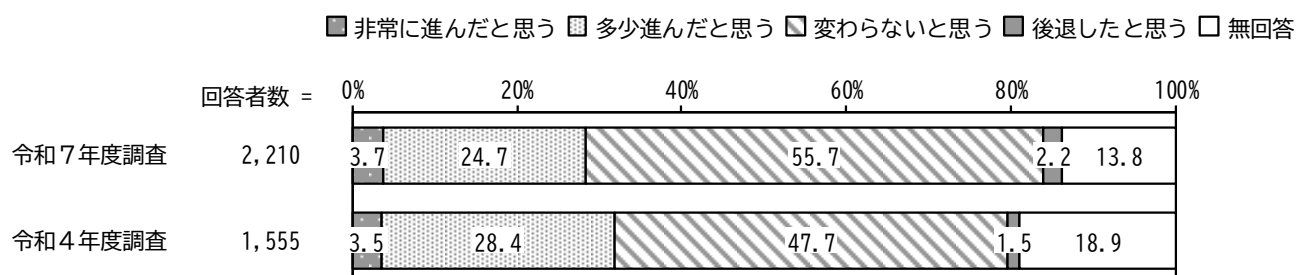
障害種別にみると、高次脳機能障害、重症心身障害で“そう思う”の割合が高くなっています。



問 43 令和4年ごろ（3年ほど前）と比べて、江東区の障害者施策は充実したと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

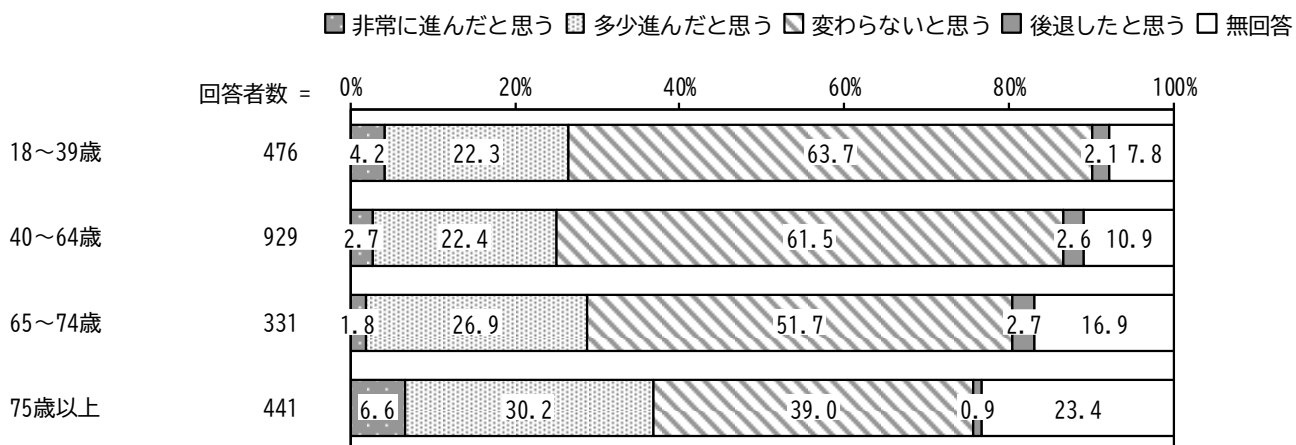
「変わらないと思う」の割合が 55.7%と最も高く、次いで「多少進んだと思う」の割合が 24.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「変わらないと思う」の割合が増加しています。



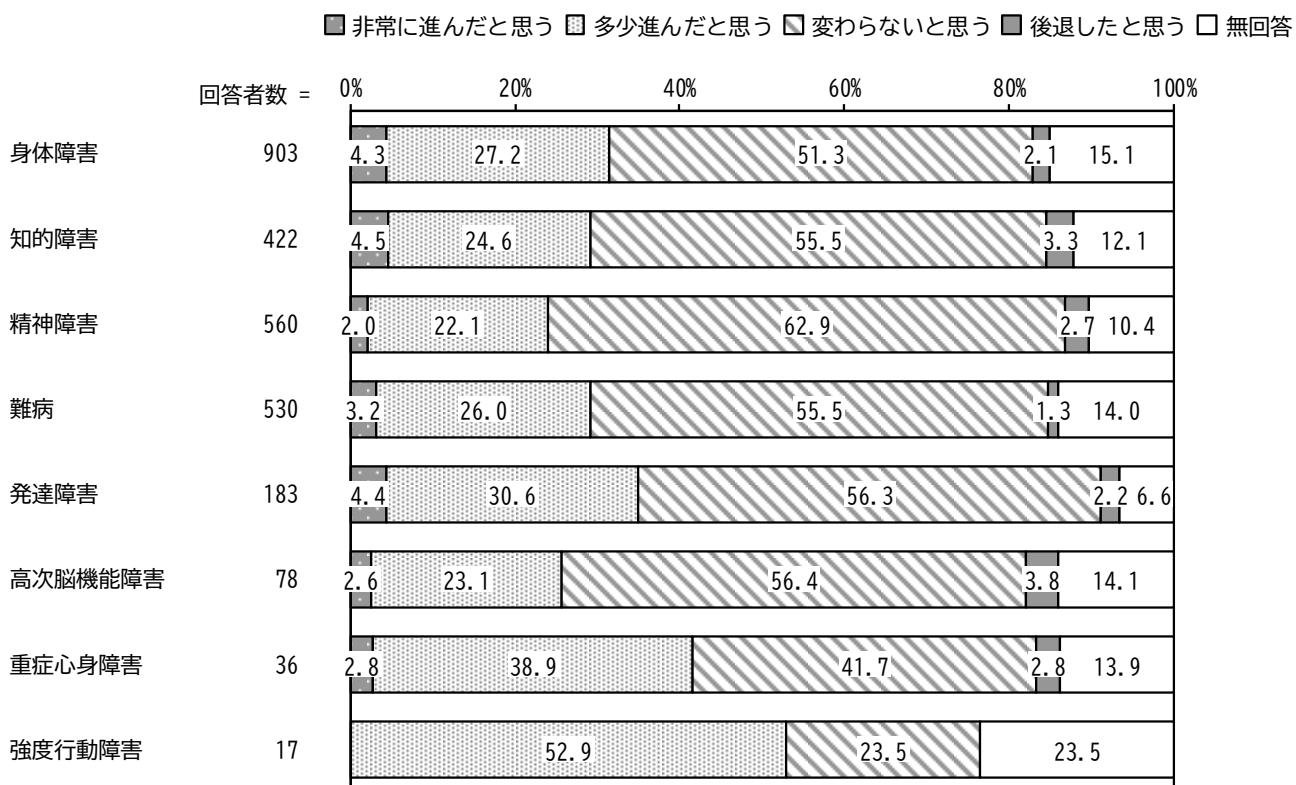
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「多少進んだと思う」の割合が高く、「変わらないと思う」の割合が低くなっています。



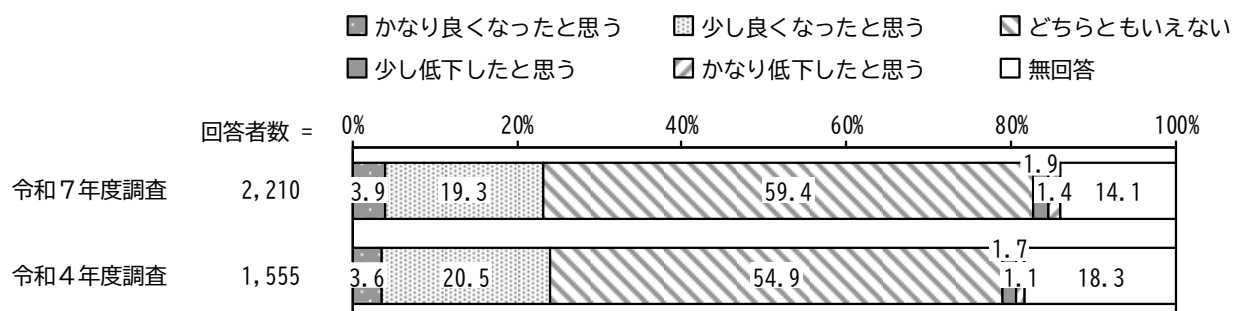
【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で「多少進んだと思う」の割合が高く、「変わらないと思う」の割合が低くなっています。



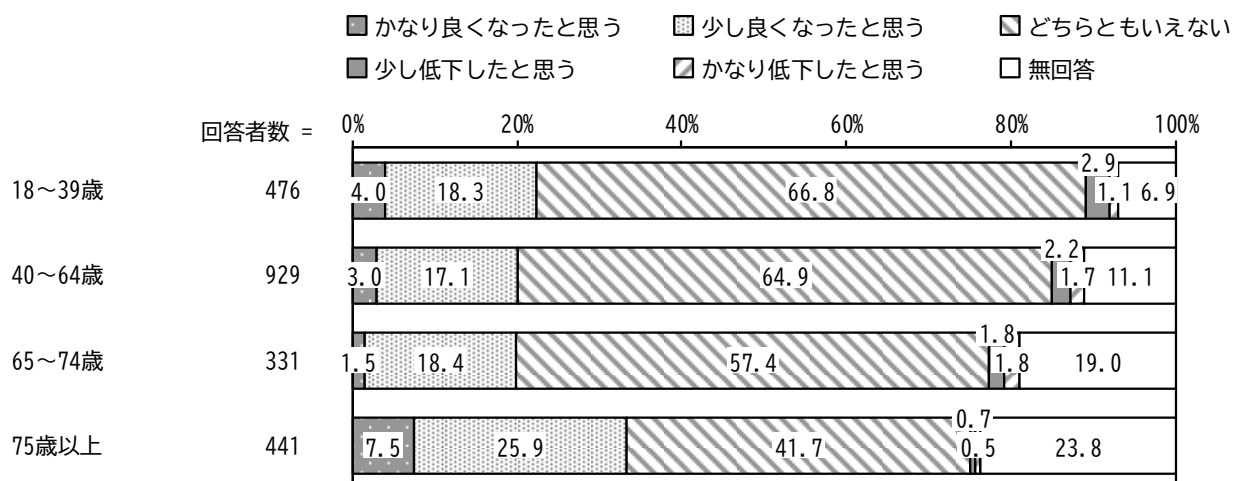
問 44 江東区の福祉サービスは、令和4年ごろ（3年ほど前）と比べて、変化していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「かなり良くなったと思う」「少し良くなったと思う」を合わせた“良くなった”の割合が23.2%、「少し低下したと思う」「かなり低下したと思う」を合わせた“低下した”の割合が3.3%となっています。



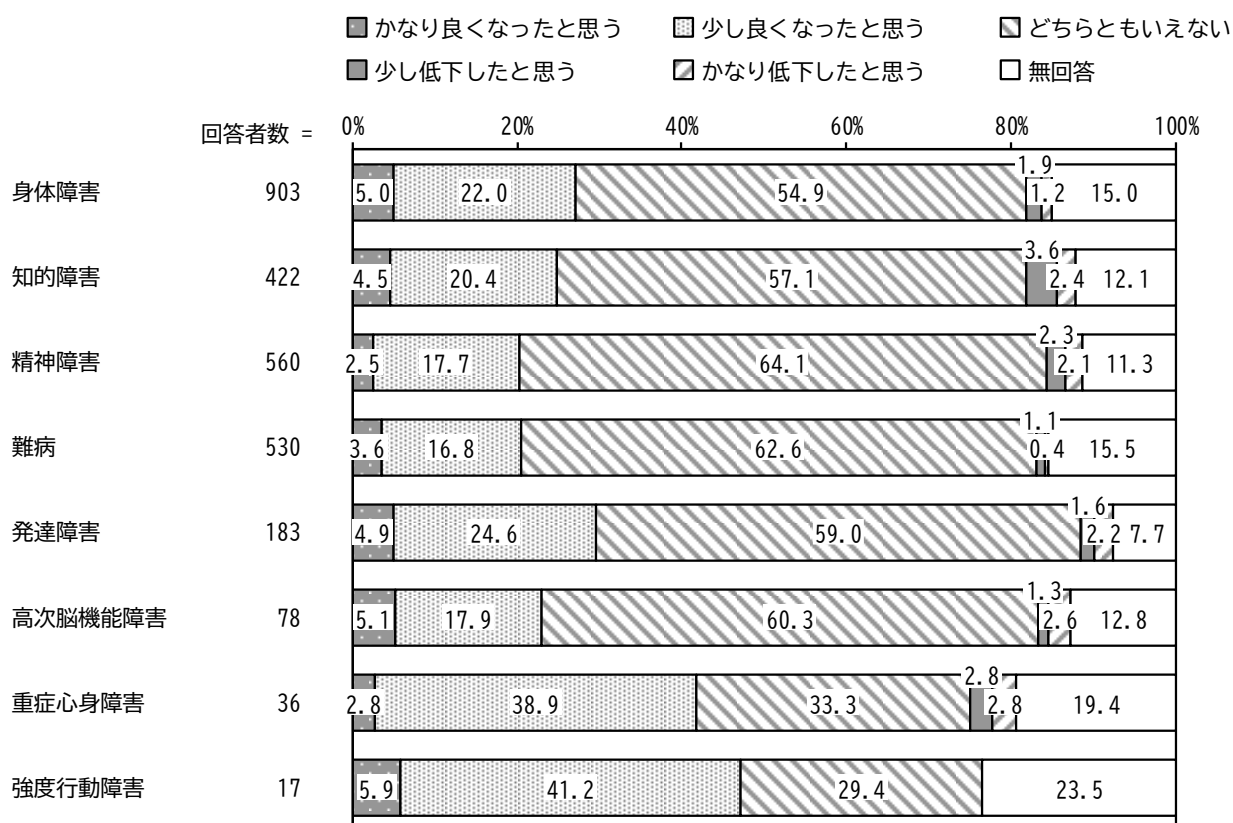
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」で“良くなった”の割合が高くなっています。



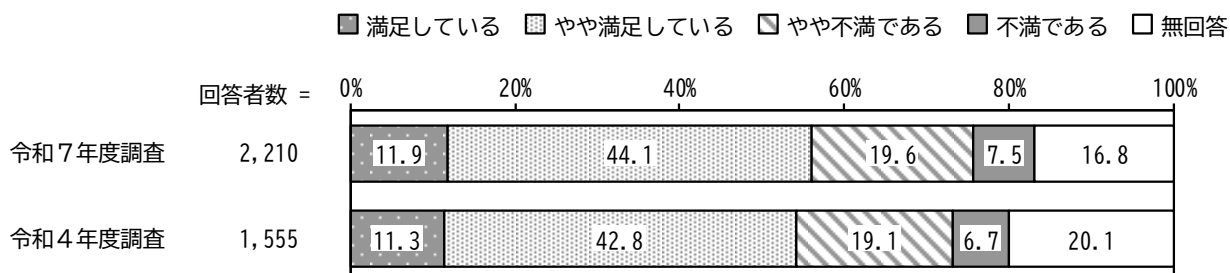
【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で“良くなった”の割合が高くなっています。



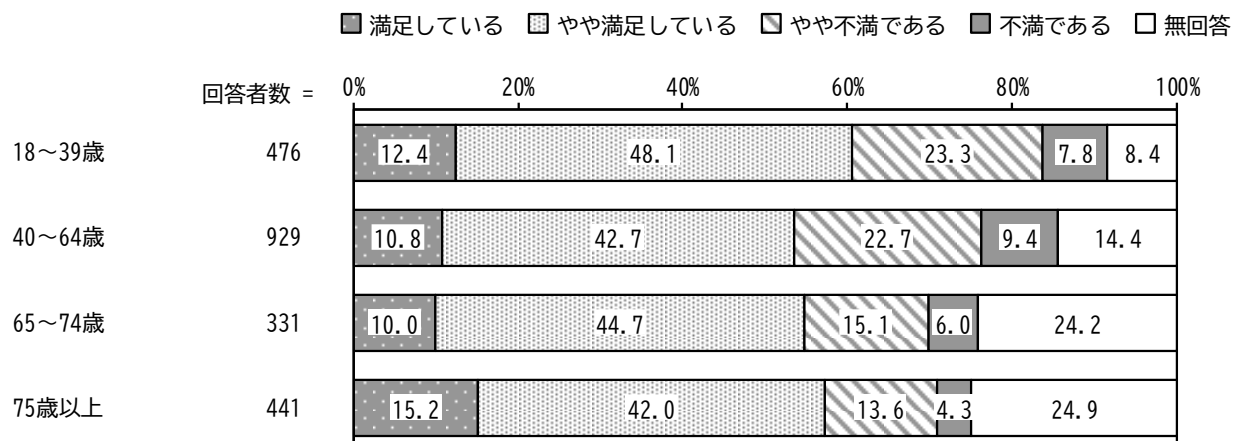
問 45 あなた（ご本人）は、障害者支援施策に満足していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「満足している」「やや満足している」を合わせた“満足している”の割合が 56.0%、「やや不満である」「不満である」を合わせた“不満である”の割合が 27.1%となっています。



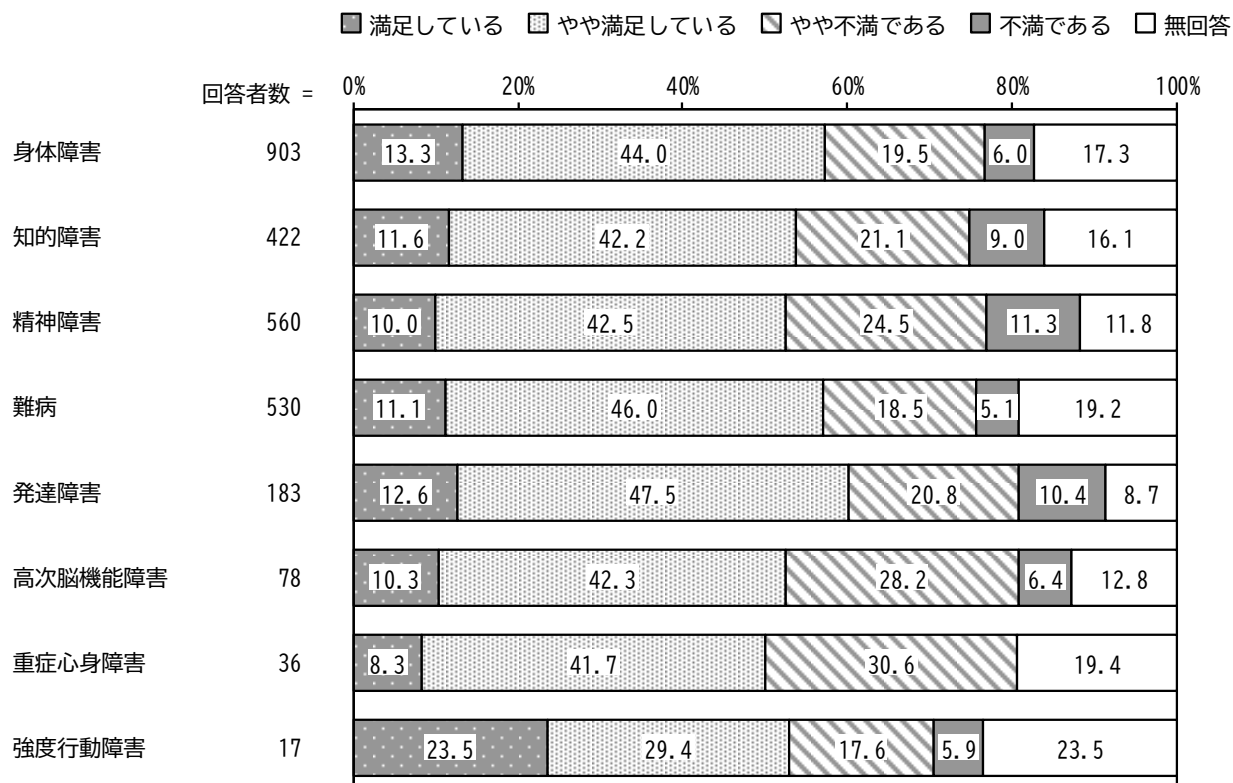
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど“不満である”の割合が高くなっています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神障害、高次脳機能障害で“不満である”の割合が高くなっています。



問 46 あなた（ご本人）が、周りの人から助けてもらったり、してもらってうれしかったことがあれば記入してください。

・公共交通機関での配慮・席譲りについて(94 件)

バス等の公共交通機関の利用において周囲の手助けがある。

・障害や病気に対する理解・普通に接することについて(52 件)

障害があるなしではなくて、普通に接してもらえる（健常者と変わりなく）ことがいちばん嬉しい。精神障害だと腫れもの扱いされるときがあってそれがすごく嫌なので。

・外出先での声かけ・見守り・道案内について(46 件)

信号「青になりましたよ」「渡れますよ」と声をかけてもらえる様になりました。とても助かりますし、嬉しいです。

・外出先での物理的サポート（荷物・車いす・ドア開け等）について(45 件)

段差のあるところで、進んで手伝いをかってでてくれた人がいた。頼んでやってもらうことはあったが、これはうれしい。

・相談・精神的サポート・傾聴について(36 件)

話を聞いてもらうこと。真剣に向き合ってもらうこと。

・職場・就労先での配慮・サポートについて(34 件)

仕事中、困っている時にサポートしてくれる人がいるので安心できる。

・福祉サービス・福祉従事者からの支援・配慮について(34 件)

病院へ行く日等はヘルパーさんが少し早く来て下さる時があります。とても助かります。ヘルパーさんに感謝を申し上げます。ヘルパーさんに会うのが楽しみです。

・転倒・体調不良・緊急時の救護について(32 件)

急病時、救急車を呼んでもらった。

・家族・親族からの支援・配慮について(30 件)

息子、娘達が色々気遣ってくれています。

・地域・ご近所づきあい（挨拶・声かけ等）について(28 件)

地域の方々からいつも声をかけてもらう事が多く、気にかけてもらってる事を強く感じ有難く思っている。

・コミュニケーション・情報保障（筆談・代筆等）について(21 件)

うまく言いたいことを表せなくてうろたえているところを、相手に汲みとってもらえて代弁してもらえたとき。

・ヘルプマークへの理解と配慮について(20 件)

ヘルプマークを付けていることによって、周りの人から助けってもらったりしたことです。

・行政・役所窓口での対応・支援について(19 件)

手帳や自立支援の更新手続きで区役所に行くたび優しく対応してもらっているので助かっています。いつもありがとうございます。

・医療機関・医療従事者からの支援・配慮について(18件)

地域のクリニックを利用した際、通院の頻度をゆるやかにしてもらった。すごく助かった。

・日常生活の支援（家事・買い物等）について(17件)

家の中の整理整頓。

・経済的支援・公的制度の利用について(15件)

障害手当をもらえたり無料バス券とか経済的な支援は助かる。

・施設や設備（エレベーター、バリアフリー等）の配慮について(15件)

玄関階段に手すりをつけてもらった。

・友人・知人からの支援・配慮について(13件)

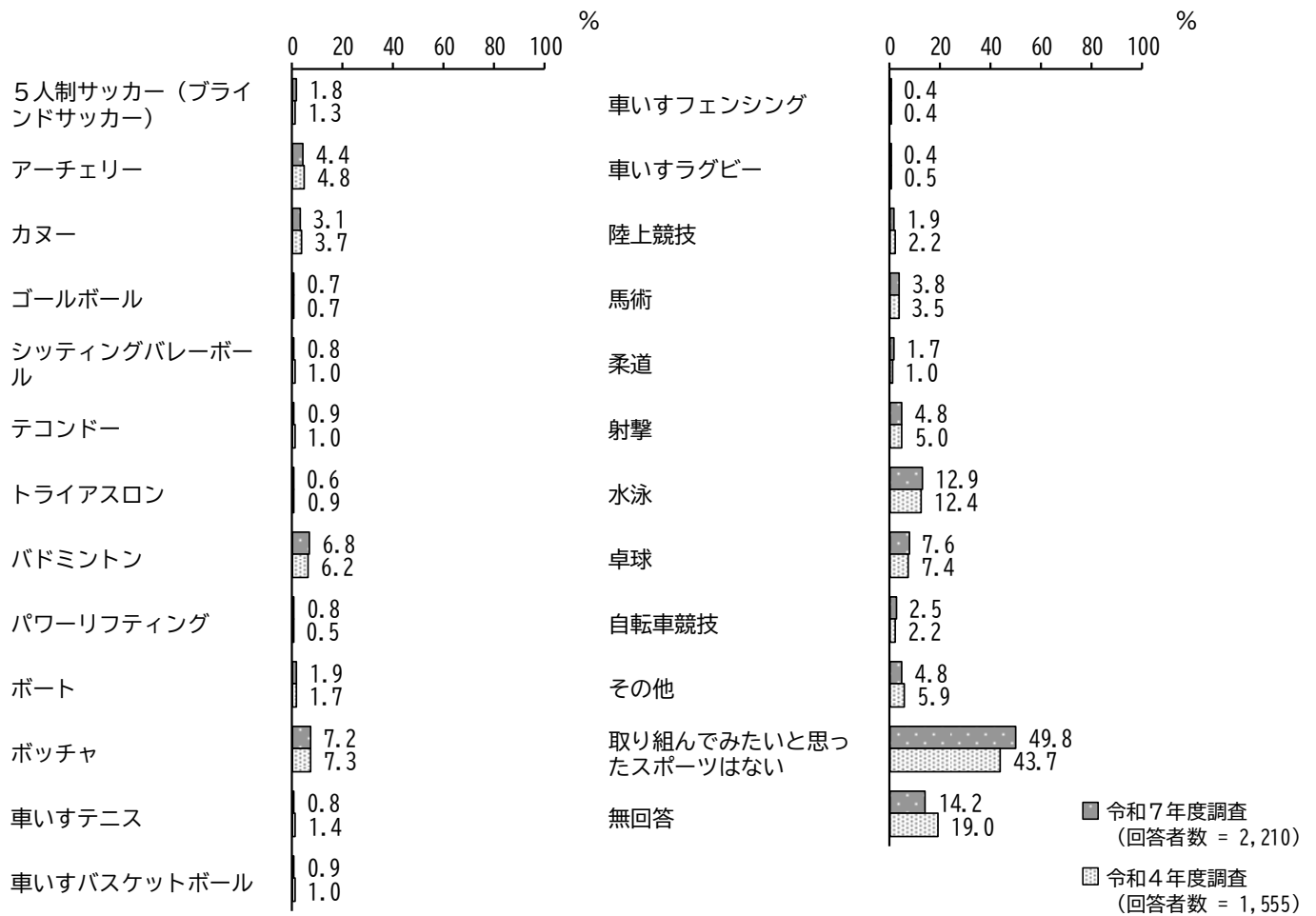
色々友人から助けもらっています！

・その他について(49件)

(9) 障害者スポーツについて

問 47 以下のスポーツのうち、取り組んでみたいと思ったスポーツは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「水泳」の割合が 12.9%と最も高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「バドミントン」「ボッチャ」「水泳」「卓球」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数 (件)	5人制サッカー (フラインドサッカー)	アーチェリー	カヌー	ゴルフボール	シッティングバレーボール	テコンドー	トリアスロン	バドミントン	パワーリフティング	ボート	ボッチャ	車いすテニス
全 体	2,210	1.8	4.4	3.1	0.7	0.8	0.9	0.6	6.8	0.8	1.9	7.2	0.8
18～39歳	476	3.4	6.1	4.4	1.9	0.8	1.7	1.1	11.6	1.1	2.5	13.7	2.1
40～64歳	929	2.3	5.4	4.2	0.6	1.2	1.1	0.8	7.6	1.1	2.8	6.5	0.5
65～74歳	331	0.0	1.5	1.8	0.0	0.6	0.0	0.0	3.9	0.6	0.6	4.8	0.3
75歳以上	441	0.2	2.7	0.2	0.0	0.0	0.2	0.2	2.7	0.0	0.0	3.4	0.2

区分	車いすバスケットボール	車いすフェンシング	車いすラグビー	陸上競技	馬術	柔道	射撃	水泳	卓球	自転車競技	その他	取り組んでみたいと思 ったスポーツはない	無回答
全 体	0.9	0.4	0.4	1.9	3.8	1.7	4.8	12.9	7.6	2.5	4.8	49.8	14.2
18～39歳	1.3	0.8	0.6	3.8	5.7	3.6	6.3	18.5	10.3	4.0	5.5	41.4	8.2
40～64歳	1.1	0.3	0.5	2.0	5.3	1.7	6.0	13.8	7.9	3.2	5.9	51.0	9.0
65～74歳	0.6	0.0	0.0	1.2	0.3	0.3	2.4	11.5	8.5	1.2	4.8	52.0	17.8
75歳以上	0.5	0.2	0.2	0.5	1.4	0.7	2.0	5.7	4.3	0.0	1.8	55.1	27.7

【障害種別】

障害種別にみると、知的障害、重症心身障害で「ボッチャ」の割合が高くなっています。

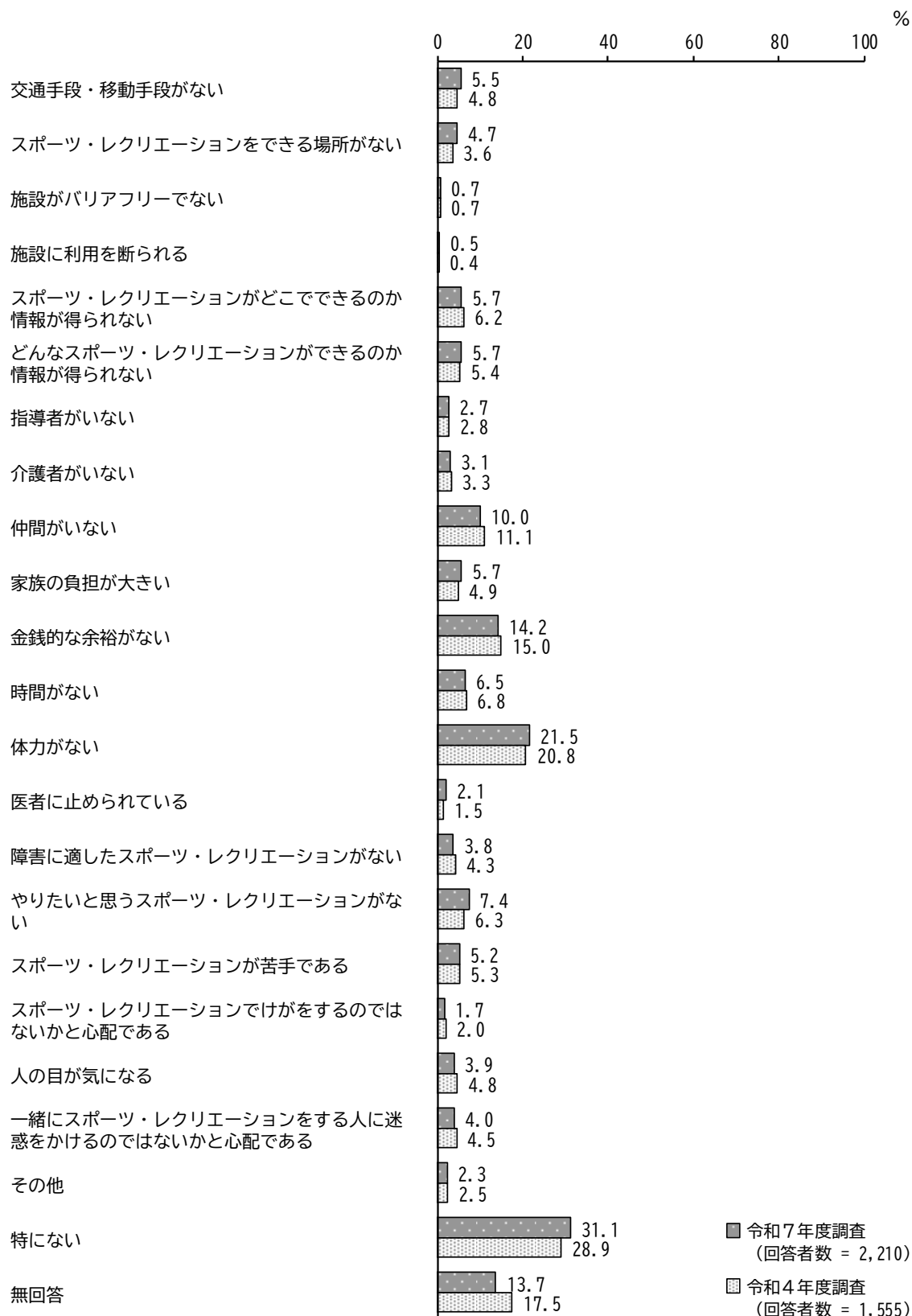
単位：％

区分	回答者数 (件)	5人制サッカー (フー インドサッカー)	アーチェリー	カヌー	ゴールボール	シッ ティングバレーボ ール	テ コンドー	トライアスロン	バドミントン	パ ワーリフティング	ボート	ボ ッチャ	車いすテニス
全 体	2,210	1.8	4.4	3.1	0.7	0.8	0.9	0.6	6.8	0.8	1.9	7.2	0.8
身体障害	903	1.0	4.4	2.7	0.3	0.7	0.6	0.3	4.3	0.6	1.8	7.2	0.6
知的障害	422	3.3	1.7	2.6	1.9	0.9	0.7	0.7	7.6	0.5	1.4	15.9	1.4
精神障害	560	2.3	6.1	4.3	1.3	0.9	1.3	0.7	8.6	0.7	2.7	6.4	0.7
難病	530	0.8	4.2	3.4	0.6	0.6	0.6	0.8	6.6	0.8	1.5	4.9	0.4
発達障害	183	2.7	7.1	6.6	2.7	1.1	1.1	1.1	9.8	1.1	4.9	9.8	1.1
高次脳機能障害	78	1.3	6.4	3.8	2.6	2.6	1.3	0.0	3.8	2.6	3.8	6.4	0.0
重症心身障害	36	0.0	2.8	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	2.8	13.9	2.8
強度行動障害	17	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0

区分	車いすバスケットボール	車いすフェンシング	車いすラグビー	陸上競技	馬術	柔道	射撃	水泳	卓球	自転車競技	その他	取り組んでみたいと思 ったスポーツはない	無回答
全 体	0.9	0.4	0.4	1.9	3.8	1.7	4.8	12.9	7.6	2.5	4.8	49.8	14.2
身体障害	0.9	0.4	0.3	1.4	2.5	1.4	3.9	11.8	6.6	2.2	4.9	50.6	16.2
知的障害	1.2	0.7	0.5	3.3	2.4	1.4	2.6	15.9	8.3	2.8	5.7	41.7	18.5
精神障害	0.5	0.2	0.2	2.1	6.1	3.0	6.4	14.6	11.1	2.7	6.3	49.8	7.5
難病	0.6	0.2	0.2	1.9	4.2	1.3	5.8	11.9	4.7	2.6	3.6	53.6	14.3
発達障害	1.1	0.5	0.5	4.4	6.6	4.4	9.3	14.8	9.8	4.4	8.2	42.1	8.7
高次脳機能障害	2.6	1.3	1.3	2.6	6.4	0.0	7.7	10.3	10.3	1.3	9.0	48.7	12.8
重症心身障害	2.8	2.8	0.0	2.8	2.8	0.0	5.6	2.8	2.8	0.0	8.3	44.4	27.8
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	11.8	47.1	23.5

問 48 あなた（ご本人）が、スポーツ・レクリエーションを行う際に困っていることは何ですか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「体力がない」の割合が21.5%と最も高く、次いで「金銭的な余裕がない」の割合が14.2%、「仲間がいない」の割合が10.0%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「時間がない」「やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない」の割合が高い傾向にあり、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「金銭的な余裕がない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	交通手段・移動手段がない	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない	施設がバリアフリーでない	施設に利用を断られる	スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない	どんなスポーツ・レクリエーションができるのか情報が得られない	指導者がいない
全 体	2,210	5.5	4.7	0.7	0.5	5.7	5.7	2.7
18～39歳	476	5.9	8.4	0.6	0.6	9.2	6.9	2.9
40～64歳	929	5.2	4.4	0.8	0.5	5.8	6.1	3.3
65～74歳	331	5.4	4.2	1.2	0.0	5.1	6.6	2.1
75歳以上	441	5.9	1.6	0.5	0.9	2.0	2.9	1.6

区分	介護者がいない	仲間がいない	家族の負担が大きい	金銭的な余裕がない	時間がない	体力がない	医者に止められている	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない
全 体	3.1	10.0	5.7	14.2	6.5	21.5	2.1	3.8
18～39歳	6.1	14.5	10.9	14.7	10.3	16.8	1.1	5.7
40～64歳	2.0	10.4	3.7	18.3	8.2	23.8	2.6	2.7
65～74歳	2.4	5.7	3.0	10.6	2.7	22.7	2.7	4.2
75歳以上	2.7	7.5	6.1	7.3	0.9	21.5	1.8	3.6

区分	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	スポーツ・レクリエーションが苦手である	スポーツ・レクリエーションだけがするのではないかと心配である	人の目が気になる	一緒にスポーツ・レクリエーションをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である	その他	特にない	無回答
全 体	7.4	5.2	1.7	3.9	4.0	2.3	31.1	13.7
18～39歳	10.7	7.4	1.9	5.9	5.5	1.9	27.3	6.9
40～64歳	7.1	5.0	1.7	5.5	4.3	3.3	30.9	10.8
65～74歳	8.5	5.4	1.8	1.2	3.0	0.9	36.0	13.6
75歳以上	4.1	3.2	1.6	0.9	2.7	1.8	32.4	26.3

【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「交通手段・移動手段がない」「介護者がいない」、発達障害で「スポーツ・レクリエーションをできる場所がない」、強度行動障害で「施設に利用を断られる」、精神障害で「スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない」「金銭的な余裕がない」、精神障害、発達障害で「仲間がいない」、知的障害、発達障害、強度行動障害で「家族の負担が大きい」、精神障害、難病、強度行動障害で「体力がない」、高次脳機能障害、強度行動障害で「障害に適したスポーツ・レクリエーションがない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	交通手段・移動手段がない	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない	施設がバリアフリーでない	施設に利用を断られる	施設に利用できる情報が得られない	スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない	どんなスポーツ・レクリエーションができるのか情報が得られない	指導者がいない
全 体	2,210	5.5	4.7	0.7	0.5	5.7	5.7	2.7	
身体障害	903	7.0	4.1	1.4	1.0	4.8	5.1	2.7	
知的障害	422	6.4	4.0	0.2	0.5	5.7	6.6	4.3	
精神障害	560	5.5	5.7	0.0	0.9	10.7	10.0	3.9	
難病	530	4.3	3.8	0.6	0.4	4.3	4.2	2.3	
発達障害	183	3.8	10.4	0.0	1.1	7.1	9.3	2.7	
高次脳機能障害	78	5.1	3.8	1.3	1.3	5.1	6.4	3.8	
重症心身障害	36	11.1	5.6	0.0	0.0	5.6	5.6	2.8	
強度行動障害	17	5.9	5.9	0.0	5.9	0.0	5.9	5.9	

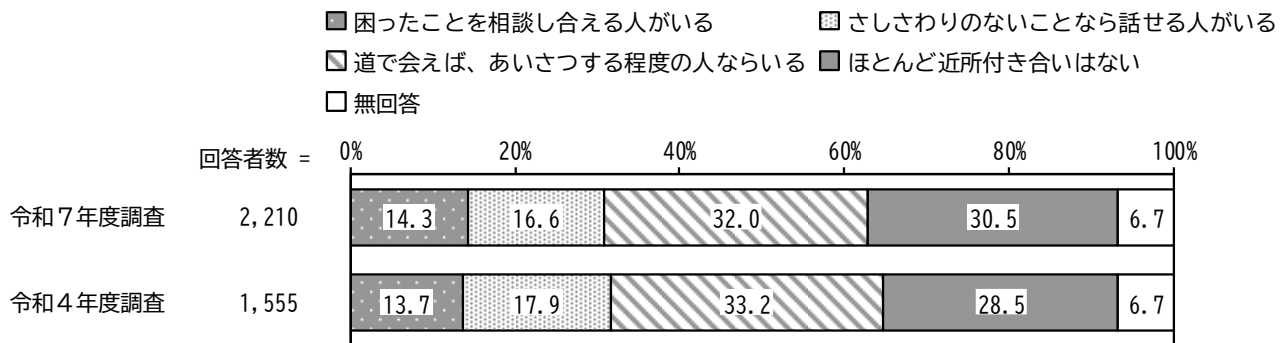
区分	介護者がいない	仲間がいない	家族の負担が大きい	金銭的な余裕がない	時間がない	体力がない	医者に止められている	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない
全 体	3.1	10.0	5.7	14.2	6.5	21.5	2.1	3.8
身体障害	4.2	6.8	6.8	9.5	5.1	20.9	2.3	5.9
知的障害	9.0	9.0	14.5	7.1	2.4	10.9	0.7	4.7
精神障害	1.6	16.8	3.9	27.7	7.9	29.5	2.3	2.5
難病	1.7	6.2	2.8	12.1	9.1	27.0	3.8	3.2
発達障害	4.4	19.7	14.8	21.3	9.8	21.3	0.5	2.2
高次脳機能障害	2.6	9.0	6.4	15.4	5.1	25.6	2.6	12.8
重症心身障害	13.9	0.0	8.3	11.1	2.8	16.7	2.8	8.3
強度行動障害	5.9	11.8	11.8	5.9	0.0	29.4	5.9	11.8

区分	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	スポーツ・レクリエーションが苦手である	スポーツ・レクリエーションだけがするのではないかと心配である	人の目が気になる	一緒にスポーツ・レクリエーションをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である	その他	特にない	無回答
全 体	7.4	5.2	1.7	3.9	4.0	2.3	31.1	13.7
身体障害	5.5	3.8	2.0	2.8	4.1	2.7	31.5	15.8
知的障害	10.7	6.2	1.4	4.7	6.4	2.1	29.9	16.4
精神障害	9.5	6.1	1.3	7.1	4.8	1.8	22.9	8.4
難病	5.8	4.5	1.9	2.3	2.3	2.3	34.5	13.2
発達障害	8.7	9.8	1.1	8.2	7.1	3.8	24.0	6.0
高次脳機能障害	6.4	3.8	3.8	1.3	2.6	5.1	24.4	14.1
重症心身障害	0.0	0.0	2.8	0.0	8.3	2.8	22.2	30.6
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	17.6	29.4

(10) 共生社会について

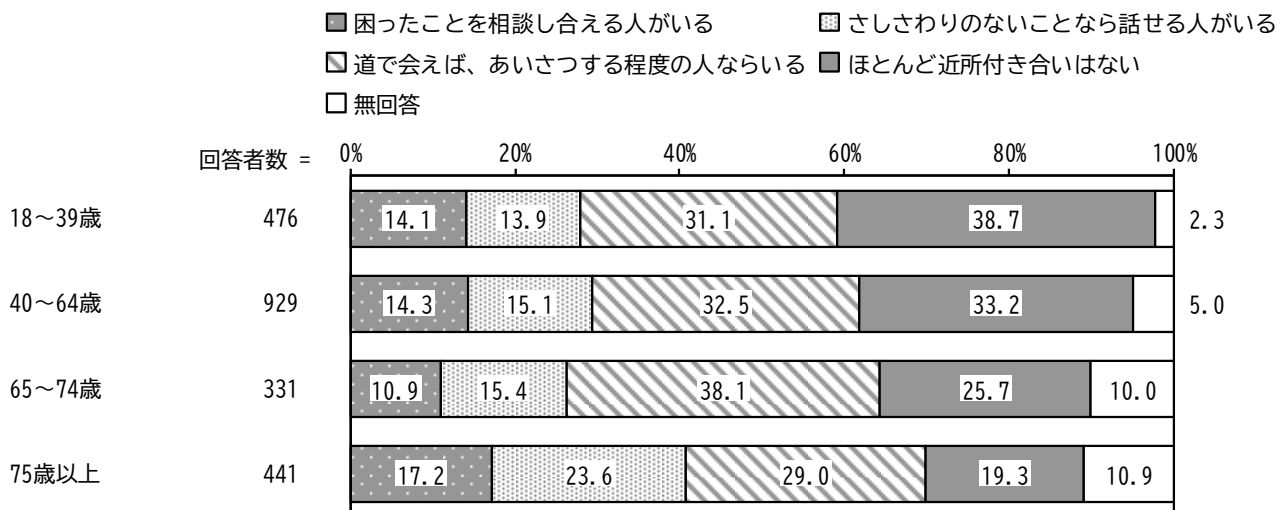
問 49 ご家庭とご近所とのお付き合いは、どの程度ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「道で会えば、あいさつする程度の人ならいる」の割合が 32.0%と最も高く、次いで「ほとんど近所付き合いはない」の割合が 30.5%、「さしさわりのないことなら話せる人がある」の割合が 16.6%となっています。



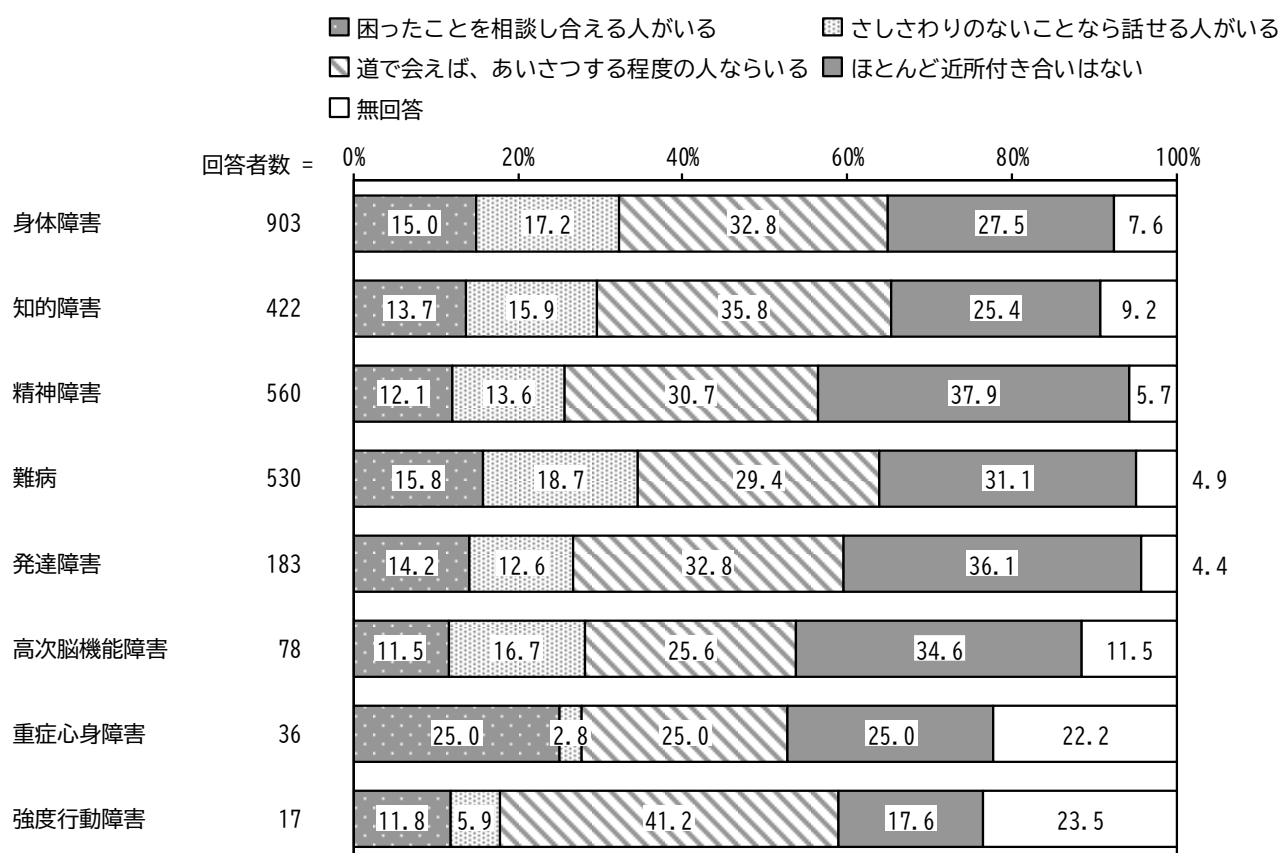
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「さしさわりのないことなら話せる人がある」の割合が高い傾向にあり、「ほとんど近所付き合いはない」の割合が低く、「18～39歳」から「65～74歳」まで年齢が上がるほど「道で会えば、あいさつする程度の人ならいる」の割合が高くなっています。



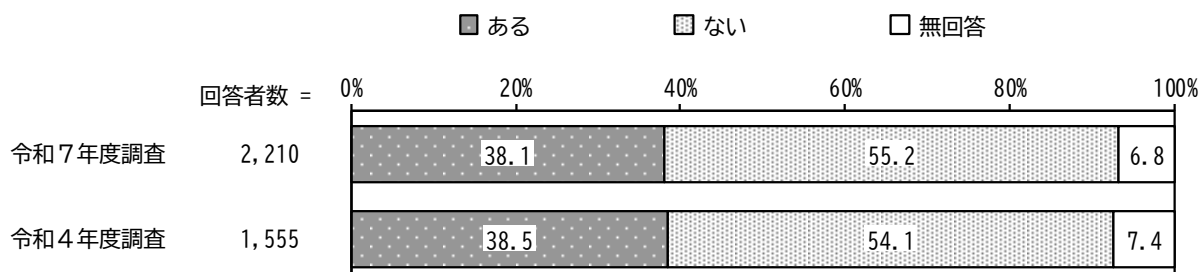
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「困ったことを相談し合える人がある」の割合が高く、重症心身障害で「さしさわりのないことなら話せる人がある」、強度行動障害で「ほとんど近所付き合いはない」の割合が低くなっています。



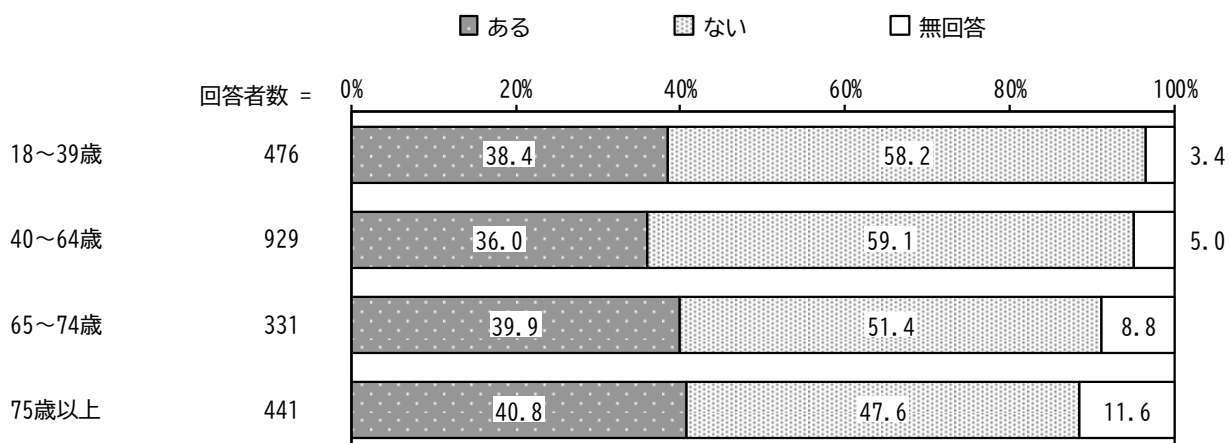
問 50 あなた（ご本人）は、今まで外出先で困ったとき、知らない方から手助けや配慮をしてもらった経験がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「ある」の割合が38.1%、「ない」の割合が55.2%となっています。



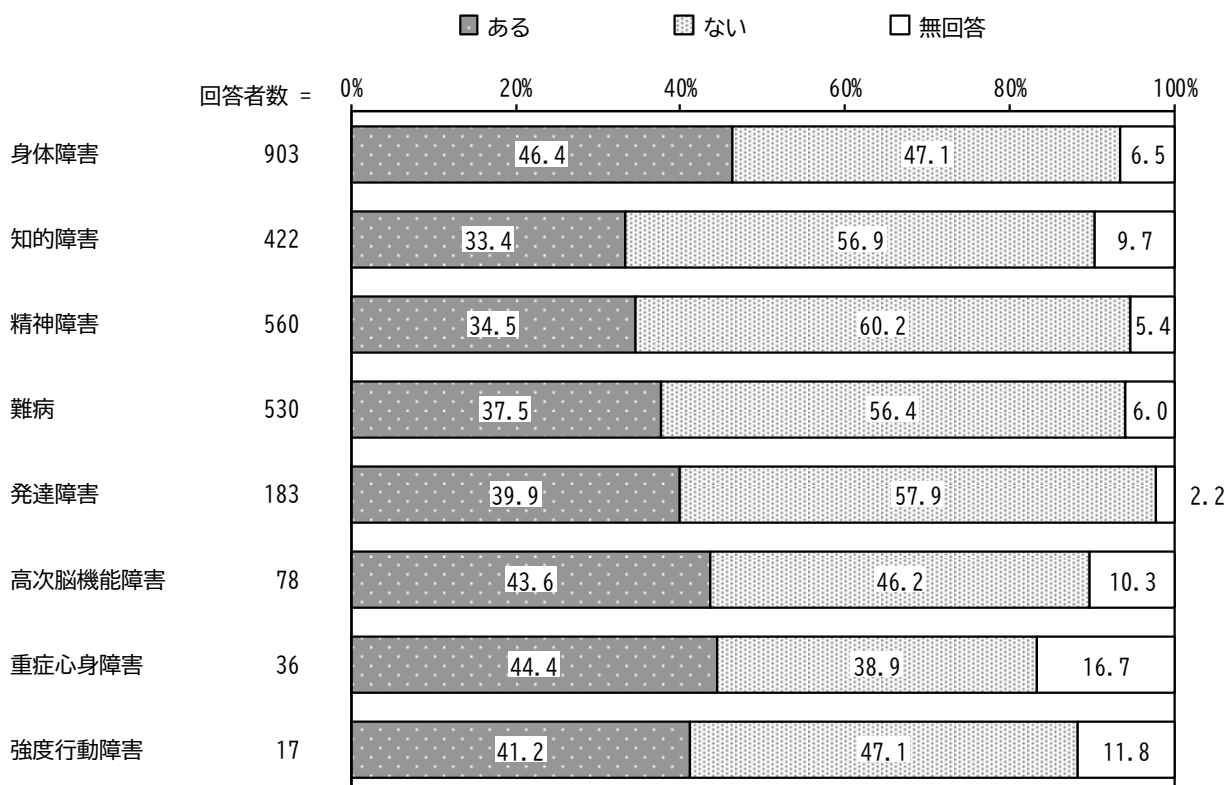
【年齢別】

年齢別にみると、「40～64 歳」から「75 歳以上」まで年齢が上がるほど「ある」の割合が高くなっています。



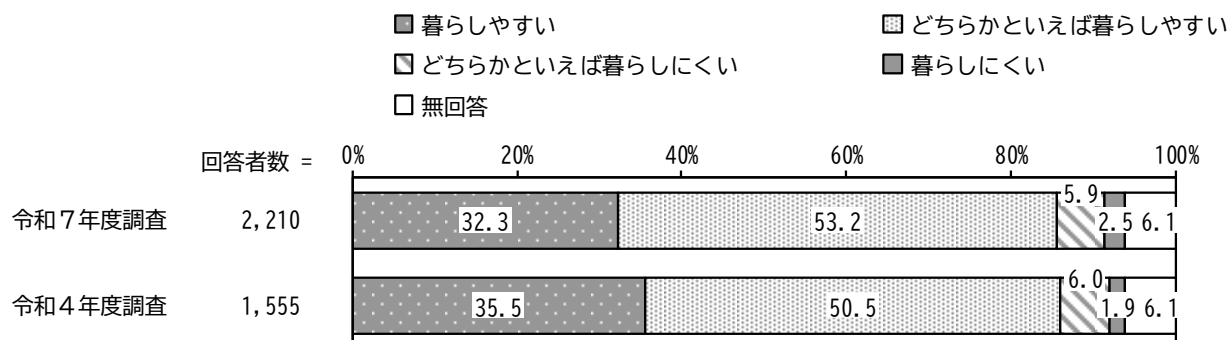
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「ない」の割合が低くなっています。



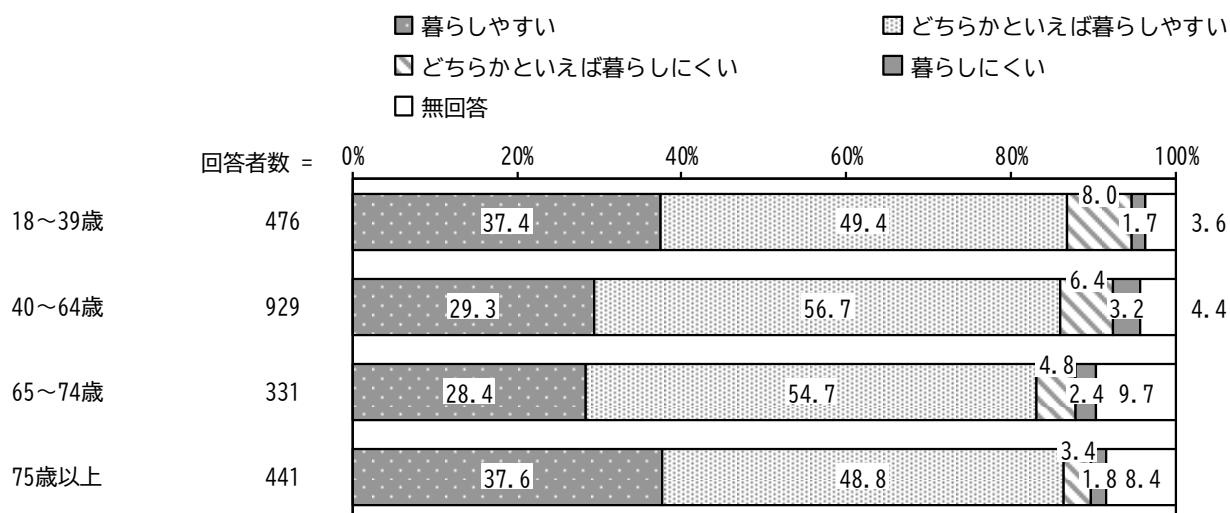
問 51 あなた（ご本人）にとって、江東区での暮らしはいかがですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせた“暮らしやすい”の割合が 85.5%、「どちらかといえば暮らしにくい」「暮らしにくい」を合わせた“暮らしにくい”の割合が 8.4%となっています。



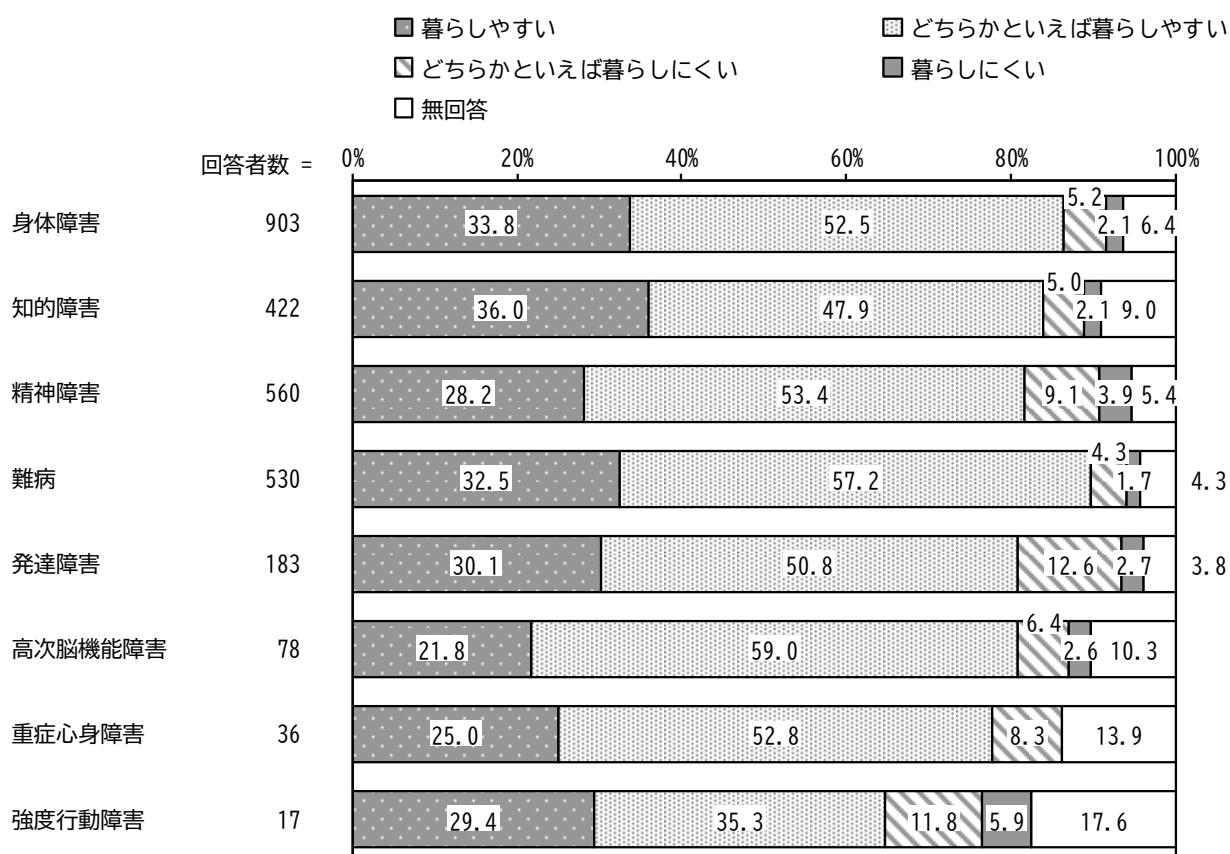
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「どちらかといえば暮らしやすい」の割合が高くなっています。



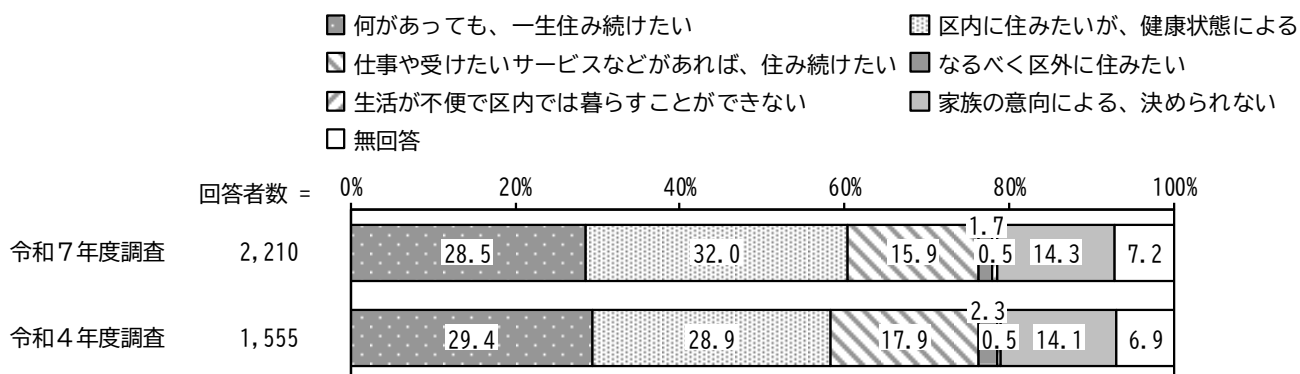
【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で“暮らしやすい”の割合が低くなっています。



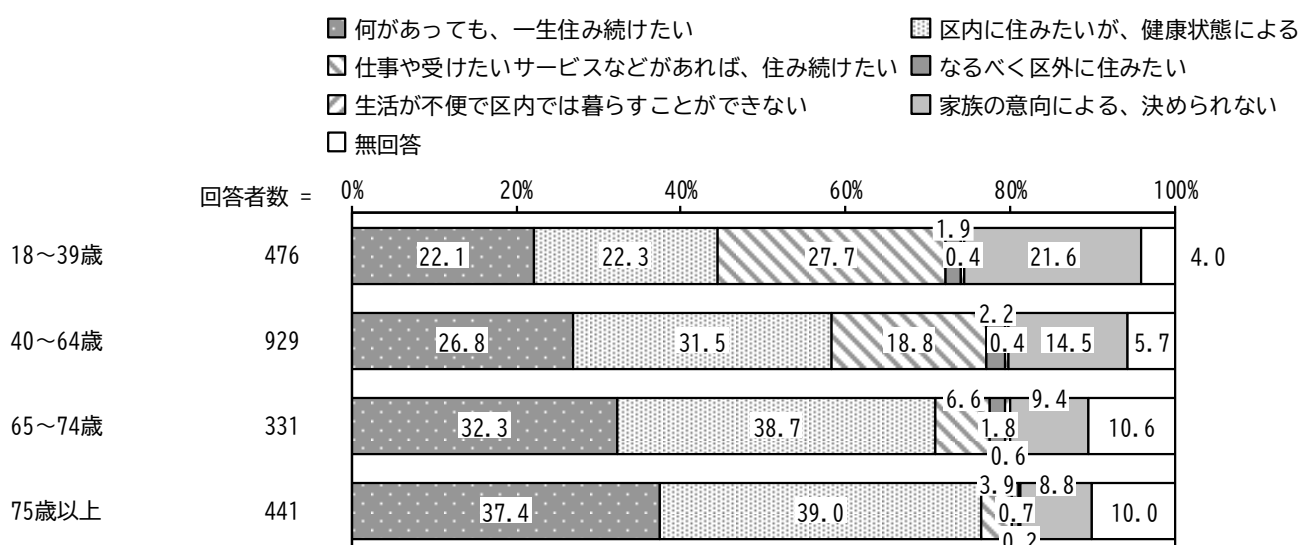
問 52 あなた（ご本人）は、江東区に住み続けたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「区内に住みたいが、健康状態による」の割合が 32.0%と最も高く、次いで「何があっても、一生住み続けたい」の割合が 28.5%、「仕事や受けたいサービスなどがあれば、住み続けたい」の割合が 15.9%となっています。



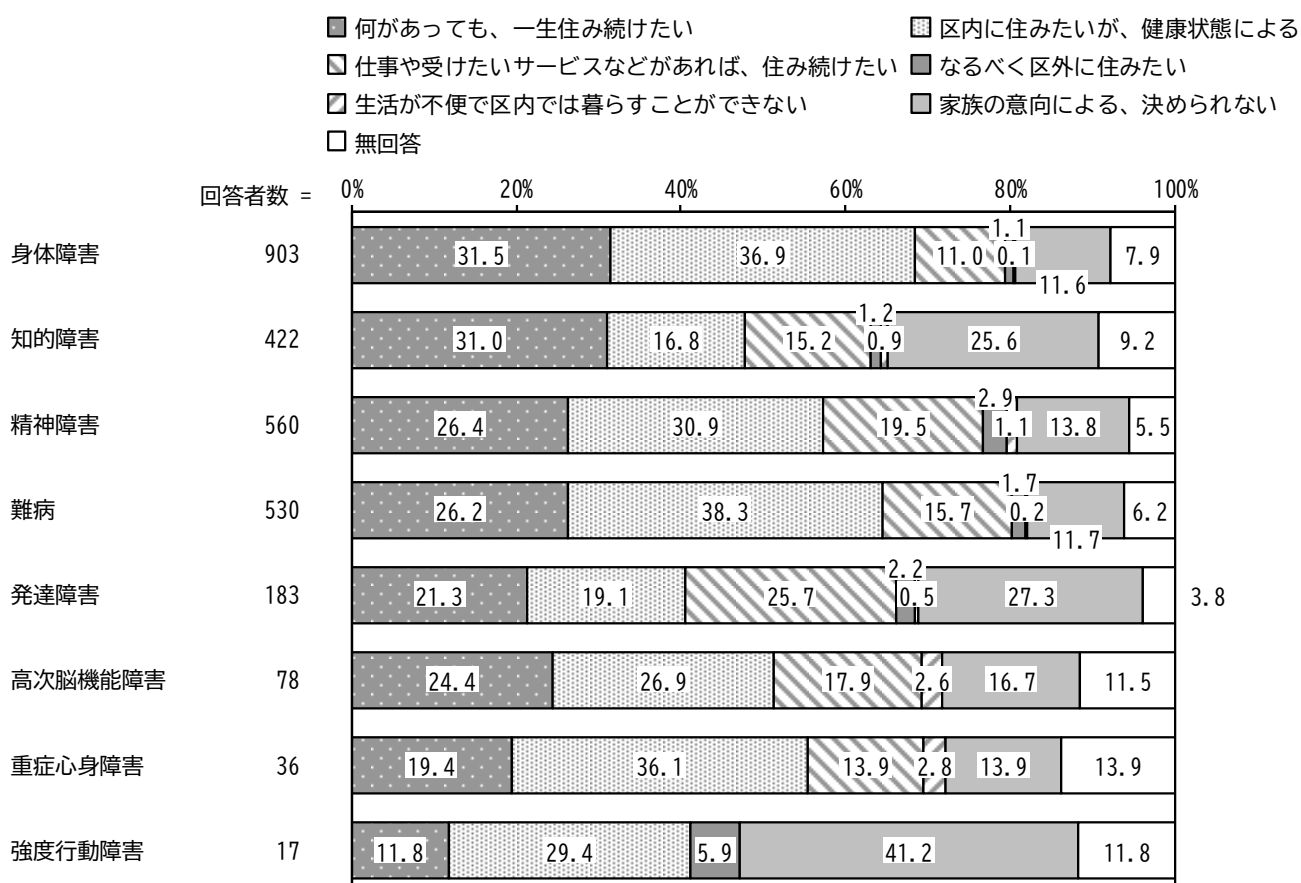
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「何があっても、一生住み続けたい」「区内に住みたいが、健康状態による」の割合が高く、「仕事や受けたサービスなどがあれば、住み続けたい」「家族の意向による、決められない」の割合が低くなっています。



【障害種別】

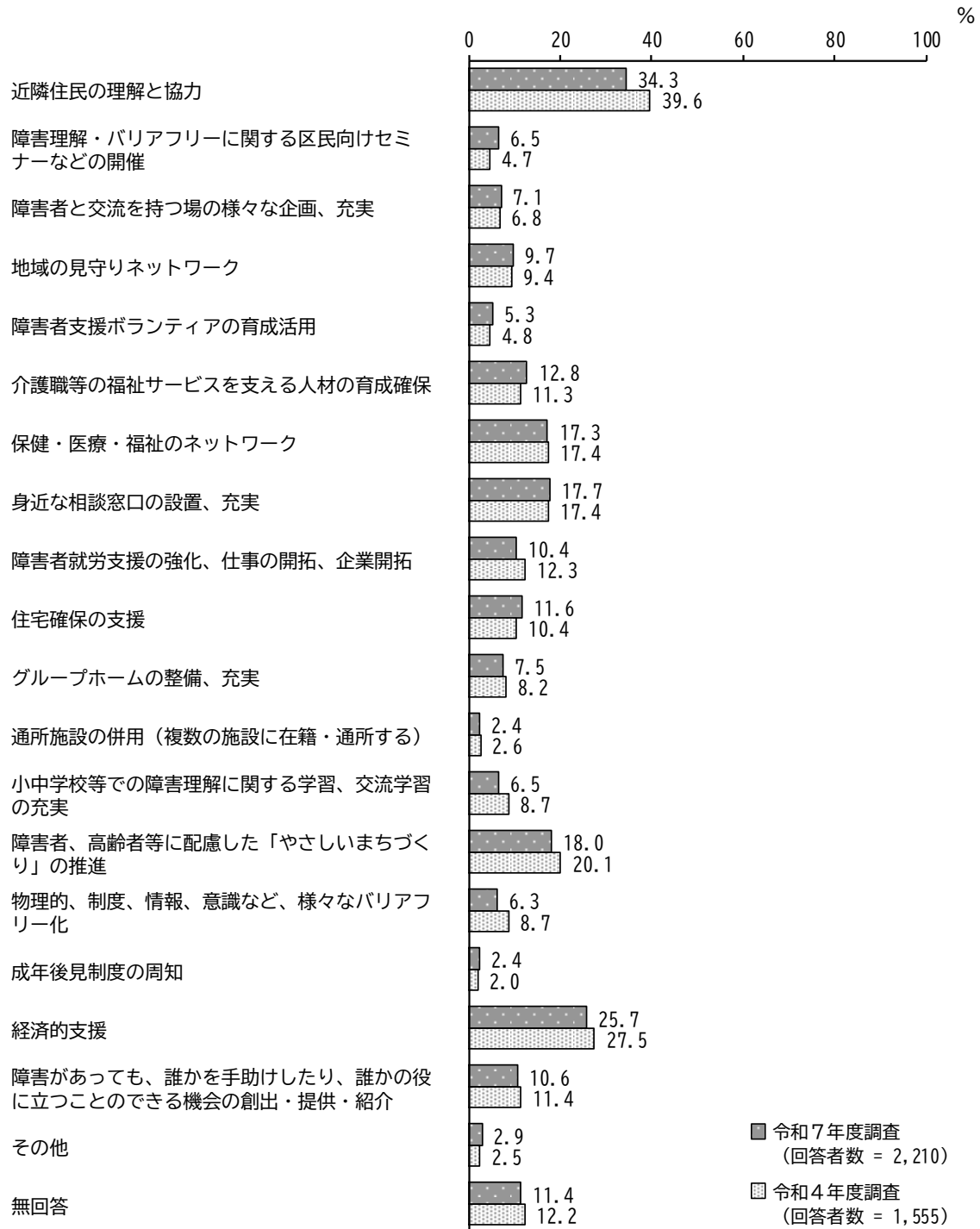
障害種別にみると、強度行動障害で「家族の意向による、決められない」の割合が高く、強度行動障害で「何があっても、一生住み続けたい」、知的障害、発達障害で「区内に住みたいが、健康状態による」の割合が低くなっています。



問 53 障害のある人もない人も、共に生活できる地域社会の実現のためにはどのようなことが大切だと考えますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「近隣住民の理解と協力」の割合が34.3%と最も高く、次いで「経済的支援」の割合が25.7%、「障害者、高齢者等に配慮した「やさしいまちづくり」の推進」の割合が18.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「近隣住民の理解と協力」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「障害者就労支援の強化、仕事の開拓、企業開拓」「小中学校等での障害理解に関する学習、交流学習の充実」の割合が高く、「障害者、高齢者等に配慮した「やさしいまちづくり」の推進」の割合が低く、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「保健・医療・福祉のネットワーク」「住宅確保の支援」「経済的支援」の割合が高く、「近隣住民の理解と協力」「介護職等の福祉サービスを支える人材の育成確保」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	近隣住民の理解と協力	障害理解・バリアフリーに関する区民向けセミナーなどの開催	障害者と交流を持つ場の様々な企画 充実	地域の見守りネットワーク	障害者支援ボランティアの育成活用	介護職等の福祉サービスを支える人材の育成確保
全 体	2,210	34.3	6.5	7.1	9.7	5.3	12.8
18～39歳	476	32.8	8.0	11.1	8.4	5.3	13.4
40～64歳	929	32.9	6.9	7.3	9.9	5.4	10.1
65～74歳	331	33.2	5.4	4.2	7.9	7.6	14.5
75歳以上	441	40.8	4.5	5.2	12.5	3.6	17.2

区分	保健・医療・福祉のネットワーク	身近な相談窓口の設置、充実	障害者就労支援の強化、仕事の開拓、企業開拓	住宅確保の支援	グループホームの整備、充実	通所施設の併用(複数の施設に在籍・通所する)	小中学校等での障害理解に関する学習、交流学習の充実
全 体	17.3	17.7	10.4	11.6	7.5	2.4	6.5
18～39歳	13.0	16.6	19.7	10.9	14.7	4.4	11.3
40～64歳	21.1	18.6	11.6	13.9	7.0	1.6	5.8
65～74歳	19.3	18.7	3.9	11.2	2.4	0.9	4.5
75歳以上	12.9	16.1	2.3	8.2	4.5	3.2	4.3

区分	障害者、高齢者等に配慮した「やさしいまちづくり」の推進	物理的、制度的、情報、意識など、様々なバリアフリー化	成年後見制度の周知	経済的支援	障害があっても、誰かを手助けしたり、誰かの役に立つことのできる機会の創出・提供・紹介	その他	無回答
全 体	18.0	6.3	2.4	25.7	10.6	2.9	11.4
18～39歳	11.8	4.8	3.4	29.2	12.0	4.6	5.3
40～64歳	15.6	7.8	2.7	30.9	10.1	3.4	8.6
65～74歳	24.5	8.8	1.5	18.7	10.3	1.8	13.6
75歳以上	25.9	3.2	1.6	16.3	10.0	0.9	20.2

【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で「近隣住民の理解と協力」、重症心身障害で「介護職等の福祉サービスを支える人材の育成確保」「通所施設の併用（複数の施設に在籍・通所する）」、発達障害で「障害者就労支援の強化、仕事の開拓、企業開拓」、知的障害で「グループホームの整備、充実」の割合が高くなっています。

単位：％

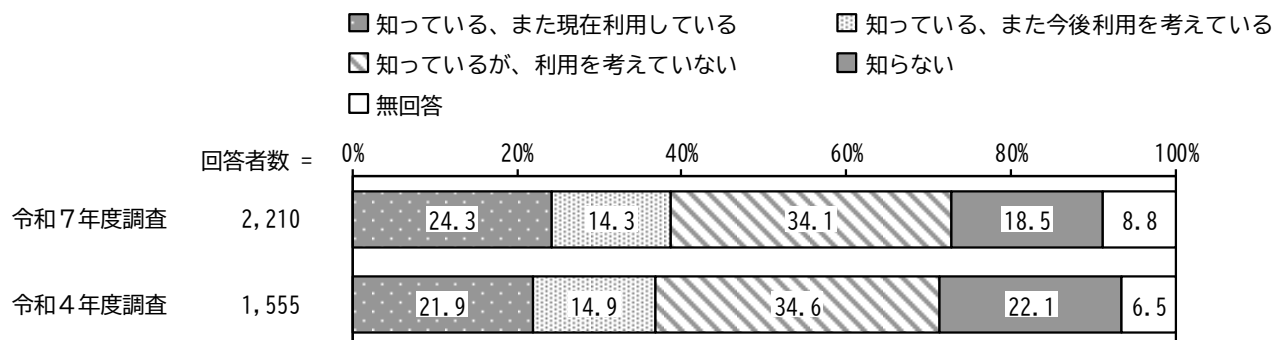
区分	回答者数 (件)	近隣住民の理解と協力	障害理解・バリアフリーに関する区民向けセミナーなどの開催	障害者と交流を持つ場の様々な企画、充実	地域の見守りネットワーク	障害者支援ボランティアの育成活用	介護職等の福祉サービスを支える人材の育成確保
全 体	2,210	34.3	6.5	7.1	9.7	5.3	12.8
身体障害	903	36.9	8.2	6.0	10.5	5.8	16.4
知的障害	422	38.2	4.7	9.2	8.5	6.9	14.7
精神障害	560	31.3	5.9	8.9	7.1	5.4	9.3
難病	530	31.5	7.4	5.1	10.8	4.0	14.3
発達障害	183	34.4	8.7	8.7	7.1	5.5	8.7
高次脳機能障害	78	26.9	5.1	6.4	9.0	2.6	19.2
重症心身障害	36	30.6	5.6	11.1	2.8	2.8	30.6
強度行動障害	17	47.1	0.0	11.8	5.9	0.0	11.8

区分	保健・医療・福祉のネットワーク	身近な相談窓口の設置、充実	障害者就労支援の強化、仕事の開拓、企業開拓	住宅確保の支援	グループホームの整備、充実	通所施設の併用（複数の施設に在籍・通所する）	小中学校等での障害理解に関する学習、交流学習の充実
全 体	17.3	17.7	10.4	11.6	7.5	2.4	6.5
身体障害	15.9	17.7	5.4	10.2	5.2	3.0	6.5
知的障害	8.8	12.6	11.1	10.4	25.1	5.2	5.5
精神障害	19.6	20.2	17.1	15.5	5.2	0.9	6.3
難病	25.3	18.7	8.1	10.0	4.0	1.7	7.2
発達障害	14.2	15.8	24.6	15.3	9.8	3.8	10.4
高次脳機能障害	15.4	21.8	15.4	6.4	5.1	7.7	5.1
重症心身障害	11.1	2.8	2.8	5.6	16.7	16.7	5.6
強度行動障害	11.8	11.8	0.0	5.9	5.9	5.9	5.9

区分	障害者、高齢者等に配慮した「やさしいまちづくり」の推進	物理的、制度的、情報、意識など、様々なバリアフリー化	成年後見制度の周知	経済的支援	障害があっても、誰かを手助けしたり、誰かの役に立つことのできる機会の創出・提供・紹介	その他	無回答
全 体	18.0	6.3	2.4	25.7	10.6	2.9	11.4
身体障害	22.8	8.5	2.2	19.9	10.2	2.8	12.0
知的障害	18.7	3.6	5.7	19.9	10.2	3.6	11.4
精神障害	15.5	5.0	1.8	34.3	10.5	3.4	10.4
難病	14.9	8.5	1.1	29.6	11.5	2.6	9.1
発達障害	13.1	4.4	4.4	32.2	13.7	4.4	7.1
高次脳機能障害	11.5	6.4	5.1	33.3	11.5	3.8	15.4
重症心身障害	19.4	5.6	0.0	19.4	8.3	2.8	13.9
強度行動障害	17.6	5.9	5.9	23.5	0.0	17.6	17.6

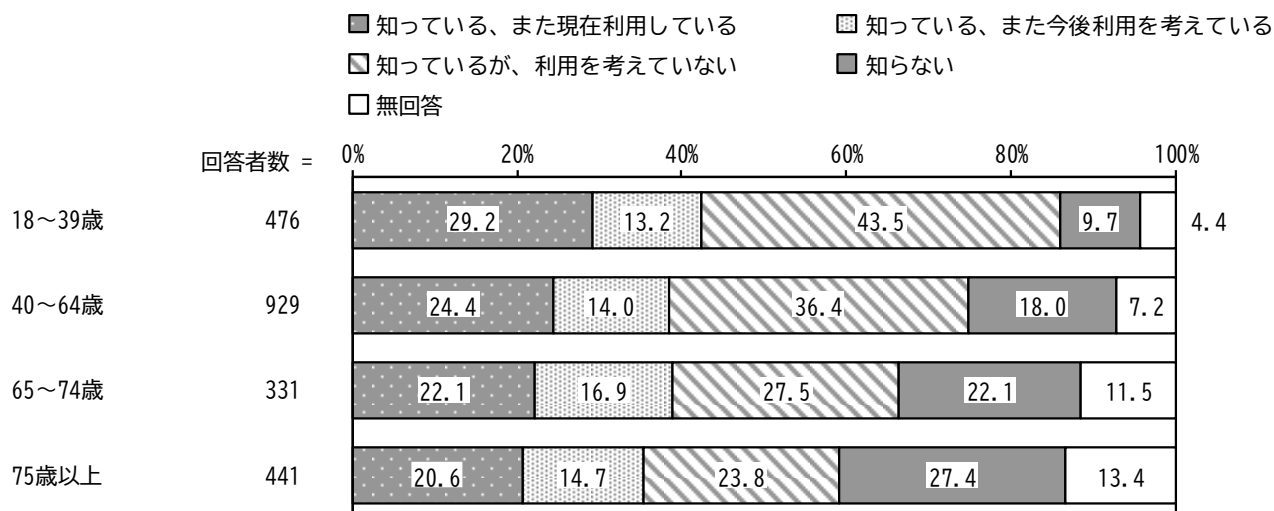
問 54 あなた（ご本人）は、ヘルプマークを知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「知っているが、利用を考えていない」の割合が 34.1%と最も高く、次いで「知っている、また現在利用している」の割合が 24.3%、「知らない」の割合が 18.5%となっています。



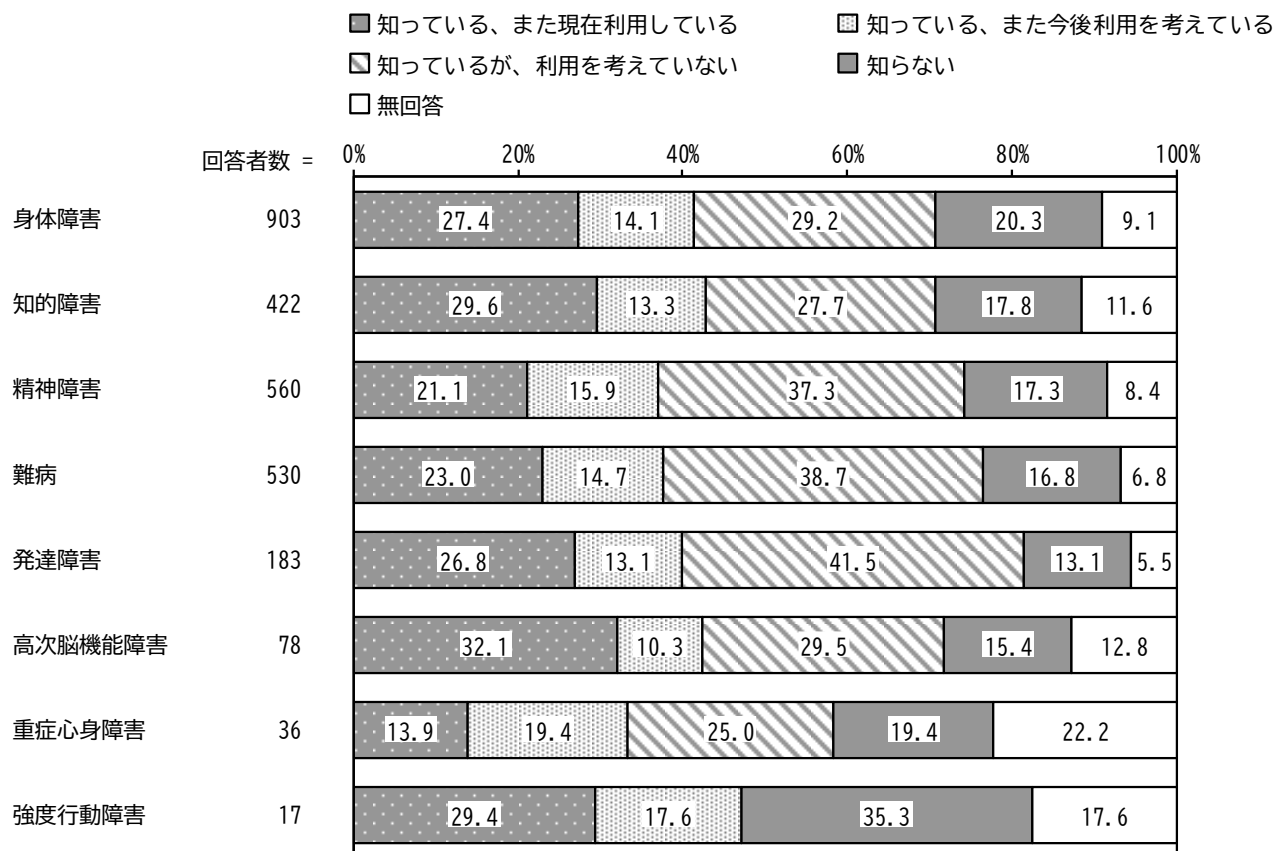
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っている、また現在利用している」「知っているが、利用を考えていない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



【障害種別】

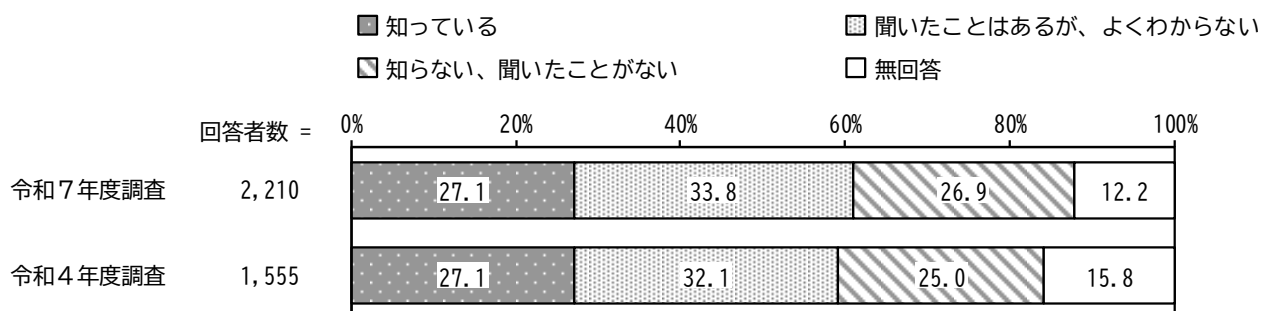
障害種別にみると、強度行動障害で「知らない」の割合が高く、重症心身障害で「知っている、また現在利用している」の割合が低くなっています。



問 55 あなた（ご本人）は、成年後見制度、日常生活自立支援事業について知っていますか。それぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。

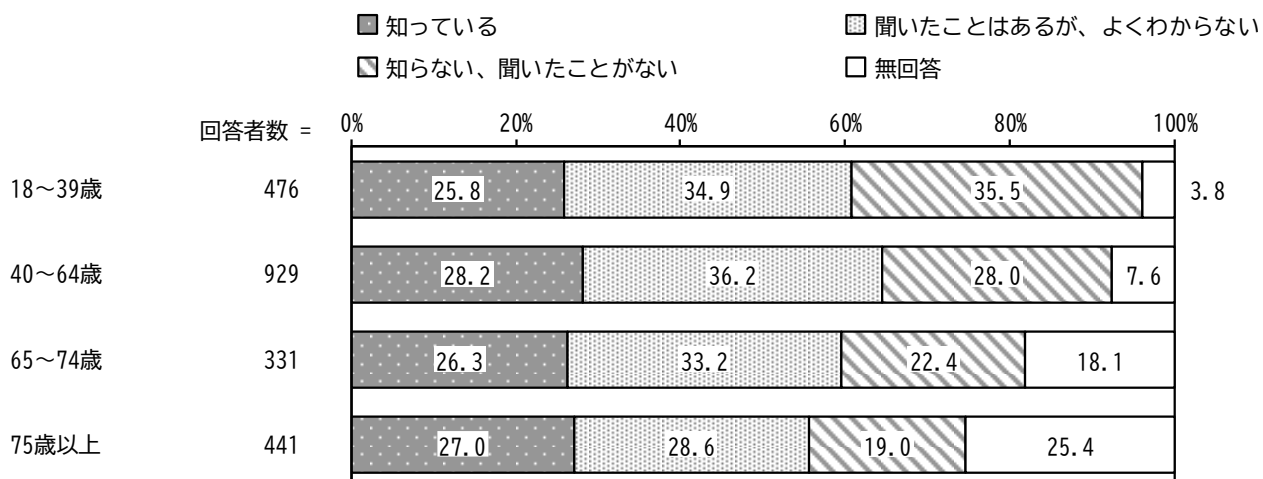
ア) 成年後見制度

「知っている」の割合が27.1%、「聞いたことはあるが、よくわからない」の割合が33.8%、「知らない、聞いたことがない」の割合が26.9%となっています。



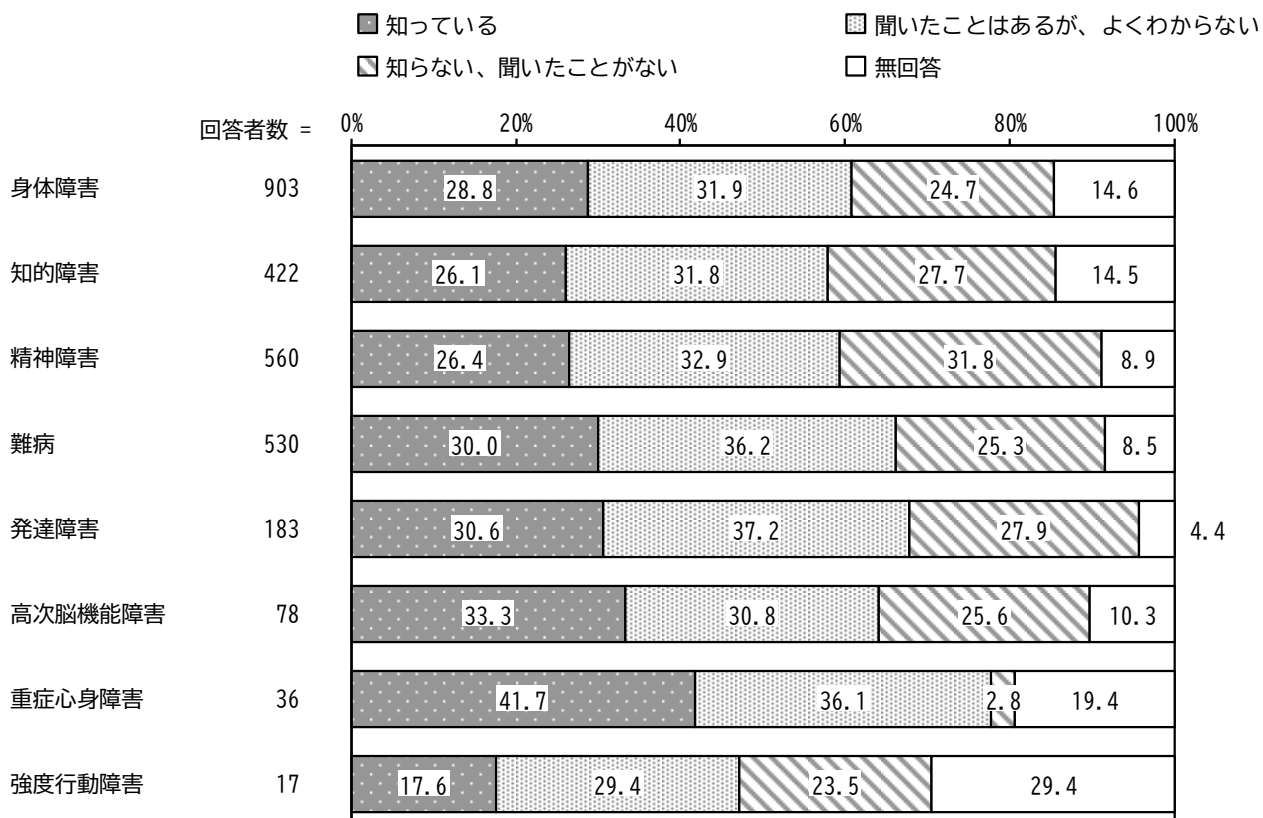
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知らない、聞いたことがない」の割合が高くなっています。



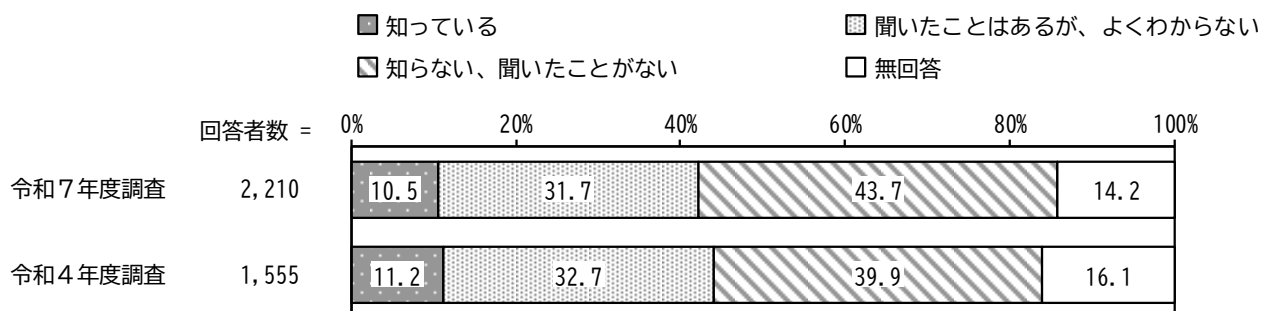
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「知っている」の割合が高く、「知らない、聞いたことがない」の割合が低くなっています。



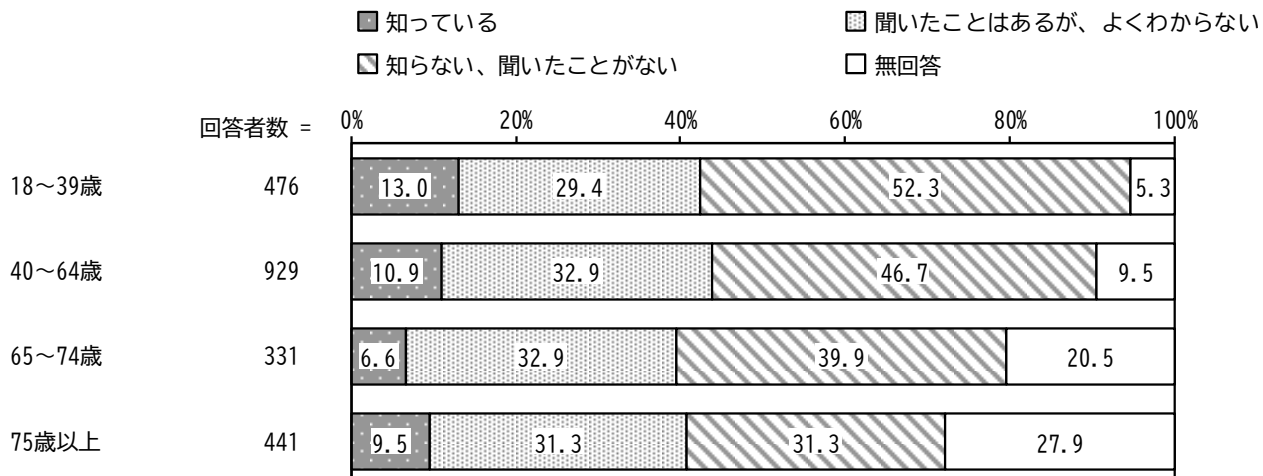
イ) 日常生活自立支援事業

「知っている」の割合が10.5%、「聞いたことはあるが、よくわからない」の割合が31.7%、「知らない、聞いたことがない」の割合が43.7%となっています。



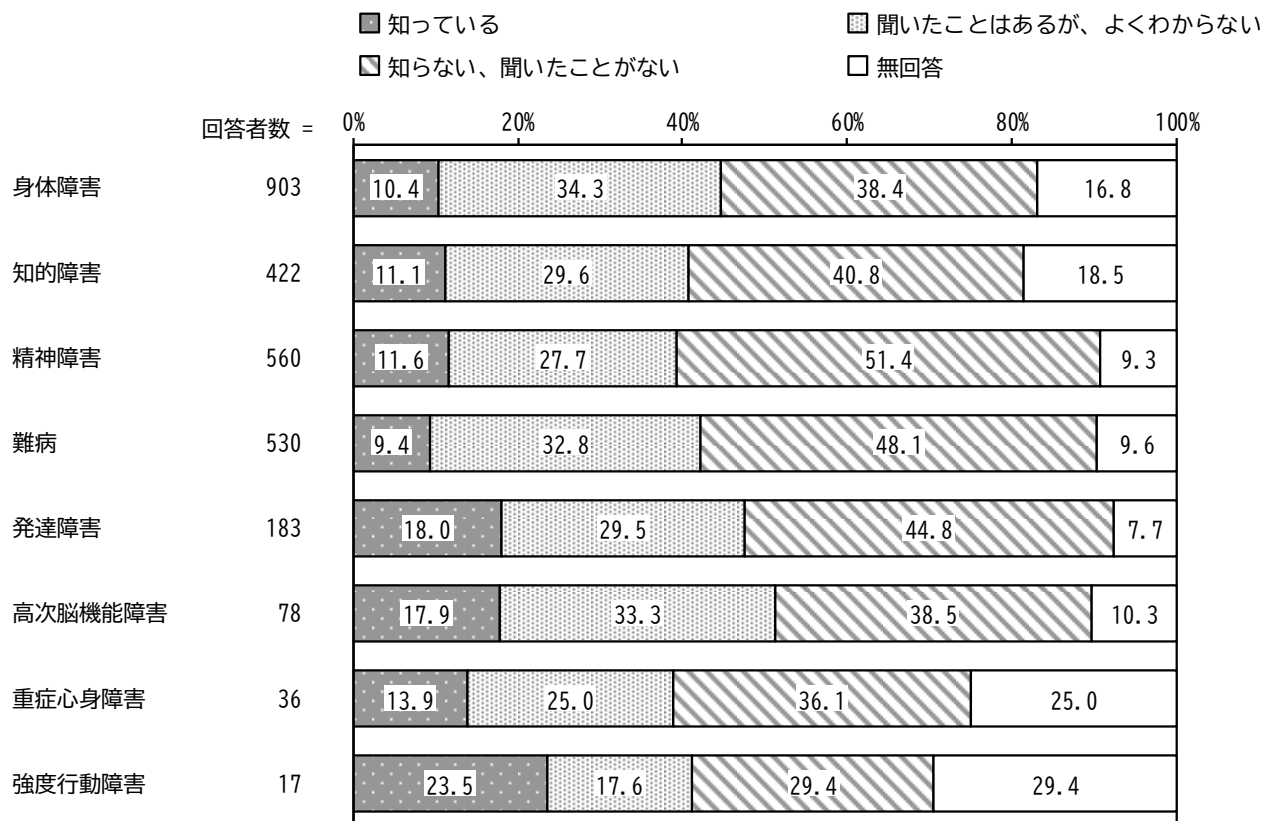
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知らない、聞いたことがない」の割合が高くなっています。



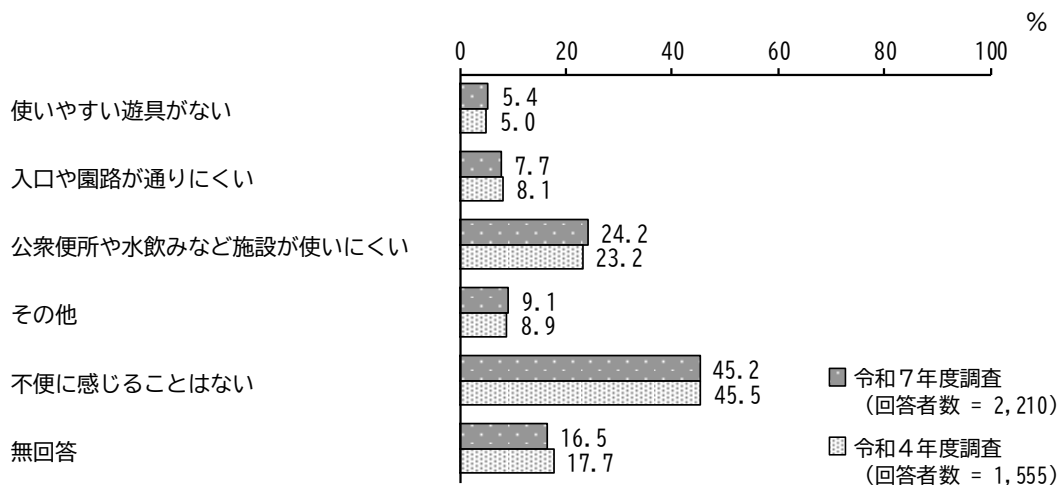
【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で「知っている」の割合が高く、「聞いたことはあるが、よくわからない」「知らない、聞いたことがない」の割合が低くなっています。



問 56 あなた（ご本人）が公園で不便に感じていることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「使いやすい遊具がない」の割合が 5.4%、「入口や園路が通りにくい」の割合が 7.7%、「公衆便所や水飲みなど施設が使いにくい」の割合が 24.2%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「公衆便所や水飲みなど施設が使いにくい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	使い やすい遊具が ない	入口や園路が通 りにくい	公衆便所や水飲 みなど施設が使 いにくい	その他	不便に感 じること はない	無回 答
全 体	2,210	5.4	7.7	24.2	9.1	45.2	16.5
18～39歳	476	8.2	6.3	27.5	8.2	51.5	9.2
40～64歳	929	4.5	8.6	26.2	9.4	47.8	11.5
65～74歳	331	3.6	8.5	23.0	10.3	39.9	21.5
75歳以上	441	5.4	7.3	17.5	8.6	38.1	29.9

【障害種別】

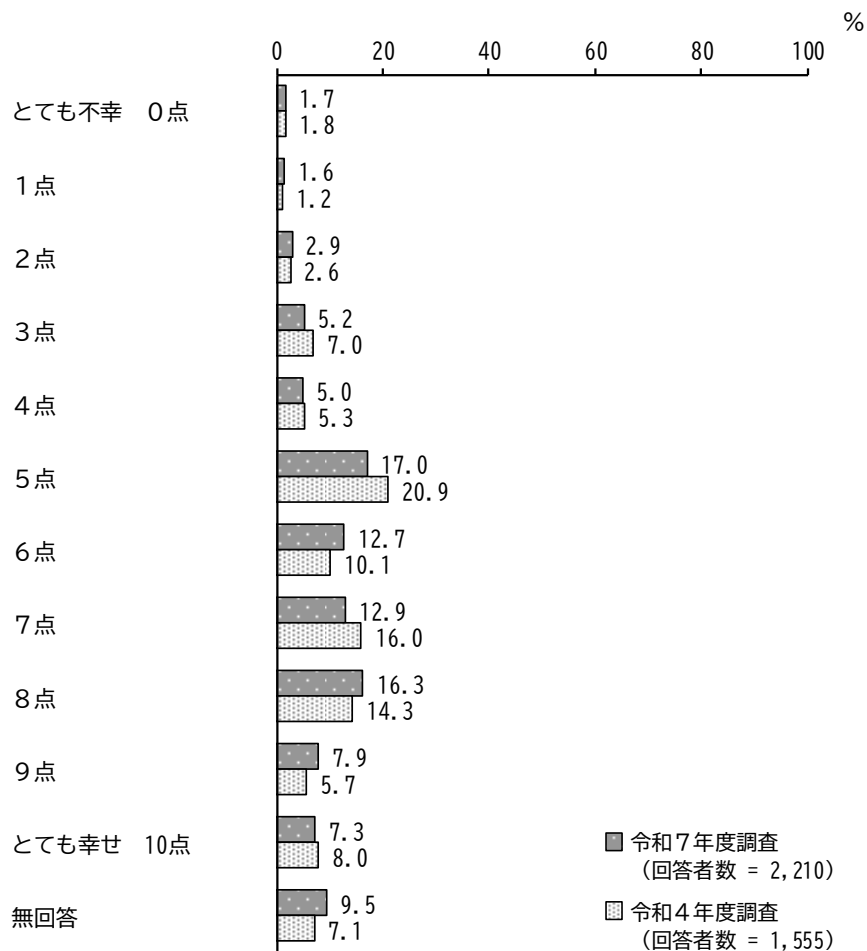
障害種別にみると、重症心身障害で「使いやすい遊具がない」「入口や園路が通りにくい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	使い やすい遊具が ない	入口や園路が通 りにくい	公衆便所や水飲 みなど施設が使 いにくい	その他	不便に感 じること はない	無回 答
全 体	2,210	5.4	7.7	24.2	9.1	45.2	16.5
身体障害	903	6.0	11.6	23.7	10.6	40.4	18.1
知的障害	422	9.2	7.1	22.5	5.0	45.0	22.0
精神障害	560	4.6	6.6	26.8	10.5	45.2	12.7
難病	530	4.3	6.4	24.2	9.1	47.7	14.5
発達障害	183	6.6	5.5	32.2	11.5	45.4	9.8
高次脳機能障害	78	2.6	15.4	26.9	10.3	41.0	14.1
重症心身障害	36	16.7	25.0	25.0	2.8	25.0	30.6
強度行動障害	17	5.9	5.9	17.6	5.9	35.3	35.3

問 57 あなた（ご本人）は、現在どの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、0点から10点までのいずれか1つに○をつけてください。

「5点」の割合が17.0%と最も高く、次いで「8点」の割合が16.3%、「7点」の割合が12.9%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「5点」の割合が高い傾向にあり、「18～39歳」から「65～74歳」まで年齢が上がるほど「7点」の割合が高く、「6点」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	とても不幸 0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	とても幸せ 10点	無回答
全 体	2,210	1.7	1.6	2.9	5.2	5.0	17.0	12.7	12.9	16.3	7.9	7.3	9.5
18～39歳	476	0.6	1.7	2.9	4.4	5.3	12.6	15.8	11.8	17.6	9.0	9.0	9.2
40～64歳	929	2.5	2.4	3.9	6.0	5.8	17.4	13.0	12.7	15.5	7.4	6.4	7.0
65～74歳	331	1.5	0.9	2.7	6.6	4.5	17.2	10.6	16.3	17.2	6.6	6.0	9.7
75歳以上	441	1.4	0.5	0.9	2.7	3.9	20.9	10.9	12.0	17.0	8.4	8.6	12.9

【障害種別】

障害種別にみると、強度行動障害で「1点」「9点」、高次脳機能障害で「3点」、高次脳機能障害、重症心身障害で「5点」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	とても不幸 0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	とても幸せ 10点	無回答
全 体	2,210	1.7	1.6	2.9	5.2	5.0	17.0	12.7	12.9	16.3	7.9	7.3	9.5
身体障害	903	1.2	1.2	1.3	4.7	4.2	17.9	11.2	14.0	17.7	9.0	7.8	9.9
知的障害	422	1.7	0.5	1.4	2.4	4.5	17.1	10.0	12.1	17.1	6.6	10.7	16.1
精神障害	560	3.8	3.9	7.3	9.3	8.0	17.7	13.6	10.7	10.4	4.3	4.3	6.8
難病	530	1.1	0.4	2.5	4.3	3.6	15.5	15.1	14.0	19.6	9.6	6.8	7.5
発達障害	183	0.5	4.4	4.4	3.3	7.7	13.1	16.9	13.1	18.0	3.8	7.1	7.7
高次脳機能障害	78	3.8	0.0	3.8	10.3	3.8	23.1	9.0	10.3	15.4	3.8	5.1	11.5
重症心身障害	36	0.0	2.8	5.6	0.0	2.8	22.2	5.6	11.1	13.9	5.6	5.6	25.0
強度行動障害	17	5.9	11.8	0.0	0.0	0.0	17.6	0.0	0.0	11.8	17.6	0.0	35.3

問 58 江東区の障害者施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

・経済的支援・金銭的負担軽減について(92 件)

金銭的な支援（金銭面の支給や税制、保険料の減免など）

・相談体制・窓口対応・情報提供について(77 件)

相談の内容でたらい回しにしない専門窓口を作って欲しい

・移動・交通機関・バリアフリーについて(63 件)

点字ブロックをふやして欲しい。交通信号に音つきをふやして欲しい。歩道上の電柱やポールを整理して欲しい。

・施設・グループホーム・住居について(57 件)

区内にグループホームが少ないので、もっとあれば良いと思う。

・区や支援者への感謝・現状の満足について(45 件)

江東区障害支援課の方々、深川保健相談所の方々、海辺長寿サポートセンターの方々、皆さんに感謝しております。

・障害や難病の理解促進・啓発について(41 件)

外から見てわからない障害者もいます。一見、元気そうに見えても、無理してることもあります。周りへの周知をもっとしてほしい。見てわかる障害者や、高齢者（高齢でもすごく元気で健康な人もいるのに）に対してだけ周りからの配慮があるのは不満に感じる。

・就労・日中活動について(40 件)

就労移行支援事業所に通所していたが、福祉の専門家はいるが、就職活動の専門家がいなかった。

・手帳・受給者証の制度・手続きについて(40 件)

手続きを豊洲出張で完結するようにお願いしたい。

・難病に対する支援・配慮について(31 件)

難病患者にも、障害者と同等の支援をして欲しい。

・医療・リハビリ・医療的ケアについて(28 件)

豊洲文化センターにおいてリハビリ運動などの活動が少ない。ほとんどが東陽町方面で移動できないので。豊洲内でのリハビリ、コミュニティーなど回数も含めて増してほしい。時間、曜日などが合わず参加できないです。

・介護者・家族への支援について(28 件)

障害者本人に都営交通無料乗車券の配布はあるが、介護者にも配布をしてほしい。他の自治体では介護者にも提供しています。

・アンケートそのものへの意見・不満について(28 件)

別の問いでも記入しましたが、単身住まいの障害者にこのようなアンケートは難しいので、ところどころ空白がありますがご理解ください。

・高齢化に伴う支援・介護保険との連携について(27 件)

今はよいが、今後、介護が必要になった時の不安がある。

・精神障害・発達障害に対する支援について(24 件)

メンタル障害に対する支援、サポートの強化。

・余暇・スポーツ・文化活動について(23 件)

もし障害の程度が同じくらいの人と集まって交流できる場があったら、利用したいと思います。障害の有無はあまり関係なく、仲間を作りたいです。

・ヘルパー・訪問介護・居宅介護について(16 件)

通院に付き添いが必要ですが、そういうサービスがあるのか？あるとすれば利用する方法は？等の情報を得る手段がわからない。

・公園・トイレ等の公共設備について(11 件)

公園のトイレをウォシュレットにしてほしい。施設内でもトイレにウォシュレットの設備を増やしてほしい。

・災害時の支援・避難について(4 件)

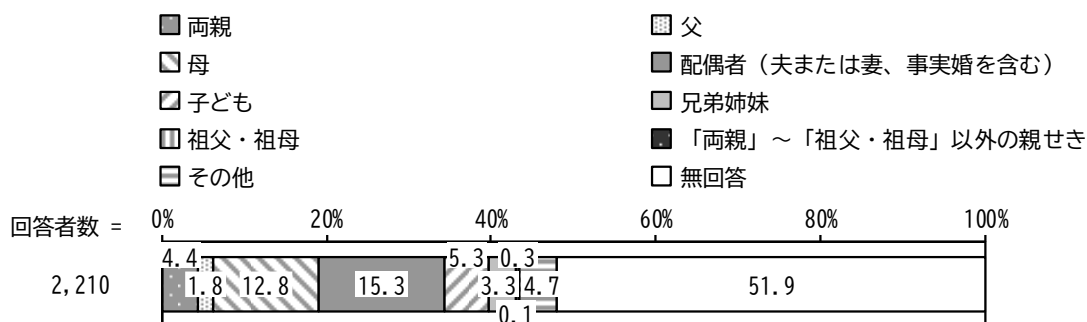
透析患者の災害時の避難について、情報が得られるようにしていただきたい。

・その他について(21 件)

(11) 介護者について

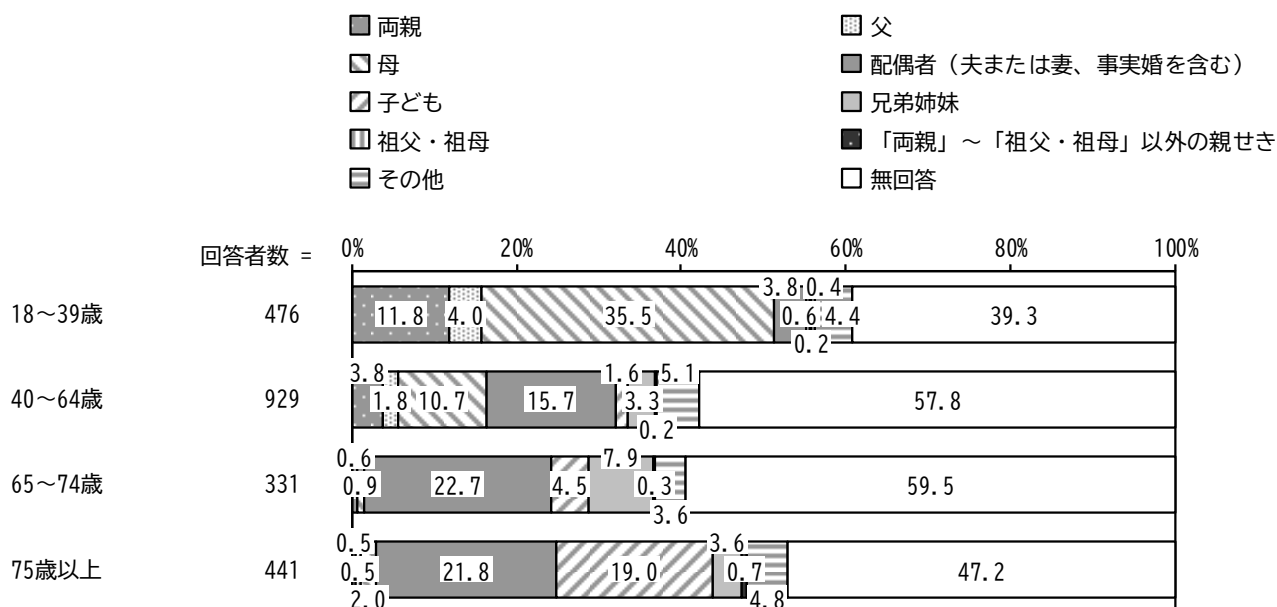
問 59 主たる介護者の方の続柄（ご本人様から見た関係）と年齢、1日の平均的な介護の時間数について、お聞きます。続柄は、あてはまるもの1つに○をつけてください。年齢と1日の平均的な介護の時間数は、それぞれ記入してください。

「配偶者（夫または妻、事実婚を含む）」の割合が15.3%と最も高く、次いで「母」の割合が12.8%となっています。



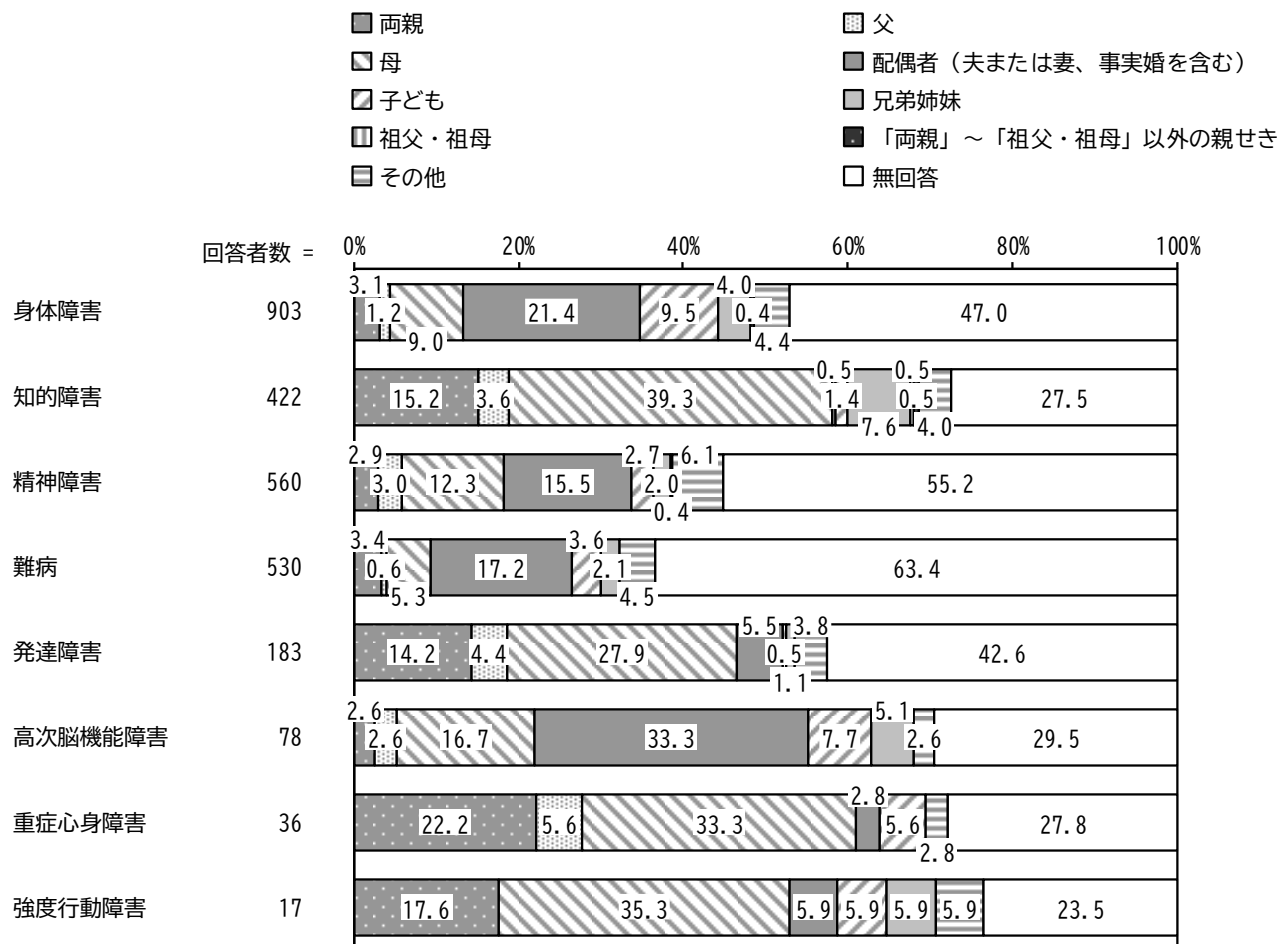
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「子ども」の割合が高く、「両親」の割合が低く、「18～39 歳」から「65～74 歳」まで年齢が上がるほど「配偶者（夫または妻、事実婚を含む）」の割合が高く、「母」の割合が低くなっています。



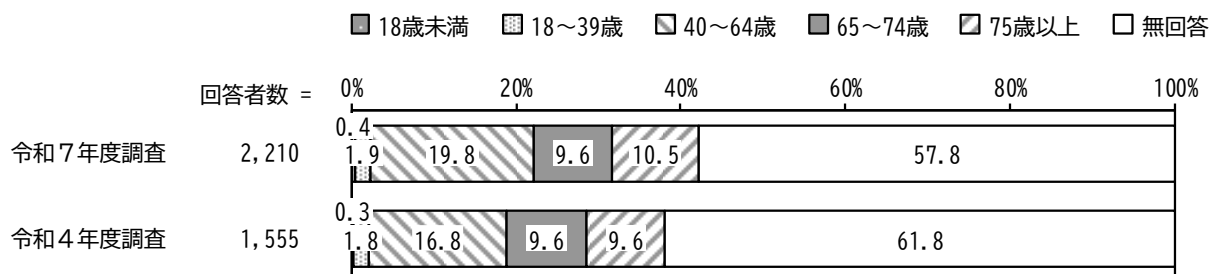
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「両親」、知的障害で「母」、高次脳機能障害で「配偶者（夫または妻、事実婚を含む）」の割合が高くなっています。



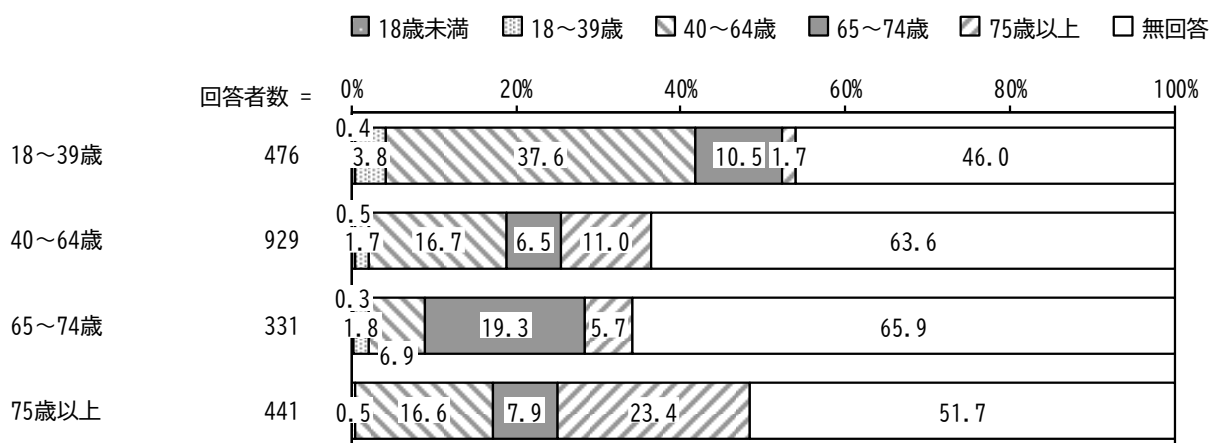
ア) 介護者の年齢

「40～64 歳」の割合が 19.8%と最も高く、次いで「75 歳以上」の割合が 10.5%となっています。



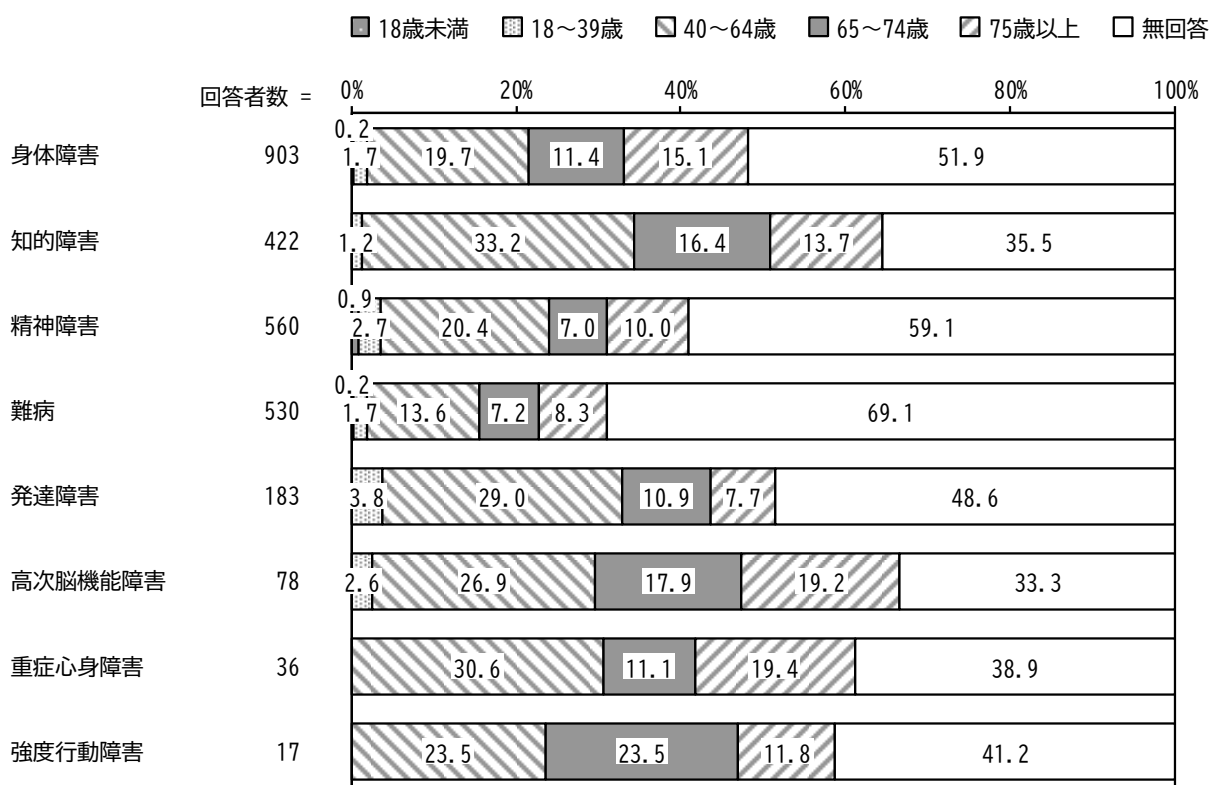
【年齢別】

年齢別にみると、「65～74 歳」から「18～39 歳」まで年齢が下がるほど「40～64 歳」の割合が高くなっています。また、「75 歳以上」で「75 歳以上」の割合が高くなっています。



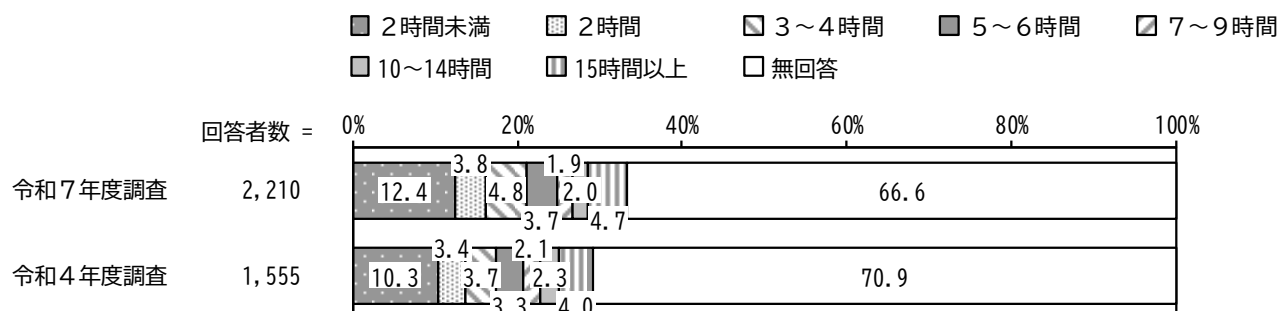
【障害種別】

障害種別にみると、知的障害、重症心身障害で「40～64 歳」、強度行動障害で「65～74 歳」、高次脳機能障害、重症心身障害で「75 歳以上」の割合が高くなっています。



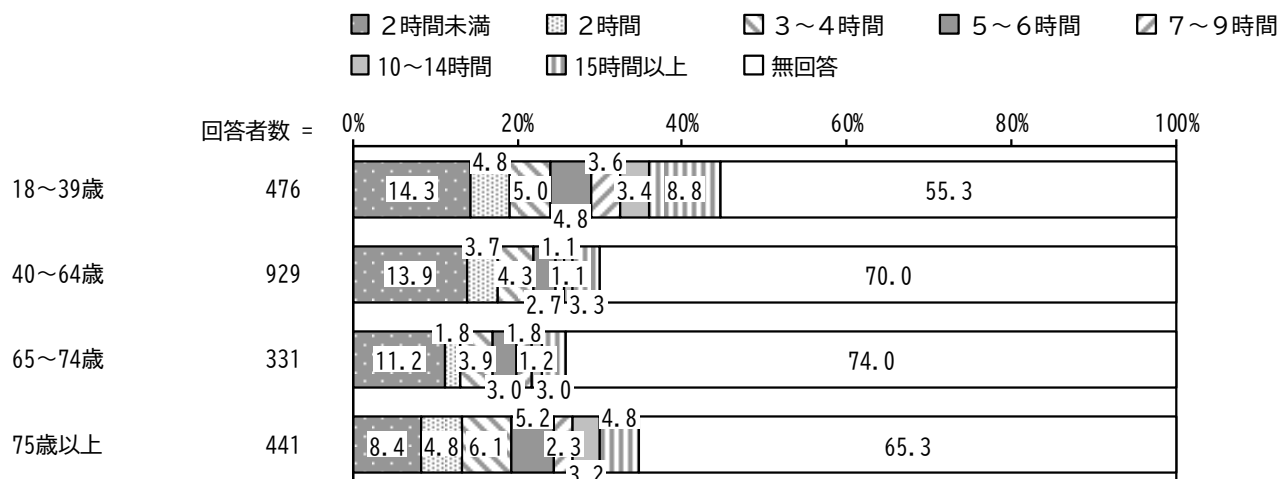
イ) 1日の介護時間

「2時間未満」の割合が12.4%と最も高くなっています。



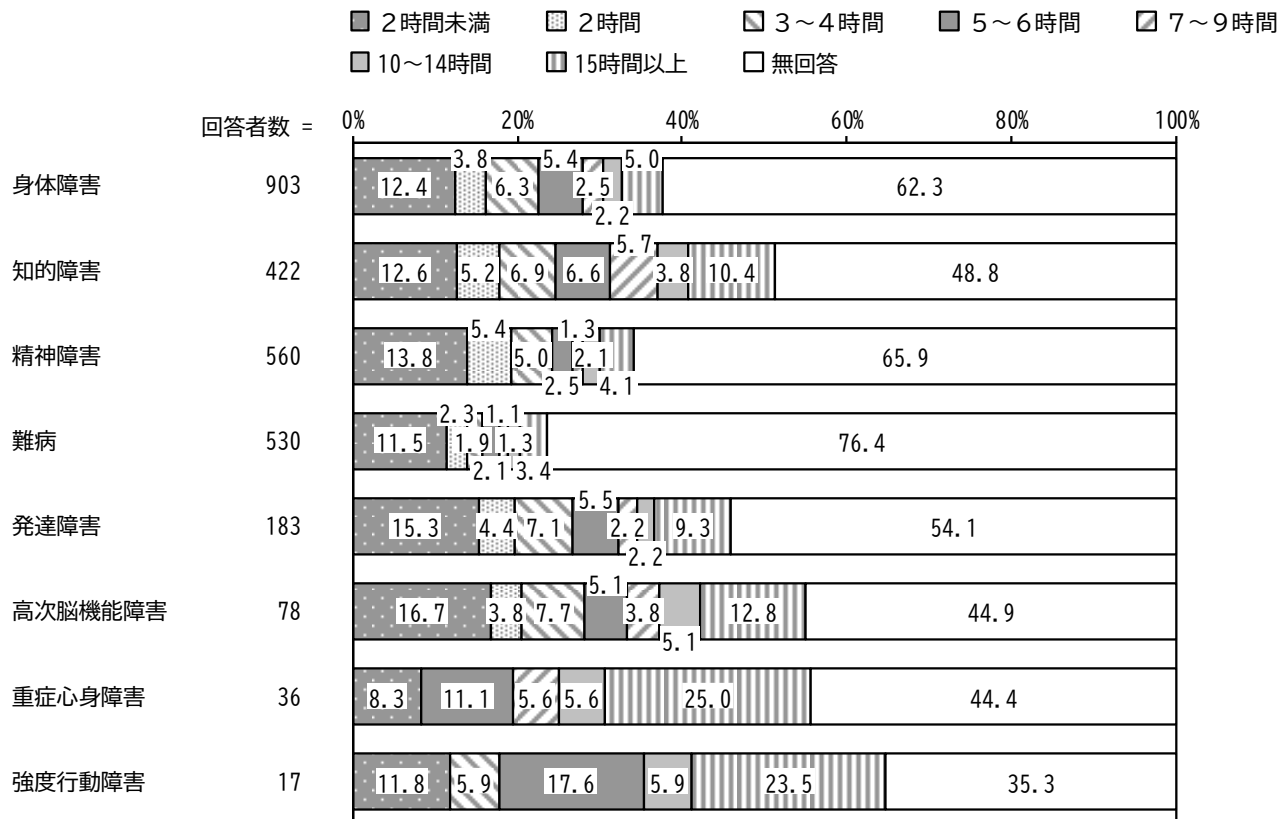
【年齢別】

年齢別にみると、「75歳以上」から「40～64歳」まで年齢が下がるほど「2時間未満」の割合が高くなっています。



【障害種別】

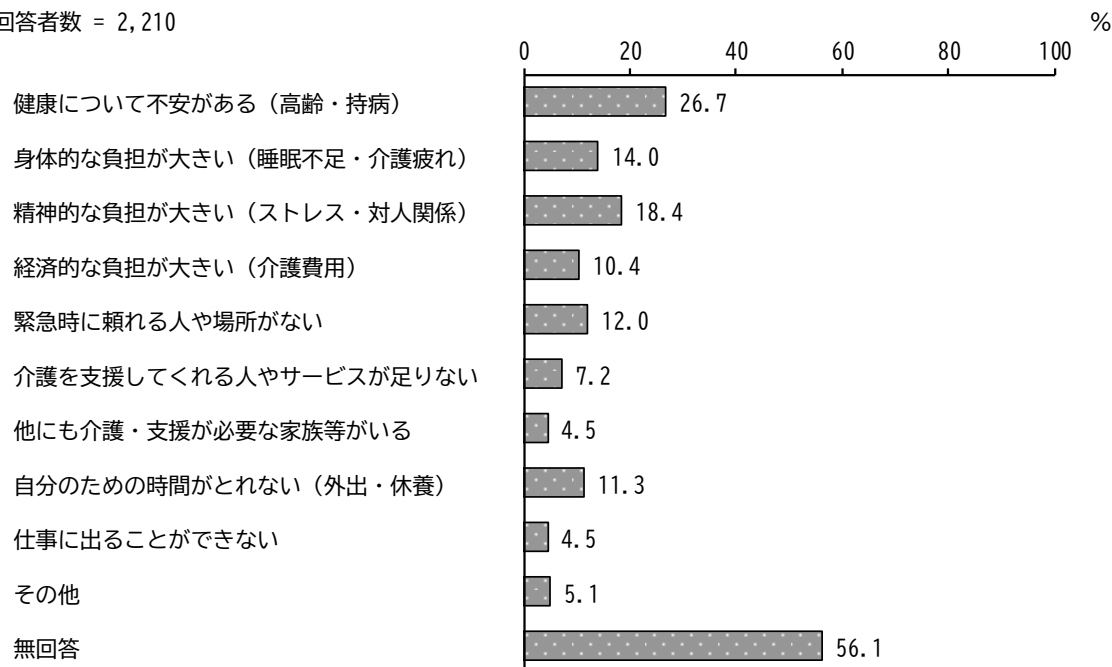
障害種別にみると、強度行動障害で「5～6時間」、重症心身障害、強度行動障害で「15 時間以上」の割合が高くなっています。



問 60 介護をするにあたり、どのような悩みや不安がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「健康について不安がある（高齢・持病）」の割合が26.7%と最も高く、次いで「精神的な負担が大きい（ストレス・対人関係）」の割合が18.4%、「身体的な負担が大きい（睡眠不足・介護疲れ）」の割合が14.0%となっています。

回答者数 = 2,210



【年齢別】

年齢別にみると、「65～74 歳」から「18～39 歳」まで年齢が下がるほど「健康について不安がある（高齢・持病）」「身体的な負担が大きい（睡眠不足・介護疲れ）」「精神的な負担が大きい（ストレス・対人関係）」「緊急時に頼れる人や場所がない」「介護を支援してくれる人やサービスが足りない」「自分のための時間がとれない（外出・休養）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	健康について不安がある (高齢・持病)	身体的な負担が大きい (睡眠不足・介護疲れ)	精神的な負担が大きい (ストレス・対人関係)	経済的な負担が大きい (介護費用)	緊急時に頼れる人や場所がない	介護を支援してくれる人やサービスが足りない	他にも介護・支援が必要な家族等がいる	自分のための時間がとれない (外出・休養)	仕事に出ることができない	その他	無回答
全 体	2,210	26.7	14.0	18.4	10.4	12.0	7.2	4.5	11.3	4.5	5.1	56.1
18～39歳	476	29.0	19.5	25.0	9.2	19.3	11.3	5.9	15.5	7.8	6.7	46.2
40～64歳	929	23.1	10.7	15.4	9.6	10.0	6.4	4.3	8.7	3.0	5.4	61.1
65～74歳	331	23.0	10.6	12.7	7.9	8.8	4.8	3.6	8.2	3.0	4.5	64.4
75歳以上	441	36.3	18.1	22.2	15.4	10.9	6.6	4.1	15.0	5.0	3.4	49.2

【障害種別】

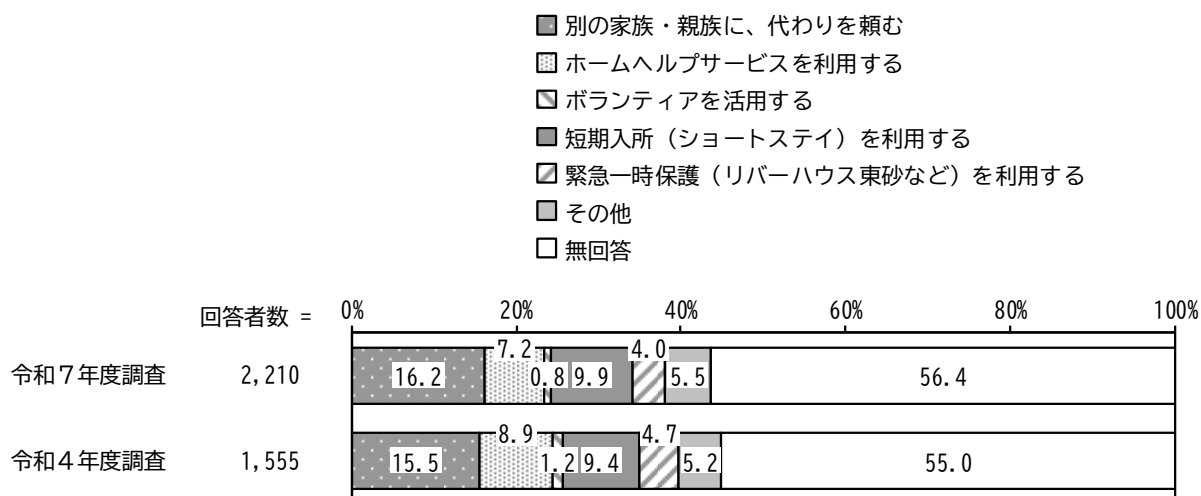
障害種別にみると、強度行動障害で「健康について不安がある（高齢・持病）」「身体的な負担が大きい（睡眠不足・介護疲れ）」「精神的な負担が大きい（ストレス・対人関係）」「自分のための時間がとれない（外出・休養）」、高次脳機能障害で「経済的な負担が大きい（介護費用）」「介護を支援してくれる人やサービスが足りない」、知的障害、強度行動障害で「緊急時に頼れる人や場所がない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	健康について不安がある（高齢・持病）	身体的な負担が大きい（睡眠不足・介護疲れ）	精神的な負担が大きい（ストレス・対人関係）	経済的な負担が大きい（介護費用）	緊急時に頼れる人や場所がない	介護を支援してくれる人やサービスが足りない	他にも介護・支援が必要な家族等がいる	自分のための時間がとれない（外出・休養）	仕事に出ることができない	その他	無回答
全 体	2,210	26.7	14.0	18.4	10.4	12.0	7.2	4.5	11.3	4.5	5.1	56.1
身体障害	903	32.0	18.8	20.6	12.0	13.4	8.5	6.0	13.7	6.3	5.8	50.7
知的障害	422	46.4	26.3	30.1	9.2	26.1	15.9	7.6	21.1	8.3	5.0	32.5
精神障害	560	24.1	13.6	23.0	12.9	12.1	5.9	4.8	12.0	2.9	4.3	57.5
難病	530	17.0	9.1	10.2	7.0	6.8	3.8	2.6	7.0	2.3	5.5	67.9
発達障害	183	31.7	20.2	30.1	8.7	21.3	9.3	8.2	16.9	5.5	6.0	45.9
高次脳機能障害	78	47.4	28.2	32.1	24.4	14.1	17.9	9.0	33.3	10.3	5.1	35.9
重症心身障害	36	61.1	50.0	33.3	11.1	22.2	11.1	8.3	27.8	8.3	2.8	33.3
強度行動障害	17	76.5	58.8	58.8	17.6	23.5	11.8	11.8	47.1	5.9	0.0	23.5

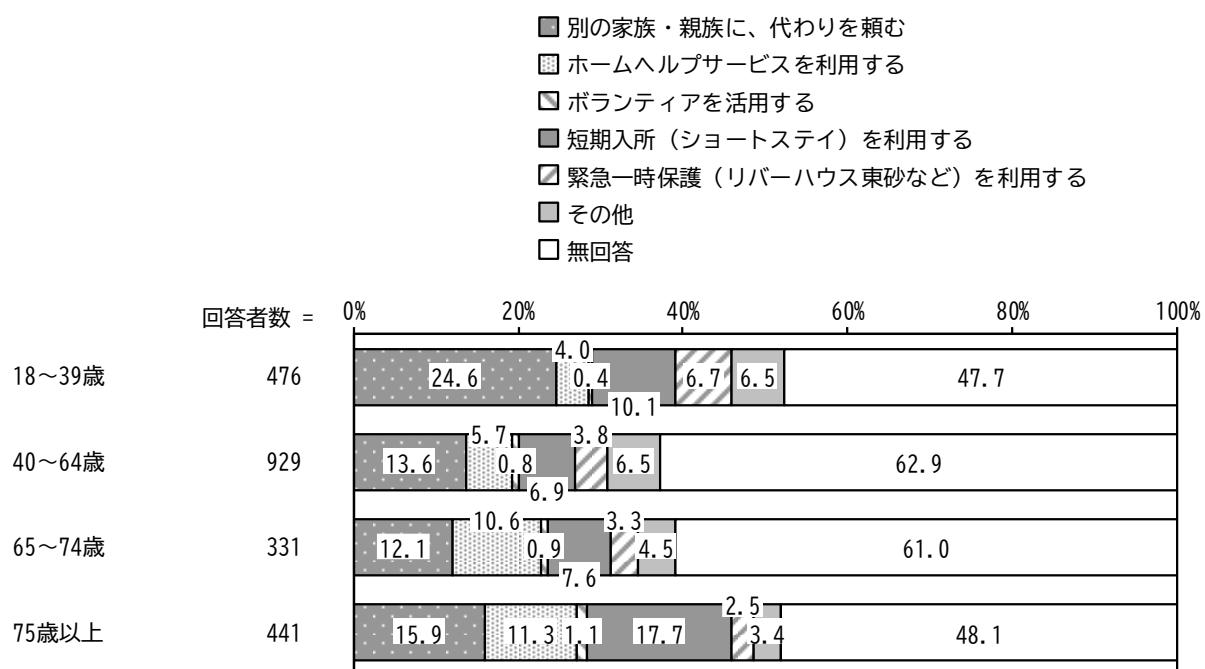
問 61 あなた（介護者）が、病気やけがで長期間（おおむね3か月程度）介護できなくなった場合、どのような対応を考えていますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

「別の家族・親族に、代わりを頼む」の割合が16.2%と最も高くなっています。



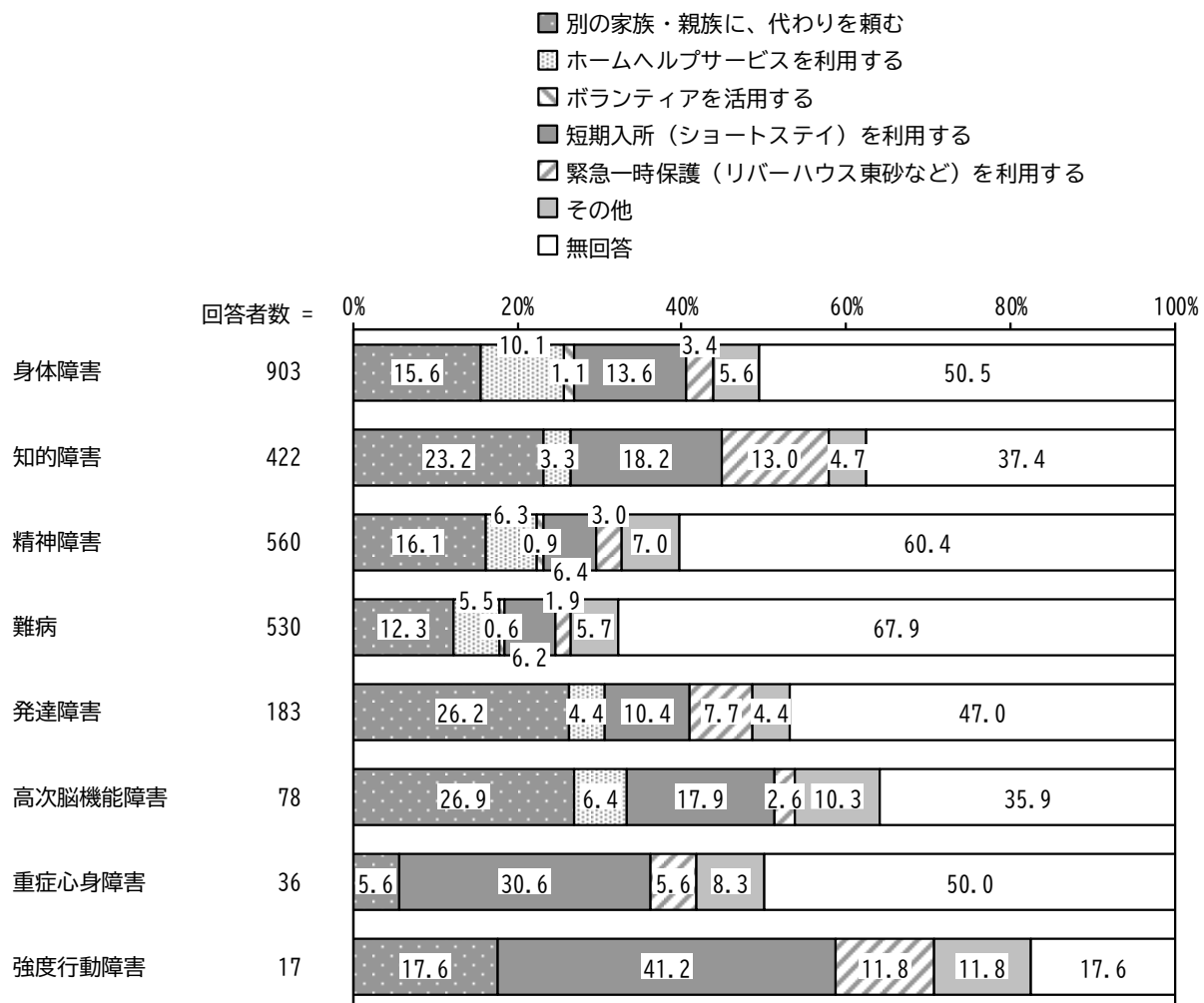
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「ホームヘルプサービスを利用する」の割合が高く、「40～64 歳」から「75 歳以上」まで年齢が上がるほど「短期入所（ショートステイ）を利用する」の割合が高くなっています。



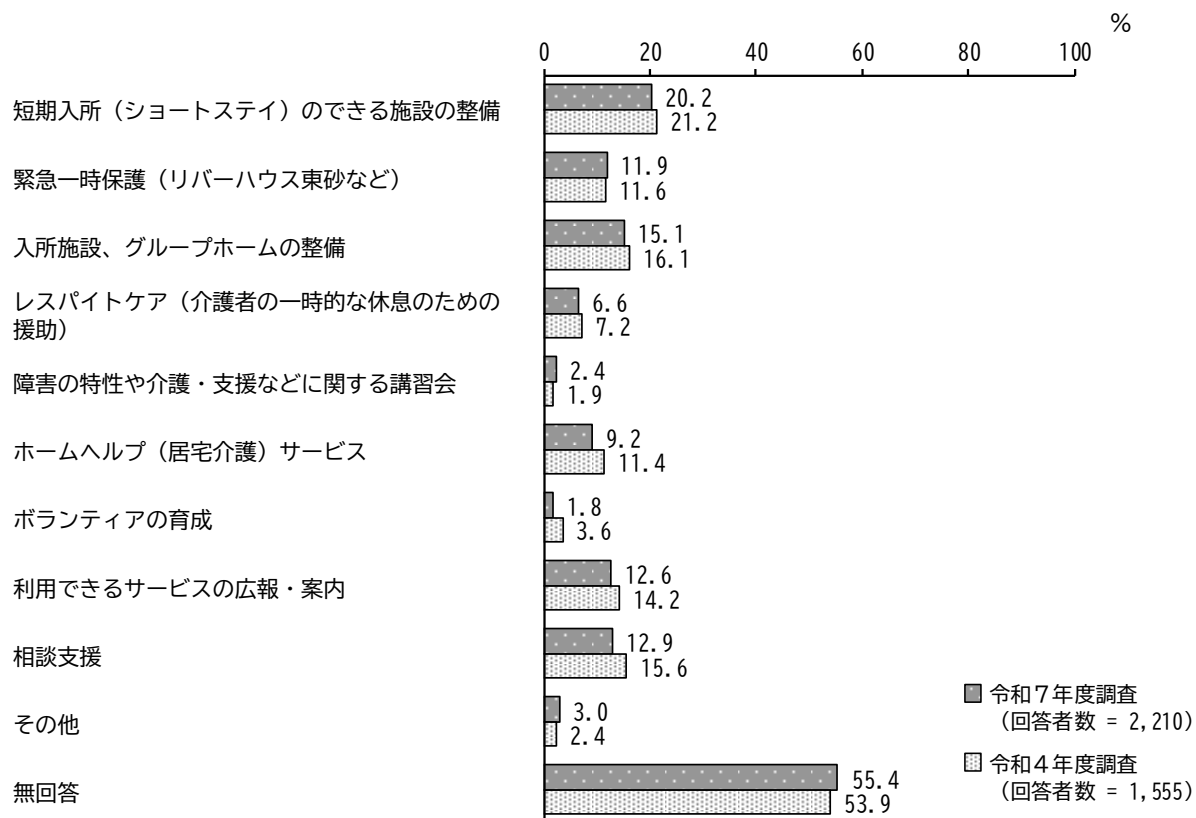
【障害種別】

障害種別にみると、発達障害、高次脳機能障害で「別の家族・親族に、代わりを頼む」、強度行動障害で「短期入所（ショートステイ）を利用する」、知的障害、強度行動障害で「緊急一時保護（リバーハウス東砂など）を利用する」の割合が高くなっています。



問 62 家族で介護する方への支援策として、今後充実してほしいことは何ですか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「短期入所（ショートステイ）のできる施設の整備」の割合が 20.2%と最も高く、次いで「入所施設、グループホームの整備」の割合が 15.1%、「相談支援」の割合が 12.9%となっています。



※令和4年度調査では、「障害の特性や介護・支援などに関する講習会」が「障害の特性や介護（介助）などに関する講習会」となっていました。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「ホームヘルプ（居宅介護）サービス」の割合が高く、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「短期入所（ショートステイ）のできる施設の整備」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	短期入所（ショートステイ）のできる施設の整備	緊急一時保護（リバーハウス東砂など）	入所施設、グループホームの整備	レスパイトケア（介護者の一時的な休息のための援助）	障害の特性や介護・支援などに関する講習会	ホームヘルプ（居宅介護）サービス	ボランティアの育成	利用できるサービスの広報・案内	相談支援	その他	無回答
全 体	2,210	20.2	11.9	15.1	6.6	2.4	9.2	1.8	12.6	12.9	3.0	55.4
18～39歳	476	23.3	17.9	22.9	9.2	3.4	6.5	2.3	14.7	15.8	4.0	44.7
40～64歳	929	15.2	10.0	12.5	4.6	1.8	7.5	1.2	10.4	11.7	3.0	62.2
65～74歳	331	17.2	7.9	9.7	4.2	2.4	9.1	2.7	15.1	12.4	2.7	60.7
75歳以上	441	30.2	12.7	16.8	9.8	2.5	15.2	1.6	13.8	13.2	2.3	48.1

【障害種別】

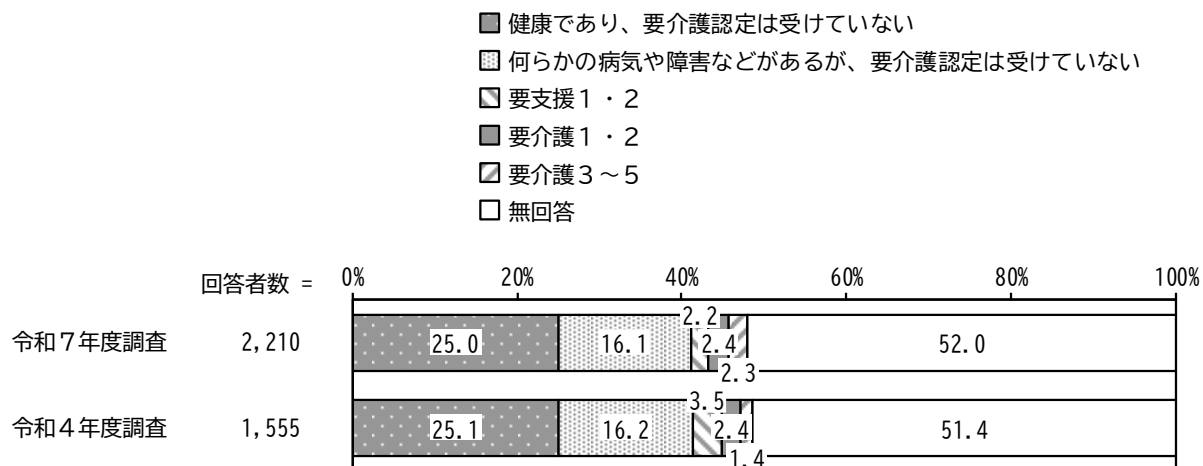
障害種別にみると、重症心身障害で「短期入所（ショートステイ）のできる施設の整備」「レスパイトケア（介護者の一時的な休息のための援助）」、知的障害で「緊急一時保護（リバーハウス東砂など）」、知的障害、強度行動障害で「入所施設、グループホームの整備」、高次脳機能障害で「利用できるサービスの広報・案内」、高次脳機能障害、強度行動障害で「相談支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	短期入所（ショートステイ）のできる施設の整備	緊急一時保護（リバーハウス東砂など）	入所施設、グループホームの整備	レスパイトケア（介護者の一時的な休息のための援助）	障害の特性や介護・支援などに関する講習会	ホームヘルプ（居宅介護）サービス	ボランティアの育成	利用できるサービスの広報・案内	相談支援	その他	無回答
全 体	2,210	20.2	11.9	15.1	6.6	2.4	9.2	1.8	12.6	12.9	3.0	55.4
身体障害	903	24.9	13.3	15.7	8.5	2.8	12.2	2.0	13.2	12.5	3.3	51.2
知的障害	422	36.5	28.7	38.4	11.1	3.3	6.6	1.7	15.6	16.4	2.8	30.8
精神障害	560	14.1	8.6	10.4	6.1	3.4	8.8	2.0	12.1	16.1	3.0	58.0
難病	530	14.3	7.2	8.3	5.5	1.7	8.5	1.9	9.4	9.1	2.8	67.5
発達障害	183	25.7	18.6	20.8	10.9	4.4	7.1	1.6	20.8	17.5	2.2	45.9
高次脳機能障害	78	25.6	14.1	11.5	10.3	5.1	14.1	2.6	26.9	24.4	6.4	37.2
重症心身障害	36	41.7	25.0	33.3	25.0	5.6	5.6	0.0	8.3	2.8	2.8	38.9
強度行動障害	17	35.3	17.6	41.2	11.8	11.8	5.9	0.0	23.5	23.5	11.8	29.4

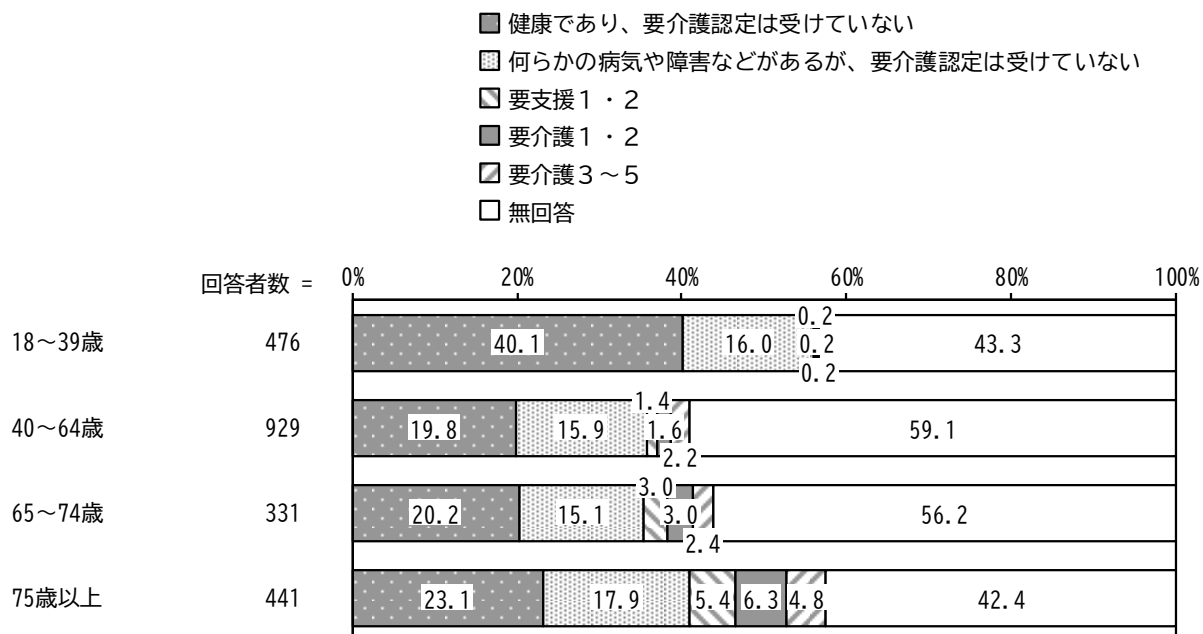
問 63 主な介護者の方は要介護認定を受けていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「健康であり、要介護認定は受けていない」の割合が 25.0%と最も高く、次いで「何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない」の割合が 16.1%となっています。



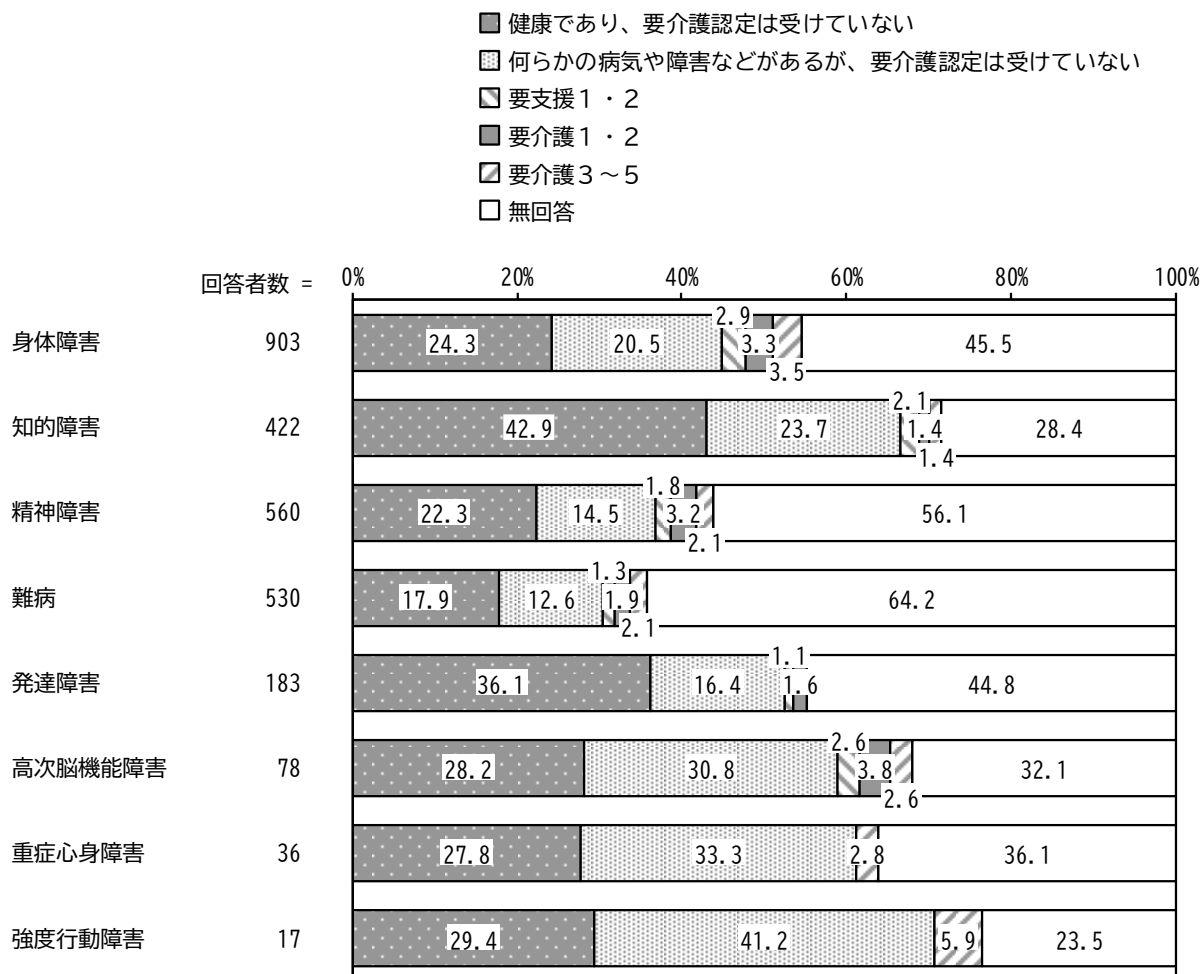
【年齢別】

年齢別にみると、「18～39 歳」で「健康であり、要介護認定は受けていない」の割合が高くなっています。



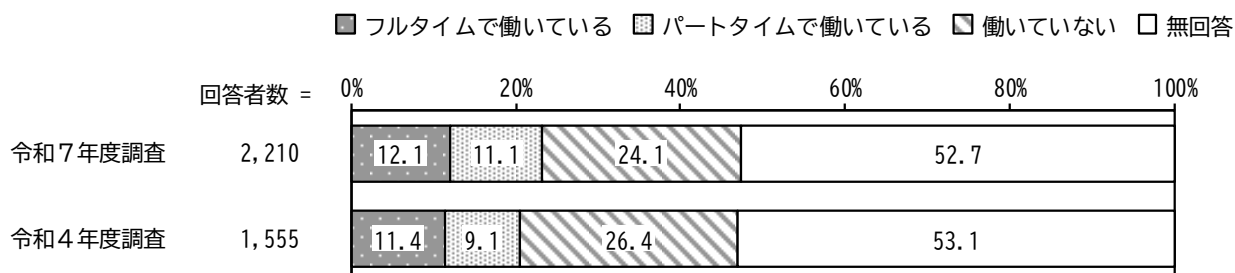
【障害種別】

障害種別にみると、知的障害で「健康であり、要介護認定は受けていない」、強度行動障害で「何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない」の割合が高くなっています。



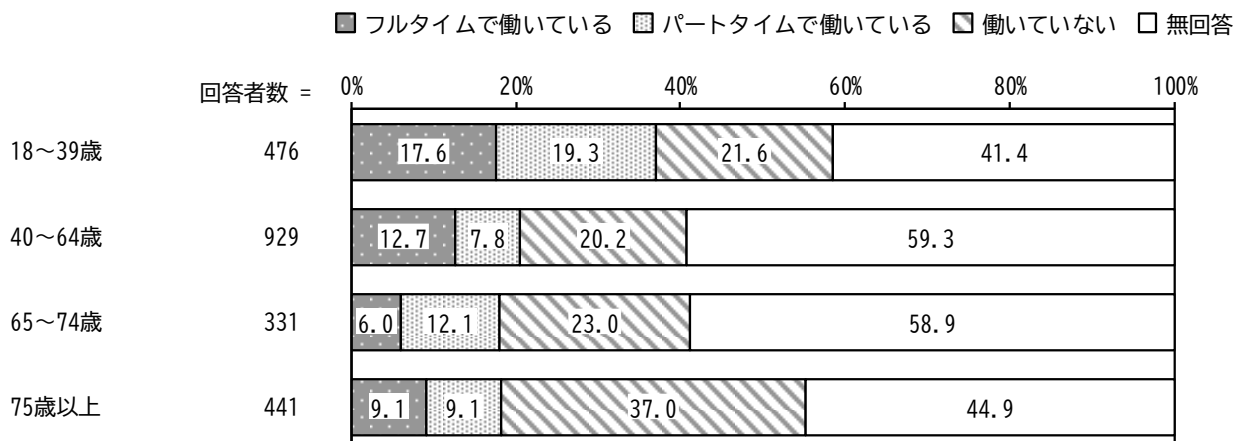
問 64 主な介護者の方の現在の勤務形態は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「フルタイムで働いている」の割合が12.1%、「パートタイムで働いている」の割合が11.1%、「働いていない」の割合が24.1%となっています。



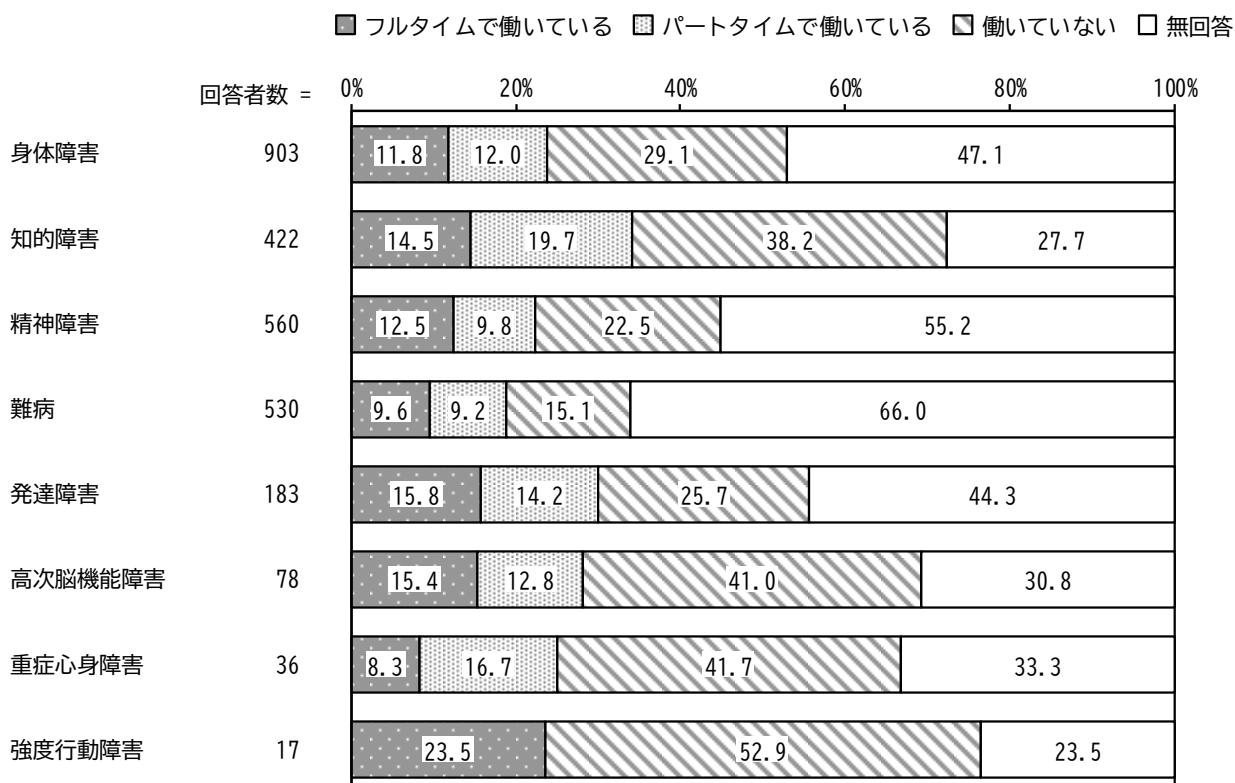
【年齢別】

年齢別にみると、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「働いていない」の割合が高くなっています。



【障害種別】

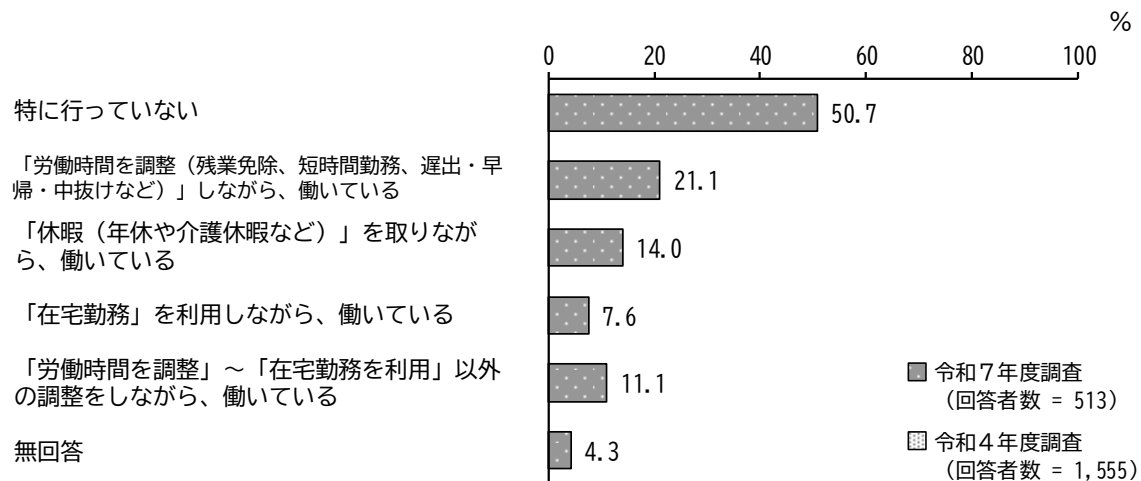
障害種別にみると、強度行動障害で「フルタイムで働いている」「働いていない」の割合が高くなっています。



問 64 で「フルタイムで働いている」または「パートタイムで働いている」に○をつけた方にうかがいます。

問 64－1 主な介護者の方は、介護にあたって、働き方についての調整などを行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている」の割合が 21.1%と最も高く、次いで「休暇（年休や介護休暇など）」を取りながら、働いている」の割合が 14.0%、「労働時間を調整」～「在宅勤務を利用」以外の調整をしながら、働いている」の割合が 11.1%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、「40～64 歳」から「75 歳以上」まで年齢が上がるほど「労働時間を調整」～「在宅勤務を利用」以外の調整をしながら、働いている」の割合が高く、「40～64 歳」から「75 歳以上」まで年齢が上がるほど「労働時間を調整」～「在宅勤務を利用」以外の調整をしながら、働いている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	特に行っていない	「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている	「休暇（年休や介護休暇など）」を取りながら、働いている	「在宅勤務」を利用しながら、働いている	「労働時間を調整」～「在宅勤務を利用」以外の調整をしながら、働いている	無回答
全 体	513	50.7	21.1	14.0	7.6	11.1	4.3
18～39歳	176	45.5	26.1	13.1	7.4	12.5	4.0
40～64歳	190	58.9	17.9	14.2	7.4	5.8	5.3
65～74歳	60	51.7	15.0	13.3	5.0	16.7	3.3
75歳以上	80	41.3	21.3	16.3	10.0	17.5	2.5

【障害種別】

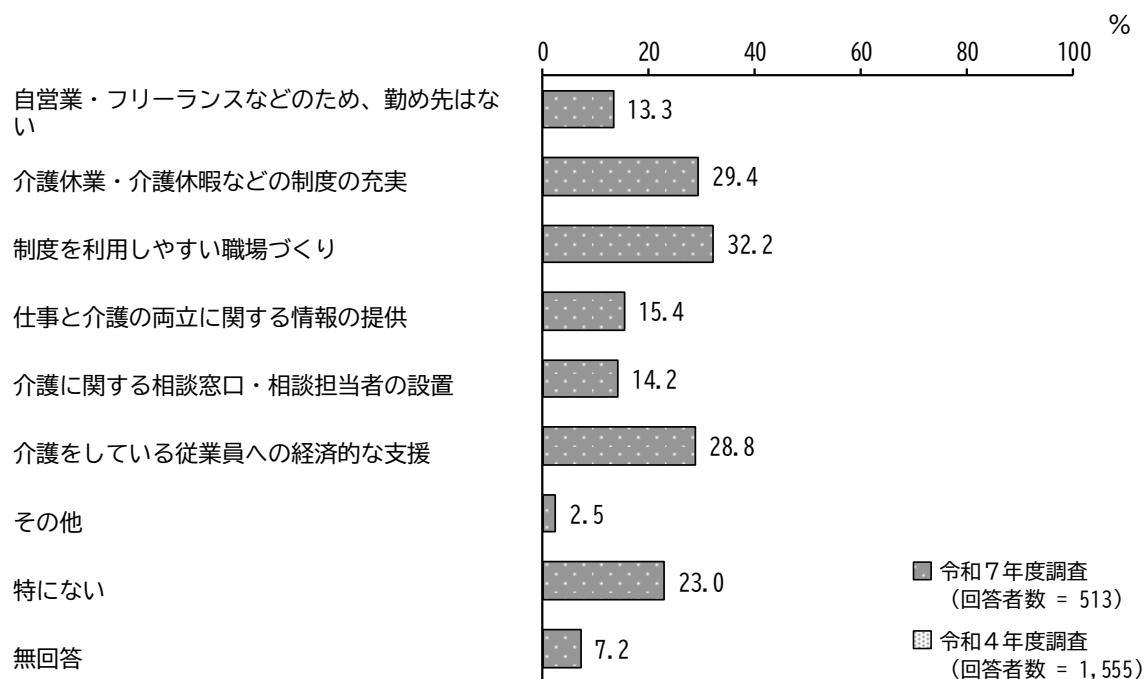
障害種別にみると、知的障害、高次脳機能障害で「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている」、難病、発達障害で「休暇（年休や介護休暇など）」を取りながら、働いている」、高次脳機能障害で「在宅勤務」を利用しながら、働いている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	特に行っていない	「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている	「休暇（年休や介護休暇など）」を取りながら、働いている	「在宅勤務」を利用しながら、働いている	「労働時間を調整」 「在宅勤務を利用」以外の調整をしながら、働いている	無回答
全 体	513	50.7	21.1	14.0	7.6	11.1	4.3
身体障害	215	49.3	21.4	13.0	6.0	14.9	2.8
知的障害	144	43.8	29.9	13.9	6.9	11.8	5.6
精神障害	125	49.6	22.4	13.6	9.6	9.6	4.0
難病	100	49.0	20.0	20.0	10.0	11.0	2.0
発達障害	55	52.7	23.6	20.0	5.5	14.5	1.8
高次脳機能障害	22	40.9	31.8	18.2	13.6	13.6	0.0
重症心身障害	9	11.1	33.3	11.1	22.2	33.3	0.0
強度行動障害	4	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

問 64-2 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が 32.2%と最も高く、次いで「介護休業・介護休暇などの制度の充実」の割合が 29.4%、「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が 28.8%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、「18～39歳」から「65～74歳」まで年齢が上がるほど「自営業・フリーランスなどのため、勤め先はない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	自営業・フリーランスなどのため、勤め先はない	介護休業・介護休暇などの制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特になし	無回答
全 体	513	13.3	29.4	32.2	15.4	14.2	28.8	2.5	23.0	7.2
18～39歳	176	8.5	25.6	30.1	14.8	13.1	30.1	5.1	26.1	7.4
40～64歳	190	13.2	31.6	37.9	16.8	16.8	30.5	0.5	23.2	3.2
65～74歳	60	21.7	25.0	23.3	13.3	8.3	18.3	0.0	23.3	16.7
75歳以上	80	18.8	36.3	30.0	13.8	15.0	31.3	3.8	15.0	7.5

【障害種別】

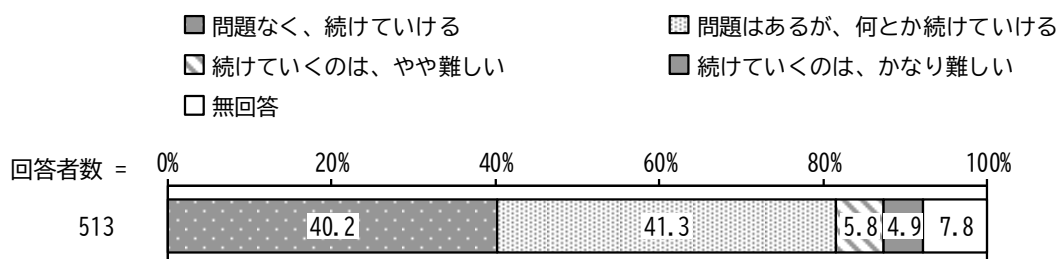
障害種別にみると、高次脳機能障害で「介護休業・介護休暇などの制度の充実」、発達障害で「制度を利用しやすい職場づくり」、精神障害、発達障害、高次脳機能障害で「仕事と介護の両立に関する情報の提供」、精神障害、発達障害で「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」、発達障害、高次脳機能障害で「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	先 は な い	自 営 業 ・ フ リ ー ラ ン ス な ど の た め 、 勤 め	介 護 休 業 ・ 介 護 休 暇 な ど の 制 度 の 充 実	制 度 を 利 用 し や す い 職 場 づ く り	仕 事 と 介 護 の 両 立 に 関 する 情 報 の 提 供	介 護 に 関 する 相 談 窓 口 ・ 相 談 担 当 者 の 設 置	介 護 を し て い る 従 業 員 へ の 経 済 的 な 支 援	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	513	13.3	29.4	32.2	15.4	14.2	28.8	2.5	23.0	7.2	
身体障害	215	17.2	34.0	32.1	14.9	15.3	27.0	2.8	19.1	7.9	
知的障害	144	10.4	25.0	30.6	13.2	10.4	28.5	2.8	25.0	8.3	
精神障害	125	13.6	27.2	34.4	20.8	19.2	34.4	2.4	20.8	7.2	
難病	100	16.0	32.0	32.0	10.0	19.0	20.0	2.0	22.0	5.0	
発達障害	55	12.7	30.9	47.3	23.6	20.0	38.2	7.3	12.7	3.6	
高次脳機能障害	22	18.2	45.5	36.4	22.7	18.2	36.4	4.5	9.1	4.5	
重症心身障害	9	44.4	11.1	11.1	11.1	11.1	33.3	11.1	0.0	0.0	
強度行動障害	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	

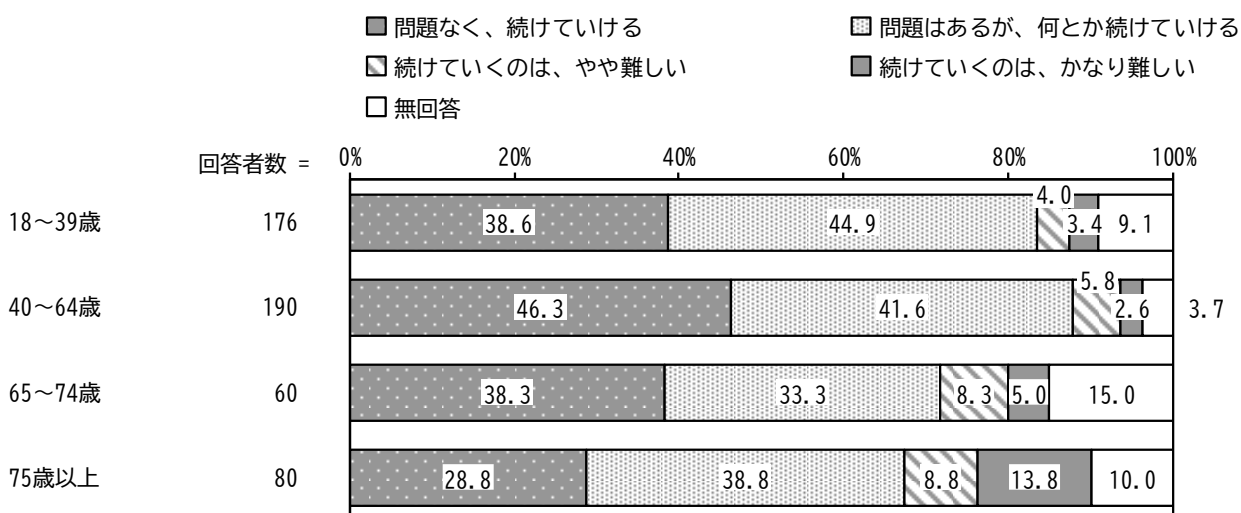
問 64－3 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が 41.3%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」の割合が 40.2%となっています。



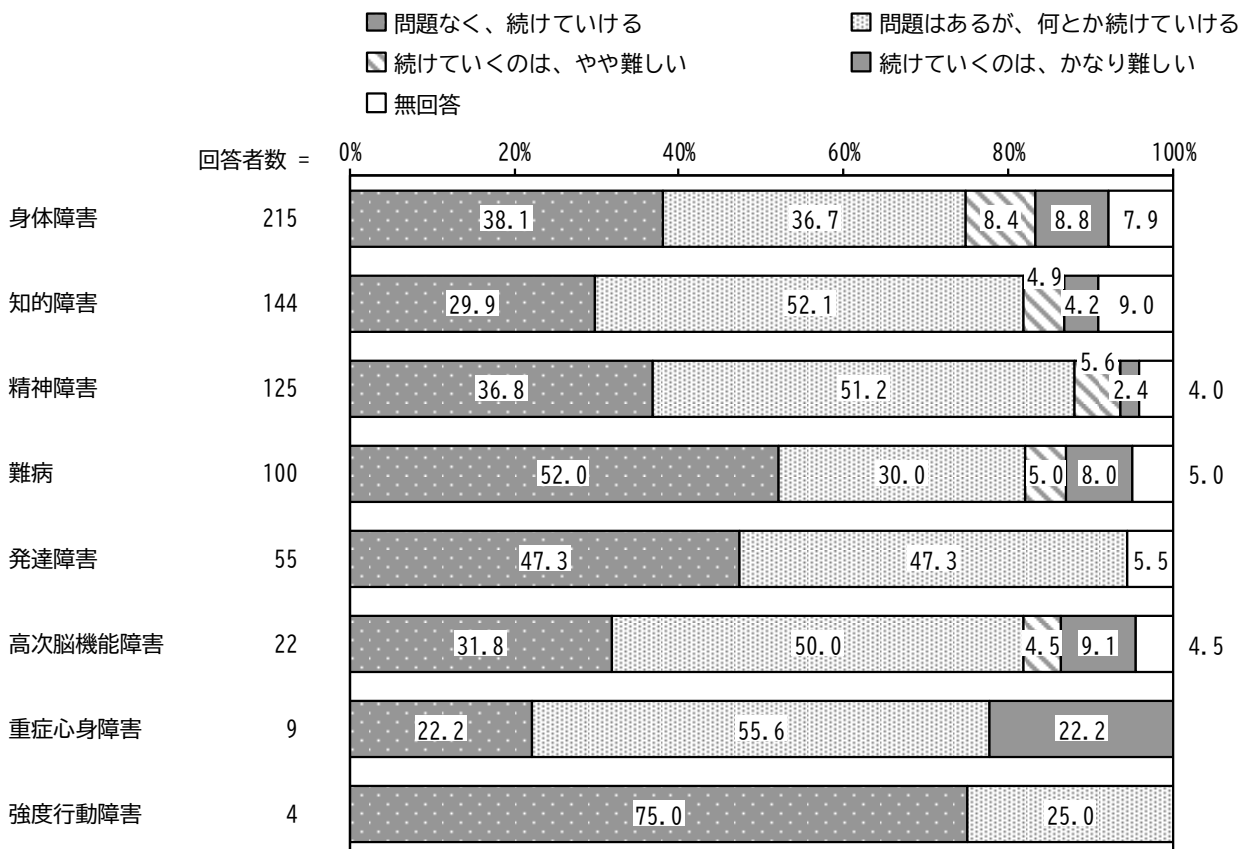
【年齢別】

年齢別にみると、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「続けていくのは、かなり難しい」の割合が高く、「問題なく、続けていける」の割合が低く、「65～74歳」から「18～39歳」まで年齢が下がるほど「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高くなっています。



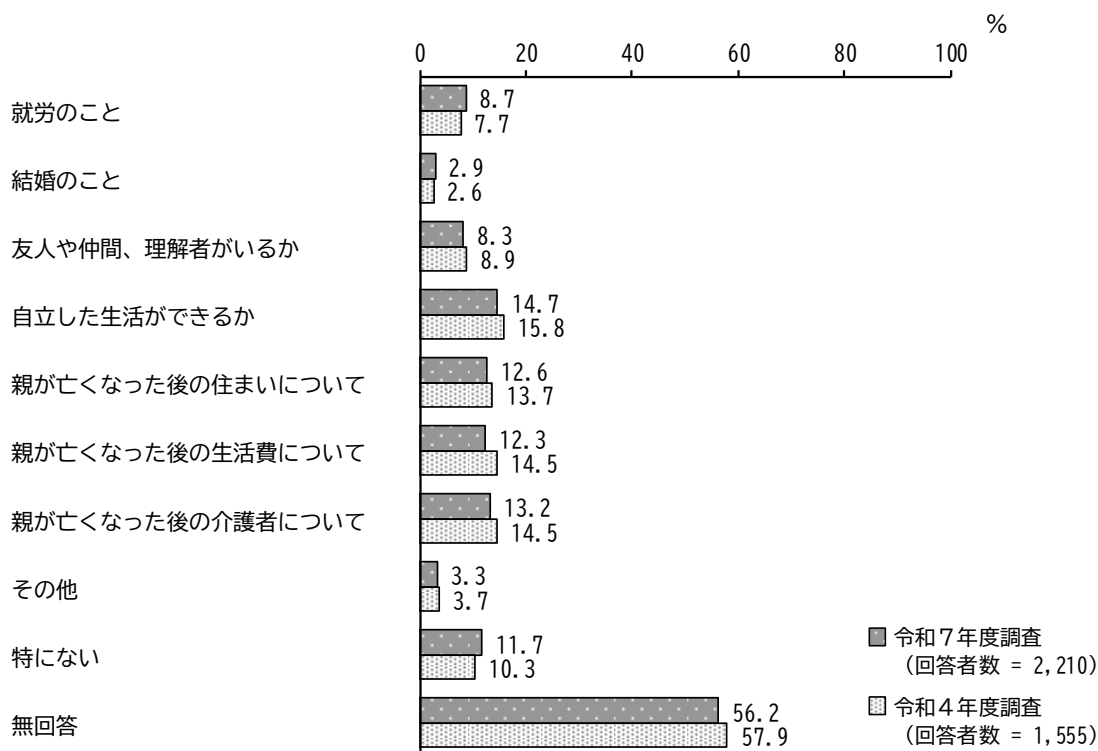
【障害種別】

障害種別にみると、難病で「問題なく、続けていける」、知的障害で「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高くなっています。



問 65 あなた（介護者）が介護している人の将来のことで不安に思うことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「自立した生活ができるか」の割合が 14.7%と最も高く、次いで「親が亡くなった後の介護者について」の割合が 13.2%、「親が亡くなった後の住まいについて」の割合が 12.6%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「就労のこと」「友人や仲間、理解者がいるか」「自立した生活ができるか」の割合が高い傾向にあり、「65～74歳」から「18～39歳」まで年齢が下がるほど「親が亡くなった後の住まいについて」「親が亡くなった後の生活費について」「親が亡くなった後の介護者について」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	就労のこと	結婚のこと	友人や仲間、理解者がいるか	自立した生活ができるか	親が亡くなった後の住まいについて	親が亡くなった後の生活費について	親が亡くなった後の介護者について	その他	特になし	無回答
全 体	2,210	8.7	2.9	8.3	14.7	12.6	12.3	13.2	3.3	11.7	56.2
18～39歳	476	18.9	8.2	20.4	26.7	33.2	32.1	35.3	2.1	5.0	41.2
40～64歳	929	8.6	2.2	5.8	13.2	9.3	10.3	10.7	3.3	9.5	59.7
65～74歳	331	2.7	0.3	4.8	10.6	2.1	2.4	2.1	3.9	16.3	63.1
75歳以上	441	2.7	0.7	3.2	8.2	5.4	2.5	3.2	4.5	20.0	59.0

【障害種別】

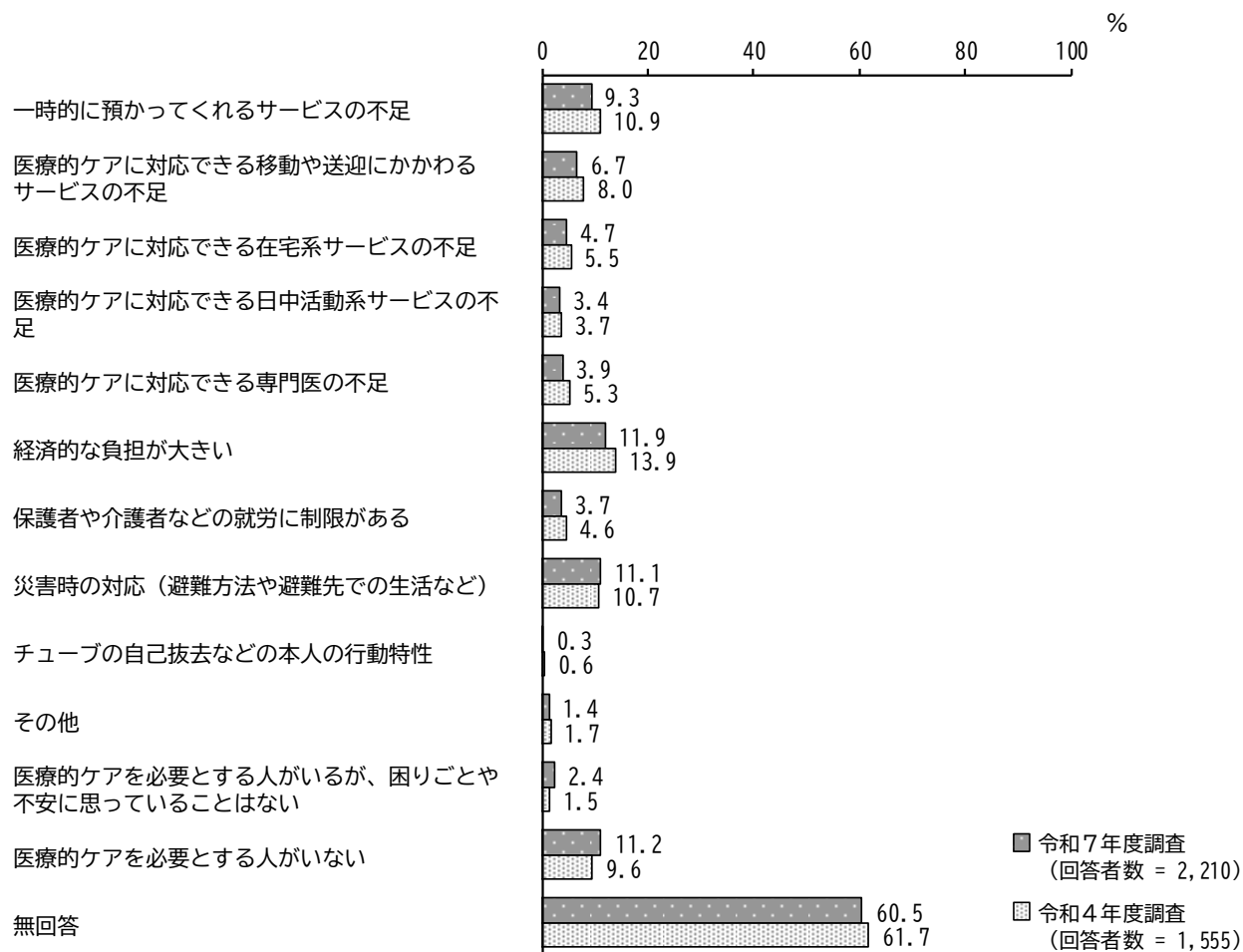
障害種別にみると、発達障害で「就労のこと」、知的障害で「友人や仲間、理解者がいるか」、強度行動障害で「自立した生活ができるか」、知的障害、強度行動障害で「親が亡くなった後の住まいについて」「親が亡くなった後の生活費について」、知的障害、重症心身障害で「親が亡くなった後の介護者について」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	就労のこと	結婚のこと	友人や仲間、 理解者が いるか	自立した生活が できるか	親が亡くなった後 の住まいについて	親が亡くなった後 の生活費について	親が亡くなった後 の介護者について	その他	特 に な い	無 回 答
全 体	2,210	8.7	2.9	8.3	14.7	12.6	12.3	13.2	3.3	11.7	56.2
身体障害	903	5.6	1.4	5.9	12.7	10.2	9.3	11.4	4.2	15.5	53.7
知的障害	422	13.0	4.5	19.0	24.6	40.8	36.7	45.7	4.3	5.7	29.6
精神障害	560	13.4	4.8	10.0	20.9	11.8	14.1	11.3	3.4	9.5	56.1
難病	530	4.9	1.5	4.0	8.7	4.2	5.3	5.7	2.8	10.8	68.7
発達障害	183	21.9	11.5	18.0	27.9	31.7	31.1	33.9	3.3	2.2	44.3
高次脳機能障害	78	11.5	5.1	12.8	24.4	9.0	10.3	15.4	6.4	14.1	41.0
重症心身障害	36	5.6	5.6	2.8	8.3	27.8	19.4	47.2	5.6	2.8	33.3
強度行動障害	17	0.0	5.9	17.6	35.3	41.2	35.3	41.2	5.9	5.9	17.6

問 66 あなた（介護者）が、医療的ケアを必要とする人の介護について、困りごとや不安に思っていることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「経済的な負担が大きい」の割合が 11.9%と最も高く、次いで「災害時の対応（避難方法や避難先での生活など）」の割合が 11.1%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「医療的ケアに対応できる移動や送迎にかかわるサービスの不足」の割合が高く、「40～64歳」から「75歳以上」まで年齢が上がるほど「災害時の対応（避難方法や避難先での生活など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	一時的に預かってくれるサービスの不足	医療的ケアに対応できる移動や送迎にかかわるサービスの不足	医療的ケアに対応できる在宅系サービスの不足	医療的ケアに対応できる日中活動系サービスの不足	医療的ケアに対応できる専門医の不足	経済的な負担が大きい	保護者や介護者などの就労に制限がある	災害時の対応（避難方法や避難先での生活など）	チューブの自己抜去などの本人の行動特性	その他	医療的ケアを必要とする人がいるが、困りごとや不安に思っていることはない	医療的ケアを必要とする人がいない	無回答
全 体	2,210	9.3	6.7	4.7	3.4	3.9	11.9	3.7	11.1	0.3	1.4	2.4	11.2	60.5
18～39歳	476	8.4	4.2	3.8	4.0	3.6	10.7	4.8	12.6	0.4	1.9	2.1	23.1	49.6
40～64歳	929	8.3	5.9	4.8	3.0	3.7	11.9	3.3	8.6	0.3	1.3	2.0	9.0	64.7
65～74歳	331	8.2	6.9	4.2	2.7	3.9	10.0	2.1	9.1	0.0	1.8	2.7	6.9	64.7
75歳以上	441	13.6	10.7	6.1	4.3	4.5	14.5	4.3	16.1	0.5	1.1	3.6	6.8	59.2

【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「一時的に預かってくれるサービスの不足」「医療的ケアに対応できる日中活動系サービスの不足」「保護者や介護者などの就労に制限がある」「災害時の対応（避難方法や避難先での生活など）」、高次脳機能障害で「医療的ケアに対応できる在宅系サービスの不足」「経済的な負担が大きい」、重症心身障害、強度行動障害で「チューブの自己抜去などの本人の行動特性」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	一時的に預かってくれるサービスの不足	医療的ケアに対応できる移動や送迎にかかわるサービスの不足	医療的ケアに対応できる在宅系サービスの不足	医療的ケアに対応できる日中活動系サービスの不足	医療的ケアに対応できる専門医の不足	経済的な負担が大きい	保護者や介護者などの就労に制限がある	災害時の対応（避難方法や避難先での生活など）	チューブの自己抜去などの本人の行動特性	その他	医療的ケアを必要とする人がいるが、困りごとや不安に思っていることはない	医療的ケアを必要とする人がいない	無回答
全 体	2,210	9.3	6.7	4.7	3.4	3.9	11.9	3.7	11.1	0.3	1.4	2.4	11.2	60.5
身体障害	903	12.4	10.2	6.1	4.5	5.3	12.4	5.6	15.0	0.3	1.7	2.8	9.4	56.7
知的障害	422	14.0	6.6	4.5	4.5	4.0	13.5	4.5	15.6	0.9	0.9	2.1	23.2	42.4
精神障害	560	7.1	5.5	4.8	3.8	3.9	14.3	3.8	9.6	0.4	2.1	2.5	9.1	61.3
難病	530	7.5	6.0	4.2	3.0	3.8	8.1	3.0	9.4	0.2	1.5	0.8	7.9	70.4
発達障害	183	9.3	5.5	2.7	3.3	3.3	9.8	6.0	14.2	1.1	1.6	2.2	19.7	52.5
高次脳機能障害	78	7.7	10.3	10.3	7.7	3.8	19.2	11.5	21.8	1.3	1.3	1.3	11.5	47.4
重症心身障害	36	25.0	11.1	5.6	11.1	5.6	16.7	16.7	30.6	5.6	0.0	5.6	11.1	47.2
強度行動障害	17	11.8	5.9	0.0	5.9	0.0	11.8	5.9	23.5	5.9	5.9	11.8	5.9	35.3

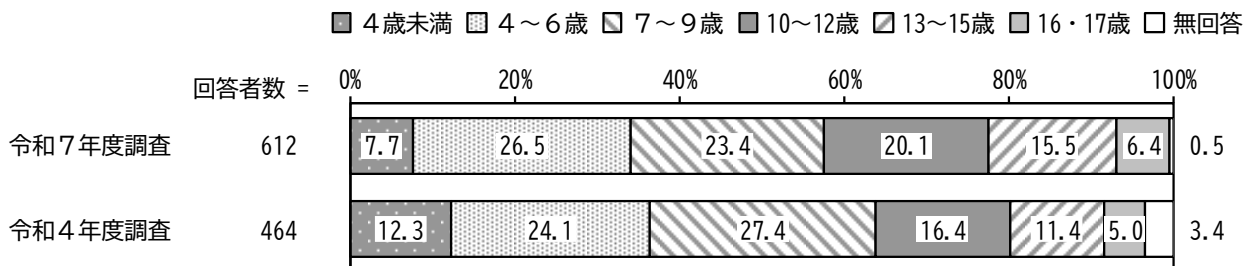
第 3 章

障害児調査

(1) 子どもの状況について

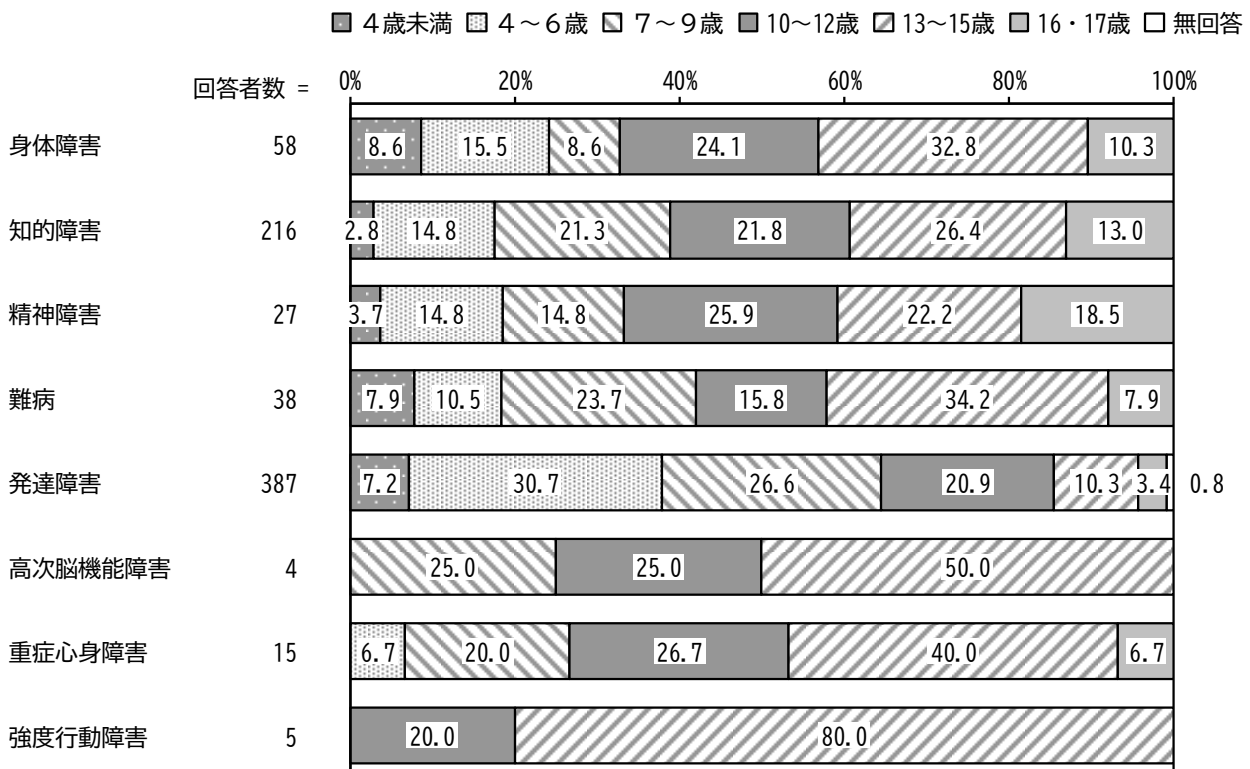
問1 お子様の年齢は、何歳ですか。令和7年9月1日現在の年齢を記入してください。

「4～6歳」の割合が26.5%と最も高く、次いで「7～9歳」の割合が23.4%、「10～12歳」の割合が20.1%となっています。



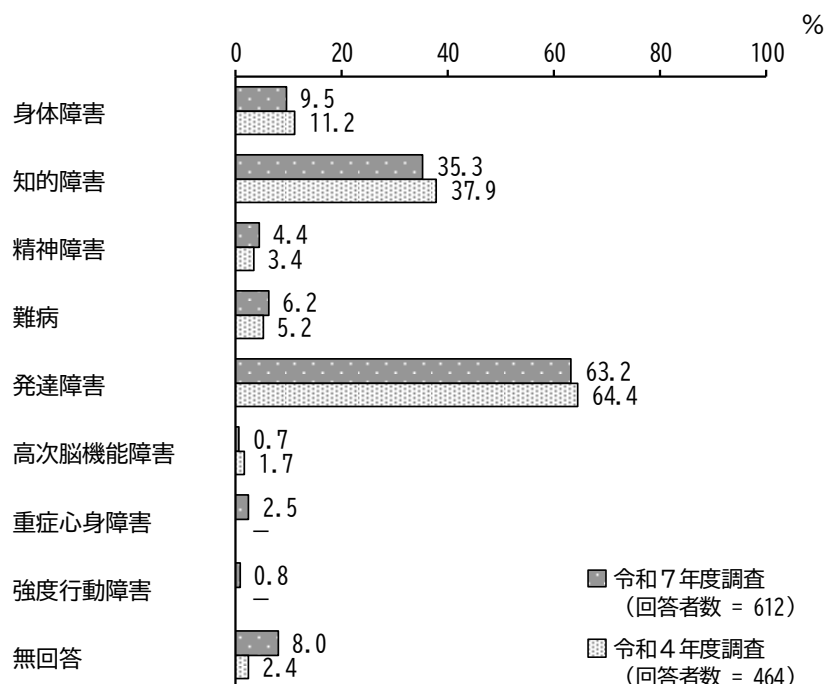
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「13～15歳」、精神障害で「16・17歳」の割合が高く、重症心身障害で「4～6歳」、身体障害で「7～9歳」の割合が低くなっています。



問2 お子様の障害について、お聞きます。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「発達障害」の割合が63.2%と最も高く、次いで「知的障害」の割合が35.3%となっています。

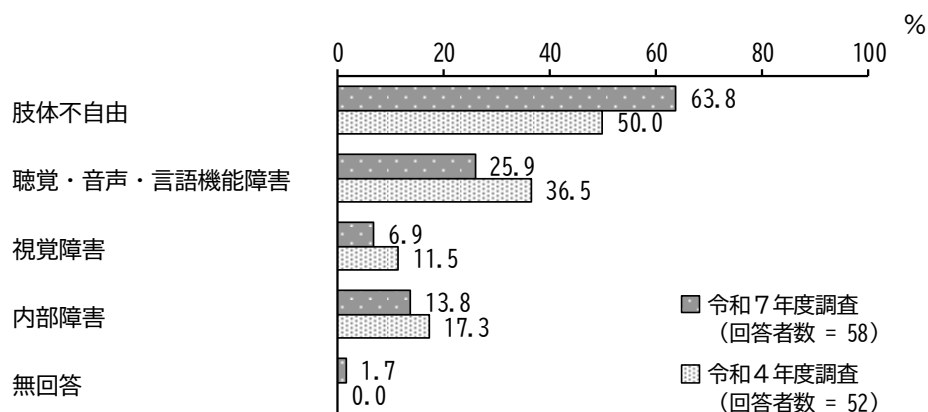


※「重症心身障害」、「強度行動障害」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

身体障害の種類

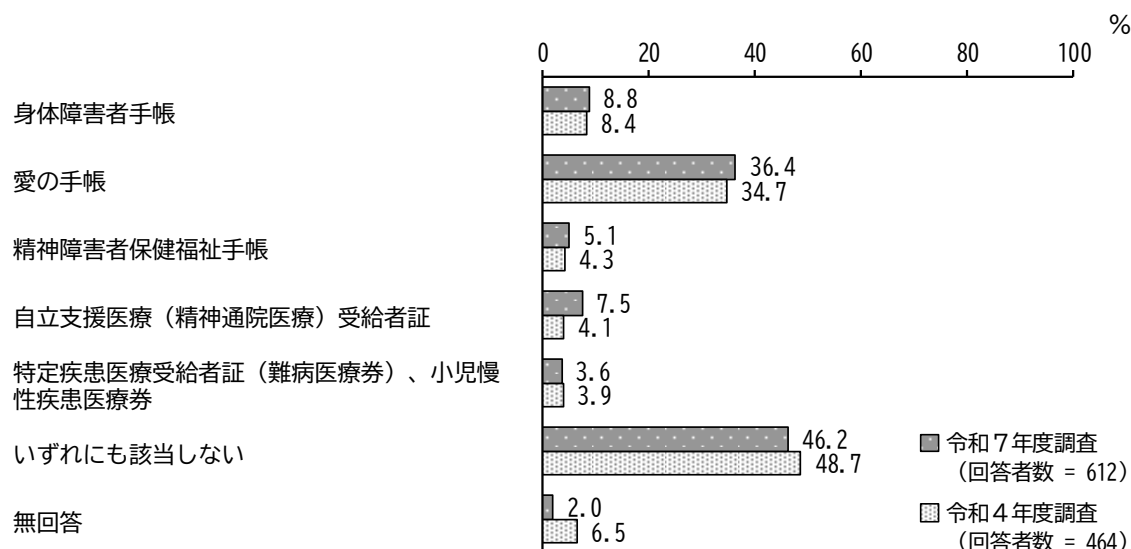
「肢体不自由」の割合が63.8%と最も高く、次いで「聴覚・音声・言語機能障害」の割合が25.9%、「内部障害」の割合が13.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「肢体不自由」の割合が増加しています。一方、「聴覚・音声・言語機能障害」の割合が減少しています。



問3 お子様がお持ちの障害者手帳などについて、お聞きます。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「愛の手帳」の割合が36.4%と最も高くなっています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「身体障害者手帳」、知的障害、重症心身障害で「愛の手帳」、精神障害で「精神障害者保健福祉手帳」、難病で「特定疾患医療受給者証（難病医療券）、小児慢性疾患医療券」の割合が高くなっています。

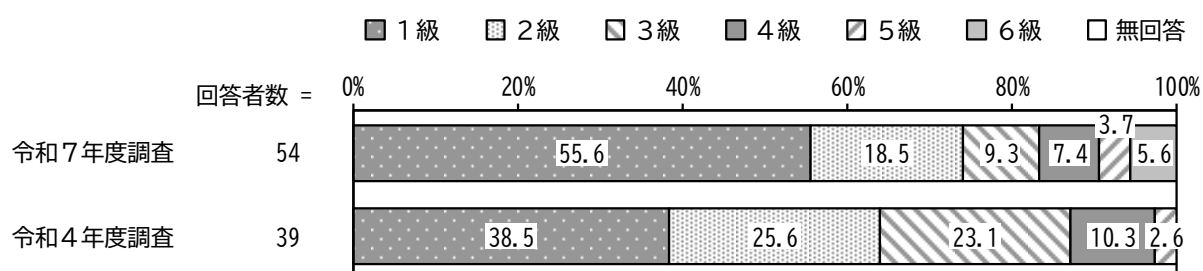
単位：％

区分	回答者数 (件)	身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	自立支援医療（精神通院医療）受給者証	特定疾患医療受給者証（難病医療券）、小児慢性疾患医療券	いずれにも該当しない	無回答
全 体	612	8.8	36.4	5.1	7.5	3.6	46.2	2.0
身体障害	58	87.9	60.3	3.4	3.4	12.1	5.2	0.0
知的障害	216	14.4	91.7	3.7	3.2	4.6	5.6	0.0
精神障害	27	11.1	51.9	51.9	14.8	14.8	11.1	3.7
難病	38	50.0	57.9	10.5	2.6	47.4	10.5	0.0
発達障害	387	1.0	23.0	6.2	11.1	1.3	59.4	1.6
高次脳機能障害	4	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	93.3	93.3	6.7	6.7	20.0	0.0	0.0
強度行動障害	5	0.0	100.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0

身体障害者手帳の等級

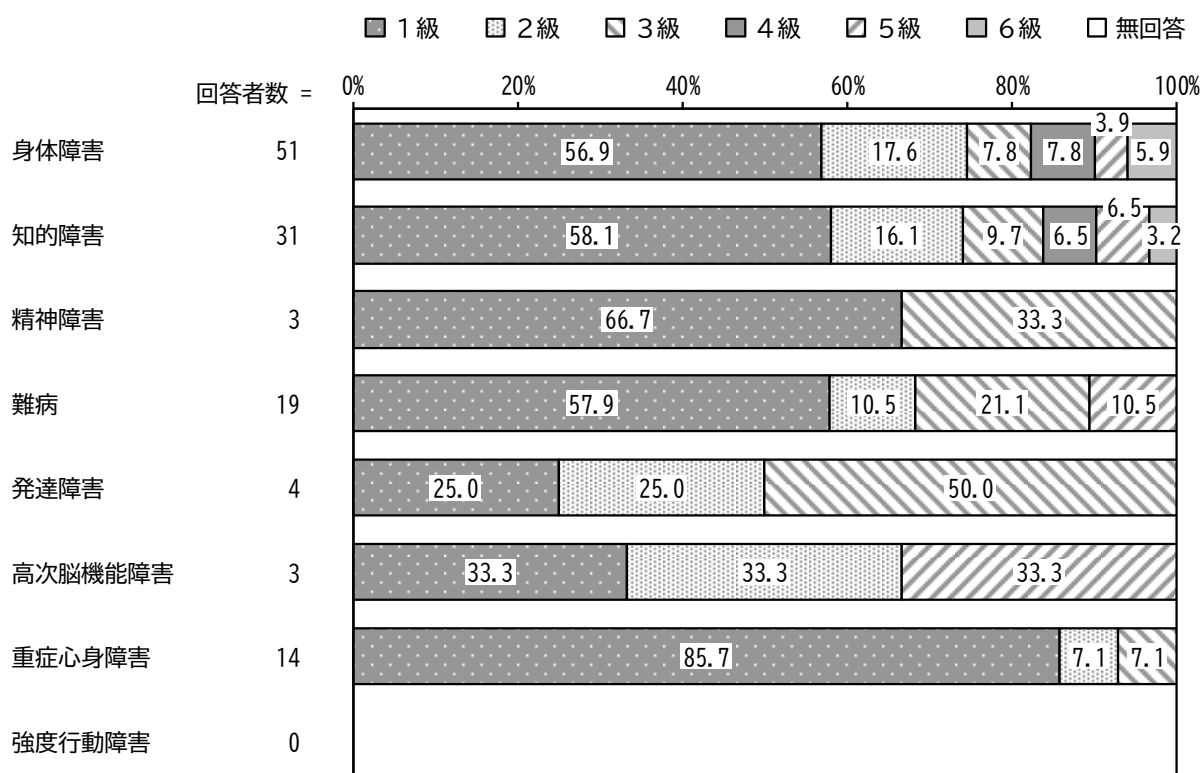
「1級」の割合が55.6%と最も高く、次いで「2級」の割合が18.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「1級」「6級」の割合が増加しています。一方、「2級」「3級」の割合が減少しています。



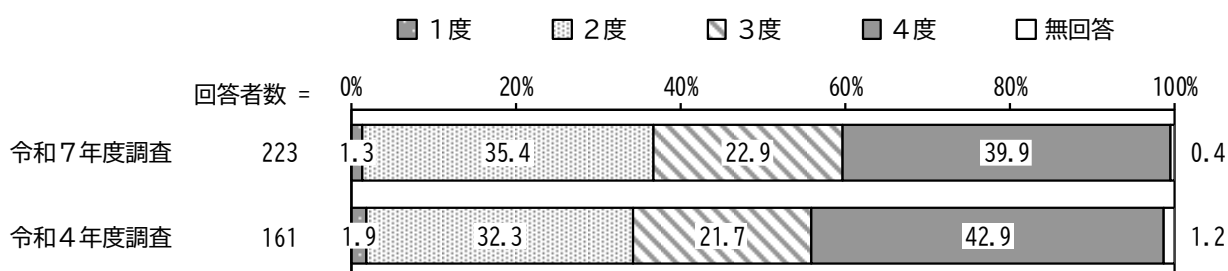
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「1級」、難病で「3級」の割合が高く、重症心身障害で「2級」の割合が低くなっています。



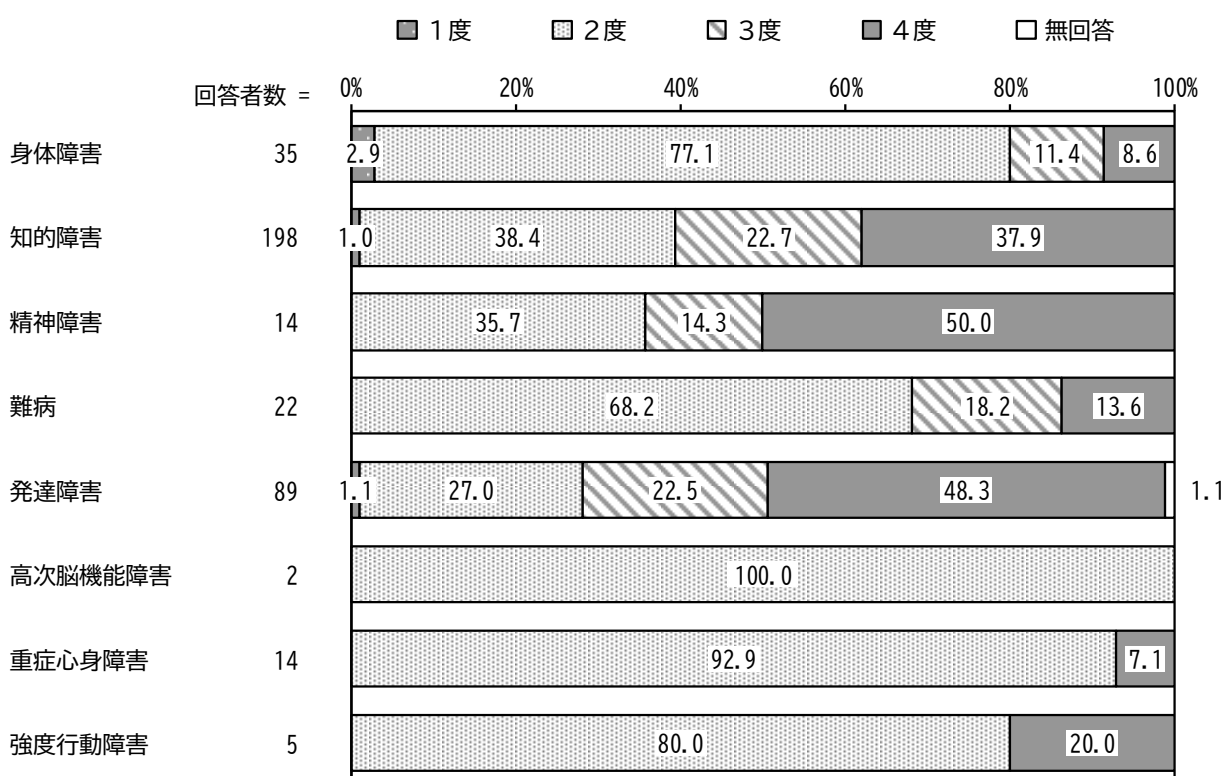
愛の手帳の程度

「4度」の割合が39.9%と最も高く、次いで「2度」の割合が35.4%、「3度」の割合が22.9%となっています。



【障害種別】

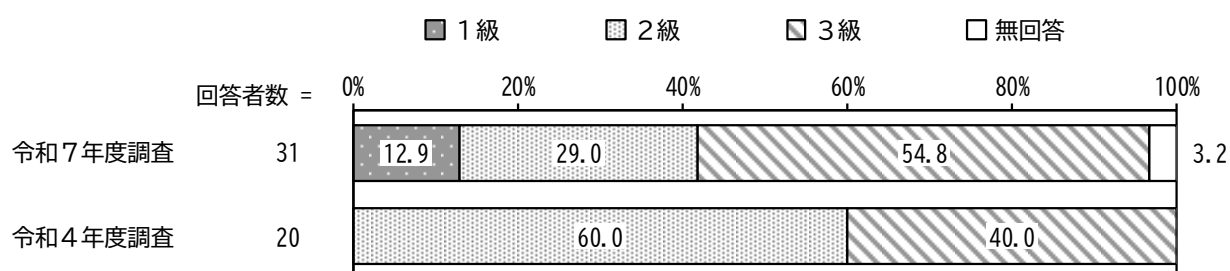
障害種別にみると、重症心身障害で「2度」、精神障害で「4度」の割合が高くなっています。



精神障害者保健福祉手帳の等級

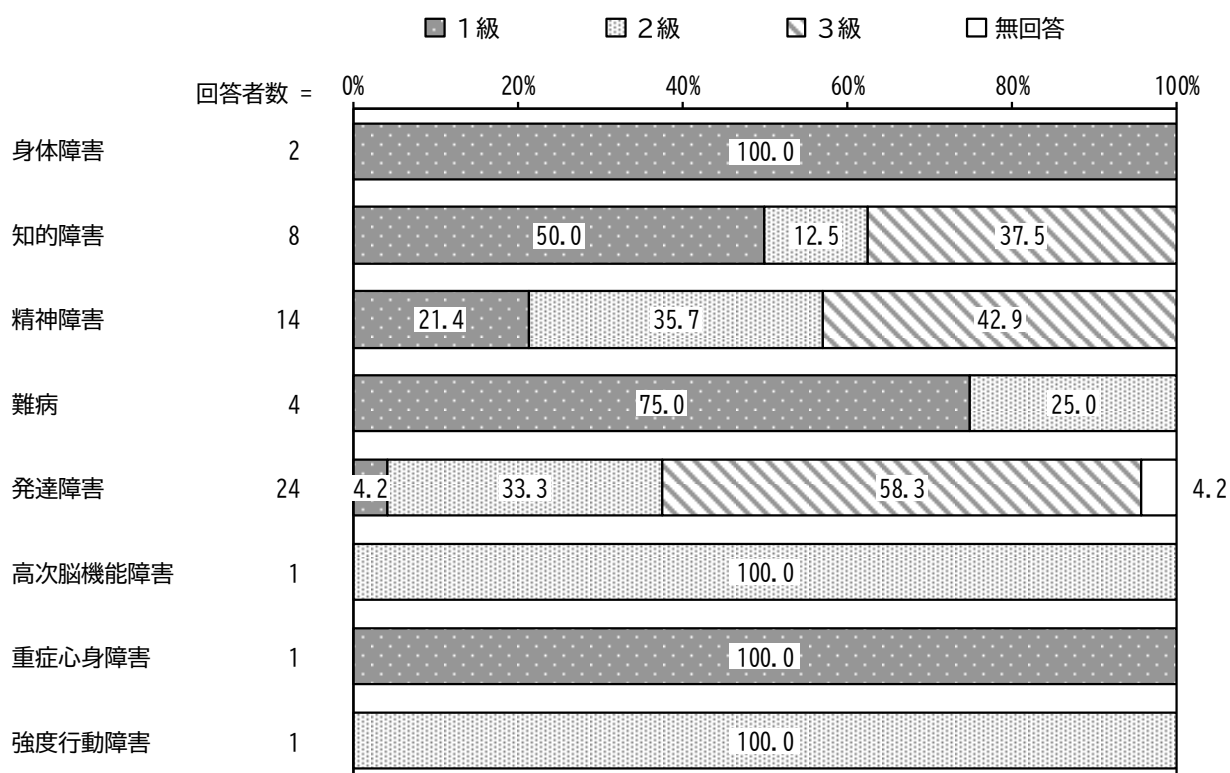
「1級」の割合が12.9%、「2級」の割合が29.0%、「3級」の割合が54.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「1級」「3級」の割合が増加しています。一方、「2級」の割合が減少しています。



【障害種別】

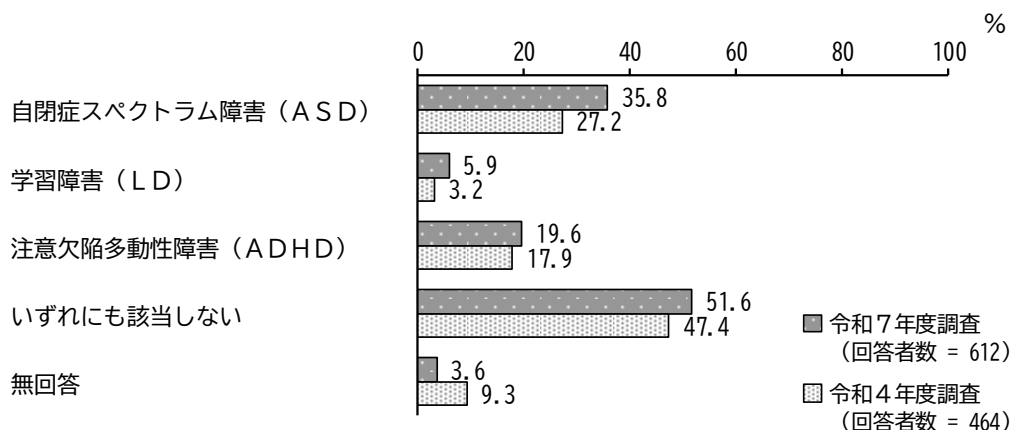
障害種別にみると、精神障害で「1級」の割合が高く、発達障害で「3級」の割合が高くなっています。



問4 お子様は、次のような診断を受けていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「自閉症スペクトラム障害（ASD）」の割合が35.8%、「学習障害（LD）」の割合が5.9%、「注意欠陥多動性障害（ADHD）」の割合が19.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「自閉症スペクトラム障害（ASD）」の割合が増加しています。



【障害種別】

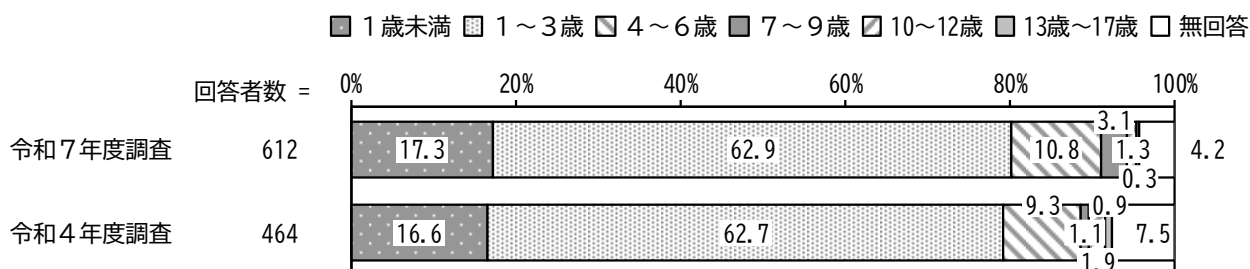
障害種別にみると、精神障害で「自閉症スペクトラム障害（ASD）」「注意欠陥多動性障害（ADHD）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自閉症スペクトラム障害 (ASD)	学習障害 (LD)	注意欠陥多動性障害 (ADHD)	いずれにも該当しない	無回答
全 体	612	35.8	5.9	19.6	51.6	3.6
身体障害	58	3.4	1.7	5.2	89.7	1.7
知的障害	216	45.4	3.7	12.5	44.0	3.7
精神障害	27	74.1	14.8	33.3	22.2	0.0
難病	38	5.3	5.3	7.9	81.6	2.6
発達障害	387	47.3	8.0	27.4	40.3	1.3
高次脳機能障害	4	25.0	0.0	25.0	75.0	0.0
重症心身障害	15	6.7	0.0	6.7	86.7	0.0
強度行動障害	5	100.0	20.0	60.0	0.0	0.0

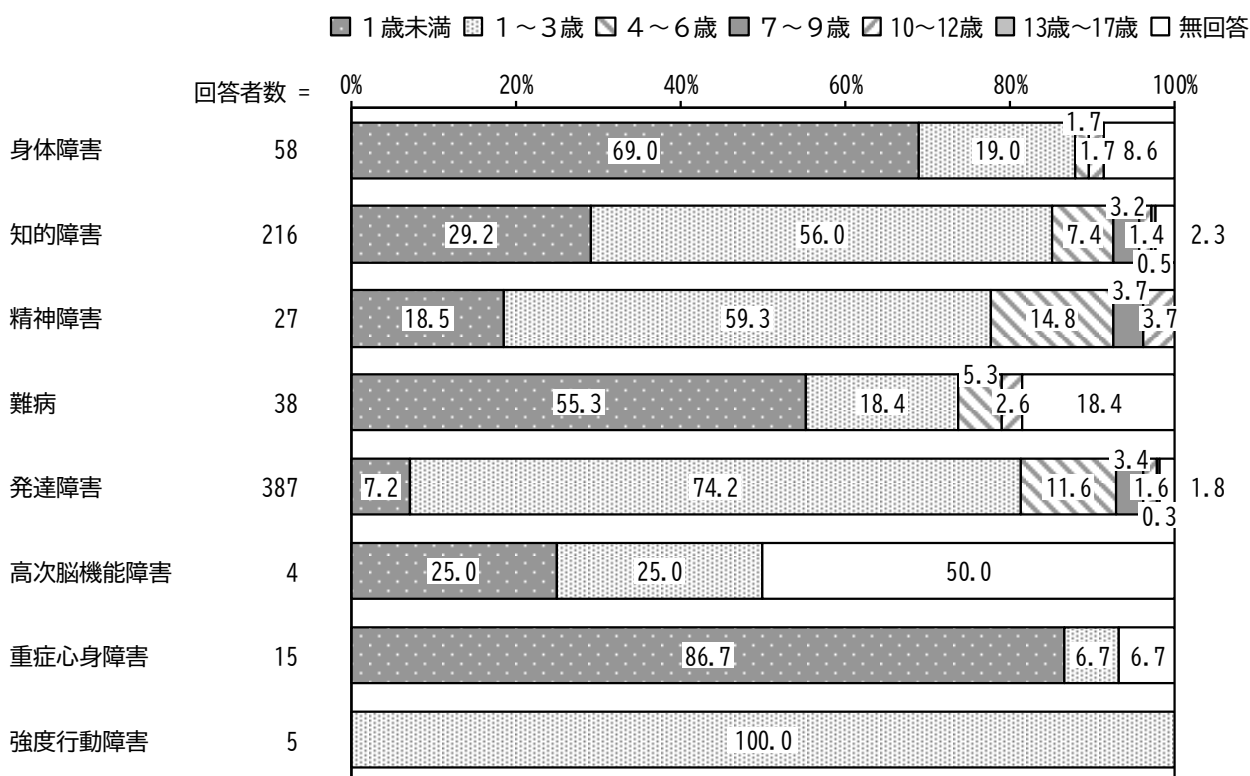
問5 お子様の発達に関する問題について、ご家族の方が最初に気づいたのは、お子様が何歳の時ですか。年齢を記入してください。

「1～3歳」の割合が62.9%と最も高く、次いで「1歳未満」の割合が17.3%、「4～6歳」の割合が10.8%となっています。



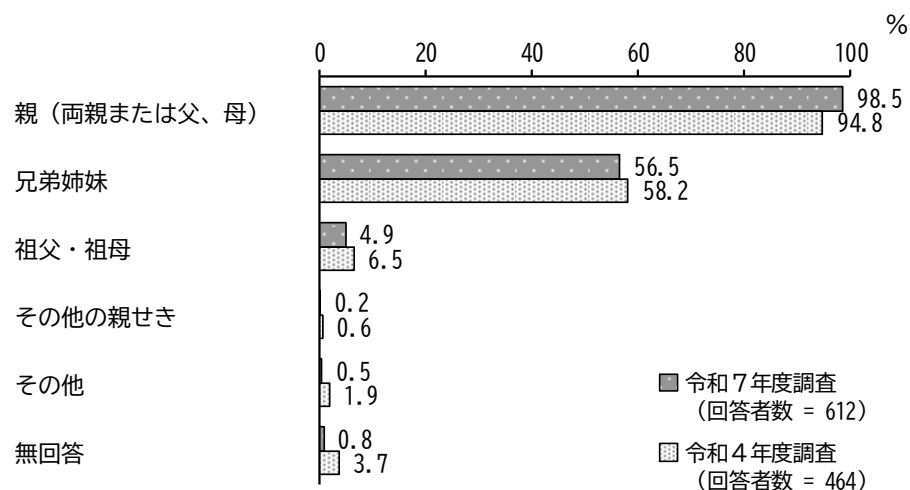
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「1歳未満」、発達障害で「1～3歳」の割合が高くなっています。



問6 お子様は現在、どなたと一緒に暮らしていますか。一緒に生活されている方すべてに○をつけてください。

「親（両親または父、母）」の割合が98.5%と最も高く、次いで「兄弟姉妹」の割合が56.5%となっています。



【障害種別】

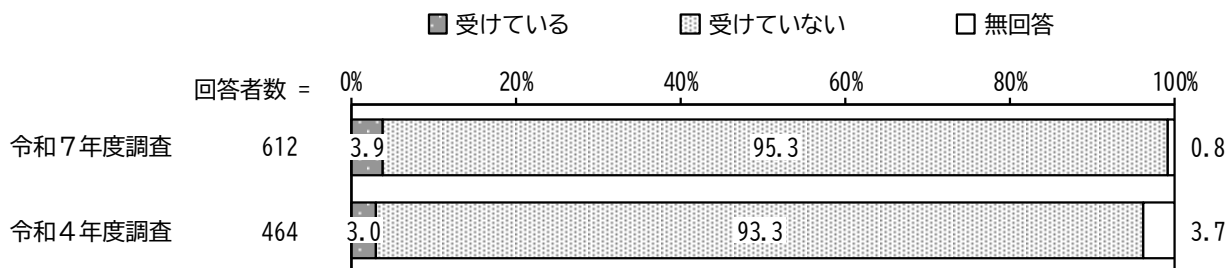
障害種別にみると、重症心身障害で「兄弟姉妹」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	親 (両親または父、 母)	兄弟 姉妹	祖父・ 祖母	その他の 親せき	その他	無 回答
全 体	612	98.5	56.5	4.9	0.2	0.5	0.8
身体障害	58	96.6	56.9	6.9	0.0	1.7	0.0
知的障害	216	99.5	61.6	6.0	0.0	0.5	0.0
精神障害	27	100.0	55.6	3.7	0.0	0.0	0.0
難病	38	100.0	63.2	5.3	0.0	0.0	0.0
発達障害	387	99.2	55.6	4.1	0.3	0.3	0.3
高次脳機能障害	4	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	100.0	73.3	0.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	5	100.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0

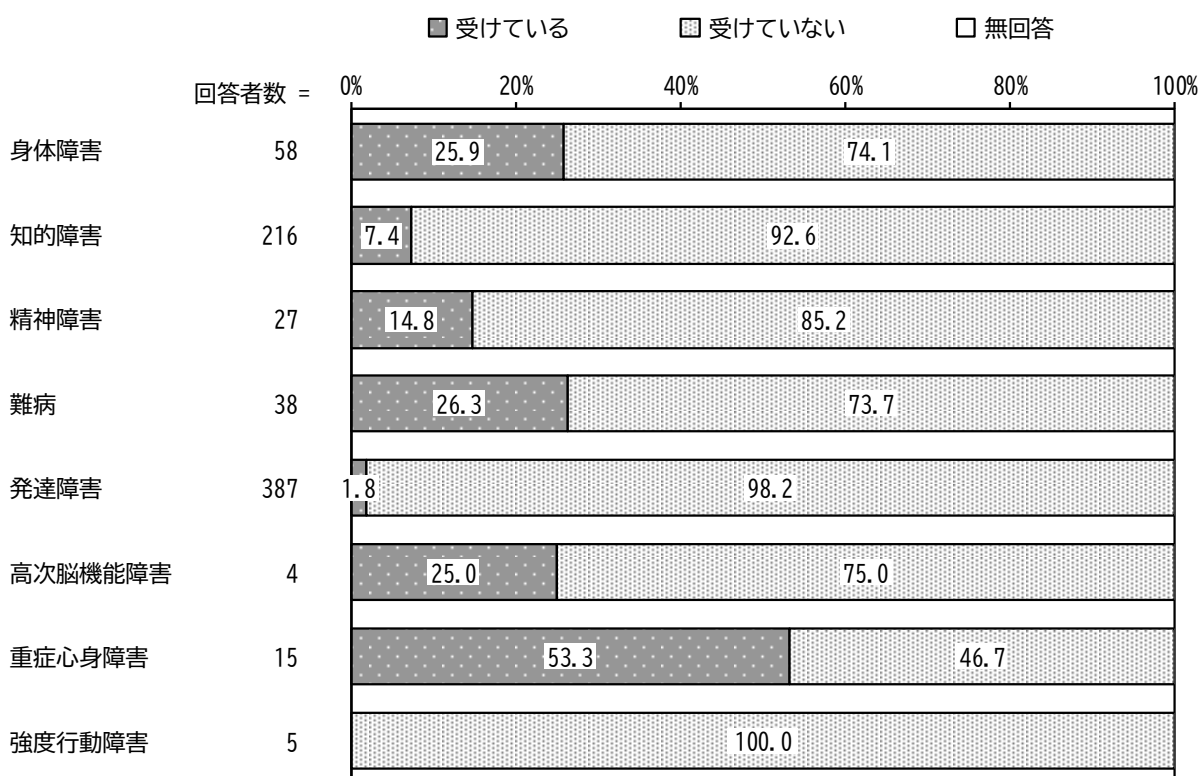
問7 お子様は、日常生活の中で、医療的ケア（在宅における医療的な支援）を受けていますか。受けている場合はどのような医療的なケアを受けていますか。あてはまるものすべてに○を記入してください。

「受けている」の割合が3.9%、「受けていない」の割合が95.3%となっています。



【障害種別】

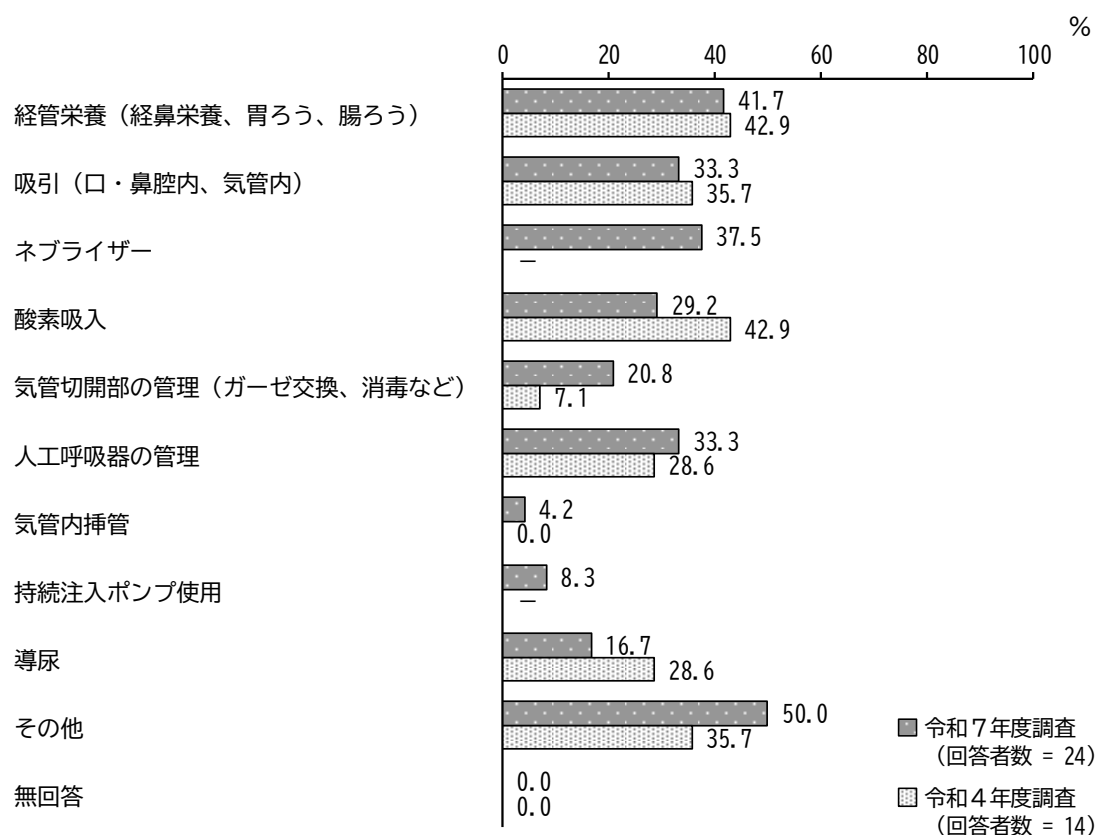
障害種別にみると、重症心身障害で「受けている」の割合が高くなっています。



受けている医療的ケア

「経管栄養（経鼻栄養、胃ろう、腸ろう）」の割合が41.7%と最も高く、次いで「ネブライザー」の割合が37.5%、「吸引（口・鼻腔内、気管内）」、「人工呼吸器の管理」の割合が33.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「気管切開部の管理（ガーゼ交換、消毒など）」の割合が増加しています。一方、「酸素吸入」「導尿」の割合が減少しています。



※「ネブライザー」、「持続注入ポンプ使用」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【障害種別】

障害種別にみると、身体障害で「経管栄養（経鼻栄養、胃ろう、腸ろう）」「吸引（口・鼻腔内、気管内）」「気管切開部の管理（ガーゼ交換、消毒など）」「人工呼吸器の管理」、知的障害、難病で「ネブライザー」、難病で「酸素吸入」「導尿」の割合が高くなっています。

単位：％

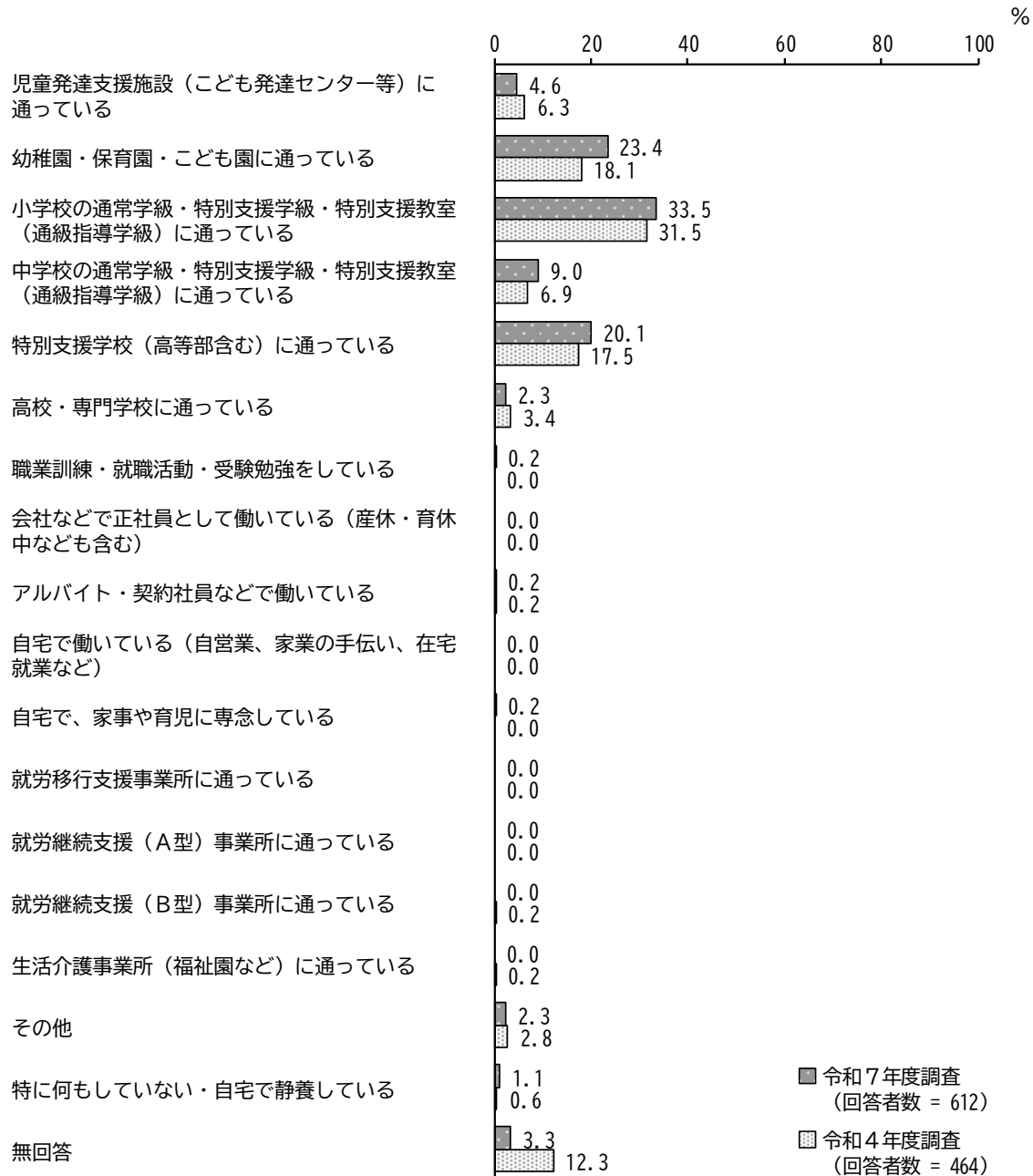
区分	回答者数（件）	経管栄養（経鼻栄養、胃ろう、腸ろう）	吸引（口・鼻腔内、気管内）	ネブライザー	酸素吸入	気管切開部の管理（ガーゼ交換、消毒など）	人工呼吸器の管理	気管内挿管	持続注入ポンプ使用	導尿	その他	無回答
全 体	24	41.7	33.3	37.5	29.2	20.8	33.3	4.2	8.3	16.7	50.0	0.0
身体障害	15	66.7	53.3	46.7	46.7	33.3	53.3	6.7	13.3	26.7	33.3	0.0
知的障害	16	56.3	43.8	50.0	43.8	25.0	37.5	6.3	6.3	18.8	37.5	0.0
精神障害	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
難病	10	60.0	50.0	50.0	50.0	30.0	40.0	10.0	0.0	30.0	30.0	0.0
発達障害	7	28.6	28.6	28.6	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	14.3	71.4	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
重症心身障害	8	100.0	75.0	62.5	62.5	50.0	62.5	12.5	0.0	37.5	25.0	0.0
強度行動障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 仕事や学校生活について

問8 お子様は、普段（休日以外）は、どのように過ごしていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「小学校の通常学級・特別支援学級・特別支援教室（通級指導学級）に通っている」の割合が33.5%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園・こども園に通っている」の割合が23.4%、「特別支援学校（高等部含む）に通っている」の割合が20.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「幼稚園・保育園・こども園に通っている」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、発達障害で「小学校の通常学級・特別支援学級・特別支援教室（通級指導学級）に通っている」、難病で「中学校の通常学級・特別支援学級・特別支援教室（通級指導学級）に通っている」、重症心身障害で「特別支援学校（高等部含む）に通っている」、精神障害で「高校・専門学校に通っている」の割合が高くなっています。

単位：％

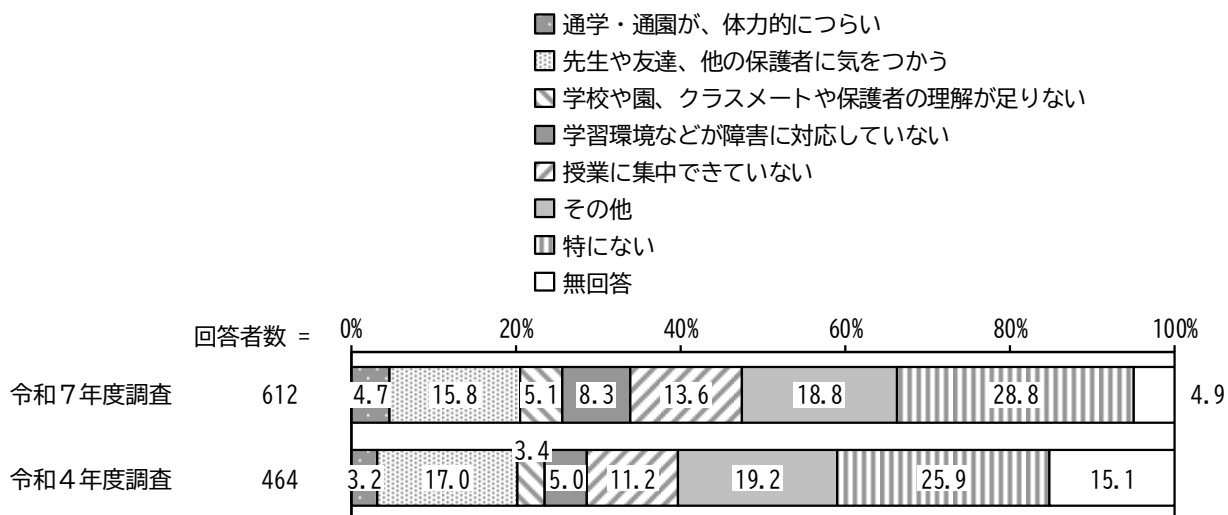
区分	回答者数（件）	児童発達支援施設（こども発達センター等）に通っている	幼稚園・保育園・こども園に通っている	小学校の通常学級・特別支援学級・特別支援教室（通級指導学級）に通っている	中学校の通常学級・特別支援学級・特別支援教室（通級指導学級）に通っている	特別支援学校（高等部含む）に通っている	高校・専門学校に通っている	職業訓練・就職活動・受験勉強をしている	会社などで正社員として働いている（産休・育休中なども含む）	アルバイト・契約社員などで働いている
全 体	612	4.6	23.4	33.5	9.0	20.1	2.3	0.2	0.0	0.2
身体障害	58	6.9	12.1	8.6	13.8	44.8	5.2	0.0	0.0	0.0
知的障害	216	5.1	6.5	21.8	10.2	52.8	0.9	0.5	0.0	0.5
精神障害	27	7.4	11.1	25.9	7.4	22.2	7.4	3.7	0.0	0.0
難病	38	0.0	13.2	26.3	18.4	36.8	2.6	0.0	0.0	0.0
発達障害	387	4.7	27.4	39.3	8.0	9.3	2.3	0.3	0.0	0.0
高次脳機能障害	4	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	0.0	6.7	6.7	6.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	5	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	自宅（自営業、家業の手伝い、在宅就業など）で働いている	自宅で、家事や育児に専念している	就労移行支援事業所に通っている	就労継続支援（A型）事業所に通っている	就労継続支援（B型）事業所に通っている	生活介護事業所（福祉園など）に通っている	その他	特に何もしていない・自宅で静養している	無回答
全 体	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	1.1	3.3
身体障害	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0
知的障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9
精神障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	7.4	3.7
難病	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0
発達障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	1.3	4.4
高次脳機能障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	6.7
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

問9 お子様が保育や学校生活などを送るうえで、保護者の方が心配されていることや困っていることは何ですか。また、お子様または保護者の方としては、学校（中学校、高校または特別支援学校）卒業後は、どのような進路を希望していますか。もっともあてはまるものの1つに○をつけてください。

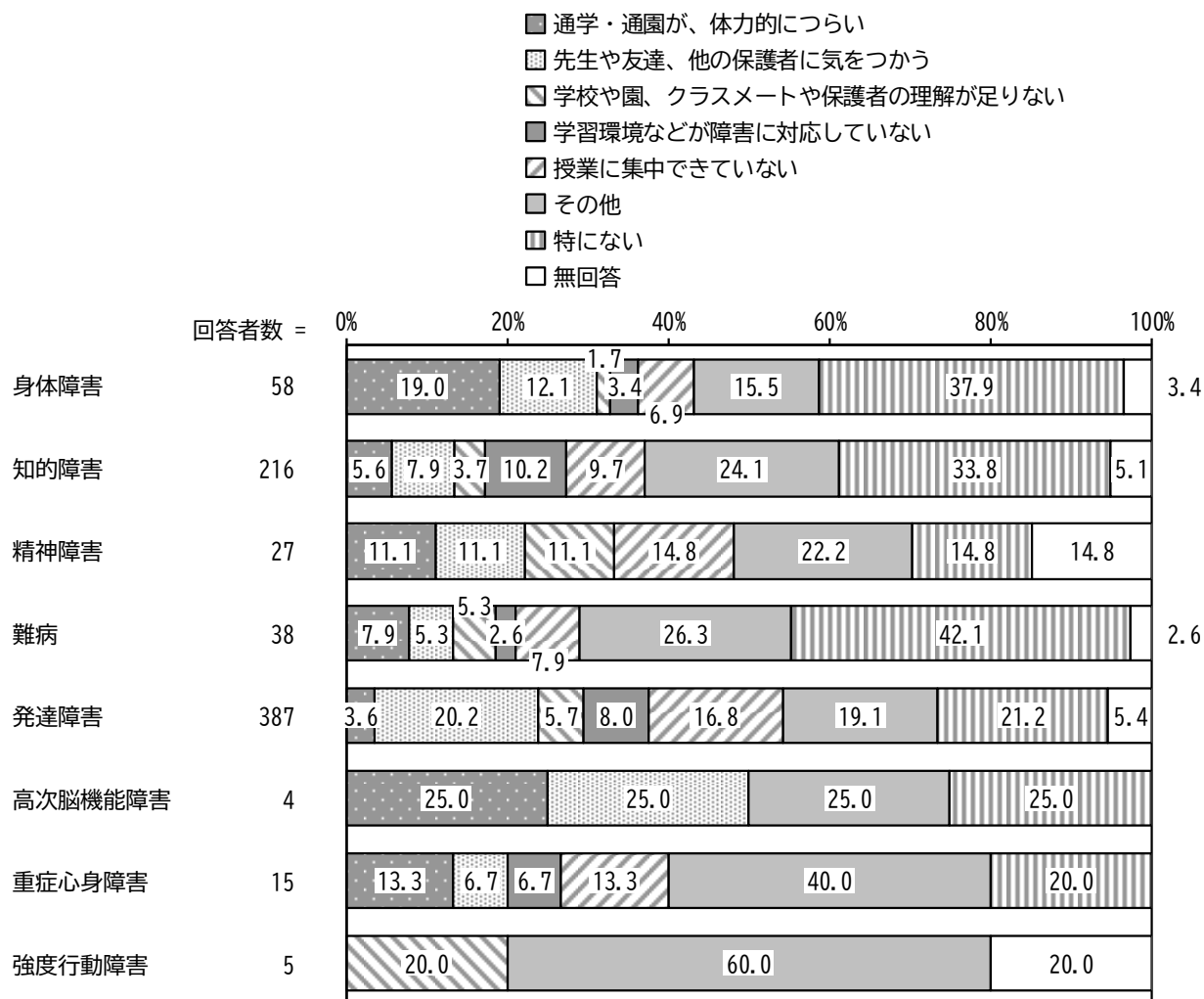
<心配されていること（困っていること）>

「先生や友達、他の保護者に気をつかう」の割合が15.8%と最も高く、次いで「授業に集中できていない」の割合が13.6%となっています。



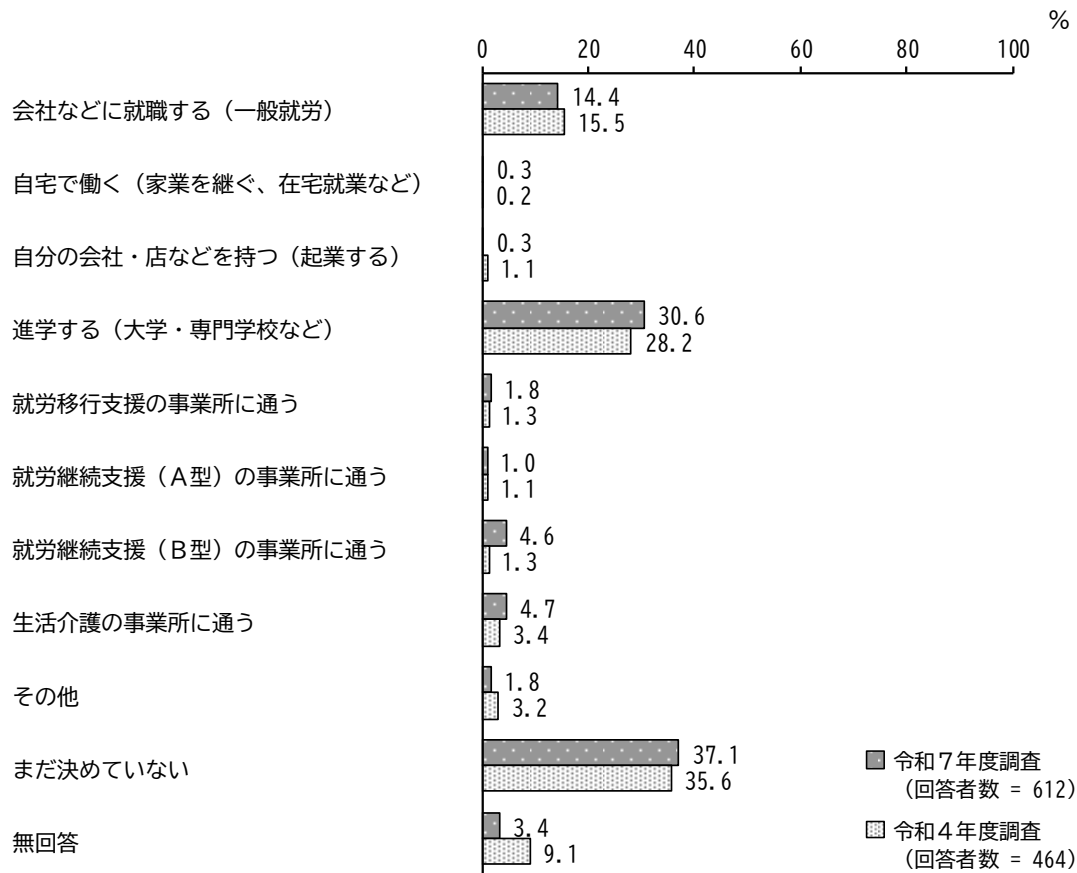
【障害種別】

障害種別にみると、身体障害で「通学・通園が、体力的につらい」、精神障害で「学校や園、クラスメートや保護者の理解が足りない」の割合が高くなっています。



<卒業後の希望する進路>

「進学する（大学・専門学校など）」の割合が30.6%と最も高く、次いで「会社などに就職する（一般就労）」の割合が14.4%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、発達障害で「進学する（大学・専門学校など）」、精神障害で「就労移行支援の事業所に通う」、知的障害で「就労継続支援（B型）の事業所に通う」、重症心身障害で「生活介護の事業所に通う」の割合が高くなっています。

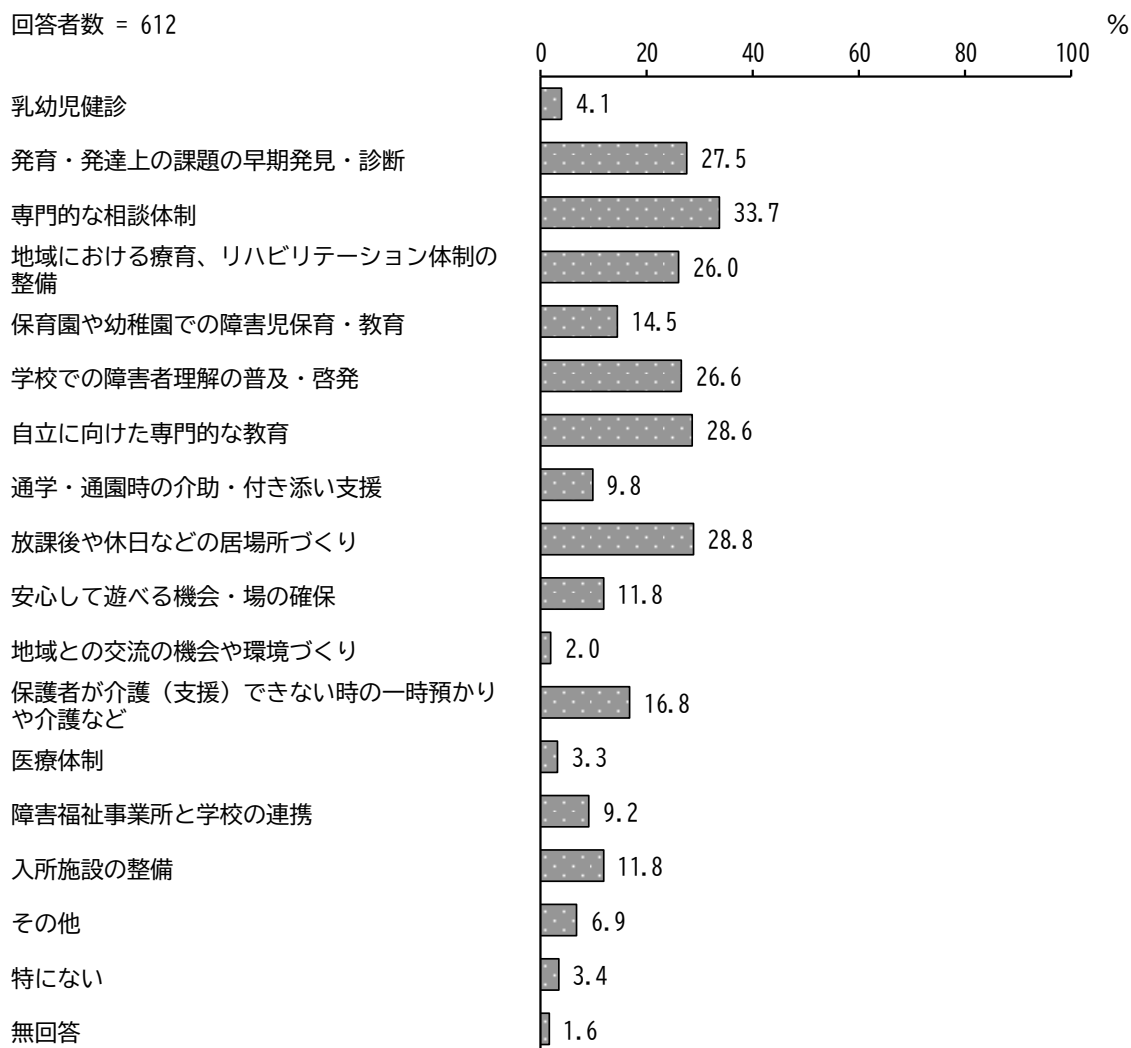
単位：％

区分	回答者数（件）	会社などに就職する（一般就労）	自宅で働く（家業を継ぐ、在宅就業など）	自分の会社・店などを持つ（起業する）	進学する（大学・専門学校など）	就労移行支援の事業所に通う	就労継続支援（A型）の事業所に通う	就労継続支援（B型）の事業所に通う	生活介護の事業所に通う	その他	まだ決めていない	無回答
全 体	612	14.4	0.3	0.3	30.6	1.8	1.0	4.6	4.7	1.8	37.1	3.4
身体障害	58	6.9	0.0	0.0	17.2	0.0	0.0	3.4	29.3	3.4	36.2	3.4
知的障害	216	11.6	0.0	0.0	8.8	3.7	2.8	12.0	13.4	4.2	40.7	2.8
精神障害	27	11.1	0.0	0.0	11.1	7.4	0.0	3.7	11.1	3.7	44.4	7.4
難病	38	2.6	2.6	0.0	18.4	0.0	2.6	0.0	26.3	5.3	42.1	0.0
発達障害	387	14.0	0.5	0.5	38.2	1.6	0.5	2.1	1.0	1.3	37.2	3.1
高次脳機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	25.0
重症心身障害	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	13.3	26.7	0.0
強度行動障害	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0

問10 療育や支援で、さらに充実させるべきだと思うことはありますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「専門的な相談体制」の割合が 33.7%と最も高く、次いで「放課後や休日などの居場所づくり」の割合が 28.8%、「自立に向けた専門的な教育」の割合が 28.6%となっています。

回答者数 = 612



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「放課後や休日などの居場所づくり」「保護者が介護（支援）できない時の一時預かりや介護など」「障害福祉事業所と学校の連携」「入所施設の整備」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	乳幼児健診	発育・発達上の課題の早期発見・診断	専門的な相談体制	地域における療育、リハビリテーション体制の整備	保育園や幼稚園での障害児保育・教育	学校での障害者理解の普及・啓発	自立に向けた専門的な教育	通学・通園時の介助・付き添い支援	放課後や休日などの居場所づくり
全 体	612	4.1	27.5	33.7	26.0	14.5	26.6	28.6	9.8	28.8
身体障害	58	3.4	6.9	20.7	24.1	13.8	19.0	12.1	19.0	31.0
知的障害	216	0.9	13.0	18.5	22.2	10.6	18.1	32.9	15.3	42.1
精神障害	27	3.7	25.9	33.3	29.6	7.4	29.6	18.5	18.5	25.9
難病	38	0.0	5.3	13.2	28.9	7.9	13.2	10.5	7.9	34.2
発達障害	387	4.1	31.8	38.5	27.9	14.7	30.2	30.5	8.5	26.6
高次脳機能障害	4	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	25.0	50.0
重症心身障害	15	0.0	0.0	0.0	20.0	13.3	13.3	6.7	6.7	46.7
強度行動障害	5	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	20.0	0.0	20.0	40.0

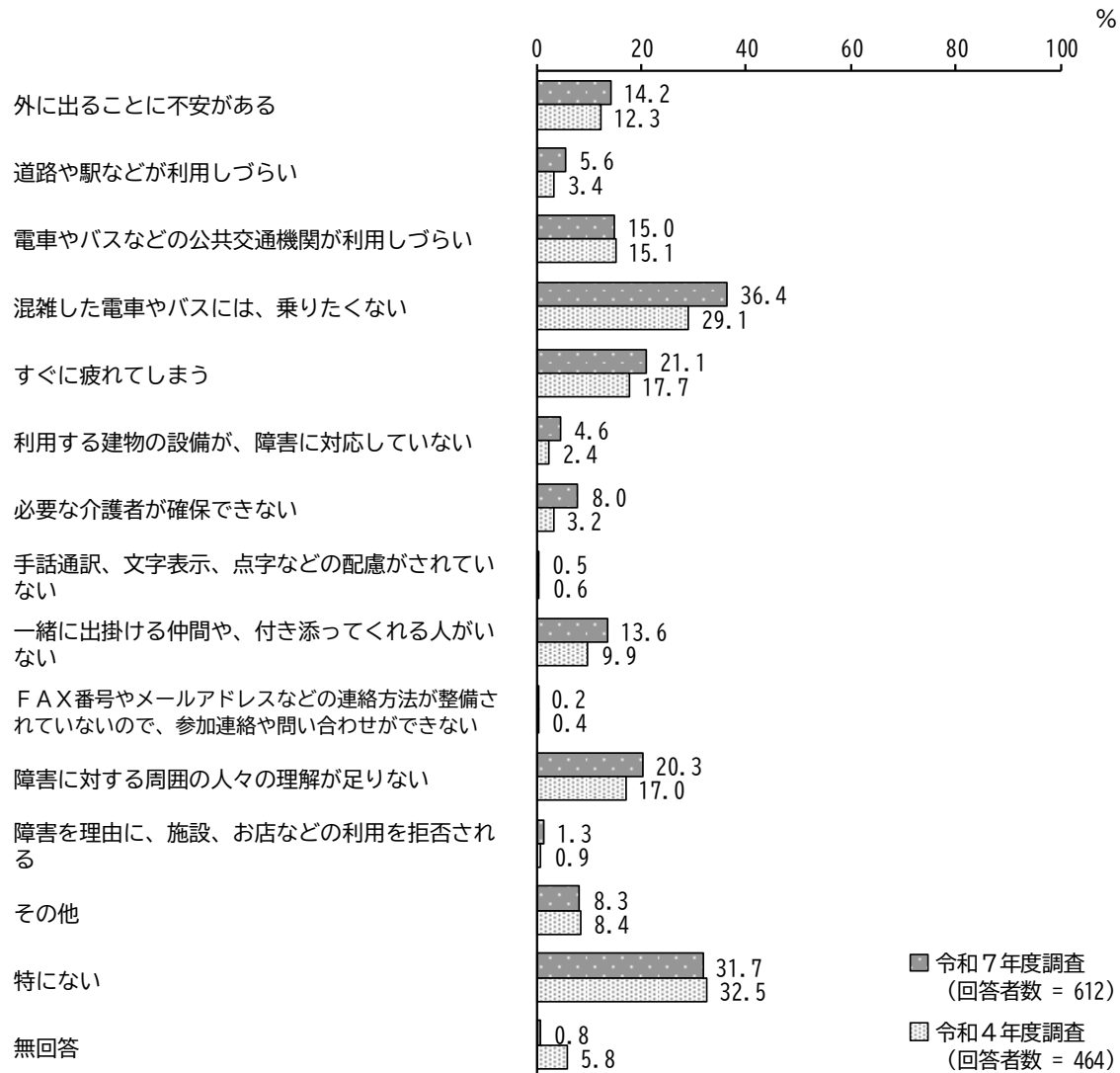
区分	安心して遊べる機会・場の確保	地域との交流の機会や環境づくり	保護者が介護（支援）できない時の一時預かりや介護など	医療体制	障害福祉事業所と学校の連携	入所施設の整備	その他	特にない	無回答
全 体	11.8	2.0	16.8	3.3	9.2	11.8	6.9	3.4	1.6
身体障害	17.2	0.0	50.0	5.2	15.5	24.1	10.3	1.7	1.7
知的障害	12.5	3.7	31.0	4.6	10.6	28.2	6.5	1.9	1.4
精神障害	7.4	0.0	22.2	3.7	11.1	25.9	14.8	0.0	3.7
難病	15.8	0.0	47.4	7.9	5.3	28.9	10.5	10.5	2.6
発達障害	11.1	1.8	10.6	1.3	9.6	7.5	7.8	2.8	2.1
高次脳機能障害	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	20.0	0.0	73.3	0.0	20.0	66.7	6.7	0.0	0.0
強度行動障害	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0

(3) 社会参加やコミュニケーションについて

問11 お子様が、社会参加や余暇活動などで外出をするとき、困ることはありますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「混雑した電車やバスには、乗りたくない」の割合が36.4%と最も高く、次いで「すぐに疲れてしまう」の割合が21.1%、「障害に対する周囲の人々の理解が足りない」の割合が20.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「混雑した電車やバスには、乗りたくない」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神障害、重症心身障害で「外に出ることに不安がある」、身体障害、重症心身障害で「道路や駅などが利用しづらい」、重症心身障害で「電車やバスなどの公共交通機関が利用しづらい」「混雑した電車やバスには、乗りたくない」「利用する建物の設備が、障害に対応していない」、精神障害で「すぐに疲れてしまう」「必要な介護者が確保できない」「一緒に出掛ける仲間や、付き添ってくれる人がいない」、知的障害、精神障害で「障害に対する周囲の人々の理解が足りない」の割合が高くなっています。

単位：％

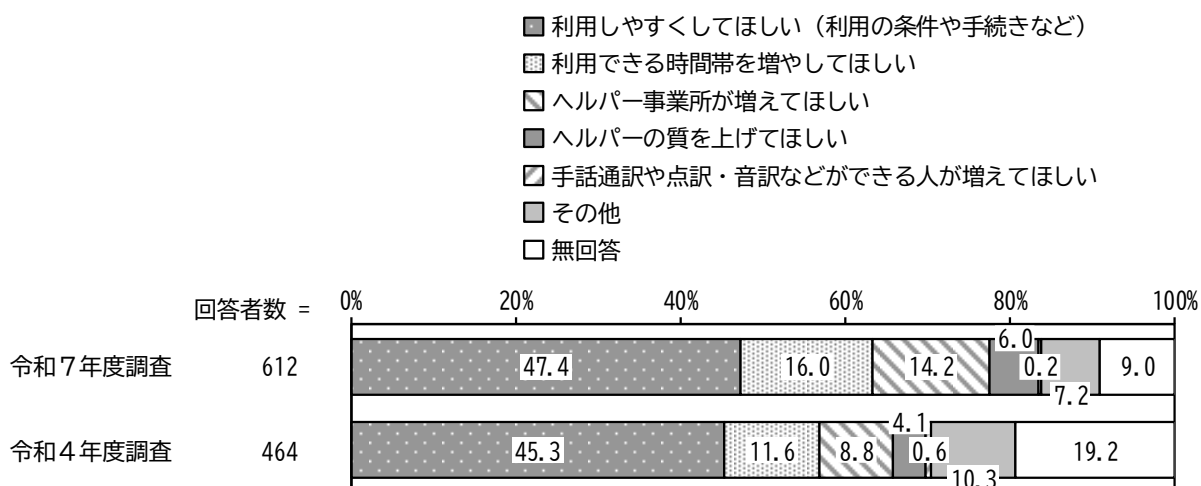
区分	回答者数 (件)	外に出ることに不安がある	道路や駅などが利用しづらい	電車やバスなどの公共交通機関が利用しづらい	混雑した電車やバスには、乗りたくない	すぐに疲れてしまう	利用する建物の設備が、障害に対応していない	必要な介護者が確保できない
全 体	612	14.2	5.6	15.0	36.4	21.1	4.6	8.0
身体障害	58	19.0	19.0	34.5	55.2	13.8	22.4	13.8
知的障害	216	18.5	8.8	21.3	46.8	18.1	10.6	16.7
精神障害	27	33.3	0.0	7.4	40.7	33.3	7.4	22.2
難病	38	15.8	10.5	28.9	34.2	15.8	10.5	13.2
発達障害	387	15.0	3.4	11.9	35.1	24.8	2.3	5.2
高次脳機能障害	4	25.0	25.0	25.0	75.0	50.0	25.0	0.0
重症心身障害	15	33.3	20.0	46.7	86.7	6.7	46.7	13.3
強度行動障害	5	40.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0

区分	手話通訳、文字表示、点字などの配慮がされていない	一緒に出掛ける仲間や、付き添ってくれる人がいない	FAX番号やメールアドレスなどの連絡方法が整備されていないので、参加連絡や問い合わせができない	障害に対する周囲の人々の理解が足りない	障害を理由に、施設、お店などの利用を拒否される	その他	特にな	無回答
全 体	0.5	13.6	0.2	20.3	1.3	8.3	31.7	0.8
身体障害	5.2	10.3	0.0	25.9	1.7	8.6	12.1	0.0
知的障害	0.0	22.2	0.5	31.5	3.2	10.6	13.9	0.9
精神障害	0.0	25.9	0.0	33.3	3.7	14.8	7.4	0.0
難病	0.0	15.8	0.0	18.4	2.6	15.8	26.3	0.0
発達障害	0.0	12.9	0.0	20.7	0.3	8.8	34.4	0.3
高次脳機能障害	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	0.0	13.3	0.0	26.7	0.0	6.7	0.0	0.0
強度行動障害	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0

問12 社会参加の支援サービスについてどのような要望がありますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

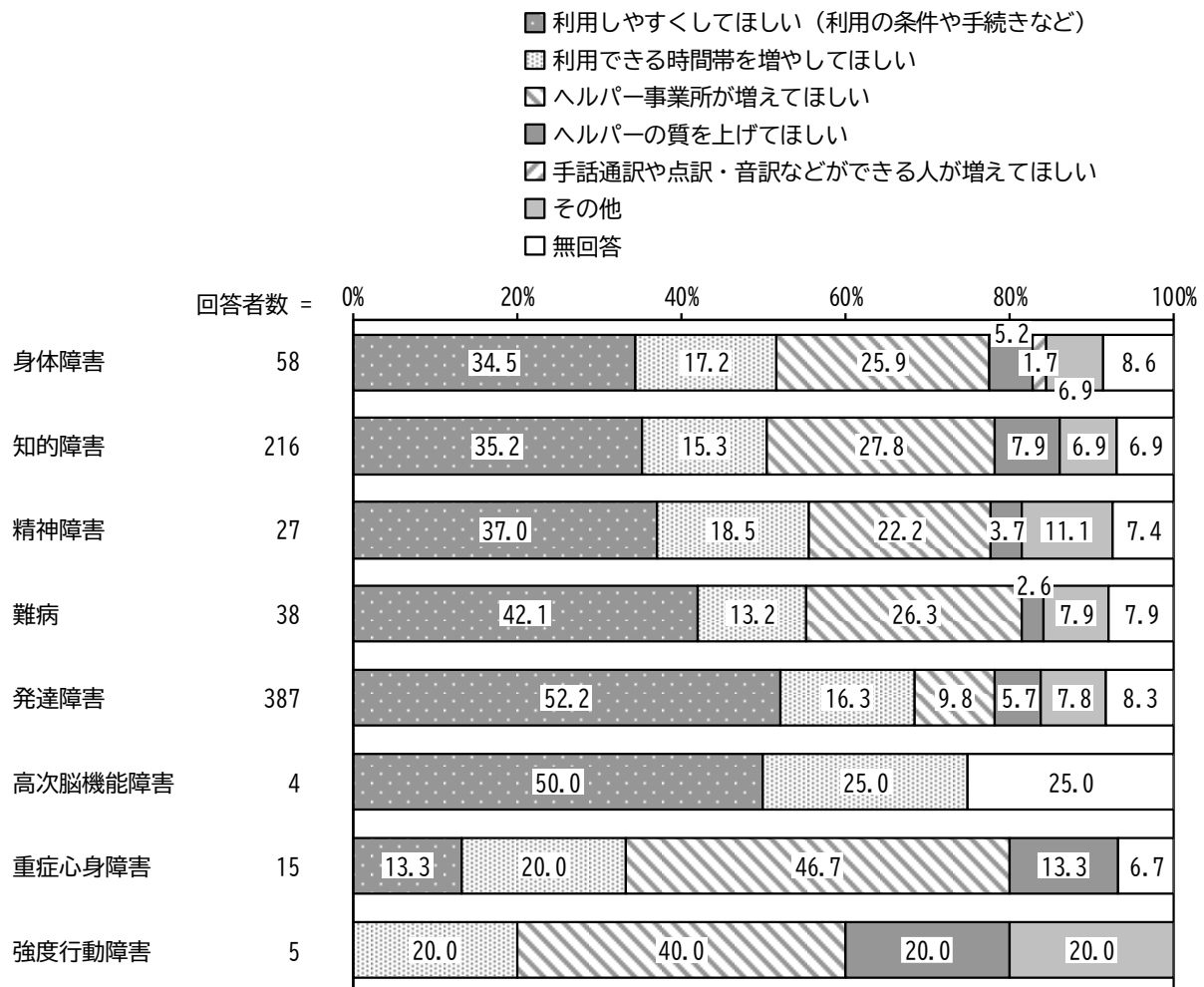
「利用しやすくしてほしい（利用の条件や手続きなど）」の割合が47.4%と最も高く、次いで「利用できる時間帯を増やしてほしい」の割合が16.0%、「ヘルパー事業所が増えてほしい」の割合が14.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「ヘルパー事業所が増えてほしい」の割合が増加しています。



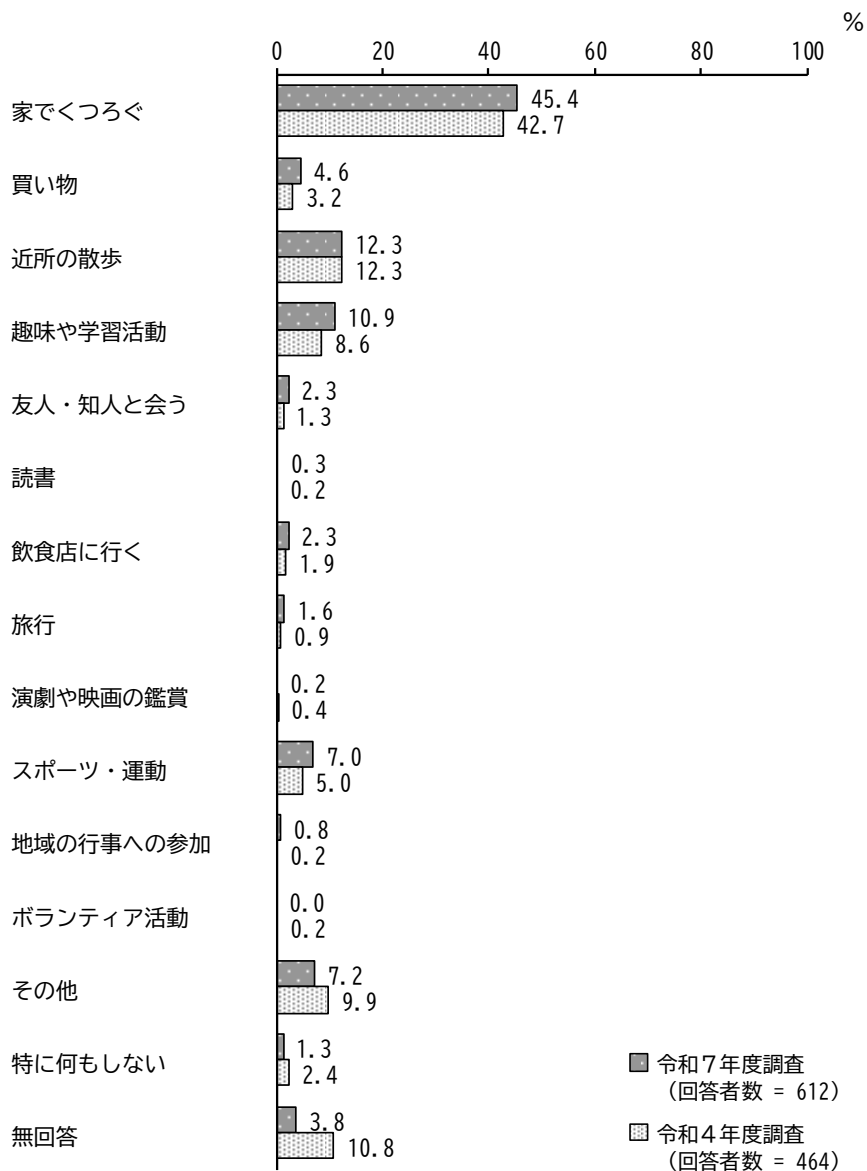
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「ヘルパー事業所が増えてほしい」「ヘルパーの質を上げてほしい」の割合が高くなっています。



問13 お子様は、余暇（主に休日）は、どのように過ごしていますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

「家でくつろぐ」の割合が45.4%と最も高く、次いで「近所の散歩」の割合が12.3%、「趣味や学習活動」の割合が10.9%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「家でくつろぐ」「近所の散歩」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家でくつろぐ	買い物	近所の散歩	趣味や学習活動	友人・知人と会う	読書	飲食店に行く
全 体	612	45.4	4.6	12.3	10.9	2.3	0.3	2.3
身体障害	58	63.8	3.4	13.8	3.4	0.0	0.0	1.7
知的障害	216	52.8	4.6	11.1	5.6	0.9	0.9	3.2
精神障害	27	55.6	7.4	0.0	7.4	0.0	3.7	0.0
難病	38	50.0	7.9	15.8	7.9	0.0	0.0	2.6
発達障害	387	44.4	4.7	11.6	12.1	2.6	0.0	1.6
高次脳機能障害	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	73.3	6.7	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	5	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

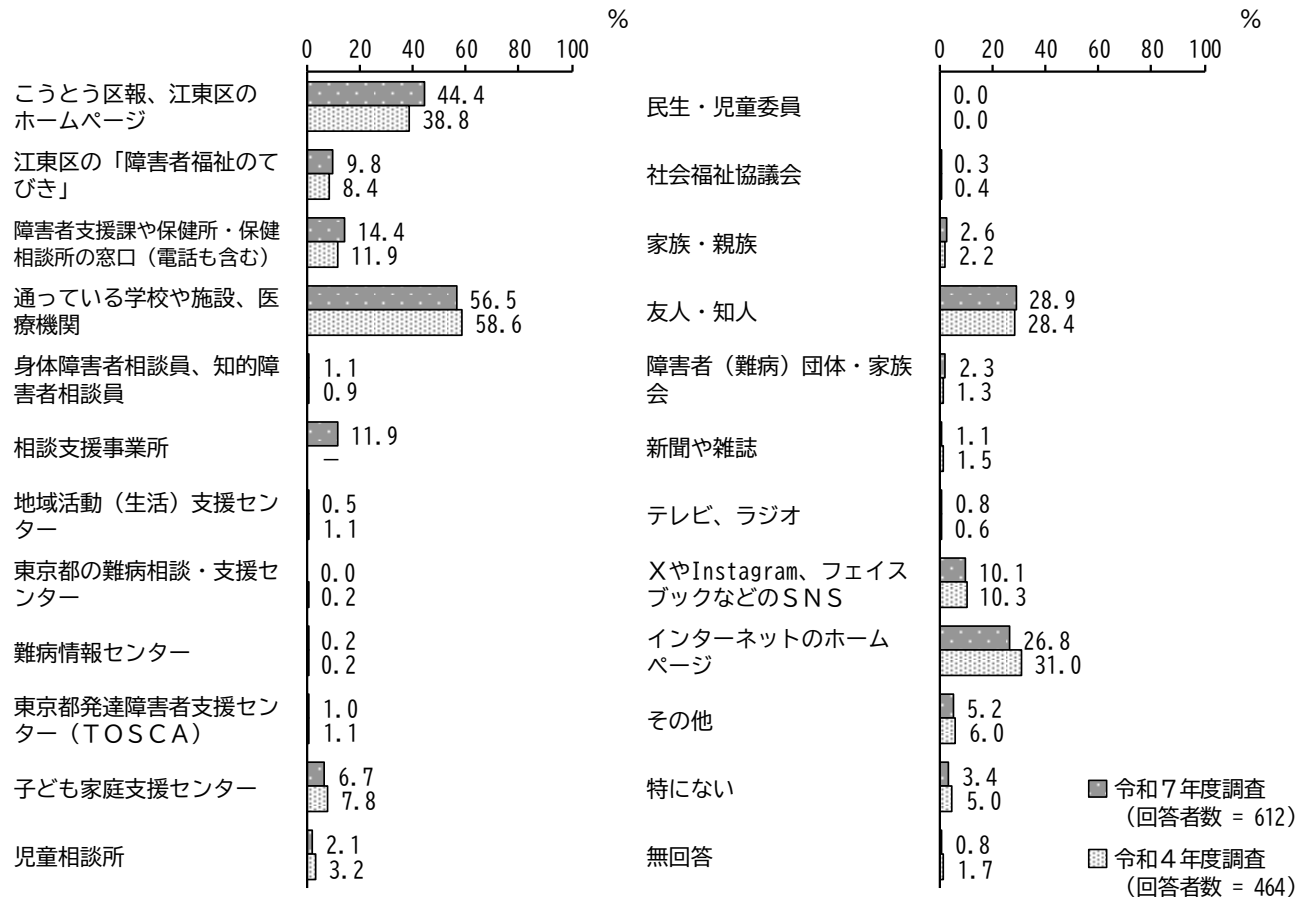
区分	旅行	演劇や映画の鑑賞	スポーツ・運動	地域の行事への参加	ボランティア活動	その他	特に何もしない	無回答
全 体	1.6	0.2	7.0	0.8	0.0	7.2	1.3	3.8
身体障害	1.7	0.0	6.9	0.0	0.0	1.7	0.0	3.4
知的障害	1.4	0.0	4.2	0.0	0.0	8.8	2.8	3.7
精神障害	0.0	0.0	3.7	3.7	0.0	7.4	7.4	3.7
難病	0.0	2.6	2.6	2.6	0.0	5.3	0.0	2.6
発達障害	1.8	0.0	6.5	0.8	0.0	8.3	1.8	3.9
高次脳機能障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0

(4) 情報・相談先について

問 14 福祉に関する情報をどこから得ていますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「通っている学校や施設、医療機関」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「こうとう区報、江東区のホームページ」の割合が 44.4%、「友人・知人」の割合が 28.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「こうとう区報、江東区のホームページ」の割合が増加しています。



※令和4年度調査の選択肢「ツイッターやフェイスブックなどのSNS」は令和7年度調査で「XやInstagram、フェイスブックなどのSNS」に変更しました。また、「相談支援事業所」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「江東区の「障害者福祉のてびき」「通っている学校や施設、医療機関」「身体障害者相談員、知的障害者相談員」、難病で「障害者支援課や保健所・保健相談所の窓口（電話も含む）」、精神障害で「インターネットのホームページ」の割合が高くなっています。

単位：％

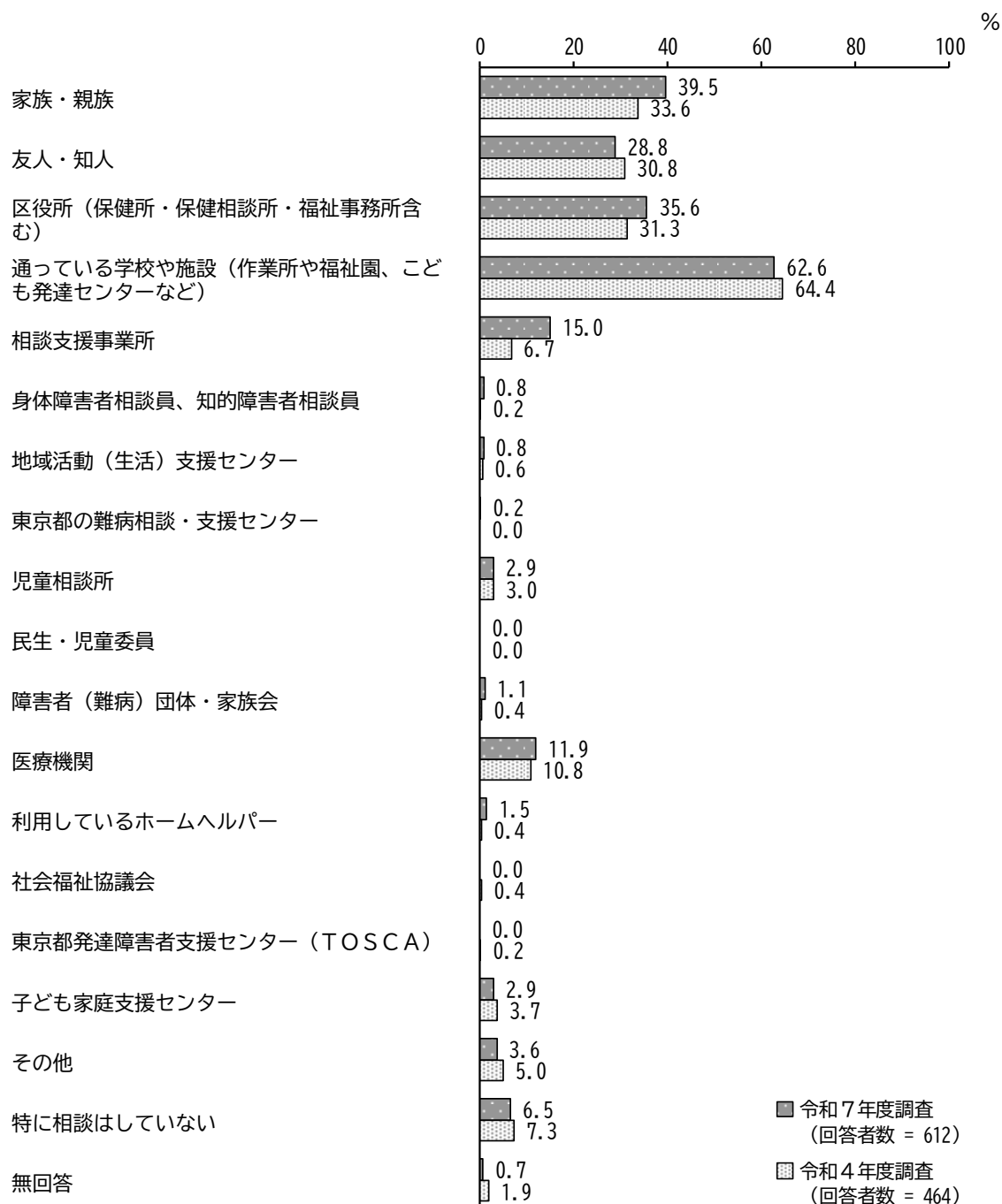
区分	回答者数（件）	江東区の「障害者福祉のてびき」	江東区の「障害者福祉のてびき」	障害者支援課や保健所・保健相談所の窓口（電話も含む）	通っている学校や施設、医療機関	身体障害者相談員、知的障害者相談員	相談支援事業所	地域活動（生活）支援センター	東京都の難病相談・支援センター	難病情報センター	東京都発達障害者支援センター（TOSCA）	子ども家庭支援センター	児童相談所
全 体	612	44.4	9.8	14.4	56.5	1.1	11.9	0.5	0.0	0.2	1.0	6.7	2.1
身体障害	58	44.8	24.1	20.7	63.8	6.9	19.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0
知的障害	216	44.4	17.6	12.5	65.7	2.3	14.4	0.0	0.0	0.0	0.5	1.4	3.2
精神障害	27	51.9	11.1	22.2	44.4	0.0	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病	38	47.4	18.4	26.3	44.7	2.6	15.8	0.0	0.0	2.6	2.6	0.0	0.0
発達障害	387	43.7	5.7	12.1	54.5	0.5	11.9	0.8	0.0	0.0	1.3	8.8	1.8
高次脳機能障害	4	100.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	40.0	33.3	20.0	73.3	13.3	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	5	20.0	20.0	20.0	80.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	民生・児童委員	社会福祉協議会	家族・親族	友人・知人	障害者（難病）団体・家族会	新聞や雑誌	テレビ、ラジオ	XやInstagram、フェイスブックなどのSNS	インターネットのホームページ	その他	特にない	無回答
全 体	0.0	0.3	2.6	28.9	2.3	1.1	0.8	10.1	26.8	5.2	3.4	0.8
身体障害	0.0	0.0	3.4	27.6	0.0	0.0	0.0	8.6	15.5	3.4	0.0	1.7
知的障害	0.0	0.5	1.4	35.6	5.1	0.5	0.5	7.4	20.4	4.6	3.7	1.4
精神障害	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	7.4	3.7	14.8	37.0	11.1	0.0	0.0
難病	0.0	0.0	0.0	23.7	5.3	2.6	0.0	7.9	13.2	2.6	10.5	0.0
発達障害	0.0	0.5	3.1	30.0	1.6	1.3	0.8	11.9	31.0	5.9	2.6	0.8
高次脳機能障害	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	0.0	0.0	6.7	26.7	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0

問 15 お子様が福祉サービスの利用で困ったとき、誰（どこ）に相談しますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「通っている学校や施設（作業所や福祉園、こども発達センターなど）」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「家族・親族」の割合が 39.5%、「区役所（保健所・保健相談所・福祉事務所含む）」の割合が 35.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「家族・親族」「相談支援事業所」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「家族・親族」「友人・知人」「相談支援事業所」、難病で「区役所（保健所・保健相談所・福祉事務所含む）」、精神障害で「医療機関」の割合が高くなっています。

単位：％

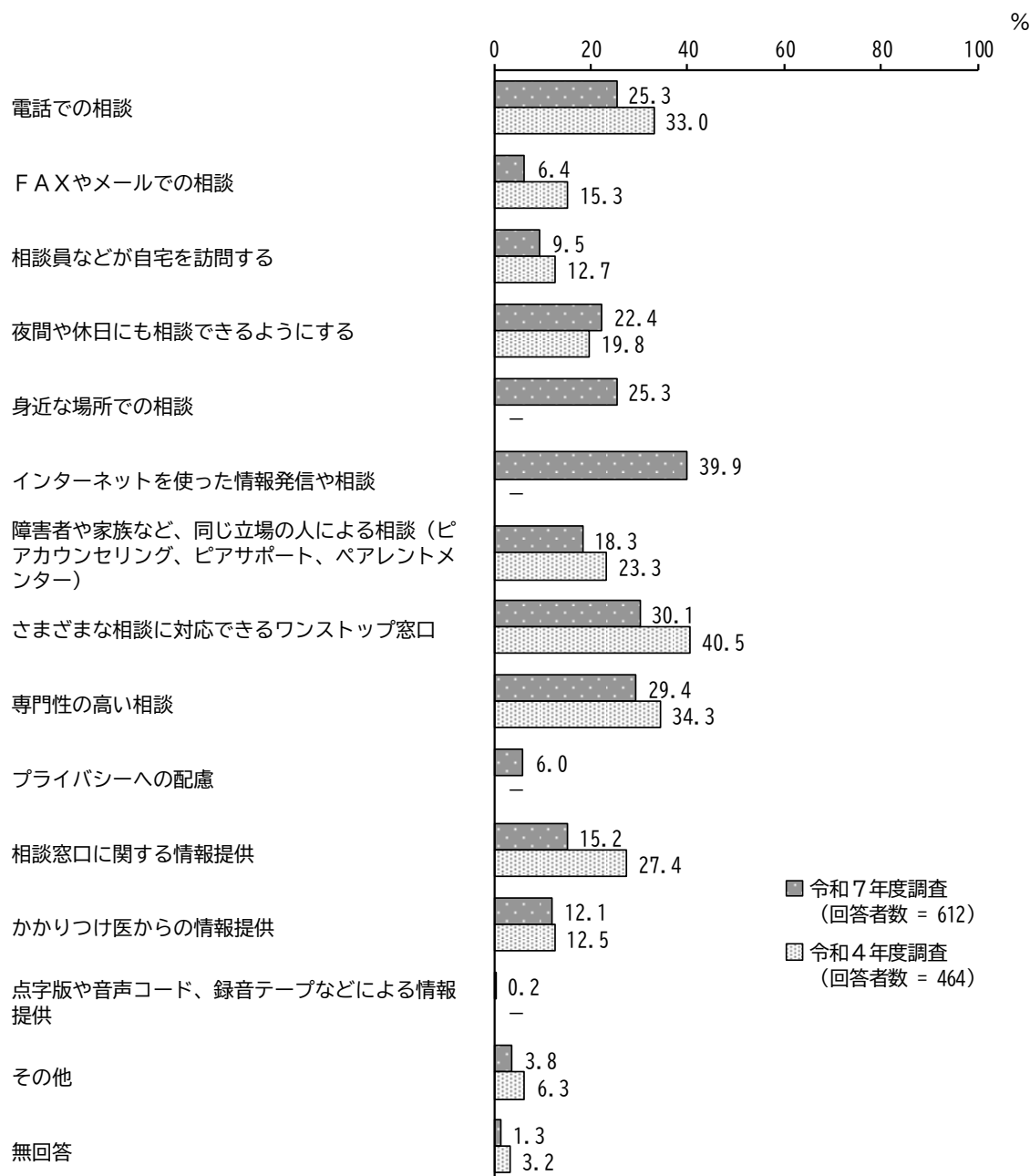
区分	回答者数（件）	家族・親族	友人・知人	区役所（保健所・保健相談所・福祉事務所含む）	通っている学校や施設（作業所や福祉園、こども発達センターなど）	相談支援事業所	身体障害者相談員、知的障害者相談員	地域活動（生活）支援センター	東京都の難病相談・支援センター	児童相談所
全 体	612	39.5	28.8	35.6	62.6	15.0	0.8	0.8	0.2	2.9
身体障害	58	41.4	25.9	39.7	51.7	27.6	0.0	0.0	0.0	0.0
知的障害	216	38.0	34.7	36.1	65.7	21.8	1.9	0.0	0.0	4.2
精神障害	27	40.7	29.6	33.3	59.3	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0
難病	38	44.7	26.3	47.4	28.9	23.7	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害	387	41.1	28.9	31.3	66.4	14.2	0.3	1.0	0.3	3.4
高次脳機能障害	4	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	53.3	40.0	26.7	46.7	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	5	40.0	20.0	40.0	100.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0

区分	民生・児童委員	障害者（難病）団体・家族会	医療機関	利用しているホームヘルパー	社会福祉協議会	東京都発達障害者支援センター（TOSCA）	子ども家庭支援センター	その他	特に相談はしていない	無回答
全 体	0.0	1.1	11.9	1.5	0.0	0.0	2.9	3.6	6.5	0.7
身体障害	0.0	1.7	15.5	6.9	0.0	0.0	0.0	6.9	1.7	0.0
知的障害	0.0	2.3	8.3	2.3	0.0	0.0	1.4	3.7	5.6	0.0
精神障害	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	7.4	0.0
難病	0.0	2.6	21.1	2.6	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0
発達障害	0.0	0.3	13.7	0.8	0.0	0.0	4.1	3.6	6.7	0.8
高次脳機能障害	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 16 福祉サービスの利用について、区役所などへ相談しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「インターネットを使った情報発信や相談」の割合が 39.9%と最も高く、次いで「さまざまな相談に対応できるワンストップ窓口」の割合が 30.1%、「専門性の高い相談」の割合が 29.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「電話での相談」「FAXやメールでの相談」「さまざまな相談に対応できるワンストップ窓口」「相談窓口に関する情報提供」の割合が減少しています。



※「身近な場所での相談」、「インターネットを使った情報発信や相談」、「プライバシーへの配慮」、「点字版や音声コード、録音テープなどによる情報提供」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「電話での相談」「FAXやメールでの相談」「専門性の高い相談」、精神障害で「相談員などが自宅を訪問する」「さまざまな相談に対応できるワンストップ窓口」「プライバシーへの配慮」、難病で「障害者や家族など、同じ立場の人による相談（ピアカウンセリング、ピアサポート、ペアレントメンター）」「かかりつけ医からの情報提供」の割合が高くなっています。

単位：％

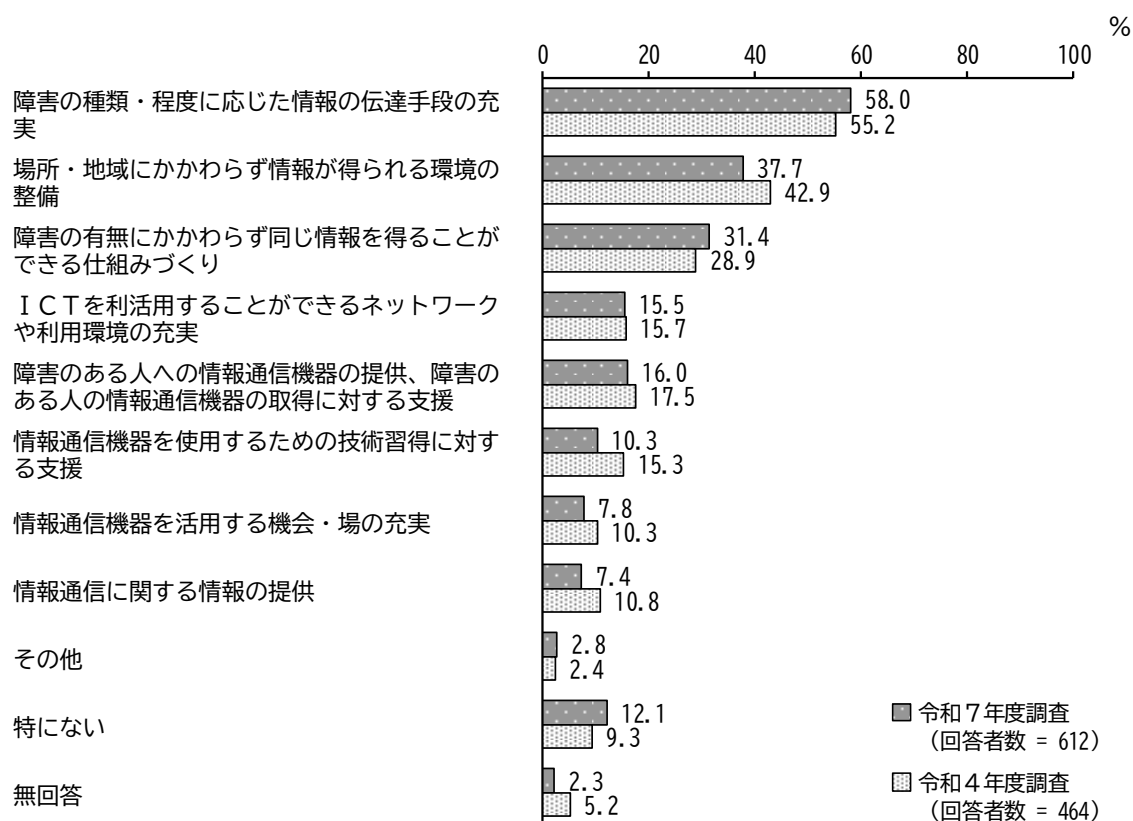
区分	回答者数（件）	電話での相談	FAXやメールでの相談	相談員などが自宅を訪問する	夜間や休日にも相談できるようにする	身近な場所での相談	インターネットを使った情報発信や相談	障害者や家族など、同じ立場の人による相談（ピアカウンセリング、ピアサポート、ペアレントメンター）
全 体	612	25.3	6.4	9.5	22.4	25.3	39.9	18.3
身体障害	58	27.6	10.3	13.8	17.2	15.5	41.4	22.4
知的障害	216	26.9	7.9	7.9	20.8	22.2	36.6	22.2
精神障害	27	22.2	11.1	14.8	25.9	22.2	29.6	18.5
難病	38	21.1	5.3	5.3	21.1	15.8	31.6	23.7
発達障害	387	26.4	5.7	9.3	21.4	26.4	40.1	17.1
高次脳機能障害	4	75.0	25.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0
重症心身障害	15	33.3	13.3	13.3	20.0	0.0	33.3	20.0
強度行動障害	5	60.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	20.0

区分	さまざまな相談に対応できるワンストップ窓口	専門性の高い相談	プライバシーへの配慮	相談窓口に関する情報提供	かかりつけ医からの情報提供	点字版や音声コード、録音テープなどによる情報提供	その他	無回答
全 体	30.1	29.4	6.0	15.2	12.1	0.2	3.8	1.3
身体障害	32.8	27.6	5.2	10.3	12.1	1.7	1.7	0.0
知的障害	36.6	24.5	6.0	15.7	10.2	0.0	4.2	1.4
精神障害	44.4	40.7	11.1	11.1	11.1	0.0	7.4	0.0
難病	34.2	34.2	5.3	13.2	18.4	0.0	7.9	0.0
発達障害	28.2	32.3	6.2	16.0	14.5	0.0	4.1	1.3
高次脳機能障害	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	33.3	53.3	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0
強度行動障害	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0

問 17 「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」では、障害のある人が情報を十分に取得して利用し、スムーズな意思疎通を図れることが重要とされています。あなたは、情報の取得利用や意思疎通において、どのような施策が江東区で特に必要であるとお考えですか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「障害の種類・程度に応じた情報の伝達手段の充実」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「場所・地域にかかわらず情報が得られる環境の整備」の割合が 37.7%、「障害の有無にかかわらず同じ情報を得ることができる仕組みづくり」の割合が 31.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「場所・地域にかかわらず情報が得られる環境の整備」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、知的障害で「障害の種類・程度に応じた情報の伝達手段の充実」、精神障害で「障害のある人への情報通信機器の提供、障害のある人の情報通信機器の取得に対する支援」、難病で「情報通信機器を使用するための技術習得に対する支援」、難病、重症心身障害で「情報通信に関する情報の提供」の割合が高くなっています。

単位：％

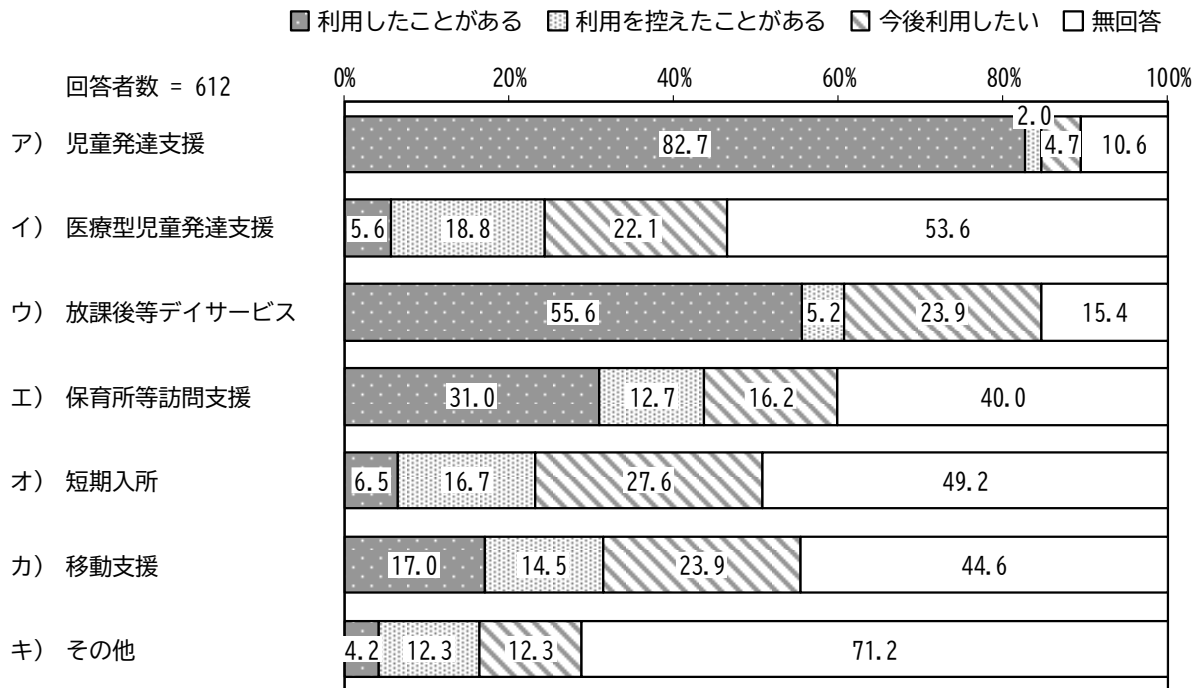
区分	回答者数 (件)	障害の種類・程度に応じた情報の伝達手段の充実	場所・地域にかかわらず情報が得られる環境の整備	障害の有無にかかわらず同じ情報を得ることができる仕組みづくり	ICTを活用することができるネットワークや利用環境の充実	障害のある人への情報通信機器の提供、障害のある人の情報通信機器の取得に対する支援
全 体	612	58.0	37.7	31.4	15.5	16.0
身体障害	58	50.0	37.9	24.1	15.5	22.4
知的障害	216	63.4	40.3	29.6	13.4	19.9
精神障害	27	55.6	37.0	29.6	18.5	25.9
難病	38	57.9	23.7	21.1	13.2	13.2
発達障害	387	57.6	38.0	32.3	17.6	15.5
高次脳機能障害	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	40.0	33.3	20.0	13.3	6.7
強度行動障害	5	60.0	40.0	20.0	0.0	40.0

区分	情報通信機器を使用するための技術習得に対する支援	情報通信機器を活用する機会・場の充実	情報通信に関する情報の提供	その他	特にない	無回答
全 体	10.3	7.8	7.4	2.8	12.1	2.3
身体障害	6.9	6.9	12.1	6.9	8.6	1.7
知的障害	10.6	6.9	7.4	4.6	9.7	0.5
精神障害	14.8	11.1	3.7	18.5	7.4	0.0
難病	15.8	7.9	13.2	7.9	13.2	0.0
発達障害	9.8	9.0	7.8	2.6	12.7	2.3
高次脳機能障害	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
重症心身障害	13.3	6.7	13.3	6.7	13.3	0.0
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0

(5) サービスの利用について

問 18 お子様の福祉サービスの利用についてお答えください。それぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。

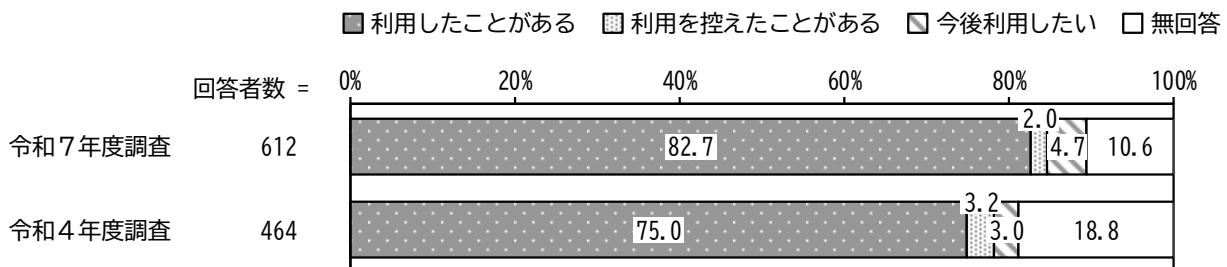
『ア) 児童発達支援』で「利用したことがある」が、『イ) 医療型児童発達支援』で「利用を控えたことがある」が、『オ) 短期入所』で「今後利用したい」が高くなっています。



ア) 児童発達支援

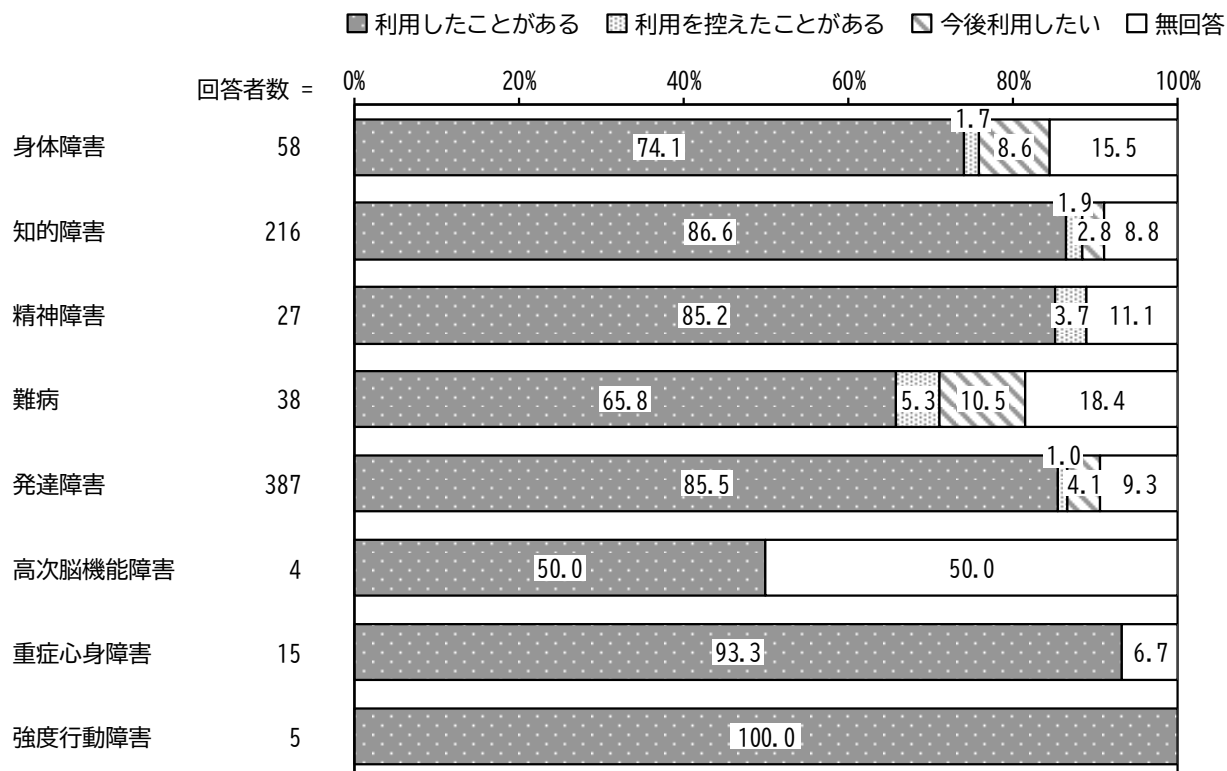
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用したことがある」の割合が増加しています。



【障害種別】

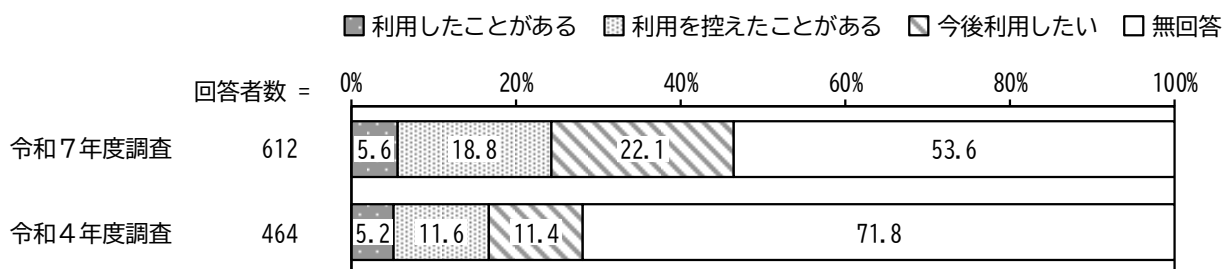
障害種別にみると、重症心身障害で「利用したことがある」、難病で「今後利用したい」の割合が高くなっています。



イ) 医療型児童発達支援

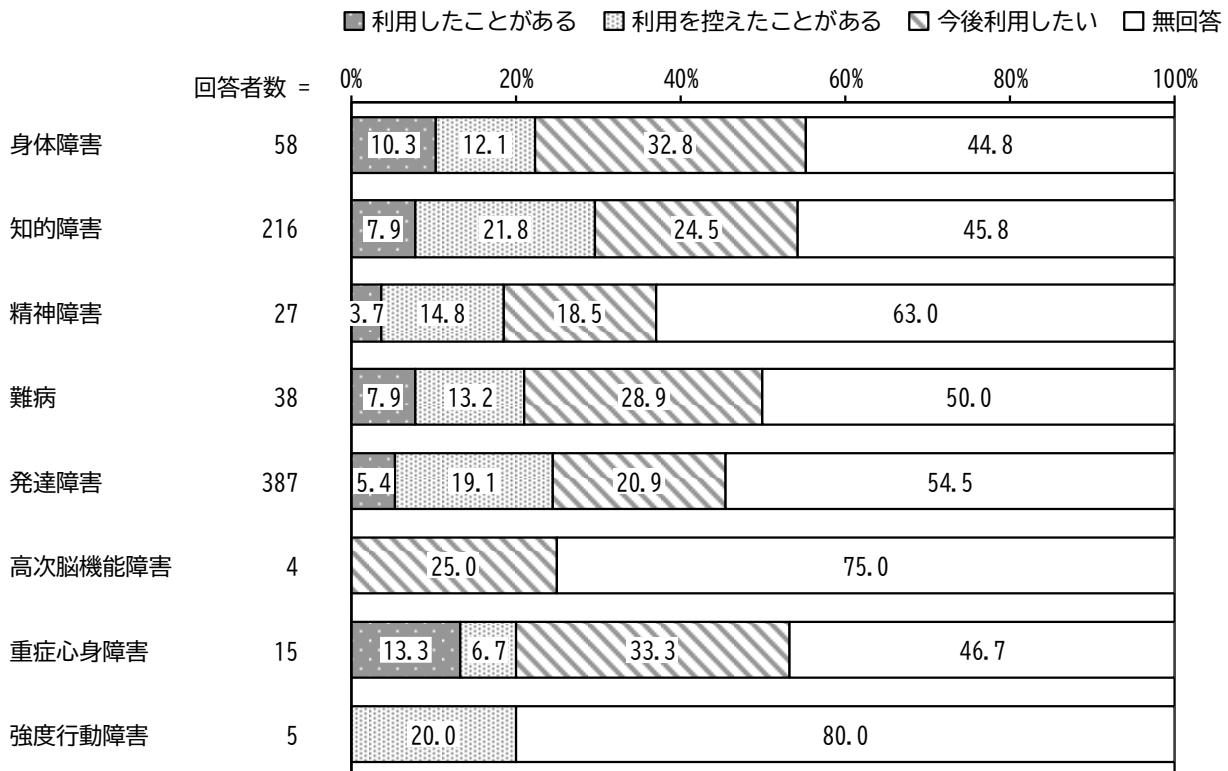
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用を控えたことがある」「今後利用したい」の割合が増加しています。



【障害種別】

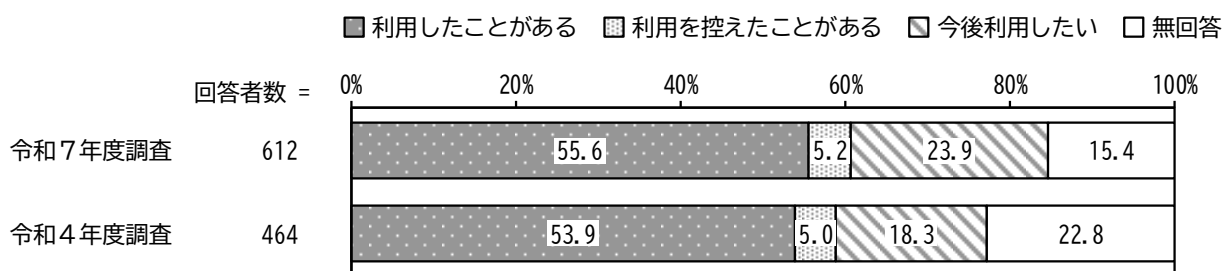
障害種別にみると、身体障害、重症心身障害で「今後利用したい」の割合が高く、重症心身障害で「利用を控えたことがある」の割合が低くなっています。



ウ) 放課後等デイサービス

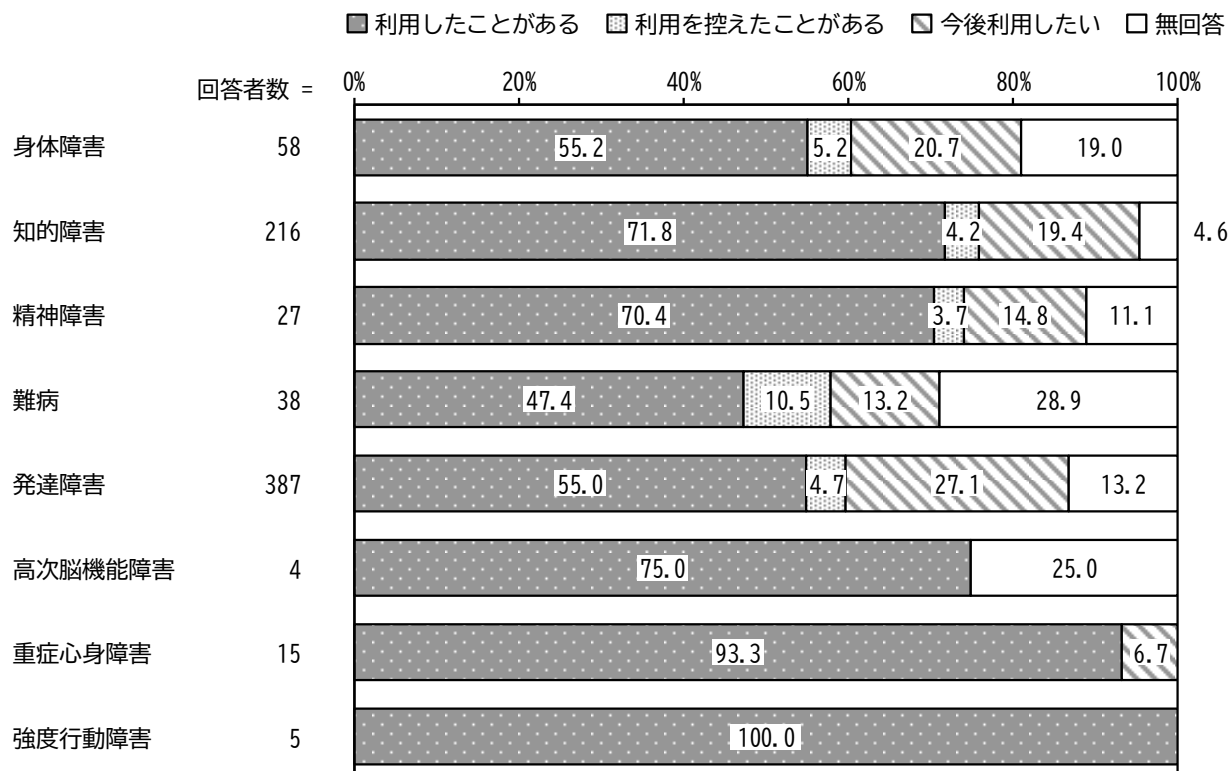
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今後利用したい」の割合が増加しています。



【障害種別】

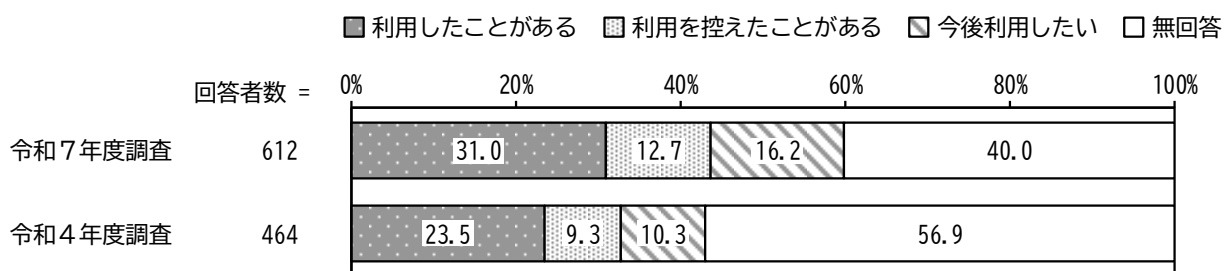
障害種別にみると、重症心身障害で「利用したことがある」の割合が高く、「今後利用したい」の割合が低くなっています。



工) 保育所等訪問支援

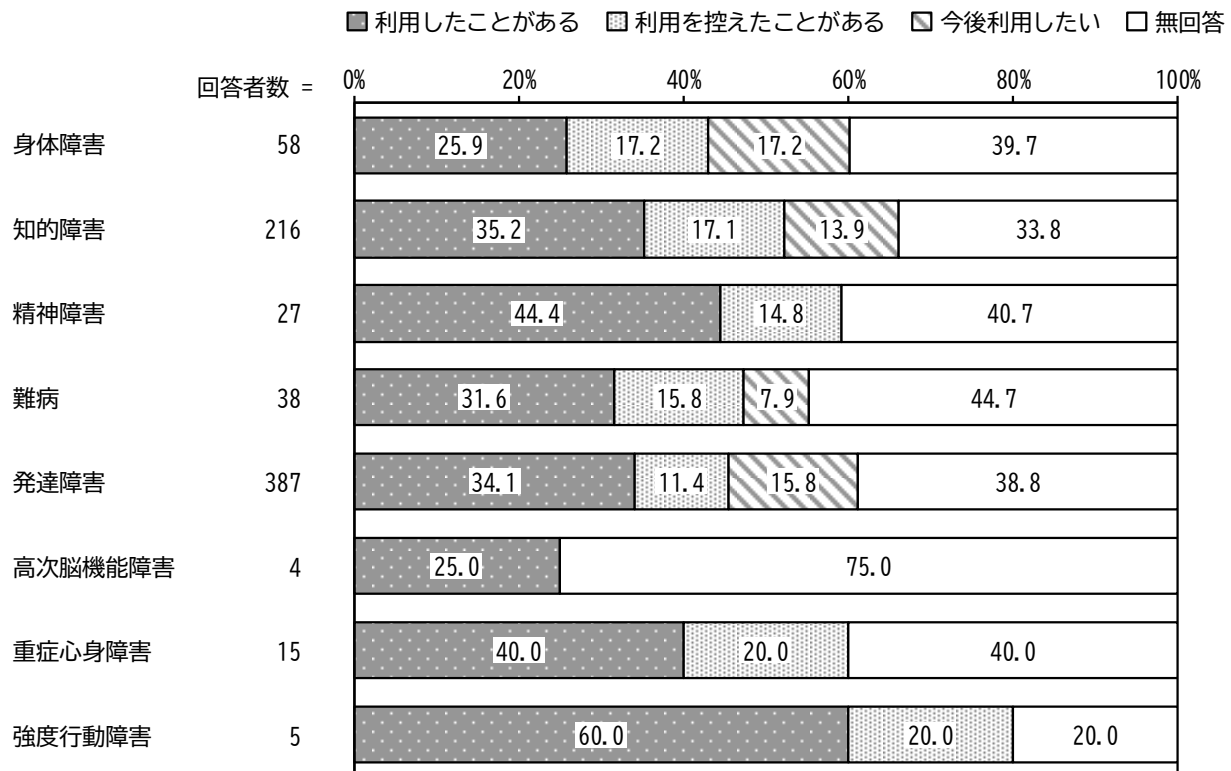
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用したことがある」「今後利用したい」の割合が増加しています。



【障害種別】

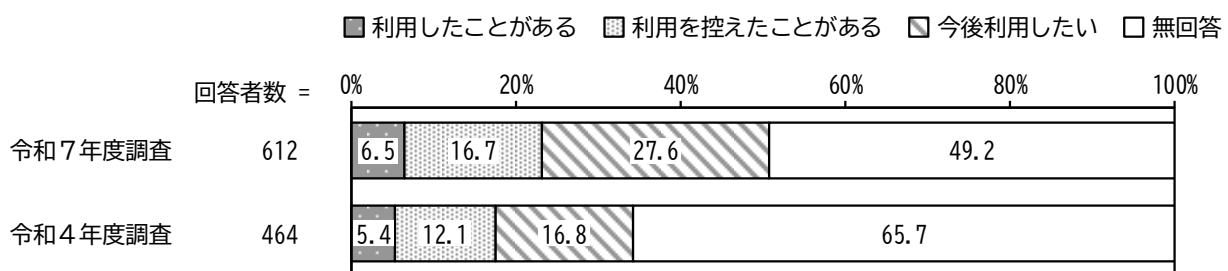
障害種別にみると、精神障害で「利用したことがある」、重症心身障害で「利用を控えたことがある」の割合が高くなっています。



オ) 短期入所

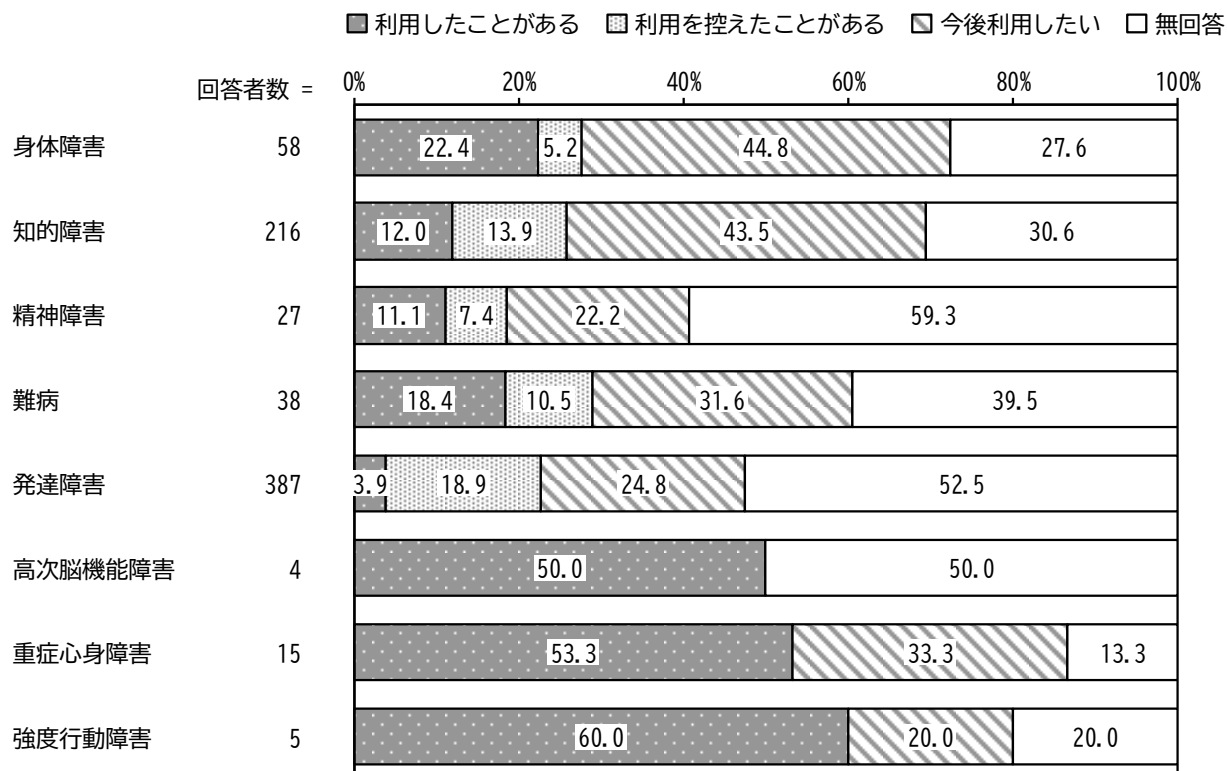
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今後利用したい」の割合が増加しています。



【障害種別】

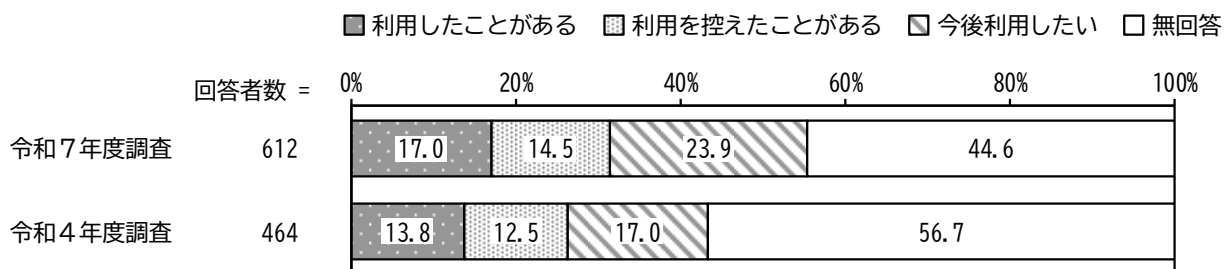
障害種別にみると、重症心身障害で「利用したことがある」、身体障害、知的障害で「今後利用したい」の割合が高くなっています。



力) 移動支援

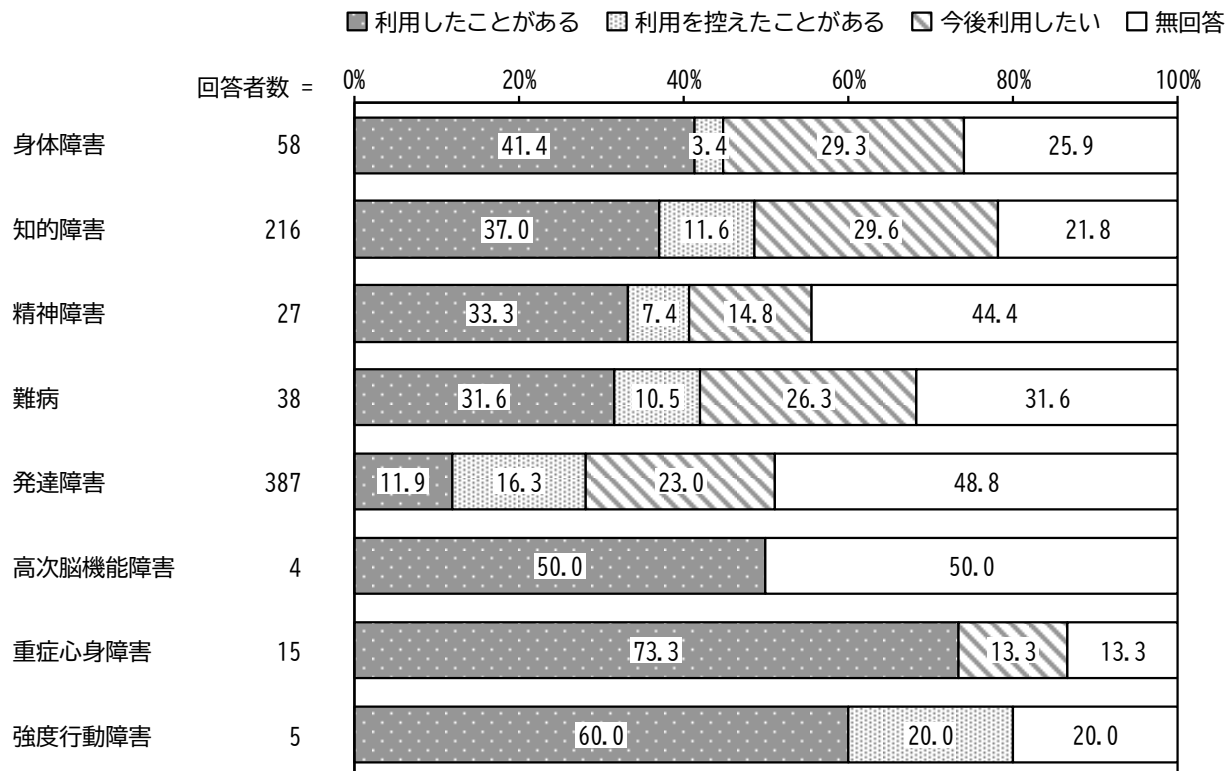
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今後利用したい」の割合が増加しています。



【障害種別】

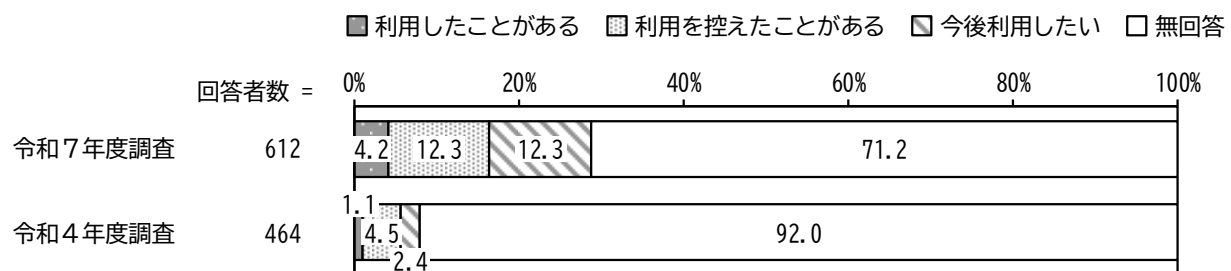
障害種別にみると、重症心身障害で「利用したことがある」の割合が高く、「今後利用したい」の割合が低くなっています。



キ) その他

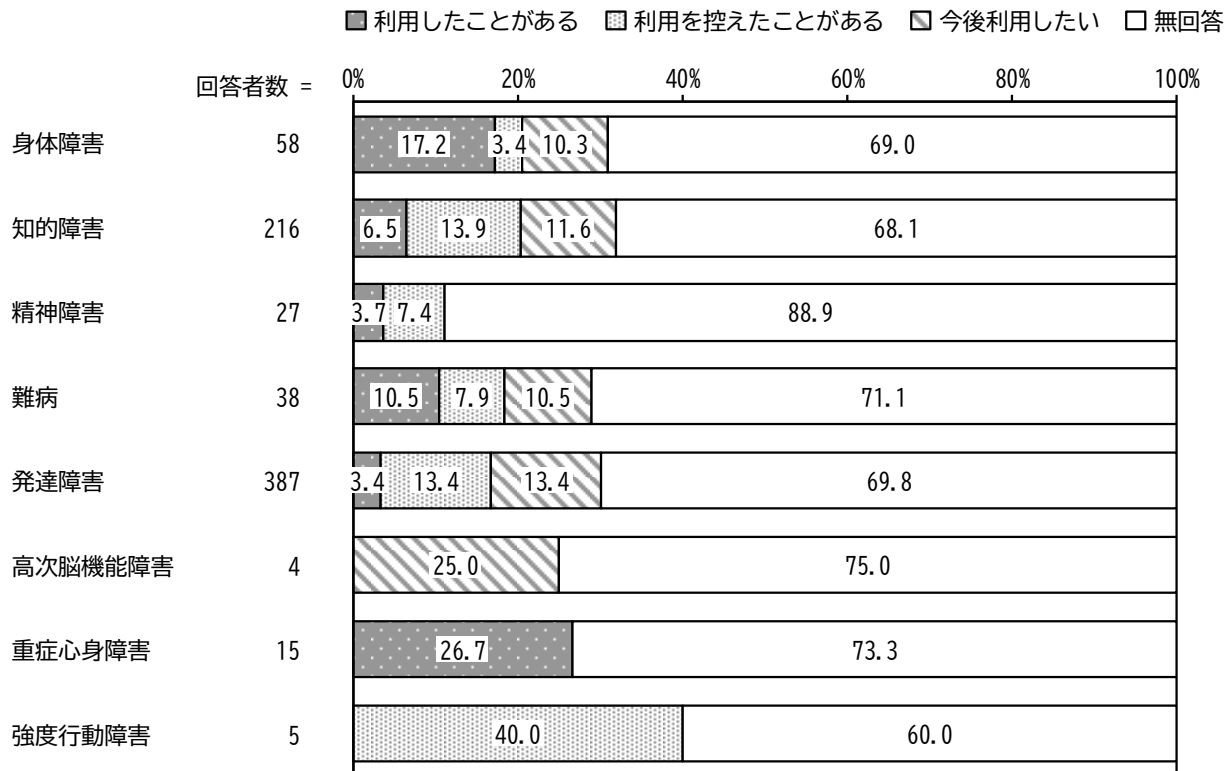
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用を控えたことがある」「今後利用したい」の割合が増加しています。



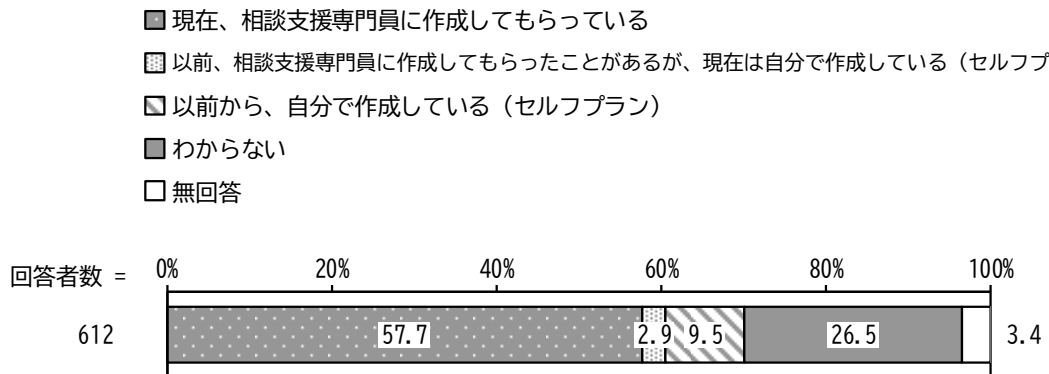
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「利用したことがある」の割合が高くなっています。



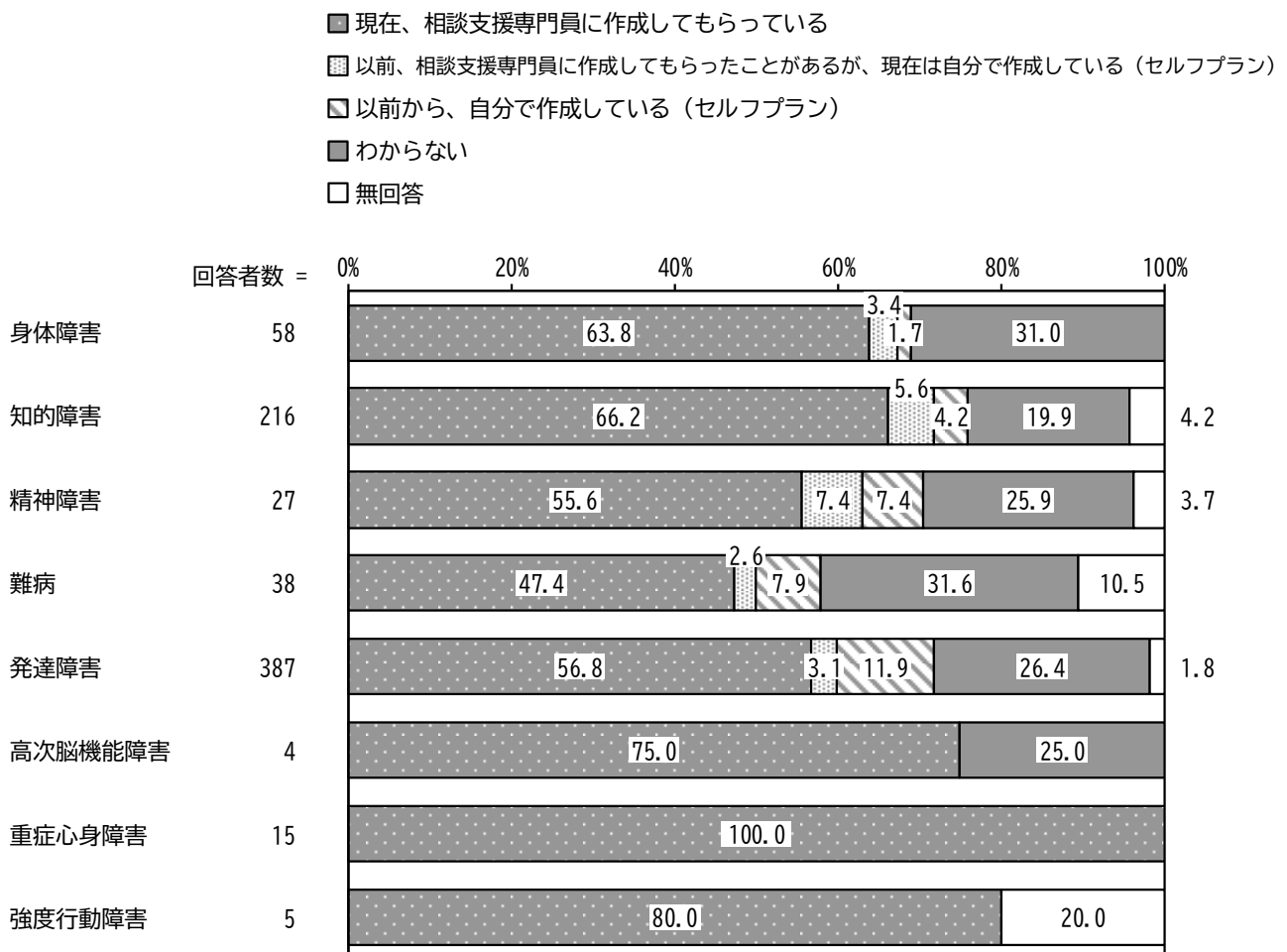
問 19 障害福祉サービスを利用するにあたっては、サービス等利用計画の作成が必要になります。あなたは、どのようにサービス等利用計画を作成していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「現在、相談支援専門員に作成してもらっている」の割合が 57.7%、「以前、相談支援専門員に作成してもらったことがあるが、現在は自分で作成している（セルフプラン）」の割合が 2.9%、「以前から、自分で作成している（セルフプラン）」の割合が 9.5%、「わからない」の割合が 26.5%、「無回答」の割合が 3.4%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、大きな差はみられません。

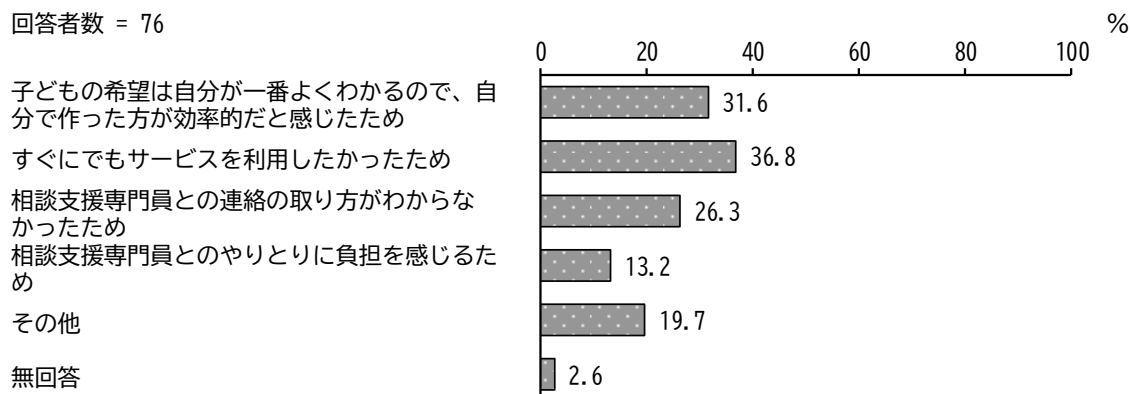


問 19 で「以前、相談支援専門員に作成してもらったことがあるが、現在は自分で作成している（セルフプラン）」、「以前から、自分で作成している（セルフプラン）」に○をつけた方にうかがいます。

問 19－1 サービス等利用計画を自分で作成している（セルフプラン）理由としてあてはまるものすべてに○をつけてください。

「すぐにでもサービスを利用したかったため」の割合が 36.8%と最も高く、次いで「子どもの希望は自分が一番よくわかるので、自分で作った方が効率的だと感じたため」の割合が 31.6%、「相談支援専門員との連絡の取り方がわからなかったため」の割合が 26.3%となっています。

回答者数 = 76



【障害種別】

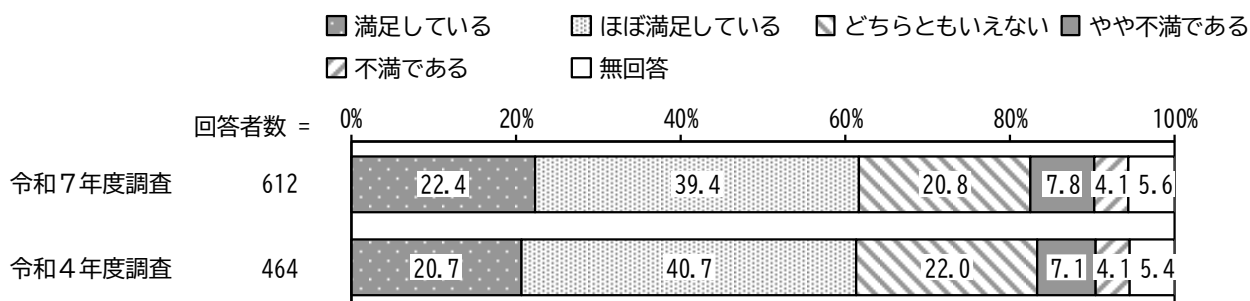
障害種別にみると、知的障害で「相談支援専門員とのやりとりに負担を感じるため」の割合が高く、発達障害で「子どもの希望は自分が一番よくわかるので、自分で作った方が効率的だと感じたため」「すぐにでもサービスを利用したかったため」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	子どもの希望は自分が一番よくわかるので、自分で作った方が効率的だと感じたため	すぐにでもサービスを利用したかったため	相談支援専門員との連絡の取り方がわからなかったため	相談支援専門員とのやりとりに負担を感じるため	その他	無回答
全 体	76	31.6	36.8	26.3	13.2	19.7	2.6
身体障害	3	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
知的障害	21	23.8	14.3	23.8	19.0	33.3	4.8
精神障害	4	25.0	0.0	25.0	50.0	50.0	0.0
難病	4	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0
発達障害	58	34.5	39.7	27.6	13.8	15.5	1.7
高次脳機能障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

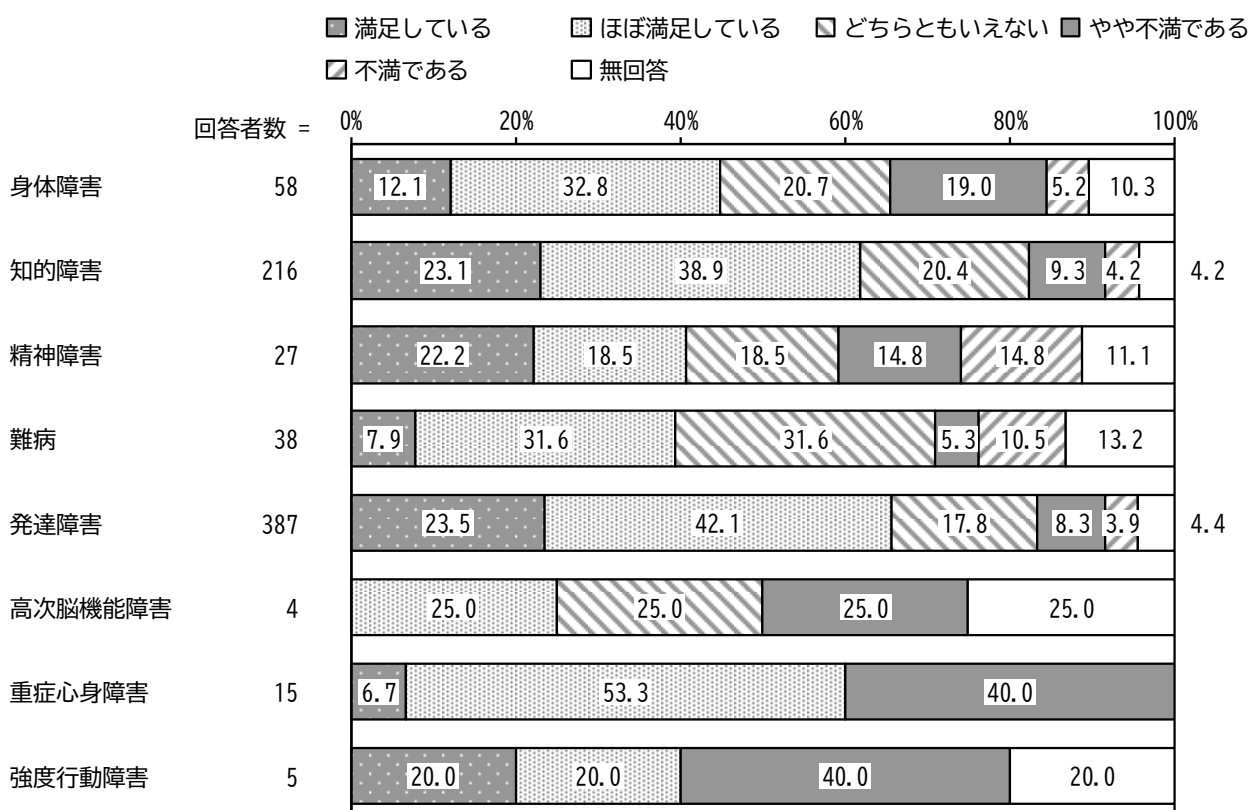
問 20 利用しているサービスの量や質に満足していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「満足している」「ほぼ満足している」を合わせた“満足している”の割合が 61.8%、「やや不満である」「不満である」を合わせた“不満である”の割合が 11.9%となっています。



【障害種別】

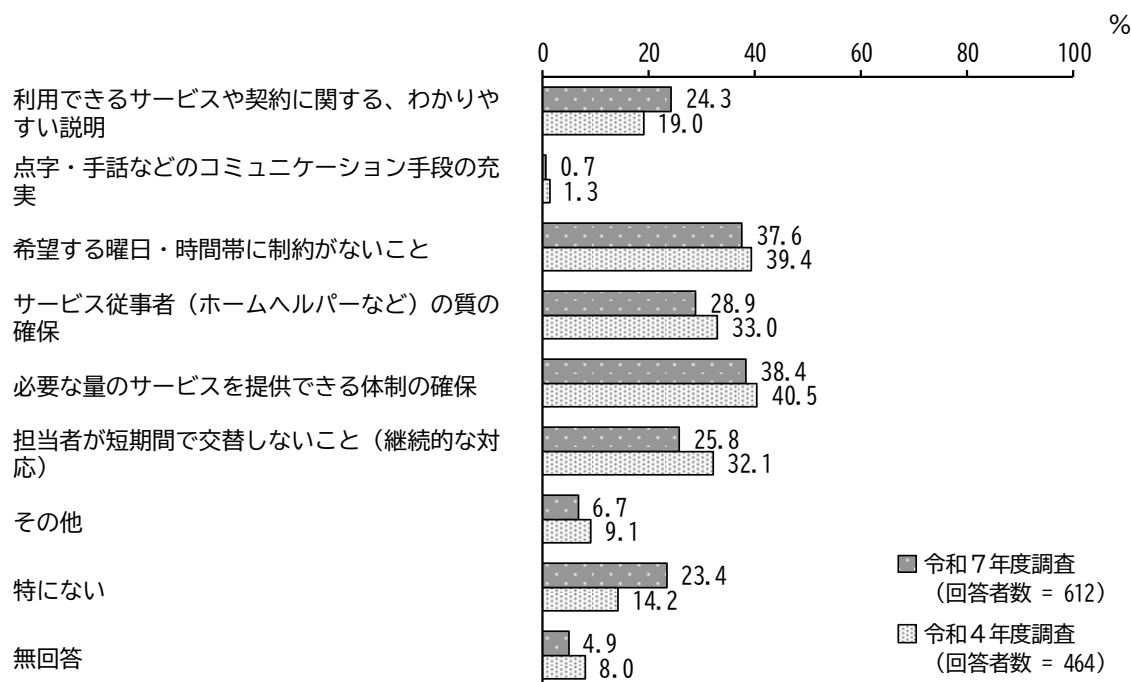
障害種別にみると、重症心身障害で“不満である”の割合が高くなっています。



問 21 現在利用しているサービス提供事業者に対して、どのようなことを望んでいますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

「必要な量のサービスを提供できる体制の確保」の割合が 38.4%と最も高く、次いで「希望する曜日・時間帯に制約がないこと」の割合が 37.6%、「サービス従事者（ホームヘルパーなど）の質の確保」の割合が 28.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「利用できるサービスや契約に関する、わかりやすい説明」の割合が増加しています。一方、「担当者が短期間で交替しないこと（継続的な対応）」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「サービス従事者（ホームヘルパーなど）の質の確保」「必要な量のサービスを提供できる体制の確保」、精神障害で「担当者が短期間で交替しないこと（継続的な対応）」の割合が高くなっています。

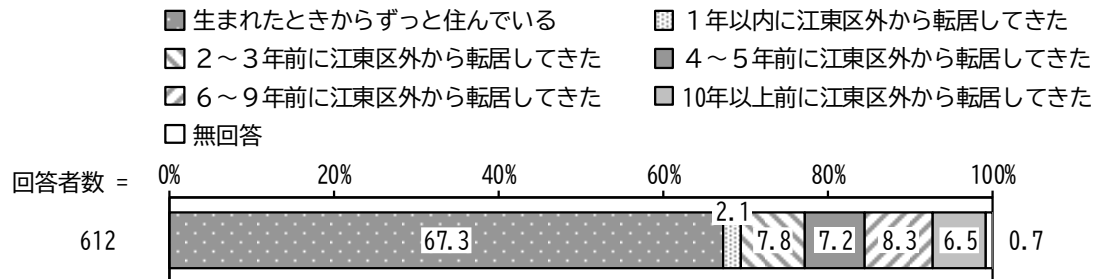
単位：％

区分	回答者数（件）	利用できるサービスや契約に関する、わかりやすい説明	点字・手話などのコミュニケーション手段の充実	希望する曜日・時間帯に制約がないこと	サービス従事者（ホームヘルパーなど）の質の確保	必要な量のサービスを提供できる体制の確保	担当者が短期間で交替しないこと（継続的な対応）	その他	特になし	無回答
全 体	612	24.3	0.7	37.6	28.9	38.4	25.8	6.7	23.4	4.9
身体障害	58	25.9	3.4	36.2	36.2	41.4	24.1	6.9	15.5	10.3
知的障害	216	23.1	0.5	38.4	38.0	46.3	22.2	8.8	19.4	5.1
精神障害	27	22.2	0.0	44.4	44.4	48.1	44.4	14.8	14.8	3.7
難病	38	15.8	0.0	26.3	36.8	44.7	10.5	13.2	28.9	7.9
発達障害	387	27.6	0.5	40.1	28.4	39.3	27.9	7.5	21.2	3.6
高次脳機能障害	4	25.0	0.0	25.0	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0
重症心身障害	15	13.3	0.0	46.7	60.0	60.0	20.0	6.7	6.7	0.0
強度行動障害	5	0.0	0.0	40.0	40.0	40.0	20.0	20.0	40.0	20.0

(6) 暮らしについて

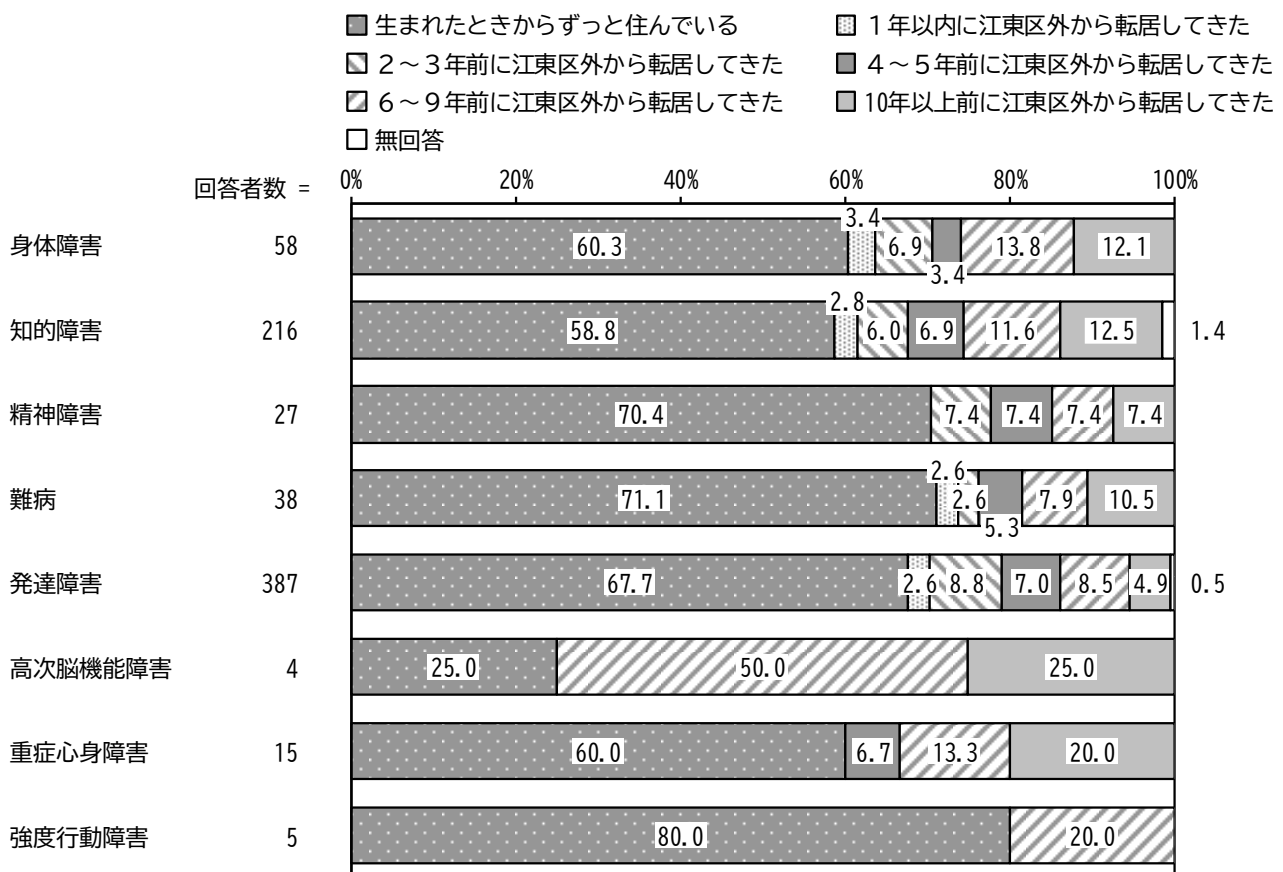
問22 お子様は、江東区にいつからお住まいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「生まれたときからずっと住んでいる」の割合が67.3%と最も高くなっています。



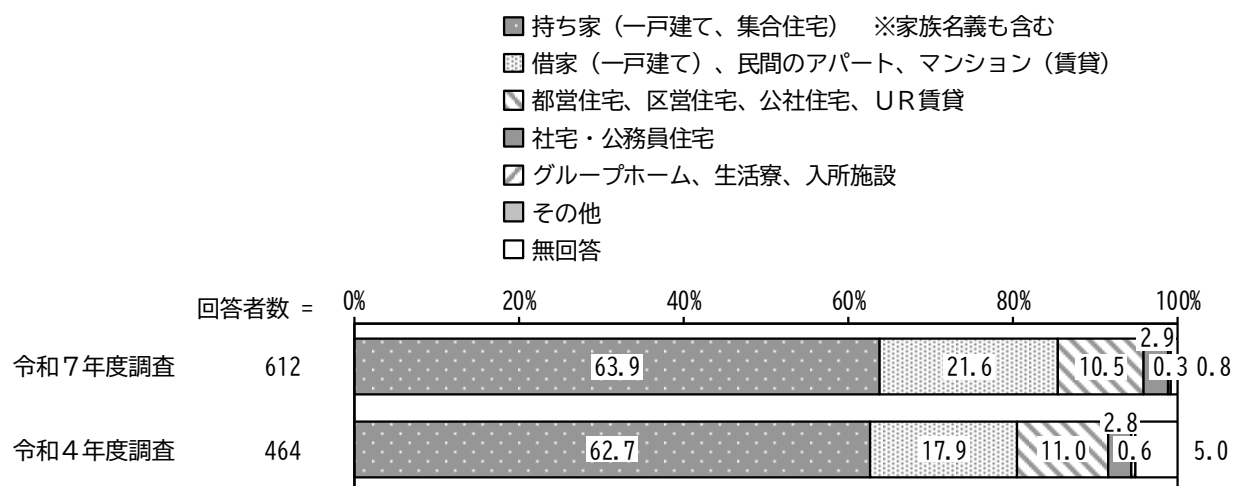
【障害種別】

障害種別にみると、身体障害、重症心身障害で「6～9年前に江東区外から転居してきた」、重症心身障害で「10年以上前に江東区外から転居してきた」の割合が高くなっています。



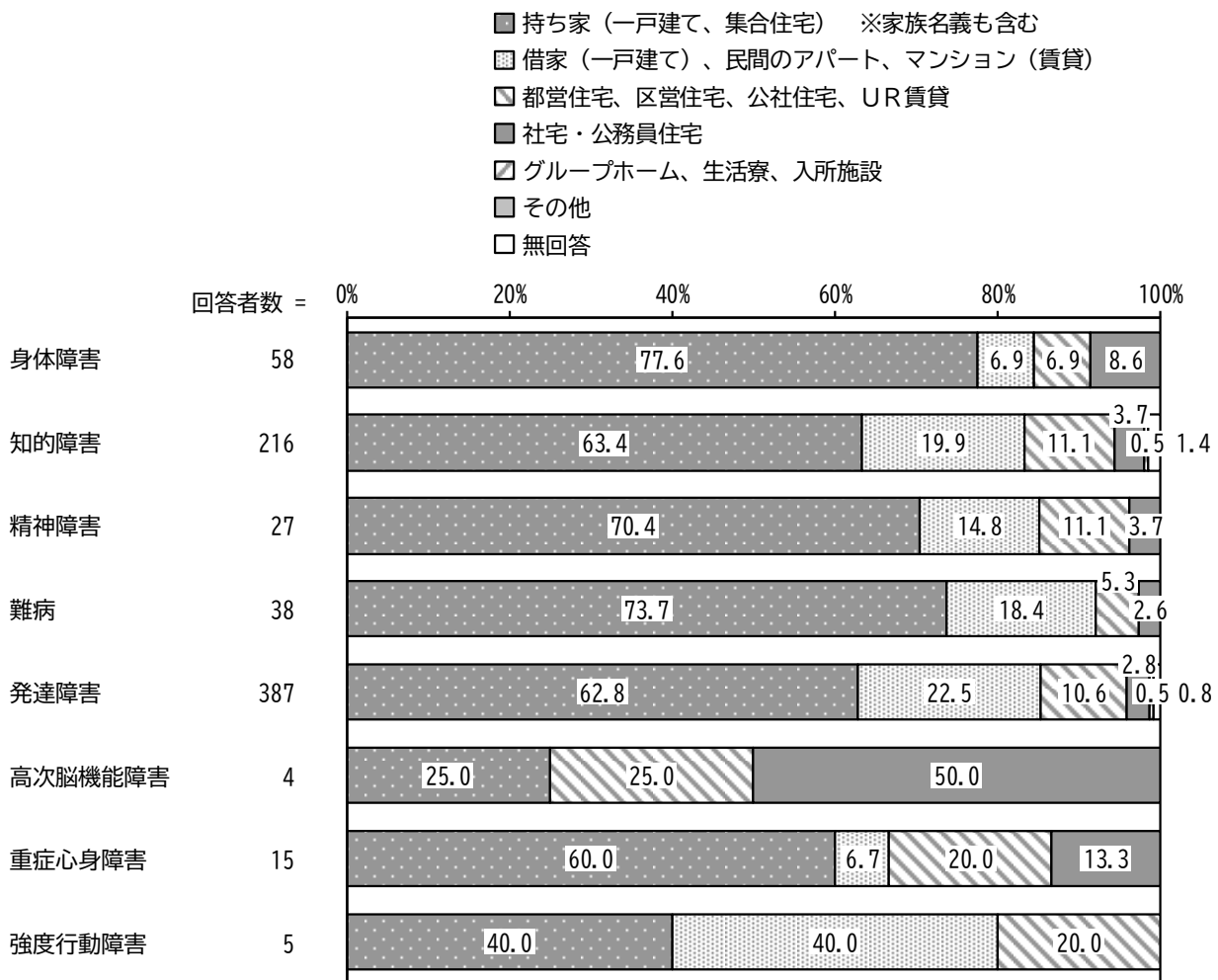
問 23 お子様の現在のお住まいはどのような形態ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「持ち家（一戸建て、集合住宅） ※家族名義も含む」の割合が 63.9%と最も高く、次いで「借家（一戸建て）、民間のアパート、マンション（賃貸）」の割合が 21.6%、「都営住宅、区営住宅、公社住宅、UR賃貸」の割合が 10.5%となっています。



【障害種別】

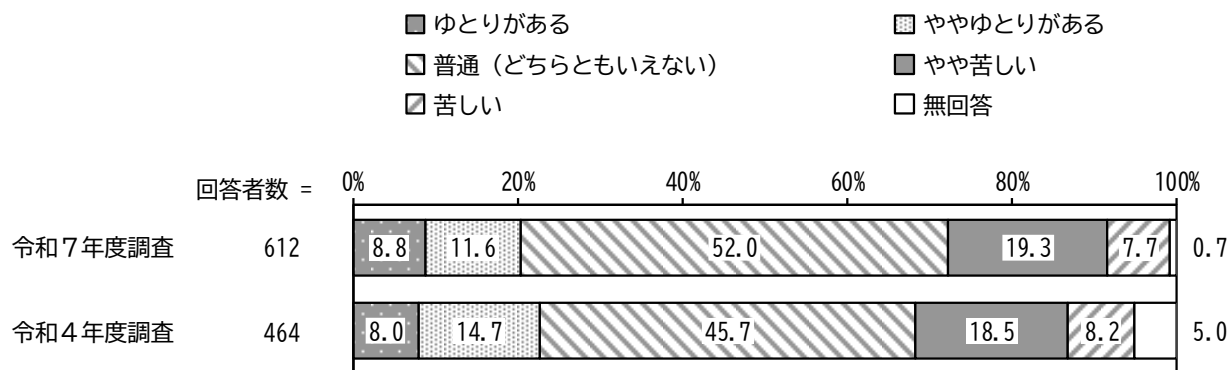
障害種別にみると、身体障害で「持ち家（一戸建て、集合住宅） ※家族名義も含む」、重症心身障害で「社宅・公務員住宅」の割合が高く、身体障害、重症心身障害で「借家（一戸建て）、民間のアパート、マンション（賃貸）」の割合が低くなっています。



問 24 現在の暮らし向き（家計の状況）について、どう感じていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

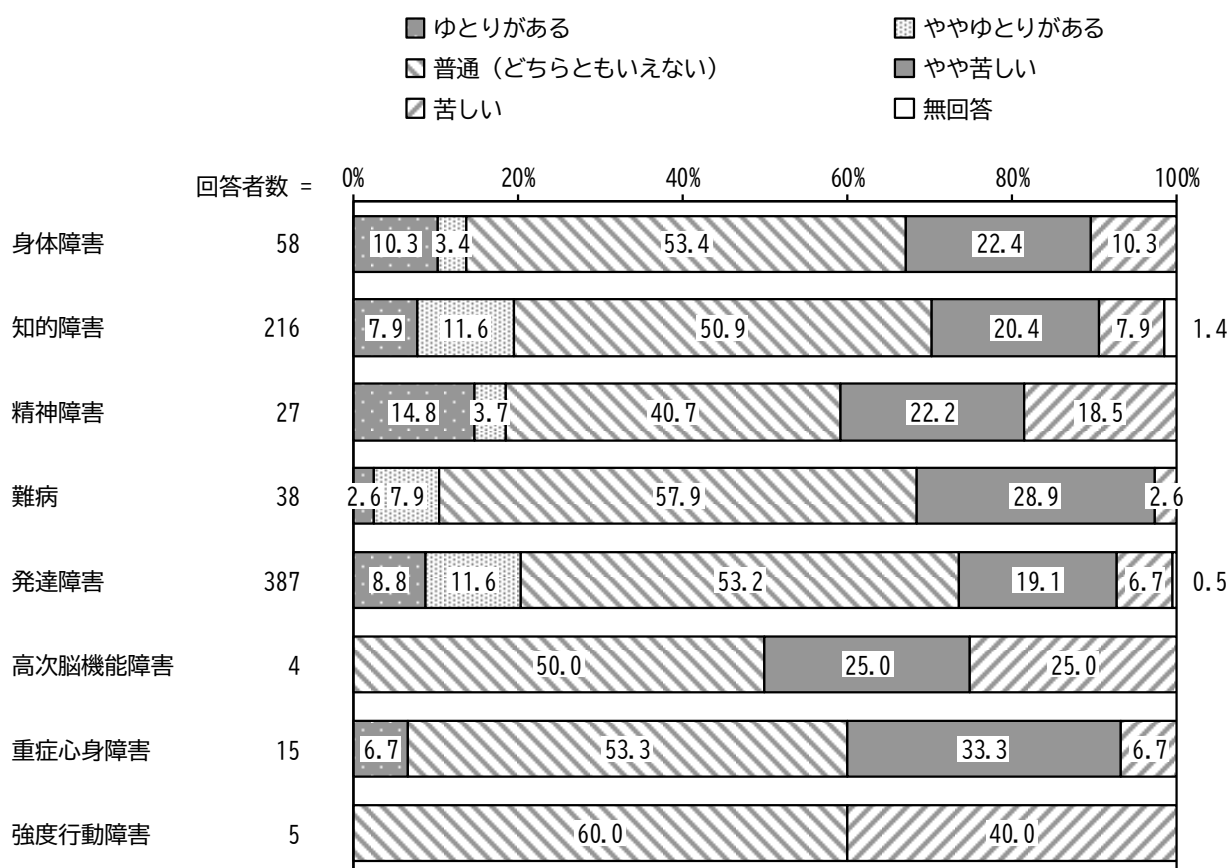
「ゆとりがある」「ややゆとりがある」を合わせた“ゆとりがある”の割合が20.4%、「やや苦しい」「苦しい」を合わせた“苦しい”の割合が27.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「普通（どちらともいえない）」の割合が増加しています。



【障害種別】

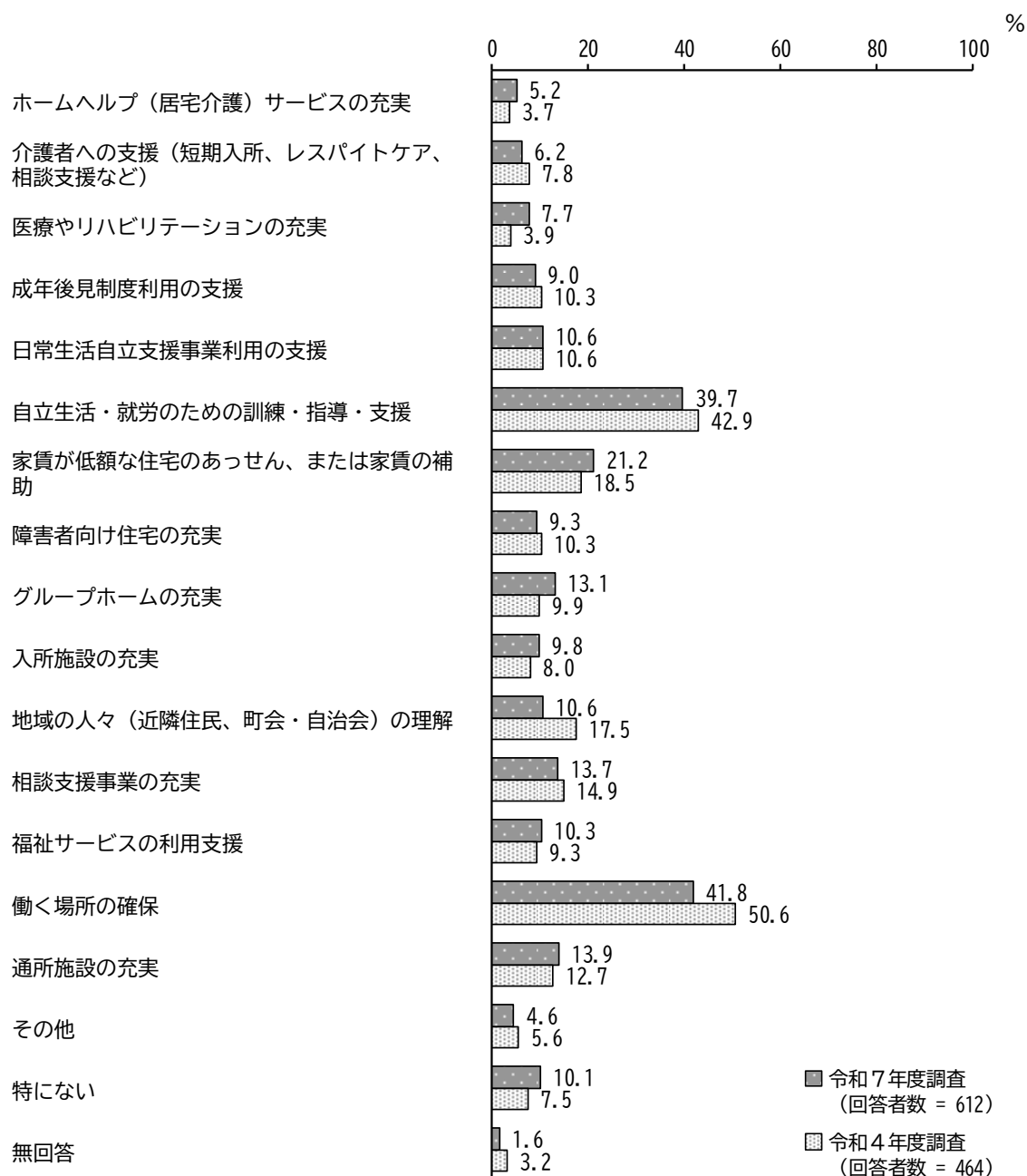
障害種別にみると、精神障害、重症心身障害で“苦しい”の割合が高くなっています。



問 25 お子様が将来、自立した生活を送ることができるようになるために必要なことは、何ですか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「働く場所の確保」の割合が 41.8%と最も高く、次いで「自立生活・就労のための訓練・指導・支援」の割合が 39.7%、「家賃が低額な住宅のあっせん、または家賃の補助」の割合が 21.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「地域の人々（近隣住民、町会・自治会）の理解」「働く場所の確保」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「ホームヘルプ（居宅介護）サービスの充実」「介護者への支援（短期入所、レスパイトケア、相談支援など）」「入所施設の充実」「通所施設の充実」、難病で「医療やリハビリテーションの充実」、精神障害で「家賃が低額な住宅のあっせん、または家賃の補助」、身体障害、重症心身障害で「障害者向け住宅の充実」、知的障害で「グループホームの充実」の割合が高くなっています。

単位：％

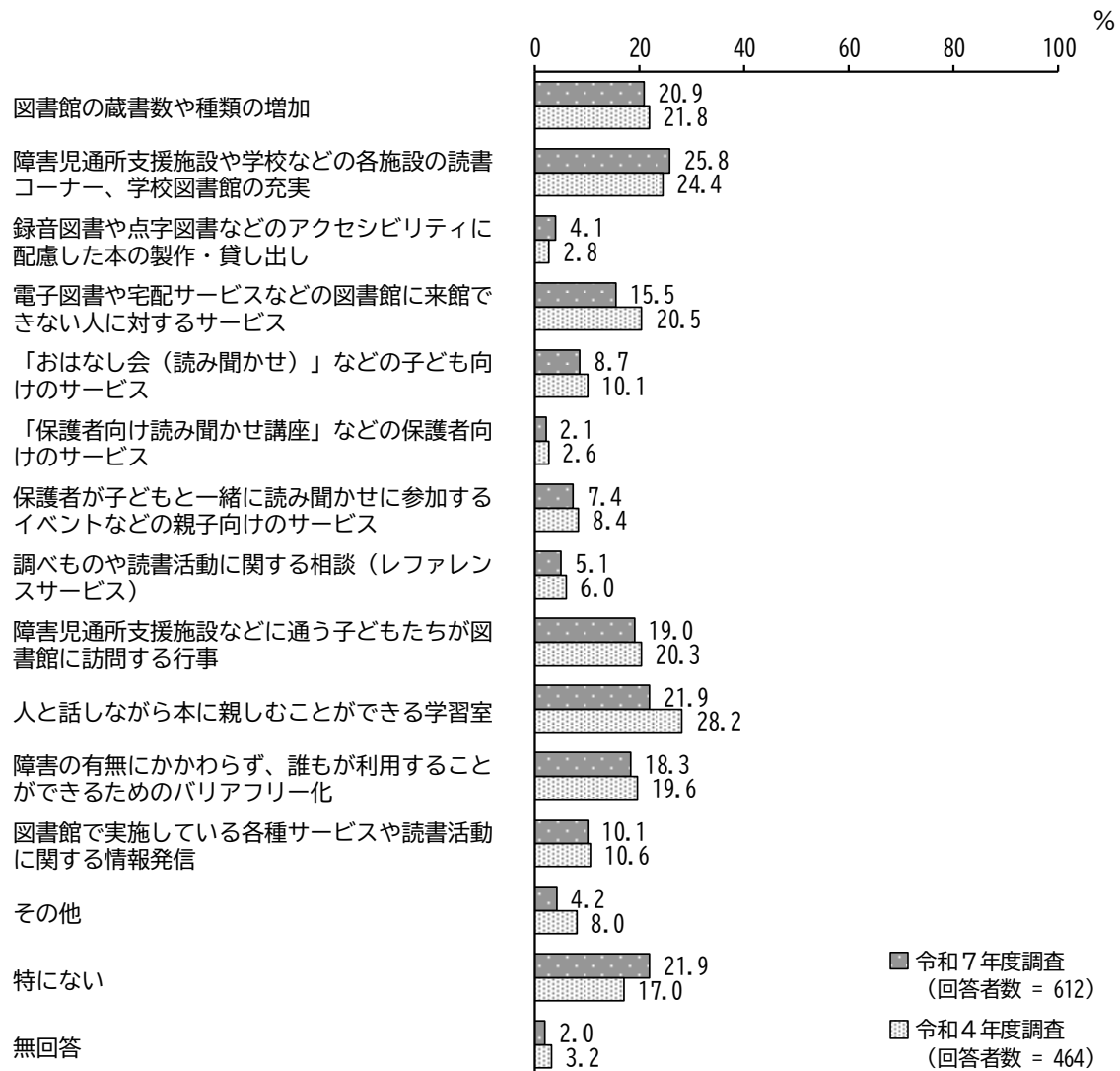
区分	回答者数（件）	実 ホームヘルプ（居宅 介護）サービスの充 実	実 介護者への支援（短 期入所、レスパイト ケア、相談支援など）	実 医療やリハビリテ ーションの充実	実 成年後見制度利用の 支援	実 日常生活自立支援事 業利用の支援	実 自立生活・就労のた めの訓練・指導・支援	実 家賃が低額な住宅の あっせん、または家 賃の補助	実 障害者向け住宅の充 実	実 グループホームの充 実
全 体	612	5.2	6.2	7.7	9.0	10.6	39.7	21.2	9.3	13.1
身体障害	58	13.8	20.7	13.8	5.2	5.2	22.4	15.5	24.1	15.5
知的障害	216	11.6	13.9	4.2	12.5	12.0	38.9	18.5	19.4	33.3
精神障害	27	7.4	18.5	3.7	14.8	3.7	48.1	33.3	22.2	22.2
難病	38	10.5	13.2	21.1	7.9	2.6	18.4	13.2	13.2	13.2
発達障害	387	2.8	4.9	6.7	9.0	11.6	46.3	22.7	6.2	8.0
高次脳機能障害	4	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	50.0
重症心身障害	15	26.7	33.3	13.3	6.7	0.0	6.7	6.7	26.7	13.3
強度行動障害	5	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	60.0

区分	入所施設の充実	地域の人々（近隣住 民、町会・自治会）の 理解	相談支援事業の充実	福祉サービスの利用 支援	働く場所の確保	通所施設の充実	その他	特 に な い	無 回 答
全 体	9.8	10.6	13.7	10.3	41.8	13.9	4.6	10.1	1.6
身体障害	31.0	15.5	3.4	12.1	31.0	27.6	6.9	0.0	1.7
知的障害	26.9	9.7	6.0	9.3	38.4	19.9	3.2	1.4	1.4
精神障害	14.8	11.1	11.1	0.0	33.3	14.8	7.4	7.4	0.0
難病	34.2	0.0	7.9	13.2	26.3	26.3	10.5	10.5	0.0
発達障害	6.7	11.1	17.1	11.4	44.2	11.4	4.7	10.1	1.0
高次脳機能障害	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	66.7	0.0	0.0	0.0	6.7	46.7	6.7	0.0	6.7
強度行動障害	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0

問 26 江東区立図書館では障害の有無にかかわらず、誰もが図書館を利用し、本に親しむことができるよう、様々なサービスを提供しています。以下のサービスのうち、より充実すべきものは何ですか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「障害児通所支援施設や学校などの各施設の読書コーナー、学校図書館の充実」の割合が 25.8%と最も高く、次いで「人と話しながら本に親しむことができる学習室」の割合が 21.9%、「図書館の蔵書数や種類の増加」の割合が 20.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「人と話しながら本に親しむことができる学習室」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「障害児通所支援施設や学校などの各施設の読書コーナー、学校図書館の充実」、精神障害、重症心身障害で「録音図書や点字図書などのアクセシビリティに配慮した本の製作・貸し出し」、身体障害、知的障害、重症心身障害で「障害児通所支援施設などに通う子どもたちが図書館に訪問する行事」、身体障害、難病で「障害の有無にかかわらず、誰もが利用することができるためのバリアフリー化」、身体障害で「図書館で実施している各種サービスや読書活動に関する情報発信」の割合が高くなっています。

単位：％

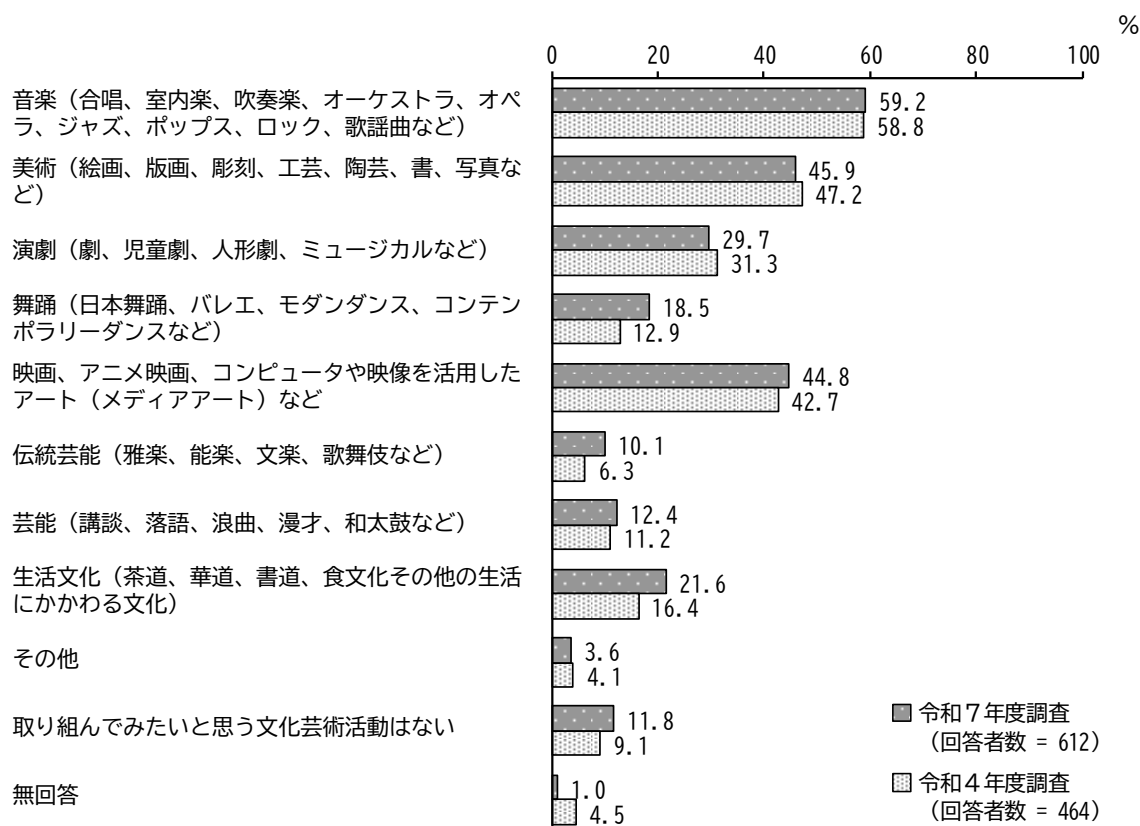
区分	回答者数（件）	図書館の蔵書数や種類の増加	障害児通所支援施設や学校などの各施設の読書コーナー、学校図書館の充実	録音図書や点字図書などのアクセシビリティに配慮した本の製作・貸し出し	電子図書や宅配サービスなどの図書館に来館できない人に対するサービス	「おはなし会（読み聞かせ）」などの子ども向けのサービス	「保護者向け読み聞かせ講座」などの保護者向けのサービス	保護者が子どもと一緒に読み聞かせに参加するイベントなどの親子向けのサービス
全 体	612	20.9	25.8	4.1	15.5	8.7	2.1	7.4
身体障害	58	12.1	24.1	6.9	17.2	6.9	0.0	6.9
知的障害	216	15.3	30.6	3.7	12.5	3.7	0.5	5.1
精神障害	27	14.8	29.6	14.8	14.8	3.7	0.0	3.7
難病	38	10.5	28.9	10.5	18.4	0.0	0.0	0.0
発達障害	387	21.7	26.9	3.9	16.3	8.5	3.4	8.5
高次脳機能障害	4	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	6.7	33.3	13.3	20.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	5	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	調べものや読書活動に関する相談（レファレンスサービス）	障害児通所支援施設などに通う子どもたちが図書館に訪問する行事	人と話しながら本に親しむことが出来る学習室	障害の有無にかかわらず、誰もが利用することができるためのバリアフリー化	図書館で実施している各種サービスや読書活動に関する情報発信	その他	特になし	無回答
全 体	5.1	19.0	21.9	18.3	10.1	4.2	21.9	2.0
身体障害	0.0	32.8	12.1	25.9	17.2	5.2	17.2	0.0
知的障害	2.8	30.6	20.4	21.3	8.3	5.1	22.2	0.9
精神障害	3.7	25.9	18.5	18.5	11.1	7.4	25.9	0.0
難病	5.3	21.1	13.2	26.3	10.5	7.9	26.3	0.0
発達障害	5.7	17.8	24.8	15.8	9.0	4.4	20.4	2.3
高次脳機能障害	0.0	25.0	25.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0
重症心身障害	0.0	33.3	6.7	13.3	6.7	0.0	26.7	0.0
強度行動障害	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0

問 27 お子様に取り組んでみたい（参加したい、鑑賞したい、体験したい）と思う文化芸術活動は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「音楽（合唱、室内楽、吹奏楽、オーケストラ、オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）」の割合が 45.9%、「映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など」の割合が 44.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「舞踊（日本舞踊、バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど）」「生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活にかかわる文化）」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「音楽（合唱、室内楽、吹奏楽、オーケストラ、オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）」「演劇（劇、児童劇、人形劇、ミュージカルなど）」、難病で「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）」の割合が高くなっています。

単位：％

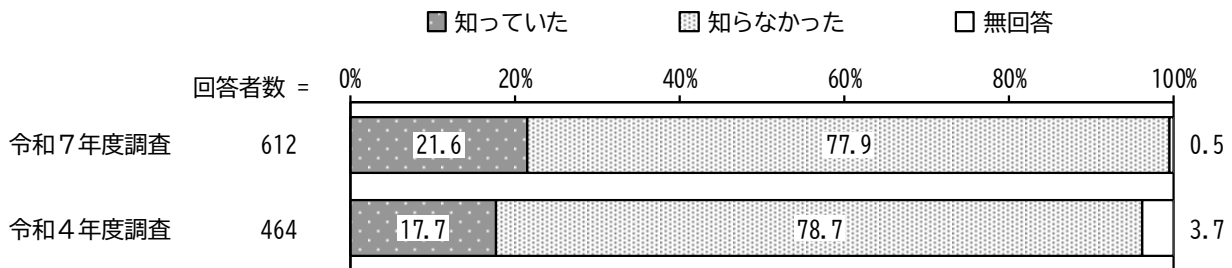
区分	回答者数 (件)	音楽（合唱、室内楽、吹奏楽、オーケストラ、オペラ、ジャズ、ポップス、ロック、歌謡曲など）	美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）	演劇（劇、児童劇、人形劇、ミュージカルなど）	舞踊（日本舞踊、バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンスなど）	映画、アニメ映画、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など
全 体	612	59.2	45.9	29.7	18.5	44.8
身体障害	58	70.7	46.6	32.8	17.2	34.5
知的障害	216	62.5	44.9	25.0	21.3	38.9
精神障害	27	59.3	44.4	22.2	11.1	44.4
難病	38	68.4	55.3	34.2	15.8	36.8
発達障害	387	58.4	47.3	30.7	18.9	48.6
高次脳機能障害	4	50.0	25.0	25.0	0.0	50.0
重症心身障害	15	80.0	40.0	40.0	20.0	33.3
強度行動障害	5	80.0	60.0	60.0	20.0	40.0

区分	伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎など）	芸能（講談、落語、漫才、和太鼓など）	生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活にかかわる文化）	その他	取り組んでみたいと思う文化芸術活動はない	無回答
全 体	10.1	12.4	21.6	3.6	11.8	1.0
身体障害	6.9	8.6	17.2	5.2	8.6	0.0
知的障害	11.1	13.0	17.6	4.6	11.1	0.9
精神障害	3.7	14.8	11.1	3.7	14.8	0.0
難病	7.9	7.9	13.2	2.6	7.9	2.6
発達障害	11.1	13.2	23.3	3.4	11.6	0.5
高次脳機能障害	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	13.3	13.3	6.7	0.0	6.7	0.0
強度行動障害	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0

(7) 災害時の支援について

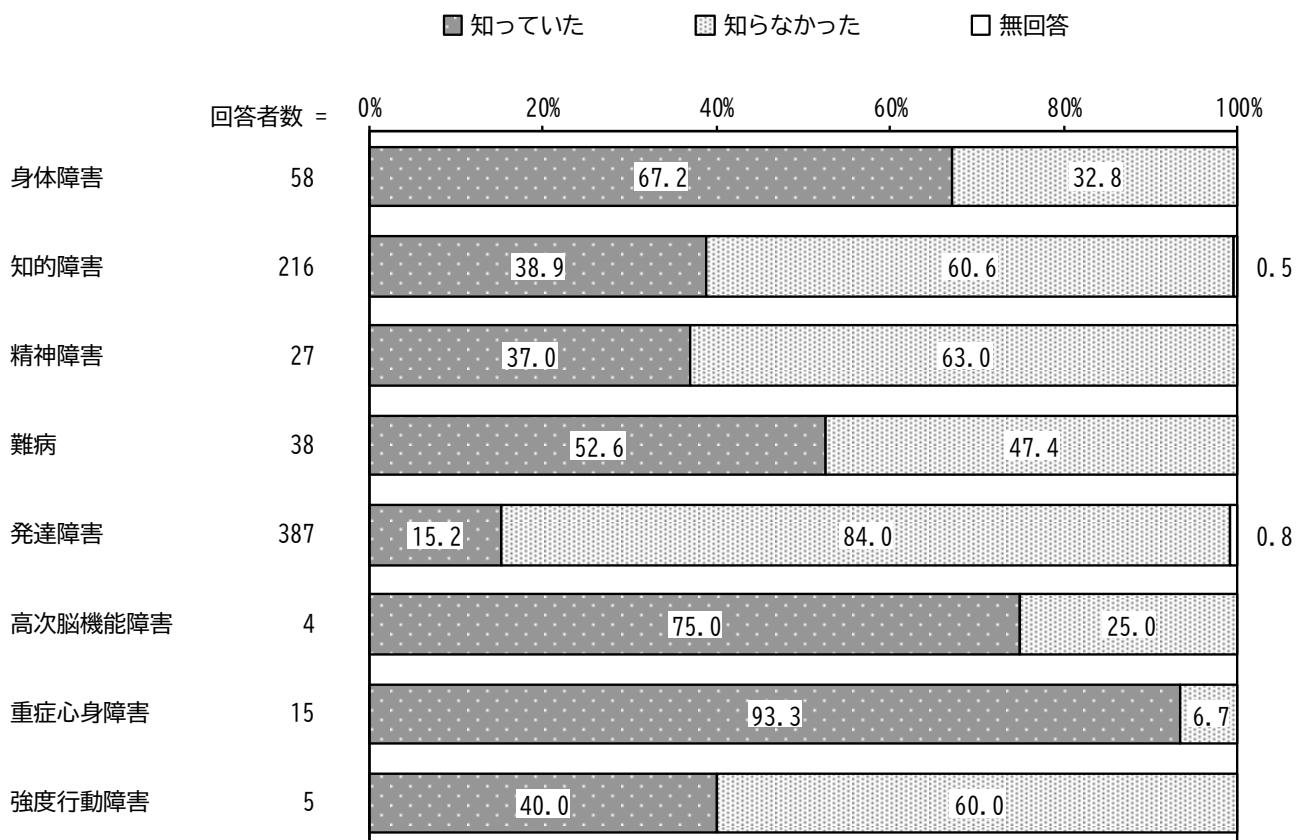
問 28 区では、災害が起きた時に避難することが難しい方、希望する方の情報を掲載した「避難行動要支援者名簿」を作成し、区役所や消防署、警察などで共有して災害時に役立てることとしています。この名簿について知っていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「知っていた」の割合が21.6%、「知らなかった」の割合が77.9%となっています。



【障害種別】

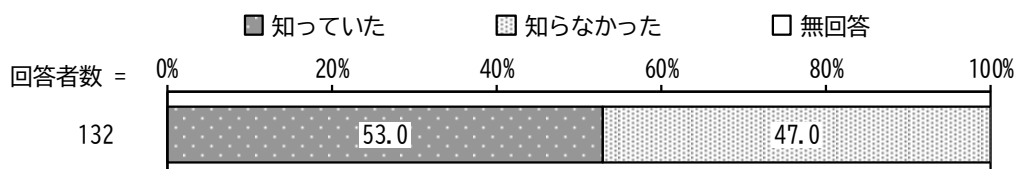
障害種別にみると、重症心身障害で「知っていた」の割合が高くなっています。



問 28 で「知っていた」に○をつけた方にうかがいます。

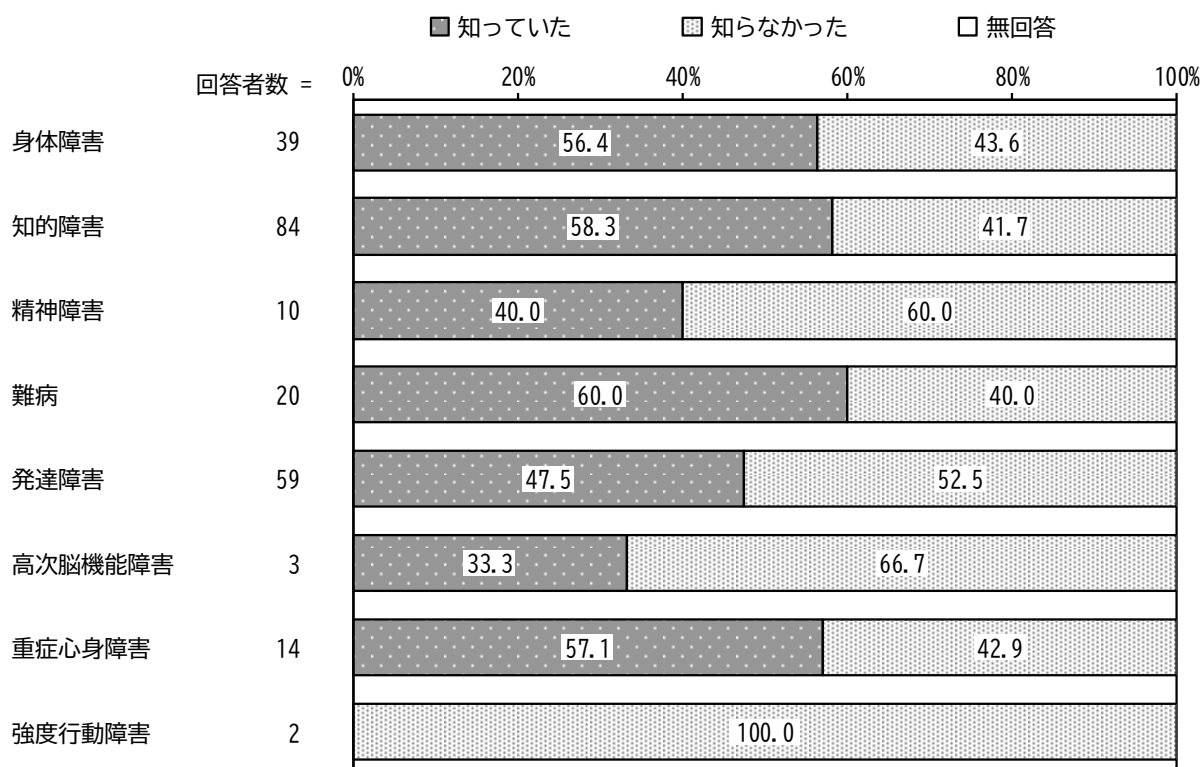
問 28－1 「避難行動要支援者名簿」に掲載された方は、地域の災害協力隊や福祉専門職（相談支援専門員等）から訪問や調査を経て、個々の状況に応じた避難方法や支援を計画する「個別避難計画」を作成してもらい、拠点避難所に名簿と計画（写）を設置します。「個別避難計画」について知っていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「知っていた」の割合が 53.0%、「知らなかった」の割合が 47.0%となっています。



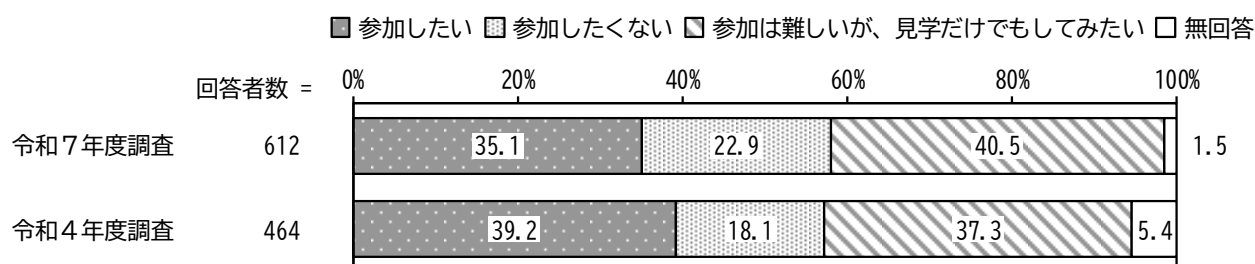
【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で「知らなかった」の割合が高くなっています。



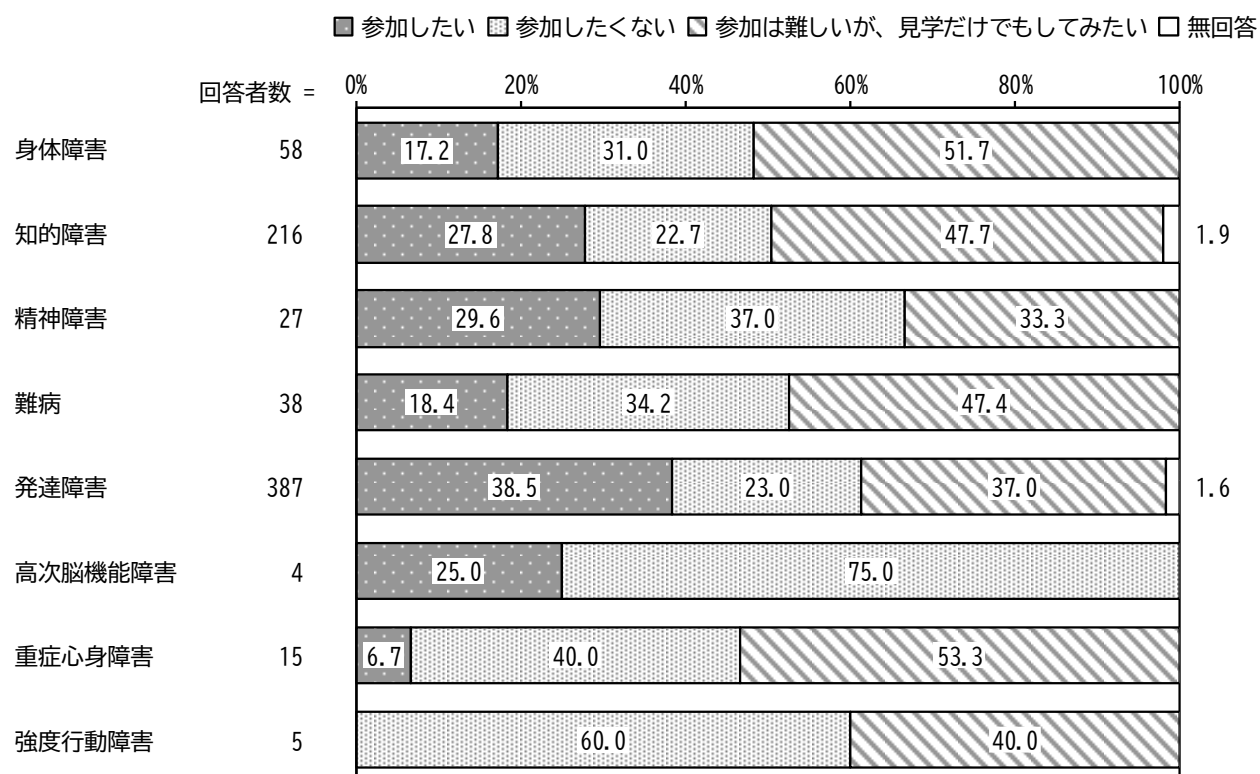
問 29 地域（町会・自治会）の防災訓練に参加してみたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「参加したい」の割合が 35.1%、「参加したくない」の割合が 22.9%、「参加は難しいが、見学だけでもしてみたい」の割合が 40.5%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「参加したくない」、身体障害、重症心身障害で「参加は難しいが、見学だけでもしてみたい」の割合が高くなっています。



問 29 で「参加したくない」に○をつけた方にうかがいます。

問 29－1 参加したくないと思われる理由を記入してください。

- ・時間的余裕がない（多忙・休日は休みたい等）について(24 件)
時間がとれないのと、地域との関わり合いがないため。
- ・人間関係・近所付き合いの煩わしさ・不慣れについて(17 件)
知らない人の中に入るのが苦手なので。
- ・周囲の目・偏見・迷惑をかける懸念について(13 件)
近所の方に障がい児をかかえていることを知られたくないため。
- ・子どもの場所や人混み・音への苦手意識・拒否について(13 件)
大勢の人がいる場所が苦手で逃げる。
- ・子どもを連れて行くことの物理的・心理的負担について(12 件)
子どもを連れて参加するのが難しいから。
- ・障害への理解・配慮の不足への不安について(11 件)
障害の息子を理解してくれるか不安です。
- ・仕事・日程の都合・スケジュールの不一致について(11 件)
日程の調整がむずかしい。
- ・町内会・自治会への不満・非加入・トラブルについて(11 件)
普通の人こそ参加していない。お年寄りしかいないと思う。
- ・子どもの特性（多動・パニック・声出し等）による参加困難について(10 件)
子供が落ち着かないから
- ・参加自体が面倒・億劫であることについて(10 件)
面倒だから
- ・マンションや学校・施設等で既に訓練を実施しているについて(8 件)
学校や放課後デイサービスで参加しているから
- ・参加のハードルが高い（漠然とした困難さ・自信がない等）について(6 件)
屋外活動は難しい

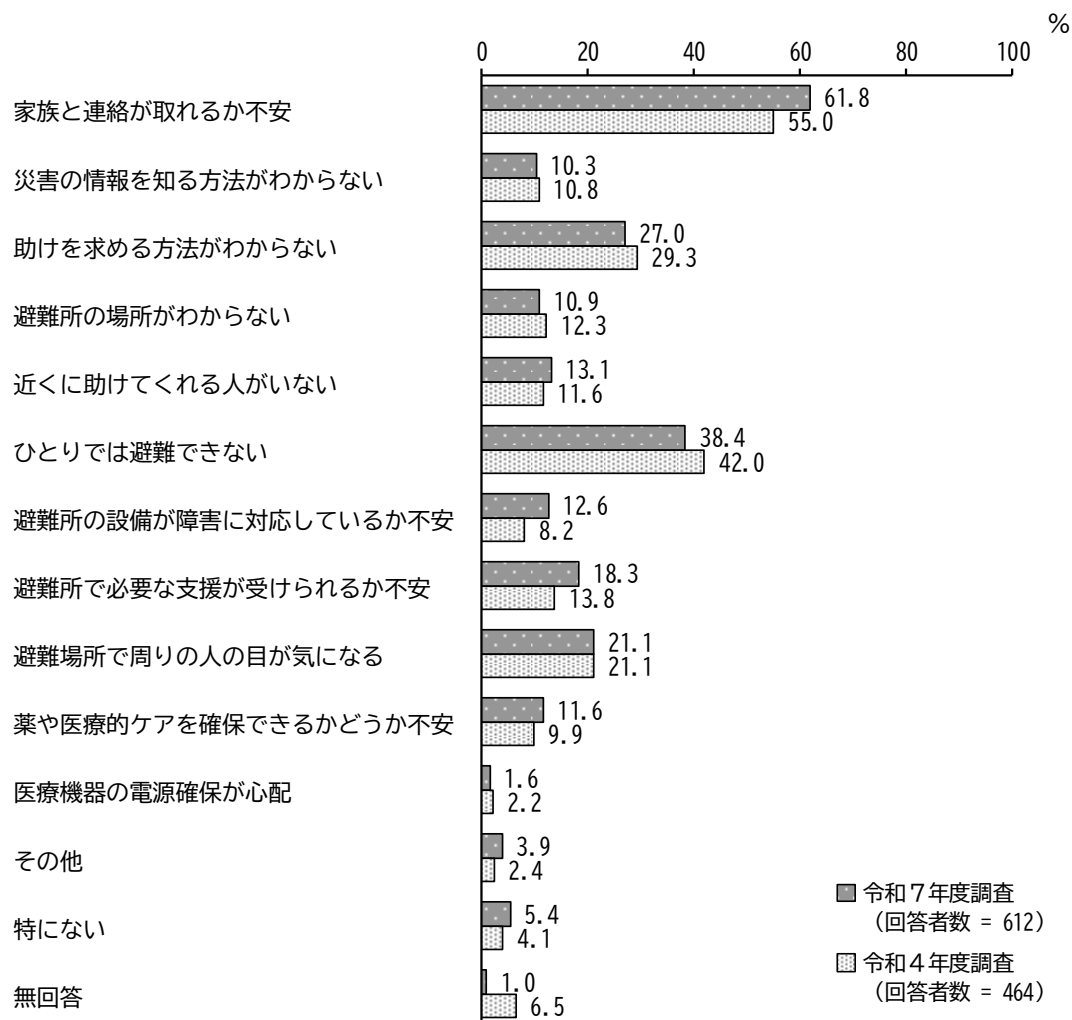
なお、以下の項目についてもご意見をいただいております。

- ・訓練内容が障害者向けでない・意味がないことについて(4 件)
- ・家庭内で既に対策済み・防災意識が足りているについて(3 件)
- ・訓練の詳細・日時・参加方法が不明であるについて(3 件)
- ・きょうだいや他家族の世話・事情について(3 件)
- ・医療的ケアや重度障害等の深刻なハードルについて(3 件)
- ・健常者との合同訓練への抵抗感・障害者専用の希望について(3 件)
- ・その他について(7 件)

問 30 お子様に関して、地震などの災害が発生した時に困ることや不安なことは何ですか。
あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「家族と連絡が取れるか不安」の割合が 61.8%と最も高く、次いで「ひとりでは避難できない」の割合が 38.4%、「助けを求める方法がわからない」の割合が 27.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「家族と連絡が取れるか不安」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、知的障害、重症心身障害で「ひとりでは避難できない」、重症心身障害で「避難所の設備が障害に対応しているか不安」「避難場所で周りの人の目が気になる」「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」「医療機器の電源確保が心配」の割合が高くなっています。

単位：％

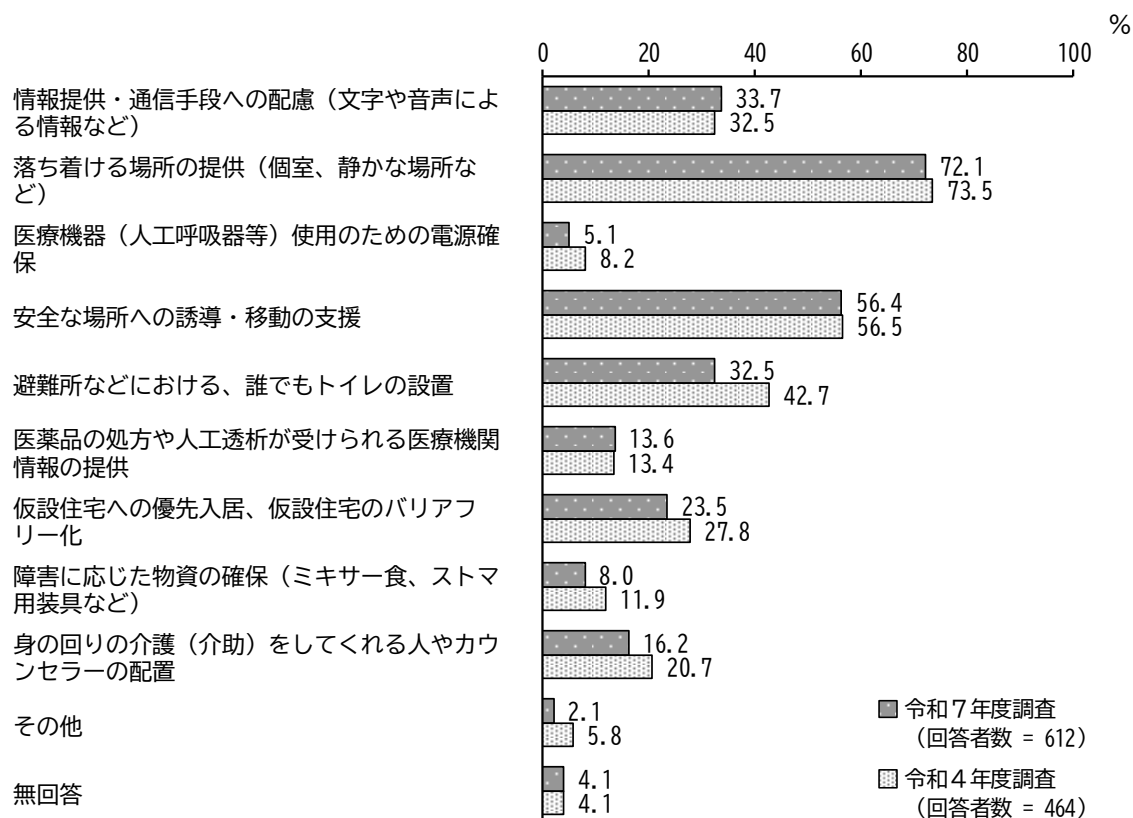
区分	回答者数 (件)	家族と連絡が 取れるか不安	災害の情報を知 る方法がわから ない	助けを求める方 法がわからない	避難所の場所が わからない	近くに助けてく れる人がいない	ひとりでは避難 できない	避難所の設備が障 害に対応している か不安
全 体	612	61.8	10.3	27.0	10.9	13.1	38.4	12.6
身体障害	58	39.7	6.9	24.1	12.1	15.5	50.0	25.9
知的障害	216	48.1	6.0	32.9	8.8	14.4	54.6	22.7
精神障害	27	44.4	0.0	33.3	3.7	22.2	40.7	22.2
難病	38	39.5	2.6	18.4	2.6	13.2	39.5	23.7
発達障害	387	64.6	11.4	28.9	10.3	10.9	33.9	10.3
高次脳機能障害	4	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	100.0	50.0
重症心身障害	15	6.7	0.0	13.3	0.0	6.7	53.3	46.7
強度行動障害	5	20.0	0.0	40.0	0.0	20.0	80.0	20.0

区分	避難所で必要な支 援が受けられるか 不安	避難場所で周りの 人の目が気になる	薬や医療的ケアを 確保できるかどうか 不安	医療機器の電源確 保が心配	その他	特にな い	無回 答
全 体	18.3	21.1	11.6	1.6	3.9	5.4	1.0
身体障害	22.4	25.9	25.9	10.3	3.4	1.7	1.7
知的障害	25.5	33.3	14.4	2.3	3.7	1.9	0.9
精神障害	22.2	33.3	33.3	3.7	7.4	0.0	0.0
難病	21.1	21.1	47.4	13.2	2.6	0.0	2.6
発達障害	17.1	19.9	10.1	1.0	4.7	6.5	1.0
高次脳機能障害	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	26.7	53.3	53.3	26.7	0.0	0.0	0.0
強度行動障害	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0

問 31 災害時には、どのような支援が必要ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「落ち着ける場所の提供（個室、静かな場所など）」の割合が 72.1%と最も高く、次いで「安全な場所への誘導・移動の支援」の割合が 56.4%、「情報提供・通信手段への配慮（文字や音声による情報など）」の割合が 33.7%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「避難所などにおける、誰でもトイレの設置」の割合が減少しています。



【障害種別】

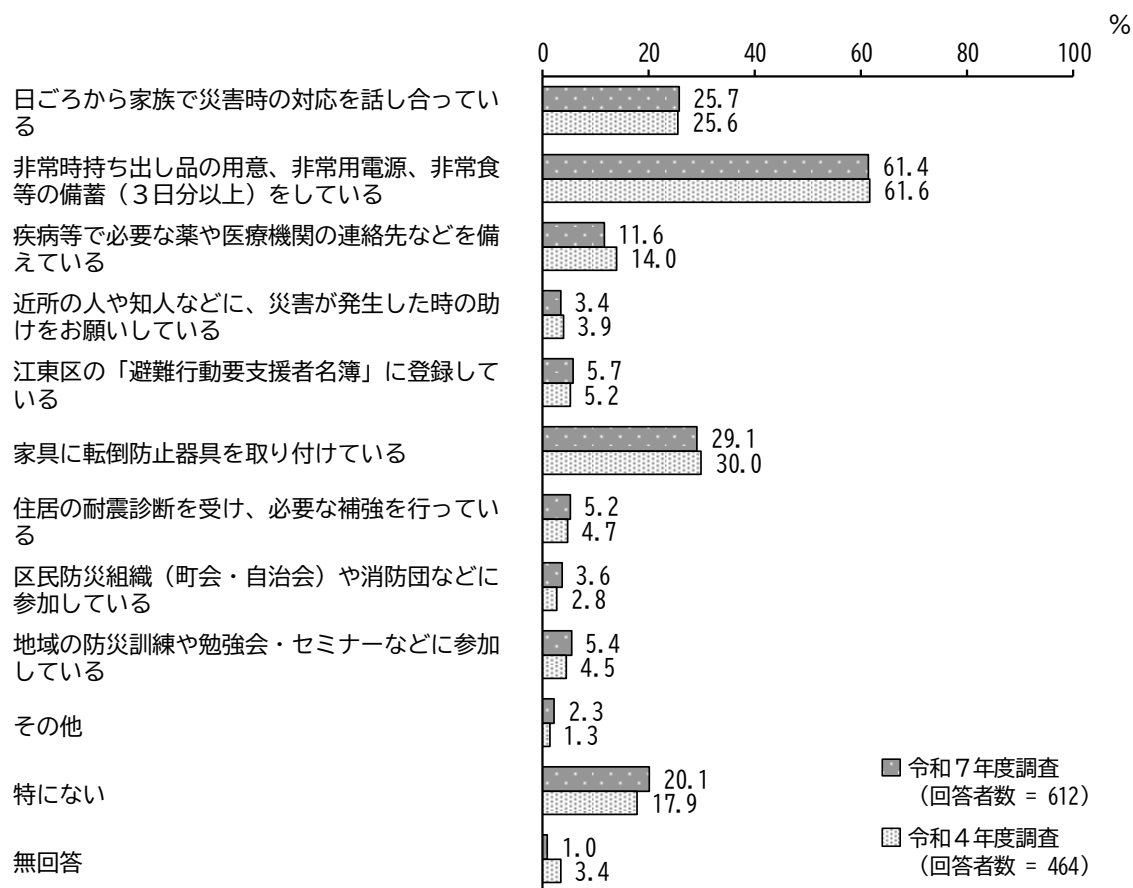
障害種別にみると、重症心身障害で「落ち着ける場所の提供（個室、静かな場所など）」「医療機器（人工呼吸器等）使用のための電源確保」「安全な場所への誘導・移動の支援」「医薬品の処方や人工透析が受けられる医療機関情報の提供」「仮設住宅への優先入居、仮設住宅のバリアフリー化」「障害に応じた物資の確保（ミキサー食、ストマ用装具など）」、知的障害で「避難所などにおける、誰でもトイレの設置」、身体障害、知的障害、難病で「身の回りの介護（介助）をしてくれる人やカウンセラーの配置」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	情報提供・通信手段への配慮（文字や音声による情報など）	落ち着ける場所の提供（個室、静かな場所など）	医療機器（人工呼吸器等）使用のための電源確保	安全な場所への誘導・移動の支援	避難所などにおける、誰でもトイレの設置	医薬品の処方や人工透析が受けられる医療機関情報の提供	仮設住宅への優先入居、仮設住宅のバリアフリー化	障害に応じた物資の確保（ミキサー食、ストマ用装具など）	身の回りの介護（介助）をしてくれる人やカウンセラーの配置	その他	無回答
全 体	612	33.7	72.1	5.1	56.4	32.5	13.6	23.5	8.0	16.2	2.1	4.1
身体障害	58	32.8	62.1	15.5	58.6	32.8	29.3	34.5	27.6	31.0	0.0	1.7
知的障害	216	26.9	77.8	6.0	59.7	44.0	15.7	31.9	14.4	28.2	2.3	1.4
精神障害	27	29.6	81.5	11.1	33.3	37.0	25.9	29.6	18.5	18.5	3.7	0.0
難病	38	7.9	60.5	15.8	50.0	31.6	47.4	26.3	34.2	28.9	2.6	2.6
発達障害	387	37.0	73.9	4.1	56.3	30.7	11.1	21.2	6.2	12.4	2.1	4.1
高次脳機能障害	4	0.0	100.0	0.0	25.0	25.0	50.0	50.0	0.0	75.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	13.3	86.7	26.7	66.7	26.7	53.3	53.3	53.3	26.7	0.0	0.0
強度行動障害	5	20.0	100.0	40.0	60.0	80.0	20.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0

問 32 災害に対してどのような備えをしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「非常時持ち出し品の用意、非常用電源、非常食等の備蓄（3日分以上）をしている」の割合が 61.4%と最も高く、次いで「家具に転倒防止器具を取り付けている」の割合が 29.1%、「日ごろから家族で災害時の対応を話し合っている」の割合が 25.7%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「非常時持ち出し品の用意、非常用電源、非常食等の備蓄（3日以上）をしている」「疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」「江東区の「避難行動要支援者名簿」に登録している」「住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている」の割合が高くなっています。

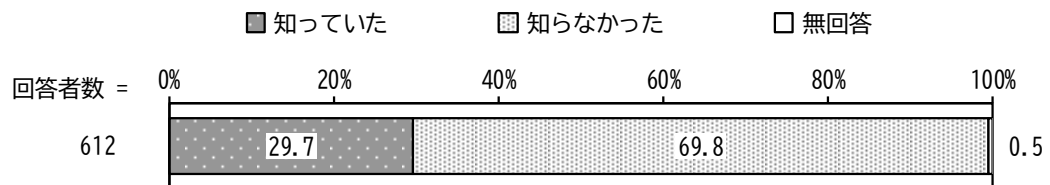
単位：％

区分	回答者数（件）	日ごろから家族で災害時の対応を話し合っている	非常時持ち出し品の用意、非常用電源、非常食等の備蓄（3日以上）をしている	疾病等で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている	近所の人や知人などに、災害が発生した時の助けをお願いしている	江東区の「避難行動要支援者名簿」に登録している	家具に転倒防止器具を取り付けている	住居の耐震診断を受け、必要な補強を行っている	区民防災組織（町会・自治会）や消防団などに参加している	地域の防災訓練や勉強会・セミナーなどに参加している	その他	特にない	無回答
全 体	612	25.7	61.4	11.6	3.4	5.7	29.1	5.2	3.6	5.4	2.3	20.1	1.0
身体障害	58	20.7	63.8	29.3	6.9	32.8	29.3	8.6	0.0	1.7	3.4	15.5	0.0
知的障害	216	26.9	63.9	15.7	4.2	12.5	29.2	6.5	1.9	6.5	3.7	15.3	0.9
精神障害	27	11.1	59.3	22.2	7.4	3.7	18.5	0.0	7.4	7.4	3.7	29.6	3.7
難病	38	21.1	73.7	50.0	0.0	26.3	31.6	7.9	2.6	7.9	5.3	13.2	0.0
発達障害	387	26.1	62.8	9.8	3.1	2.6	29.2	4.9	4.7	5.2	2.6	20.9	1.0
高次脳機能障害	4	0.0	100.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	26.7	80.0	60.0	6.7	53.3	33.3	20.0	0.0	0.0	13.3	6.7	0.0
強度行動障害	5	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0

(8) 障害者施策について

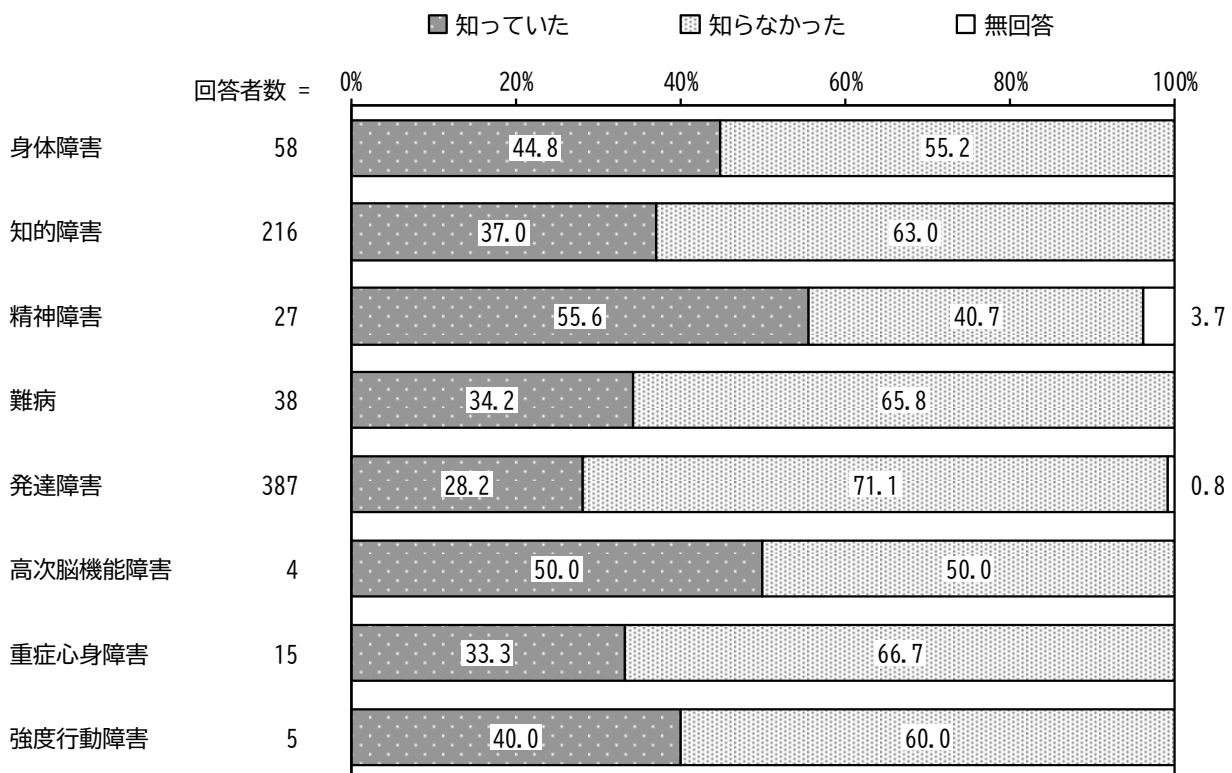
問 33 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が改正され、令和6年4月から事業者による障害者への合理的配慮の提供が義務となりました。このことを知っていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「知っていた」の割合が29.7%、「知らなかった」の割合が69.8%となっています。



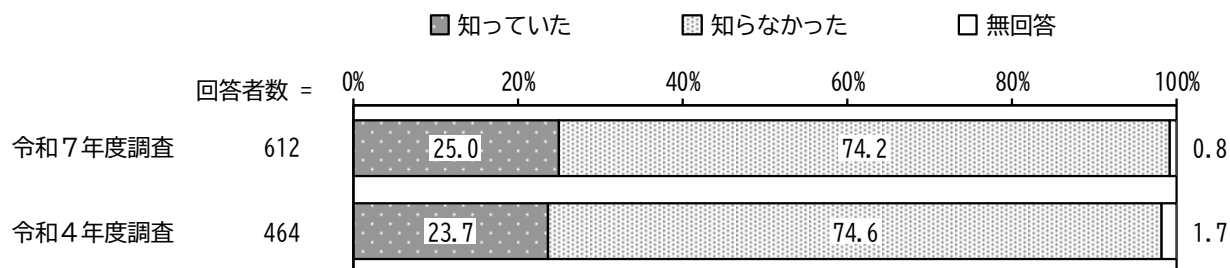
【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で「知っていた」の割合が高くなっています。



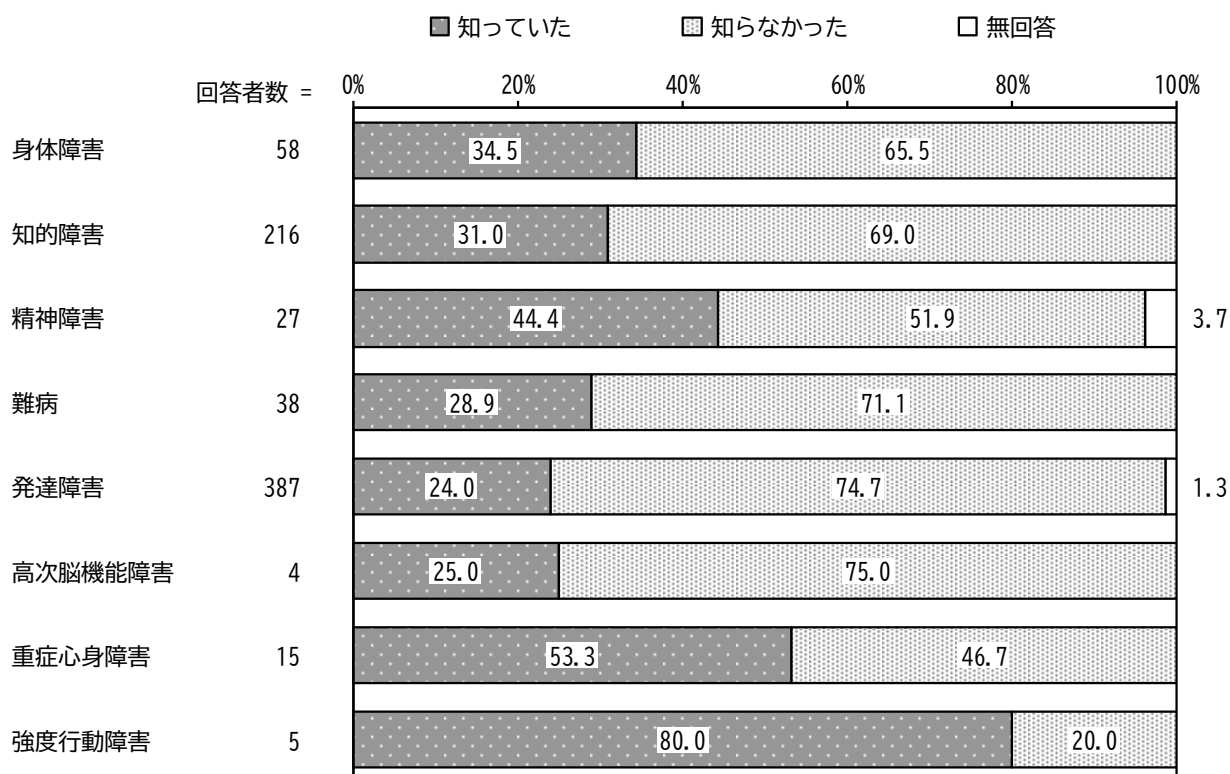
問 34 区では、「障害者虐待防止センター」を障害者支援課の中に設置し、虐待の通報受付や、虐待防止のための相談などを行っています。このことを知っていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「知っていた」の割合が25.0%、「知らなかった」の割合が74.2%となっています。



【障害種別】

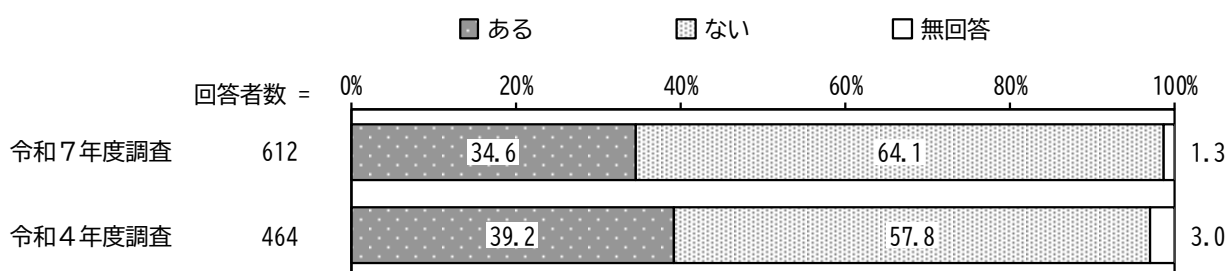
障害種別にみると、重症心身障害で「知っていた」の割合が高くなっています。



問 35 これまでに差別をされたと感じた経験はありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

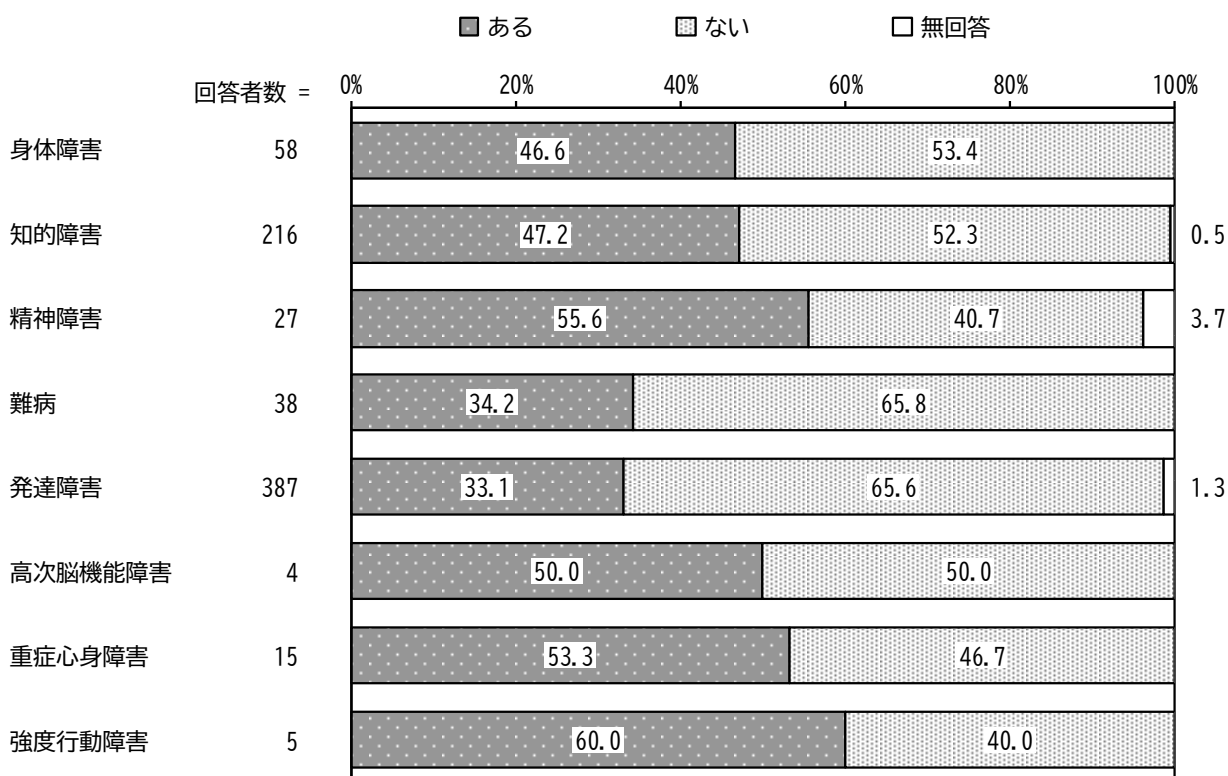
「ある」の割合が34.6%、「ない」の割合が64.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「ない」の割合が増加しています。



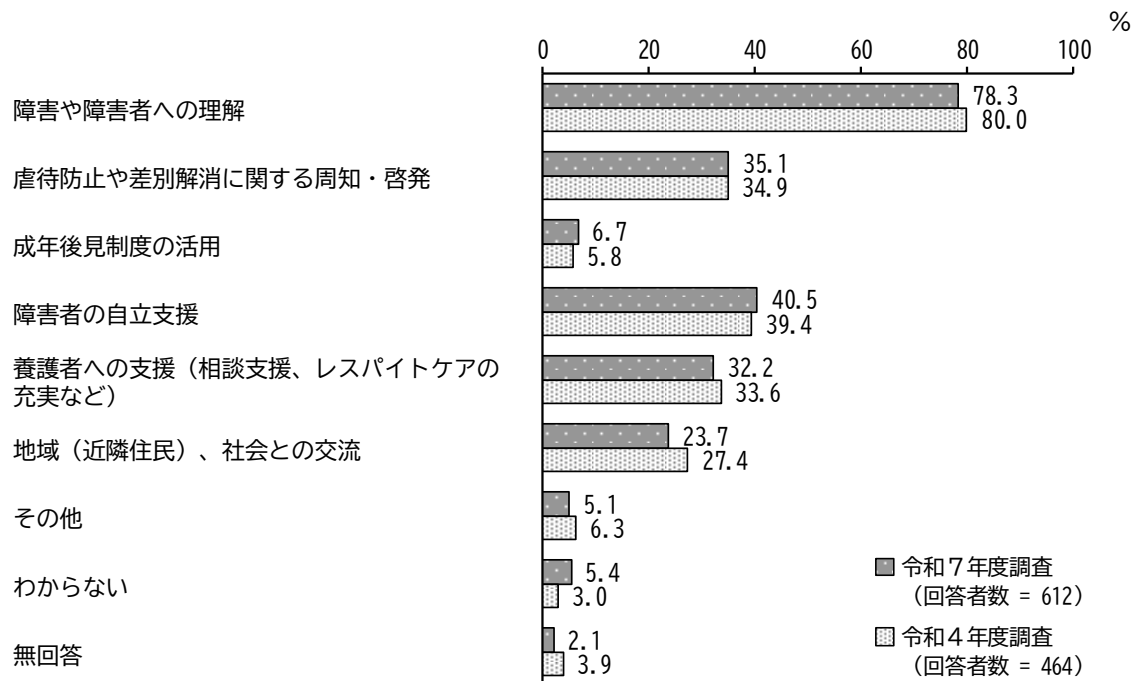
【障害種別】

障害種別にみると、精神障害、重症心身障害で「ある」の割合が高くなっています。



問 36 障害者への虐待や差別を防ぐには、何が必要だと思いますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「障害や障害者への理解」の割合が78.3%と最も高く、次いで「障害者の自立支援」の割合が40.5%、「虐待防止や差別解消に関する周知・啓発」の割合が35.1%となっています。



【障害種別】

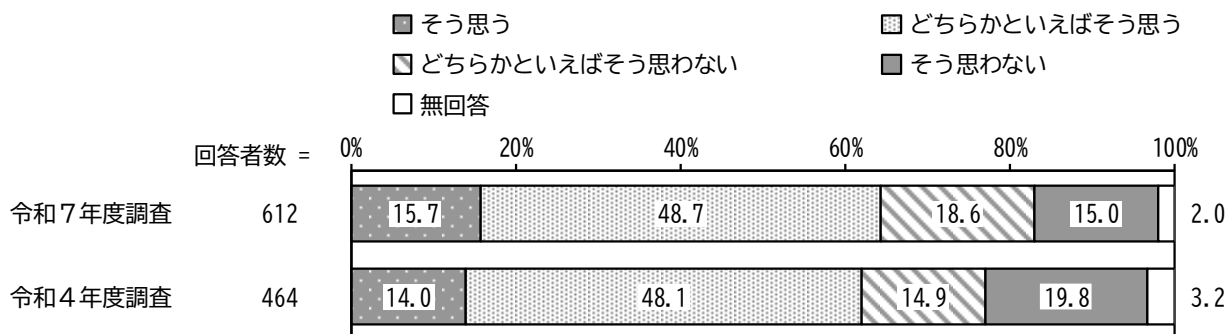
障害種別にみると、精神障害で「障害や障害者への理解」「虐待防止や差別解消に関する周知・啓発」、重症心身障害で「養護者への支援（相談支援、レスパイトケアの充実など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	障害や障害者への理解	虐待防止や差別解消に関する周知・啓発	成年後見制度の活用	障害者の自立支援	養護者への支援（相談支援、レスパイトケアの充実など）	地域（近隣住民）、社会との交流	その他	わからない	無回答
全 体	612	78.3	35.1	6.7	40.5	32.2	23.7	5.1	5.4	2.1
身体障害	58	81.0	37.9	3.4	20.7	43.1	22.4	6.9	1.7	0.0
知的障害	216	81.5	38.9	9.3	43.5	38.4	25.0	6.0	2.8	0.0
精神障害	27	88.9	63.0	7.4	25.9	37.0	25.9	7.4	0.0	3.7
難病	38	76.3	39.5	5.3	7.9	47.4	13.2	7.9	5.3	0.0
発達障害	387	76.7	33.6	7.0	42.4	29.7	22.0	5.9	6.5	2.6
高次脳機能障害	4	100.0	75.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	80.0	40.0	6.7	13.3	53.3	0.0	13.3	6.7	0.0
強度行動障害	5	80.0	60.0	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0

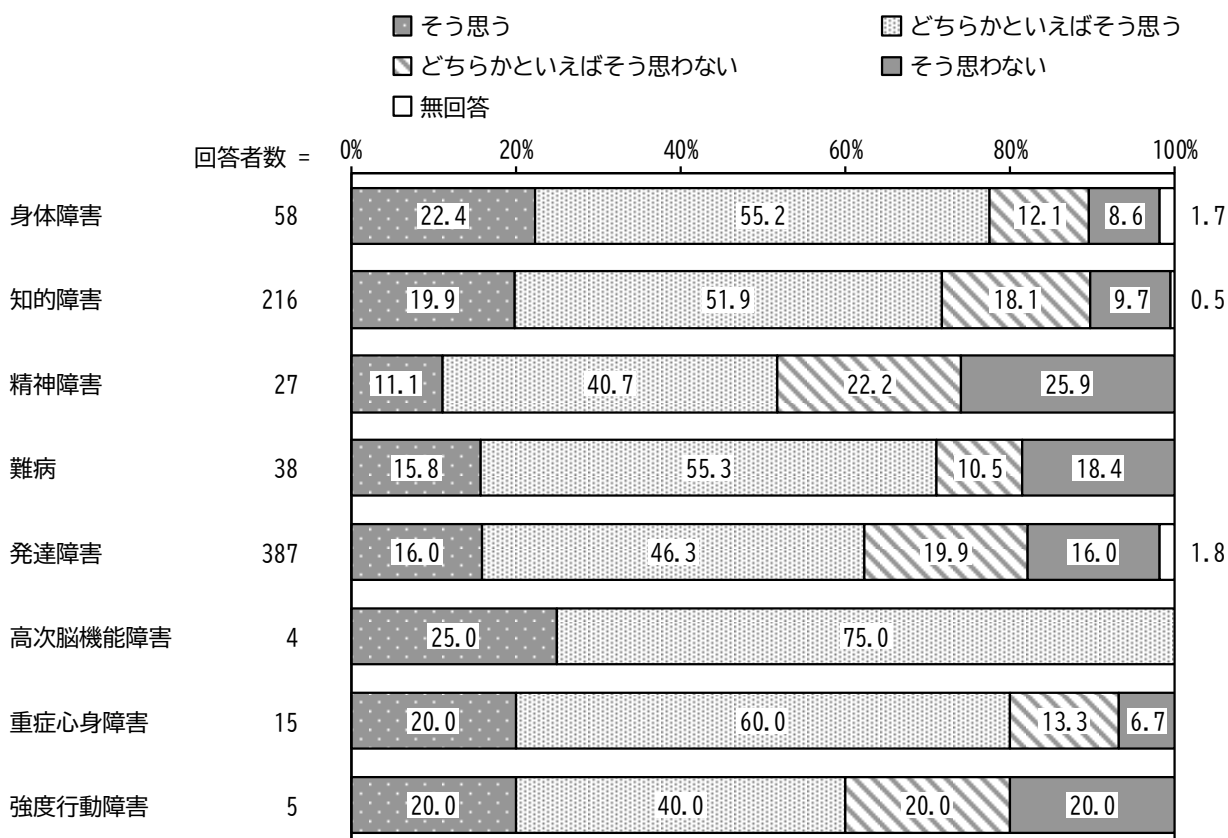
問 37 あなたは、日常生活の中で周囲から配慮されていると思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が 64.4%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が 33.6%となっています。



【障害種別】

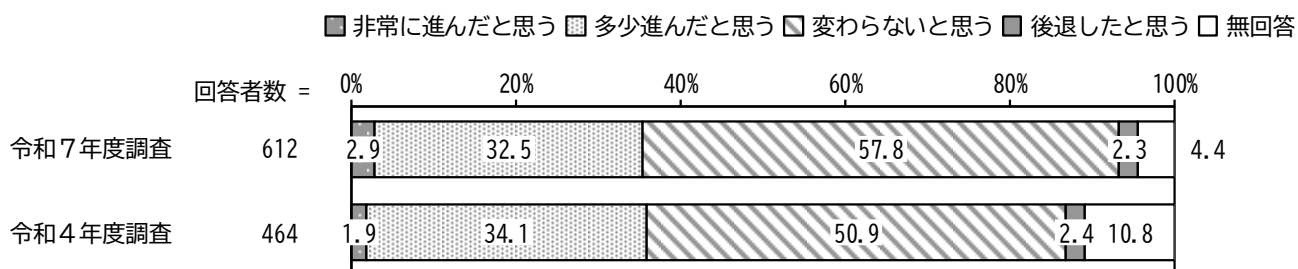
障害種別にみると、身体障害、重症心身障害で“そう思う”、精神障害で“そう思わない”の割合が高くなっています。



問 38 令和4年ごろ（3年ほど前）と比べて、江東区の障害者施策は充実したと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

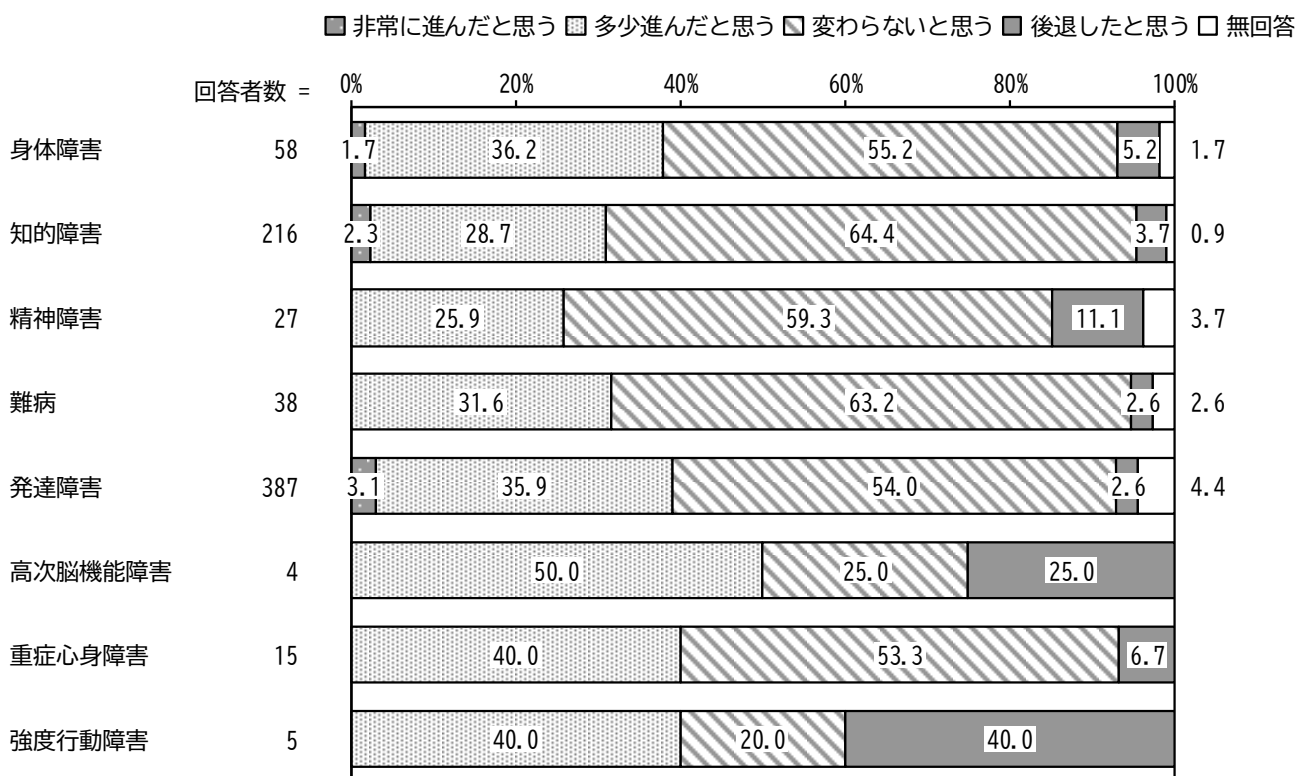
「変わらないと思う」の割合が57.8%と最も高く、次いで「多少進んだと思う」の割合が32.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「変わらないと思う」の割合が増加しています。



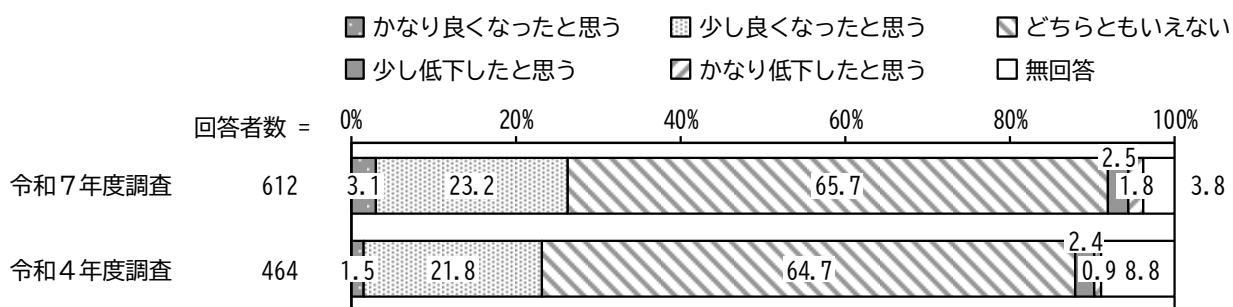
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「多少進んだと思う」、知的障害、難病で「変わらないと思う」、精神障害で「後退したと思う」の割合が高くなっています。



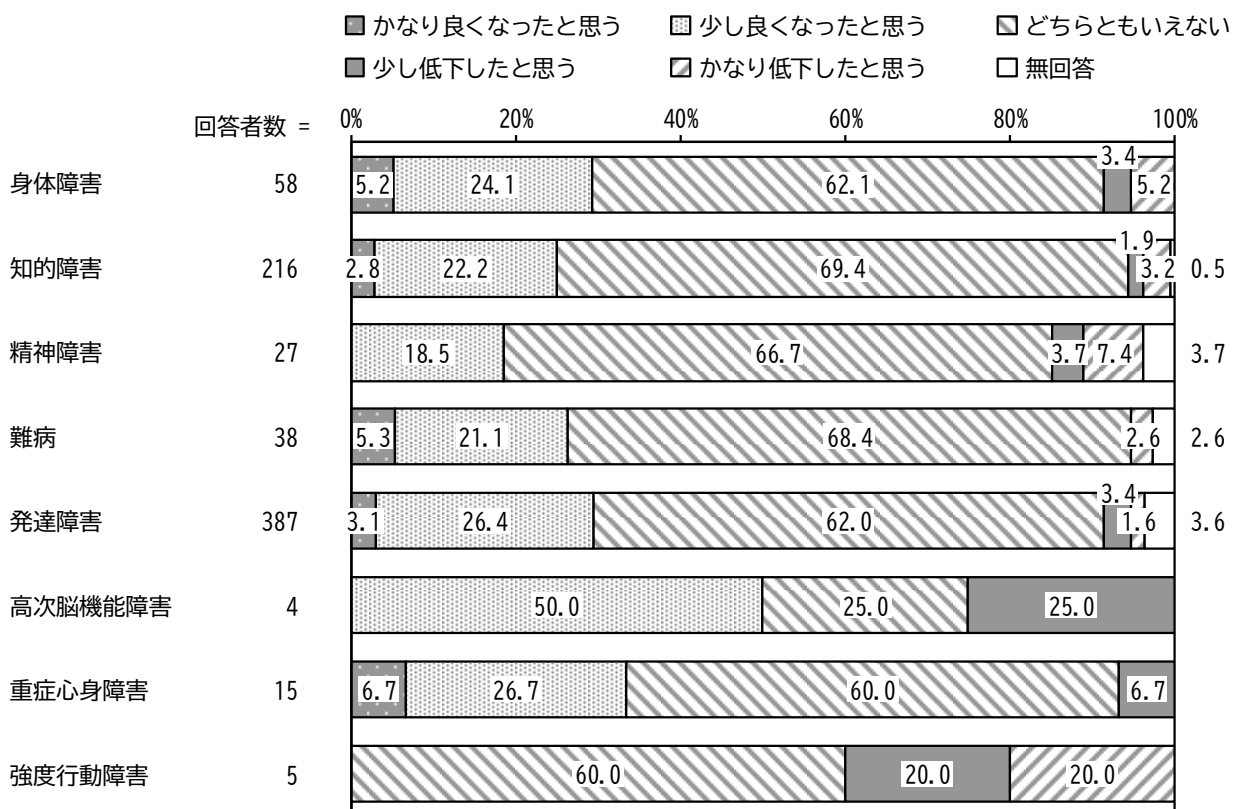
問 39 江東区の福祉サービスは、令和4年ごろ（3年ほど前）と比べて、変化していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「かなり良くなったと思う」「少し良くなったと思う」を合わせた“良くなったと思う”の割合が26.3%、「少し低下したと思う」「かなり低下したと思う」を合わせた“低下したと思う”の割合が4.3%となっています。



【障害種別】

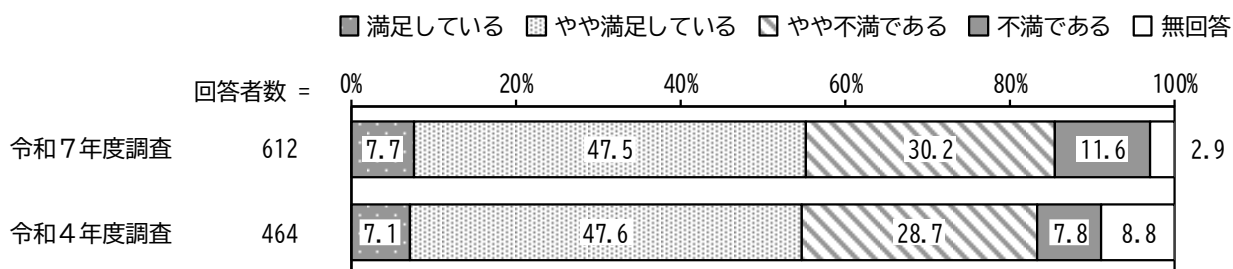
障害種別にみると、重症心身障害で「かなり良くなったと思う」、精神障害で「かなり低下したと思う」の割合が高くなっています。



問 40 あなたは、障害者（児）支援施策に満足していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

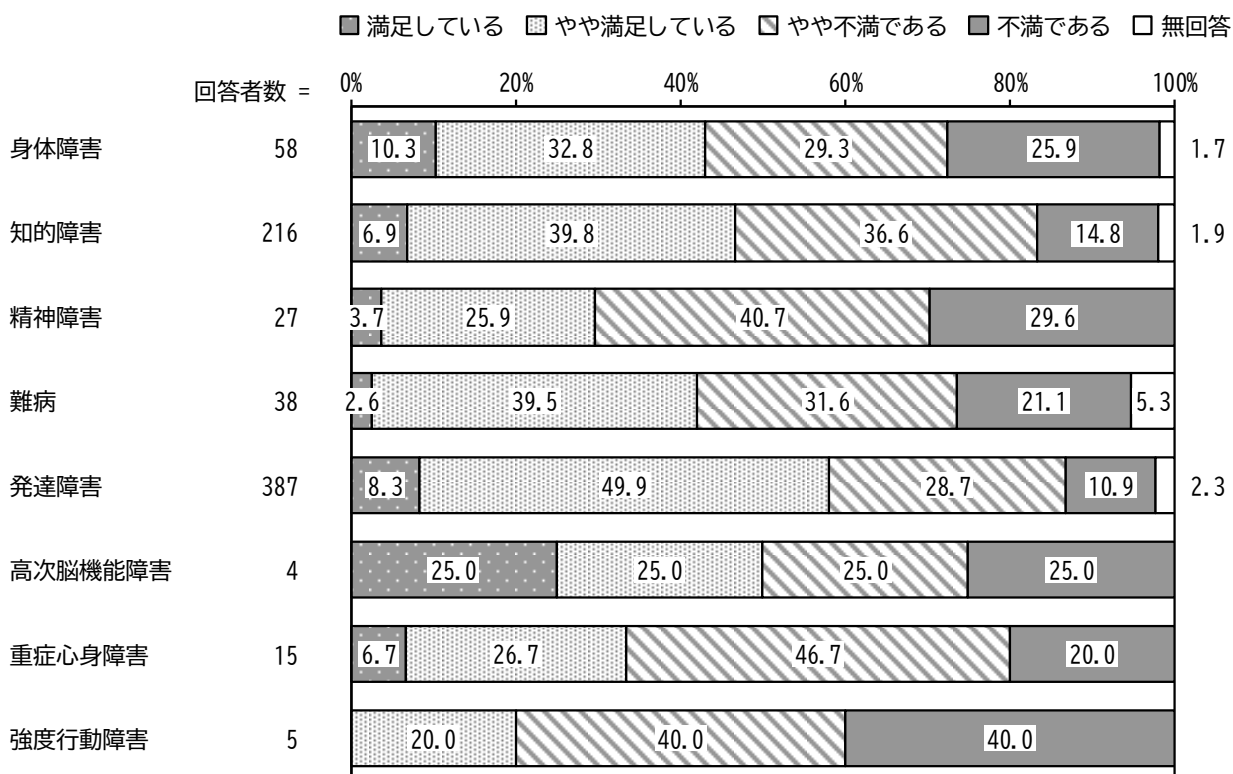
「満足している」「やや満足している」を合わせた“満足している”の割合が 55.2%、「やや不満である」「不満である」を合わせた“不満である”の割合が 41.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、“不満である”の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で“不満である”の割合が高くなっています。



問 41 あなたやお子様が、周りの人から助けてもらったり、してもらってうれしかったことがあれば記入してください。

・療育施設・保育園・幼稚園の先生の対応について(48 件)

幼稚園の先生、ＣＯＣＯの先生方には、大変お世話になっております。自信が少しずつついて、何事にもとりあえずやってみるという精神が少しずつですが身についてきたように感じます。

・学校・教員・支援員の対応について(39 件)

学校の授業で支援員の方に支えられている。子どもが大好きな方たちと一緒にできることでがんばれている。

・本人の特性・ありのままを受け入れてくれることについて(31 件)

子どものペースに寄り添って、ゆっくり待ってくれたり、優しく声かけしてくれたこと

・近隣住民・見知らぬ人の声かけ・見守りについて(27 件)

毎朝、通学バスに向かう途中で、近所の方々が朝のあいさつをしてくれています。子どもはあまり返せませんがでもうれしく思っています。

・交通機関での配慮・支援について(26 件)

足も悪いため、混雑している電車やバスで席を譲ってもらえることは本当に助かります。

・専門機関・相談員の対応について(21 件)

子どもが小さかった頃、よく通っていた子ども家庭支援センターの先生に相談に乗ってもらったこと

・パニック・癇癢時の周囲の理解・見守りについて(17 件)

子供が暴れた時に知らない方が声をかけてくれ、助けようとしてくれた時。

・親への声かけ・精神的サポートについて(16 件)

八方塞がりのとき、話を聞いて支援に繋げてくれた。

・物理的サポート・手助けについて(15 件)

バスに乗車しようとした時、見知らぬ方が車椅子と一緒に乗せようとしてくれたこと。

・友達・同級生の理解と配慮について(14 件)

交流級で普通級の子が、手伝ってくれたり、教えてくれてスムーズに授業を受けられる。

・子供の小さな成長や頑張りを認めてくれることについて(11 件)

できて当たり前と思われるような小さな成長も一緒に喜んでいただけているのがとてもありがたいなと感じています。

・家族・友人（親しい人）の理解と支援について(10 件)

親しい友人家族に分け隔てなく接してもらっていることや、子どもの良さを理解してもらえていること。障害の有無に関わらず様々な話ができる友人がいることが何より支えです。

・外出先・店舗・公共施設での配慮について(7 件)

スーパーで買い物をしていた時、買い物をする順番のことで子供がかんしゃくをおこした。その時中年の女性が一緒に子供の言う通りにしましょうと子供と一緒に買い物に付き合ってくれた。

・障害に対する知識・理解を深めてくれることについて(6件)

発達遅延や発達障害に理解を深めてくれた事。

・ヘルプマーク・手帳を通じた支援について(6件)

迷子になった時にヘルプマークに気付いてくれて、すぐ通報してくれたことがとても助かりました。

なお、以下の項目についてもご意見をいただいております。

・割引・無料化制度について(3件)

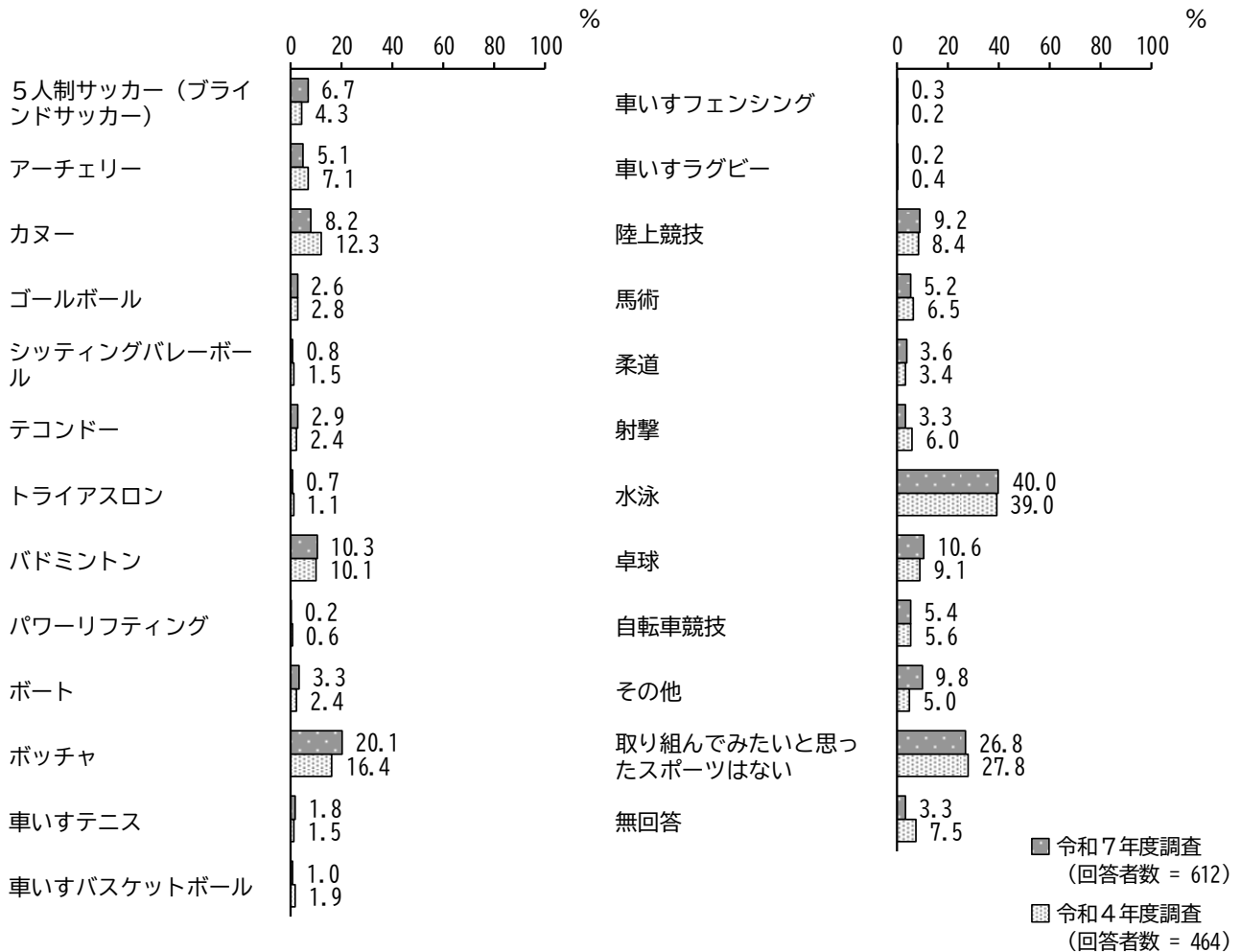
・医療的ケア・緊急時の連携・対応について(2件)

・その他について(8件)

(9) 障害者スポーツについて

問 42 以下のスポーツのうち、お子様が取り組んでみたいと思ったスポーツは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「水泳」の割合が40.0%と最も高く、次いで「ボッチャ」の割合が20.1%、「卓球」の割合が10.6%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、知的障害で「ボッチャ」、精神障害で「卓球」の割合が高くなっています。

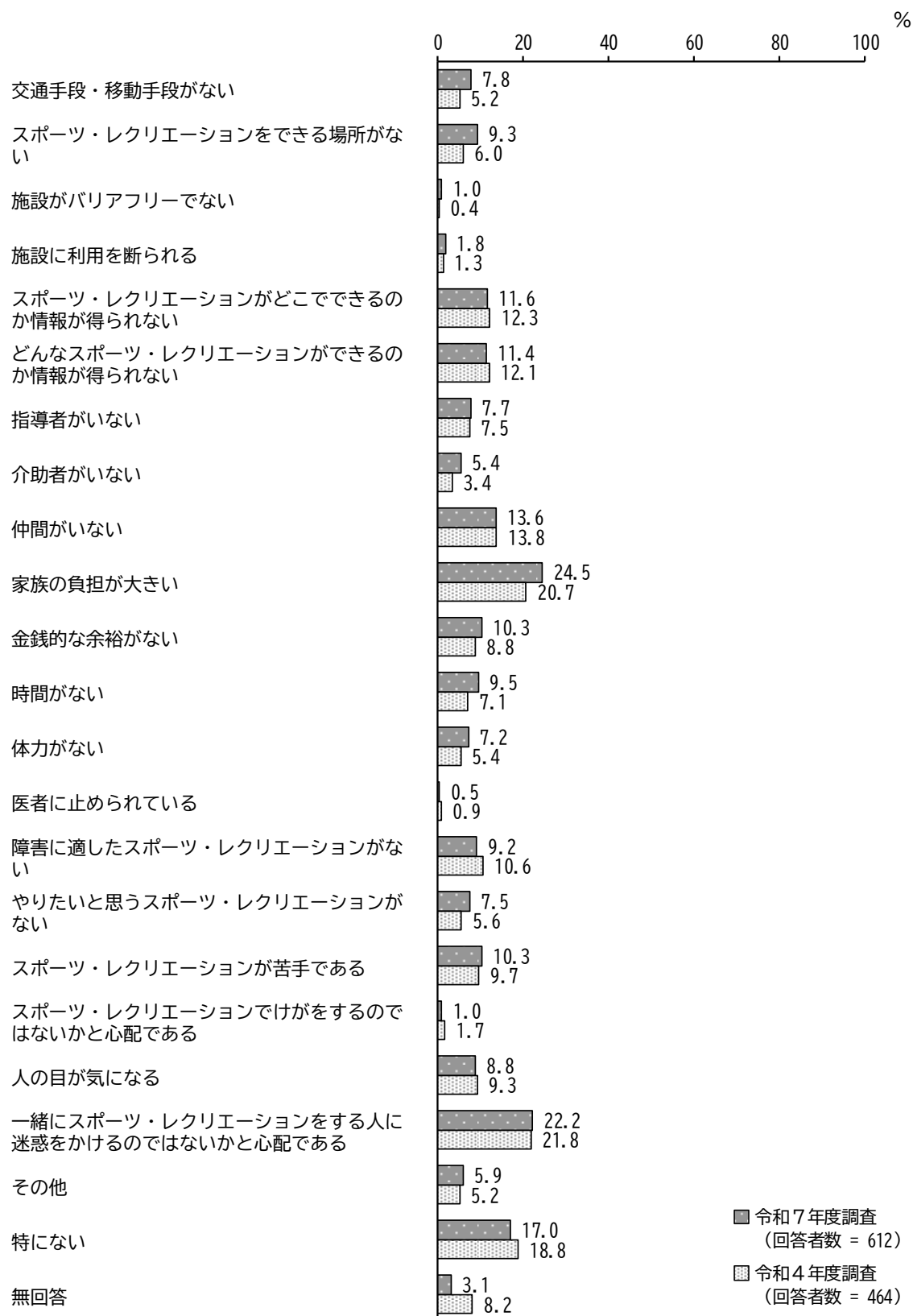
単位：％

区分	回答者数(件)	5人制サッカー(ブラインドサッカー)	アーチェリー	カヌー	ゴールボール	シッティングバレーボール	テコンドー	トライアスロン	バドミントン	パワーリフティング	ボート	ボッチャ	車いすテニス
全 体	612	6.7	5.1	8.2	2.6	0.8	2.9	0.7	10.3	0.2	3.3	20.1	1.8
身体障害	58	1.7	1.7	5.2	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	5.2	22.4	1.7
知的障害	216	4.6	3.7	6.9	2.8	0.9	0.9	0.5	10.2	0.5	3.7	30.6	0.9
精神障害	27	3.7	7.4	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0	11.1	0.0	0.0	25.9	0.0
難病	38	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0	2.6	0.0	13.2	0.0	0.0	7.9	0.0
発達障害	387	7.0	6.5	10.3	2.6	1.0	3.6	1.0	11.6	0.3	3.6	19.1	1.6
高次脳機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
重症心身障害	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.7	0.0
強度行動障害	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0

区分	車いすバスケットボール	車いすフェンシング	車いすラグビー	陸上競技	馬術	柔道	射撃	水泳	卓球	自転車競技	その他	取り組んでみたいと思ったスポーツはない	無回答
全 体	1.0	0.3	0.2	9.2	5.2	3.6	3.3	40.0	10.6	5.4	9.8	26.8	3.3
身体障害	0.0	1.7	0.0	5.2	1.7	1.7	1.7	32.8	6.9	3.4	8.6	34.5	3.4
知的障害	1.4	0.0	0.0	7.9	4.6	2.8	2.3	41.7	8.3	7.4	12.5	23.1	1.9
精神障害	3.7	0.0	0.0	3.7	7.4	3.7	3.7	37.0	22.2	3.7	11.1	29.6	0.0
難病	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	2.6	28.9	2.6	0.0	5.3	47.4	5.3
発達障害	0.5	0.3	0.3	10.1	6.2	3.9	3.9	42.4	12.9	6.7	8.8	26.4	2.8
高次脳機能障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
重症心身障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	46.7	6.7
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0

問 43 お子様が、スポーツ・レクリエーションを行う際に困っていることは何ですか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「家族の負担が大きい」の割合が 24.5%と最も高く、次いで「一緒にスポーツ・レクリエーションをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である」の割合が 22.2%、「仲間がいない」の割合が 13.6%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「施設がバリアフリーでない」「家族の負担が大きい」「障害に適したスポーツ・レクリエーションがない」「スポーツ・レクリエーションでけがをするのではないかと心配である」、精神障害で「指導者がいない」「一緒にスポーツ・レクリエーションをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である」、身体障害、知的障害、難病、重症心身障害で「介助者がいない」、精神障害、難病で「体力がない」、難病で「医者に止められている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	交通手段・移動手段がない	スポーツ・レクリエーションのできる場所がない	施設がバリアフリーでない	施設に利用を断られる	スポーツ・レクリエーションがどこでもできるのか情報が得られない	どんなスポーツ・レクリエーションができるのか情報が得られない	指導者がいない
全 体	612	7.8	9.3	1.0	1.8	11.6	11.4	7.7
身体障害	58	8.6	8.6	3.4	3.4	12.1	13.8	3.4
知的障害	216	8.8	10.6	0.5	3.7	13.4	13.4	11.6
精神障害	27	7.4	3.7	0.0	0.0	3.7	7.4	14.8
難病	38	5.3	2.6	0.0	2.6	7.9	7.9	0.0
発達障害	387	7.8	8.8	0.8	2.1	10.9	10.1	7.8
高次脳機能障害	4	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0
重症心身障害	15	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7	6.7	0.0
強度行動障害	5	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0

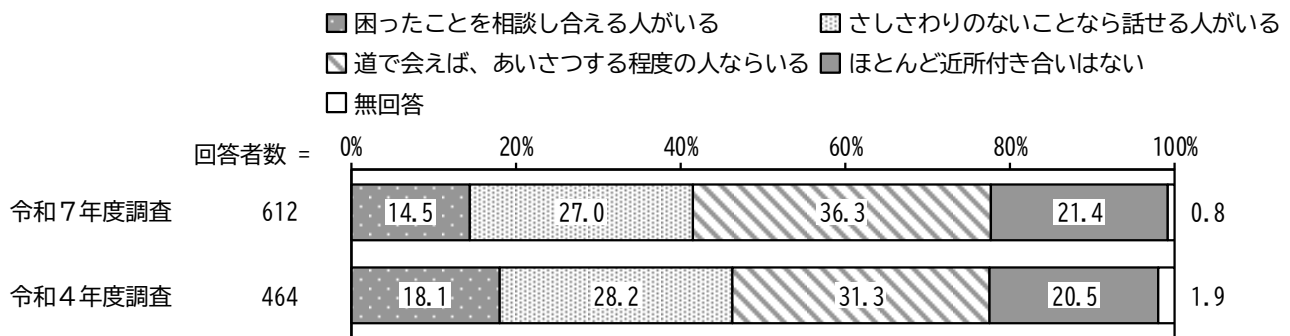
区分	介助者がいない	仲間がいない	家族の負担が大きい	金銭的な余裕がない	時間がない	体力がない	医者に止められている	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない
全 体	5.4	13.6	24.5	10.3	9.5	7.2	0.5	9.2
身体障害	12.1	3.4	32.8	3.4	3.4	5.2	1.7	22.4
知的障害	12.0	15.3	31.5	6.0	5.6	6.5	0.5	18.1
精神障害	7.4	18.5	22.2	11.1	7.4	18.5	0.0	22.2
難病	13.2	5.3	23.7	0.0	5.3	15.8	7.9	18.4
発達障害	3.9	14.2	25.6	12.1	10.9	8.5	0.3	7.0
高次脳機能障害	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	13.3	0.0	46.7	0.0	0.0	13.3	0.0	33.3
強度行動障害	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0

区分	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	スポーツ・レクリエーションが苦手である	スポーツ・レクリエーションでけがをするのではないかと心配である	人の目が気になる	一緒にスポーツ・レクリエーションをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である	その他	特にな	無回答
全 体	7.5	10.3	1.0	8.8	22.2	5.9	17.0	3.1
身体障害	1.7	5.2	3.4	8.6	19.0	8.6	19.0	1.7
知的障害	10.2	8.3	0.5	12.0	22.7	7.4	8.8	2.3
精神障害	11.1	11.1	3.7	11.1	29.6	3.7	11.1	3.7
難病	7.9	7.9	5.3	7.9	23.7	5.3	21.1	2.6
発達障害	7.5	12.4	1.0	9.0	22.2	5.2	16.5	3.1
高次脳機能障害	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	0.0	0.0	6.7	13.3	13.3	6.7	20.0	6.7
強度行動障害	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0

(10) 共生社会について

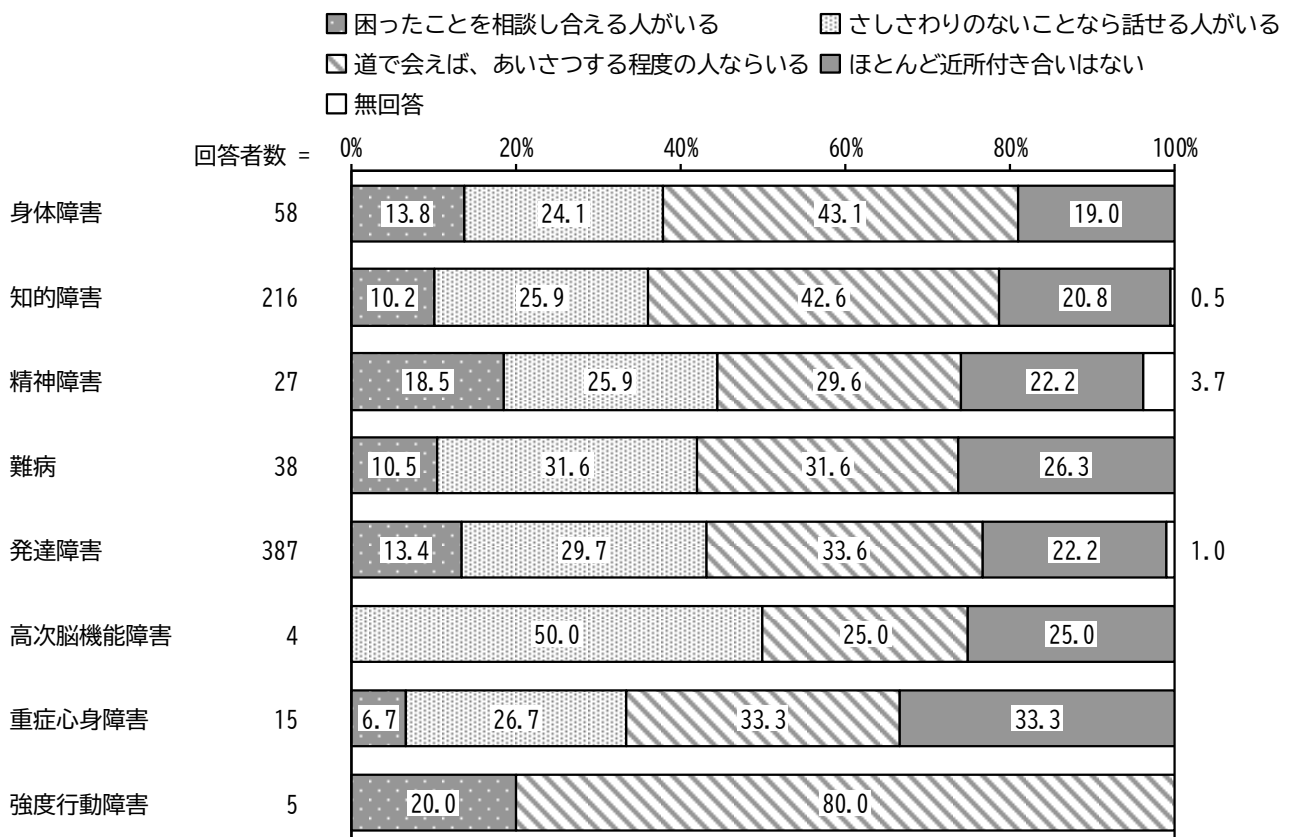
問 44 ご家庭とご近所とのお付き合いは、どの程度ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「道で会えば、あいさつする程度の人ならいる」の割合が 36.3%と最も高く、次いで「さしさわりのないことなら話せる人がいる」の割合が 27.0%、「ほとんど近所付き合いはない」の割合が 21.4%となっています。



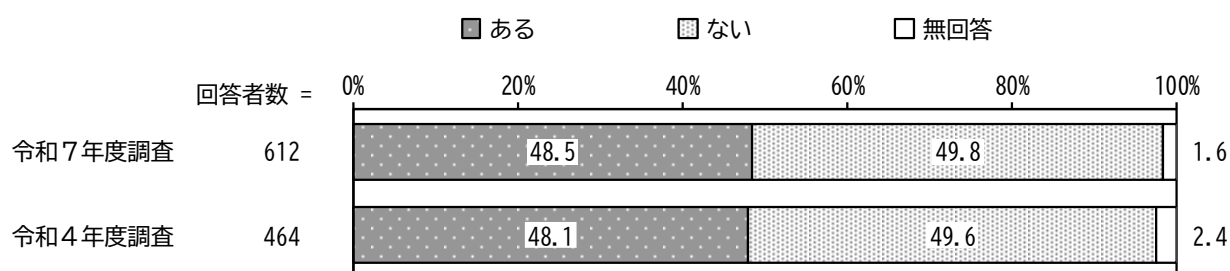
【障害種別】

障害種別にみると、身体障害、知的障害で「道で会えば、あいさつする程度の人ならいる」、重症心身障害で「ほとんど近所付き合いはない」の割合が高くなっています。



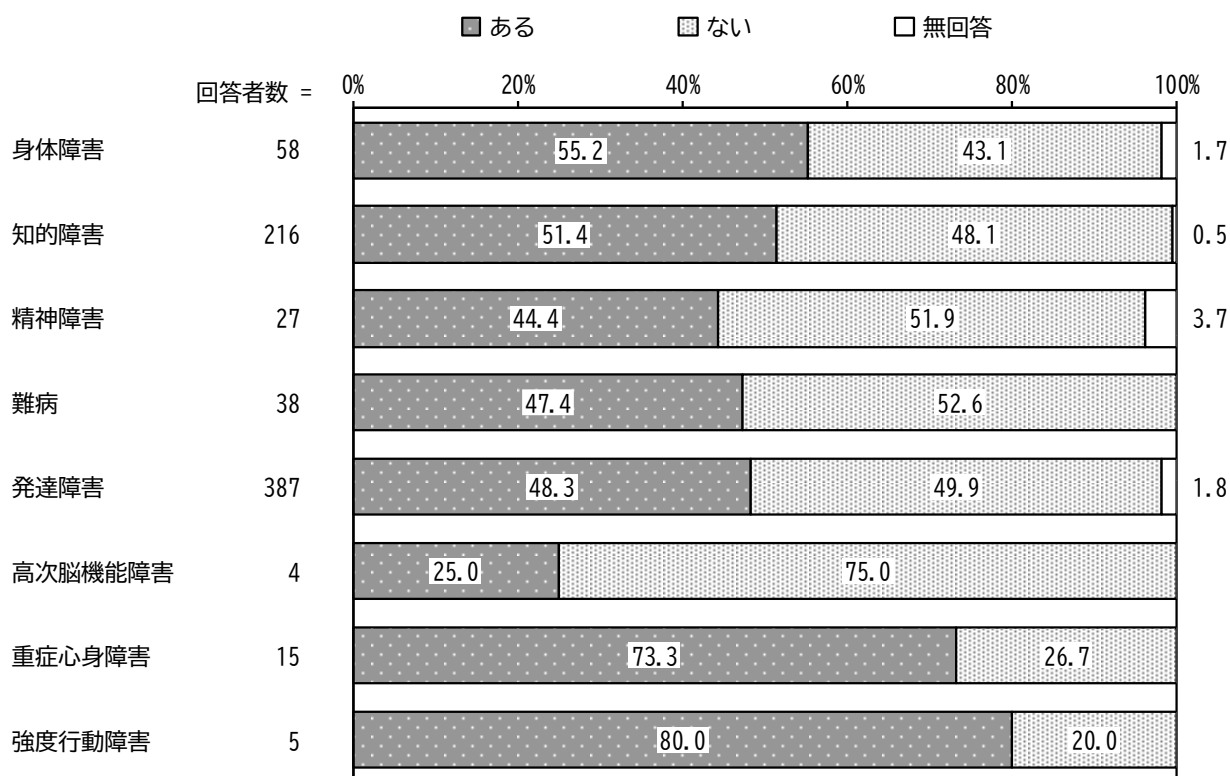
問 45 お子様と外出して困ったとき、知らない方から手助けや配慮をもらった経験がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「ある」の割合が48.5%、「ない」の割合が49.8%となっています。



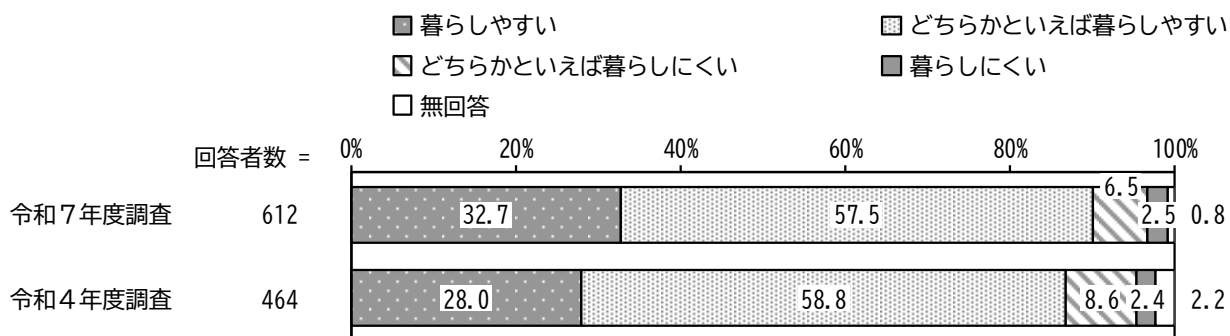
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「ある」の割合が高くなっています。



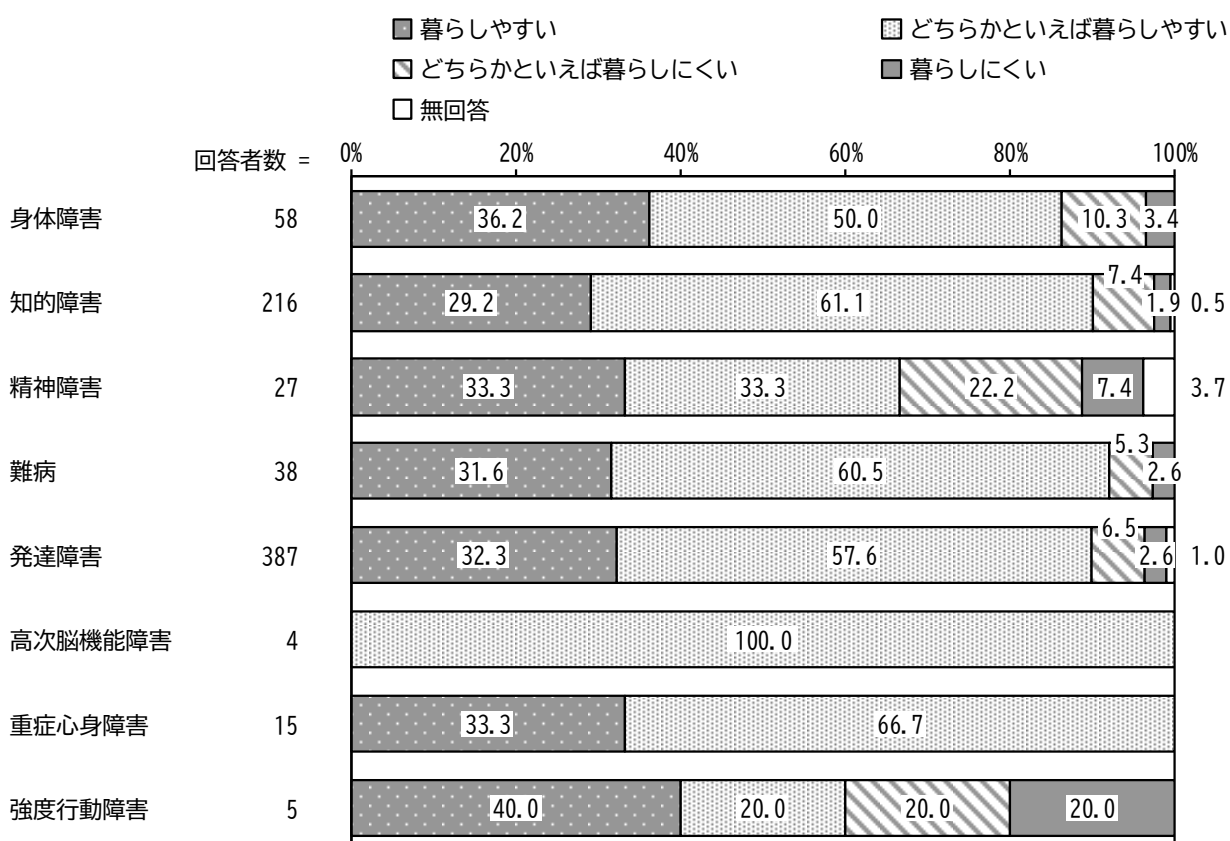
問 46 あなたにとって、江東区での暮らしはいかがですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「どちらかといえば暮らしやすい」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「暮らしやすい」の割合が 32.7%となっています。



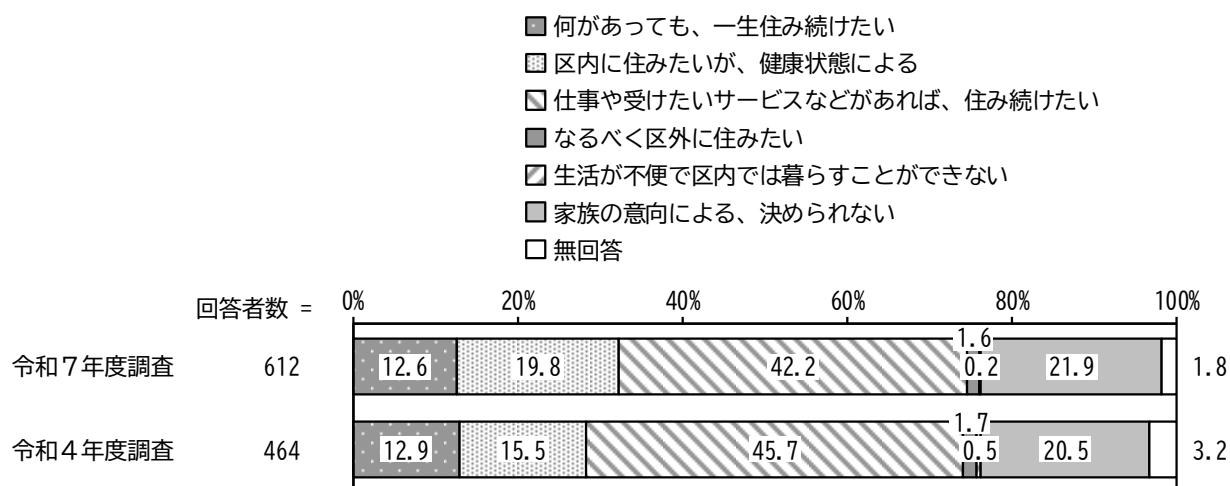
【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で「どちらかといえば暮らしにくい」の割合が高く、「どちらかといえば暮らしやすい」の割合が低くなっています。



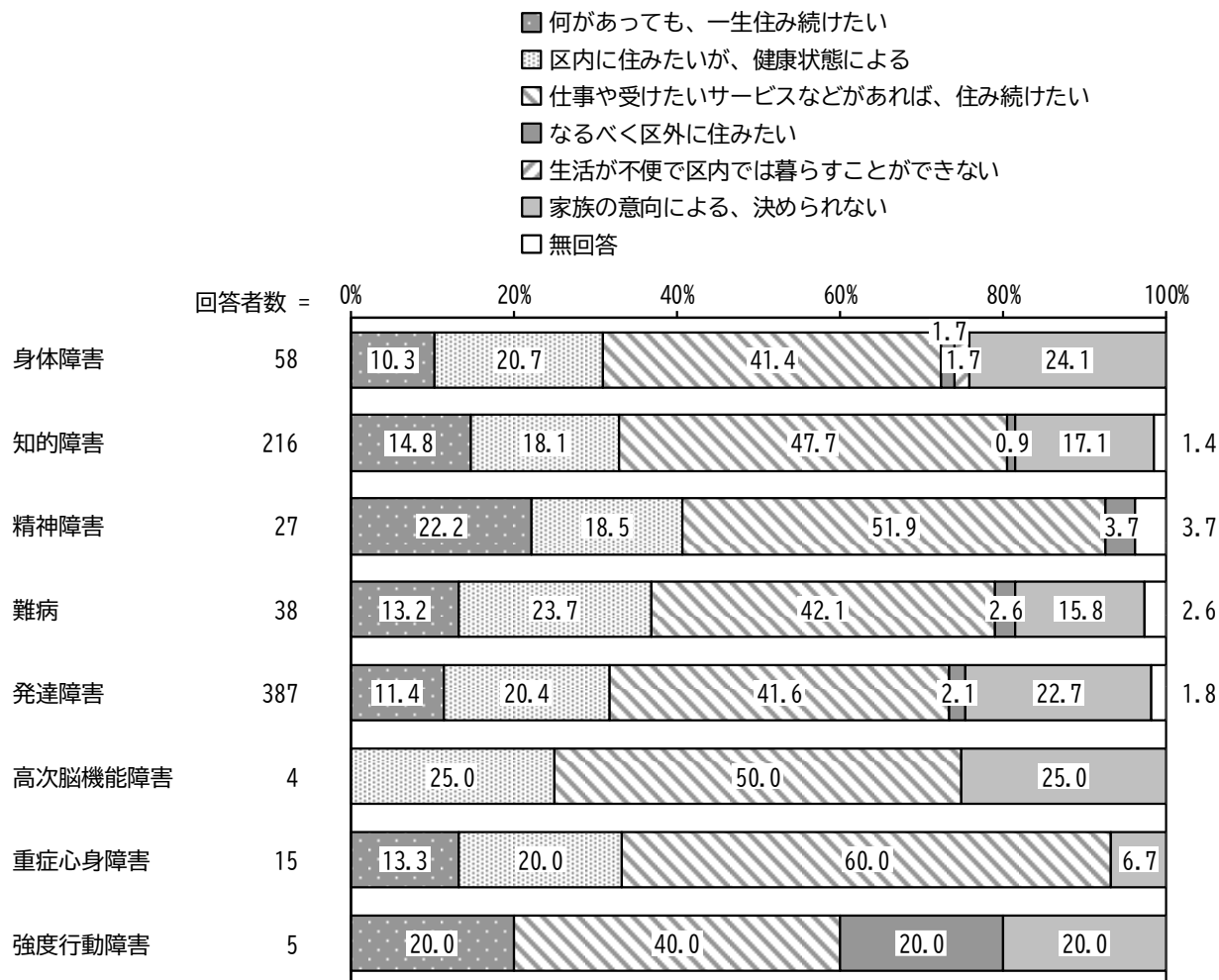
問 47 あなたは、江東区に住み続けたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「仕事や受けたいサービスなどがあれば、住み続けたい」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「家族の意向による、決められない」の割合が 21.9%、「区内に住みたいが、健康状態による」の割合が 19.8%となっています。



【障害種別】

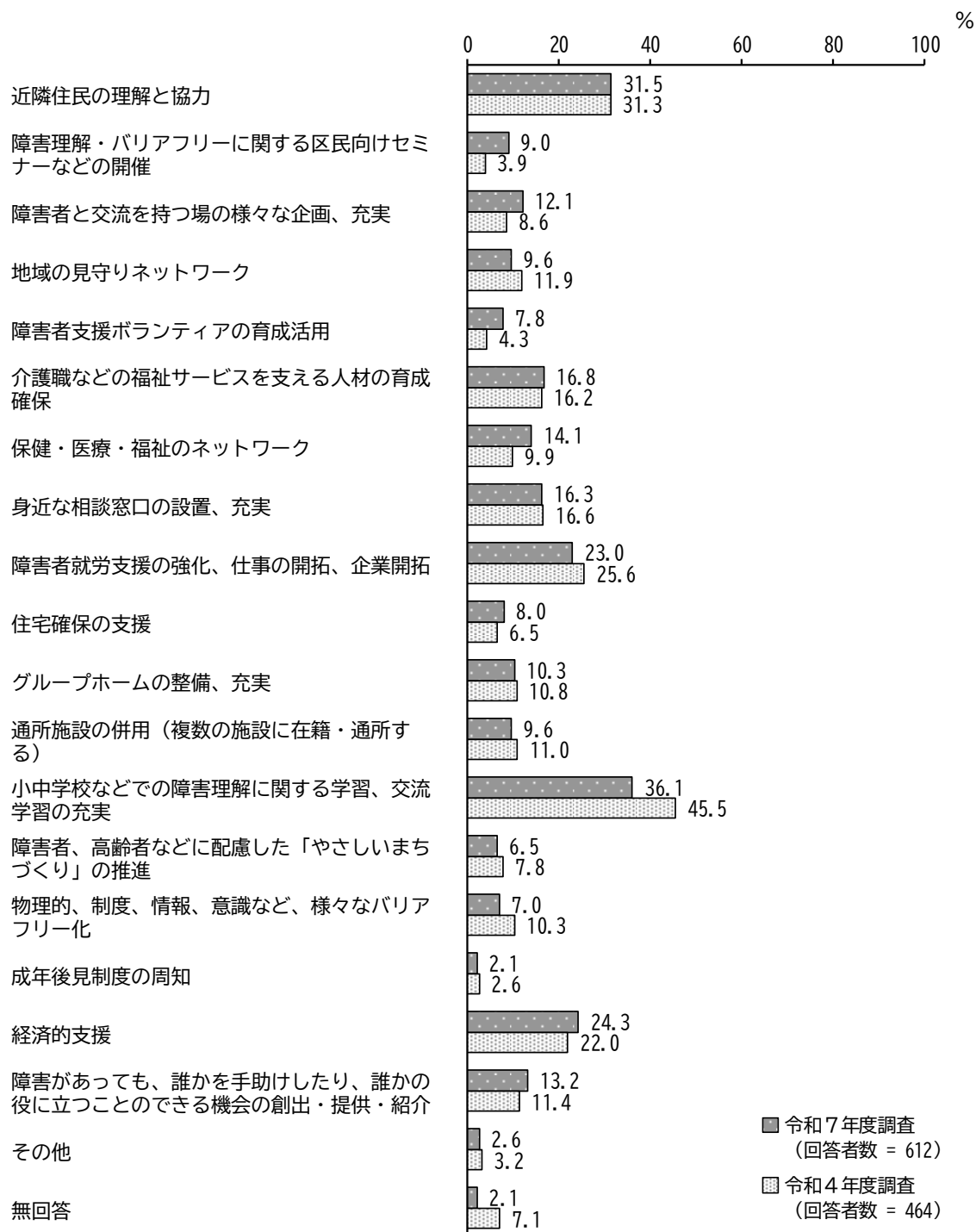
障害種別にみると、精神障害で「何があっても、一生住み続けたい」、重症心身障害で「仕事や受けたサービスなどがあれば、住み続けたい」の割合が高くなっています。



問 48 障害のある人もない人も、共に生活できる地域社会の実現のためにはどのようなことが大切だと考えますか。あてはまるもの3つまでに○をつけてください。

「小中学校などでの障害理解に関する学習、交流学習の充実」の割合が 36.1%と最も高く、次いで「近隣住民の理解と協力」の割合が 31.5%、「経済的支援」の割合が 24.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「障害理解・バリアフリーに関する区民向けセミナーなどの開催」の割合が増加しています。一方、「小中学校などでの障害理解に関する学習、交流学習の充実」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「介護職などの福祉サービスを支える人材の育成確保」「通所施設の併用（複数の施設に在籍・通所する）」「障害者、高齢者などに配慮した「やさしいまちづくり」の推進」「経済的支援」、知的障害で「グループホームの整備、充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	近隣住民の理解と協力	障害理解・バリアフリーに関する区民向けセミナーなどの開催	障害者と交流を持つ場の様々な企画、充実	地域の見守りネットワーク	障害者支援ボランティアの育成活用	介護職などの福祉サービスを支える人材の育成確保
全 体	612	31.5	9.0	12.1	9.6	7.8	16.8
身体障害	58	27.6	6.9	6.9	3.4	8.6	25.9
知的障害	216	27.8	10.2	13.9	5.6	10.6	22.7
精神障害	27	25.9	0.0	14.8	11.1	3.7	29.6
難病	38	15.8	2.6	7.9	10.5	2.6	34.2
発達障害	387	33.6	10.3	12.4	12.7	6.5	14.2
高次脳機能障害	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
重症心身障害	15	13.3	6.7	0.0	6.7	0.0	40.0
強度行動障害	5	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0

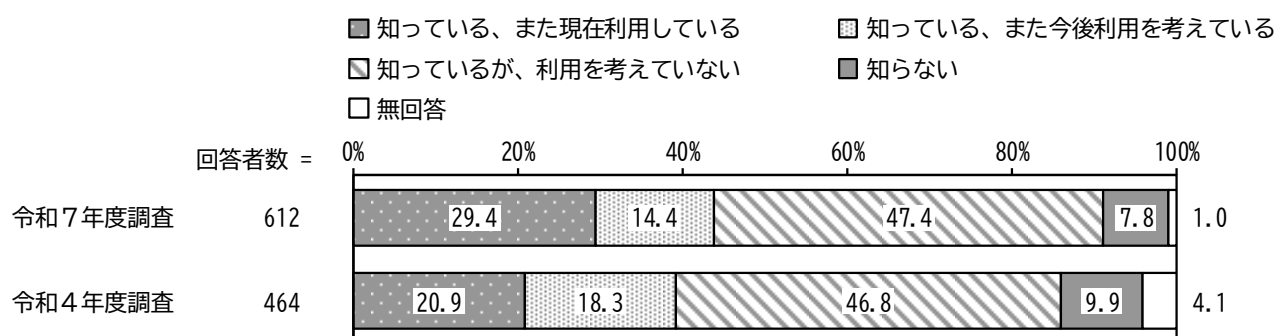
区分	保健・医療・福祉のネットワーク	身近な相談窓口の設置、充実	障害者就労支援の強化、仕事の開拓、企業開拓	住宅確保の支援	グループホームの整備、充実	通所施設の併用（複数の施設に在籍・通所する）	小中学校などでの障害理解に関する学習、交流学習の充実
全 体	14.1	16.3	23.0	8.0	10.3	9.6	36.1
身体障害	19.0	15.5	10.3	10.3	17.2	12.1	20.7
知的障害	9.7	10.2	32.9	10.2	24.5	10.2	24.5
精神障害	11.1	18.5	18.5	7.4	18.5	14.8	33.3
難病	21.1	13.2	15.8	5.3	15.8	13.2	21.1
発達障害	14.2	18.3	20.7	6.5	6.2	10.6	42.6
高次脳機能障害	25.0	50.0	0.0	25.0	50.0	25.0	25.0
重症心身障害	13.3	6.7	6.7	13.3	20.0	20.0	6.7
強度行動障害	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0

区分	障害者、高齢者などに配慮した「やさしいまちづくり」の推進	物理的、制度的、情報、意識など、様々なバリアフリー化	成年後見制度の周知	経済的支援	障害があっても、誰かを手助けしたり、誰かの役に立つことのできる機会の創出・提供・紹介	その他	無回答
全 体	6.5	7.0	2.1	24.3	13.2	2.6	2.1
身体障害	15.5	12.1	3.4	27.6	15.5	3.4	5.2
知的障害	9.3	4.6	3.2	29.2	11.6	2.8	2.3
精神障害	3.7	3.7	7.4	25.9	14.8	7.4	0.0
難病	10.5	10.5	2.6	26.3	18.4	2.6	5.3
発達障害	5.9	6.5	2.1	23.5	13.2	3.6	1.3
高次脳機能障害	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	33.3	0.0	6.7	40.0	6.7	0.0	13.3
強度行動障害	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0

問 49 ヘルプマークを知っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

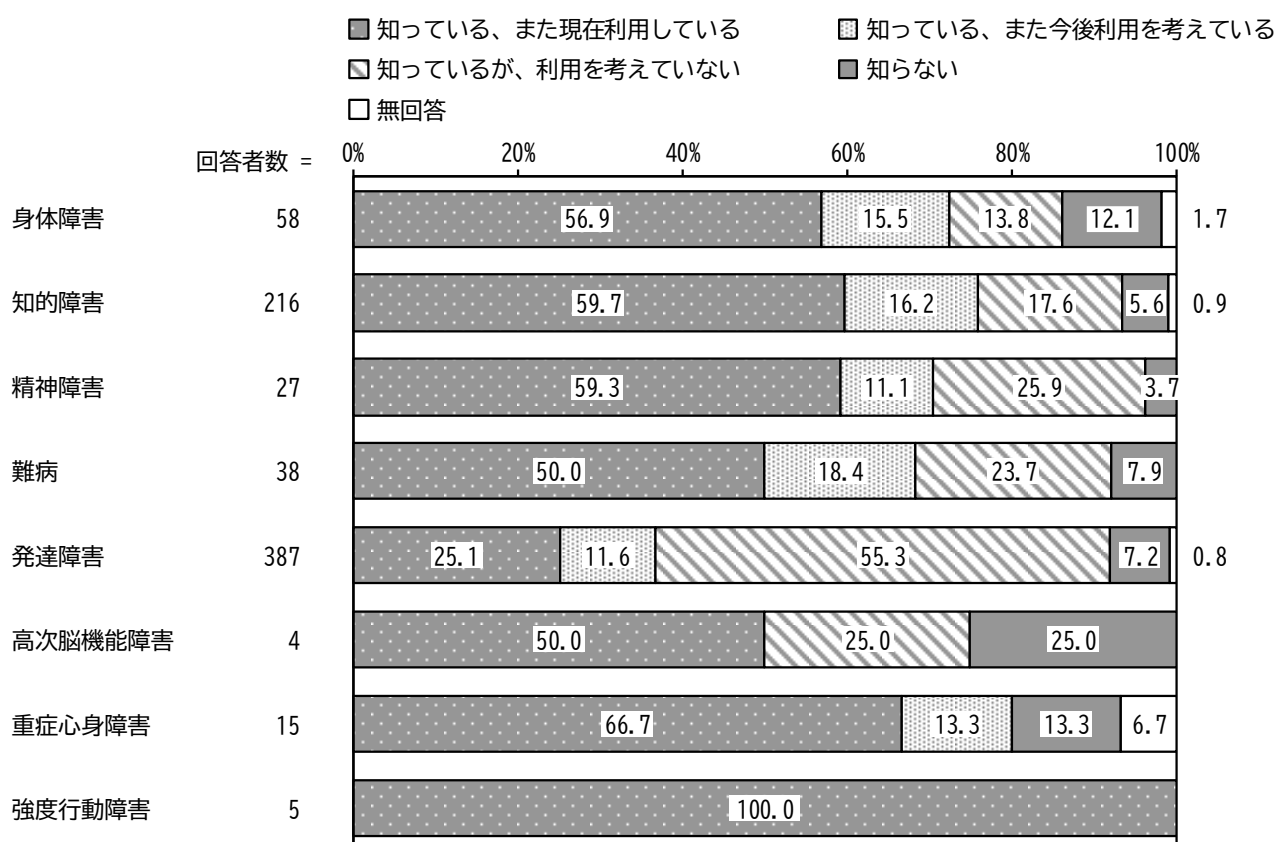
「知っているが、利用を考えていない」の割合が 47.4%と最も高く、次いで「知っている、また現在利用している」の割合が 29.4%、「知っている、また今後利用を考えている」の割合が 14.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「知っている、また現在利用している」の割合が増加しています。



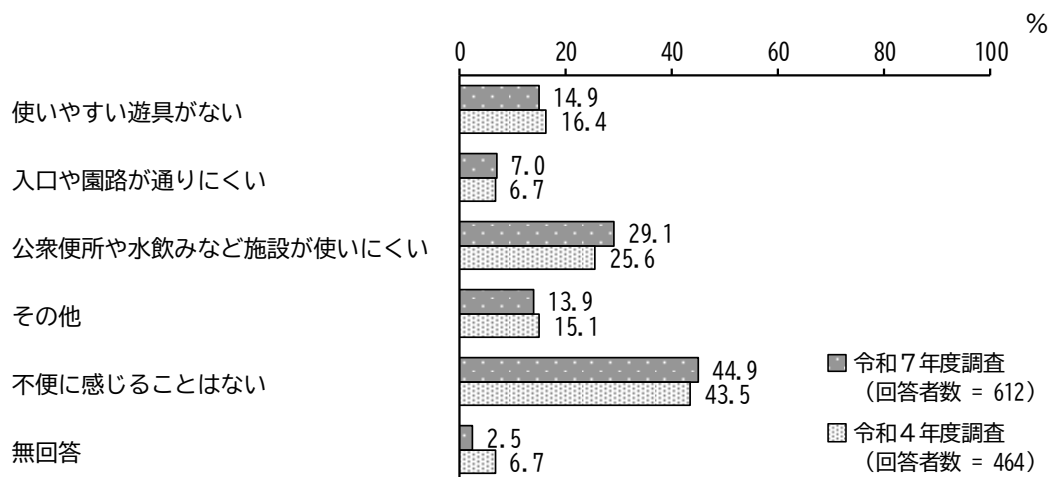
【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「知っている、また現在利用している」「知らない」、発達障害で「知っているが、利用を考えていない」の割合が高くなっています。



問 50 あなたが公園で不便に感じていることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「使いやすい遊具がない」の割合が14.9%、「入口や園路が通りにくい」の割合が7.0%、「公衆便所や水飲みなど施設が使いにくい」の割合が29.1%となっています。



【障害種別】

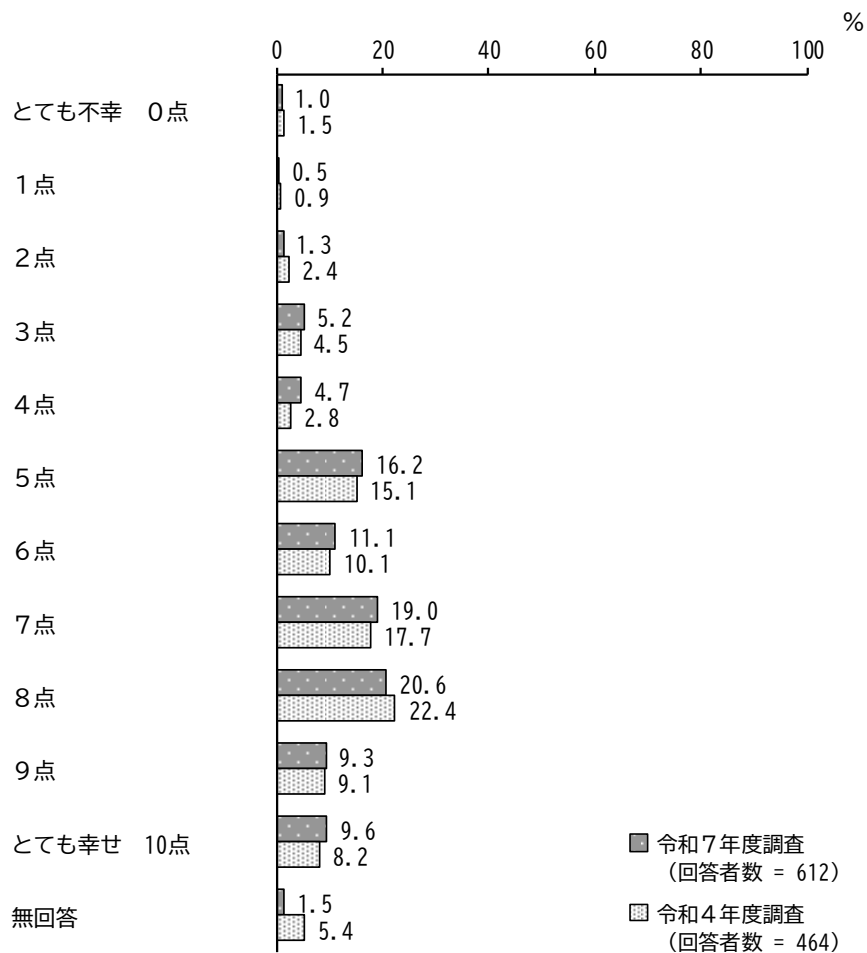
障害種別にみると、身体障害、重症心身障害で「使いやすい遊具がない」、重症心身障害で「入口や園路が通りにくい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	使いやすい遊具がない	入口や園路が通りにくい	公衆便所や水飲みなど施設が使いにくい	その他	不便に感じることはない	無回答
全 体	612	14.9	7.0	29.1	13.9	44.9	2.5
身体障害	58	25.9	27.6	24.1	13.8	34.5	3.4
知的障害	216	17.1	8.3	26.4	13.9	42.1	2.8
精神障害	27	14.8	7.4	25.9	18.5	44.4	3.7
難病	38	18.4	21.1	23.7	15.8	36.8	2.6
発達障害	387	15.0	5.2	28.9	14.0	46.3	2.8
高次脳機能障害	4	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0
重症心身障害	15	26.7	40.0	26.7	6.7	26.7	13.3
強度行動障害	5	20.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0

問 51 あなたは、現在どの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、0点から10点までのいずれか1つに○をつけてください。

「8点」の割合が20.6%と最も高く、次いで「7点」の割合が19.0%、「5点」の割合が16.2%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神障害、重症心身障害で「とても不幸 0点」、精神障害で「3点」、精神障害、難病で「4点」、重症心身障害で「5点」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	とても不幸 0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	とても幸せ 10点	無回答
全 体	612	1.0	0.5	1.3	5.2	4.7	16.2	11.1	19.0	20.6	9.3	9.6	1.5
身体障害	58	1.7	0.0	0.0	5.2	5.2	19.0	13.8	15.5	15.5	8.6	13.8	1.7
知的障害	216	1.4	0.5	2.3	4.6	6.5	16.2	13.9	20.4	18.1	6.9	7.9	1.4
精神障害	27	7.4	0.0	0.0	14.8	11.1	18.5	11.1	18.5	7.4	0.0	3.7	7.4
難病	38	0.0	0.0	0.0	2.6	13.2	23.7	7.9	15.8	18.4	7.9	7.9	2.6
発達障害	387	1.6	0.8	1.0	5.7	4.1	15.2	10.9	18.6	22.5	10.3	7.8	1.6
高次脳機能障害	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	13.3	13.3	13.3	0.0	13.3	6.7
強度行動障害	5	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 52 江東区の障害者施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

・学校教育・支援学級・特別支援学校について(48 件)

江東区の小学校（すべて）に支援級をつくってほしい。

・放課後等デイサービス・児童発達支援について(47 件)

わが家はグレーといわれており、逆に放課後デイサービスを見学に行っても、軽度だからあわないと言われました。今行っているところも、4年生までしか利用できず、小5～が不安です。

・経済的支援・所得制限・手当について(36 件)

サービス利用時の上限負担金の見直しをお願いしたいです（所得により上限額がちがうのは理解できるが、負担額の差が大きすぎるように思います）。所得が多い世帯も家族に障害者がいると、就労に不安を抱えていたり片親だけに負担がかかっていたりします。

・情報提供・相談支援体制について(33 件)

相談したい事があっても、相談先が分からなかったり、相談しても不安や不満が残る事がありました。困っている気持ちを汲んでほしいです。

・障害児の家族・保護者の負担軽減について(25 件)

療育や相談所へ行くにしても親の付き添いや送迎の負担が大きいため、シッターの支援などを延長させてほしい。

・移動支援・ヘルパー・送迎サービスについて(22 件)

小中学校健常児との交流。学習支援、登校支援、学童保育、一時預かり、宿泊支援、障害児、きょうだい児への支援

・療育・早期発見・発達支援について(22 件)

支援を受けたい子供の数が多すぎて発達グレーや情緒不安で知的障がいを持たない子供の支援は後回しになっているように感じる。

・社会の障害理解・インクルーシブについて(21 件)

周囲への理解ばかり求めているようで申し訳ないのですが、親としてはそんな事ばかり考えてしまいます。

・青年期・成人期以降の支援拡充について(21 件)

現在、乳児から通っている療育施設にお世話になっていますが、カバーできるのが小学生までのため、中学生になると支援が途切れてしまいます。思春期に入り、人間関係も複雑になり求められる社会スキルが上がることに不安を感じています。身体的な障害のない、障害の軽い児童が中学生からも利用できる施設が区内にできると嬉しいです。

・障害者施策全般・制度の改善について(19 件)

障害者手帳をデジタルにしてほしい。手帳がボロボロです

・施設の質・職員の待遇改善について(16 件)

働いて下さっている方々が満足いく待遇が得られて、ギリギリの人数でない余裕のある環境であることを願います。

・入所施設・グループホームについて(15件)

学校教育は充実しているが、卒業後の人生は長いのに入所、通所施設は不足している。大人対象の施策に工夫がほしい。

・余暇活動・スポーツ・遊び場について(14件)

障害者の健康のためのスポーツ教室の開催日数も種類も少ないです。江戸川区と葛飾区の障害者スポーツ教室を、毎月活用させてもらっています。

・バリアフリー・インフラ整備・住環境について(12件)

車いす利用者のための縁石と段差の整備。

・将来の不安・親亡き後の生活について(10件)

高校を卒業してからのことが心配です。グループホームには入所できるのか？親がいなくなったら区は助けてくれるのか？今は中学生なので心配なことはあまりありませんが、息子が大人になっても幸せに暮らせる社会であってほしいとただただ願っております。

・医療体制・リハビリ・医療的ケアについて(10件)

重度の医療的ケアに対応出来る通所、入所施設の拡充をお願いしたい

・一時預かり・短期入所（ショートステイ）について(10件)

障害者に関わらず、子どもの預け先がキッズクラブ以外にあまりない。ファミリーサポートは相手の都合による。仕事が夜まである時は宿泊しかない。トワイライトがほしい。

・就労支援・作業所・生活介護について(7件)

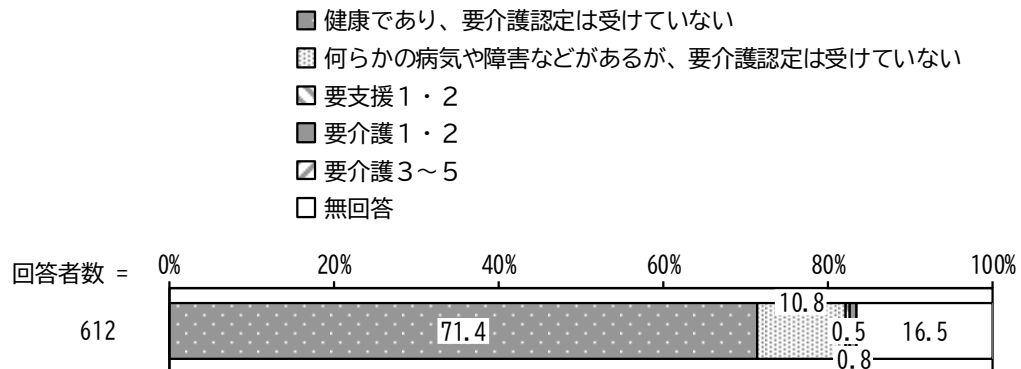
今後は就労支援（B型）に通所予定だが、自宅近辺で作業所がないので困っている。（臨海地区）

その他について(4件)

(11) 介護者について

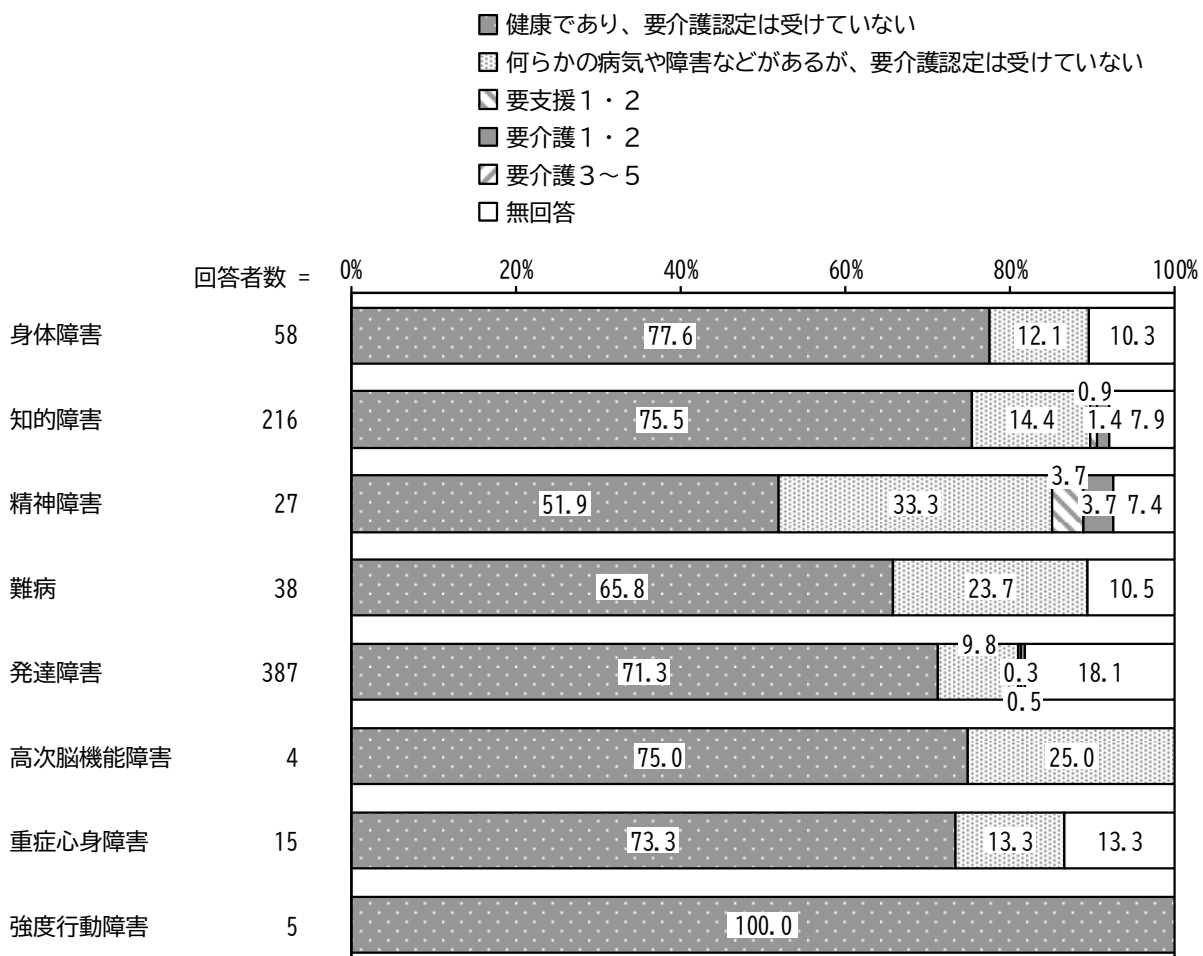
問 53 主な介護者の方は要介護認定を受けていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「健康であり、要介護認定は受けていない」の割合が71.4%と最も高く、次いで「何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない」の割合が10.8%となっています。



【障害種別】

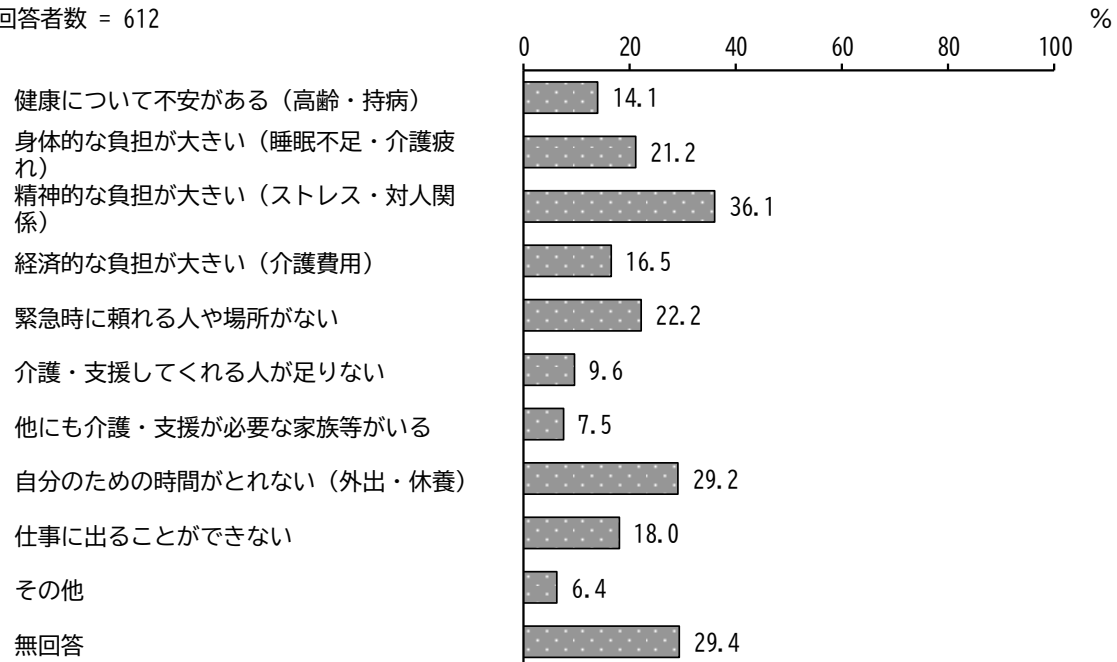
障害種別にみると、身体障害で「健康であり、要介護認定は受けていない」、精神障害で「何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない」の割合が高くなっています。



問 54 介護をするにあたり、どのような悩みや不安がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「精神的な負担が大きい（ストレス・対人関係）」の割合が 36.1%と最も高く、次いで「自分のための時間がとれない（外出・休養）」の割合が 29.2%、「緊急時に頼れる人や場所がない」の割合が 22.2%となっています。

回答者数 = 612



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「健康について不安がある（高齢・持病）」「身体的な負担が大きい（睡眠不足・介護疲れ）」「経済的な負担が大きい（介護費用）」「緊急時に頼れる人や場所がない」「介護・支援してくれる人が足りない」「自分のための時間がとれない（外出・休養）」「仕事に出ることができない」、精神障害で「精神的な負担が大きい（ストレス・対人関係）」「他にも介護・支援が必要な家族等がいる」の割合が高くなっています。

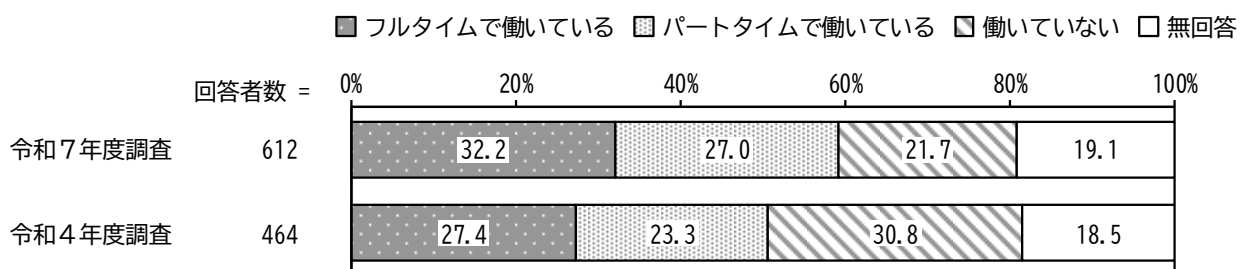
単位：％

区分	回答者数（件）	健康について不安がある（高齢・持病）	身体的な負担が大きい（睡眠不足・介護疲れ）	精神的な負担が大きい（ストレス・対人関係）	経済的な負担が大きい（介護費用）	緊急時に頼れる人や場所がない	介護・支援してくれる人が足りない	他にも介護・支援が必要な家族等がいる	自分のための時間がとれない（外出・休養）	仕事に出ることができない	その他	無回答
全 体	612	14.1	21.2	36.1	16.5	22.2	9.6	7.5	29.2	18.0	6.4	29.4
身体障害	58	29.3	48.3	36.2	29.3	43.1	20.7	8.6	43.1	27.6	5.2	15.5
知的障害	216	21.3	33.3	43.1	21.8	35.6	18.1	11.6	40.3	25.9	3.2	14.4
精神障害	27	25.9	37.0	63.0	29.6	51.9	22.2	29.6	29.6	33.3	3.7	11.1
難病	38	28.9	42.1	44.7	18.4	42.1	21.1	15.8	47.4	31.6	2.6	15.8
発達障害	387	10.6	18.3	39.5	15.2	17.6	7.0	5.9	26.1	17.3	7.2	32.0
高次脳機能障害	4	0.0	75.0	75.0	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	25.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	33.3	80.0	53.3	40.0	66.7	40.0	20.0	60.0	40.0	0.0	6.7
強度行動障害	5	20.0	60.0	80.0	20.0	60.0	40.0	60.0	60.0	40.0	0.0	0.0

問 55 主な介護者の方の現在の勤務形態は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

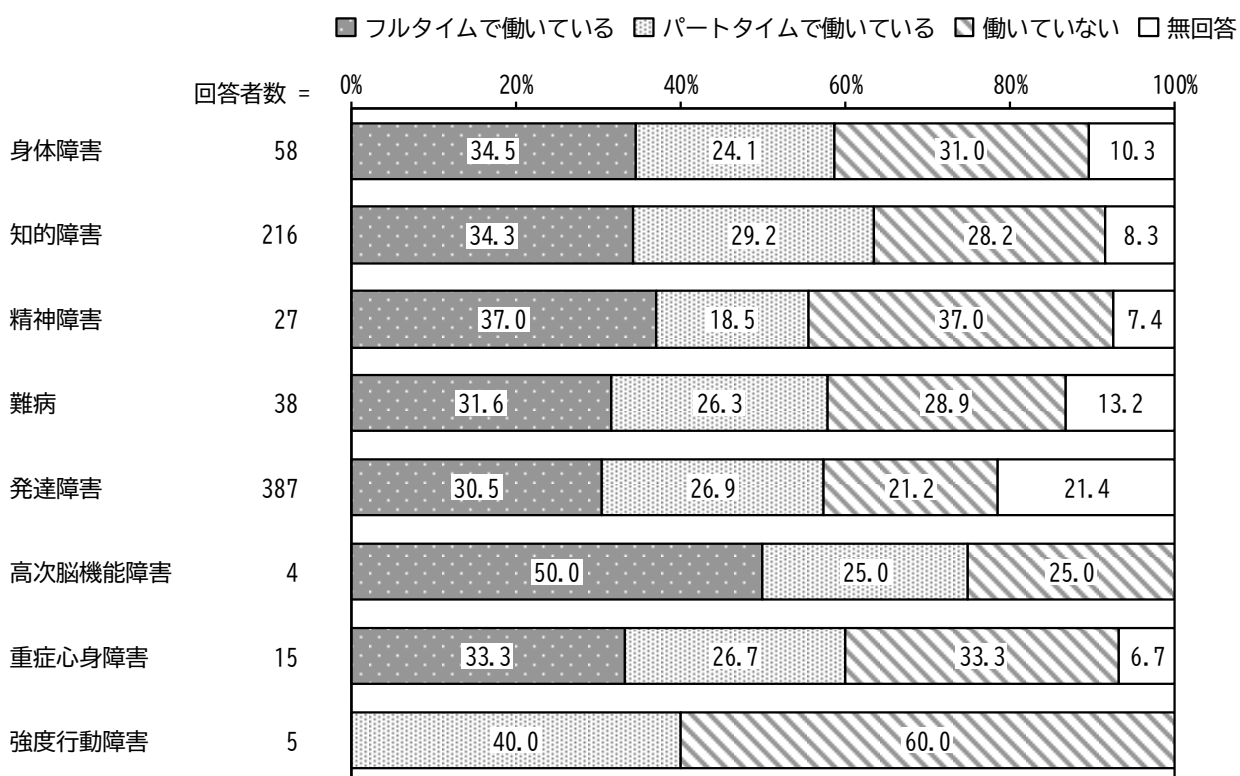
「フルタイムで働いている」の割合が32.2%、「パートタイムで働いている」の割合が27.0%、「働いていない」の割合が21.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「働いていない」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神障害で「働いていない」の割合が高くなっています。

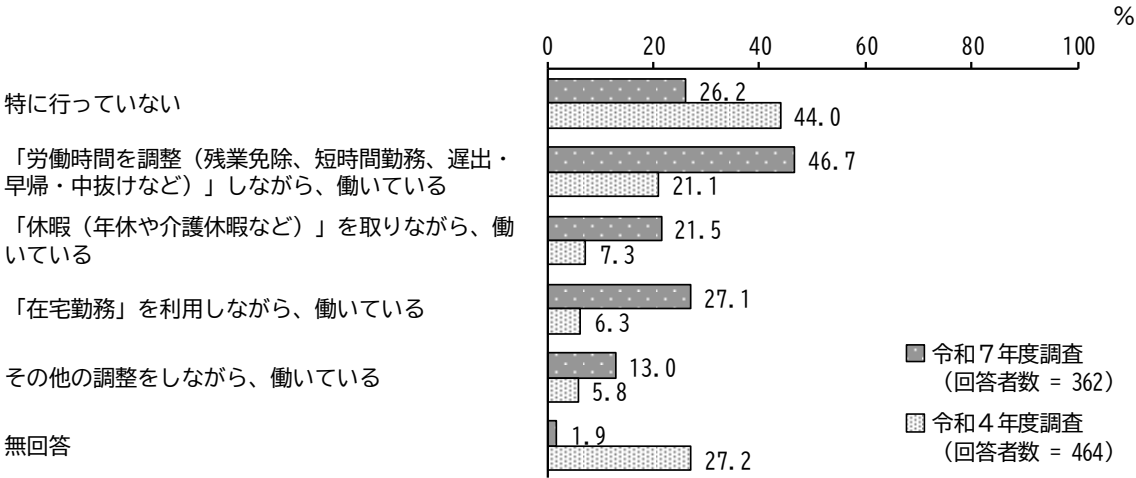


問 55 で「フルタイムで働いている」または「パートタイムで働いている」に○をつけた方にうかがいます。

問 55－1 主な介護者の方は、介護にあたって、働き方についての調整などを行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている」の割合が 46.7%と最も高く、次いで「在宅勤務」を利用しながら、働いている」の割合が 27.1%、「休暇（年休や介護休暇など）」を取りながら、働いている」の割合が 21.5%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている」「休暇（年休や介護休暇など）」を取りながら、働いている」「在宅勤務」を利用しながら、働いている」「その他の調整をしながら、働いている」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、難病で「休暇（年休や介護休暇など）」を取りながら、働いている」、身体障害、難病で「在宅勤務」を利用しながら、働いている」、身体障害で「その他の調整をしながら、働いている」の割合が高くなっています。

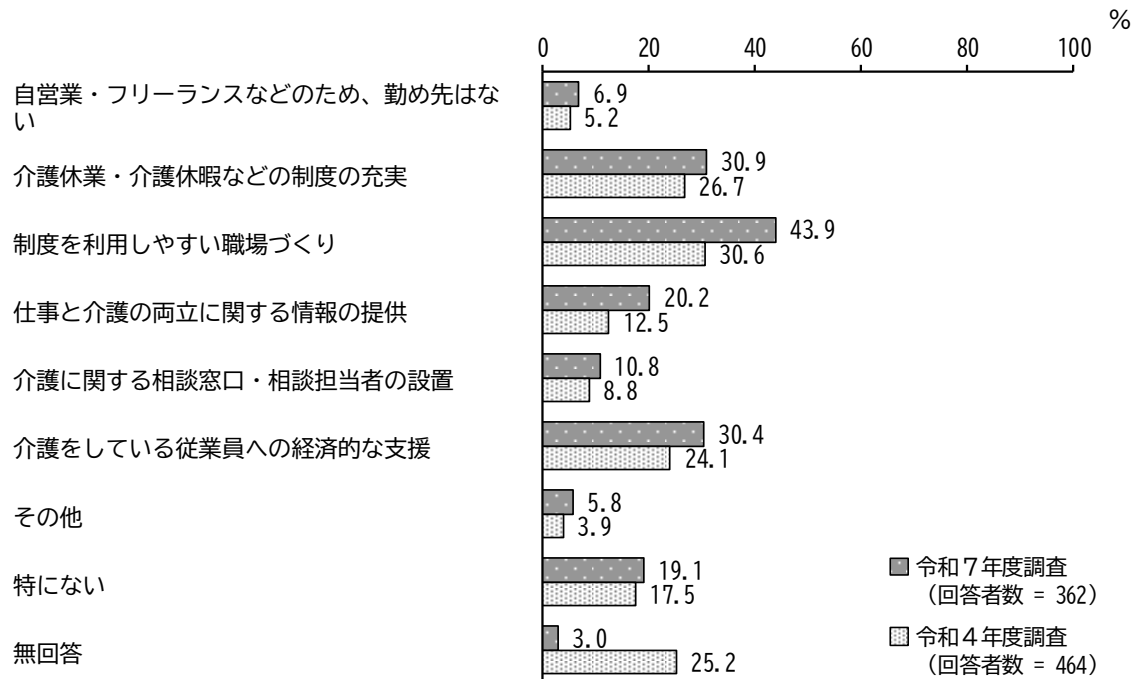
単位：％

区分	回答者数（件）	特に 行って いない	「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている	「休暇（年休や介護休暇など）」を取りながら、働いている	「在宅勤務」を利用しながら、働いている	その他の調整をしながら、働いている	無回答
全 体	362	26.2	46.7	21.5	27.1	13.0	1.9
身体障害	34	11.8	55.9	32.4	38.2	29.4	0.0
知的障害	137	19.7	52.6	29.9	32.1	15.3	0.0
精神障害	15	20.0	53.3	33.3	33.3	13.3	0.0
難病	22	18.2	54.5	40.9	40.9	22.7	0.0
発達障害	222	27.5	47.3	19.8	24.8	10.8	2.7
高次脳機能障害	3	0.0	100.0	66.7	66.7	66.7	0.0
重症心身障害	9	0.0	55.6	55.6	66.7	44.4	0.0
強度行動障害	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 55－2 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が 43.9%と最も高く、次いで「介護休業・介護休暇などの制度の充実」の割合が 30.9%、「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が 30.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「制度を利用しやすい職場づくり」「仕事と介護の両立に関する情報の提供」「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、難病で「介護休業・介護休暇などの制度の充実」「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」、精神障害で「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が高くなっています。

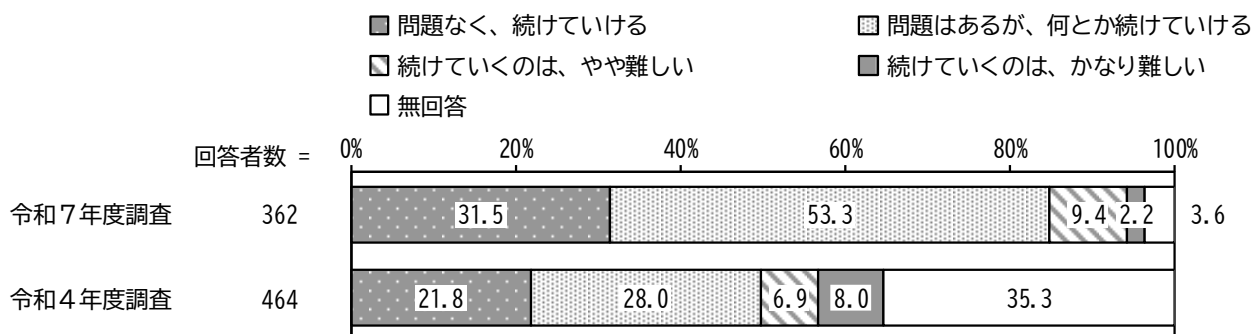
単位：％

区分	回答者数(件)	自営業・フリーランスなどのため、勤め先はない	介護休業・介護休暇などの制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特にない	無回答
全 体	362	6.9	30.9	43.9	20.2	10.8	30.4	5.8	19.1	3.0
身体障害	34	11.8	41.2	38.2	20.6	11.8	35.3	5.9	23.5	0.0
知的障害	137	5.8	35.8	49.6	21.2	13.9	32.8	8.0	16.8	1.5
精神障害	15	13.3	33.3	26.7	20.0	13.3	53.3	13.3	6.7	0.0
難病	22	0.0	54.5	40.9	27.3	22.7	40.9	4.5	18.2	4.5
発達障害	222	6.3	29.7	45.0	19.8	10.4	28.4	5.0	19.4	4.5
高次脳機能障害	3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
重症心身障害	9	0.0	44.4	55.6	44.4	22.2	44.4	0.0	22.2	0.0
強度行動障害	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

問 55－3 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

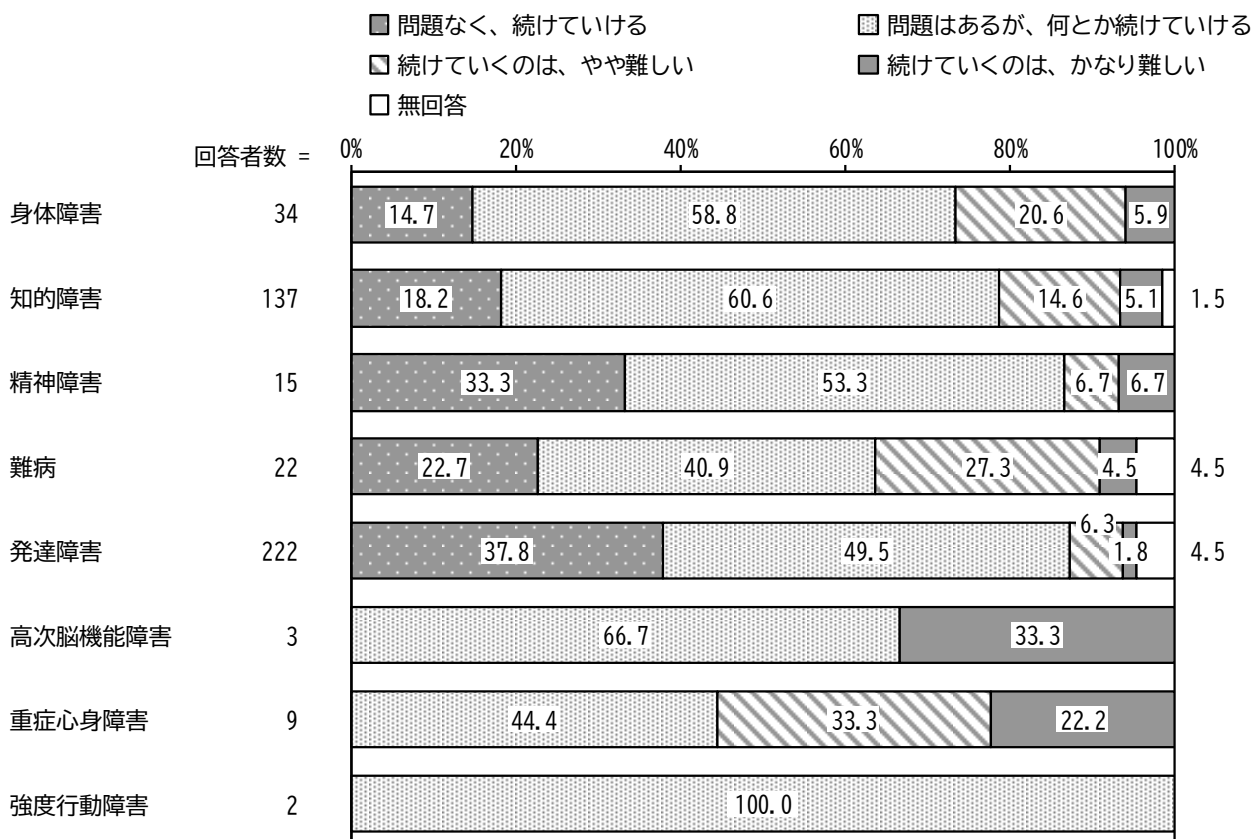
「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」の割合が 31.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が増加しています。一方、「続けていくのは、かなり難しい」の割合が減少しています。



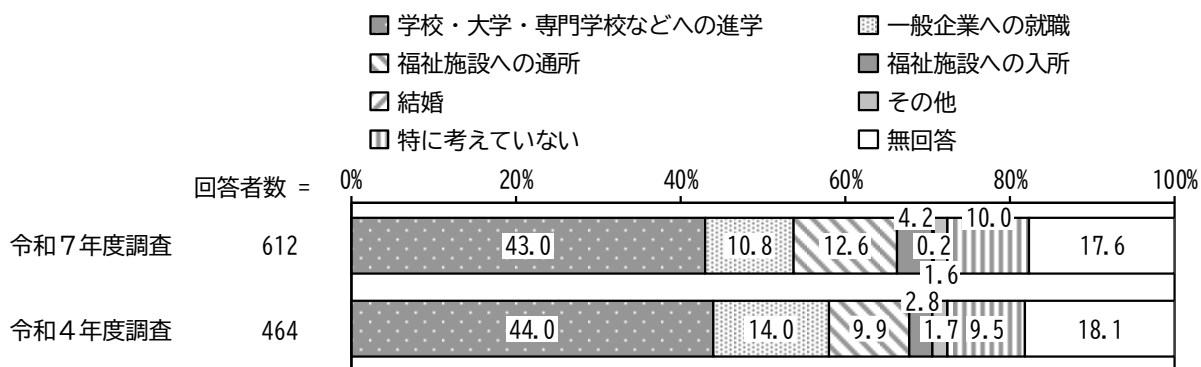
【障害種別】

障害種別にみると、難病で「続けていくのは、やや難しい」の割合が高く、身体障害で「問題なく、続けていける」、難病で「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が低くなっています。



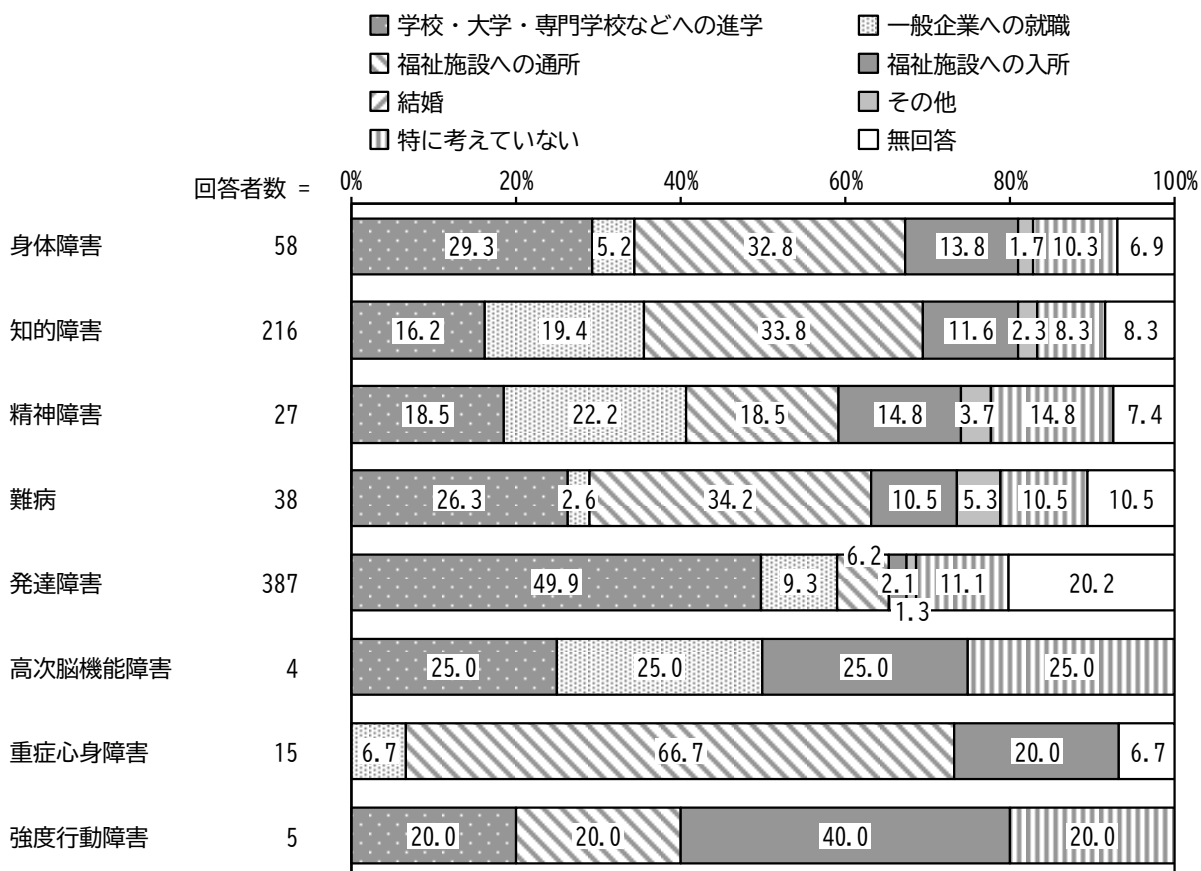
問 56 お子様が18歳になった時の希望について、あてはまるものはどれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。本人の気持ちになってお書きください。

「学校・大学・専門学校などへの進学」の割合が43.0%と最も高く、次いで「福祉施設への通所」の割合が12.6%、「一般企業への就職」の割合が10.8%となっています。



【障害種別】

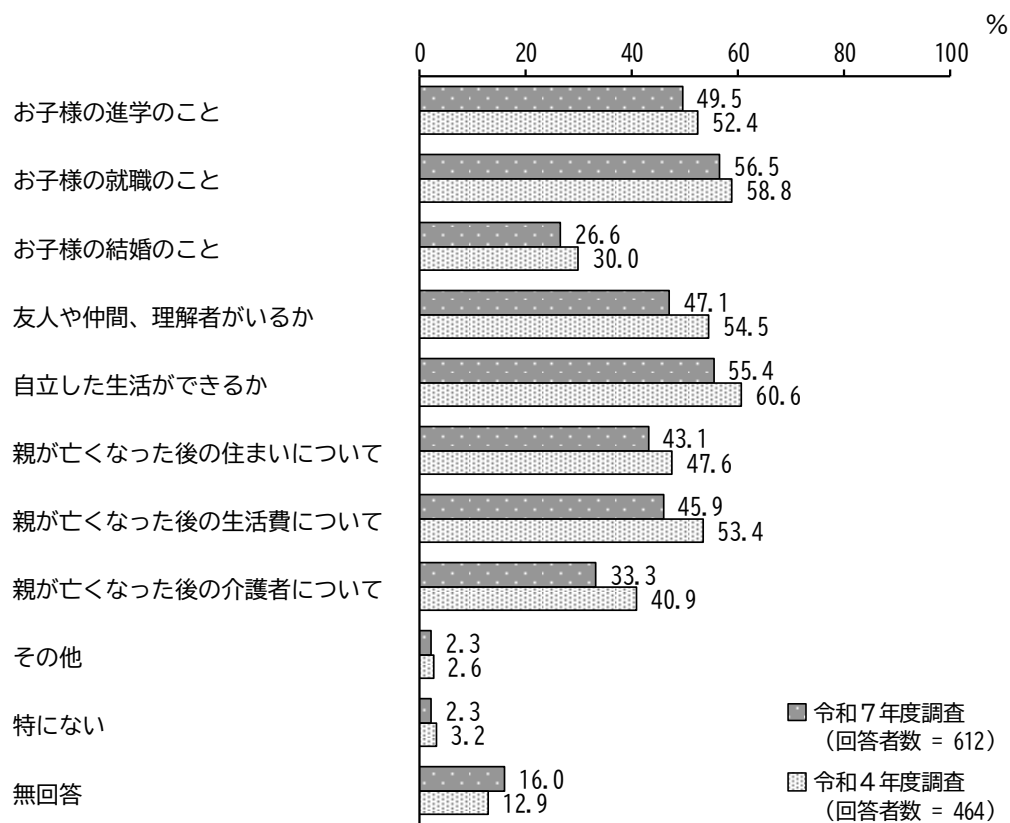
障害種別にみると、精神障害で「一般企業への就職」、重症心身障害で「福祉施設への通所」「福祉施設への入所」の割合が高くなっています。



問 57 お子様の将来のことで不安に思うことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「お子様の就職のこと」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「自立した生活ができるか」の割合が 55.4%、「お子様の進学のこと」の割合が 49.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「友人や仲間、理解者がいるか」「自立した生活ができるか」「親が亡くなった後の生活費について」「親が亡くなった後の介護者について」の割合が減少しています。



【障害種別】

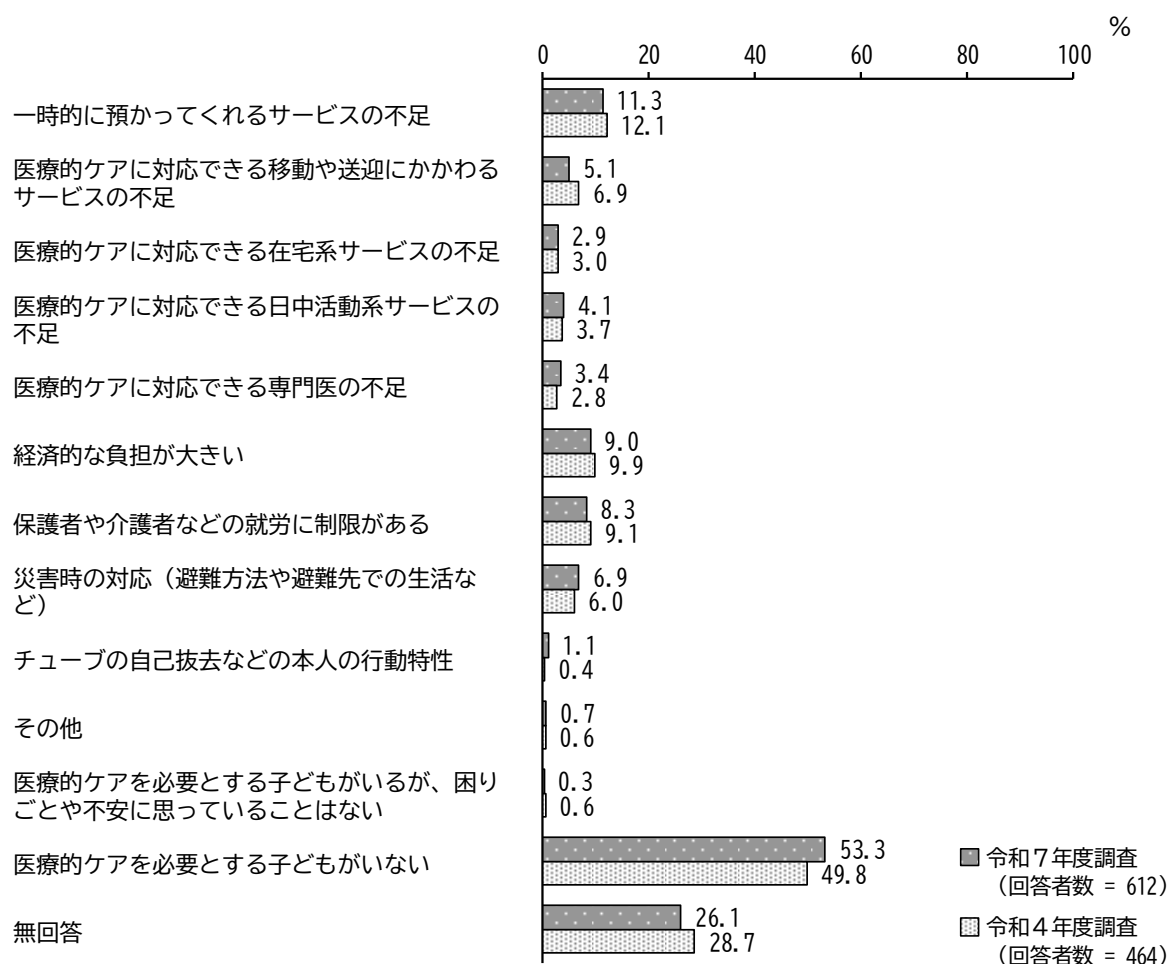
障害種別にみると、精神障害で「お子様の就職のこと」、重症心身障害で「親が亡くなった後の住まいについて」「親が亡くなった後の生活費について」「親が亡くなった後の介護者について」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	と お子様の 進学のこと	と お子様の 就職のこと	と お子様の 結婚のこと	友人や仲間、 理解者が いるか	自立した生活が できるか	親が亡くなった後 の住まいについて	親が亡くなった後 の生活費について	親が亡くなった後 の介護者について	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	612	49.5	56.5	26.6	47.1	55.4	43.1	45.9	33.3	2.3	2.3	16.0
身体障害	58	36.2	29.3	17.2	36.2	39.7	56.9	56.9	60.3	6.9	1.7	6.9
知的障害	216	33.3	58.8	25.9	50.0	65.3	70.8	69.9	68.5	4.2	0.5	8.3
精神障害	27	51.9	66.7	33.3	55.6	63.0	74.1	74.1	70.4	7.4	0.0	7.4
難病	38	28.9	34.2	18.4	31.6	26.3	55.3	52.6	63.2	2.6	2.6	10.5
発達障害	387	57.6	61.0	27.6	48.6	55.6	38.0	41.9	24.3	2.1	1.3	18.6
高次脳機能障害	4	75.0	75.0	50.0	50.0	75.0	75.0	75.0	75.0	0.0	0.0	0.0
重症心身障害	15	13.3	13.3	6.7	26.7	13.3	93.3	80.0	93.3	0.0	0.0	6.7
強度行動障害	5	20.0	40.0	0.0	60.0	80.0	100.0	80.0	100.0	20.0	0.0	0.0

問 58 あなたが、医療的ケアを必要とするお子様の介護について、困りごとや不安に思っていることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「一時的に預かってくれるサービスの不足」の割合が11.3%と最も高くなっています。



【障害種別】

障害種別にみると、重症心身障害で「一時的に預かってくれるサービスの不足」「医療的ケアに対応できる移動や送迎にかかわるサービスの不足」「医療的ケアに対応できる在宅系サービスの不足」「医療的ケアに対応できる日中活動系サービスの不足」「経済的な負担が大きい」「保護者や介護者などの就労に制限がある」「災害時の対応（避難方法や避難先での生活など）」「チューブの自己抜去などの本人の行動特性」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	一時的に預かってくれるサービスの不足	医療的ケアに対応できる移動や送迎にかかわるサービスの不足	医療的ケアに対応できる在宅系サービスの不足	医療的ケアに対応できる日中活動系サービスの不足	医療的ケアに対応できる専門医の不足	経済的な負担が大きい	保護者や介護者などの就労に制限がある	災害時の対応（避難方法や避難先での生活など）	チューブの自己抜去などの本人の行動特性	その他	医療的ケアを必要とする子どもがいるが、困りごとや不安に思っていることはない	医療的ケアを必要とする子どもがいない	無回答
全 体	612	11.3	5.1	2.9	4.1	3.4	9.0	8.3	6.9	1.1	0.7	0.3	53.3	26.1
身体障害	58	32.8	15.5	12.1	10.3	8.6	20.7	27.6	24.1	8.6	0.0	0.0	44.8	12.1
知的障害	216	16.2	8.3	4.6	6.0	4.2	11.1	13.9	12.0	3.2	0.5	0.0	58.3	15.7
精神障害	27	18.5	14.8	11.1	14.8	11.1	22.2	18.5	22.2	3.7	0.0	3.7	40.7	14.8
難病	38	31.6	13.2	7.9	7.9	7.9	15.8	23.7	36.8	13.2	0.0	2.6	44.7	10.5
発達障害	387	10.1	4.1	1.8	3.6	3.4	8.5	7.0	5.4	0.3	0.5	0.5	50.9	29.7
高次脳機能障害	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
重症心身障害	15	73.3	40.0	26.7	20.0	13.3	53.3	73.3	53.3	26.7	0.0	0.0	0.0	6.7
強度行動障害	5	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	40.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0

第4章

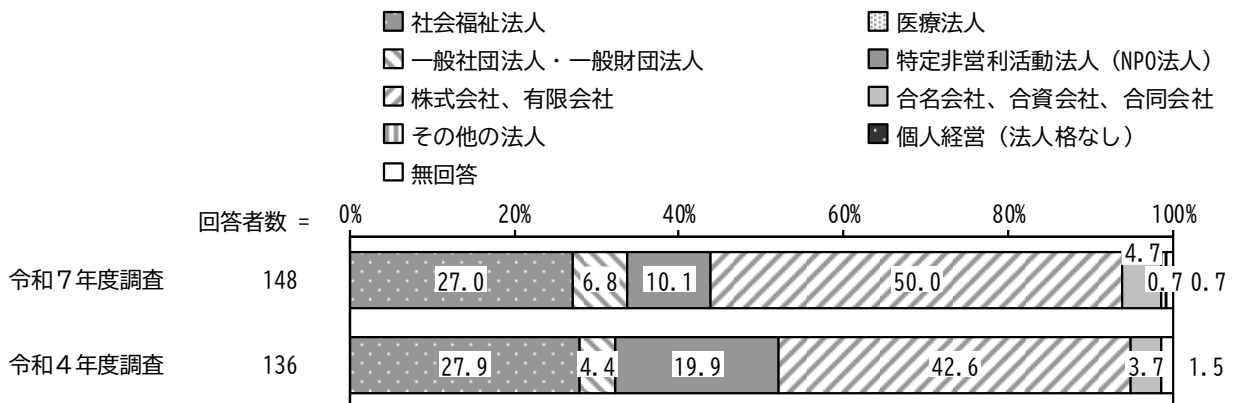
サービス提供事業所調査

(1) 事業所について

問1 貴事業所の経営主体について、お聞きします。あてはまるもの1つに○をつけてください。

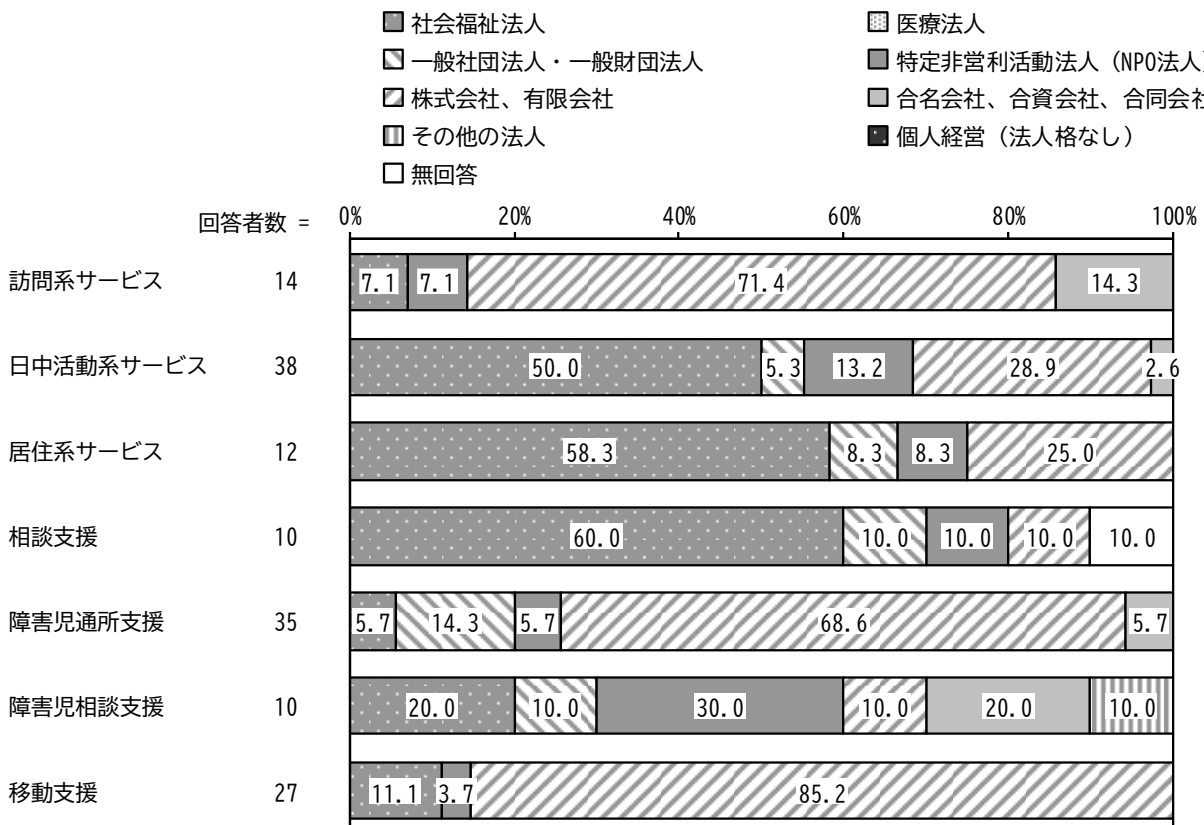
「株式会社、有限会社」の割合が50.0%と最も高く、次いで「社会福祉法人」の割合が27.0%、「特定非営利活動法人（NPO法人）」の割合が10.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「株式会社、有限会社」の割合が増加しています。一方、「特定非営利活動法人（NPO法人）」の割合が減少しています。



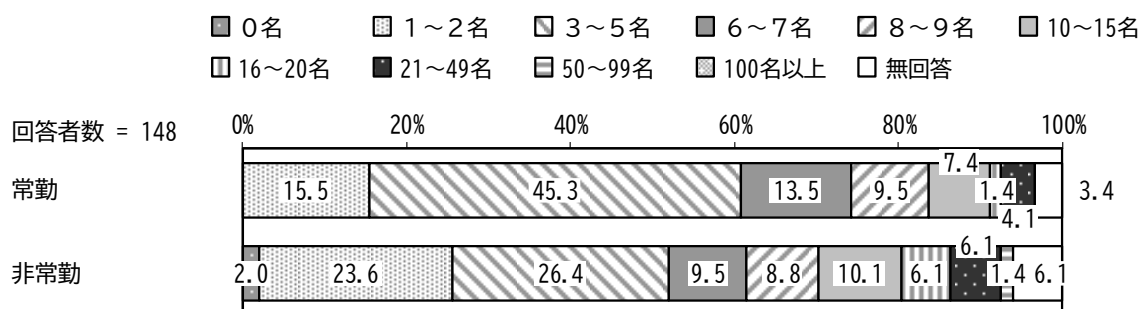
【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービス、相談支援で「社会福祉法人」、障害児相談支援で「特定非営利活動法人（NPO法人）」「合名会社、合資会社、合同会社」、移動支援で「株式会社、有限会社」の割合が高くなっています。



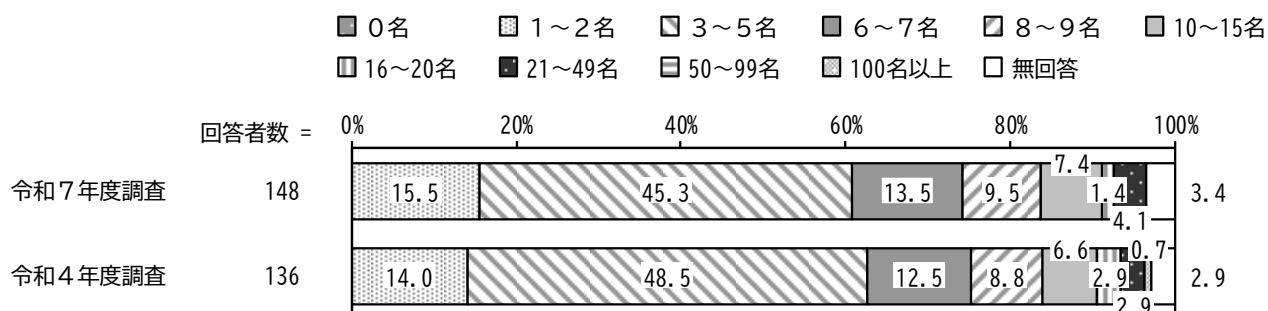
問2 貴事業所の職員数について、常勤、非常勤のそれぞれに人数を記入してください。（令和7年9月1日時点をお願いします。）

『非常勤』で「0名」「1～2名」「10～15名」「16～20名」「21～49名」「50～99名」が、『常勤』で「3～5名」「6～7名」「8～9名」が高くなっています。



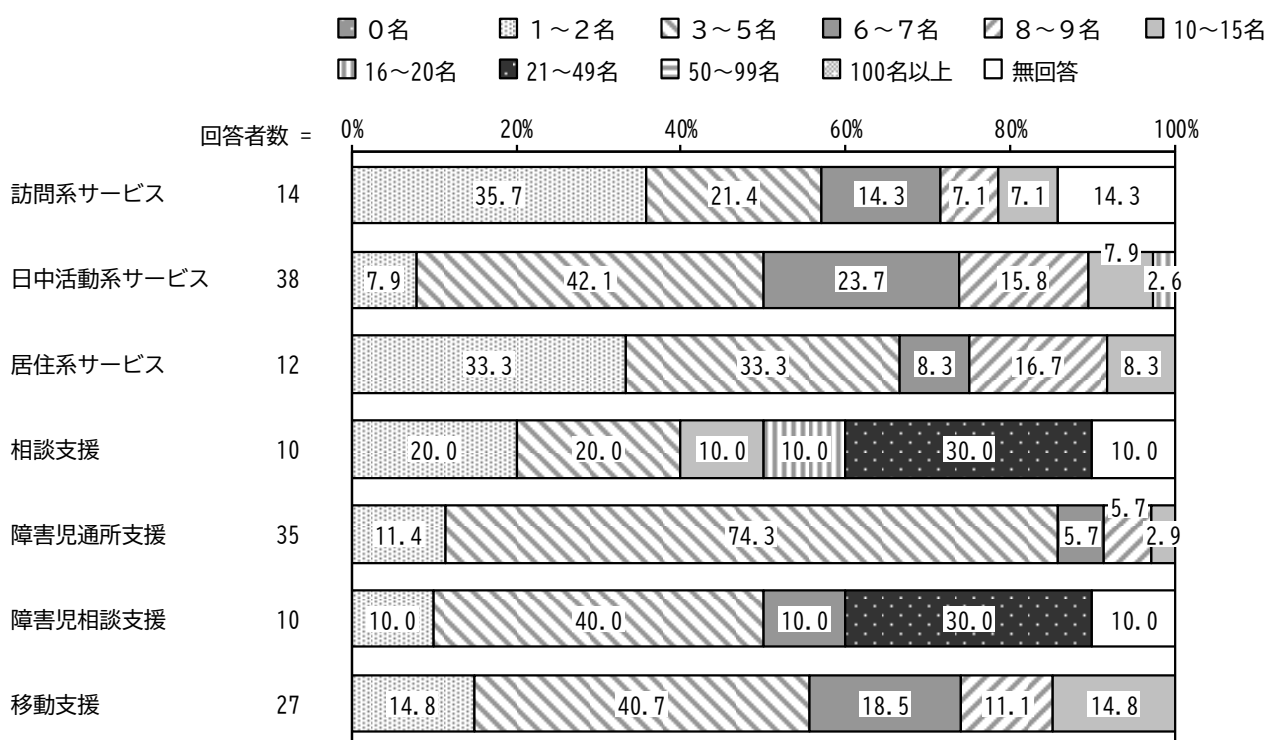
常勤

【経年比較】



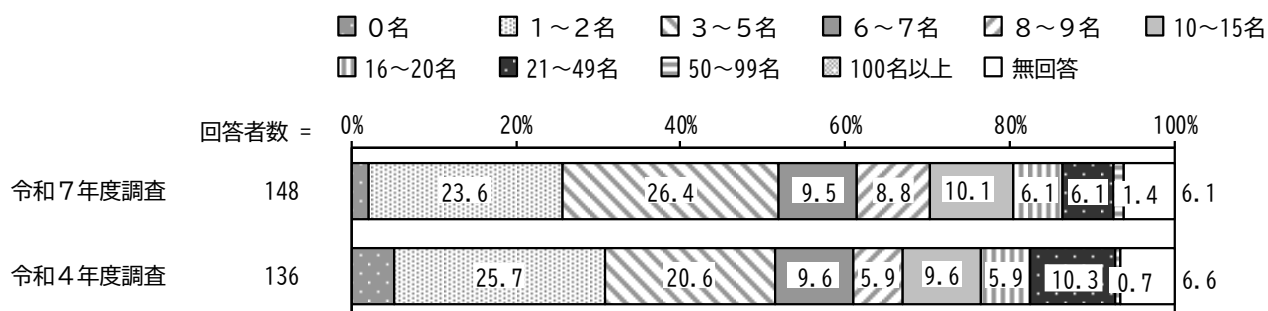
【サービス種別】

サービス種別にみると、訪問系サービス、居住系サービスで「1～2名」、障害児通所支援で「3～5名」、日中活動系サービスで「6～7名」、相談支援、障害児相談支援で「21～49名」の割合が高くなっています。



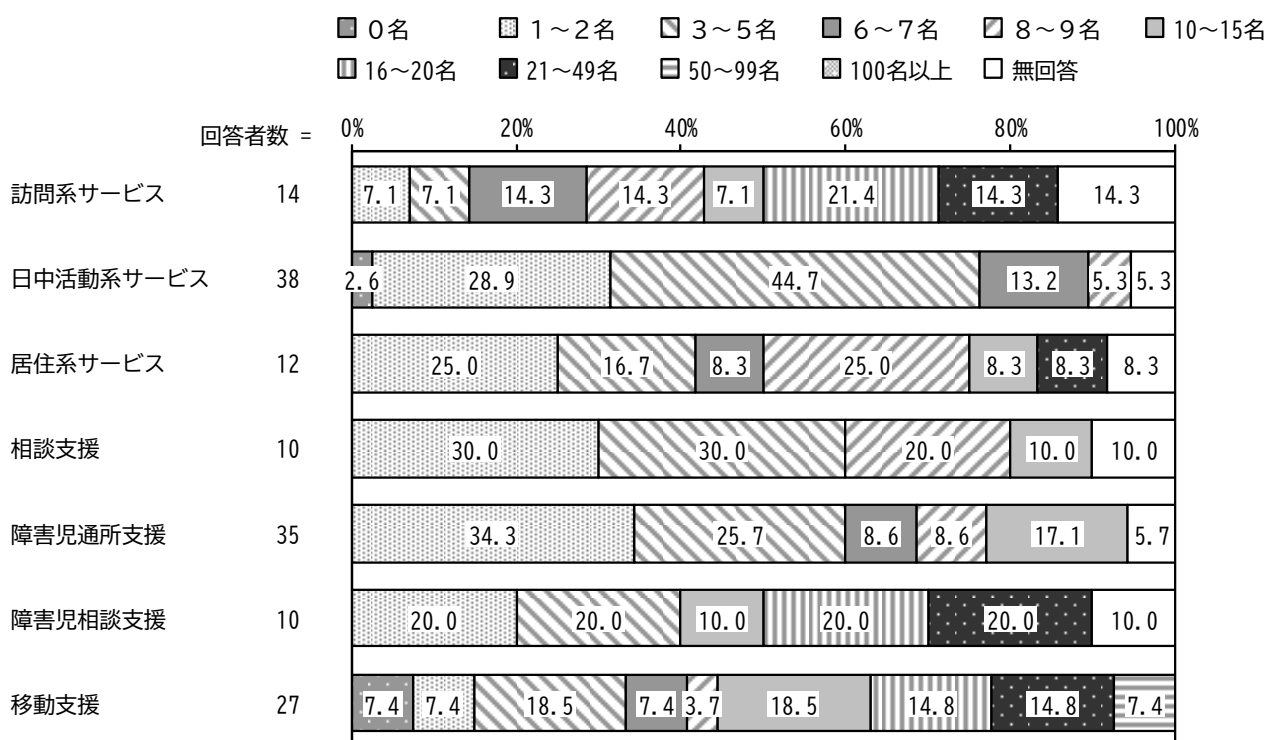
非常勤

【経年比較】



【サービス種別】

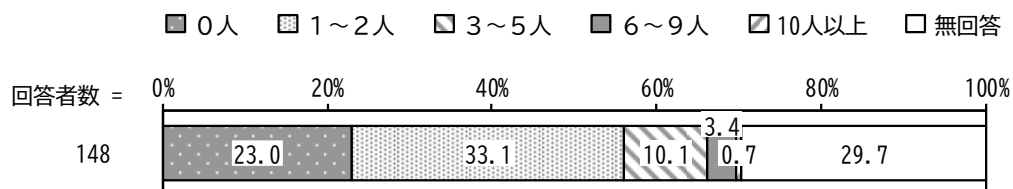
サービス種別にみると、障害児通所支援で「1～2名」、日中活動系サービスで「3～5名」、居住系サービスで「8～9名」、訪問系サービス、障害児相談支援で「16～20名」、障害児相談支援で「21～49名」の割合が高くなっています。



問3 貴事業所に在籍する職員の貴事業所での経験年数についてお聞きします。あてはまる経験年数にそれぞれに人数を記入してください。（令和7年9月1日時点をお願いします。）

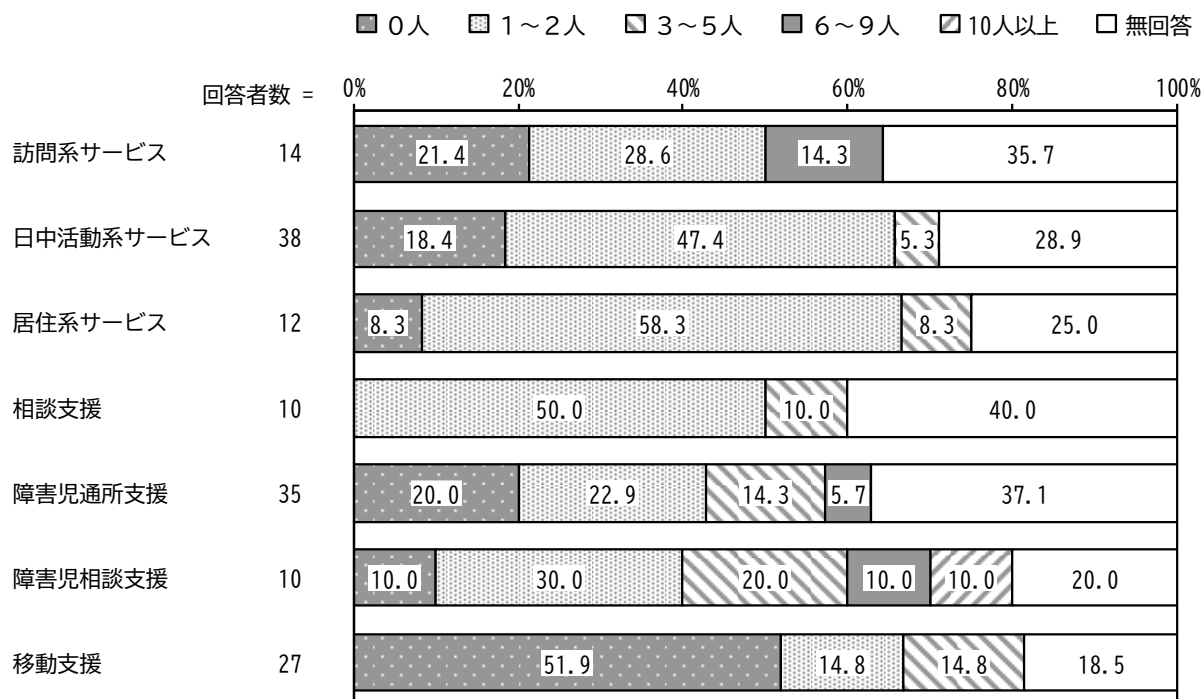
6か月未満

「1～2人」の割合が33.1%と最も高く、次いで「0人」の割合が23.0%、「3～5人」の割合が10.1%となっています。



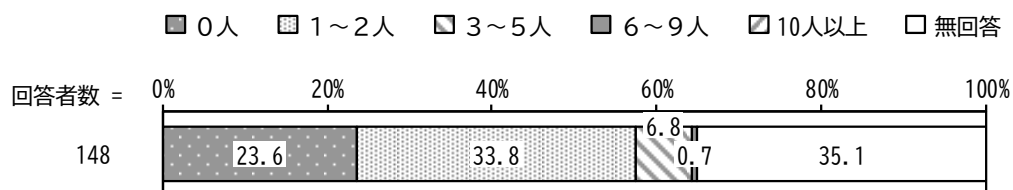
【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「0人」、居住系サービスで「1～2人」、訪問系サービスで「6～9人」の割合が高くなっています。



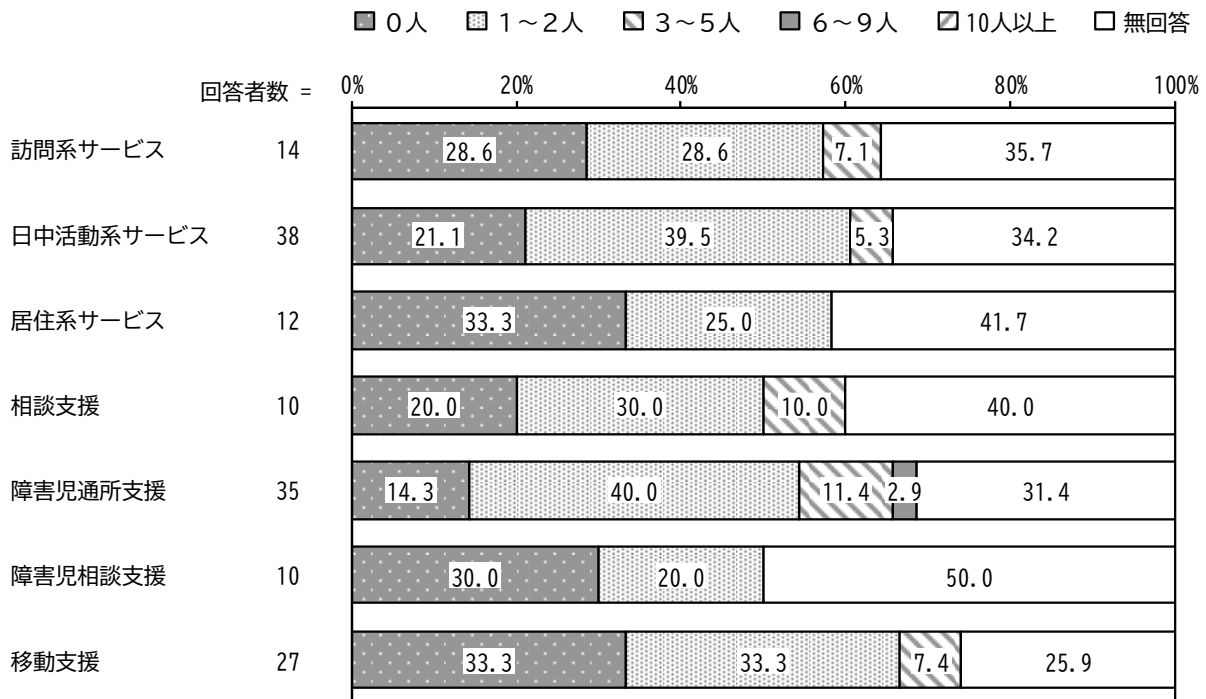
6か月以上1年未満

「1～2人」の割合が33.8%と最も高く、次いで「0人」の割合が23.6%となっています。



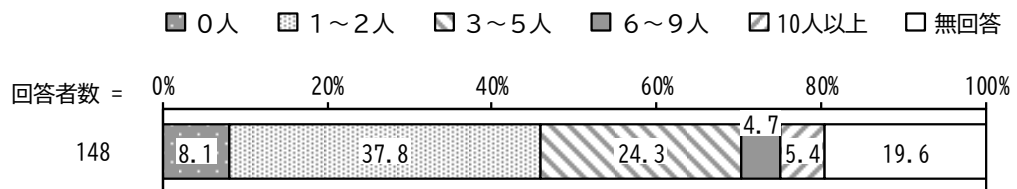
【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービス、移動支援で「0人」、日中活動系サービス、障害児通所支援で「1～2人」の割合が高くなっています。



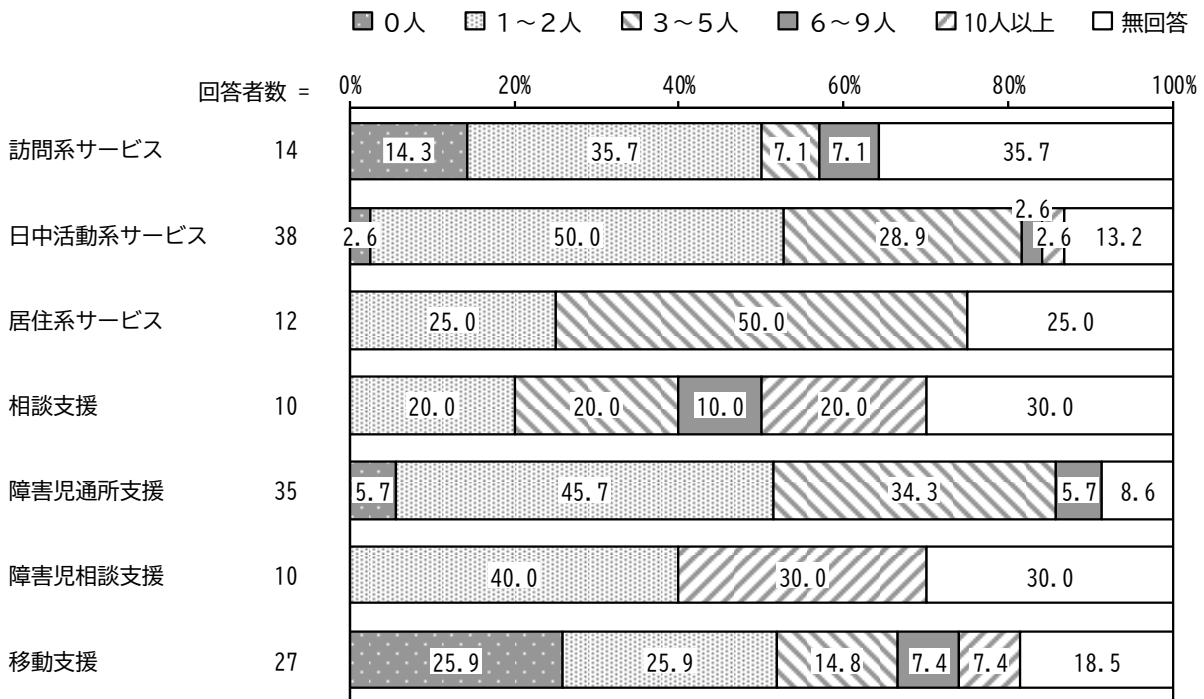
1年以上3年未満

「1～2人」の割合が37.8%と最も高く、次いで「3～5人」の割合が24.3%となっています。



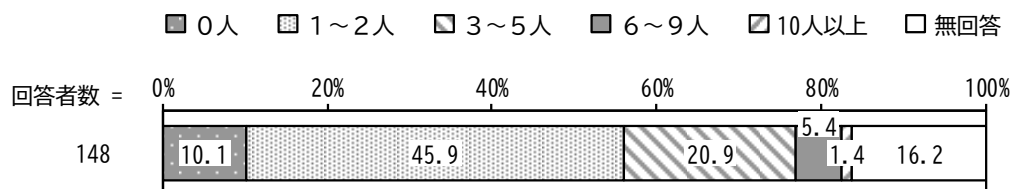
【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「0人」、日中活動系サービスで「1～2人」、居住系サービスで「3～5人」、障害児相談支援で「10人以上」の割合が高くなっています。



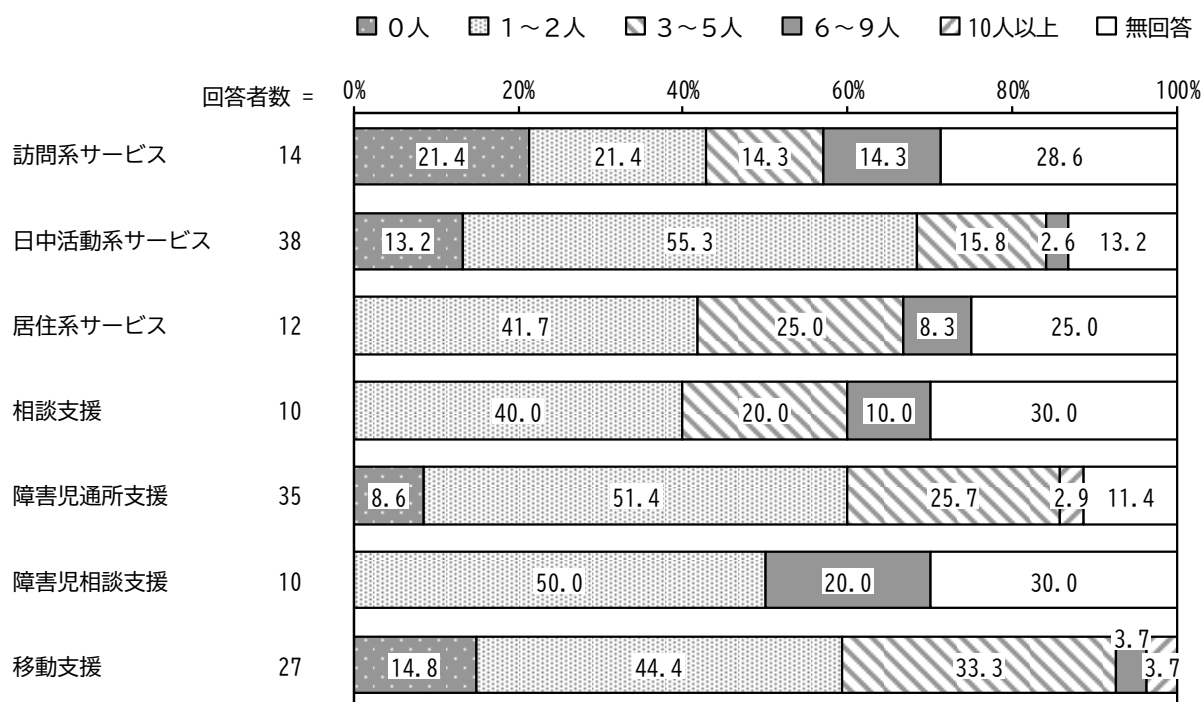
3年以上5年未満

「1～2人」の割合が 45.9%と最も高く、次いで「3～5人」の割合が 20.9%、「0人」の割合が 10.1%となっています。



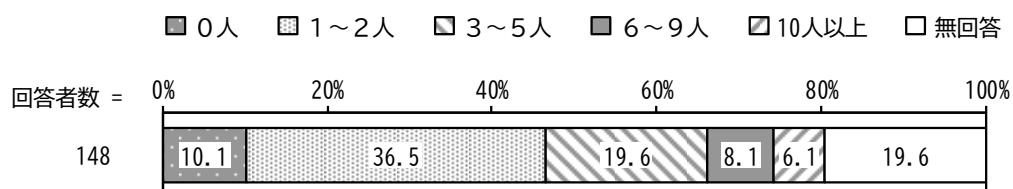
【サービス種別】

サービス種別にみると、訪問系サービスで「0人」、移動支援で「3～5人」、障害児相談支援で「6～9人」の割合が高くなっています。



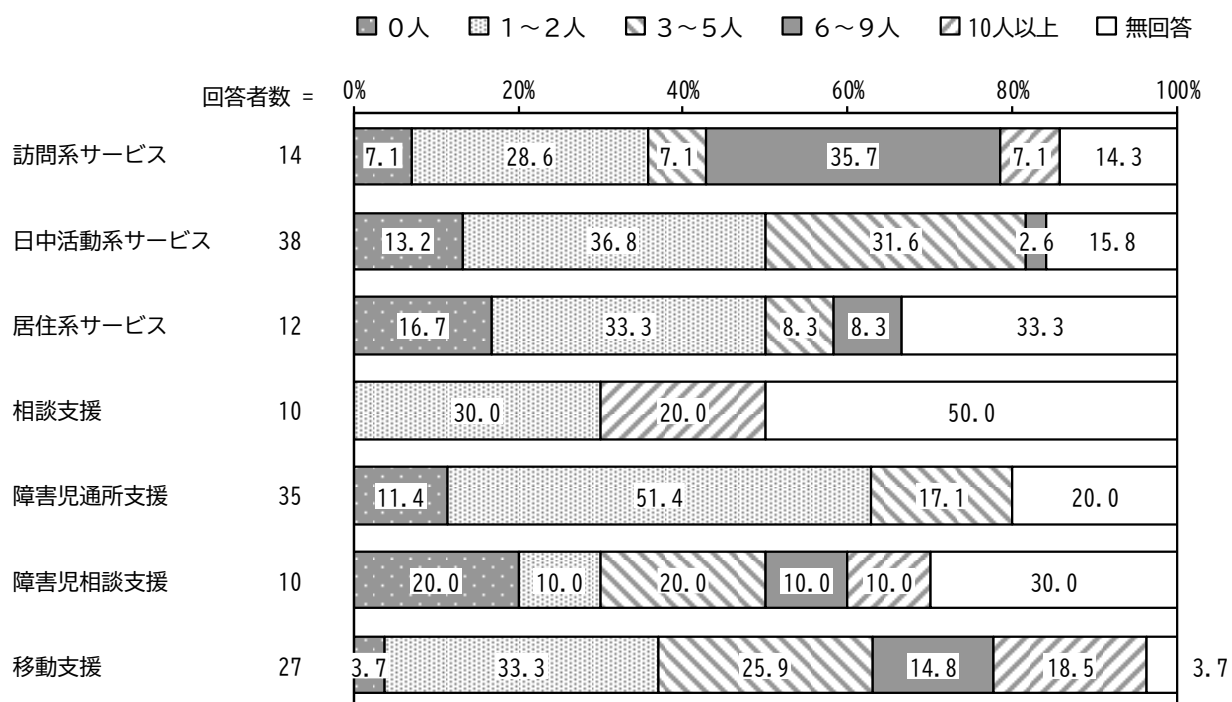
5年以上10年未満

「1～2人」の割合が 36.5%と最も高く、次いで「3～5人」の割合が 19.6%、「0人」の割合が 10.1%となっています。



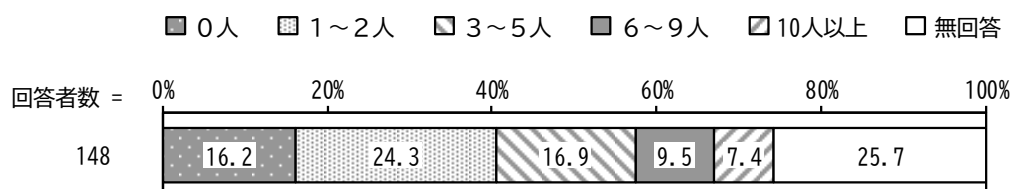
【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児通所支援で「1～2人」、日中活動系サービスで「3～5人」、訪問系サービスで「6～9人」、相談支援、移動支援で「10人以上」の割合が高くなっています。



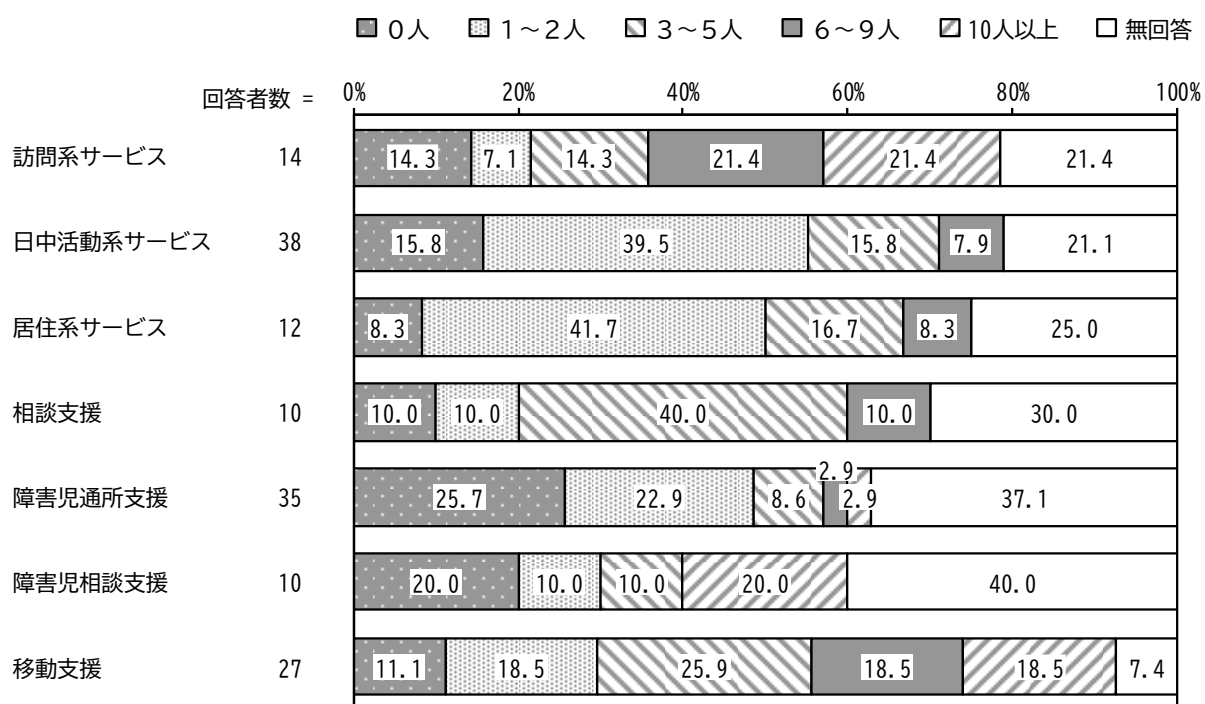
10年以上

「1～2人」の割合が 24.3%と最も高く、次いで「3～5人」の割合が 16.9%、「0人」の割合が 16.2%となっています。



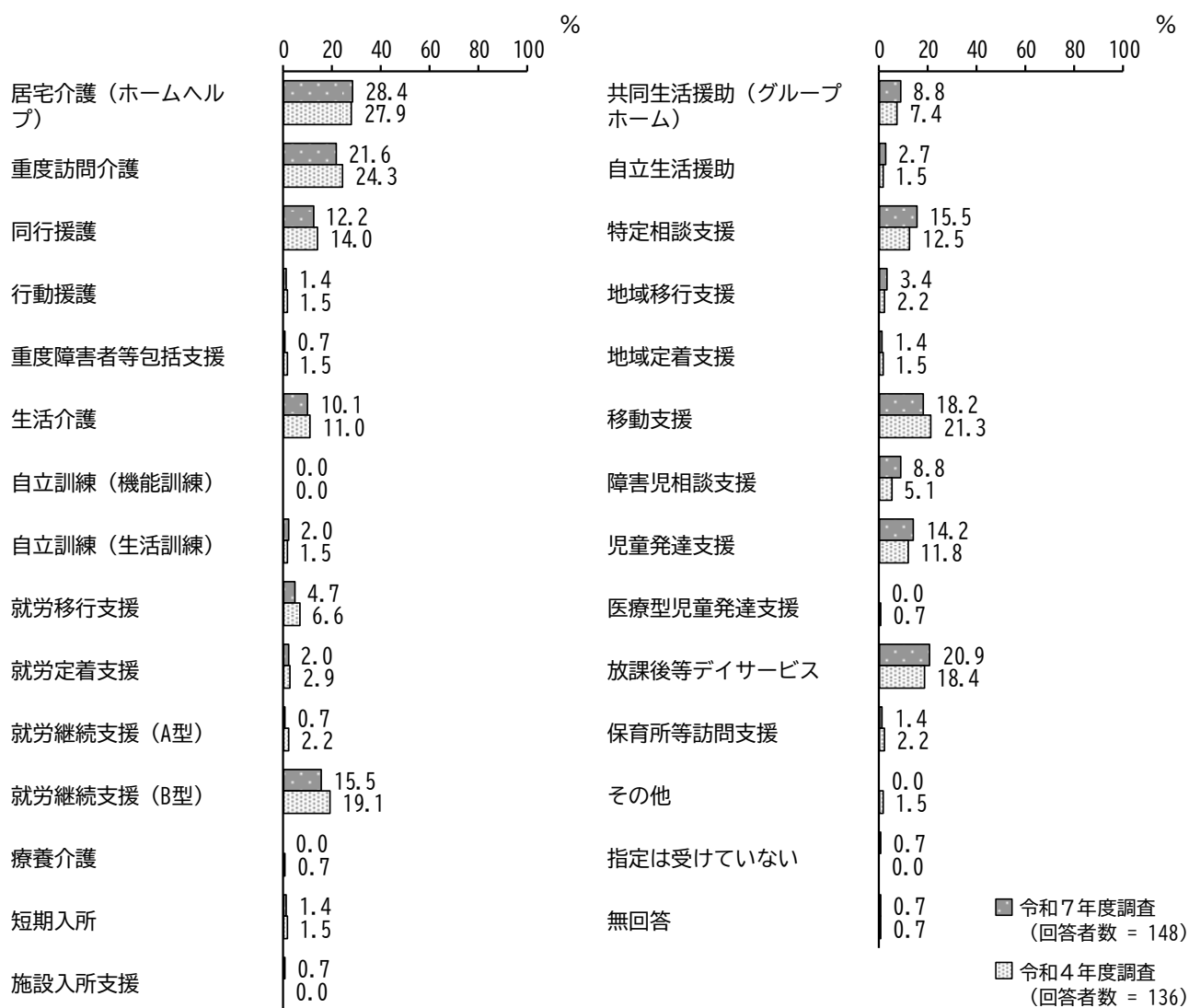
【サービス種別】

サービス種別にみると、日中活動系サービス、居住系サービスで「1～2人」、相談支援で「3～5人」、訪問系サービスで「6～9人」、訪問系サービス、障害児相談支援、移動支援で「10人以上」の割合が高くなっています。



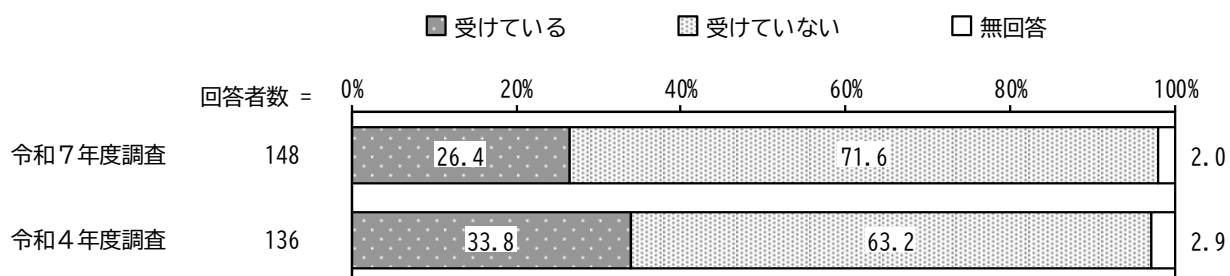
問4 貴事業所が指定を受けているサービスについて、指定を受けているものすべてに○をつけてください。

「居宅介護（ホームヘルプ）」の割合が28.4%と最も高く、次いで「重度訪問介護」の割合が21.6%、「放課後等デイサービス」の割合が20.9%となっています。



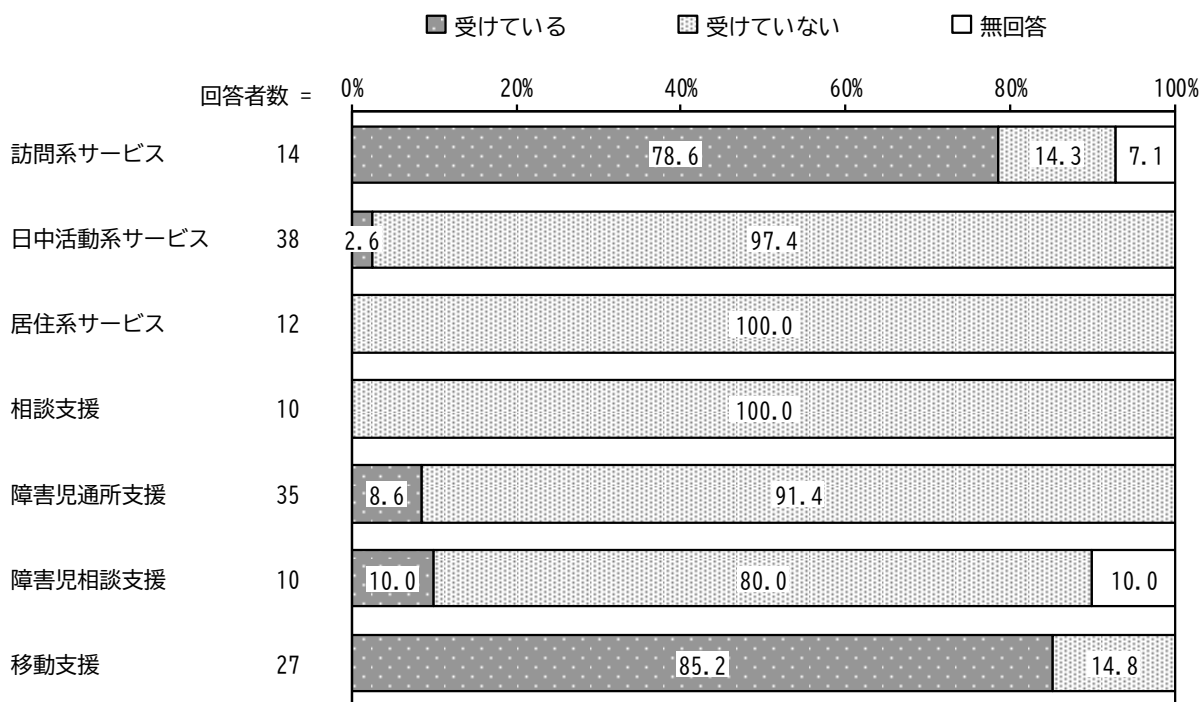
問5 貴事業所は、介護保険サービスの指定を受けていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「受けている」の割合が26.4%、「受けていない」の割合が71.6%となっています。
令和4年度調査と比較すると、「受けていない」の割合が増加しています。



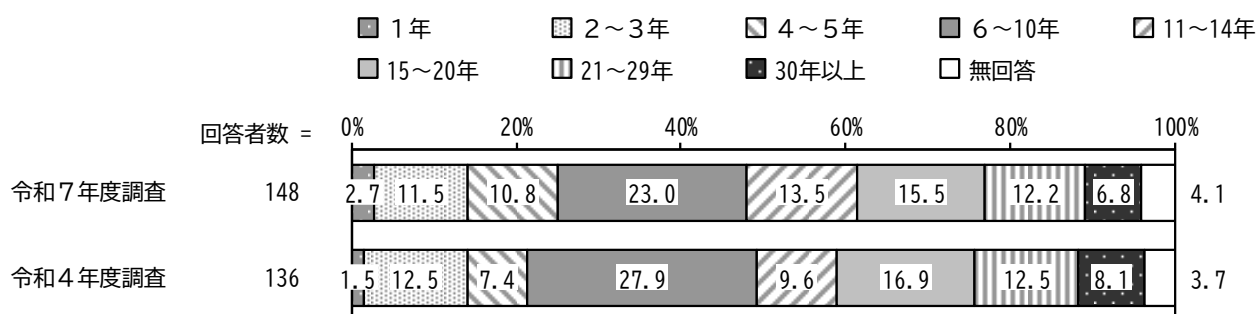
【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「受けている」の割合が高くなっています。



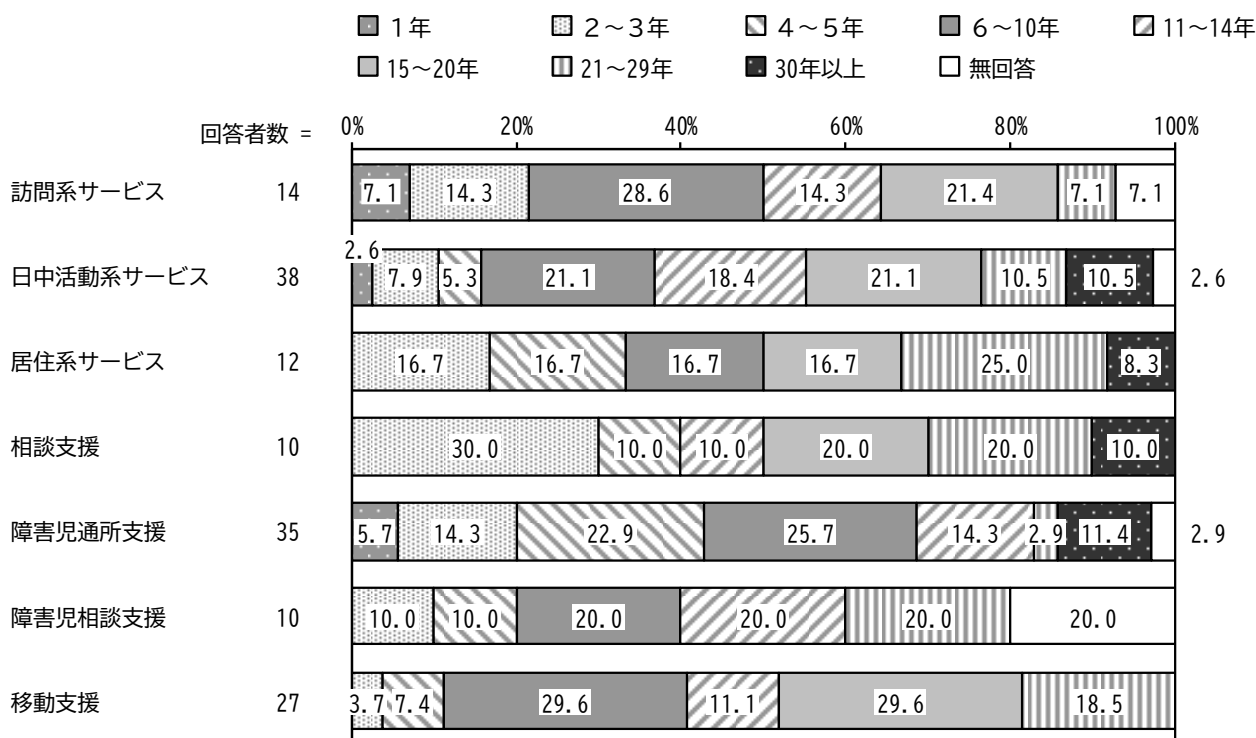
問6 貴事業所の開業年をお聞きします。

「6～10年」の割合が23.0%と最も高く、次いで「15～20年」の割合が15.5%、「11～14年」の割合が13.5%となっています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、相談支援で「2～3年」、障害児通所支援で「4～5年」、移動支援で「15～20年」、居住系サービスで「21～29年」の割合が高くなっています。



(2) サービスの提供について

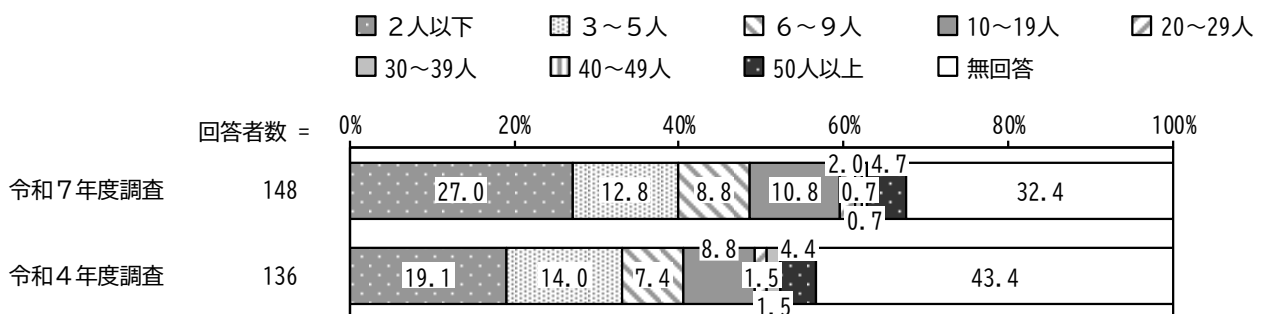
問7 貴事業所でサービスを提供している利用者数について、障害別に人数を記入してください。また、そのうち児童の人数を記入してください。
※令和7年8月の1か月分の回答をお願いします。

ア) 身体障害

利用者数

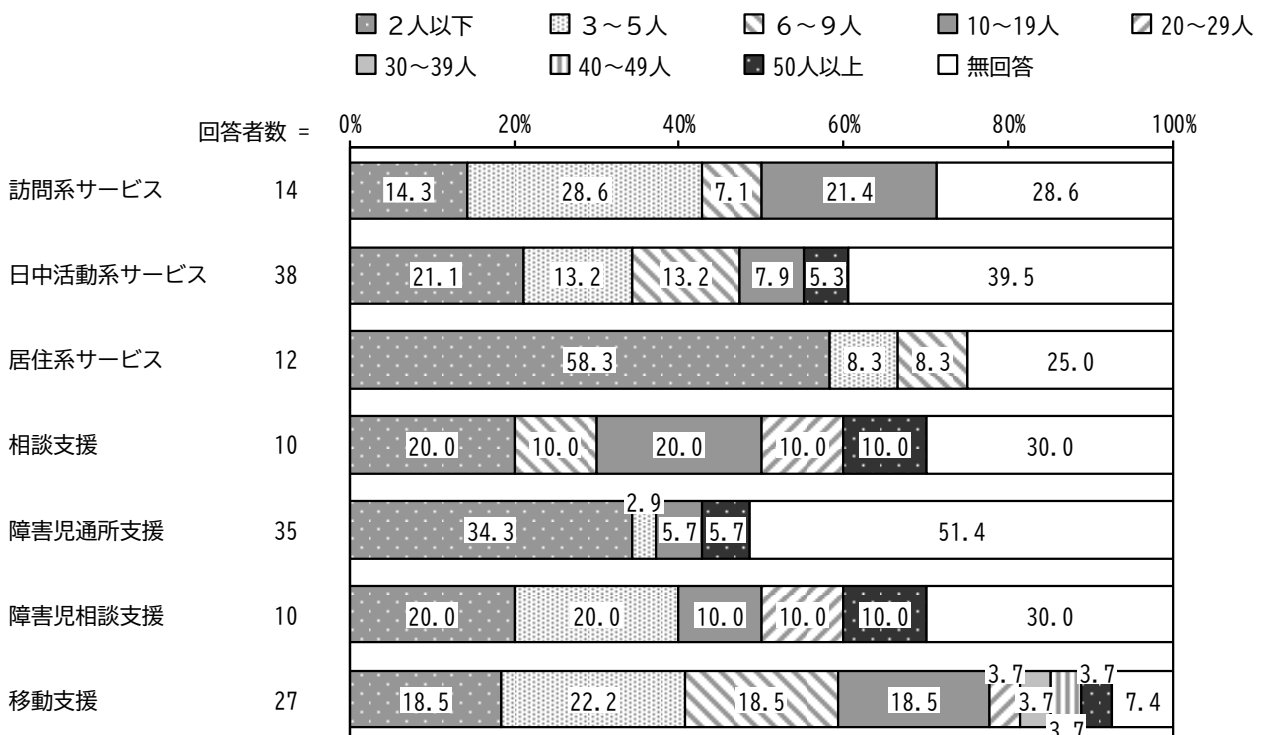
「2人以下」の割合が27.0%と最も高く、次いで「3～5人」の割合が12.8%、「10～19人」の割合が10.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「2人以下」の割合が増加しています。



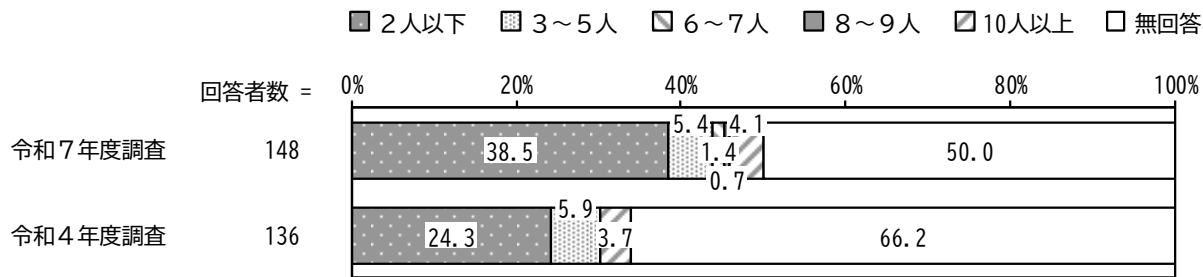
【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービスで「2人以下」、訪問系サービスで「3～5人」、移動支援で「6～9人」、訪問系サービス、相談支援、移動支援で「10～19人」、相談支援、障害児相談支援で「20～29人」「50人以上」の割合が高くなっています。



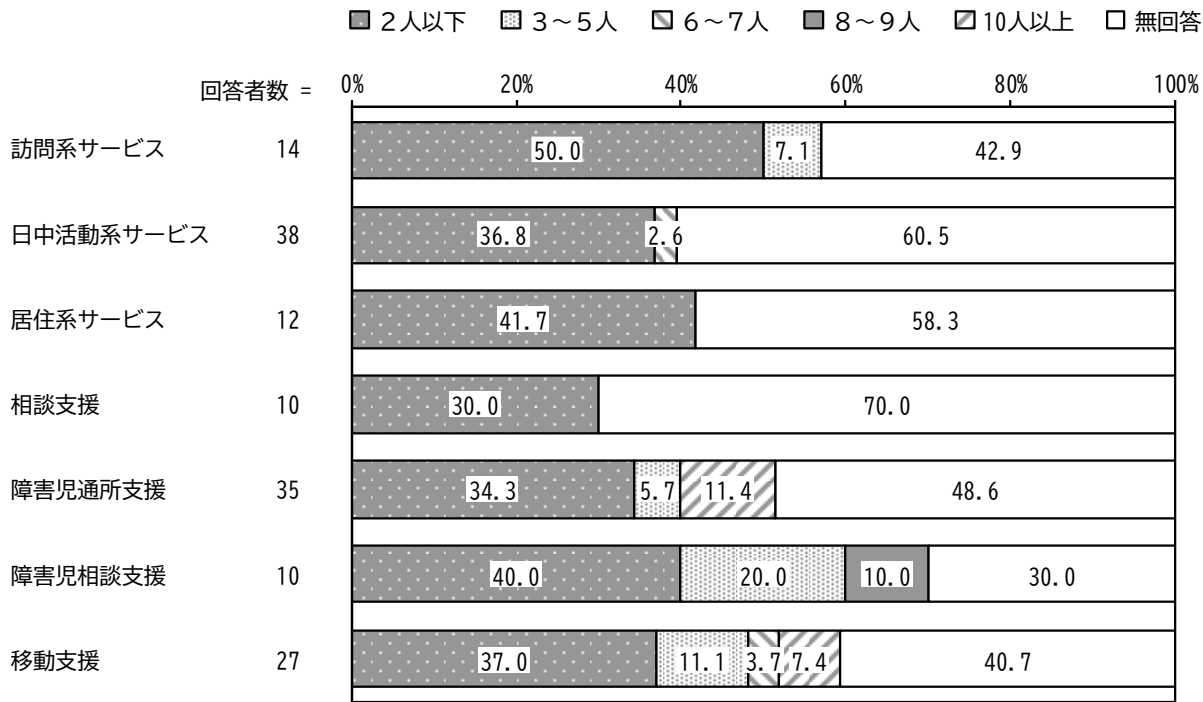
うち、利用児童数

「2人以下」の割合が38.5%と最も高くなっています。
令和4年度調査と比較すると、「2人以下」の割合が増加しています。



【サービス種別】

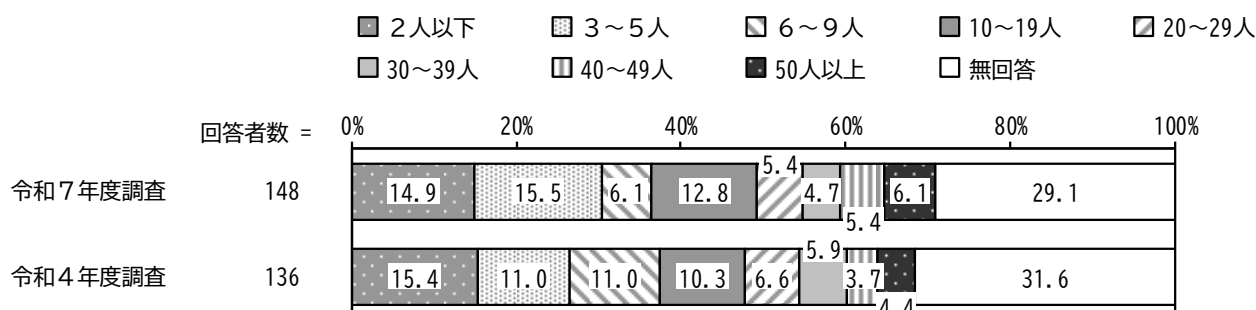
サービス種別にみると、訪問系サービスで「2人以下」、障害児相談支援で「3～5人」「8～9人」、障害児通所支援で「10人以上」の割合が高くなっています。



イ) 知的障害

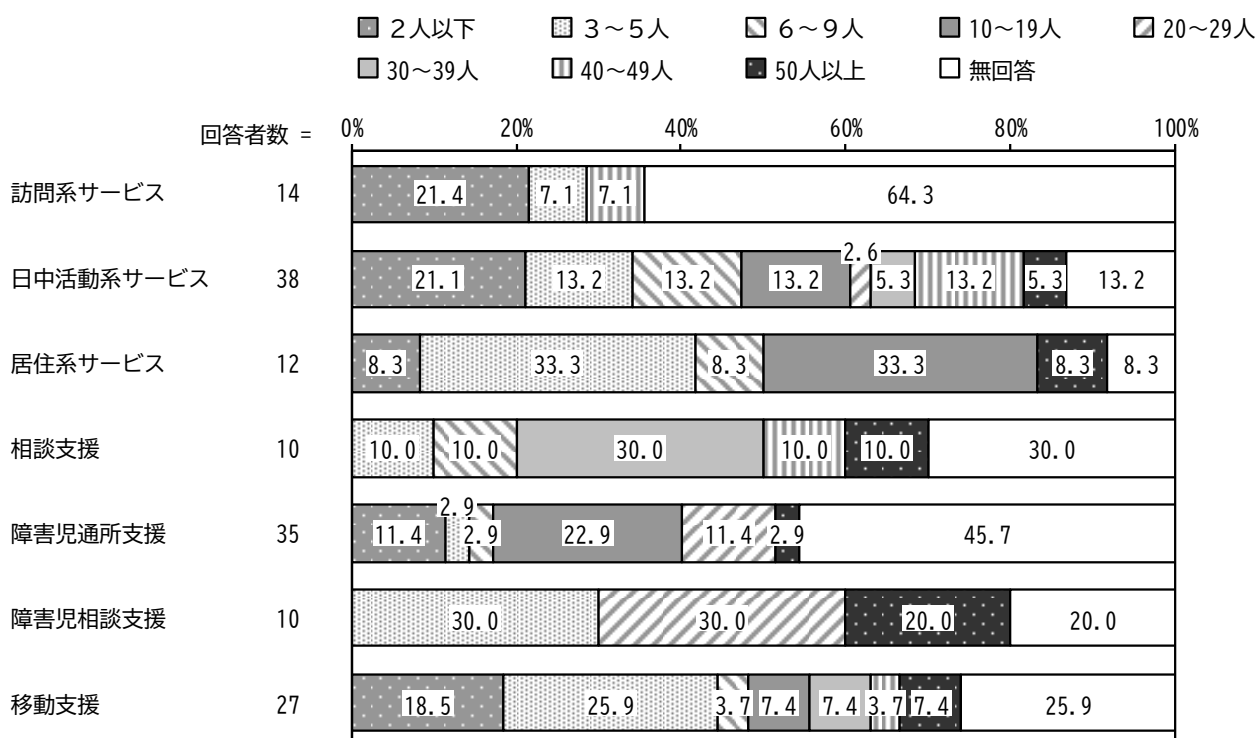
利用者数

「3～5人」の割合が15.5%と最も高く、次いで「2人以下」の割合が14.9%、「10～19人」の割合が12.8%となっています。



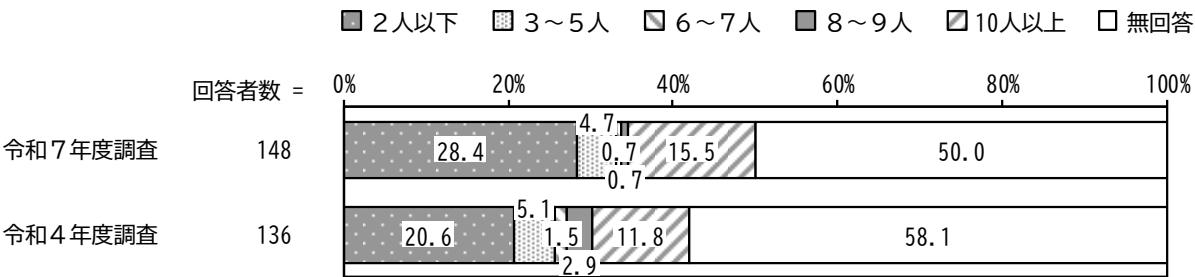
【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービスで「3～5人」「10～19人」、障害児相談支援で「20～29人」「50人以上」、相談支援で「30～39人」の割合が高くなっています。



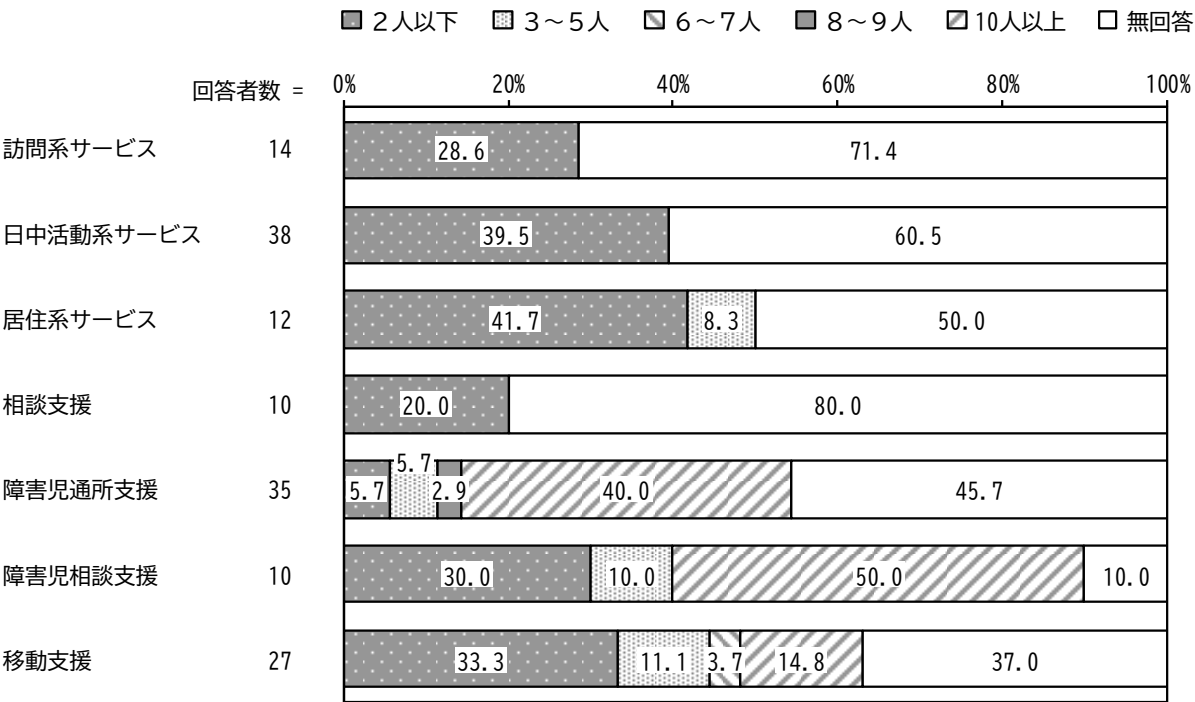
うち、利用児童数

「2 人以下」の割合が 28.4%と最も高く、次いで「10 人以上」の割合が 15.5%となっています。
令和4 年度調査と比較すると、「2 人以下」の割合が増加しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、日中活動系サービス、居住系サービスで「2 人以下」、障害児相談支援、移動支援で「3～5 人」、障害児相談支援で「10 人以上」の割合が高くなっています。

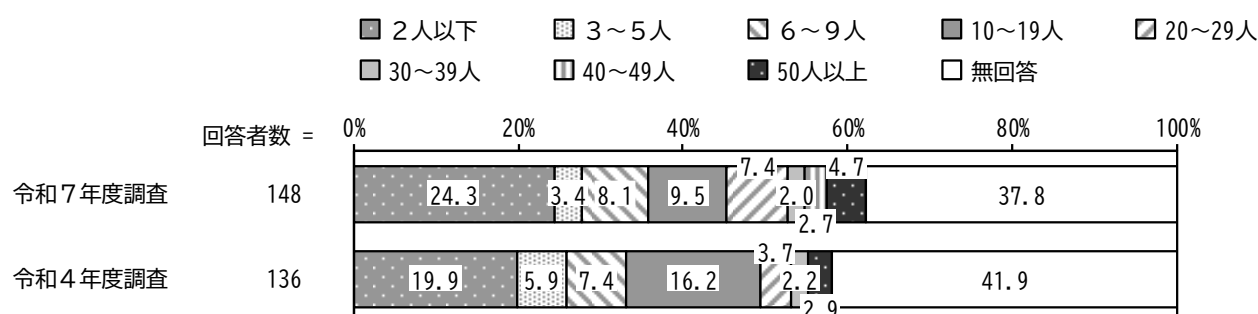


ウ) 精神障害

利用者数

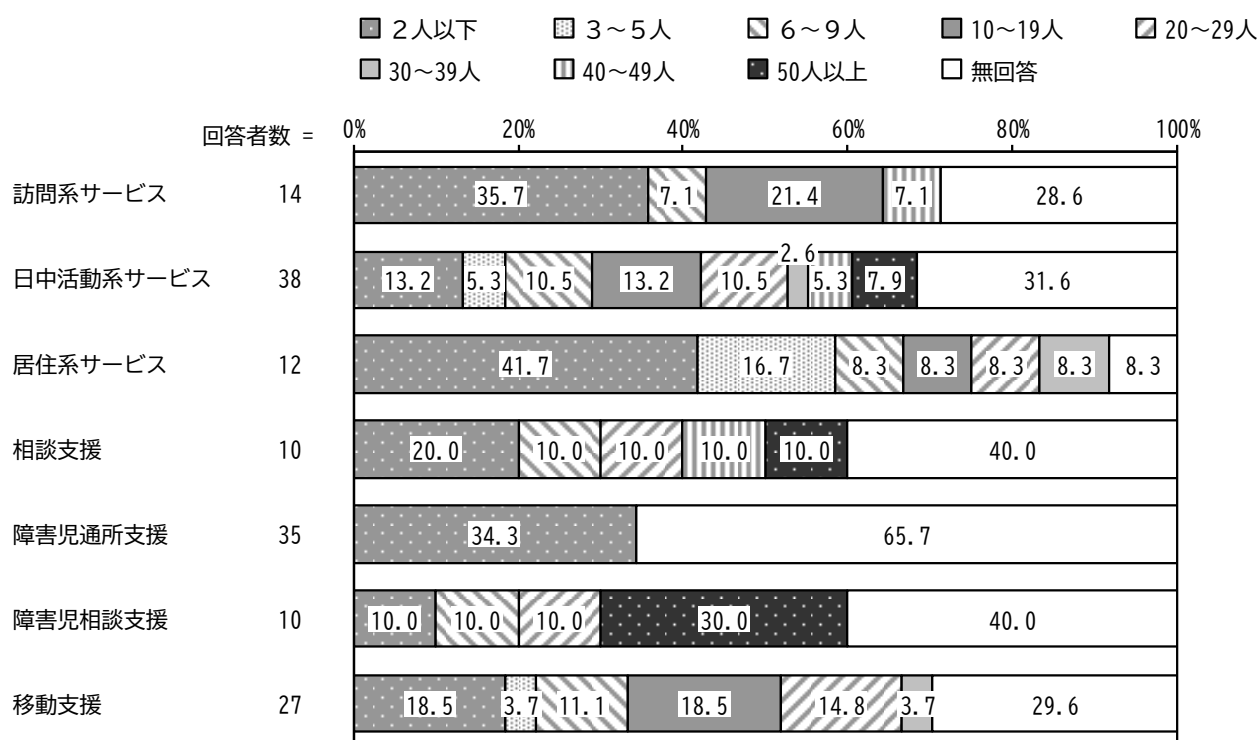
「2人以下」の割合が24.3%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「10～19人」の割合が減少しています。



【サービス種別】

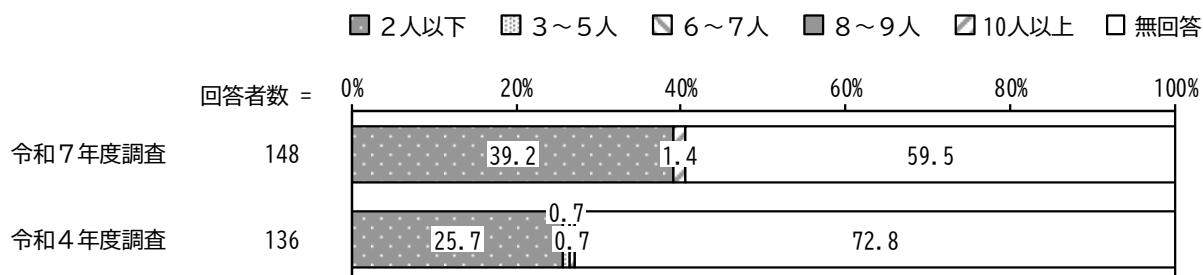
サービス種別にみると、居住系サービスで「2人以下」「3～5人」、訪問系サービスで「10～19人」、障害児相談支援で「50人以上」の割合が高くなっています。



うち、利用児童数

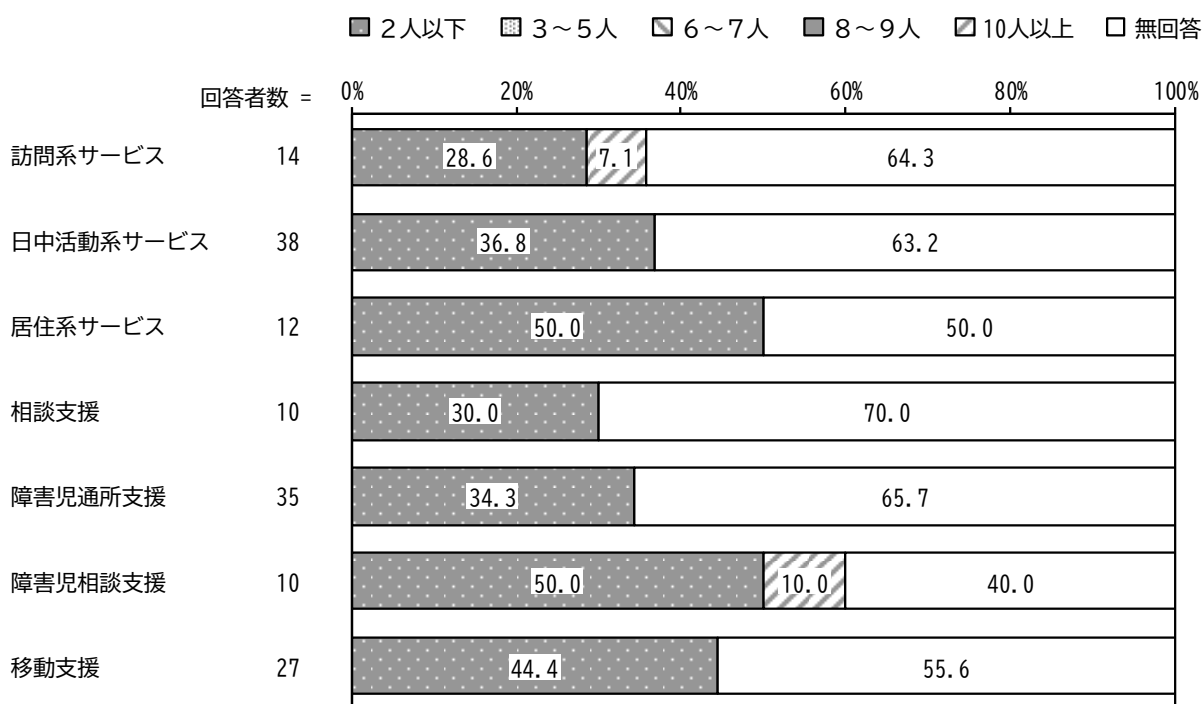
「2人以下」の割合が39.2%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「2人以下」の割合が増加しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービス、障害児相談支援で「2人以下」、訪問系サービス、障害児相談支援で「10人以上」の割合が高くなっています。

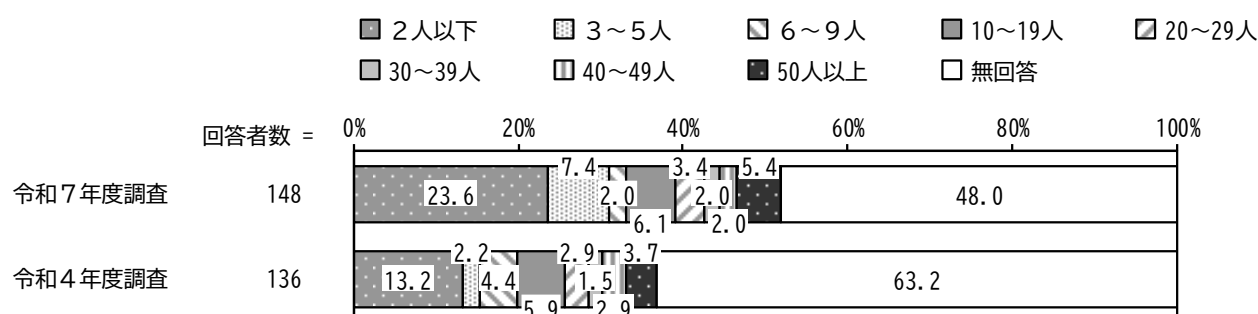


工) 発達障害

利用者数

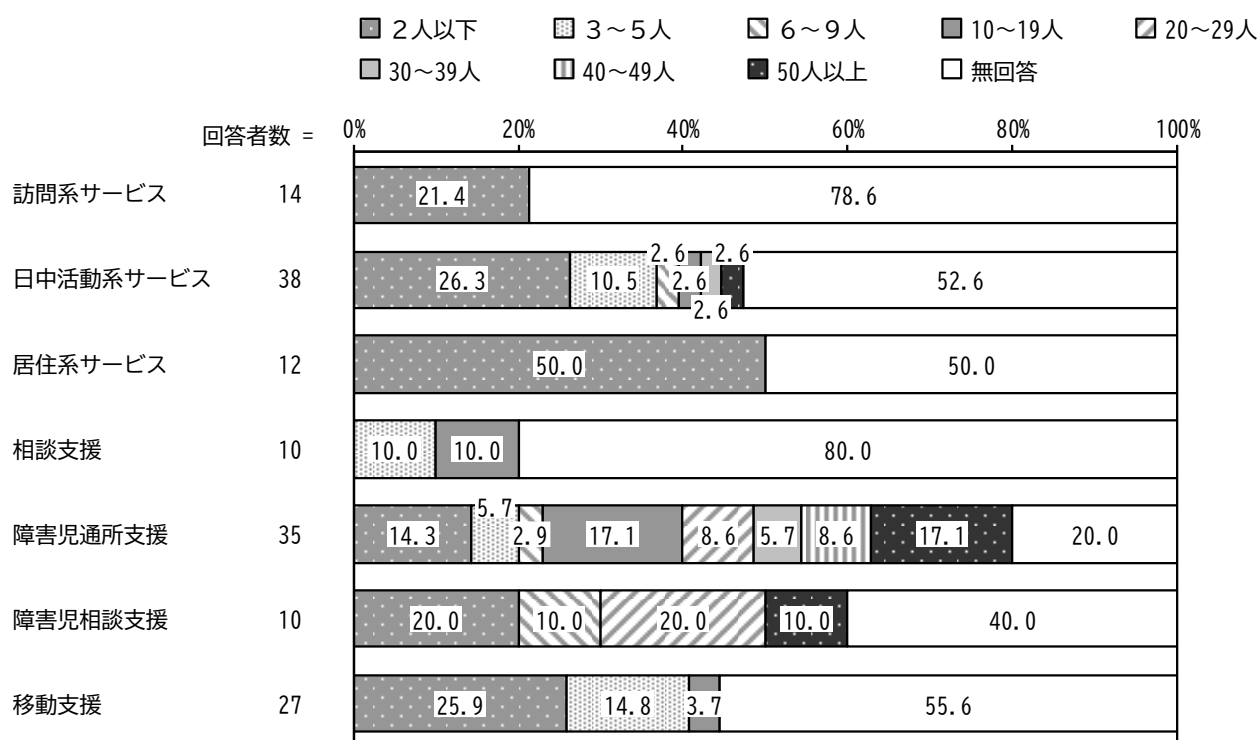
「2人以下」の割合が23.6%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「2人以下」「3～5人」の割合が増加しています。



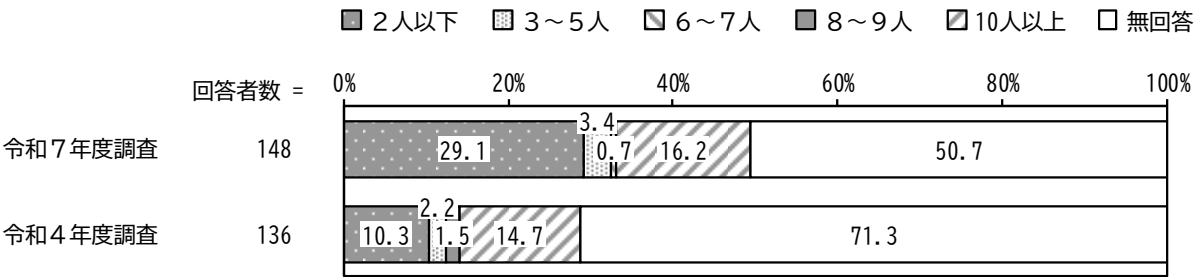
【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービスで「2人以下」、障害児通所支援で「10～19人」「50人以上」、障害児相談支援で「20～29人」の割合が高くなっています。



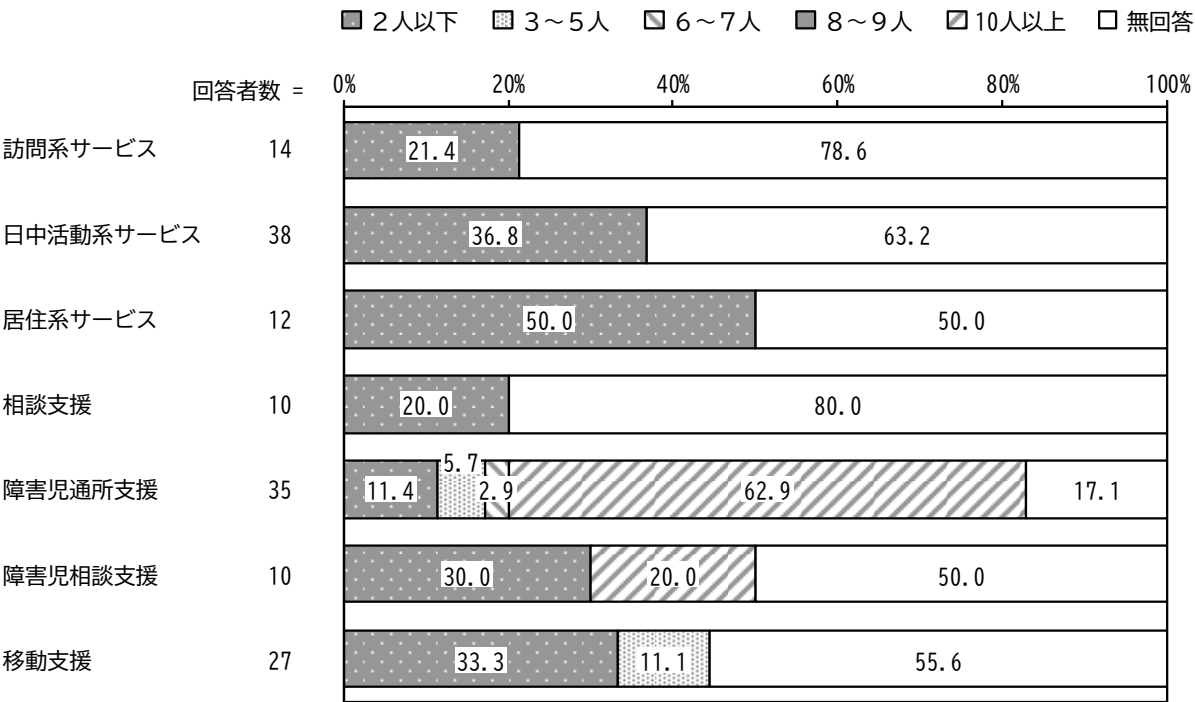
うち、利用児童数

「2人以下」の割合が29.1%と最も高く、次いで「10人以上」の割合が16.2%となっています。
令和4年度調査と比較すると、「2人以下」の割合が増加しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービスで「2人以下」、移動支援で「3～5人」、障害児通所支援で「10人以上」の割合が高くなっています。

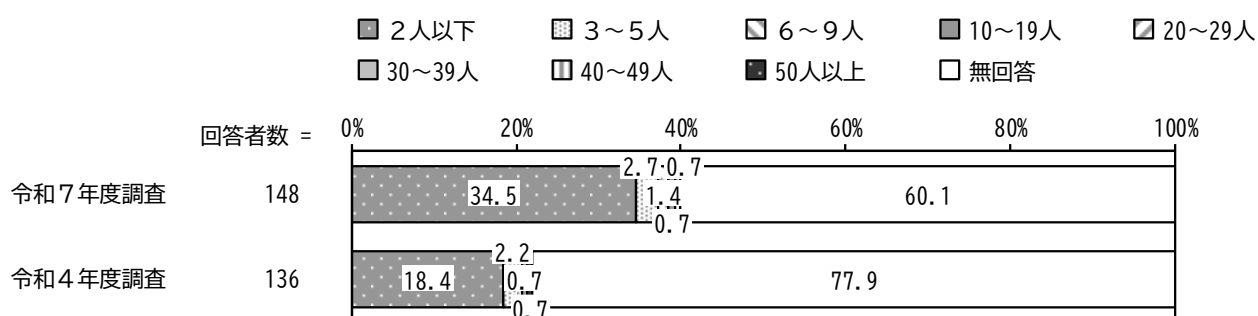


オ) 高次脳機能障害

利用者数

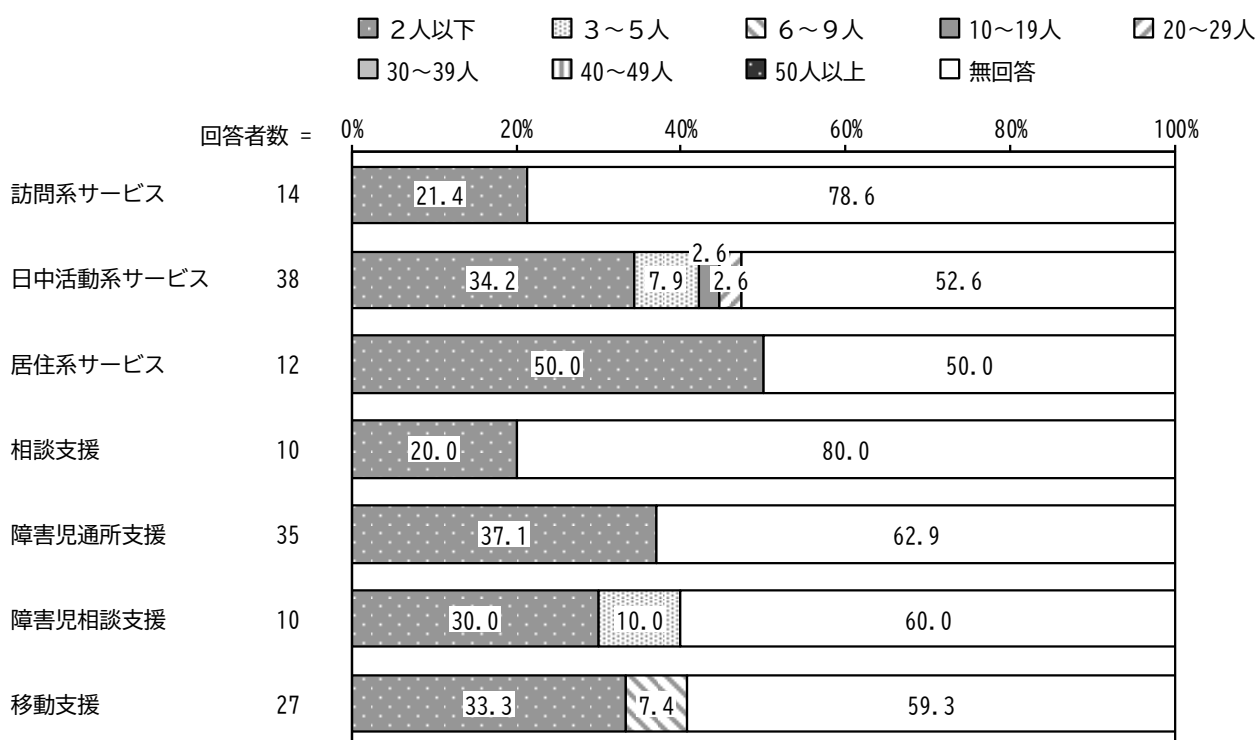
「2人以下」の割合が34.5%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「2人以下」の割合が増加しています。



【サービス種別】

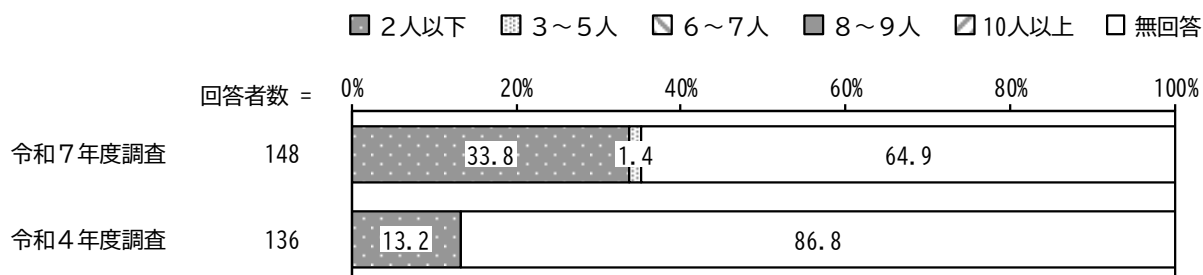
サービス種別にみると、居住系サービスで「2人以下」、日中活動系サービス、障害児相談支援で「3～5人」、移動支援で「6～9人」の割合が高くなっています。



うち、利用児童数

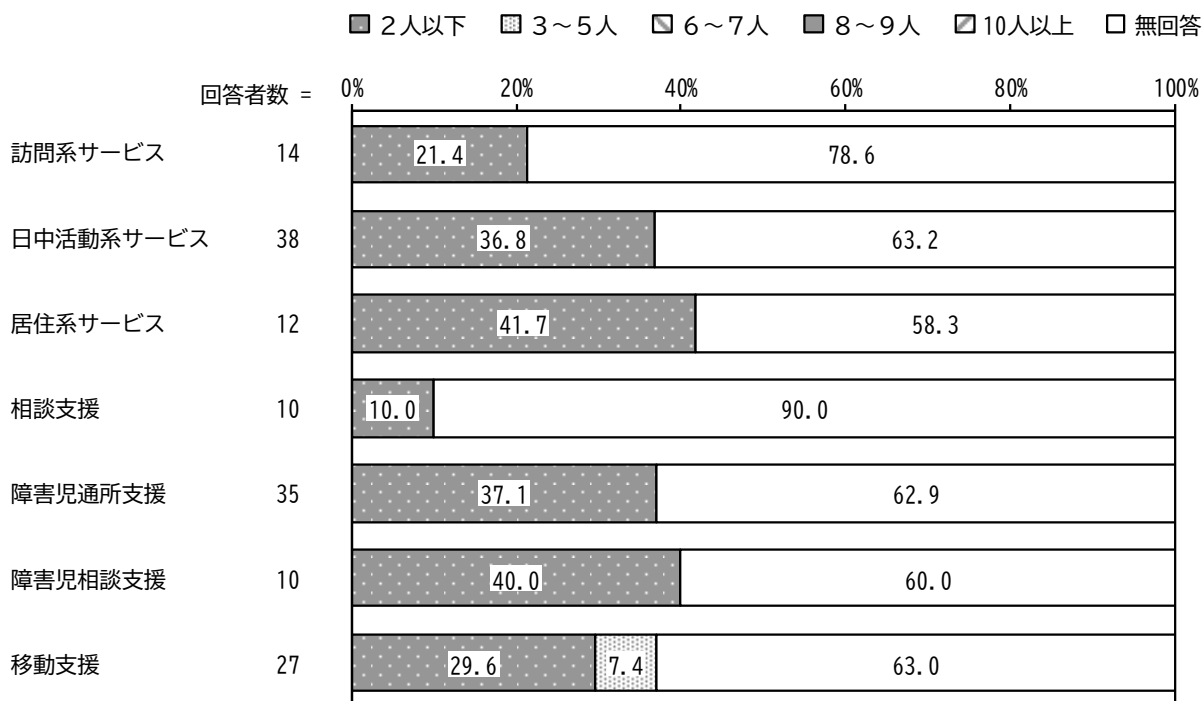
「2人以下」の割合が33.8%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「2人以下」の割合が増加しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービス、障害児相談支援で「2人以下」、移動支援で「3～5人」の割合が高くなっています。

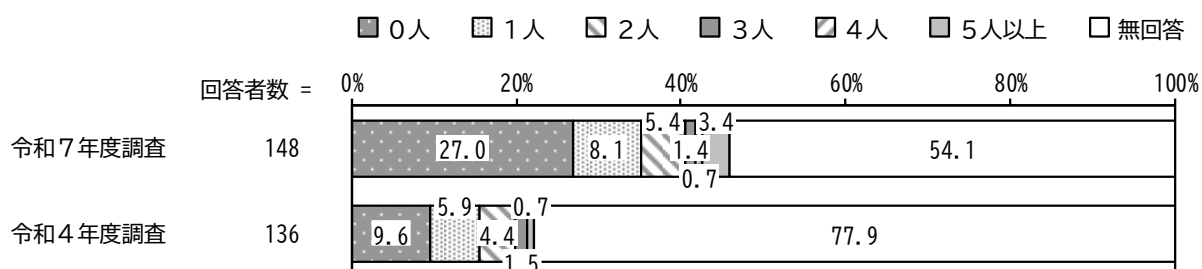


カ) 難病

利用者数

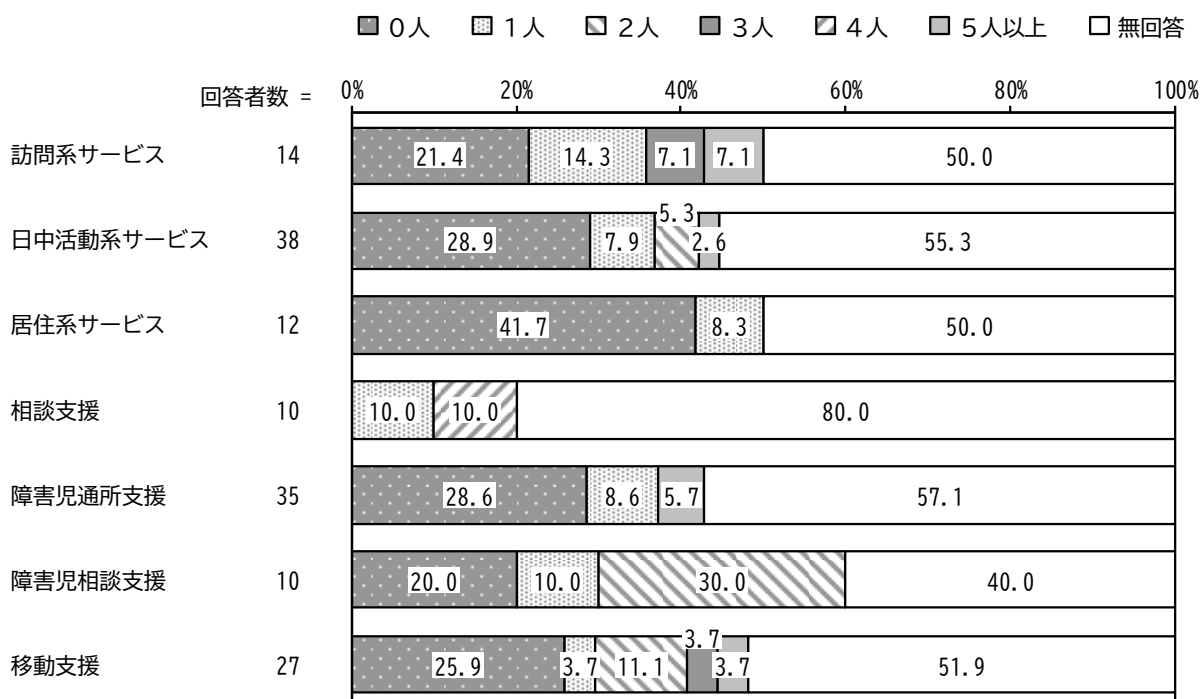
「0人」の割合が27.0%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「0人」の割合が増加しています。



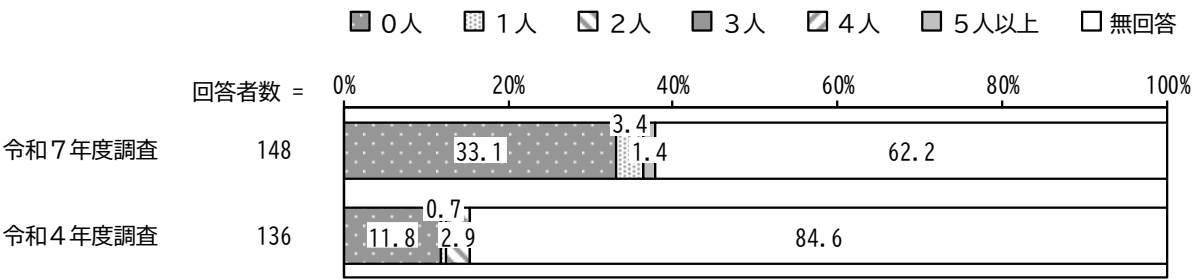
【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービスで「0人」、訪問系サービスで「1人」「3人」、障害児相談支援で「2人」、相談支援で「4人」の割合が高くなっています。



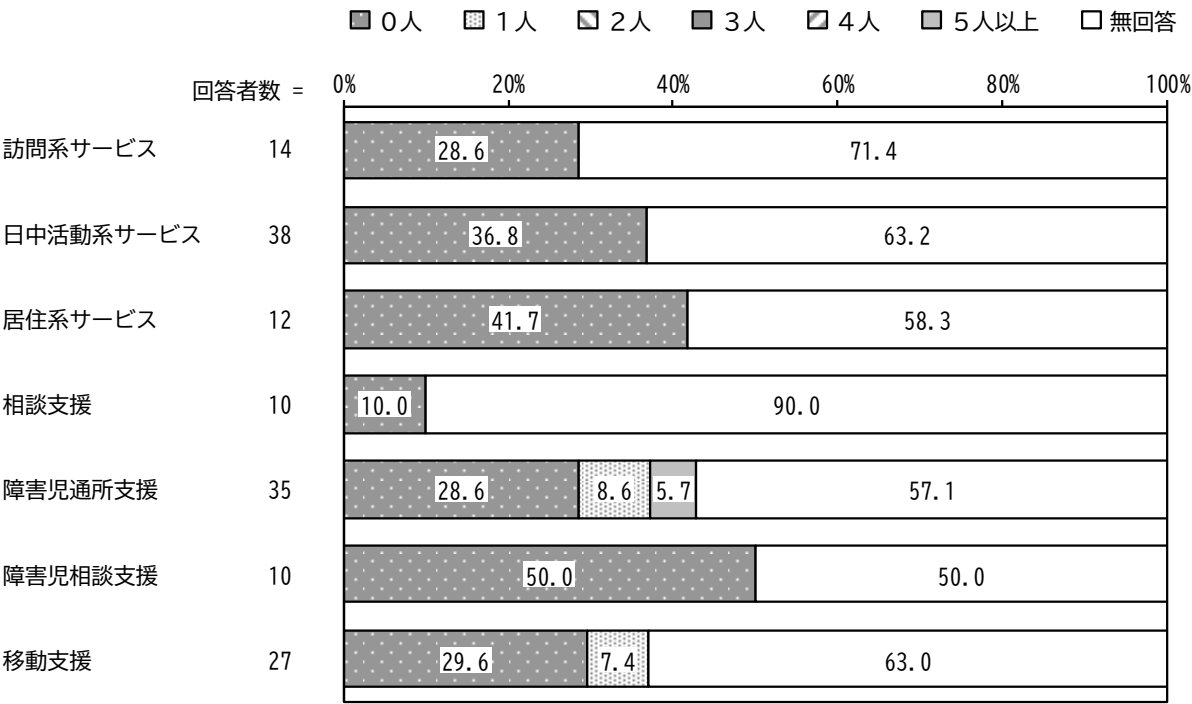
うち、利用児童数

「0人」の割合が33.1%と最も高くなっています。
令和4年度調査と比較すると、「0人」の割合が増加しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児相談支援で「0人」、障害児通所支援で「1人」の割合が高くなっています。



問8 貴事業所におけるサービスの提供量について、現在の体制で、1か月あたり「実際に提供している量」と「提供可能な量」の両方について、時間／人日／人数の数字を記入してください。

※令和7年8月の1か月分の回答をお願いします。

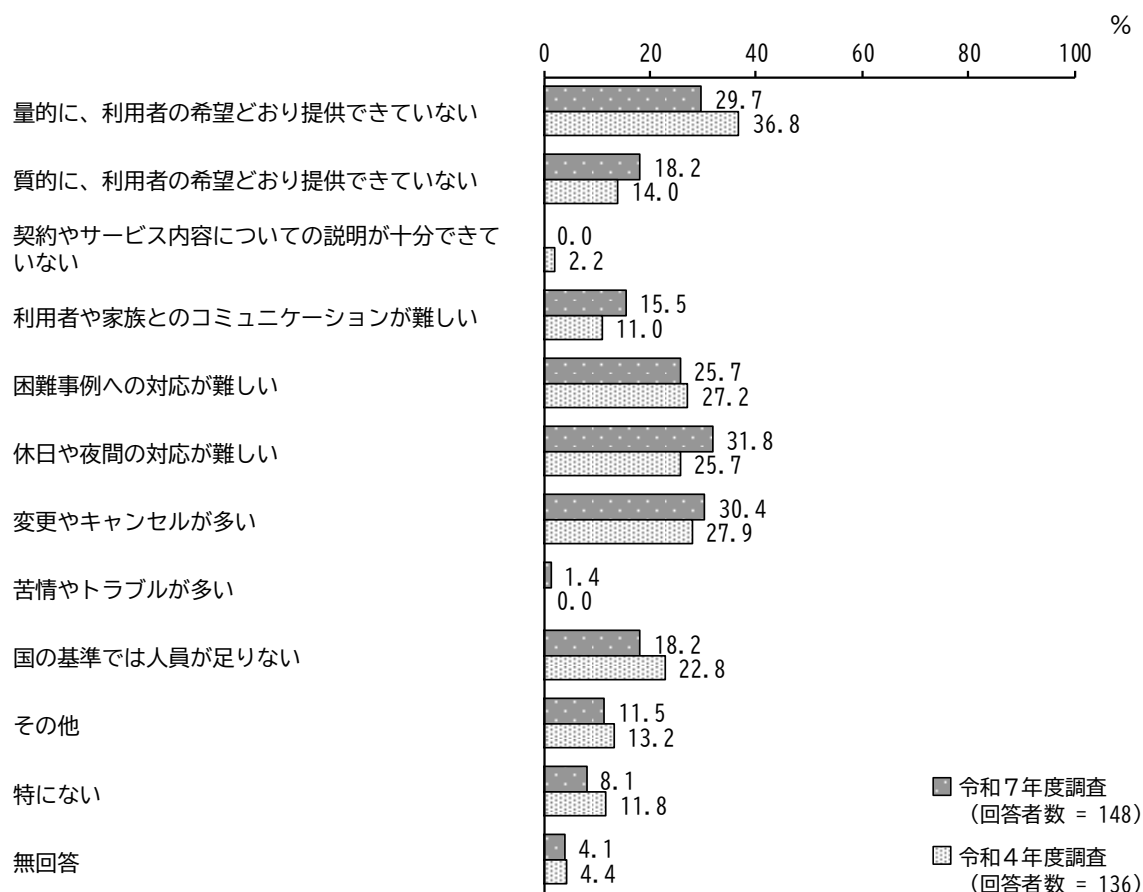
サービスの提供量について、回答があった事業所において「実際の提供量」は、概ね「提供可能な量」の範囲内となっています。

サービス種別	実際の提供量			提供可能な量		
	事業所数	総量	平均	事業所数	総量	平均
居宅介護（ホームヘルプ）	50	6865時間	137.3時間	46	7479時間	162.6時間
重度訪問介護	42	4042時間	96.2時間	39	4645時間	119.1時間
同行援護	35	652時間	18.6時間	32	613時間	19.2時間
行動援護	22	0時間	0.0時間	22	0時間	0.0時間
重度障害者等包括支援	22	457時間	20.8時間	23	457時間	19.9時間
生活介護	35	2176人日	62.2人日	34	2766人日	81.4人日
自立訓練（機能訓練）	23	0人日	0.0人日	23	0人日	0.0人日
自立訓練（生活訓練）	25	17人日	0.7人日	26	34人日	1.3人日
就労移行支援	29	289人日	9.9人日	29	514人日	17.7人日
就労定着支援	25	54人日	2.2人日	25	72人日	2.9人日
就労継続支援（A型）	23	20人日	0.9人日	24	20人日	0.8人日
就労継続支援（B型）	43	2562人日	59.6人日	42	2880人日	68.6人日
療養介護	22	0人日	0.0人日	23	0人日	0.0人日
短期入所	25	134人日	5.4人日	25	99人日	4.0人日
施設入所支援	24	43人	1.8人	24	45人	1.9人
共同生活援助（グループホーム）	35	1153人	32.9人	35	1362人	38.9人
自立生活援助	26	7人	0.3人	26	14人	0.5人
特定相談支援	36	692人	19.2人	34	762人	22.4人
地域移行支援	25	2人	0.1人	25	7人	0.3人
地域定着支援	24	1人	0.0人	25	7人	0.3人
移動支援	42	499人	11.9人	39	585人	15.0人
障害児相談支援	31	448時間	14.5時間	29	558時間	19.2時間
児童発達支援	37	1052人日	28.4人日	37	1158人日	31.3人日
医療型児童発達支援	21	0人日	0.0人日	21	0人日	0.0人日
放課後等デイサービス	35	1231人日	35.2人日	35	1369人日	39.1人日
保育所等訪問支援	22	19人日	0.9人日	22	11人日	0.5人日

問9 貴事業所で、サービスを提供する上で課題となっていることについて、あてはまるものに○をつけてください。(○は3つまで)

「休日や夜間の対応が難しい」の割合が31.8%と最も高く、次いで「変更やキャンセルが多い」の割合が30.4%、「量的に、利用者の希望どおり提供できていない」の割合が29.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「休日や夜間の対応が難しい」の割合が増加しています。一方、「量的に、利用者の希望どおり提供できていない」の割合が減少しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「量的に、利用者の希望どおり提供できていない」「休日や夜間の対応が難しい」、相談支援、障害児相談支援で「質的に、利用者の希望どおり提供できていない」、日中活動系サービス、障害児相談支援で「利用者や家族とのコミュニケーションが難しい」、日中活動系サービスで「困難事例への対応が難しい」、障害児通所支援で「変更やキャンセルが多い」「国の基準では人員が足りない」の割合が高くなっています。

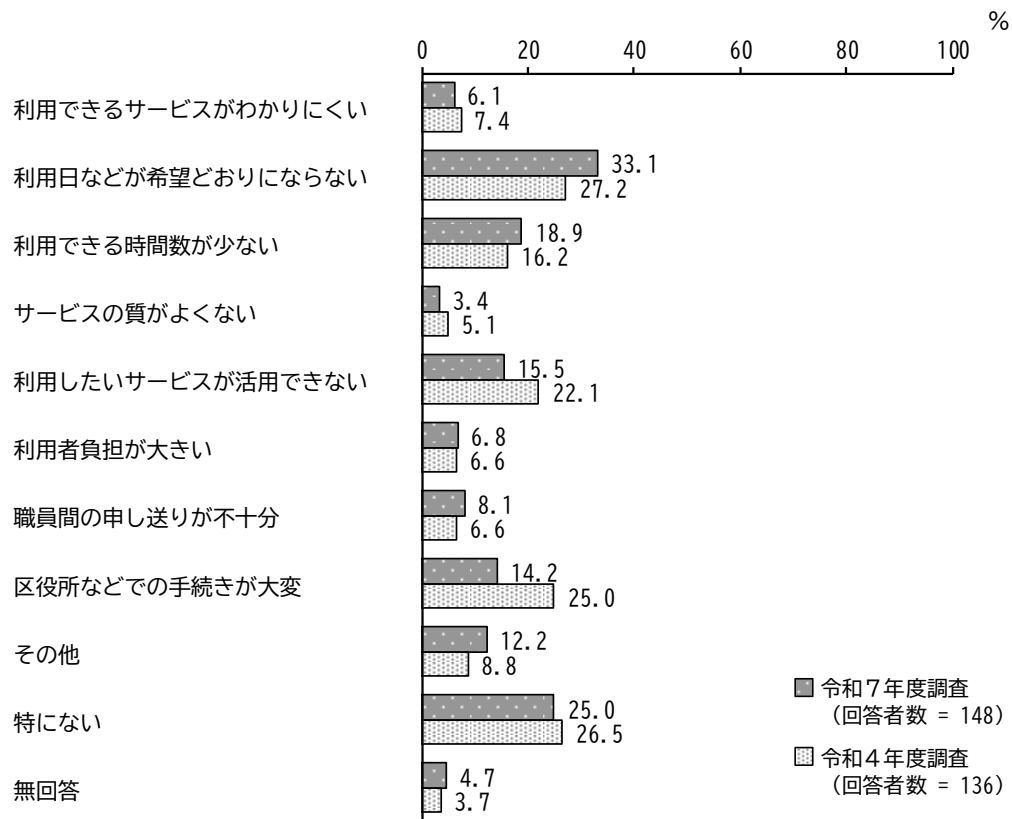
単位：％

区分	回答者数 (件)	量的に、 利用者の希望どおり 提供できていない	質的に、 利用者の希望どおり 提供できていない	契約やサービス内容について の説明が十分できていない	利用者や家族とのコミュニケーション が難しい	困難事例への対応が難しい	休日や夜間の対応が難しい	変更やキャンセルが多い	苦情やトラブルが多い	国の基準では人員が足りない	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	148	29.7	18.2	0.0	15.5	25.7	31.8	30.4	1.4	18.2	11.5	8.1	4.1
訪問系サービス	14	50.0	14.3	0.0	21.4	21.4	35.7	28.6	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0
日中活動系サービス	38	5.3	21.1	0.0	31.6	44.7	23.7	23.7	2.6	18.4	10.5	10.5	5.3
居住系サービス	12	16.7	16.7	0.0	8.3	25.0	33.3	0.0	8.3	16.7	41.7	8.3	0.0
相談支援	10	20.0	30.0	0.0	10.0	30.0	40.0	20.0	0.0	10.0	20.0	20.0	0.0
障害児通所支援	35	37.1	11.4	0.0	5.7	0.0	17.1	54.3	0.0	37.1	5.7	5.7	2.9
障害児相談支援	10	30.0	30.0	0.0	30.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	10.0	0.0	10.0
移動支援	27	55.6	18.5	0.0	3.7	25.9	59.3	29.6	0.0	3.7	11.1	3.7	7.4

問10 貴事業所では、サービス利用について、利用者やご家族の方から、どのような相談や苦情を受けることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「利用日などが希望どおりにならない」の割合が33.1%と最も高く、次いで「利用できる時間数が少ない」の割合が18.9%、「利用したいサービスが活用できない」の割合が15.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「利用日などが希望どおりにならない」の割合が増加しています。一方、「利用したいサービスが活用できない」「区役所などでの手続きが大変」の割合が減少しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児相談支援で「利用できるサービスがわかりにくい」「サービスの質がよいくない」、訪問系サービスで「利用日などが希望どおりにならない」、移動支援で「利用できる時間数が少ない」、相談支援、障害児相談支援で「利用したいサービスが活用できない」の割合が高くなっています。

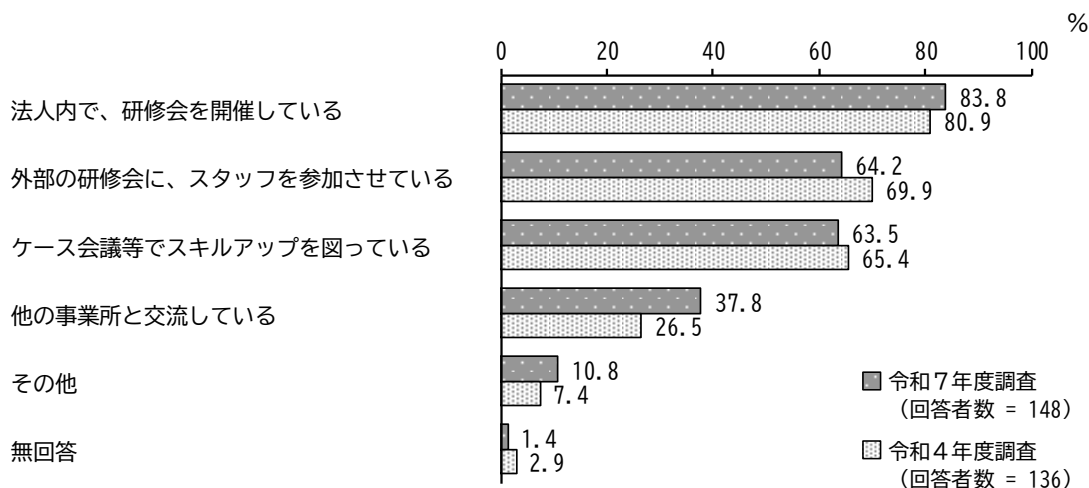
単位：％

区分	回答者数(件)	利用できるサービスがわかりにくい	利用日などが希望どおりにならない	利用できる時間数が少ない	サービスの質がよいくない	利用したいサービスが活用できない	利用者負担が大きい	職員間の申し送りが不十分	区役所などでの手続きが大変	その他	特にない	無回答
全 体	148	6.1	33.1	18.9	3.4	15.5	6.8	8.1	14.2	12.2	25.0	4.7
訪問系サービス	14	0.0	57.1	35.7	0.0	0.0	0.0	7.1	14.3	0.0	28.6	7.1
日中活動系サービス	38	10.5	2.6	2.6	2.6	7.9	15.8	13.2	21.1	26.3	26.3	2.6
居住系サービス	12	0.0	16.7	8.3	0.0	8.3	8.3	16.7	16.7	0.0	50.0	8.3
相談支援	10	10.0	20.0	0.0	10.0	40.0	10.0	10.0	10.0	30.0	20.0	0.0
障害児通所支援	35	2.9	51.4	20.0	0.0	8.6	2.9	0.0	8.6	11.4	22.9	5.7
障害児相談支援	10	20.0	50.0	30.0	20.0	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0
移動支援	27	3.7	44.4	40.7	3.7	25.9	3.7	7.4	11.1	3.7	22.2	3.7

問 11 貴事業所では、スタッフの質の向上など人材を育成するために、どのようなことに取り組んでいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「法人内で、研修会を開催している」の割合が 83.8%と最も高く、次いで「外部の研修会に、スタッフを参加させている」の割合が 64.2%、「ケース会議等でスキルアップを図っている」の割合が 63.5%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「他の事業所と交流している」の割合が増加しています。一方、「外部の研修会に、スタッフを参加させている」の割合が減少しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービスで「外部の研修会に、スタッフを参加させている」、日中活動系サービスで「ケース会議等でスキルアップを図っている」、障害児相談支援で「他の事業所と交流している」の割合が高くなっています。

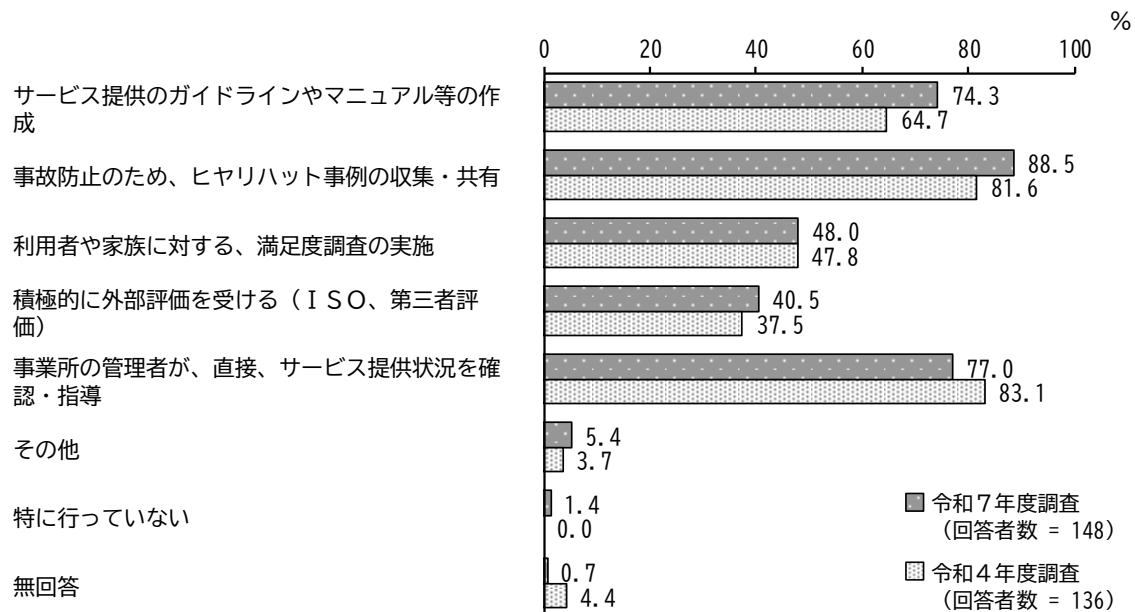
単位：％

区分	回答者数 (件)	法人内で、 研修会を 開催している	外部の研修会に、 スタッフを参加させ ている	ケース会議等でス キルアップを図つ ている	他の事業所と交流 している	その他	無回答
全 体	148	83.8	64.2	63.5	37.8	10.8	1.4
訪問系サービス	14	92.9	21.4	50.0	21.4	7.1	0.0
日中活動系サービス	38	84.2	81.6	78.9	52.6	13.2	2.6
居住系サービス	12	91.7	91.7	50.0	33.3	16.7	0.0
相談支援	10	70.0	80.0	50.0	50.0	10.0	0.0
障害児通所支援	35	80.0	62.9	68.6	37.1	17.1	0.0
障害児相談支援	10	80.0	80.0	70.0	70.0	10.0	0.0
移動支援	27	88.9	40.7	55.6	14.8	0.0	3.7

問 12（１）貴事業所では、サービスの質の向上のために、どのような取組を行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「事故防止のため、ヒヤリハット事例の収集・共有」の割合が 88.5%と最も高く、次いで「事業所の管理者が、直接、サービス提供状況を確認・指導」の割合が 77.0%、「サービス提供のガイドラインやマニュアル等の作成」の割合が 74.3%となっています。

令和４年度調査と比較すると、「サービス提供のガイドラインやマニュアル等の作成」「事故防止のため、ヒヤリハット事例の収集・共有」の割合が増加しています。一方、「事業所の管理者が、直接、サービス提供状況を確認・指導」の割合が減少しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児相談支援で「サービス提供のガイドラインやマニュアル等の作成」、障害児通所支援で「利用者や家族に対する、満足度調査の実施」、居住系サービスで「積極的に外部評価を受ける（ISO、第三者評価）」の割合が高くなっています。

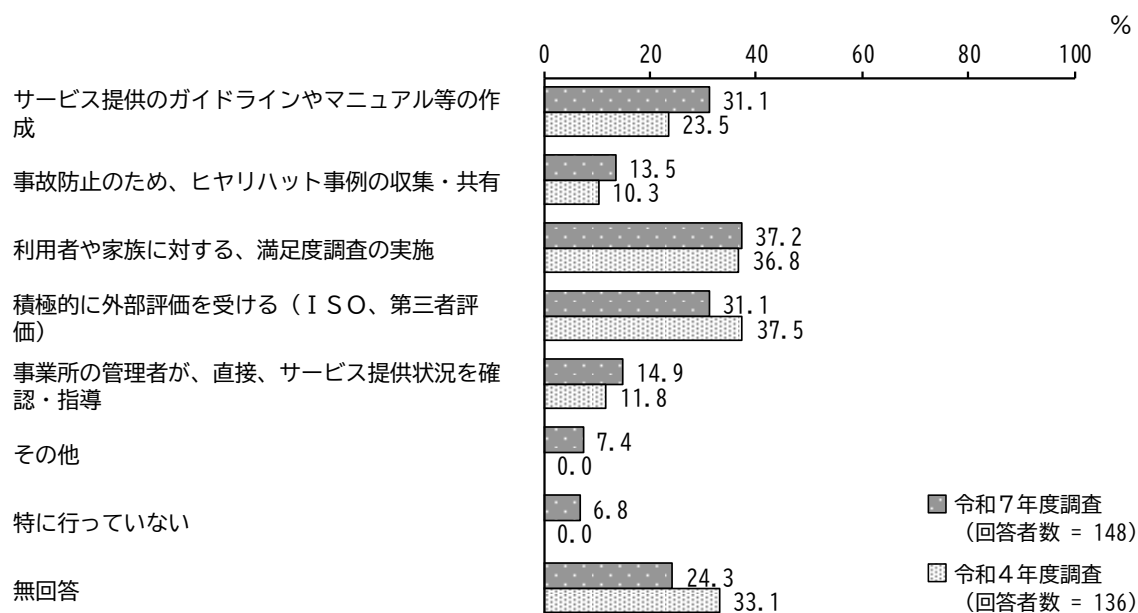
単位：％

区分	回答者数（件）	サービス提供のガイドラインやマニュアル等の作成	事故防止のため、ヒヤリハット事例の収集・共有	利用者や家族に対する、満足度調査の実施	積極的に外部評価を受ける（ISO、第三者評価）	事業所の管理者が、直接、サービス提供状況を確認・指導	その他	特に行っていない	無回答
全 体	148	74.3	88.5	48.0	40.5	77.0	5.4	1.4	0.7
訪問系サービス	14	78.6	64.3	14.3	7.1	64.3	14.3	7.1	0.0
日中活動系サービス	38	63.2	81.6	39.5	71.1	76.3	2.6	2.6	0.0
居住系サービス	12	75.0	91.7	16.7	83.3	83.3	0.0	0.0	0.0
相談支援	10	50.0	100.0	60.0	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援	35	80.0	100.0	88.6	34.3	85.7	11.4	0.0	0.0
障害児相談支援	10	90.0	80.0	50.0	30.0	80.0	10.0	0.0	0.0
移動支援	27	85.2	96.3	33.3	3.7	74.1	0.0	0.0	3.7

問12(2) また、今後どのような取組を行っていかと考えていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「利用者や家族に対する、満足度調査の実施」の割合が37.2%と最も高く、次いで「サービス提供のガイドラインやマニュアル等の作成」、「積極的に外部評価を受ける（ISO、第三者評価）」の割合が31.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「サービス提供のガイドラインやマニュアル等の作成」の割合が増加しています。一方、「積極的に外部評価を受ける（ISO、第三者評価）」の割合が減少しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、相談支援で「サービス提供のガイドラインやマニュアル等の作成」、日中活動系サービス、障害児相談支援で「利用者や家族に対する、満足度調査の実施」、訪問系サービスで「積極的に外部評価を受ける（ISO、第三者評価）」、居住系サービスで「事業所の管理者が、直接、サービス提供状況を確認・指導」の割合が高くなっています。

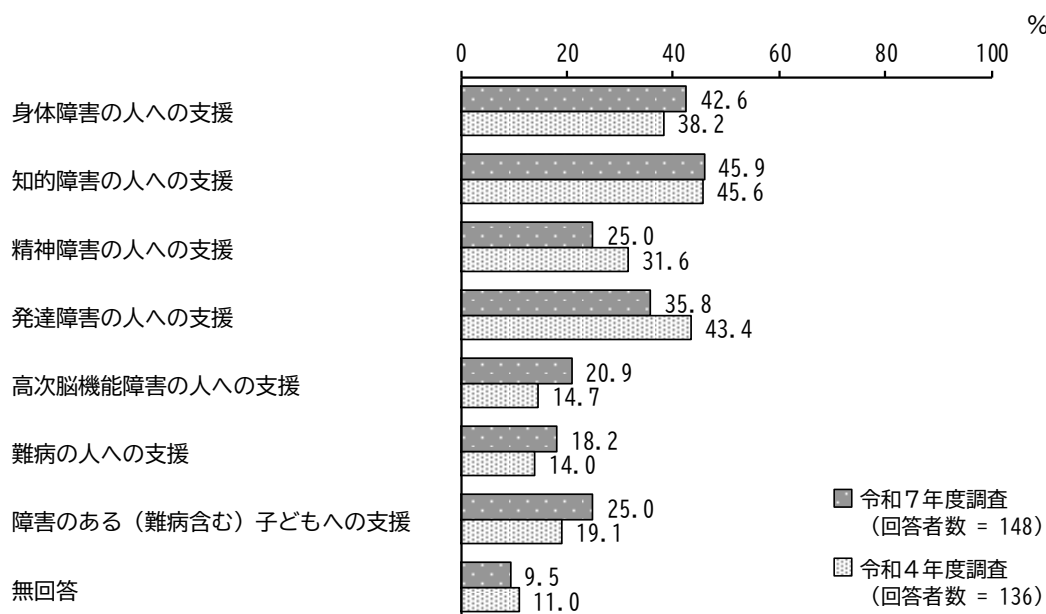
単位：％

区分	回答者数(件)	サービス提供のガイドラインやマニュアル等の作成	事故防止のため、ヒヤリハット事例の収集・共有	利用者や家族に対する、満足度調査の実施	積極的に外部評価を受ける（ISO、第三者評価）	事業所の管理者が、直接、サービス提供状況を確認・指導	その他	特に行っていない	無回答
全 体	148	31.1	13.5	37.2	31.1	14.9	7.4	6.8	24.3
訪問系サービス	14	14.3	7.1	42.9	42.9	0.0	7.1	7.1	14.3
日中活動系サービス	38	42.1	15.8	50.0	26.3	21.1	5.3	0.0	23.7
居住系サービス	12	33.3	16.7	41.7	33.3	25.0	0.0	8.3	16.7
相談支援	10	50.0	0.0	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0	30.0
障害児通所支援	35	28.6	17.1	14.3	37.1	14.3	17.1	14.3	22.9
障害児相談支援	10	20.0	10.0	50.0	40.0	10.0	20.0	10.0	20.0
移動支援	27	22.2	14.8	44.4	25.9	14.8	0.0	3.7	37.0

問 13 貴事業所が、障害福祉サービス等の質の向上を図っていく上で、今後、支援を拡充したいと思う分野はどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「知的障害の人への支援」の割合が 45.9%と最も高く、次いで「身体障害の人への支援」の割合が 42.6%、「発達障害の人への支援」の割合が 35.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「高次脳機能障害の人への支援」「障害のある（難病含む）子どもへの支援」の割合が増加しています。一方、「精神障害の人への支援」「発達障害の人への支援」の割合が減少しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「身体障害の人への支援」、居住系サービスで「知的障害の人への支援」「精神障害の人への支援」、日中活動系サービス、障害児通所支援で「発達障害の人への支援」、日中活動系サービスで「高次脳機能障害の人への支援」、訪問系サービスで「難病の人への支援」、障害児相談支援で「障害のある（難病含む）子どもへの支援」の割合が高くなっています。

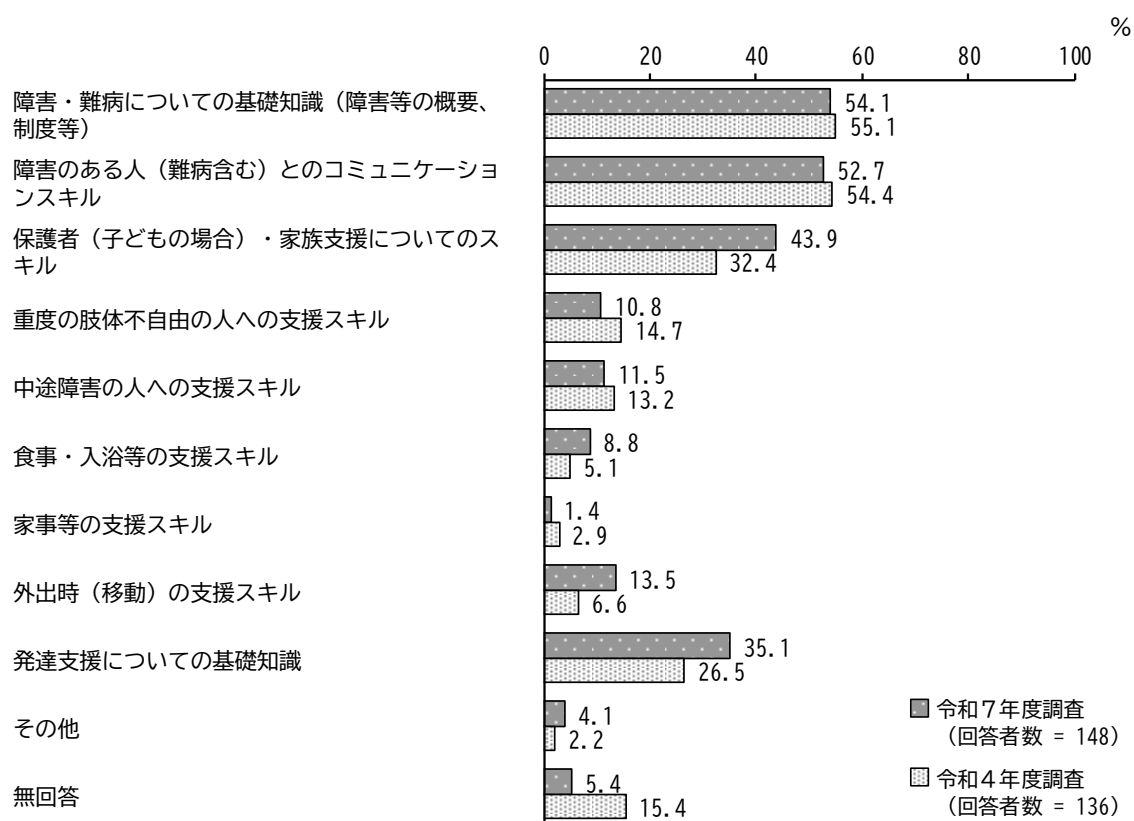
単位：％

区分	回答者数（件）	身体障害の人への支援	知的障害の人への支援	精神障害の人への支援	発達障害の人への支援	高次脳機能障害の人への支援	難病の人への支援	障害のある（難病含む）子どもへの支援	無回答
全 体	148	42.6	45.9	25.0	35.8	20.9	18.2	25.0	9.5
訪問系サービス	14	57.1	42.9	35.7	21.4	14.3	28.6	21.4	14.3
日中活動系サービス	38	44.7	50.0	34.2	50.0	39.5	26.3	5.3	5.3
居住系サービス	12	33.3	75.0	58.3	25.0	25.0	16.7	8.3	0.0
相談支援	10	60.0	60.0	20.0	20.0	30.0	20.0	0.0	20.0
障害児通所支援	35	5.7	42.9	11.4	51.4	5.7	8.6	51.4	11.4
障害児相談支援	10	40.0	40.0	10.0	40.0	20.0	20.0	60.0	10.0
移動支援	27	77.8	29.6	18.5	14.8	14.8	14.8	25.9	11.1

問 14 貴事業所が、障害福祉サービス等の質の向上を図っていく上で、今後、知識やスキルを拡充したいと思う分野について、あてはまるものに○をつけてください。(○は3つまで)

「障害・難病についての基礎知識（障害等の概要、制度等）」の割合が 54.1%と最も高く、次いで「障害のある人（難病含む）とのコミュニケーションスキル」の割合が 52.7%、「保護者（子どもの場合）・家族支援についてのスキル」の割合が 43.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「保護者（子どもの場合）・家族支援についてのスキル」「外出時（移動）の支援スキル」「発達支援についての基礎知識」の割合が増加しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、日中活動系サービス、居住系サービスで「障害・難病についての基礎知識（障害等の概要、制度等）」、障害児相談支援で「障害のある人（難病含む）とのコミュニケーションスキル」、障害児通所支援で「保護者（子どもの場合）・家族支援についてのスキル」「発達支援についての基礎知識」、相談支援で「重度の肢体不自由の人への支援スキル」「食事・入浴等の支援スキル」、移動支援で「中途障害の人への支援スキル」「外出時（移動）の支援スキル」の割合が高くなっています。

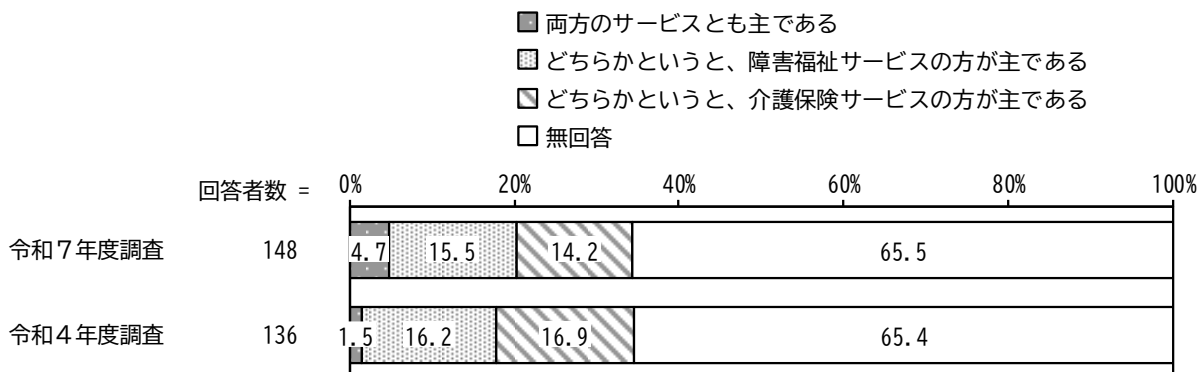
単位：％

区分	回答者数（件）	障害・難病についての基礎知識（障害等の概要、制度等）	障害のある人（難病含む）とのコミュニケーションスキル	保護者（子どもの場合）・家族支援についてのスキル	重度の肢体不自由の人への支援スキル	中途障害の人への支援スキル	食事・入浴等の支援スキル	家事等の支援スキル	外出時（移動）の支援スキル	発達支援についての基礎知識	その他	無回答
全 体	148	54.1	52.7	43.9	10.8	11.5	8.8	1.4	13.5	35.1	4.1	5.4
訪問系サービス	14	50.0	57.1	14.3	0.0	7.1	7.1	7.1	21.4	21.4	7.1	7.1
日中活動系サービス	38	65.8	63.2	42.1	5.3	15.8	7.9	0.0	13.2	23.7	5.3	2.6
居住系サービス	12	66.7	66.7	8.3	25.0	8.3	16.7	8.3	0.0	50.0	0.0	0.0
相談支援	10	60.0	50.0	40.0	30.0	10.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	20.0
障害児通所支援	35	34.3	34.3	85.7	2.9	0.0	0.0	0.0	8.6	68.6	8.6	2.9
障害児相談支援	10	60.0	70.0	50.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	10.0
移動支援	27	51.9	44.4	22.2	22.2	22.2	18.5	0.0	29.6	14.8	0.0	7.4

(3) 事業所運営について

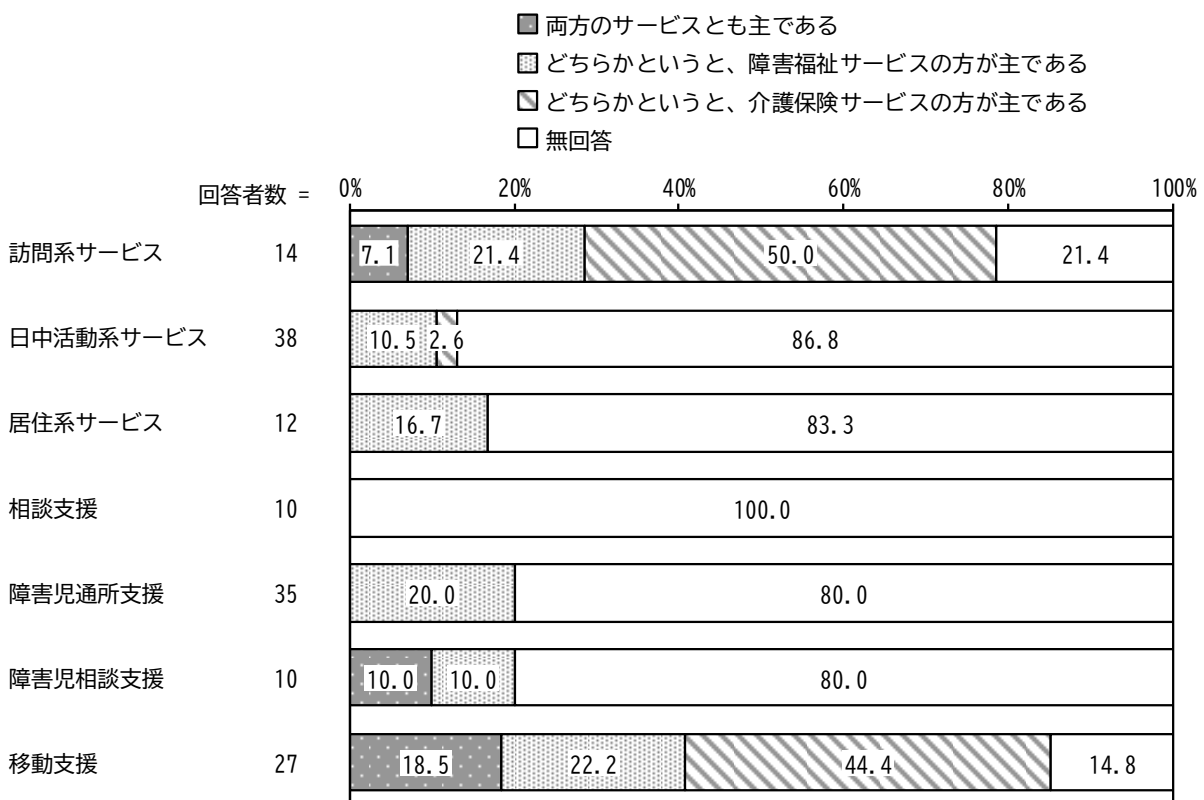
問 15 介護保険サービスの指定を受けている事業所におたずねします。貴事業所の提供する「障害福祉サービス」および「介護保険サービス」について、力の入れ方でもっとも近いものはどれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「両方のサービスとも主である」の割合が 4.7%、「どちらかという、障害福祉サービスの方が主である」の割合が 15.5%、「どちらかという、介護保険サービスの方が主である」の割合が 14.2%となっています。



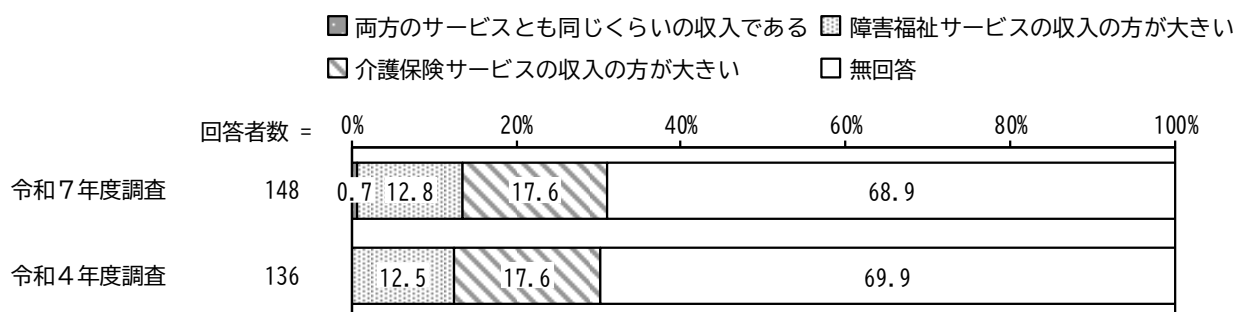
【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「両方のサービスとも主である」、訪問系サービスで「どちらかという、介護保険サービスの方が主である」の割合が高くなっています。



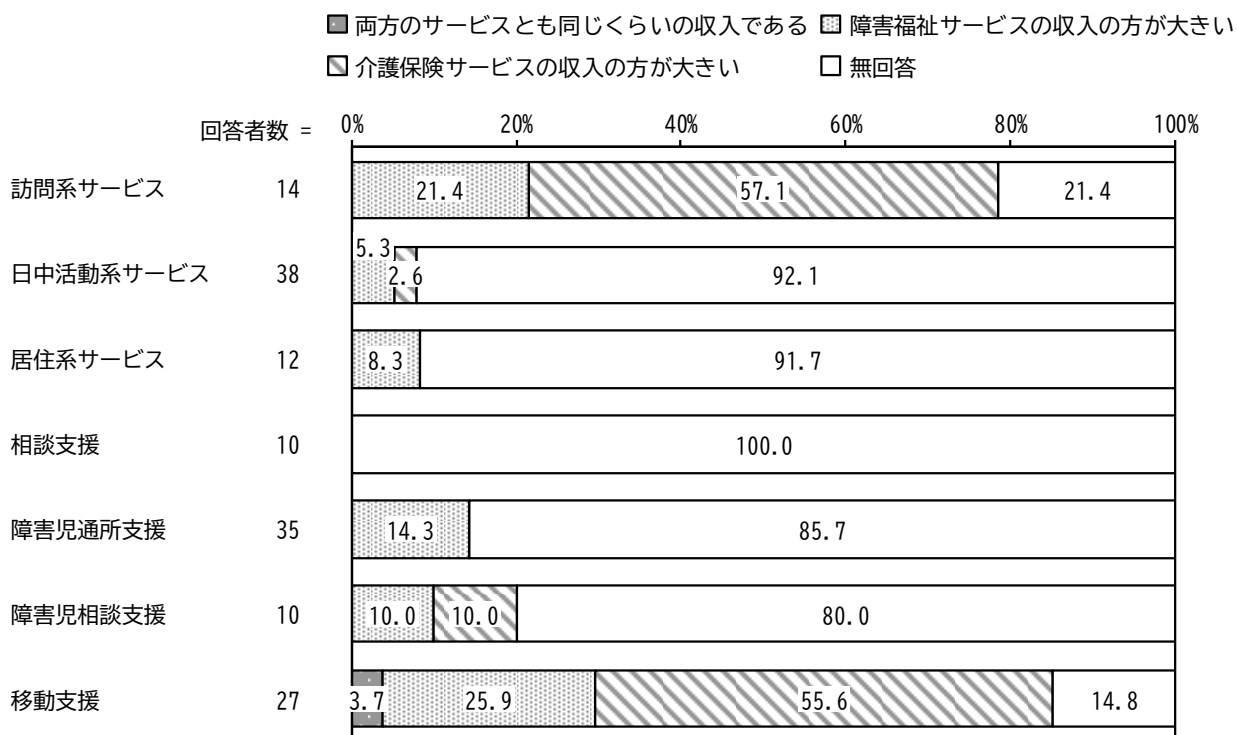
問 16 介護保険サービスの指定を受けている事業所におたずねします。貴事業所の収入（売り上げベース）で見た場合、障害福祉サービスと介護保険サービスの割合について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

「両方のサービスとも同じくらいの収入である」の割合が 0.7%、「障害福祉サービスの収入の方が大きい」の割合が 12.8%、「介護保険サービスの収入の方が大きい」の割合が 17.6%となっています。



【サービス種別】

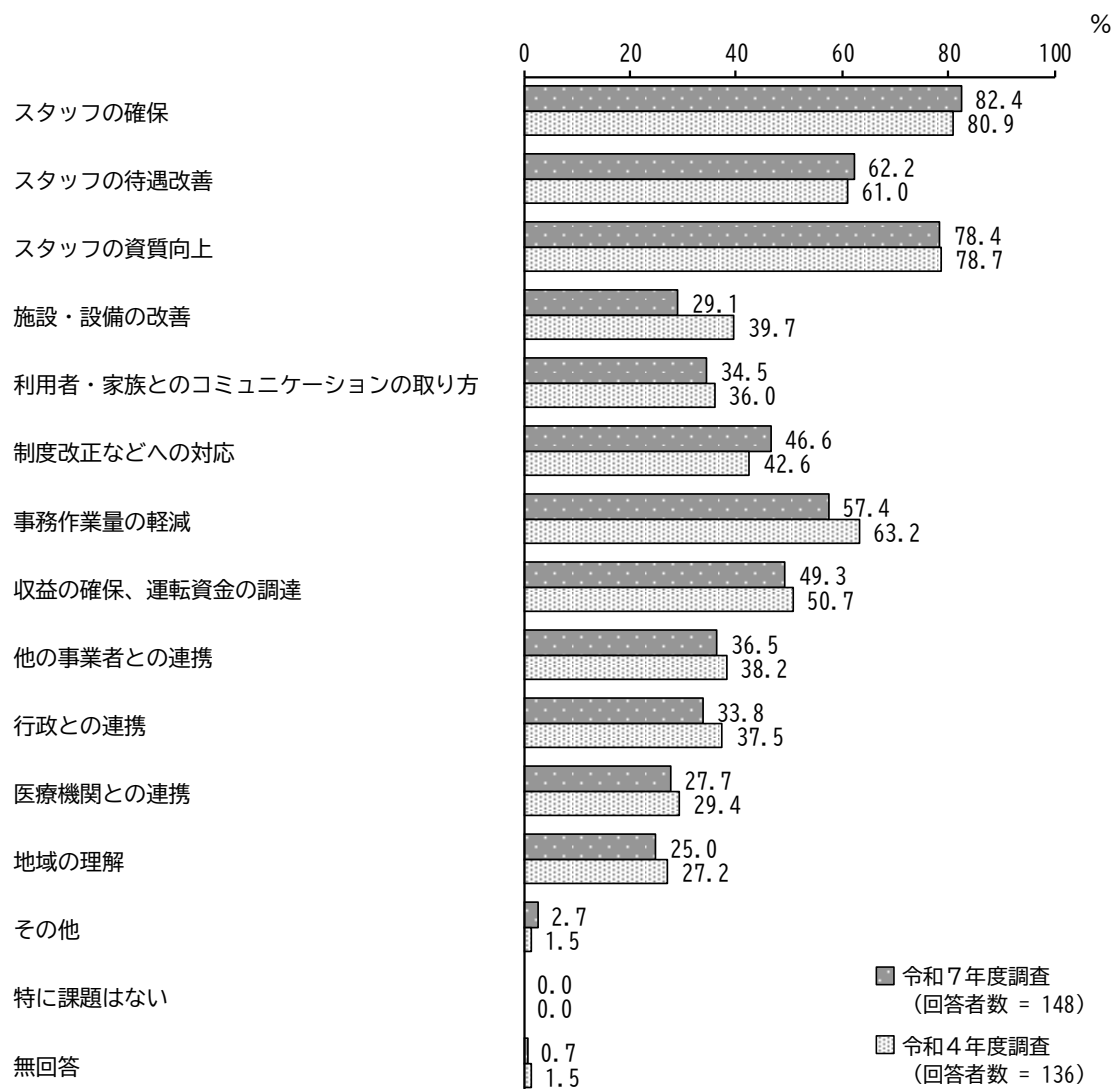
サービス種別にみると、移動支援で「障害福祉サービスの収入の方が大きい」、訪問系サービス、移動支援で「介護保険サービスの収入の方が大きい」の割合が高くなっています。



問17 貴事業所を経営していく上での課題について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

「スタッフの確保」の割合が82.4%と最も高く、次いで「スタッフの資質向上」の割合が78.4%、「スタッフの待遇改善」の割合が62.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「施設・設備の改善」「事務作業量の軽減」の割合が減少しています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「スタッフの確保」、障害児通所支援で「スタッフの資質向上」、居住系サービスで「施設・設備の改善」「事務作業量の軽減」「医療機関との連携」、障害児相談支援で「制度改正などへの対応」「収益の確保、運転資金の調達」「他の事業者との連携」「行政との連携」「地域の理解」の割合が高くなっています。

単位：％

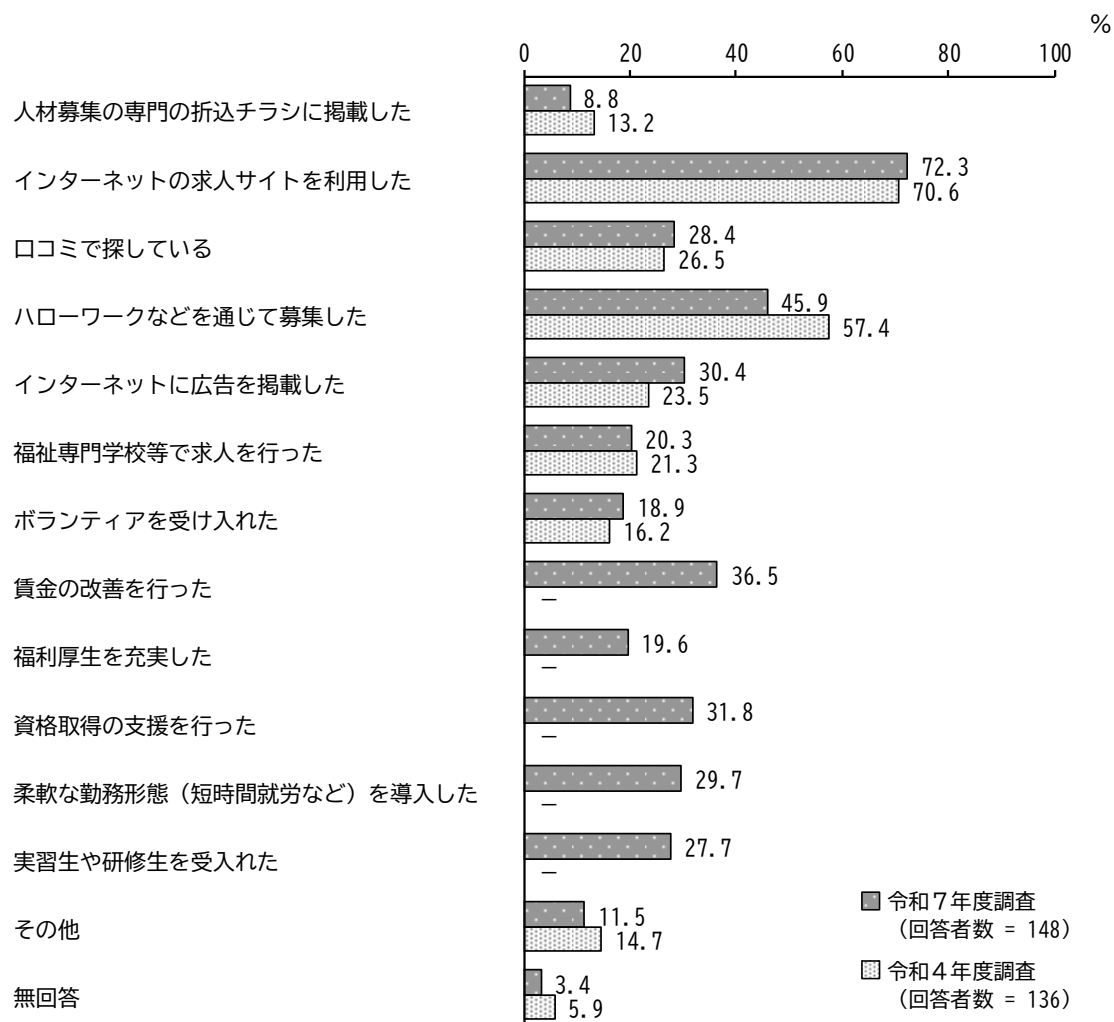
区分	回答者数 (件)	スタッフの確保	スタッフの待遇改善	スタッフの資質向上	施設・設備の改善	利用者・家族とのコミュニケーションの取り方	制度改正などへの対応	事務作業量の軽減
全 体	148	82.4	62.2	78.4	29.1	34.5	46.6	57.4
訪問系サービス	14	85.7	50.0	57.1	0.0	35.7	57.1	50.0
日中活動系サービス	38	76.3	71.1	81.6	44.7	36.8	50.0	57.9
居住系サービス	12	83.3	41.7	75.0	50.0	41.7	33.3	75.0
相談支援	10	60.0	60.0	80.0	20.0	30.0	40.0	50.0
障害児通所支援	35	91.4	68.6	88.6	37.1	37.1	54.3	57.1
障害児相談支援	10	60.0	40.0	80.0	40.0	40.0	70.0	60.0
移動支援	27	96.3	70.4	70.4	3.7	25.9	29.6	59.3

区分	収益の確保、 運転資金の調達	他の事業者との連携	行政との連携	医療機関との連携	地域の理解	その他	特に課題はない	無回答
全 体	49.3	36.5	33.8	27.7	25.0	2.7	0.0	0.7
訪問系サービス	50.0	35.7	28.6	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0
日中活動系サービス	57.9	44.7	42.1	44.7	36.8	5.3	0.0	2.6
居住系サービス	50.0	33.3	16.7	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0
相談支援	40.0	40.0	50.0	30.0	20.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援	51.4	42.9	31.4	22.9	34.3	5.7	0.0	0.0
障害児相談支援	70.0	60.0	60.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0
移動支援	33.3	7.4	18.5	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0

問 18 貴事業所では、人材を確保するために、どのようなことに取り組んでいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「インターネットの求人サイトを利用した」の割合が 72.3%と最も高く、次いで「ハローワークなどを通じて募集した」の割合が 45.9%、「賃金の改善を行った」の割合が 36.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「インターネットに広告を掲載した」の割合が増加しています。一方、「ハローワークなどを通じて募集した」の割合が減少しています。



※「賃金の改善を行った」、「福利厚生を充実した」、「資格取得の支援を行った」、「柔軟な勤務形態（短時間就労など）を導入した」、「実習生や研修生を受入れた」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児通所支援で「インターネットの求人サイトを利用した」「福利厚生を充実した」、移動支援で「口コミで探している」「ハローワークなどを通じて募集した」、訪問系サービスで「インターネットに広告を掲載した」「資格取得の支援を行った」、障害児相談支援で「福祉専門学校等で求人を行った」「実習生や研修生を受入れた」、日中活動系サービスで「ボランティアを受け入れた」、訪問系サービス、障害児相談支援で「柔軟な勤務形態（短時間就労など）を導入した」の割合が高くなっています。

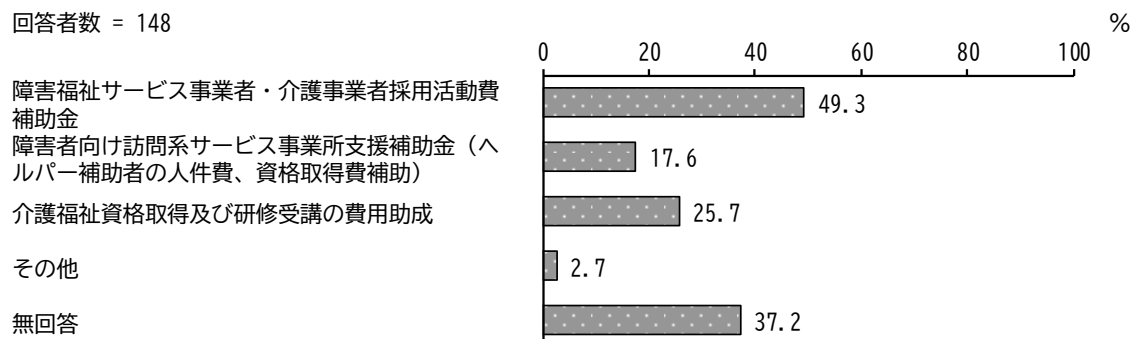
単位：％

区分	回答者数 (件)	人材募集の専門的 折込チラシに掲載 した	インターネットの 求人サイトを利用 した	口コミで探してい る	ハローワークなど を通じて募集した	インターネットに 広告を掲載した	福祉専門学校等 で求人を行った	ボラン ティア を受 け入 れた
全 体	148	8.8	72.3	28.4	45.9	30.4	20.3	18.9
訪問系サービス	14	7.1	50.0	35.7	28.6	50.0	7.1	0.0
日中活動系サービス	38	10.5	78.9	13.2	47.4	18.4	26.3	36.8
居住系サービス	12	8.3	66.7	25.0	66.7	33.3	33.3	0.0
相談支援	10	0.0	70.0	30.0	30.0	40.0	30.0	20.0
障害児通所支援	35	8.6	82.9	25.7	28.6	40.0	17.1	28.6
障害児相談支援	10	10.0	60.0	20.0	40.0	30.0	40.0	10.0
移動支援	27	11.1	70.4	55.6	77.8	22.2	7.4	3.7

区分	賃 金 の 改 善 を 行 っ た	福 利 厚 生 を 充 実 し た	資 格 取 得 の 支 援 を 行 っ た	柔 軟 な 勤 務 形 態 (短 時 間 就 労 な ど) を 導 入 し た	実 習 生 や 研 修 生 を 受 入 れ た	そ の 他	無 回 答
全 体	36.5	19.6	31.8	29.7	27.7	11.5	3.4
訪問系サービス	42.9	28.6	57.1	42.9	7.1	21.4	0.0
日中活動系サービス	36.8	10.5	21.1	31.6	42.1	13.2	2.6
居住系サービス	41.7	16.7	25.0	25.0	8.3	16.7	0.0
相談支援	20.0	10.0	10.0	30.0	50.0	10.0	20.0
障害児通所支援	37.1	31.4	25.7	22.9	25.7	11.4	2.9
障害児相談支援	30.0	10.0	30.0	40.0	60.0	10.0	10.0
移動支援	40.7	22.2	51.9	25.9	11.1	3.7	0.0

問 19 区では福祉サービス事業所での福祉人材を確保・定着につなげるため、次の補助金事業等を実施しています。活用したもの、今後検討するものすべてに○をつけてください。

「障害福祉サービス事業者・介護事業者採用活動費補助金」の割合が 49.3%、「障害者向け訪問系サービス事業所支援補助金（ヘルパー補助者の人件費、資格取得費補助）」の割合が 17.6%、「介護福祉資格取得及び研修受講の費用助成」の割合が 25.7%となっています。



【サービス種別】

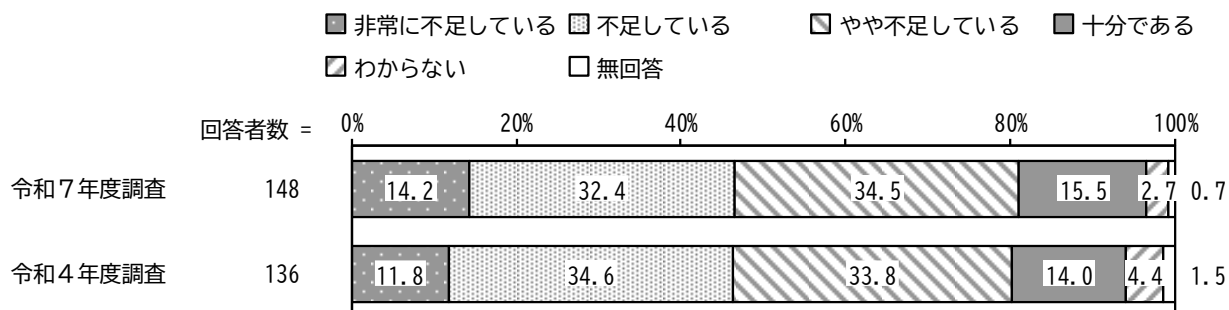
サービス種別にみると、障害児通所支援で「障害福祉サービス事業者・介護事業者採用活動費補助金」、訪問系サービスで「障害者向け訪問系サービス事業所支援補助金（ヘルパー補助者の人件費、資格取得費補助）」「介護福祉資格取得及び研修受講の費用助成」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	障害福祉サービス事業者・介護事業者採用活動費補助金	障害者向け訪問系サービス事業所支援補助金（ヘルパー補助者の人件費、資格取得費補助）	介護福祉資格取得及び研修受講の費用助成	その他	無回答
全 体	148	49.3	17.6	25.7	2.7	37.2
訪問系サービス	14	28.6	42.9	78.6	0.0	14.3
日中活動系サービス	38	47.4	10.5	15.8	0.0	47.4
居住系サービス	12	41.7	0.0	16.7	0.0	50.0
相談支援	10	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
障害児通所支援	35	62.9	8.6	14.3	8.6	31.4
障害児相談支援	10	30.0	20.0	10.0	10.0	50.0
移動支援	27	51.9	37.0	48.1	0.0	29.6

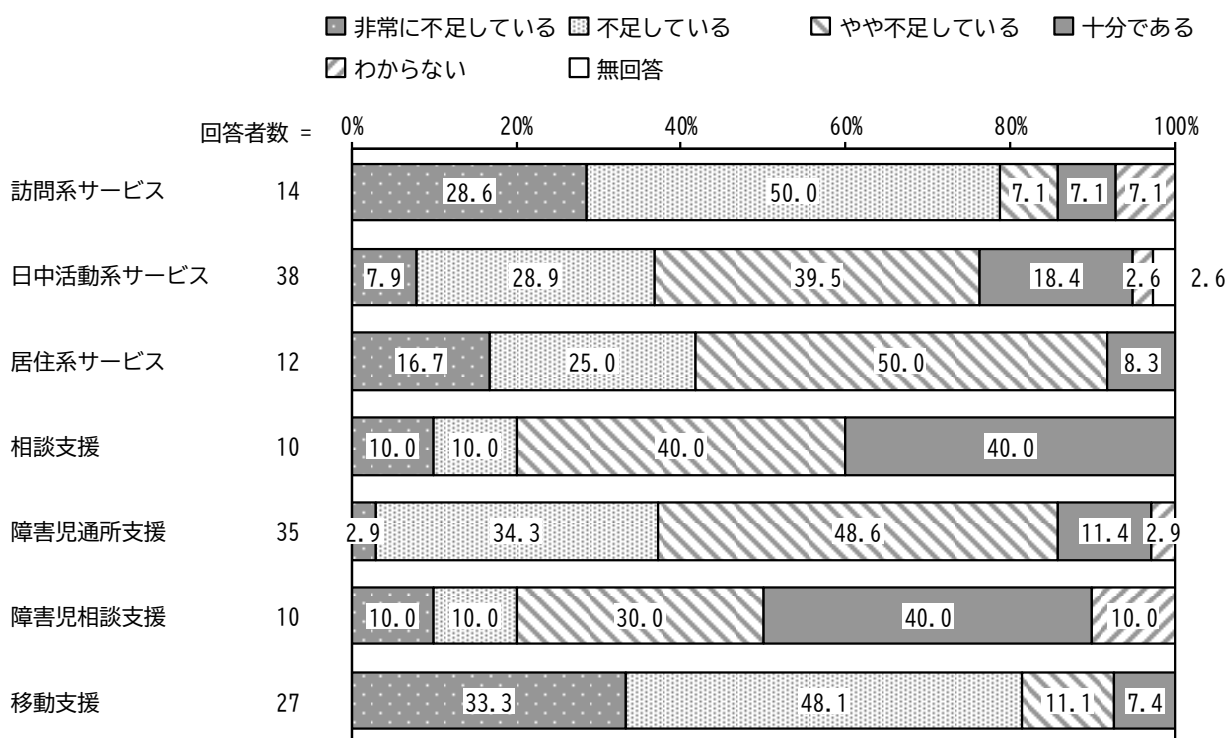
問 20 職員数は充足していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「やや不足している」の割合が34.5%と最も高く、次いで「不足している」の割合が32.4%、「十分である」の割合が15.5%となっています。



【サービス種別】

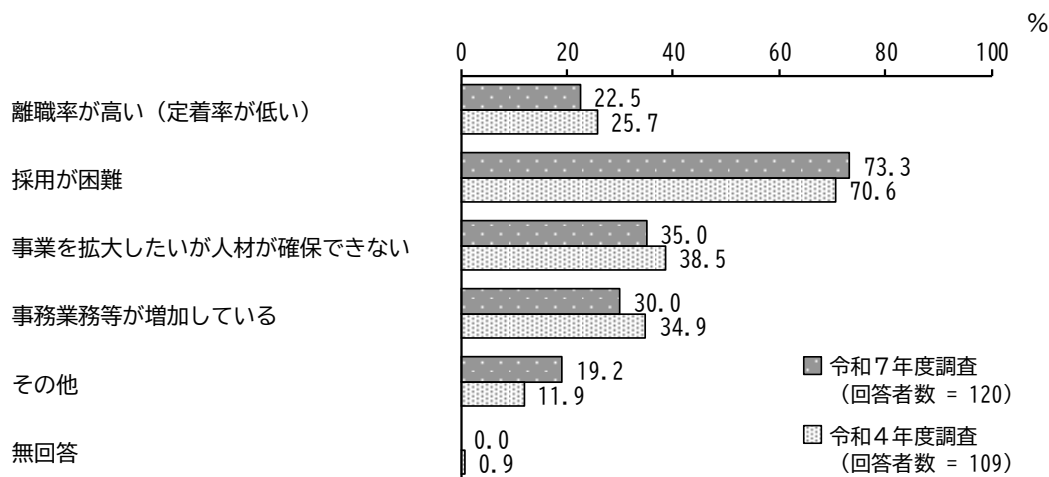
サービス種別にみると、移動支援で「非常に不足している」、訪問系サービス、移動支援で「不足している」、居住系サービス、障害児通所支援で「やや不足している」、相談支援、障害児相談支援で「十分である」の割合が高くなっています。



問 20 で「非常に不足している」～「やや不足している」に○をつけた事業所にうかがいます。

問 20－1 その理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「採用が困難」の割合が 73.3%と最も高く、次いで「事業を拡大したいが人材が確保できない」の割合が 35.0%、「事務業務等が増加している」の割合が 30.0%となっています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児通所支援で「離職率が高い（定着率が低い）」、訪問系サービスで「採用が困難」「事業を拡大したいが人材が確保できない」、居住系サービス、移動支援で「事務業務等が増加している」の割合が高くなっています。

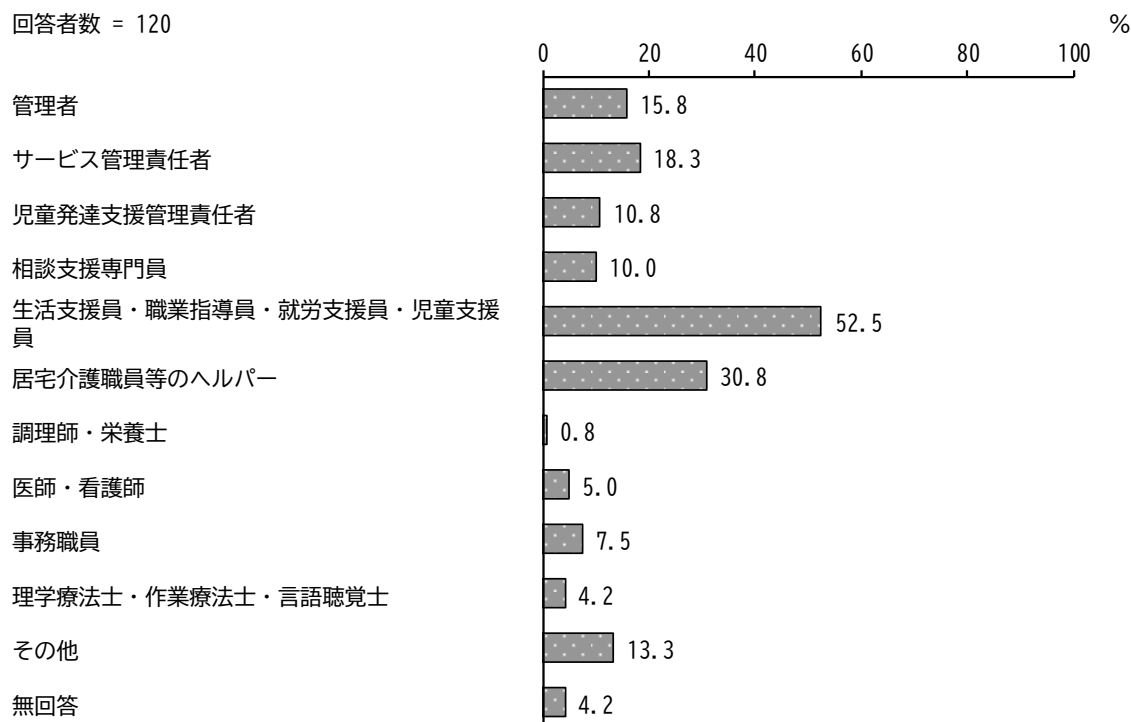
単位：％

区分	回答者数 (件)	離職率が高い (定着率が低い)	採用が困難	事業を拡大したいが 人材が確保できない	事務業務等が増加 している	その他	無回答
全 体	120	22.5	73.3	35.0	30.0	19.2	0.0
訪問系サービス	12	16.7	83.3	66.7	41.7	8.3	0.0
日中活動系サービス	29	24.1	75.9	27.6	37.9	20.7	0.0
居住系サービス	11	0.0	72.7	18.2	45.5	18.2	0.0
相談支援	6	16.7	83.3	16.7	16.7	16.7	0.0
障害児通所支援	30	33.3	66.7	26.7	3.3	23.3	0.0
障害児相談支援	5	20.0	40.0	0.0	40.0	40.0	0.0
移動支援	25	24.0	76.0	56.0	44.0	12.0	0.0

問 20 で「非常に不足している」～「やや不足している」に○をつけた事業所にうかがいます。

問 20-2 職員が不足しているのは、どの職種ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「生活支援員・職業指導員・就労支援員・児童支援員」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「居宅介護職員等のヘルパー」の割合が 30.8%、「サービス管理責任者」の割合が 18.3%となっています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「管理者」、訪問系サービスで「サービス管理責任者」、障害児通所支援で「児童発達支援管理責任者」、日中活動系サービスで「生活支援員・職業指導員・就労支援員・児童支援員」、訪問系サービス、移動支援で「居宅介護職員等のヘルパー」の割合が高くなっています。

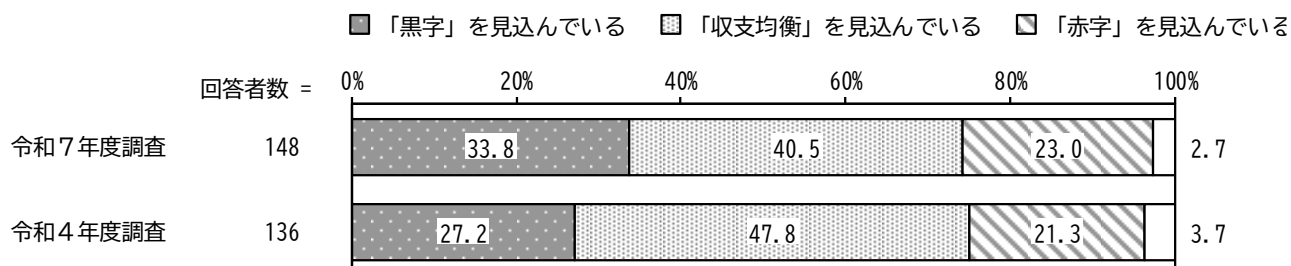
単位：%

区分	回答者数 (件)	管理者	サービス管理責任者	児童発達支援管理責任者	相談支援専門員	生活支援員・職業指導員・就労支援員・児童支援員	居宅介護職員等のヘルパー	調理師・栄養士	医師・看護師	事務職員	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	その他	無回答
全 体	120	15.8	18.3	10.8	10.0	52.5	30.8	0.8	5.0	7.5	4.2	13.3	4.2
訪問系サービス	12	16.7	41.7	0.0	0.0	0.0	91.7	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0
日中活動系サービス	29	10.3	27.6	0.0	10.3	89.7	3.4	3.4	6.9	10.3	0.0	3.4	0.0
居住系サービス	11	9.1	18.2	0.0	0.0	54.5	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	27.3	27.3
相談支援	6	0.0	0.0	0.0	33.3	100.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援	30	20.0	0.0	40.0	3.3	70.0	0.0	0.0	10.0	0.0	13.3	26.7	3.3
障害児相談支援	5	0.0	0.0	20.0	40.0	80.0	20.0	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0	0.0
移動支援	25	28.0	28.0	0.0	12.0	0.0	92.0	0.0	0.0	4.0	0.0	16.0	4.0

問 21 貴事業所の今年度の収支状況（見込み）について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

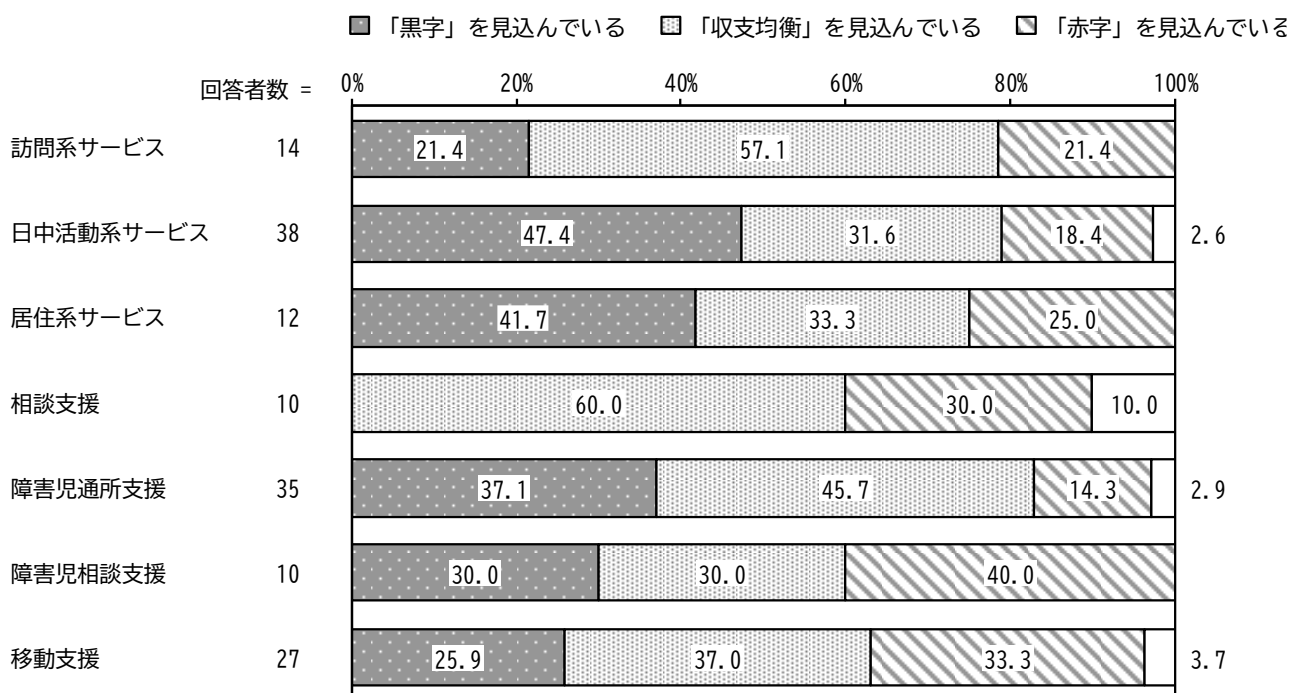
「黒字」を見込んでいる」の割合が33.8%、「収支均衡」を見込んでいる」の割合が40.5%、「赤字」を見込んでいる」の割合が23.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「黒字」を見込んでいる」の割合が増加しています。一方、「収支均衡」を見込んでいる」の割合が減少しています。



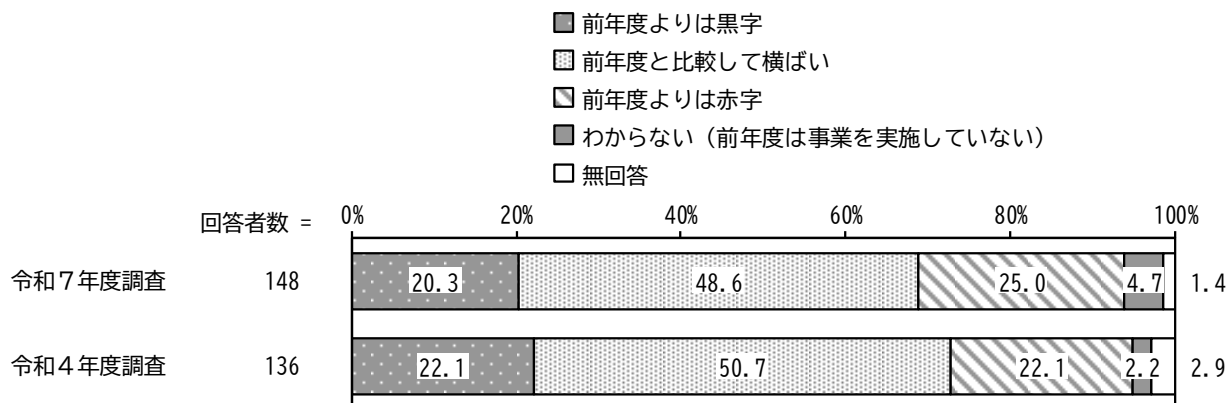
【サービス種別】

サービス種別にみると、日中活動系サービスで「黒字」を見込んでいる」、訪問系サービス、相談支援で「収支均衡」を見込んでいる」、障害児相談支援で「赤字」を見込んでいる」の割合が高くなっています。



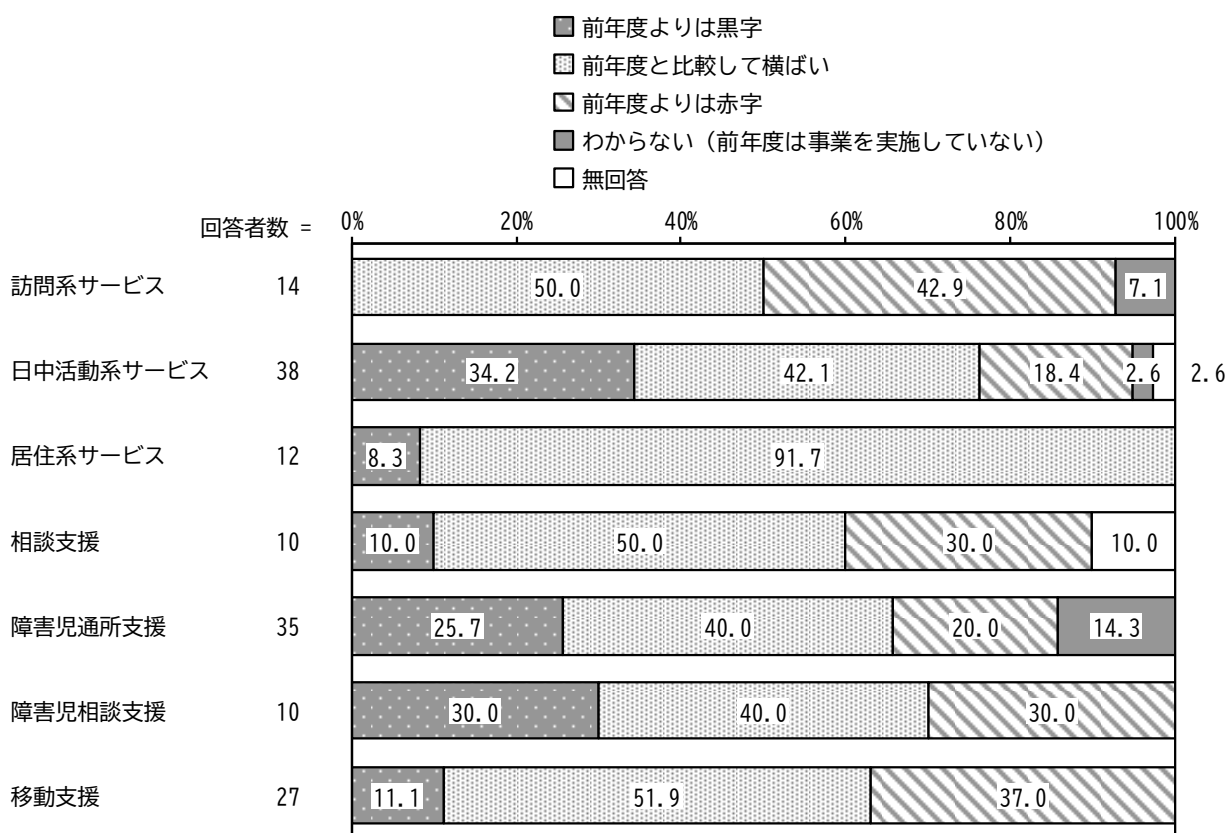
問 22 貴事業所の今年度の収支状況と、昨年同時期の収支状況を比較して、あてはまるもの1つに○をつけてください。

「前年度よりは黒字」の割合が 20.3%、「前年度と比較して横ばい」の割合が 48.6%、「前年度よりは赤字」の割合が 25.0%となっています。



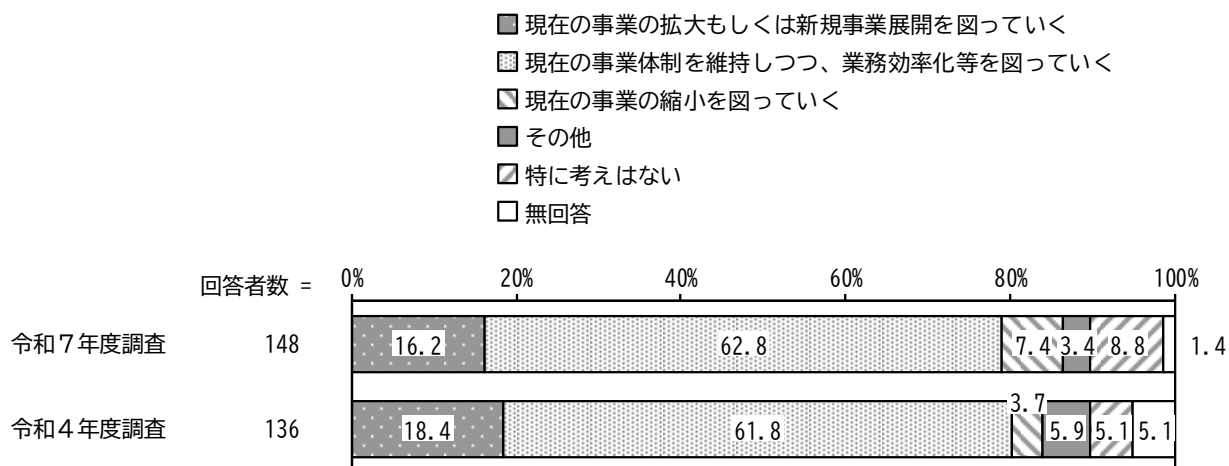
【サービス種別】

サービス種別にみると、日中活動系サービスで「前年度よりは黒字」、居住系サービスで「前年度と比較して横ばい」、訪問系サービスで「前年度よりは赤字」の割合が高くなっています。



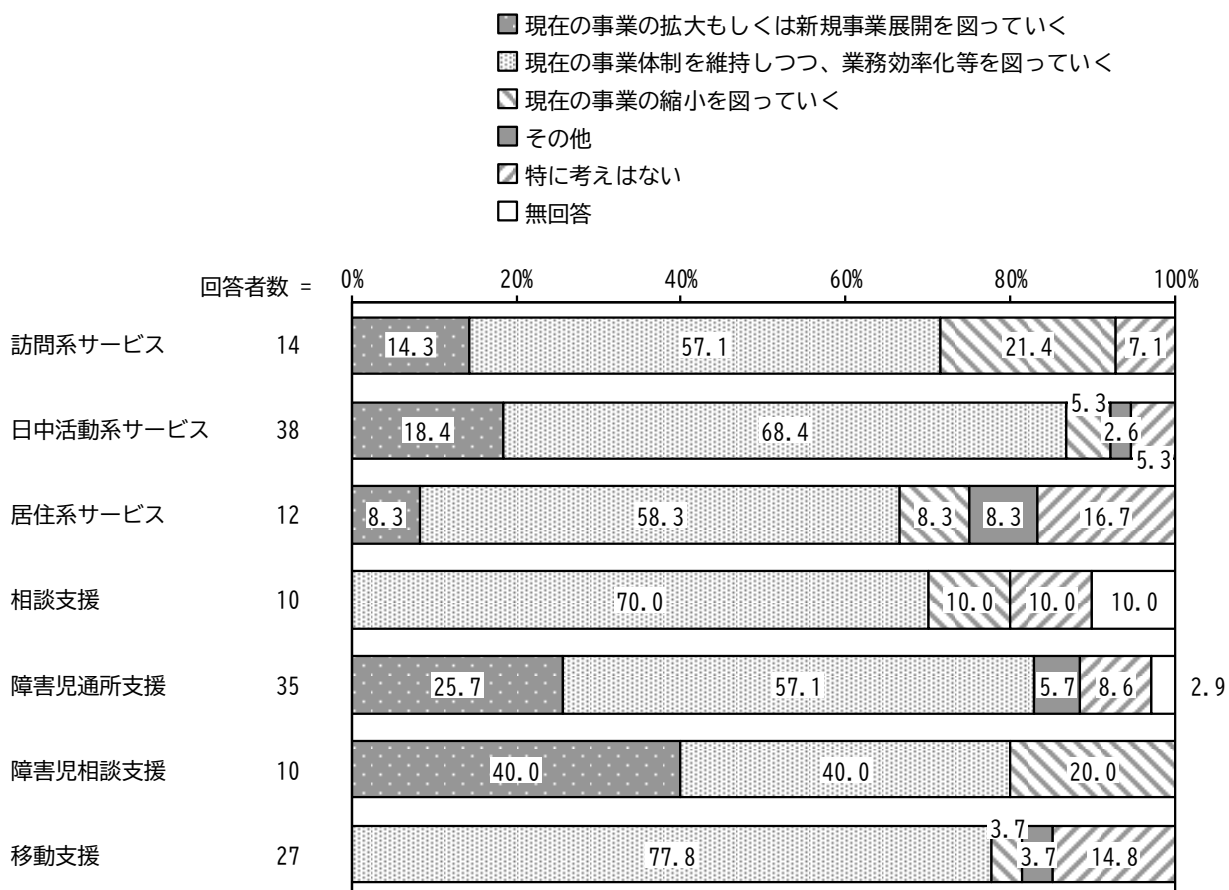
問 23 貴事業所の収支の向上や改善についてのお考えにもっとも近いもの1つに○をつけてください。

「現在の事業の拡大もしくは新規事業展開を図っていく」の割合が 16.2%、「現在の事業体制を維持しつつ、業務効率化等を図っていく」の割合が 62.8%、「現在の事業の縮小を図っていく」の割合が 7.4%となっています。



【サービス種別】

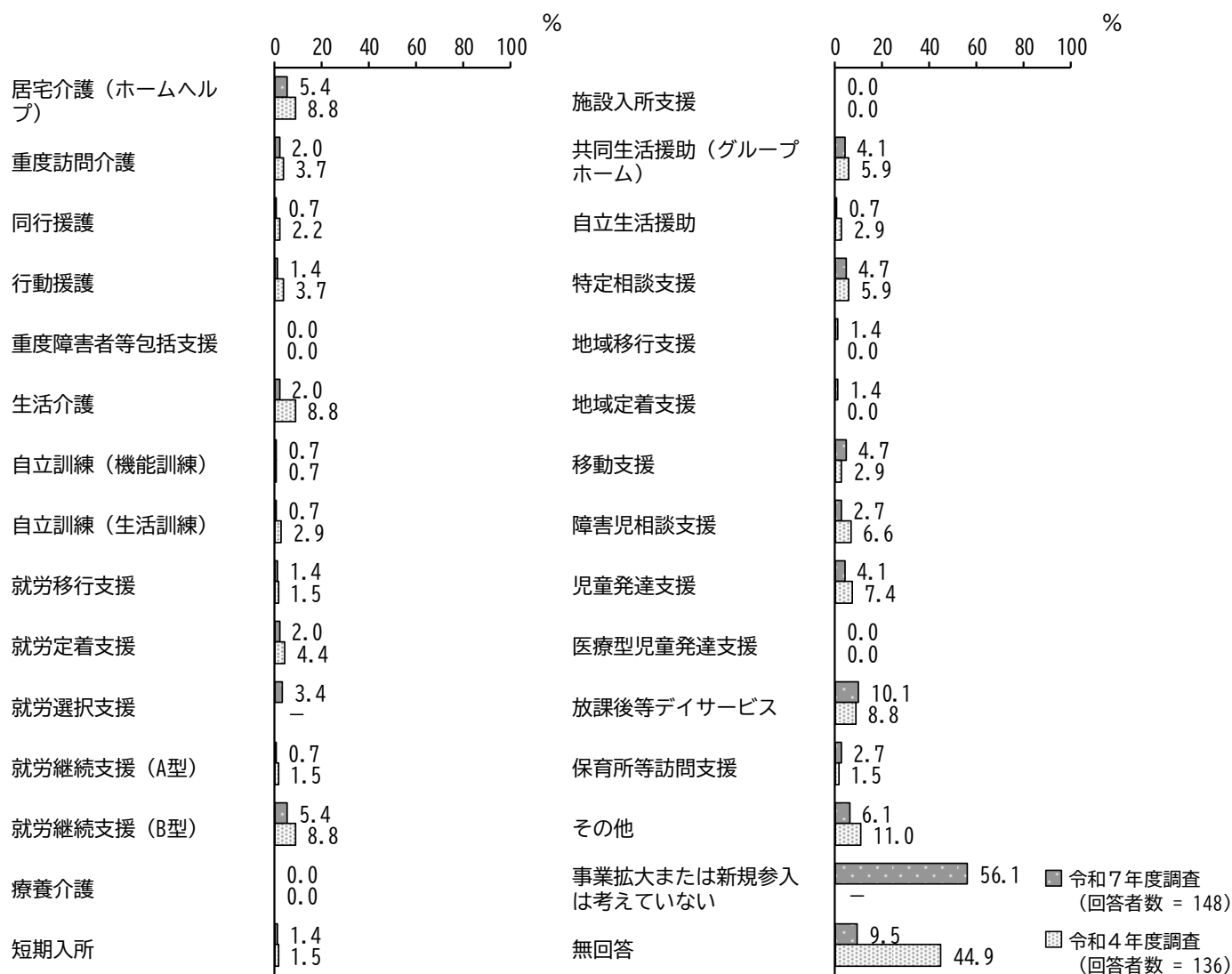
サービス種別にみると、障害児相談支援で「現在の事業の拡大もしくは新規事業展開を図っていく」、移動支援で「現在の事業体制を維持しつつ、業務効率化等を図っていく」、訪問系サービス、障害児相談支援で「現在の事業の縮小を図っていく」の割合が高くなっています。



問 24 次のサービスのうち、貴事業所において、今後3年間（令和10年度まで）に事業拡大または新規参入のお考えがあるものはどれですか。現段階でご検討されているものすべてに○をつけてください。

「放課後等デイサービス」の割合が10.1%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「生活介護」の割合が減少しています。



※「就労選択支援」、「事業拡大または新規参入は考えていない」は令和7年度調査で追加した選択肢です。

【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「居宅介護（ホームヘルプ）」「重度訪問介護」、障害児相談支援で「同行援護」「行動援護」「自立訓練（機能訓練）」「自立訓練（生活訓練）」「就労移行支援」「就労定着支援」「共同生活援助（グループホーム）」「特定相談支援」「地域移行支援」「地域定着支援」「移動支援」、居住系サービスで「生活介護」「障害児相談支援」、日中活動系サービス、障害児相談支援で「就労選択支援」、日中活動系サービスで「就労継続支援（B型）」、障害児通所支援、障害児相談支援で「児童発達支援」、障害児通所支援で「放課後等デイサービス」「保育所等訪問支援」の割合が高くなっています。

単位：％

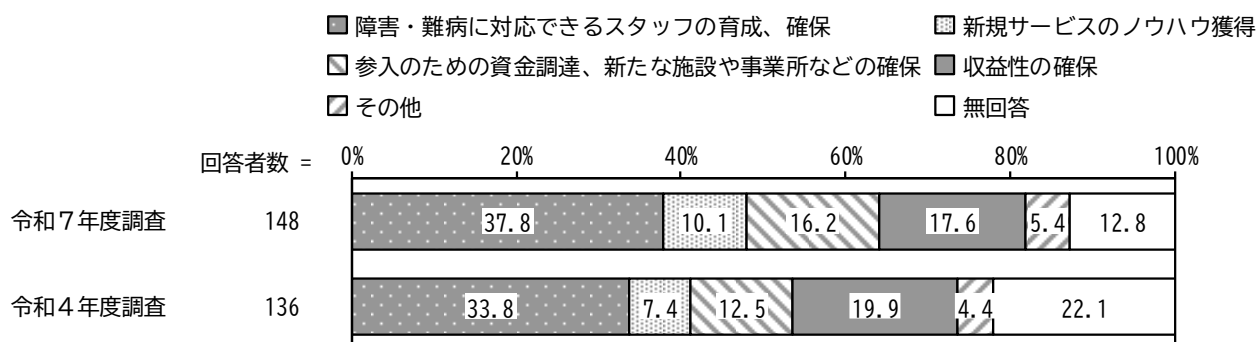
区分	回答者数 (件)	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障害者等 包括支援	生活介護	自立訓練 (機能訓練)	自立訓練 (生活訓練)	就労移行支援	就労定着支援	就労選択支援
全 体	148	5.4	2.0	0.7	1.4	0.0	2.0	0.7	0.7	1.4	2.0	3.4
訪問系サービス	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
日中活動系サービス	38	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	2.6	5.3	10.5
居住系サービス	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相談支援	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援	35	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児相談支援	10	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
移動支援	27	14.8	7.4	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	就労継続支援 (A型)	就労継続支援 (B型)	療養介護	短期入所	施設入所支援	共同生活援助 (グループホーム)	自立生活援助	特定相談支援	地域移行支援	移動支援	障害児相談支援	児童発達支援
全 体	0.7	5.4	0.0	1.4	0.0	4.1	0.7	4.7	1.4	4.7	2.7	4.1
訪問系サービス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
日中活動系サービス	0.0	13.2	0.0	0.0	0.0	2.6	2.6	5.3	2.6	0.0	0.0	0.0
居住系サービス	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0	8.3	8.3	8.3
相談支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援	2.9	2.9	0.0	5.7	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	5.7	11.4
障害児相談支援	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	10.0	10.0	20.0	0.0	10.0
移動支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	3.7	0.0	11.1	3.7	0.0

区分	医療型 児童発達支援	放課後等 デイサービス	保育所等 訪問支援	その他	事業拡大 または新規 参入は考 えてはい ない	無回答
全 体	0.0	10.1	2.7	6.1	56.1	9.5
訪問系サービス	0.0	0.0	0.0	14.3	78.6	0.0
日中活動系サービス	0.0	2.6	0.0	2.6	52.6	15.8
居住系サービス	0.0	0.0	0.0	8.3	58.3	8.3
相談支援	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	10.0
障害児通所支援	0.0	31.4	11.4	11.4	42.9	5.7
障害児相談支援	0.0	20.0	0.0	10.0	30.0	20.0
移動支援	0.0	3.7	0.0	0.0	63.0	7.4

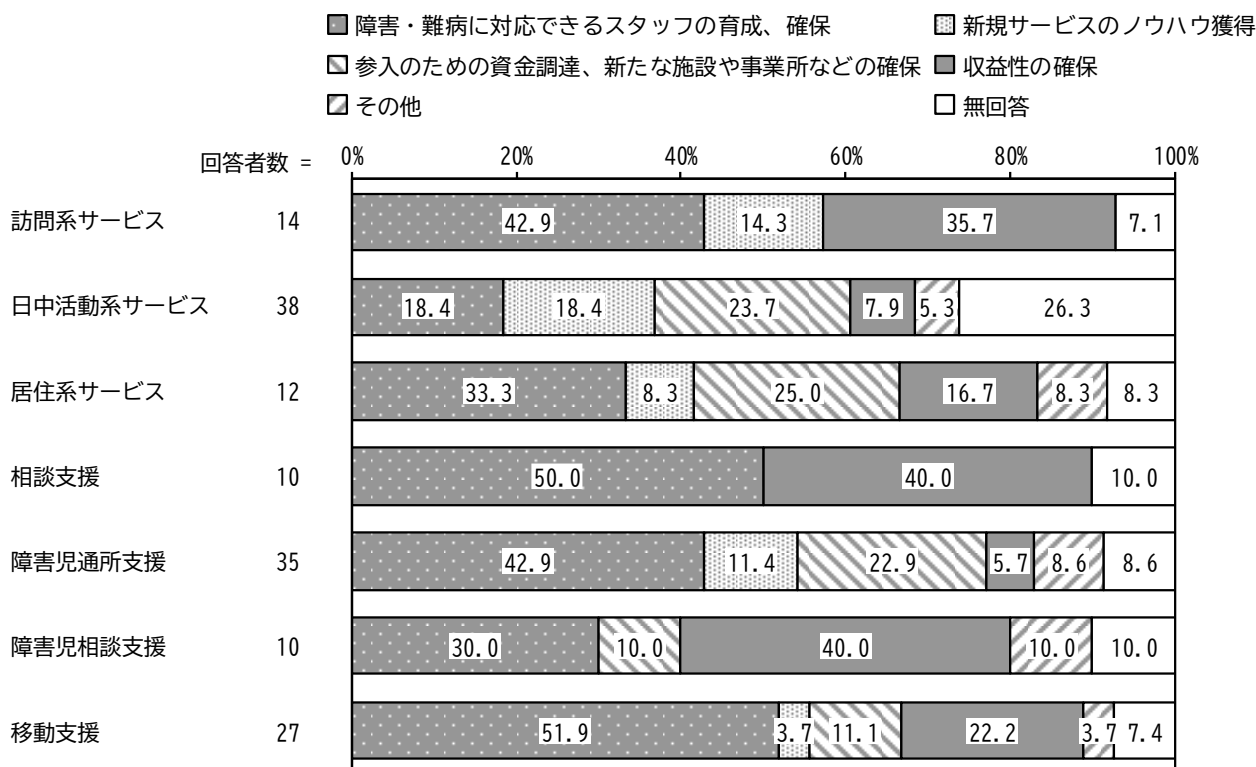
問 25 新規サービスに参入又は事業拡大する上で、課題となることは何ですか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。（実際に事業の拡大・新規参入の予定がない場合でも、想定の上でお答えください。）

「障害・難病に対応できるスタッフの育成、確保」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「収益性の確保」の割合が 17.6%、「参入のための資金調達、新たな施設や事業所などの確保」の割合が 16.2%となっています。



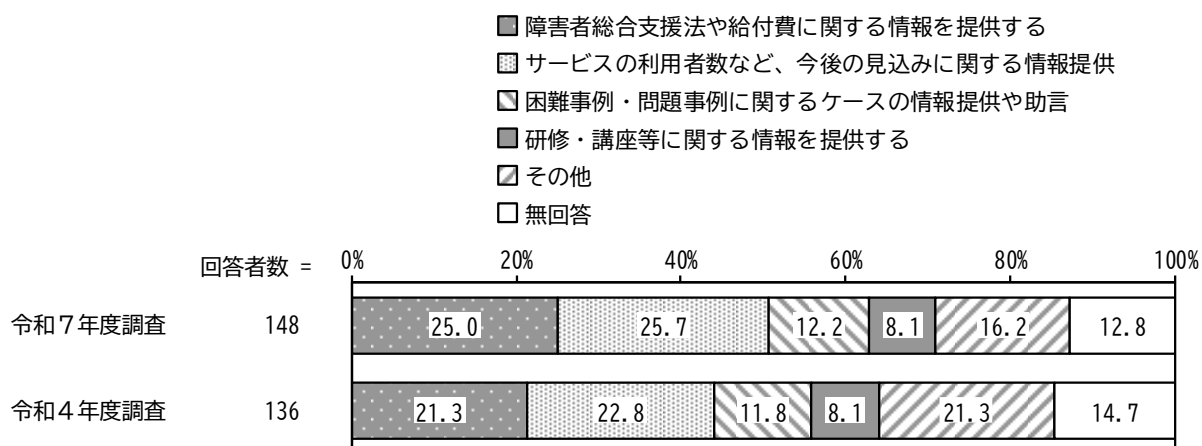
【サービス種別】

サービス種別にみると、相談支援、移動支援で「障害・難病に対応できるスタッフの育成、確保」、相談支援、障害児相談支援で「収益性の確保」の割合が高くなっています。



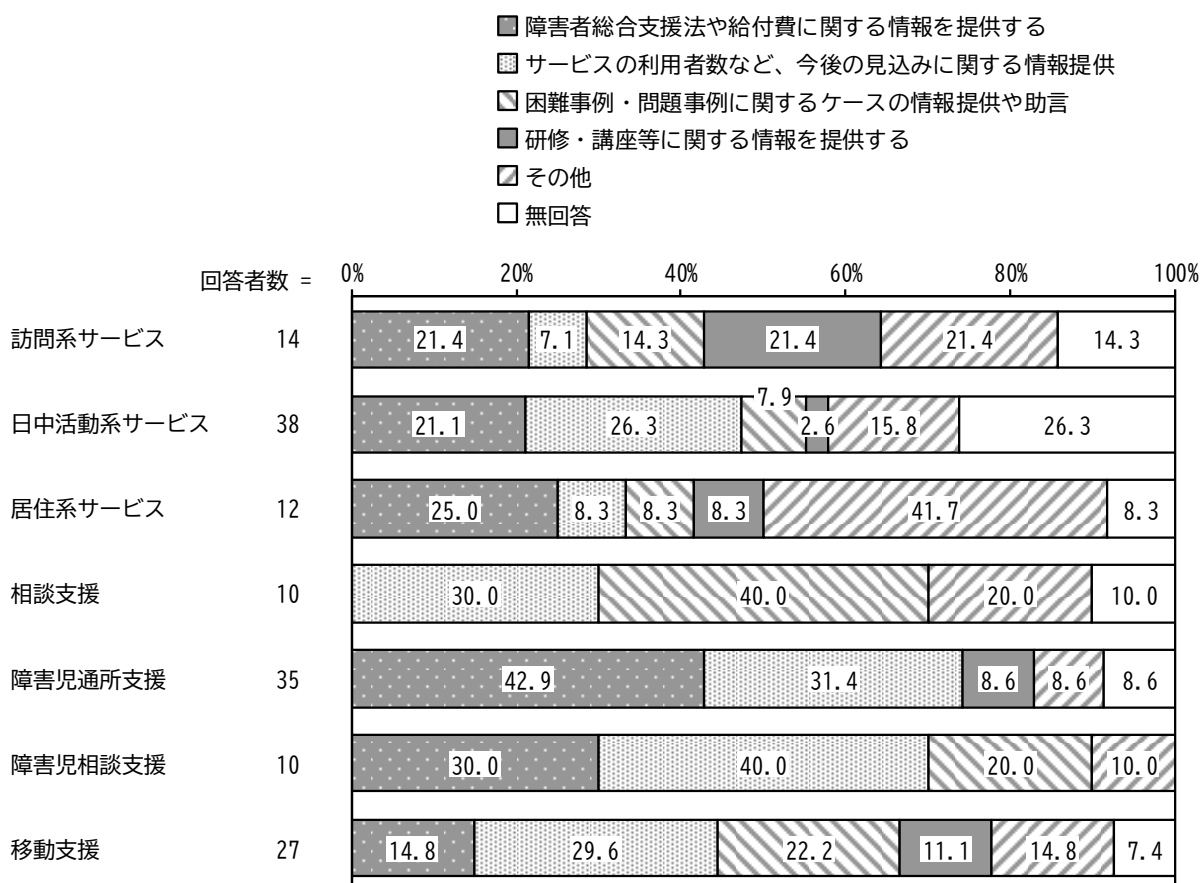
問 26 障害福祉サービス等への事業者の新規参入又は事業拡大を促進するため、区としては、どのようなことに取り組んでいくことが必要だと思いますか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

「サービスの利用者数など、今後の見込みに関する情報提供」の割合が 25.7%と最も高く、次いで「障害者総合支援法や給付費に関する情報を提供する」の割合が 25.0%、「困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言」の割合が 12.2%となっています。



【サービス種別】

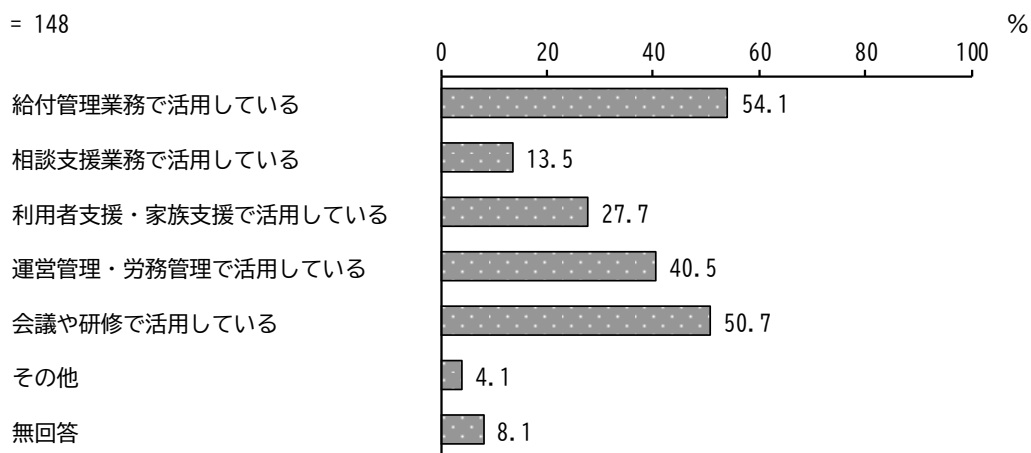
サービス種別にみると、障害児通所支援で「障害者総合支援法や給付費に関する情報を提供する」、障害児相談支援で「サービスの利用者数など、今後の見込みに関する情報提供」、相談支援で「困難事例・問題事例に関するケースの情報提供や助言」、訪問系サービスで「研修・講座等に関する情報を提供する」の割合が高くなっています。



問 27 貴事業所では、どのような業務で I C T を活用していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「給付管理業務で活用している」の割合が 54.1%と最も高く、次いで「会議や研修で活用している」の割合が 50.7%、「運営管理・労務管理で活用している」の割合が 40.5%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「給付管理業務で活用している」、障害児相談支援で「相談支援業務で活用している」「利用者支援・家族支援で活用している」、相談支援で「運営管理・労務管理で活用している」の割合が高くなっています。

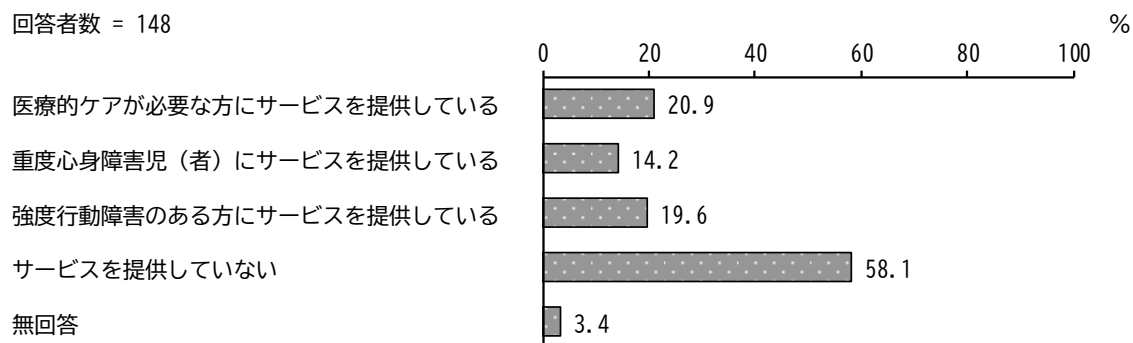
単位：%

区分	回答者数 (件)	給付管理業務で活用している	相談支援業務で活用している	利用者支援・家族支援で活用している	運営管理・労務管理で活用している	会議や研修で活用している	その他	無回答
全 体	148	54.1	13.5	27.7	40.5	50.7	4.1	8.1
訪問系サービス	14	64.3	0.0	0.0	50.0	21.4	7.1	14.3
日中活動系サービス	38	42.1	15.8	34.2	28.9	57.9	2.6	7.9
居住系サービス	12	50.0	8.3	33.3	25.0	58.3	8.3	0.0
相談支援	10	40.0	40.0	20.0	60.0	60.0	0.0	10.0
障害児通所支援	35	51.4	8.6	37.1	48.6	48.6	2.9	11.4
障害児相談支援	10	60.0	50.0	40.0	40.0	50.0	0.0	10.0
移動支援	27	70.4	3.7	18.5	44.4	55.6	7.4	3.7

問 28 貴事業所において医療的ケアが必要な方や重度心身障害児（者）、強度行動障害のある方に対して、サービスを提供していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「サービスを提供していない」の割合が 58.1%と最も高く、次いで「医療的ケアが必要な方にサービスを提供している」の割合が 20.9%、「強度行動障害のある方にサービスを提供している」の割合が 19.6%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、相談支援で「医療的ケアが必要な方にサービスを提供している」「強度行動障害のある方にサービスを提供している」、移動支援で「重度心身障害児（者）にサービスを提供している」、日中活動系サービスで「サービスを提供していない」の割合が高くなっています。

単位：％

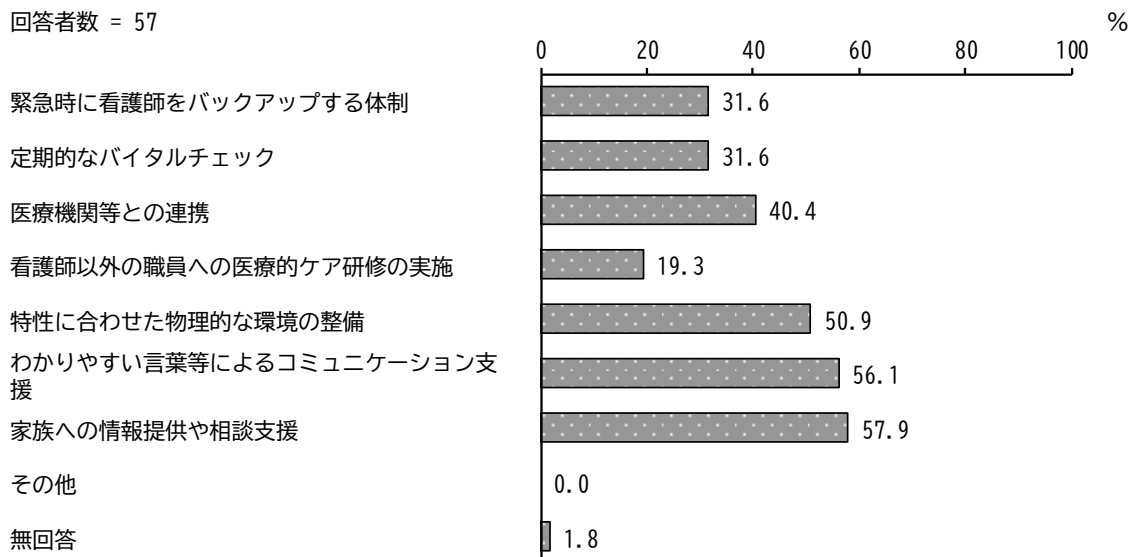
区分	回答者数 (件)	医療的ケアが 必要の方にサ ービスを提 供している	重 度 心 身 障 害 児 (者)にサ ービスを 提供している	強 度 行 動 障 害 の あ る 方 に サ ー ビ ス を 提供している	サ ー ビ ス を 提 供 し て い な い	無 回 答
全 体	148	20.9	14.2	19.6	58.1	3.4
訪問系サービス	14	28.6	7.1	7.1	57.1	7.1
日中活動系サービス	38	10.5	0.0	15.8	73.7	2.6
居住系サービス	12	0.0	16.7	25.0	66.7	0.0
相談支援	10	50.0	20.0	60.0	30.0	0.0
障害児通所支援	35	17.1	11.4	17.1	60.0	2.9
障害児相談支援	10	30.0	20.0	40.0	40.0	10.0
移動支援	27	33.3	37.0	11.1	44.4	3.7

問 28 で「医療的ケアが必要な方にサービスを提供している」～「強度行動障害のある方にサービスを提供している」のいずれかに○をつけた事業所にうかがいます。

問 28－1 貴事業所において、医療的ケアが必要な方や重度心身障害児（者）、強度行動障害のある方に対して、どのような配慮をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

「家族への情報提供や相談支援」の割合が 57.9%と最も高く、次いで「わかりやすい言葉等によるコミュニケーション支援」の割合が 56.1%、「特性に合わせた物理的な環境の整備」の割合が 50.9%となっています。

回答者数 = 57



【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児通所支援で「看護師以外の職員への医療的ケア研修の実施」「特性に合わせた物理的な環境の整備」「わかりやすい言葉等によるコミュニケーション支援」「家族への情報提供や相談支援」の割合が高く、移動支援で「緊急時に看護師をバックアップする体制」「定期的なバイタルチェック」「医療機関等との連携」の割合が高くなっています。

単位：％

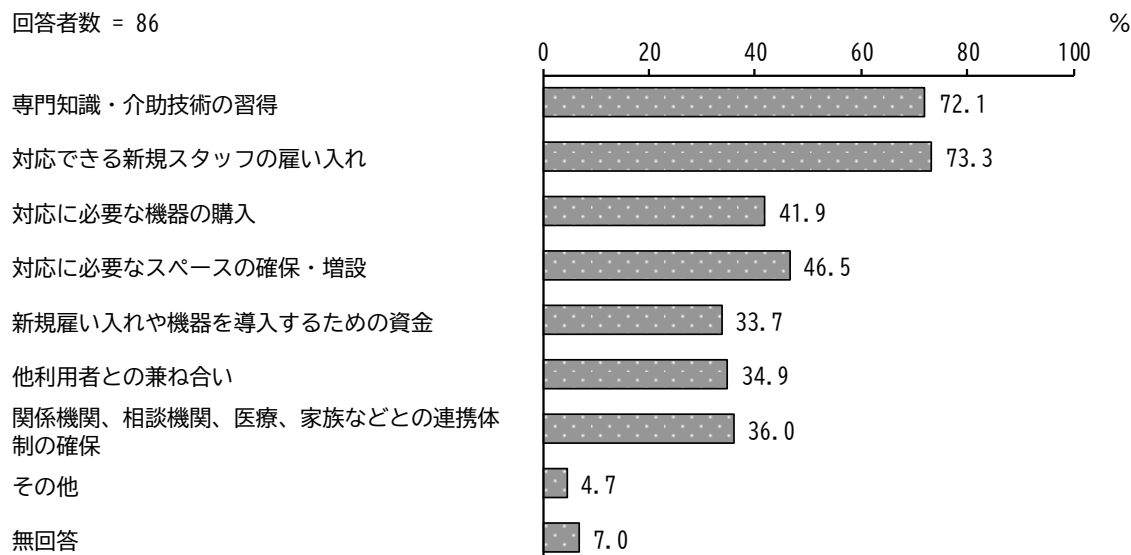
区分	回答者数（件）	緊急時に看護師をバックアップする体制	定期的なバイタルチェック	医療機関等との連携	看護師以外の職員への医療的ケア研修の実施	特性に合わせた物理的な環境の整備	わかりやすい言葉等によるコミュニケーション支援	家族への情報提供や相談支援	その他	無回答
全 体	57	31.6	31.6	40.4	19.3	50.9	56.1	57.9	0.0	1.8
訪問系サービス	5	20.0	20.0	80.0	20.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0
日中活動系サービス	9	33.3	33.3	44.4	11.1	77.8	66.7	44.4	0.0	11.1
居住系サービス	4	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	75.0	75.0	0.0	0.0
相談支援	7	28.6	57.1	42.9	0.0	71.4	28.6	42.9	0.0	0.0
障害児通所支援	13	23.1	23.1	7.7	38.5	61.5	69.2	69.2	0.0	0.0
障害児相談支援	5	20.0	20.0	20.0	0.0	60.0	80.0	100.0	0.0	0.0
移動支援	14	57.1	42.9	71.4	28.6	21.4	42.9	42.9	0.0	0.0

問 28 で「サービスを提供していない」に○をつけた事業所にうかがいます。

問 28－2 貴事業所において、医療的ケアが必要な方や重度心身障害児（者）、強度行動障害のある方に障害福祉サービスを提供するために必要なことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「対応できる新規スタッフの雇い入れ」の割合が 73.3%と最も高く、次いで「専門知識・介助技術の習得」の割合が 72.1%、「対応に必要なスペースの確保・増設」の割合が 46.5%となっています。

回答者数 = 86



【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児通所支援、移動支援で「専門知識・介助技術の習得」、障害児通所支援で「対応に必要な機器の購入」「新規雇い入れや機器を導入するための資金」、日中活動系サービスで「対応に必要なスペースの確保・増設」「他利用者との兼ね合い」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	専門知識・介助技術の習得	対応できる新規スタッフの雇い入れ	対応に必要な機器の購入	対応に必要なスペースの確保・増設	新規雇い入れや機器を導入するための資金	他利用者との兼ね合い	関係機関、相談機関、医療、家族などとの連携体制の確保	その他	無回答
全 体	86	72.1	73.3	41.9	46.5	33.7	34.9	36.0	4.7	7.0
訪問系サービス	8	75.0	25.0	0.0	12.5	0.0	12.5	37.5	12.5	0.0
日中活動系サービス	28	64.3	78.6	50.0	67.9	42.9	50.0	35.7	3.6	3.6
居住系サービス	8	62.5	62.5	50.0	50.0	37.5	50.0	25.0	12.5	12.5
相談支援	3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7
障害児通所支援	21	85.7	81.0	66.7	61.9	47.6	42.9	42.9	4.8	4.8
障害児相談支援	4	75.0	50.0	50.0	50.0	50.0	25.0	50.0	0.0	25.0
移動支援	12	83.3	100.0	8.3	0.0	8.3	8.3	41.7	0.0	0.0

問 29 区全体をみたときに、不足していると思われるサービスや支援はどのようなものですか。また、それらのサービスや支援が足りていない理由は何だと思われますか。

■不足していると感じるサービス・支援

共同生活援助（グループホーム）について(27 件)

移動支援・通院介助・送迎について(25 件)

居宅介護・ヘルパーについて(24 件)

計画相談・相談支援について(16 件)

短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護について(14 件)

医療的ケア・重度障害者・困難事例対応について(9 件)

放課後等デイサービスについて(8 件)

その他の障害福祉サービス・支援について(8 件)

人材不足・報酬単価・処遇改善について(7 件)

居住支援・家賃補助について(5 件)

自立生活援助について(4 件)

事業所の地域偏在・時間外対応（夜間・休日等）について(4 件)

生活介護について(3 件)

就労支援・就労継続支援について(3 件)

他機関との連携・情報共有について(3 件)

行政の対応・制度の運用について(3 件)

研修・勉強会について(1 件)

災害時対応・避難所について(1 件)

その他について(6 件)

■理由など

・人材不足・人材確保について(29 件)

人材が不足している

・物件・家賃・土地の確保について(16 件)

23 区は家賃が高い。

・報酬・単価の低さについて(15 件)

サービス単価が低く、事業継続が困難な為。

・移動支援・送迎サービスについて(9 件)

移動支援を使いたいと思っている利用者が多いのですが見つけることができないため。

・グループホーム・住居確保について(9 件)

車いす利用者などが利用できるグループホームが少ない。重度知的障害者が利用できるグループホームが少ない。

・サービス需要増・定員超過について(9 件)

対応できる事業所の数が不足しているため。

・計画相談・相談支援について(8 件)

相談支援員さんの 1 名あたりの対応人数が多いことで、なかなか連絡が返ってこないケースがある

・行政の対応・制度的課題について(8件)

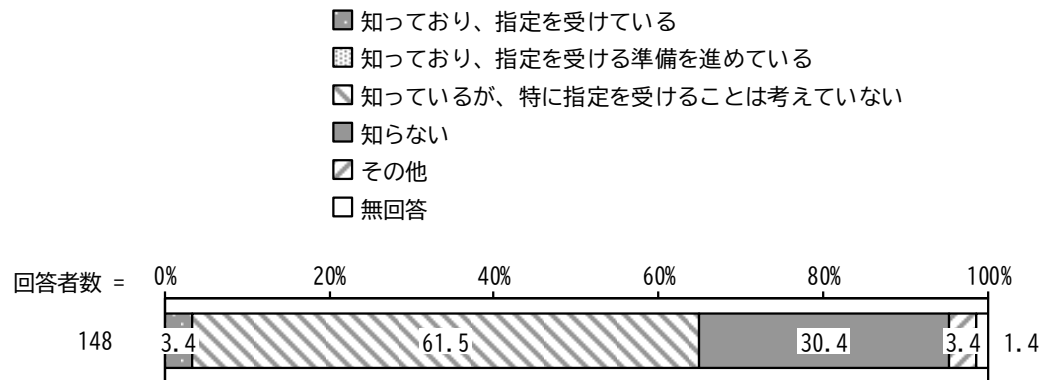
区内の状況やニーズに合わせそれぞれに必要な課題の抽出、対策など検討解決していくことが実現されない

なお、以下の項目についてのご意見をいただいております。

- ・スタッフの待遇・労働環境について(5件)
- ・児童向けサービス（放課後等デイサービス等）について(4件)
- ・緊急時・夜間対応・短期入所について(4件)
- ・地域偏在・立地による格差について(4件)
- ・精神障害・困難事例への対応について(3件)
- ・研修・教育・障害理解について(3件)
- ・重度障害・医療的ケアへの対応について(2件)
- ・就労支援・日中活動の場について(2件)
- ・防災・避難場所について(1件)
- ・地域の人間関係・モラルについて(1件)
- ・その他について(4件)

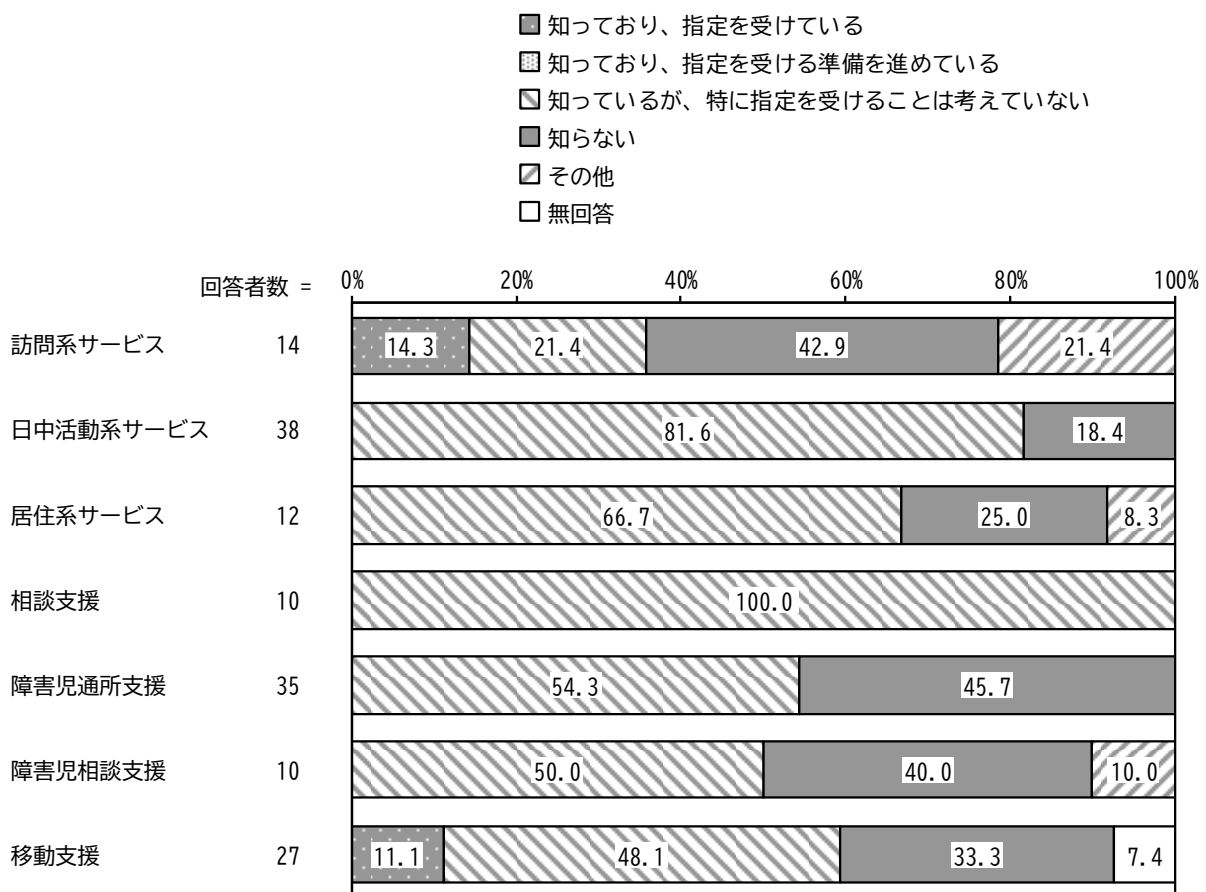
問 30 「共生型サービス」をご存じですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

「知っており、指定を受けている」の割合が 3.4%、「知らない」の割合が 30.4%となっています。



【サービス種別】

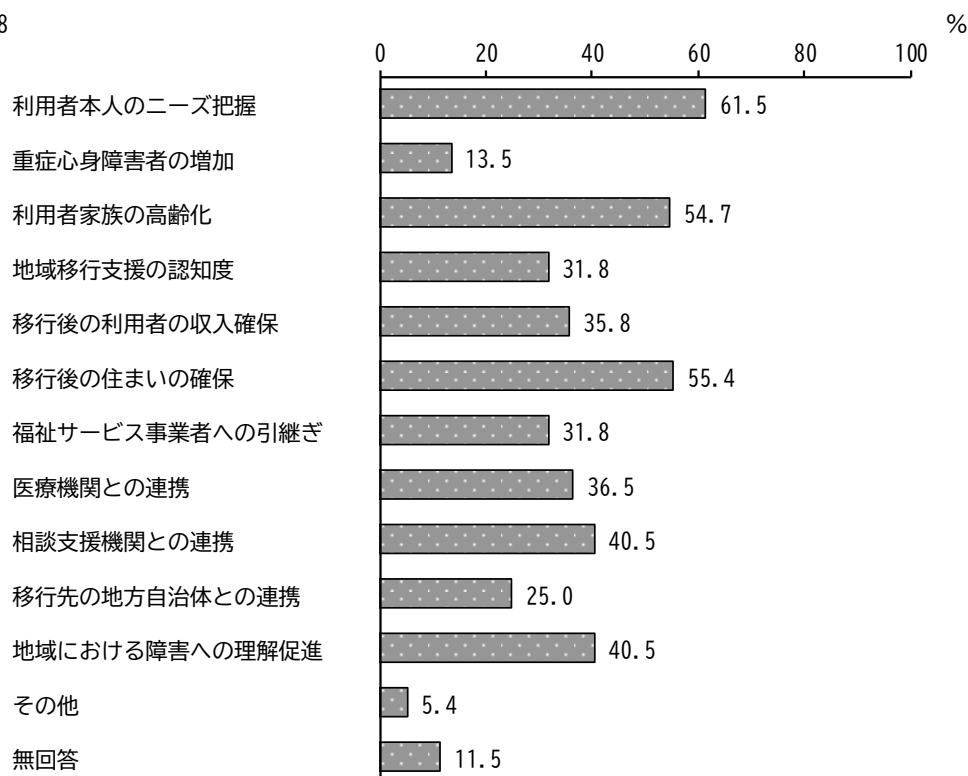
サービス種別にみると、訪問系サービスで「知っており、指定を受けている」、訪問系サービス、障害児通所支援で「知らない」の割合が高くなっています。



問 31 入所者の地域生活への移行を進める上での課題と思うことについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

「利用者本人のニーズ把握」の割合が 61.5%と最も高く、次いで「移行後の住まいの確保」の割合が 55.4%、「利用者家族の高齢化」の割合が 54.7%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、相談支援で「利用者本人のニーズ把握」「移行後の住まいの確保」、障害児相談支援で「重症心身障害者の増加」「地域移行支援の認知度」「福祉サービス事業者への引継ぎ」「医療機関との連携」「移行先の地方自治体との連携」、日中活動系サービス、相談支援で「利用者家族の高齢化」、日中活動系サービス、居住系サービスで「移行後の利用者の収入確保」、居住系サービスで「相談支援機関との連携」、相談支援、障害児相談支援で「地域における障害への理解促進」の割合が高くなっています。

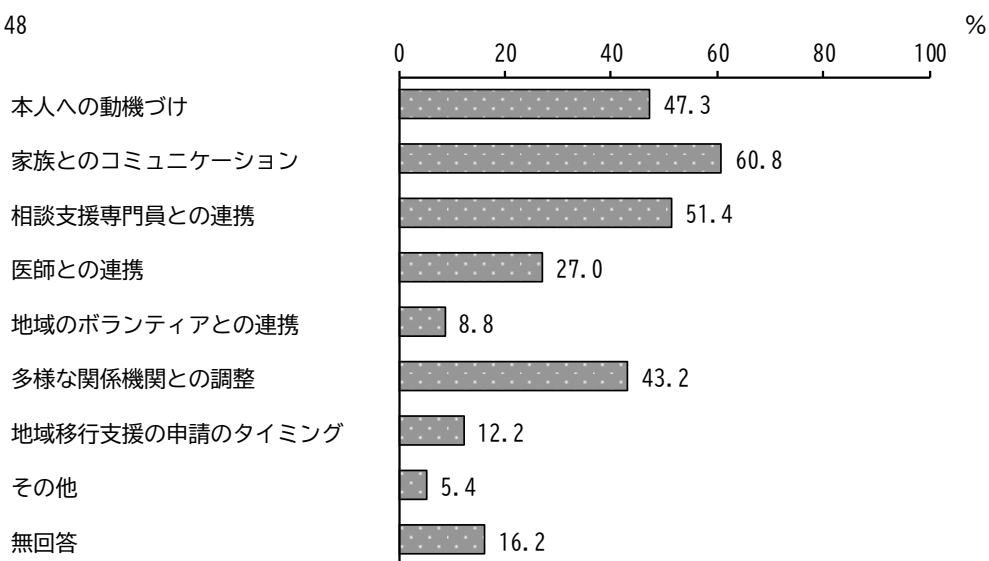
単位：%

区分	回答者数(件)	利用者本人のニーズ把握	重症心身障害者の増加	利用者家族の高齢化	地域移行支援の認知度	移行後の利用者の収入確保	移行後の住まいの確保	福祉サービス事業者への引継ぎ	医療機関との連携	相談支援機関との連携	移行先の地方自治体との連携	地域における障害への理解促進	その他	無回答
全 体	148	61.5	13.5	54.7	31.8	35.8	55.4	31.8	36.5	40.5	25.0	40.5	5.4	11.5
訪問系サービス	14	42.9	0.0	35.7	14.3	28.6	42.9	14.3	14.3	42.9	21.4	28.6	0.0	35.7
日中活動系サービス	38	71.1	13.2	71.1	36.8	50.0	76.3	47.4	47.4	52.6	23.7	42.1	5.3	2.6
居住系サービス	12	50.0	25.0	66.7	25.0	50.0	58.3	25.0	50.0	58.3	8.3	41.7	8.3	8.3
相談支援	10	80.0	30.0	70.0	30.0	40.0	90.0	30.0	30.0	30.0	50.0	60.0	10.0	0.0
障害児通所支援	35	60.0	8.6	40.0	22.9	25.7	31.4	28.6	25.7	37.1	20.0	45.7	5.7	14.3
障害児相談支援	10	60.0	40.0	60.0	70.0	40.0	80.0	60.0	60.0	40.0	60.0	60.0	0.0	10.0
移動支援	27	55.6	7.4	48.1	33.3	22.2	40.7	14.8	33.3	22.2	18.5	22.2	7.4	14.8

問 32 地域生活への移行を進める上で工夫していることについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

「家族とのコミュニケーション」の割合が 60.8%と最も高く、次いで「相談支援専門員との連携」の割合が 51.4%、「本人への動機づけ」の割合が 47.3%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、日中活動系サービス、居住系サービスで「本人への動機づけ」、日中活動系サービスで「家族とのコミュニケーション」、居住系サービスで「相談支援専門員との連携」「医師との連携」、障害児相談支援で「地域のボランティアとの連携」、相談支援で「多様な関係機関との調整」、障害児相談支援、移動支援で「地域移行支援の申請のタイミング」の割合が高くなっています。

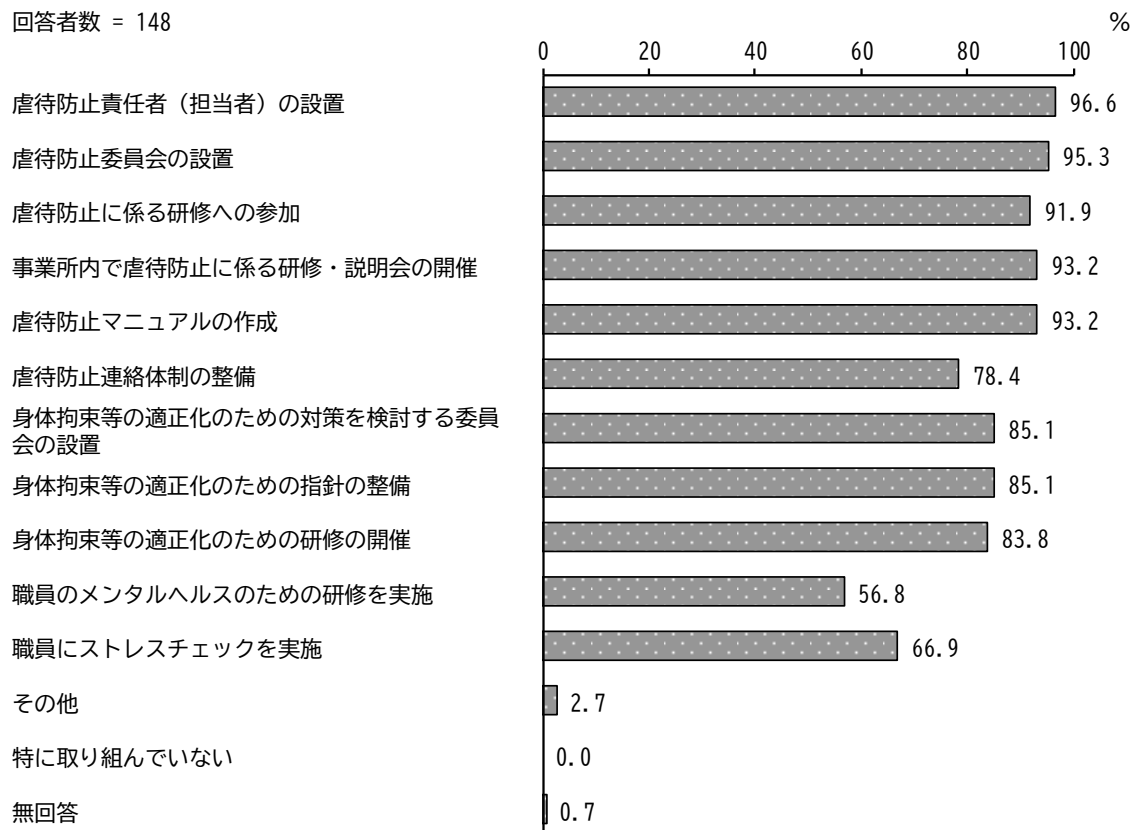
単位：%

区分	回答者数 (件)	本人への 動機づけ	家族との コミュニケーション	相談支援 専門員と の連携	医師との 連携	地域のボ ランティア との連携	多様な 関係機関 との調整	地域移行 支援の申 請のタイ ミング	その他	無回 答
全 体	148	47.3	60.8	51.4	27.0	8.8	43.2	12.2	5.4	16.2
訪問系サービス	14	42.9	50.0	42.9	14.3	7.1	35.7	0.0	7.1	35.7
日中活動系サービス	38	65.8	71.1	68.4	42.1	13.2	50.0	10.5	5.3	13.2
居住系サービス	12	66.7	66.7	75.0	50.0	8.3	75.0	8.3	0.0	8.3
相談支援	10	30.0	30.0	30.0	20.0	0.0	80.0	10.0	0.0	20.0
障害児通所支援	35	20.0	68.6	45.7	5.7	5.7	25.7	2.9	8.6	11.4
障害児相談支援	10	60.0	60.0	50.0	40.0	20.0	70.0	30.0	0.0	20.0
移動支援	27	48.1	51.9	40.7	25.9	7.4	18.5	29.6	7.4	18.5

問 33 貴事業所では虐待防止対策についてどのような取組をしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「虐待防止責任者（担当者）の設置」の割合が 96.6%と最も高く、次いで「虐待防止委員会の設置」の割合が 95.3%、「事業所内で虐待防止に係る研修・説明会の開催」、「虐待防止マニュアルの作成」の割合が 93.2%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児通所支援、移動支援で「職員のメンタルヘルスのための研修を実施」の割合が高くなっています。

単位：％

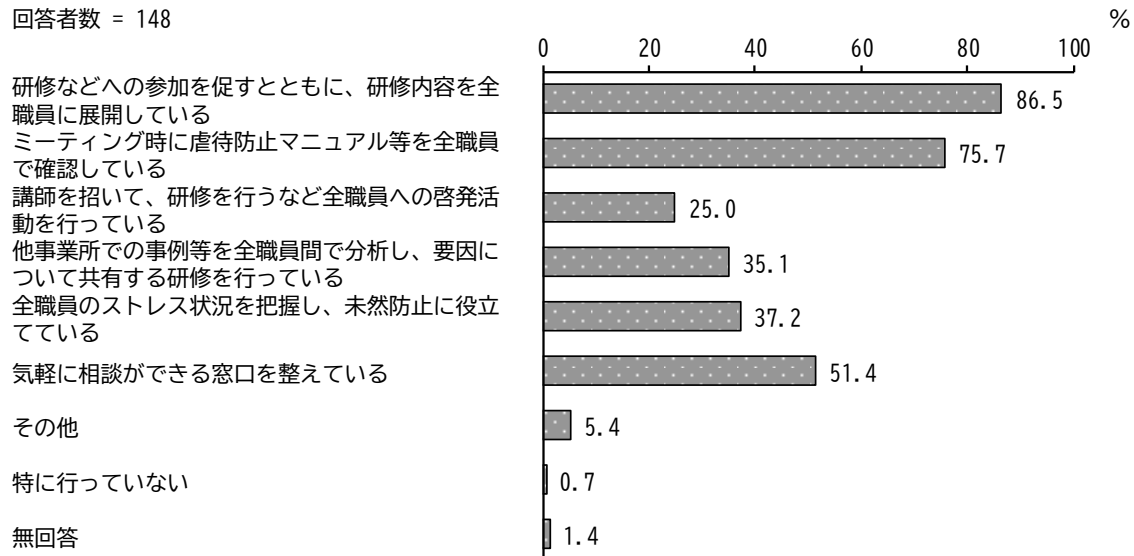
区分	回答者数 (件)	虐待防止責任者 (担当者)の設置	虐待防止委員会の設 置	虐待防止に係る研修 への参加	事業所内で虐待防止 に係る研修・説明会 の開催	虐待防止マニュアル の作成	虐待防止連絡体制の 整備	身体拘束等の適正化 のための対策を検討 する委員会の設置
全 体	148	96.6	95.3	91.9	93.2	93.2	78.4	85.1
訪問系サービス	14	92.9	78.6	78.6	92.9	78.6	57.1	64.3
日中活動系サービス	38	100.0	100.0	100.0	94.7	89.5	81.6	97.4
居住系サービス	12	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
相談支援	10	90.0	80.0	90.0	80.0	90.0	50.0	60.0
障害児通所支援	35	97.1	100.0	80.0	97.1	97.1	82.9	88.6
障害児相談支援	10	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	90.0	80.0
移動支援	27	96.3	96.3	96.3	88.9	100.0	77.8	81.5

区分	身体拘束等の適正化 のための指針の整備	身体拘束等の適正化 のための研修の開催	職員のメンタルヘル スのための研修を实 施	職員にストレスチエ ックを実施	その他	特に取り組んでいな い	無回 答
全 体	85.1	83.8	56.8	66.9	2.7	0.0	0.7
訪問系サービス	71.4	71.4	57.1	57.1	0.0	0.0	0.0
日中活動系サービス	89.5	89.5	55.3	63.2	5.3	0.0	0.0
居住系サービス	100.0	100.0	25.0	66.7	8.3	0.0	0.0
相談支援	60.0	60.0	40.0	70.0	0.0	0.0	10.0
障害児通所支援	94.3	91.4	65.7	68.6	2.9	0.0	0.0
障害児相談支援	80.0	70.0	60.0	70.0	0.0	0.0	0.0
移動支援	81.5	81.5	66.7	70.4	0.0	0.0	0.0

問 34 職員による利用者への虐待やハラスメントを防止するため、どのような工夫を行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「研修などへの参加を促すとともに、研修内容を全職員に展開している」の割合が 86.5%と最も高く、次いで「ミーティング時に虐待防止マニュアル等を全職員で確認している」の割合が 75.7%、「気軽に相談ができる窓口を整えている」の割合が 51.4%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児通所支援で「ミーティング時に虐待防止マニュアル等を全職員で確認している」「他事業所での事例等を全職員間で分析し、要因について共有する研修を行っている」、障害児相談支援で「講師を招いて、研修を行うなど全職員への啓発活動を行っている」、障害児通所支援、移動支援で「全職員のストレス状況を把握し、未然防止に役立っている」、移動支援で「気軽に相談ができる窓口を整えている」の割合が高くなっています。

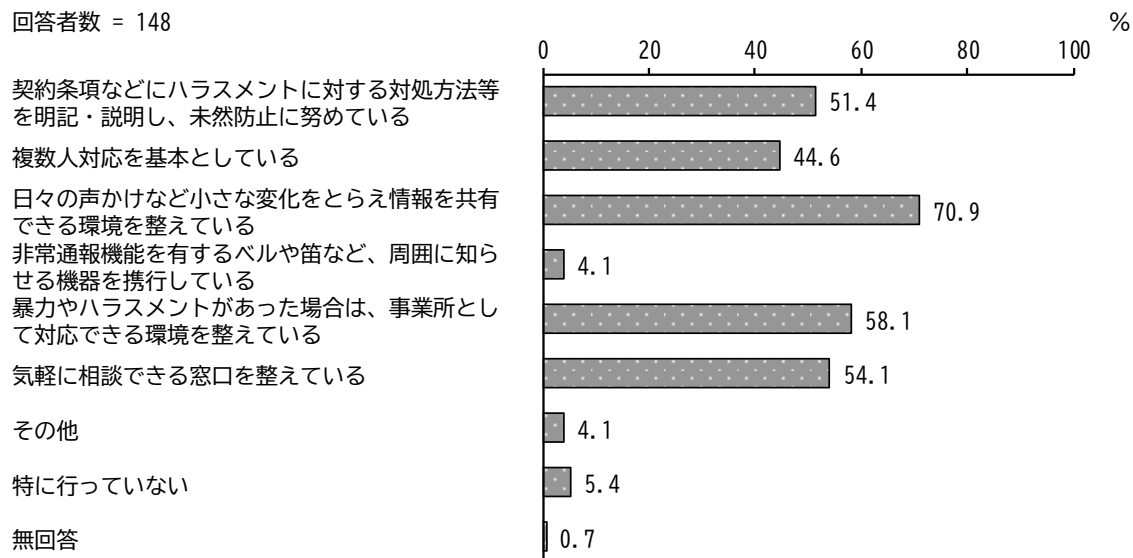
単位：%

区分	回答者数（件）	研修などへの参加を促すとともに、研修内容を全職員に展開している	ミーティング時に虐待防止マニュアル等を全職員で確認している	講師を招いて、研修を行うなど全職員への啓発活動を行っている	他事業所での事例等を全職員間で分析し、要因について共有する研修を行っている	全職員のストレス状況を把握し、未然防止に役立っている	気軽に相談ができる窓口を整えている	その他	特に行っていない	無回答
全 体	148	86.5	75.7	25.0	35.1	37.2	51.4	5.4	0.7	1.4
訪問系サービス	14	85.7	50.0	21.4	28.6	35.7	50.0	0.0	0.0	0.0
日中活動系サービス	38	92.1	71.1	28.9	28.9	28.9	47.4	10.5	0.0	2.6
居住系サービス	12	91.7	83.3	25.0	41.7	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0
相談支援	10	60.0	50.0	20.0	20.0	30.0	30.0	0.0	10.0	10.0
障害児通所支援	35	80.0	88.6	25.7	51.4	54.3	45.7	8.6	0.0	0.0
障害児相談支援	10	90.0	80.0	40.0	30.0	10.0	40.0	0.0	0.0	0.0
移動支援	27	92.6	85.2	18.5	33.3	51.9	77.8	3.7	0.0	0.0

問 35 利用者による職員への暴力やハラスメントを防止するため、どのような工夫を行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「日々の声かけなど小さな変化をとらえ情報を共有できる環境を整えている」の割合が 70.9%と最も高く、次いで「暴力やハラスメントがあった場合は、事業所として対応できる環境を整えている」の割合が 58.1%、「気軽に相談できる窓口を整えている」の割合が 54.1%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、移動支援で「契約条項などにハラスメントに対する対処方法等を明記・説明し、未然防止に努めている」「暴力やハラスメントがあった場合は、事業所として対応できる環境を整えている」「気軽に相談できる窓口を整えている」、障害児通所支援で「複数人対応を基本としている」、日中活動系サービス、居住系サービスで「日々の声かけなど小さな変化をとらえ情報を共有できる環境を整えている」の割合が高くなっています。

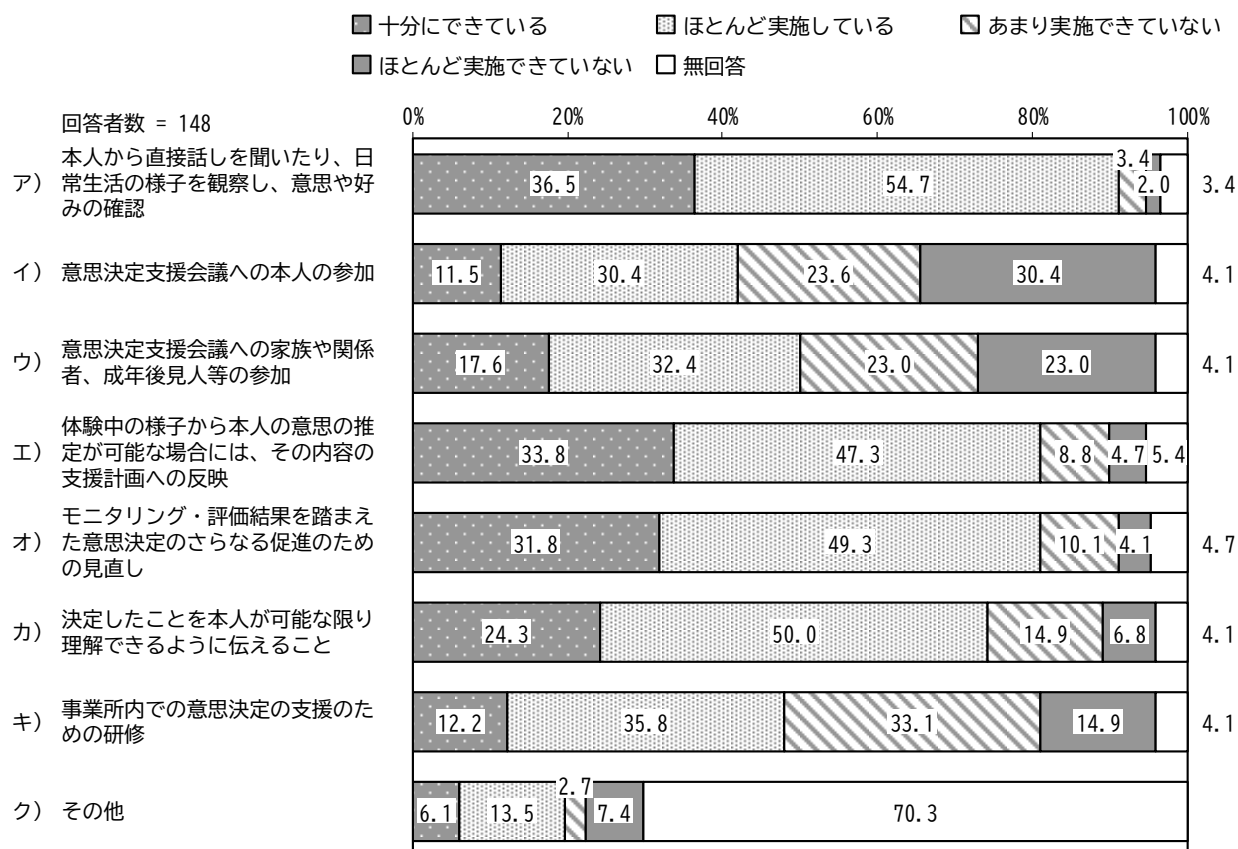
単位：％

区分	回答者数 (件)	契約条項などにハラスメントに対する対処方法等を明記・説明し、未然防止に努めている	複数人対応を基本としている	日々の声かけなど小さな変化をとらえ情報を共有できる環境を整えている	非常通報機能を有するベルや笛など、周囲に知らせる機器を携行している
全 体	148	51.4	44.6	70.9	4.1
訪問系サービス	14	64.3	35.7	57.1	0.0
日中活動系サービス	38	44.7	57.9	89.5	5.3
居住系サービス	12	41.7	16.7	91.7	0.0
相談支援	10	30.0	30.0	50.0	10.0
障害児通所支援	35	40.0	65.7	71.4	5.7
障害児相談支援	10	50.0	30.0	60.0	0.0
移動支援	27	81.5	29.6	55.6	3.7

区分	暴力やハラスメントがあった場合は、事業所として対応できる環境を整えている	気軽に相談できる窓口を整えている	その他	特に行っていない	無回答
全 体	58.1	54.1	4.1	5.4	0.7
訪問系サービス	57.1	64.3	0.0	7.1	0.0
日中活動系サービス	55.3	42.1	2.6	0.0	0.0
居住系サービス	75.0	50.0	0.0	0.0	0.0
相談支援	30.0	30.0	0.0	30.0	10.0
障害児通所支援	45.7	51.4	5.7	5.7	0.0
障害児相談支援	50.0	50.0	10.0	10.0	0.0
移動支援	85.2	81.5	7.4	3.7	0.0

問 36 貴事業所における利用者の意思決定支援の対応状況について、それぞれあてはまるものの1つに○をつけてください。

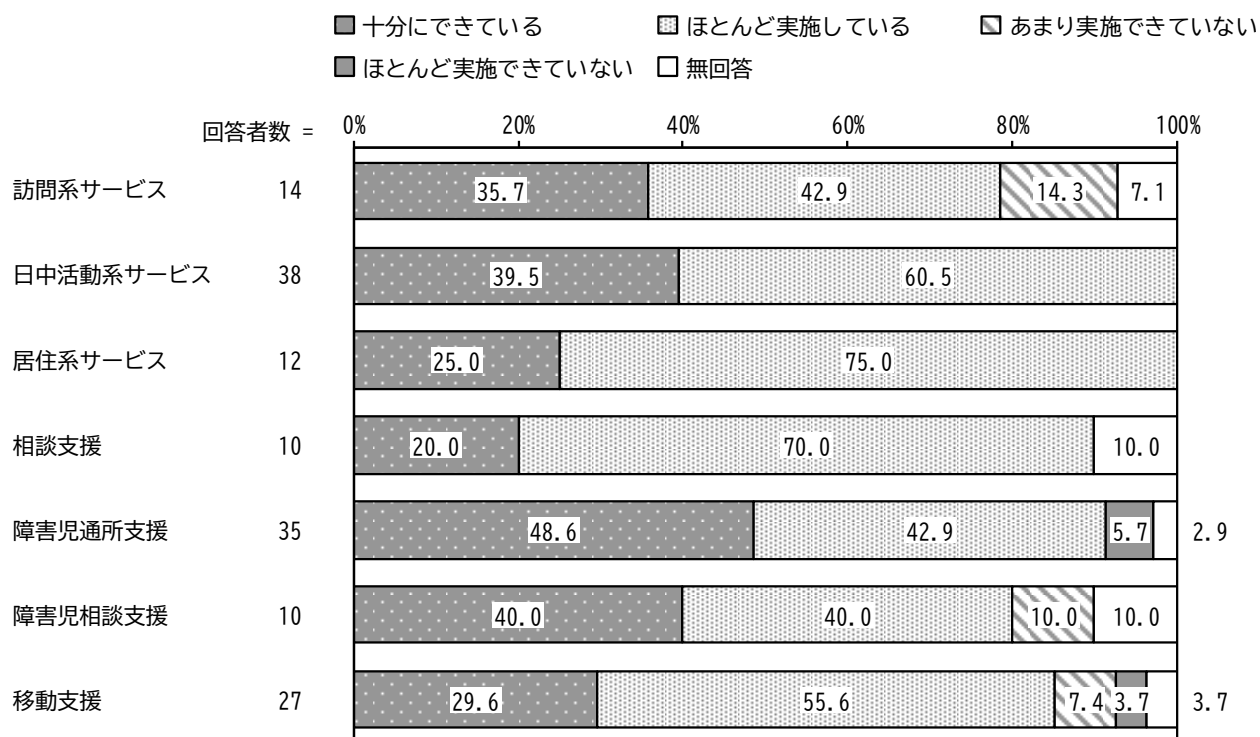
『ア) 本人から直接話を聞いたり、日常生活の様子を観察し、意思や好みの確認』で「十分にできている」「ほとんど実施している」が、『キ) 事業所内での意思決定の支援のための研修』で「あまり実施できていない」が、「ほとんど実施できていない」が高くなっています。



ア) 本人から直接話を聞いたり、日常生活の様子を観察し、意思や好みの確認

【サービス種別】

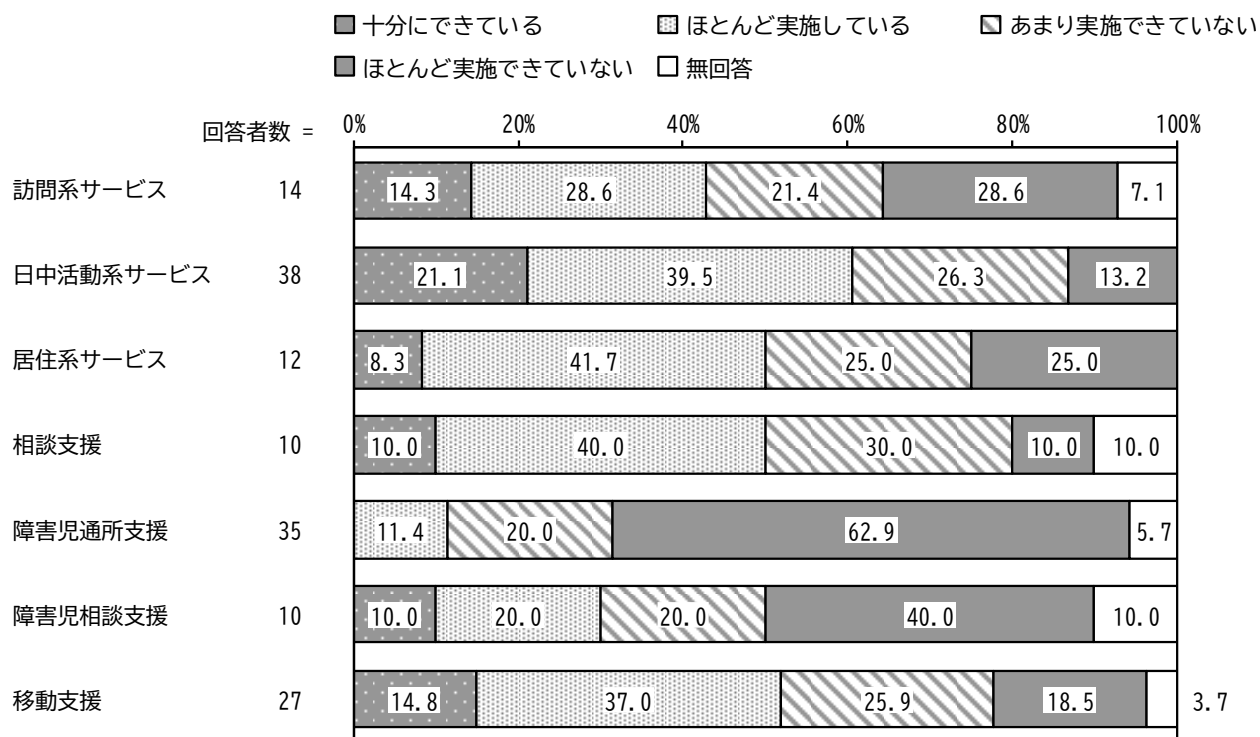
サービス種別にみると、障害児通所支援で「十分にできている」、居住系サービスで「ほとんど実施している」、訪問系サービスで「あまり実施できていない」の割合が高くなっています。



イ) 意思決定支援会議への本人の参加

【サービス種別】

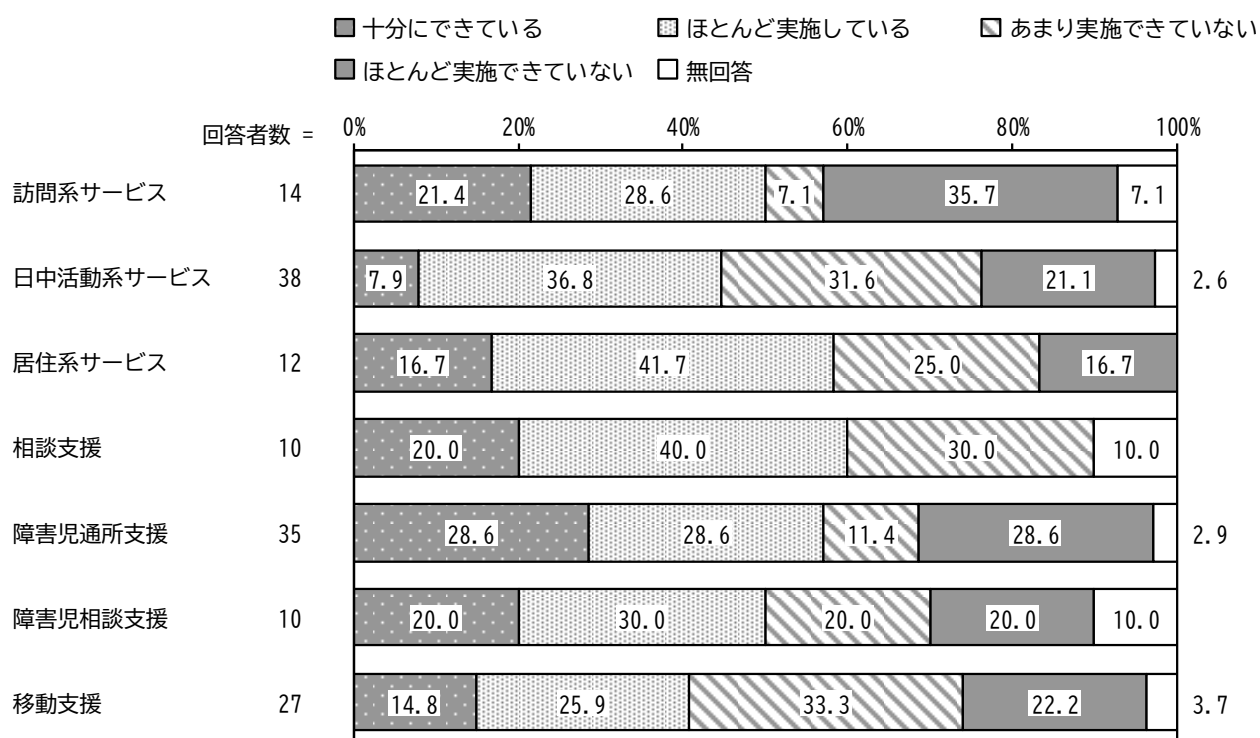
サービス種別にみると、居住系サービスで「ほとんど実施している」、障害児通所支援で「ほとんど実施できていない」の割合が高くなっています。



ウ) 意思決定支援会議への家族や関係者、成年後見人等の参加

【サービス種別】

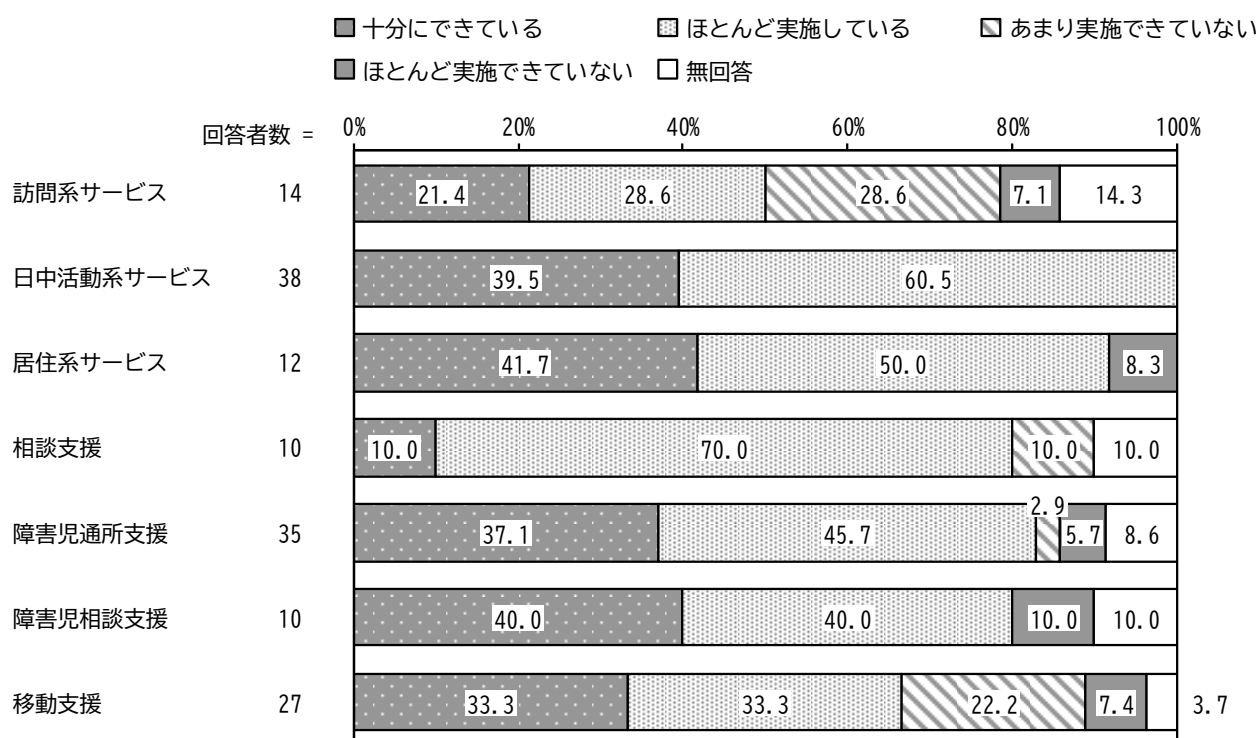
サービス種別にみると、障害児通所支援で「十分にできている」、移動支援で「あまり実施できていない」、訪問系サービスで「ほとんど実施できていない」の割合が高くなっています。



エ) 体験中の様子から本人の意思の推定が可能な場合には、その内容の支援計画への反映

【サービス種別】

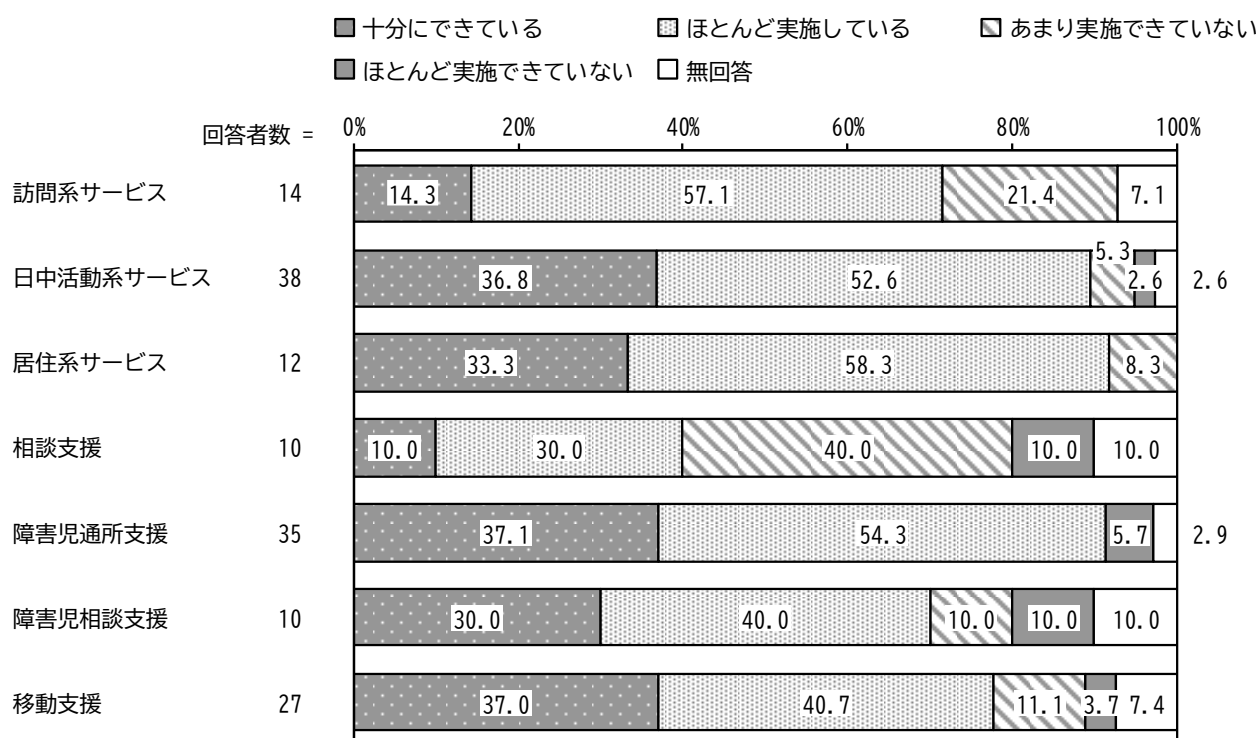
サービス種別にみると、相談支援で「ほとんど実施している」、訪問系サービスで「あまり実施できていない」の割合が高くなっています。



オ) モニタリング・評価結果を踏まえた意思決定のさらなる促進のための見直し

【サービス種別】

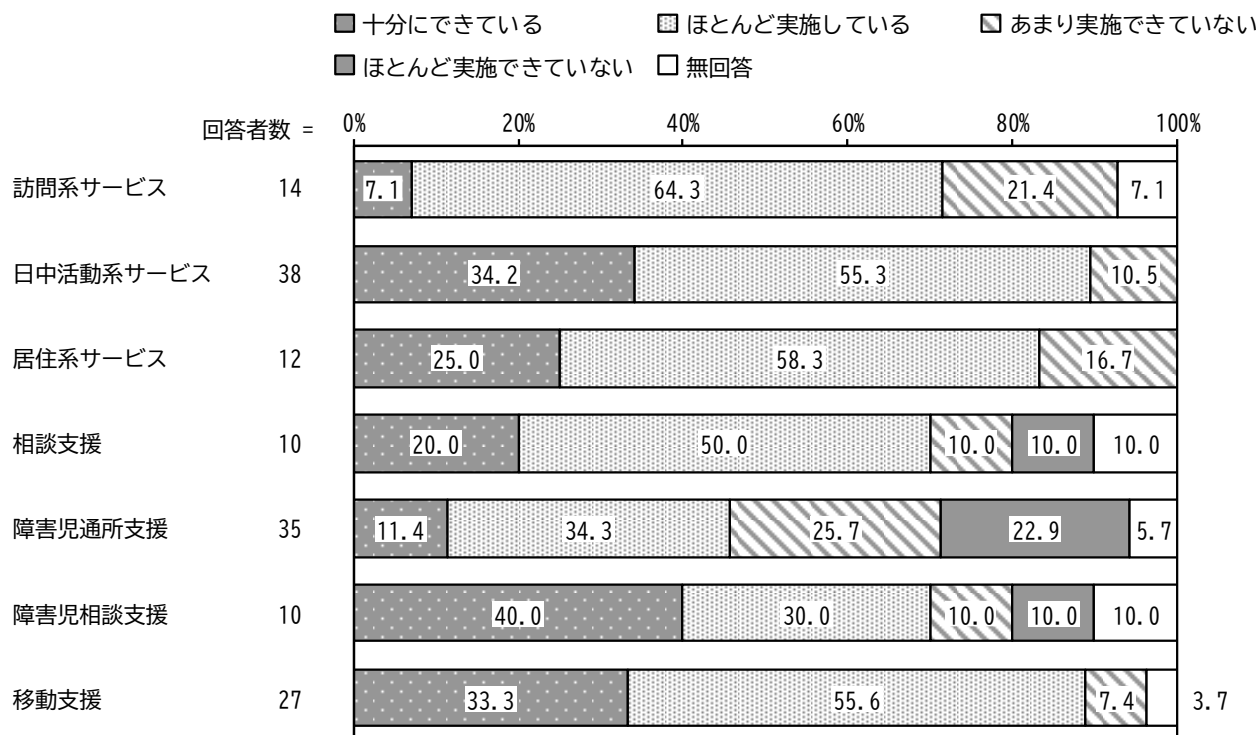
サービス種別にみると、相談支援で「あまり実施できていない」の割合が高く、「十分にできている」「ほとんど実施している」の割合が低くなっています。



カ) 決定したことを本人が可能な限り理解できるように伝えること

【サービス種別】

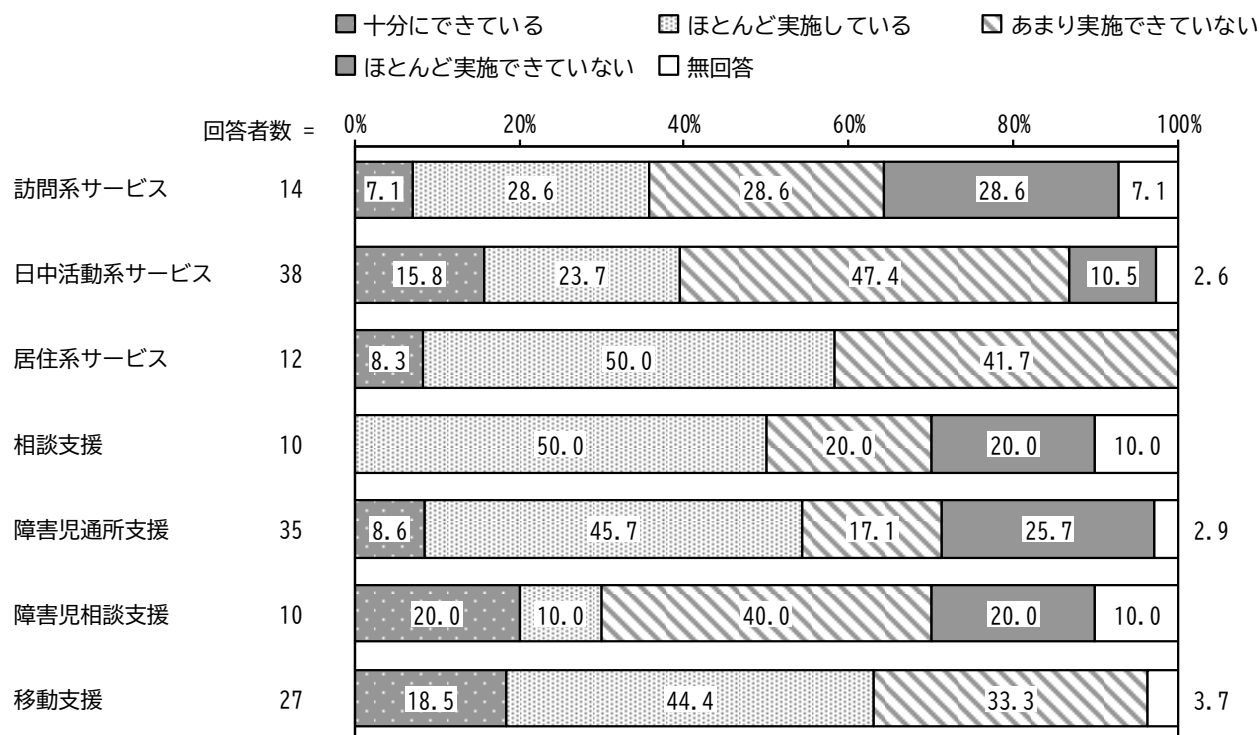
サービス種別にみると、障害児相談支援で「十分にできている」、訪問系サービスで「ほとんど実施している」、障害児通所支援で「あまり実施できていない」「ほとんど実施できていない」の割合が高くなっています。



キ) 事業所内での意思決定の支援のための研修

【サービス種別】

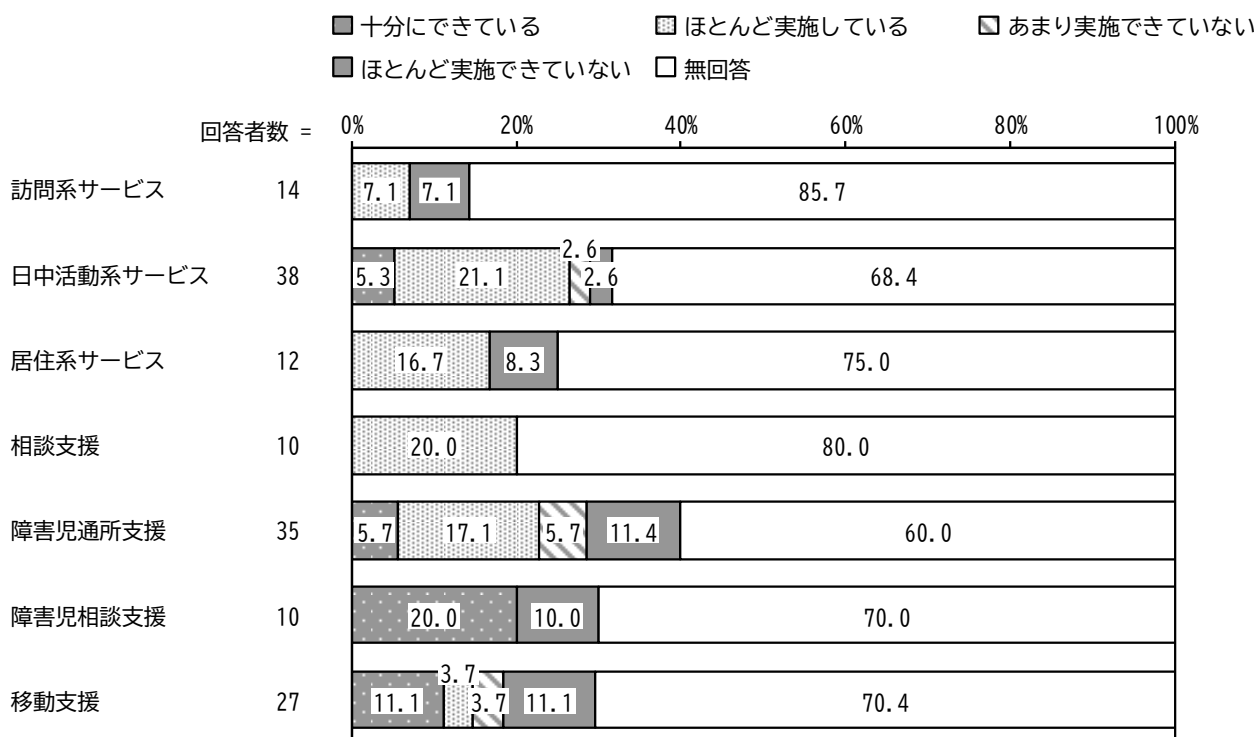
サービス種別にみると、居住系サービス、相談支援で「ほとんど実施している」、日中活動系サービスで「あまり実施できていない」、訪問系サービス、障害児通所支援で「ほとんど実施できていない」の割合が高くなっています。



ク) その他

【サービス種別】

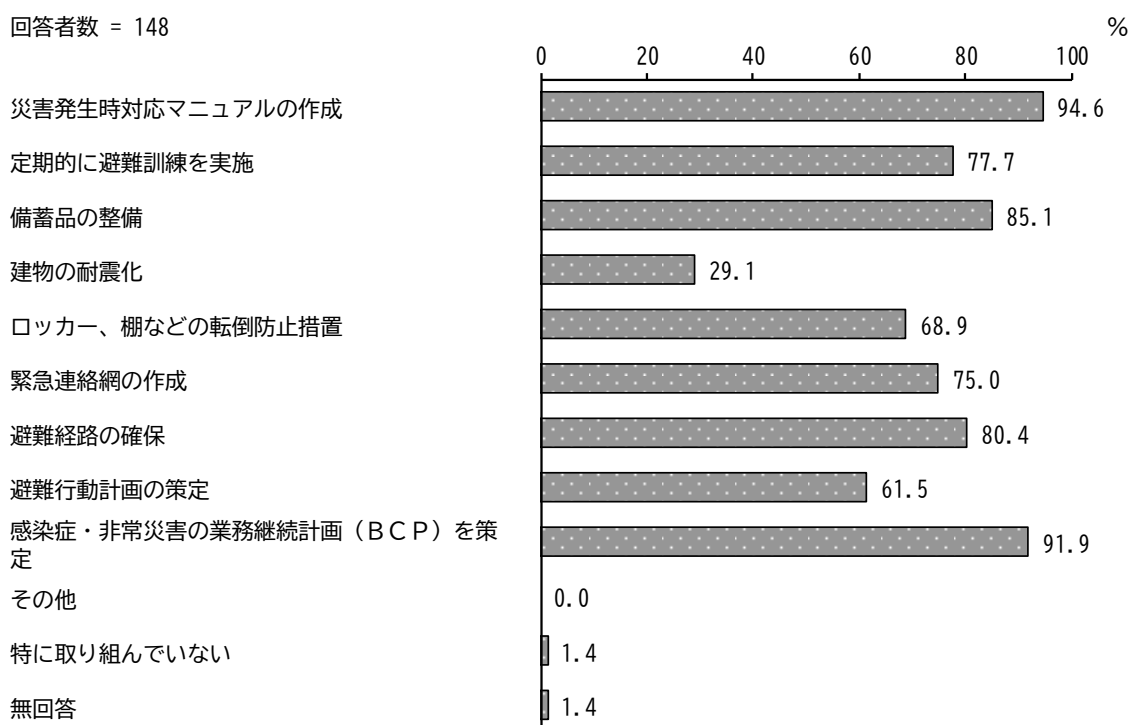
サービス種別にみると、障害児相談支援で「十分にできている」、日中活動系サービス、相談支援で「ほとんど実施している」の割合が高くなっています。



問 37 貴事業所では災害時の対策についてどのような取組をしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「災害発生時対応マニュアルの作成」の割合が 94.6%と最も高く、次いで「感染症・非常災害の業務継続計画（BCP）を策定」の割合が 91.9%、「備蓄品の整備」の割合が 85.1%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、障害児相談支援で「建物の耐震化」、障害児通所支援で「ロッカー、棚などの転倒防止措置」「緊急連絡網の作成」、日中活動系サービスで「避難経路の確保」、日中活動系サービス、障害児通所支援で「避難行動計画の策定」の割合が高くなっています。

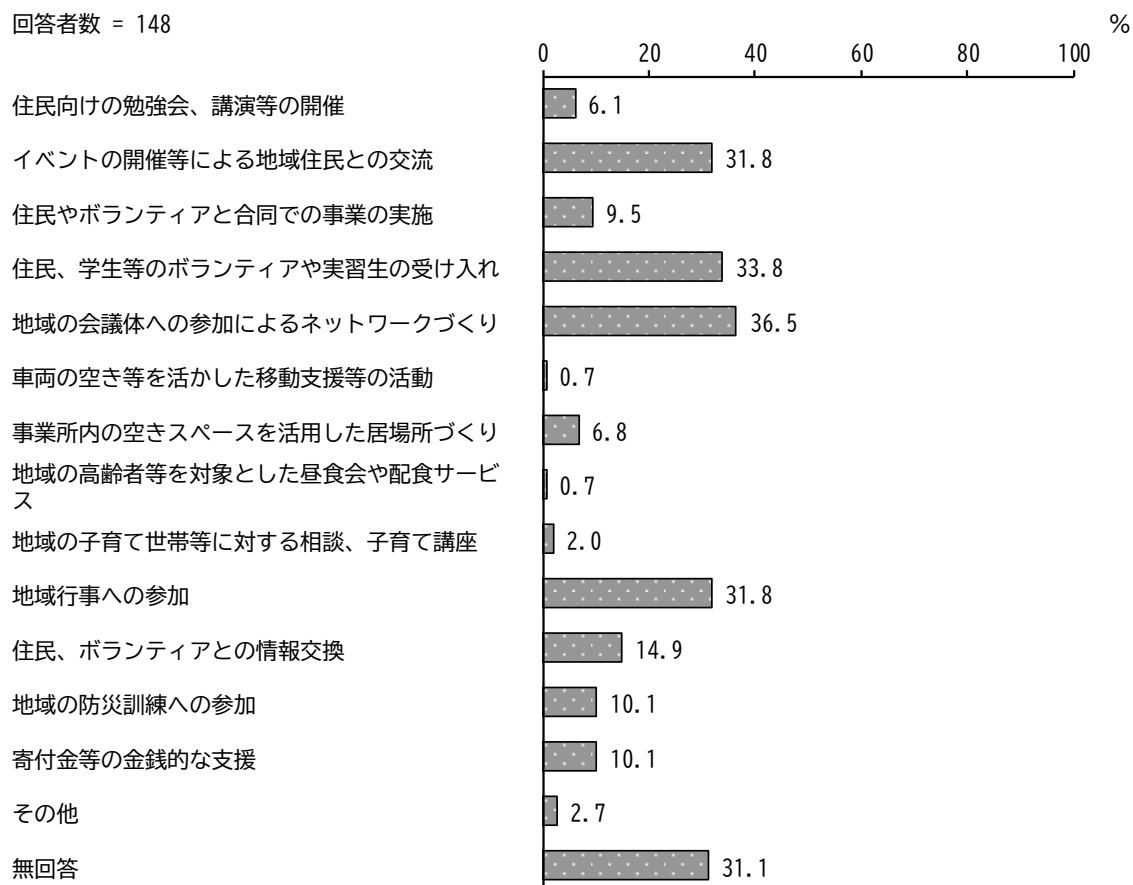
単位：%

区分	回答者数（件）	災害発生時対応マニュアルの作成	定期的に避難訓練を実施	備蓄品の整備	建物の耐震化	ロッカー、棚などの転倒防止措置	緊急連絡網の作成	避難経路の確保	避難行動計画の策定	感染症・非常災害の業務継続計画（BCP）を策定	その他	特に取り組んでいない	無回答
全 体	148	94.6	77.7	85.1	29.1	68.9	75.0	80.4	61.5	91.9	0.0	1.4	1.4
訪問系サービス	14	78.6	28.6	64.3	7.1	28.6	50.0	21.4	28.6	78.6	0.0	14.3	0.0
日中活動系サービス	38	94.7	100.0	86.8	18.4	76.3	76.3	94.7	78.9	97.4	0.0	0.0	0.0
居住系サービス	12	91.7	100.0	100.0	33.3	75.0	83.3	83.3	75.0	91.7	0.0	0.0	0.0
相談支援	10	90.0	60.0	70.0	40.0	70.0	50.0	90.0	40.0	90.0	0.0	0.0	10.0
障害児通所支援	35	100.0	100.0	97.1	45.7	88.6	85.7	91.4	77.1	91.4	0.0	0.0	0.0
障害児相談支援	10	90.0	70.0	70.0	50.0	80.0	70.0	90.0	50.0	90.0	0.0	0.0	10.0
移動支援	27	100.0	44.4	81.5	18.5	48.1	81.5	66.7	37.0	92.6	0.0	0.0	0.0

問 38（１）地域における住民、団体、ボランティア等との関わりについて、どのようなことを行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「地域の会議体への参加によるネットワークづくり」の割合が 36.5%と最も高く、次いで「住民、学生等のボランティアや実習生の受け入れ」の割合が 33.8%、「イベントの開催等による地域住民との交流」、「地域行事への参加」の割合が 31.8%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、相談支援で「イベントの開催等による地域住民との交流」「住民やボランティアと合同での事業の実施」「住民、学生等のボランティアや実習生の受け入れ」「地域の防災訓練への参加」、相談支援、障害児相談支援で「地域の会議体への参加によるネットワークづくり」、障害児相談支援で「事業所内の空きスペースを活用した居場所づくり」、日中活動系サービス、相談支援で「地域行事への参加」の割合が高くなっています。

単位：％

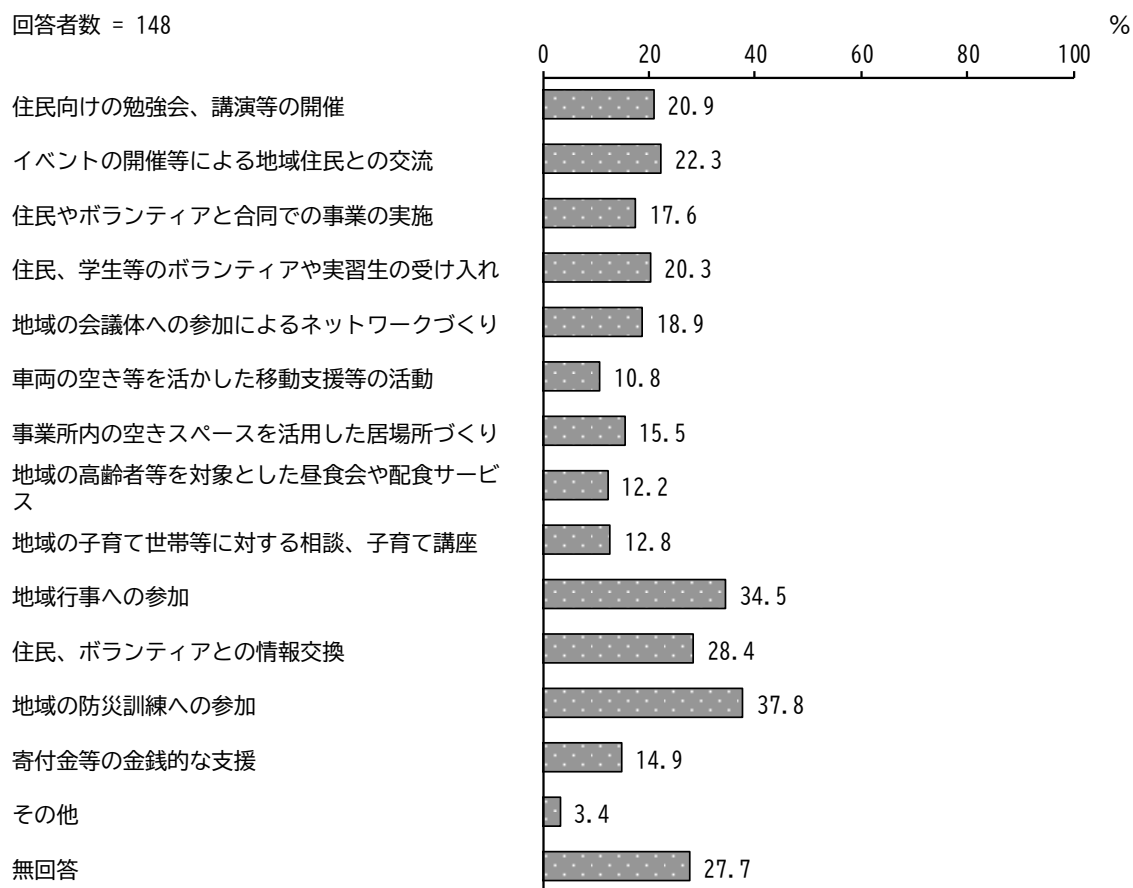
区分	回答者数 (件)	住民向けの勉強会、 講演等の開催	イベントの開催等 による地域住民と の交流	住民やボランティ アと合同での事業 の実施	住民、学生等のボラ ンティアや実習生 の受け入れ	地域の会議体への 参加によるネット ワークづくり	車両の空き等を活 かした移動支援等 の活動	事業所内の空きス ペースを活用した 居場所づくり
全 体	148	6.1	31.8	9.5	33.8	36.5	0.7	6.8
訪問系サービス	14	0.0	7.1	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0
日中活動系サービス	38	2.6	50.0	21.1	57.9	55.3	0.0	7.9
居住系サービス	12	8.3	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
相談支援	10	10.0	60.0	30.0	70.0	60.0	0.0	20.0
障害児通所支援	35	5.7	25.7	2.9	28.6	34.3	0.0	0.0
障害児相談支援	10	10.0	50.0	10.0	50.0	60.0	0.0	30.0
移動支援	27	11.1	11.1	3.7	14.8	22.2	3.7	7.4

区分	地域の高齢者等を 対象とした昼食会 や配食サービス	地域の子育て世帯 等に対する相談、子 育て講座	地域行事への参加	住民、ボランティア との情報交換	地域の防災訓練へ の参加	寄付金等の金銭的 な支援	その他	無回答
全 体	0.7	2.0	31.8	14.9	10.1	10.1	2.7	31.1
訪問系サービス	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3	7.1	57.1
日中活動系サービス	2.6	2.6	50.0	18.4	7.9	2.6	2.6	21.1
居住系サービス	0.0	0.0	33.3	8.3	8.3	8.3	0.0	33.3
相談支援	0.0	0.0	50.0	20.0	40.0	10.0	0.0	0.0
障害児通所支援	0.0	5.7	25.7	17.1	8.6	14.3	2.9	28.6
障害児相談支援	0.0	0.0	40.0	20.0	30.0	10.0	0.0	10.0
移動支援	0.0	0.0	18.5	14.8	3.7	11.1	0.0	55.6

問 38（２）また、これから行えることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「地域の防災訓練への参加」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「地域行事への参加」の割合が 34.5%、「住民、ボランティアとの情報交換」の割合が 28.4%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービスで「住民向けの勉強会、講演等の開催」「住民、学生等のボランティアや実習生の受け入れ」「地域の防災訓練への参加」、日中活動系サービスで「イベントの開催等による地域住民との交流」、障害児相談支援で「住民やボランティアと合同での事業の実施」「事業所内の空きスペースを活用した居場所づくり」「地域の子育て世帯等に対する相談、子育て講座」「地域行事への参加」、相談支援で「住民、ボランティアとの情報交換」の割合が高くなっています。

単位：％

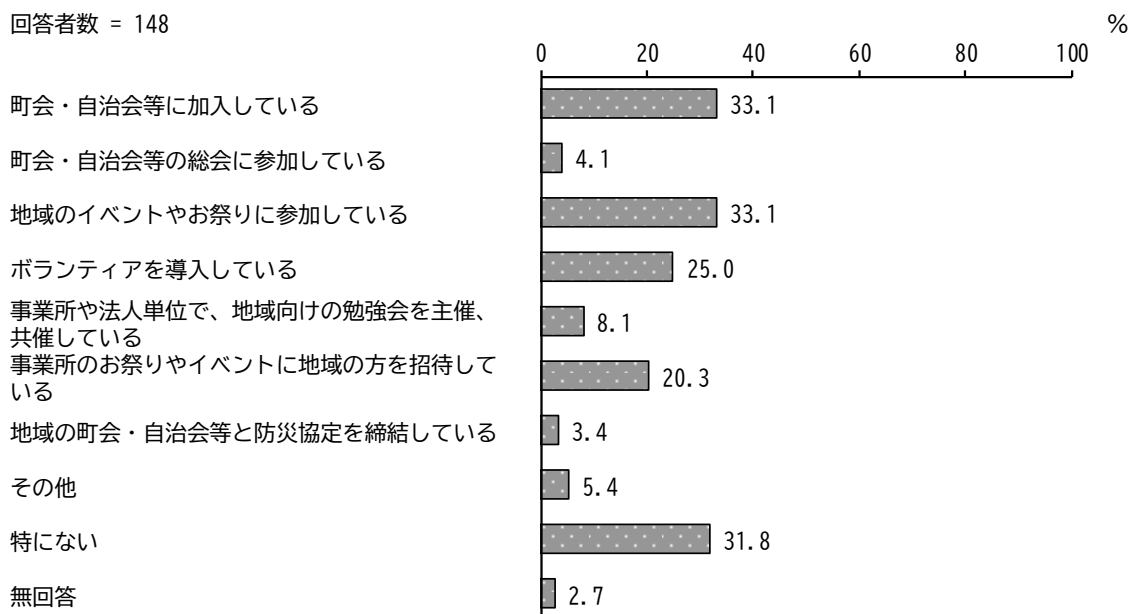
区分	回答者数 (件)	住民向けの勉強会、 講演等の開催	イベントの開催等 による地域住民と の交流	住民やボランティ アと合同での事業 の実施	住民、学生等のボラ ンティアや実習生 の受け入れ	地域の会議体への 参加によるネット ワークづくり	車両の空き等を活 かした移動支援等 の活動	事業所内の空きス ペースを活用した 居場所づくり
全 体	148	20.9	22.3	17.6	20.3	18.9	10.8	15.5
訪問系サービス	14	28.6	21.4	14.3	14.3	21.4	14.3	21.4
日中活動系サービス	38	23.7	36.8	21.1	26.3	10.5	7.9	15.8
居住系サービス	12	33.3	25.0	25.0	50.0	25.0	8.3	8.3
相談支援	10	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
障害児通所支援	35	14.3	20.0	20.0	14.3	25.7	11.4	17.1
障害児相談支援	10	20.0	20.0	30.0	40.0	20.0	10.0	30.0
移動支援	27	14.8	14.8	11.1	11.1	25.9	14.8	14.8

区分	地域の高齢者等を 対象とした昼食会 や配食サービス	地域の子育て世帯 等に対する相談、子 育て講座	地域行事への参加	住民、ボランティア との情報交換	地域の防災訓練へ の参加	寄付金等の金銭的 な支援	その他	無回答
全 体	12.2	12.8	34.5	28.4	37.8	14.9	3.4	27.7
訪問系サービス	21.4	14.3	35.7	28.6	21.4	14.3	14.3	28.6
日中活動系サービス	13.2	7.9	39.5	31.6	44.7	13.2	5.3	18.4
居住系サービス	8.3	0.0	41.7	41.7	50.0	8.3	0.0	33.3
相談支援	0.0	0.0	20.0	50.0	30.0	0.0	0.0	20.0
障害児通所支援	14.3	22.9	31.4	20.0	37.1	17.1	0.0	37.1
障害児相談支援	10.0	30.0	50.0	30.0	40.0	10.0	0.0	20.0
移動支援	11.1	11.1	29.6	22.2	33.3	22.2	0.0	33.3

問 39 貴事業所では、地域との連携を図るために、どのようなことをしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「町会・自治会等に参加している」、「地域のイベントやお祭りに参加している」の割合が 33.1%と最も高く、次いで「ボランティアを導入している」の割合が 25.0%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービスで「町会・自治会等に参加している」、訪問系サービスで「町会・自治会等の総会に参加している」、相談支援で「地域のイベントやお祭りに参加している」「ボランティアを導入している」「事業所や法人単位で、地域向けの勉強会を主催、共催している」「事業所のお祭りやイベントに地域の方を招待している」の割合が高くなっています。

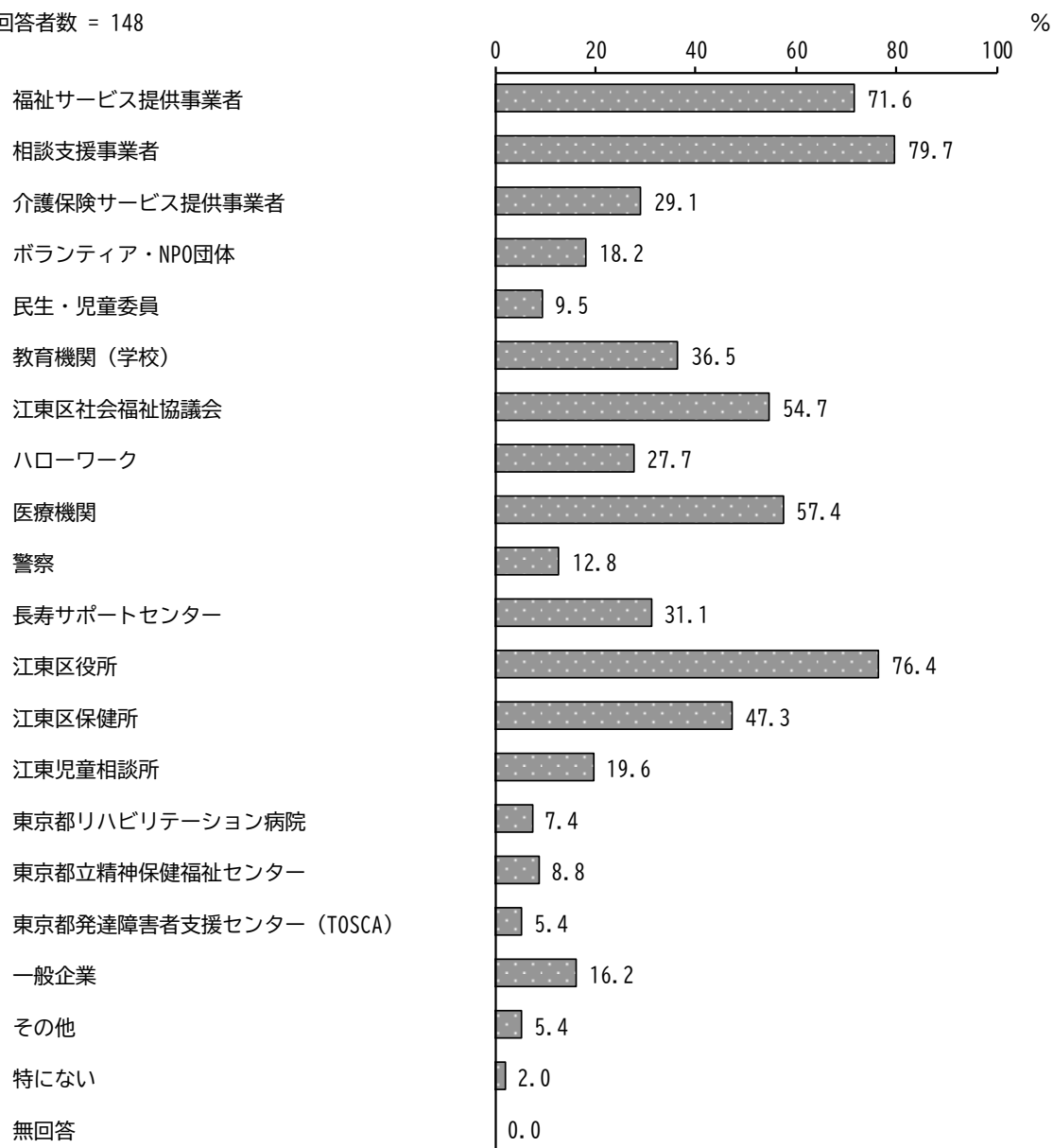
単位：%

区分	回答者数 (件)	町会・自治会等 に参加している	町会・自治会等 の総会に参加 している	地域のイベントや お祭りに参加 している	ボラン ティアを 導入 している	事業所や法人単位 で、地域向けの 勉強会を主催、 共催している	事業所のお祭り やイベントに地 域の方を招待 している	地域の町会・自治 会等と防災協定 を締結している	その他	特 に な い	無 回 答
全 体	148	33.1	4.1	33.1	25.0	8.1	20.3	3.4	5.4	31.8	2.7
訪問系サービス	14	28.6	14.3	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	50.0	7.1
日中活動系サービス	38	34.2	5.3	55.3	44.7	10.5	28.9	2.6	7.9	15.8	0.0
居住系サービス	12	50.0	0.0	33.3	0.0	8.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
相談支援	10	10.0	0.0	60.0	50.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0
障害児通所支援	35	31.4	2.9	22.9	25.7	5.7	11.4	2.9	2.9	45.7	2.9
障害児相談支援	10	30.0	0.0	40.0	40.0	10.0	50.0	0.0	10.0	20.0	0.0
移動支援	27	37.0	3.7	18.5	7.4	0.0	7.4	11.1	3.7	48.1	7.4

問 40 事業所の運営にあたり、連携している関係機関・団体はどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「相談支援事業者」の割合が79.7%と最も高く、次いで「江東区役所」の割合が76.4%、「福祉サービス提供事業者」の割合が71.6%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、相談支援で「介護保険サービス提供事業者」「ボランティア・NPO 団体」「民生・児童委員」「医療機関」「警察」「長寿サポートセンター」「江東区保健所」「東京都リハビリテーション病院」「東京都立精神保健福祉センター」「東京都発達障害者支援センター（TOSCA）」、相談支援、障害児通所支援で「教育機関（学校）」、日中活動系サービスで「江東区社会福祉協議会」、日中活動系サービス、居住系サービスで「ハローワーク」、障害児相談支援で「江東児童相談所」、日中活動系サービス、相談支援で「一般企業」の割合が高くなっています。

単位：％

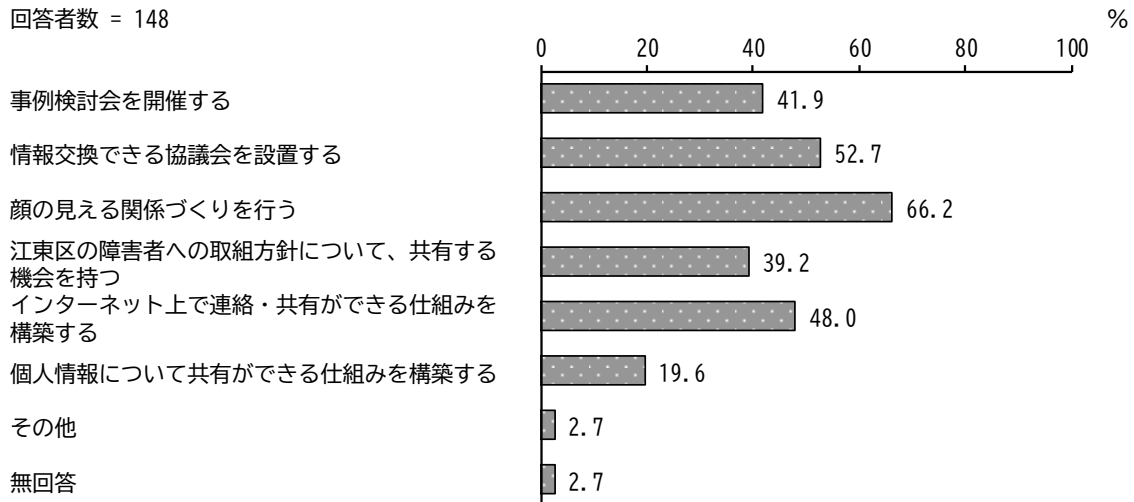
区分	回答者数 (件)	福祉サービス 事業者	相談支援事業者	介護保険サービス 提供事業者	ボランティア・NPO 団体	民生・児童委員	教育機関（学校）	江東区社会福祉協 議会	ハローワーク	医療機関	警察
全 体	148	71.6	79.7	29.1	18.2	9.5	36.5	54.7	27.7	57.4	12.8
訪問系サービス	14	57.1	35.7	50.0	14.3	14.3	7.1	28.6	7.1	21.4	0.0
日中活動系サービス	38	81.6	86.8	21.1	31.6	18.4	36.8	84.2	47.4	86.8	15.8
居住系サービス	12	91.7	100.0	8.3	8.3	8.3	25.0	50.0	50.0	75.0	8.3
相談支援	10	90.0	70.0	70.0	60.0	20.0	60.0	60.0	40.0	90.0	60.0
障害児通所支援	35	51.4	85.7	2.9	5.7	0.0	60.0	40.0	8.6	40.0	2.9
障害児相談支援	10	100.0	80.0	20.0	40.0	0.0	50.0	70.0	40.0	60.0	20.0
移動支援	27	63.0	81.5	63.0	0.0	7.4	14.8	44.4	18.5	40.7	11.1

区分	長寿サ ポートセ ンター	江東区役 所	江東区保 健所	江東児童 相談所	東京都リ ハビリテ ーション病 院	東京都立 精神保健 福祉セン ター	東京都発 達障害者 支援セン ター (TOSCA)	一般企業	その他	特にな い	無回 答
全 体	31.1	76.4	47.3	19.6	7.4	8.8	5.4	16.2	5.4	2.0	0.0
訪問系サービス	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	7.1	14.3	0.0
日中活動系サービス	26.3	89.5	65.8	2.6	13.2	13.2	2.6	28.9	5.3	0.0	0.0
居住系サービス	0.0	91.7	41.7	8.3	0.0	25.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
相談支援	90.0	100.0	90.0	20.0	20.0	30.0	20.0	30.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援	0.0	60.0	31.4	45.7	0.0	0.0	5.7	11.4	8.6	2.9	0.0
障害児相談支援	30.0	90.0	50.0	50.0	10.0	20.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0
移動支援	66.7	77.8	44.4	14.8	11.1	0.0	7.4	3.7	0.0	0.0	0.0

問 41 関係機関・団体との連携を強化するために必要なことは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「顔の見える関係づくりを行う」の割合が 66.2%と最も高く、次いで「情報交換できる協議会を設置する」の割合が 52.7%、「インターネット上で連絡・共有ができる仕組みを構築する」の割合が 48.0%となっています。

回答者数 = 148



【サービス種別】

サービス種別にみると、居住系サービス、障害児相談支援で「事例検討会を開催する」、日中活動系サービスで「顔の見える関係づくりを行う」、訪問系サービスで「江東区の障害者への取組方針について、共有する機会を持つ」、障害児相談支援で「インターネット上で連絡・共有ができる仕組みを構築する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	事例検討会を開催する	情報交換できる協議会を設置する	顔の見える関係づくりを行う	江東区の障害者への取組方針について、共有する機会を持つ	インターネット上で連絡・共有ができる仕組みを構築する	個人情報について共有ができる仕組みを構築する	その他	無回答
全 体	148	41.9	52.7	66.2	39.2	48.0	19.6	2.7	2.7
訪問系サービス	14	35.7	50.0	35.7	57.1	42.9	21.4	7.1	0.0
日中活動系サービス	38	47.4	55.3	84.2	50.0	52.6	18.4	0.0	0.0
居住系サービス	12	58.3	58.3	58.3	25.0	25.0	8.3	8.3	0.0
相談支援	10	40.0	50.0	70.0	50.0	60.0	10.0	10.0	0.0
障害児通所支援	35	42.9	57.1	68.6	25.7	48.6	28.6	2.9	8.6
障害児相談支援	10	60.0	50.0	80.0	40.0	70.0	20.0	0.0	0.0
移動支援	27	25.9	44.4	51.9	33.3	44.4	18.5	0.0	3.7

問 42 区の障害者施策について、ご意見・ご要望がありましたら、お聞かせください。

・報酬・単価・補助金等の金銭的支援について(16 件)

最低賃金が年々上がっている中、家賃補助や重度加算、物価高騰への支援をしていただいているものの、基本となる報酬額が改定の度に減額になっている為、安定した運営が困難になっています。ぜひ、区の支援をご検討いただきたいと思います。備蓄品を購入するための補助支援のご検討いただけるとありがたいです。

人材確保・職員の処遇改善について(11 件)

とにかく人手が足りません。物価上昇に見合うだけの賃金も支払えないので募集をしても応募がありません。

行政の対応への評価や感謝について(9 件)

江東区の職員の皆さまは親切にご対応くださいますので、事業の運営がしやすい自治体だと感じています。困ったときに相談に乗っていただいています。いつもありがとうございます。

移動支援・送迎サービスについて(8 件)

最近、学校や保育園の送迎の依頼が多くありますが、サービスとして行う内容ではないと思います。送迎が必要なら行政で対応すべきではないでしょうか。

地域との連携・官民協働について(7 件)

事業所運営がやっと安定してきたので、地域との連携に向けて取り組みを実施したいと考えております。ぜひ最初は中心的に、各機関を繋ぐ役割を区の障害者支援課で行っていただき、つながりのある関係を構築できる、顔の見える関係が出来ると良いかと考えております。

なお、以下の項目についてもご意見をいただいております。

- ・児童向けサービス（放デイ・児発等）について(6 件)
- ・施設・事業所の整備と受け皿拡大について(4 件)
- ・グループホーム・居住支援について(4 件)
- ・研修・交流・情報共有について(4 件)
- ・事務負担・手続きの軽減について(4 件)
- ・ショートステイ・レスパイトケア・宿泊施設について(3 件)
- ・相談支援・ケアマネジメントについて(3 件)
- ・制度の柔軟な運用と対象者拡大について(3 件)
- ・精神障害者・退院後の地域移行支援について(3 件)
- ・高齢化・老障介護問題について(2 件)
- ・制度やサービスの周知・分かりやすさについて(2 件)
- ・日常の生活介護・余暇活動・就労支援について(2 件)
- ・医療的ケア児・シームレスな支援について(1 件)
- ・その他について(4 件)

第 5 章

障害者団体調査

(1) 団体一覧

調査票に回答、あるいはヒアリングに参加いただいた団体は下記の通りです（両方の場合も含む）。

	団体名
1	江東区ろう会
2	江東区視覚障害者福祉協会
3	江東区聴覚障害者協会
4	江東区肢体不自由児（者）父母の会カリヨン
5	NPO法人 親と子
6	江東区手をつなぐ親の会
7	社会福祉法人 江東楓の会
8	社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会
9	江東区障害者・児団体連絡会
10	社会福祉法人のびのび福祉会
11	江東区障害者・児の生活を豊かにする事業団体連絡会
12	江東区障害児・者の生涯保障をめざす親の会「かたくりの花」
13	社会福祉法人章佑会 塩浜福祉園
14	江東区障害者福祉センター
15	NPO法人 こどもの発達療育研究所
16	社会福祉法人 ゆめグループ福祉会
17	社会福祉法人 おあしす福祉会
18	NPO法人ピア江東
19	NPO法人 T&K
20	特定非営利活動法人クオーレ
21	特定非営利活動法人 新生したまち作業所
22	特定非営利活動法人ブルースター
23	NPO法人 子どもの地域生活サポーターこぴあ
24	NPO法人障がい児者ライフサポート たんぽぽの会
25	NPO法人 こどもの放課後を豊かにする会
26	一般社団法人 江東ウィズ
27	江東区難病団体連絡会
28	江東失語症友の会 すずめの会
29	江東手話中難友の会
30	深川会
31	アインシュタインクラブ
32	かめさん
33	AA 東陽町グループ
34	音楽クラブ メロディー
35	あかい発達障害当事者会

(2) 回答結果

問1 区の相談・情報提供体制、コミュニケーション支援、権利擁護等に関する施策について、感じておられる課題や改善策がありましたら、お聞かせください。

- ・最近の区報は聴覚障害者にとってわかりやすい、見るだけでわかり、情報提供に役立っています。
- ・現在のままで問題はありません。
- ・区や相談支援事業所に、ヘルパーや短期入所などの相談をしても、すぐに対応できない場合が多い。ヘルパー不足や短期入所の情報が少ないのが原因である。親が独自に動いて、短期入所を利用するケースも少なくない。区と協働して情報を集約することが必要である。
- ・福祉サービス情報のネット取得や事業所のあき状況。
- ・一度区長に文書を手渡すことができました。その時メール等でできたらよいかなと感じました。情報提供は区報やWebサイトなどで、ある程度は達成しているのではないかと考えました。
区報の体裁が変わったことで、区民の声が掲載されにくくなったのかなとも受けとめております。
- ・当会リハビリの会員募集等広報で区の支援がもっとあればと思っています。
- ・折角の障害者福祉センターの認知度が低いと思われます。活動の内容、利用法等をもっと広く！
- ・福祉バスの運用法に検討の要があると思います。
- ・聴覚障害者に対する支援手話講習会等により、手話人口がふえることにより、もっともって住みやすい江東区になるでしょう。
- ・障害者にとっての相談体制について、時間が限られていたり、経済的負担があったり、頻度を上げられず信頼関係を築くのが難しかったりして、なかなか安心して不安や不満を相談できる機会を確保することは難しい。
- ・区と区内福祉施設が共同して開催するピアスタッフ研修を、江東区でも実施して欲しいです。また、研修を修了したピアスタッフを、江東区が区公認のピアスタッフとして登録し、ピアスタッフの人材バンクを作って欲しいです。区内の医療福祉事業者からピアスタッフの派遣要請や、求人斡旋養成があった場合には、その江東区ピアスタッフ人材バンクを通して、ピアスタッフに仕事をしに行ってもらい、という仕組みを作ってもらえると望ましいかと思います。実際に働く場まで繋げて考える施策が必要だと思っています。
- ・江東区障害者就労・生活支援センターは、ホームページに障害者の一般就労の機会の提供を図るとともに、職業生活を支える支援の業務を行うとあるが、センターを経ずに就労した人が職場の人間関係で悩んでいるときに相談に乗ってくれなかった事例があった。
区の相談窓口は、いろいろな相談の受け皿として機能してもらえたらと思います。
企業は、人事担当に話をしても相談員に相談しろとあいまいな指導しかしないので、当事者はどこに相談に行ったらいいのかわからないし、結局元通っていた作業所の職員がボランティアで対応するしかありません。
- ・区の相談体制は制度上整っていると思いますが、利用者や家族がどこに相談すればよいか分かりづらく、窓口が分散している点が課題だと思います。ワンストップ型の相談窓口の設置や、関係機関での情報共有体制の強化が必要だと思います。
- ・コミュニケーション支援では、発達障害や精神障害など多様な利用者への対応として、視覚支援ツールの導入や職員研修の充実が求められると思います。
- ・権利擁護については、虐待防止や意思決定支援の意識向上が進む一方で、職員の理解や対応にばらつきがあり、外部相談員制度の活用や事例共有が有効だと思います。行政と現場が連携し、意見交換の場を設けることが、より実効的な支援体制につながると思います。

- ・保護者の方から、放課後等デイサービスや移動支援、短期入所等について空き状況の問い合わせを受ける事があります。
- ・どこも定員や職員数の関係で新規の契約は難しい事と思いますが、空き情報、待機等の有無、募集時期等、一覽で事業所にも案内をいただくと保護者の方に説明がしやすく思います。
- ・聴こえる者が多数のため、少数の聴こえない者の認知が低い、認知向上を第一としています
- ・区の相談（DV や虐待や人権等）、無料法律相談・建築相談の連絡先及び相談が音声のみが多いです。
- ・聴こえない者のコミュニケーション手段について希望を聞くように！
（職員主観で決めないこと 例：聴こえない者が来る⇒すぐ設置手話通訳を呼ぶなどをして相手が望まなかったりするケースあります）
- ・設置手話通訳に関してはこれまで通り継続にてよろしくお願いいたします。また人員を増やすことは可能か。
- ・虐待が疑わしいケースの通報が必要な際、権利擁護センターについても地域生活支援事業所の土日開所と同様に、電話対応やメールでの対応などで土日でも対応できるよう工夫してほしい。
- ・令和8年1月に基幹相談支援センターが開設されますので、障害児の支援、サービス、支援の質の向上、相談支援事業者同士の連携を期待しています。
- ・障害児者やその家族の支援への課題では、福祉サービスの資源が少ないこと。ヘルパーさんや、短期入所、放課後デイ等人手不足、空きもほとんどありません。今後区からの情報提供を期待しております。
- ・十分できていると思うが、もう少し早いタイミングで情報がいただけるとよいと思う。権利擁護についても取り組んでいると思うが、虐待通報について以前同じ事案でも判断が変わっていたり、対応に一貫性がないと感ずることがあった（現在は適切に対応できていると思う）。
- ・情報が多すぎたり、専門的すぎて理解しづらい。
- ・担当者の専門性や対応力にばらつきがある。
- ・施設での ICT ツールの活用が進んでいない。
- ・相談員の研修制度の充実と専門性の向上。
- ・相談員間のネットワークの構築。
- ・利用者の意思決定支援の形骸化。
- ・江東区手話言語の普及及び障害者の意思疎通の促進に関する条例の推進。
- ・コミュニケーションハンドブックの利用啓発。
- ・防災について、災害が起きた際に、どのように情報をいただいたら良いか、どこに避難すれば良いかということに不安を感じている方が多いです。どこでそれを聞けばよいのかもわかりません。
- ・情報収集能力がない人に向けての情報提供、また正確な理解ができない人に向けての支援が不足していると感じている。

問2 区の自立生活支援や家族・介護者支援等に関する施策について、感じておられる課題や改善策がありましたら、お聞かせください。

- ・最近、利用者の中でもヘルパー利用が増えています。需要に対応できるようにご支援下さい。
 - ・緊急一時保護事業について。障害のある子どものいる家庭を支えるために、緊急一時保護は大事な制度です。江東区には、区独自の「緊急保護制度」があり、大変感謝しております。しかし介護者への報酬が4時間以内3,475円、8時間以内6,950円となっており、最低賃金のアップ、物価の高騰などから年々厳しい状況にあります。報酬の増額が必要と考えます。
 - ・東砂りバーハウスの緊急時の入床数を増やしていただきたいと思います。
 - ・塩浜に入所施設ができましたが、今でも遠方の青森などのグループホームなどに入所する人が多いです。乳幼児期の療育から作業所までは江東区内で通うことができますが、入所施設、グループホームとなると区外になってしまいます。パラリンピックが行なわれた江東区だからこそ、障害者の生涯を江東区内で完結できるようにしてください。移動支援の時間をもらえても、移動支援のヘルパーさんが少ないために実際には利用できないことがあります。ヘルパー支援は障害者にとって外出の楽しみとともに、健康を維持するうえで大事な要素なのでヘルパー養成に関して区で取り組んで下さい。
 - ・各家庭の状況に差があり、計画相談や情報に違いを感じます。
 - ・会員の皆さん通所先で各自納得いく支援を受けられているようです。
 - ・相談支援をする中で、障害当事者だけではなく当事者の親や兄弟も支援を要する場合に、学校、病院、長寿サポートセンター、保健所、法律家の連携が必要となるなど、一事業所が担うには負担の大きい対応困難ケースが多くあります。行政の看板のもと、相談にワンストップで対応できるように考えていく必要があります。
 - ・発達障害の相談センターが必要である。
 - ・施設は色々あって、充実していると思います。ただしそれが必要な方々に届いているかはやや疑問です。
- 自立支援などの懇談会があれば良いのでは。すでにあったとしたら、PRをもっとやるべきかと。
- ・私個人としては「障害者手当」、医療費負担ゼロ等身に余る支援を感じています。デイサービスのリハビリ等に参加していますが、遊びに来ているような人もいてもったいない感じをしています。
 - ・難しい事とは思いますが切実に支援を必要としている人に手厚い支援を！
 - ・今年はデフリンピックあり、海外の方々にシゲキをもらい自立に役立てられるでしょう。
 - ・在宅でいる方、不登校の障害児者の対応など、ヘルパー支援の他にも検討したほうが良い
 - ・自立の定義を改めるところから始めていただきたいと思います。自分の心身の健康を保って主観的充実を感じて生きることが真の自立である、ということを改めて確認、周知して欲しいと思います。
 - ・自助会や支援会への参加は、障害者の健康維持の為には極めて有効であり、それを踏まえて、障害者に対して、区として自助会等への参加の交通費の支給をしていただきたいです。移送費支給制度の設立。
 - ・区独自の障害者の生活費手当の支給制度を作っていただきたいです。
 - ・本人の重度化、介護者の高齢化の問題が置き去りにされていると感じます。個別の事情を勘案していただけるようお願いしたいと思います。
 - ・区の関係者の方々の努力には深く感謝しております。
 - ・自立生活支援では、制度やサービスが複雑で、利用者や家族が必要な支援にたどり着くまで時間が

かかる点が課題だと思います。特に障害のある方が地域で安心して暮らすための住まい確保や生活訓練、就労との連携支援が十分ではないと感じます。支援内容をわかりやすくまとめたガイドの整備や、相談員による伴走支援の充実が望まれます。家族・介護者支援については、介護負担が長期化・高齢化する中で、心身の疲弊を訴える声が多く、レスパイト支援や相談体制の拡充が必要です。行政は現場や家族の声を反映し、継続的に支援策を見直す体制を整えることが求められると思います。

- ・現在は共働きの家庭も増えているので、当団体でも保護者同士の関わりというのは、希望される家庭と難しい家庭に別れていて、全体で保護者活動を行う事が難しくなっています。保護者同士の関わりを希望される家庭に集まる場を提供できるように、保護者同士が集まる機会をご提供、事業所にもご案内いただければと思います。
- ・介護関連者と手話通訳者との綿密な対談の場をしっかりとってほしい。
- ・CODA（ろう者の親がいる聴こえる子ども）、SODA（きょうだいにろう者がいる）がヤングケアラーにさせられていないか。
※医療や学校関連でも聴こえる子が利用されるケースもあるかもしれません。
- ・強度行動障害を持っているお子さんのご家庭では、下の妹や弟が、兄妹のパニックによる他害行為、またそれを押さえるために親が身体拘束をしている姿を目撃することになります。DV ではありませんが、親たちが危険回避のために行っています。
- ・義務教育中の障害児の施設入所は難しいのが現状です。相談体制の強化、児童相談所とも連携していくことが必要と思います。揺れ動く親の気持ちもあり、なかなか現状を変えることが難しいです。
- ・自立生活支援は多岐にわたるためしっかりできているとは言い難い状況だと思う。しかしながら前進していることは間違えないので団体の意見や当事者の意見を今まで以上に吸い上げ、施策の推進に努めていただきたい。
- ・区内のグループホーム不足。
- ・自立生活援助事業の拡大。
- ・介護者（親・子）の高齢化。
- ・介護者の負担。
- ・レスパイト支援の不足。
- ・地域包括ケアとの連携体制不足。
- ・短期入所施設の不足。
- ・医療的ケア児者の利用サービス不足。
- ・ヤングケアラー対策。
- ・どのような支援があるのかなどわかっていない人が多いようです。何か一覧になっているようなものがあれば、紹介したいです。
- ・家族全体の意見のコンセンサスをとるのが難しいと感じている。

問3 区の保健・医療に関する施策について、感じておられる課題や改善策がありましたら、お聞かせください。

- ・卒業後小児科から成人の医療への移行が難しく、情報提供をお願いします。健康診断は現行のまま引き続きお願いいたします。
- ・障害児の受け入れ（入院など）の病院が少なく、緊急搬送時の対応などに問題があるようです。
- ・コロナ感染症の流行時は、保健所や医療機関で働く人たちが地域住民の命を守ってきた。こうした機関の機能をしっかり守るべきである。具体的には保健師を増やし、感染症ベッド数を増やすべきである。地域住民の命や健康をまもる施策や予算は削減させてはいけません。
- ・発達障害児者への対応に医療機関情報、どんな方にどこまで対応できるか情報一覧がほしい。
- ・予防接種ではかなりお世話になりました。身近な病院を利用できたのはありがたかったです。
- ・薬の処方だけのための診察、過剰な薬の処方等に何らかの対策が必要では…。
- ・身体の具合、調子がわるいとすぐ病院へ。通訳の方も増え、安心です。
- ・保健相談所は身近に感じています。仕方ない事だと思いますが、担当の方が新年度に変わる事もあり、その都度新たに繋がりを作り直す必要が出てまいります。担当変更の場合可能であれば早めに次期担当の方を教えて頂ければ助かります。
- ・当事者等の精神保健福祉の向上という観点から述べますが、障害をはじめ、不登校、引籠り、機能不全家族、犯罪被害、自殺遺族、ヤングケアラーなど、普通の人が経験しない壮絶な苦労や困難を背負っている当事者、及び家族の相談支援を行っている、江東区地域振興部青少年課の青少年相談事業があります。この事業は、非常に貴重で有力な福祉資源であることから、人材の安定確保と発展の為に、人件費予算を拡充していただきたいです。また、支援員配置条件の緩和をしていただきたいです。
- ・児童精神科、思春期外来の医療機関が少ない。
- ・児童期の発達の相談先が少ない。区の児童相談所ができれば、発達の相談窓口もできるかと期待していましたが、中止となったので、子ども家庭支援センターで小学生以上も相談できるように体制を整えていただきたいです。（教育相談だけでなく）
- ・区の保健・医療施策については、支援制度や医療機関の情報が分かりにくく、特に障害や持病のある方が必要な医療につながりにくい点が課題だと思います。精神科や内科、リハビリなど複数の診療科を必要とする利用者も多く、医療と福祉の連携不足が生活の安定を妨げていると感じます。
- ・東京都が行っている心身障害者医療費助成制度では、愛の手帳1・2度の方が対象になっているとの事ですが、成人された障害をお持ちの方が隔てなく医療を受ける事ができるように愛の手帳3・4度をお持ちの方にも対象を広げていただけるように、区独自の助成制度や都への働きかけをお願いしたいです。
- ・保健、医療は命と直結しているため、綿密な施策を考えてほしい。
- ・聴こえる聴こえないでの情報の差が出る⇒119FAXを知らない者がいる。緊急通報アプリ119が使いこなせない（スマホは聴こえる親・子の主観で決めることが多い）。聴こえる親・子の主観で決められた「メールだけでいい」という理由でフィーチャーフォン（呼称：ガラケー）のみであり119や7119では音声のみになってしまう。解消するには公衆レベルのTV電話が望ましい。
- ・病院や保健所等では整理券や診療番号による呼び出しは可能であるが待機の整理のためか、名前で呼ばれることがある（聴こえてない）。
- ・入院時の情報保障がない（少ない）。
- ・東部療育センターは新規が難しい状態です。18歳以降も断られるケースもあり、障害基礎年金の

申請に影響があります。東部療育センターの拡充や、精神発達遅延の病院の増設が必要と思います。

- ・保健・医療と障害の分野については今以上に連携が必要だと思われる。事案によって事業所からの相談も保健所対応になったり支援系の対応になったりすることがある。基幹相談支援センターが区立で始まるためこの課題の解消に期待したい。
- ・医療的ケア児・者の利用サービスの不足。
- ・マイナ保険証や資格確認書の周知不足で高齢者や障害者支援現場で混乱。
- ・医療的ケアを行う福祉施設と地域医療機関の連携強化。
- ・入院先の病院のソーシャルワーカーさんに更生医療のしくみなどを質問すると、区ごとに違うからといわれ、結局自身で区役所で詳しく聞かなくてはならないことなどがある。
- ・マル障と更生医療のどちらを使用したら良いかわからないときに、薬局と区役所とで言っていることが違い、混乱したこともあった。働いている場合、必ず更生医療に入ると区役所からは言われたが、薬局からは、どちらかを選べばよいと言われたりするので、自身で調べられるサイトなどがあれば知りたいと思う。
- ・保健師の方々ともっと連携ができればと感じている。

問4 区のユニバーサルデザイン、バリアフリー、生活環境等に関する施策について、感じておられる課題や改善策がありましたら、お聞かせください。

- ・ いろいろな障害者、高齢者に対応できるような環境整備をお願いしたいです。
- ・ 車イスレーンの実施、駅前周辺のバリアフリー化、区役所内の車イストイレの整備をお願いします。街中で車イス移動、駅での対応。各公共施設のベット設置（トイレ）、成人対応の。お願いします。
- ・ 公共施設のトイレにユニバーサルシートを設置して下さい。他国籍で障害のある方の福祉サービス利用が増えています。通訳や文化の違い説明などの対応できる体制を整備して下さい。
- ・ 区の公的施設、特に子どもを対象にした児童館等での合理的配慮事項（例、遊び場、玩具、絵本、クールスペース等）の準備、及び表示で、インクルーシブな空間ができるとよい。
- ・ 東西線南砂駅から東砂方面にかけての遊歩道を利用することが多いです。職人さんが植えてある木をかなり刈り込むので、夏季は遊歩道の体裁をなくしません。小かけができる遊歩道がありがたいです。荒川公園もよく利用し、楽しんでおります。
- ・ ハード面でのバリアフリーは大部整備されていますが、・ 段数の少ない階段には手スリが無い。・ 横断歩道の信号現示について渡りきれない所がほとんどなので、延長型信号にできないか。
- ・ 近隣区ではバス停降り口の随所に逆U字型の手摺が設置しており、私達半身不随の者にとっては大変安全なものです。近隣区ができて何故江東区ができないのか。
- ・ 区のワークショップの成果がユニバーサルデザインの推進にいかされているかの検証が必要。
- ・ まだまだ道路などがでこぼこしていたり、車椅子で移動する際は、傾いていたたり、車椅子を押すづらい明治通りなども自転車が多く止まっていて通りづらい
- ・ 近隣区に高齢者と障害者の複合施設があります。行き来自由で、高齢者の方が障害者のお世話や、タオルたたみなどの簡単な作業をしている。高齢者のデイサービスなどは、サービスを受けるととらえていることが多いが、出来ることや、日常生活をおくると行ったことが認知症予防にも繋がるのではないかと。そんな複合施設を作って欲しいです。
- ・ 区の施設において車椅子でエレベーターを数台見送る事があります。また、歩道や道路の舗装や段差が気になります。
- ・ 少しずつ進んでいると思います。
- ・ 高齢者にとって住みやすい、過ごしやすい場所になれば良いですね。
- ・ 区民参加型のユニバーサルデザインまちづくりワークショップ等の取り組みはとても良いと思います。バリアフリー等の視点で身体障害、聴覚、視覚障害の当事者の参加もあり、私自身もメンバーとして参加して学ぶところが多かったです。精神障害、知的障害者も含めた心のバリアフリー、アンコンシャスバイアス等の学びを、ワークショップに取り入れてほしいです。
- ・ ユニバーサルデザインやバリアフリーに関する施策は進んでいると思いますが、実際の生活場面ではまだ多くの課題があると感じます。特に歩道の段差や狭さ、点字ブロックの不整備、公共施設の案内表示の分かりづらさなど、身体障害者や高齢者だけでなく、視覚・聴覚障害者、外国人にも利用しにくい環境が残っています。改善策としては、当事者や支援者を交えた現地確認を行い、利用者目線での改善を進めることが重要です。また、建物や交通機関だけでなく、ウェブサイトや行政手続きにもユニバーサルデザインの考え方を取り入れる必要があると思います。さらに、地域住民への啓発活動を通じて「支え合いの意識」を広げ、誰もが安心して暮らせる共生社会を実現する取組が求められると思います。
- ・ 近年、夏場はとても暑く子ども達が長い時間過ごす夏休みに公園等の屋外で遊ぶ事が難しくなっています。職員数等の都合により毎回プールに行く事も難しくなっています。じゃぶじゃぶ池や親

水公園等、水遊びができる場をたくさん増やしていただければと思います。

- ・ 基本的には聴こえないことの認知が非常に低い
聴こえないだけではなく内部、精神疾患者等外見から見て判別できない者では気づきにくい・イメージできていない
- ・ スーパーや大型商業施設のケース
⇒館内放送を視覚化、サイネージ化
文字だけではなくイラストやピクトグラム等使用
代表例：セール情報、閉館・閉店のお知らせ、迷子のお知らせ、緊急連絡
江東区役所の2階ではもう少し見やすい、見つけやすいように。
- ・ 江東区役所の老朽化に伴い、何年後かに建て替えると聞きました。
新しい区役所は完全バリアフリー化、障害者の絵や字を利用した温かみのある機能的なものであって欲しいです。渋谷フォントのように、江東フォントに期待しています。
- ・ 前進していることは間違えないと思うが、より進めていただきたい。
- ・ 福祉施設なのに障害のある方たちの使用しやすい環境が整っていない。
- ・ 改善を訴えても合理的配慮の範疇外とされてしまう。
- ・ 学校等でのユニバーサルデザイン、バリアフリー教育。
- ・ ユニバーサルデザイン、バリアフリー住宅（都営住宅やグループホーム）の建設やそれに伴う費用助成。
- ・ 心のバリアフリーや社会的弱者への理解啓発、教育の機会拡大。
- ・ 災害時にも対応しうる環境づくり。
- ・ 地下鉄の駅、車椅子利用の方には不便や危険が多く感じる。

問5 区の雇用・就労に関する施策について、感じておられる課題や改善策がありましたら、お聞かせください。

- ・障害者雇用促進法に基づく法定雇用率は、民間は2.5%江東区は2.8%に対し、区の障害者の実雇用率は2.60%で達成には5.5名（令和6年6月1日現在）不足している。令和4年6月1日現在でも7.5名不足していた。さらに令和8年にも法定雇用率の再度の引き上げが予定されている。民間企業にはペナルティーが科されるが、江東区はない。早急な改善を図るべきです。
- ・一般就労先の開拓。
- ・ピアスタッフの働く場をもっと増やして欲しいです。
- ・全ての事業者にとって、合理的配慮の提供は、当然の法的義務となっています。ところが、配慮提供が当然の法的義務であると理解している会社は、まだまだ少ない状況です。その為、障害者本人が勇気を出して職場に配慮提供の法的義務の履行要求をしても、「わがままだ」とか心無い対応をされ、不当に評価を下げられ、心理的な傷を負わされるケースは残念ながらたくさん見受けられます。区として、区内事業者に対して合理的配慮の提供は法的義務であることを、強く周知、普及啓発していただきたいです。
また、事業者にとって配慮提供が過度な負担となる場合には免責となる場合がありますが、だからといって一方的に拒否、否定、無視して良い訳では無く、過度な負担となる理由を丁寧に説明し、実現可能な妥結点を労使双方で建設的に話し合う場を設ける必要があることも、併せて周知、普及啓発していただきたいです。
- ・障害者が選べる職種が限定的で、職業選択の自由の権利が侵害されているので、区として区内事業者に対して様々な職種、及び勤務時間、形態で障害者を雇用するよう促して欲しいです。また、障害者が選べる職種の拡大、専門職への雇用機会拡大、及び能力発揮や就労継続を後押しする環境調整や合理的配慮提供の徹底を、区として推し進めていただきたいです。
- ・区の雇用・就労施策については、障害のある方や高齢者、子育て中の方など、多様な人が働きやすい環境づくりが十分に進んでいない点が課題だと思います。特に、一般就労を希望する障害者に対する職場定着支援や、就労支援B型からのステップアップ支援が不十分で、福祉的就労に留まらざるを得ないケースが見られます。区が中心となり、企業・支援機関・福祉事業所が連携する包括的な就労支援体制の構築が求められると思います。
- ・高校を卒業した後に就労が定着されなかった軽度の方の中には、職場に手帳を持っている事等を伝えずに短期のアルバイトを選ばれる方もいるようです。当事者やご家族の意向もあると思いますが、就労に限らず当事者の方の生活全体について相談ができる場を作っていただければと思います。
- ・就労相談の連絡先が電話のみが多いこともある。電話以外の手段は可能か。
また、予約していく前に手話通訳手配してもらえるのかの問合せ等にコメントができないか。
- ・コロナ期間中でもuber等の宅配する聴こえない者もいます。現在ではスキマタイムのタイミーも同様にいます⇒相手・客たちに聴こえない者がいるという理解と認知がまだ足りないこともある
- ・企業の障害者理解も少しずつ深まっているが、未だに「精神障害」について理解が深まりづらい傾向がある気がします。
- ・区の障害者雇用が行われていることは承知しているが募集や働いている障害者の業務が見えない部分もある。いろいろな部署で障害者が活躍する姿を見たい。
- ・区内の障害者雇用枠の拡大。
- ・障害者やひきこもり経験者、難病患者などへの個別就労支援の拡充。

- ・ 障害者や高齢者雇用に積極的な企業の紹介。
- ・ 希望者と企業のマッチングの機会提供。
- ・ 区内の障害者の就労募集を紹介会社を通していくつか調べたことがあったが、ハローワークに行
って調べるのとどちらがより多くの情報が得られるかなどがわからない。
- ・ 障害者が就労体験できる場所がもっと多くあるとよいと思う。

問6 区の地域活動や文化・芸術、スポーツ活動等への支援に関する施策について、感じておられる課題や改善策がありましたら、お聞かせください。

- ・江東区の文化、芸術を区民に周知してほしい。区報などでわかりやすく。
- ・障害のある成年・成人の余暇・集団活動について。現在、江東区が行なっている「エンジョイクラブ」は軽度の障害者の学習支援として、大変意義のある活動です。“仕事場とは異なるリラックスした場で、仲間との関係を楽しみながら様々な経験を積んでいく”ことのできる機会はそう多くはありません。このような場が重度の障害のある方にも必要であると考えます。
- ・エンジョイクラブは軽度知的障害のかたが対象です。中度、重度のかた向けの余暇活動支援を行ってください。
- ・江東区文化センターや区民センターなど、江東区民の文化や福祉の増進を図る施設は区民の語り、学び合う場として地域のコミュニティ活動や生涯学習推進の拠点になっている。施設や器具の利用料金は値上げすべきではありません。区立公園での障害者まつりの占有利用などと合わせて、無料又は減免措置は継続して下さい。
- ・障害者芸術、スポーツを一般活動の中に加えていく。
- ・手話の会を NPO でやっています。区の活動とタイアップできればうれしいですね。
- ・私は江東区美術教会に所属しておりますが、江東区の場合「区美術展」等に際し、区からの金銭的支援はありません。「文化的都市江東区」を標榜する区としては、多少の支援があっても良いのではないかと。広報支援をもっとあればと思います。
- ・ボランティアの方々も高齢になり、一人一人と欠けていきますが、身内のようにささえられ、頑張られています。
- ・もっと障害を持っている方が参加しやすい行事や参加しやすい時間を設けたらより参加しやすいと思う。聴覚過敏な方もいらっしゃるのを音を押さえた時間を設けるのも大切だと思う。
- ・自主グループで、だれでも楽しめるコンサートを実施しているが、区の協力があると更に良い。
- ・福祉会館職員に対して障害者向けの、若手でも楽しめるようなイベントやサービスを企画するように区から指導すること、並びに障害者が使える社会資源として福祉会館があることを区がもっと周知することを要望します。
- ・スポーツセンター職員や指導者に対して障害者も教室に申し込みうることを、及び初歩的な障害特性に関する知識を、区から伝えるようにしていただきたいです。区として障害者の土日夜間の社会参加を進めるような支援策を講じてほしいと思います。
- ・場所の確保が大変です。地域の学校等も使用しやすいと助かります。
- ・地域活動や文化・芸術、スポーツへの支援は一定程度行われているものの、障害のある方や高齢者などが参加しやすい環境整備はまだ十分ではないと思います。行事やイベント情報が限定的で、支援が必要な人に届きにくい点も課題だと感じます。
- ・東京オリンピックパラリンピックが開催される際、促進事業として備品の購入や観戦費用に関する助成がありました。イベントの開催にかかわらず、運動の機会は大切だと思いますので、定期的にスポーツ促進の助成を検討いただければと思います。
- ・デフリンピック 2025 東京 開催にあたって、江東区会場3カ所の支援いただき非常に助かっています。デフリンピックは今回で終わりではなく2年後の冬季等おこなわれます。オリンピックと等しく支援等をお願いします。
- ・文化に関して、江東区では名所名物はいくつかあり、体験学習等の情報保障がないのが残念。落語や相撲等の施設があり希望があればつけてもらえるような方法が望ましい。

- ・手話通訳等派遣要綱について見直しをしてほしい。文化・芸術・スポーツ等は趣味であるため派遣不可のケースもある。
- ・スポーツに関して障害者がやると危険といわれることはある。どのスポーツでも誰でも等しく危険なケースはある。差別に当たらないかグレーな点もあると思われますが黒ではないか。
- ・江東区も、毎年障害者作品展を実施。またアートパラ深川での事業もありますが、なかなか江東区民の方々の認知度が薄い気がします。障害者作品展も、江東区文化センターだけではなく、各地域の文化センターで障害アートを披露する場があればと思います。
- ・18歳以降の青年期の余暇支援を法人事業として行っていますが、ボランティアに頼らざるを得ません。継続的かつ安定して行うためには、区独自の補助がつけられるようになると良いと思います。
- ・障害児者が安心して通える余暇が少ないです。エンジョイクラブの重度の方向けなど。取り組めていると感じています。
- ・プール等障害がある方々の利用制限がある。
- ・気軽に利用できる文化・スポーツ施設が少ない。
- ・障害のあるかたでもわかりやすい「文化・スポーツ活動支援（利用）ハンドブック」などがあるといい。
- ・気軽に申し込める文化センターの講座など、障害者割引などがあると働けない人などが参加しやすいと思う。
- ・外に出ることのハードルが高い方（引きこもりも含め）が参加しやすいものも増えるとよいと思う。

問7 区の区民の障害に関する理解・共感の醸成・促進に関する施策について、感じておられる課題や改善策がありましたら、お聞かせください。

- ・いつでもどこでも誰でも使えるような手話通訳制度にしてほしい。
- ・現在の現状を引き続きお願いします。
- ・るーくるの活動など通じて多くの障害者の皆さんの生き生き働く姿、活動を見ていただき障害者理解を広めていける場として、福祉大会なども多くの一般の方の参加できる内容検討、交流の場になればよいと思います。
- ・臨海部は家賃が高く、福祉事業所不足は深刻です。塩浜福祉プラザのような複合施設をつくり貸与するか、臨海部放課後等デイサービス整備促進事業を成人施設やヘルパー事業所にも広げて下さい。早急に地域格差を是正して下さい。このように区有地に福祉事業所をあっせん、建設することで区民の障害に関する理解や共感が広がります。各地域に福祉事業所があることがあたり前の江東区にして下さい。
- ・より共生社会に繋がるような活動の場。
- ・私は耳に障害があり、補聴器を利用しています。購入の時に補助金があったのはうれしかったです。財政に限りがあるのかもしれませんがさらなる充実が期待されます。
- ・障害者福祉センターの認知度が低いのではないのでしょうか。・活動内容、利用規約等をもっと広く広報すべきでは。
- ・手話がひとつの言語として認められ、自然と生活の中に手話も区民の理解と共に生きております。
- ・ポスターを作ったりして具体的に〇〇の障害の方への対応など、周知してみてはいかがでしょうか？
- ・精神障害や発達障害のような目に見えない障害は、一般大衆の理解も乏しく、また差別やスティグマも非常に苛烈なものとなっています。その為、障害に関する人権教育、普及啓発イベントを、区が積極的に開催するようにはしていただきたいです。また、義務教育の中で、障害に関する人権教育、障害年金や生活保護に関する社会制度教育、社会制度を活用することに対する偏見の解消、精神疾患への差別解消などを教える時間を確保していただきたいです。
- ・区報では「認知症サポーター養成講座」の案内がしばしば見られるが、これと同様に「自閉症サポーター養成講座」を定期的に開催し、差別解消と支援人材の養成に力を入れて欲しいです。
- ・区では失語症意思疎通介助者の派遣事業も行っているが、発達障害者も周囲の人の障害に対する無知、無理解に起因して意思疎通が困難な状況に追い込まれていることから、自閉症意思疎通介助者の派遣事業も行なって欲しいです。
- ・まだ、新規の障害者グループホームを作ろうとすると地元の住民の人たちに反対されたりします。区としてそのような時に仲裁してくれるような制度があるとよいと思います。理解を促進するために定期的なマルシェなどを開催していますが、少しでもそうした活動に補助をいただけたらと思います。
- ・子どもの頃から障害者（児）と校舎を分けて、活動を別に行っているところから始まっているので、障害者（児）は存在すら意識されていないのが実状だと思います。小・中学校において、普通学級と同じフロアの隣の教室に特別支援学級があっても良いと考えています。（水道の設置、洗濯機等の設置など決まりはあると思いますが、それを理由にはいけないと思います）子ども達が育つ日常の中で、多様な人が共存していることを当たり前に感じることができるようになっていくべきだと思います。普通学級のなかでも多様なメンバーがいてよい、みんないろいろであることの気づきになることと思います。いじめや不登校施策にもプラスの効果であると考えます。

- ・障害に関する理解や共感を深める取り組みは少しずつ進んでいると思いますが、まだ「特別な存在」として捉えられることが多く、地域全体での理解浸透には課題があると思います。学校教育や地域行事などで障害者と触れ合う機会が限られており、日常的な関わりを通じた理解が不足しています。
- ・知的障害のお子さん達は一見すると周囲の配慮が必要な事が見え難くあります。移動時に周囲に迷惑をかけないようにという思いと共に、周囲にも配慮をいただければと感じる事もあります。区報等で、定期的に事業所のコラム等を乗せていただいて、その中で配慮してほしい事等を掲載して周知につながればと思います。
- ・区が主体となり行われている手話講習会、手話通訳派遣制度、小学校へUD出前授業等行っただきありがとうございます。
- ・多様性の尊重がなされないケースがある。多数であるための無自覚の暴力、禁止事項による無視等。
- ・こうとう区報が少し変わりましたが、もっと福祉のイメージアップに取り組んでいただきたいです。すぎなみ区報をみて感動しました。障害者や支援者がいきいきしている姿を出しながら、ボランティアを集める等、官民一体となった努力が必要です。
- ・障害に関する理解、共生の醸成、促進に関しては行政の力も必要だと思いますが私たちの団体も含め団体の努力も必要だと思います。内向きの発想ではなく前向きに進めていきたいと思っています。
- ・学校や地域活動でのインクルーシブな取り組みがまだ十分ではない。
- ・障害者本人の声が施策に反映されにくい。
- ・精神障害や発達障害など「見えにくい障害」への理解が特に乏しい。
- ・障害に対する知識や接点が少ない区民も多く、無理解や偏見が残る場面がある。
- ・区が頑張っている割には、障害者本人たちがどんな取り組みがあるのかなど理解していないケースが多いと感じる。区民の理解の温度差があるのは仕方ないこととして、差別がなくなるような、より積極的な取り組みが多くあるとよいと思う。

問8 地域の安心・安全等の地域生活環境整備に関する施策について、感じておられる課題や改善策がありましたら、お聞かせください。

- ・災害時の要支援者に対する事前の情報提供をお願いしたいです。
- ・ぜひ江東区も福祉避難所へ直接避難できるシステムを構築してください。また、福祉避難所の運営が迅速に行われるようにしてください。
- ・各家庭における防災対策、情報をお願いします。
- ・障害者を抱えた家族には、緊急一時保護事業はとても重要な事業です。突然の病気や事故での入院、家族の介護などをするようになった場合、短期入所や江東区のリバーハウス東砂など緊急の枠は少なく、当日は使えません。そんな時に本人が慣れた場所で、知る支援者の保護が受けることができ、本人、家族にありがたい制度、事業です。しかし時間によっては東京都の最低賃金より下回り、助成額も上がっていません。福祉人材の処遇改善にふさわしい助成額にすべきです。
- ・障害児への災害時対策。
- ・私半身麻痺で足が不自由なので、避難の必要がある時、避難のアシスト体制がどうなっているのか不安があります。
- ・視覚障害者にとって大切な点字ブロックは今となってわかる件なのですが、老人にとっては「あぶない」目に。道幅の細いところは、細目の点字ブロックに作って頂けるとありがたいです。
- ・信号の待機場所は、広くしたり飛び出したりしても大丈夫な工夫。また、公園は、バリアフリー遊具が多く設置され始めているが、健常な子ども達が乱暴に遊ぶ姿も多く見られます。バリアフリー遊具の上は、日陰が欲しいです。木を植えるや、上に屋根があると雨の日でも遊べます。
- ・車椅子トイレに折りたたみベットを設置してほしい。
- ・歩道や道路の舗装や段差を考えてほしい。自転車専用レーンの充実化/整備をお願いしたい。
- ・水害時に近隣の高層建築物に施設利用者が避難できるように、江東区が間に立って協定を結べる制度を作ってください。
- ・地域の安心・安全に関する施策は一定の成果を上げているものの、災害時や夜間など緊急時の支援体制にはまだ不安が残ります。特に、障害のある方や高齢者など支援を要する人への避難支援や情報伝達方法が十分に整っておらず、個別支援計画の実行性にも課題があると思います。
- ・地震や水害等の大規模災害が起きた時に、事業所としては利用している子ども達を安全にご家庭に引き渡す事が最優先と考えています。ご家庭の中では、十分に備蓄品や避難場所、避難方法についてシミュレートできているご家庭もありますが、不十分に感じるご家庭もあると思います。各ご家庭に聞き取りをしていただいて各家庭の防災対策を進めていただければと思います。
- ・2026 年度4月より始まる自転車の青切符制度について。区が主体でもいいので、小中学校で自転車講習を行ってほしい。小学生対象だけではなく、大人（特に30～50代）に向けて発信。
- ・歩道上の自転車の暴走が減らない。
- ・災害対策については早急に進める必要があると感じています。災害弱者に対する避難所・福祉避難所含め整備や周知が必要だと思っています。
- ・個人情報の問題もあり難しいとは思いますが、個別避難計画も整備が始まっているとは思いますが実際に運用ができるかは難しいのでは感じています。
- ・施設が福祉避難所になっているが、有事の際の動きがわからない。避難所として開設しても避難所として機能させる物資、物品が備えられていない。災害時の要配慮者への支援体制が不明確、実際の有事の際、避難所避難ができるのか？避難所では収まりきらないと思う。
- ・川が多いので、洪水の時にどちらに避難したらよいのかなど、不安に思っている障害者が多い。

問9 区の配慮を必要とするこどもに対する教育・療育に関する施策について、感じておられる課題や改善策がありましたら、お聞かせください。

- ・放課後等デイサービス事業への区独自の補助について。江東区からの「家賃補助」「重度加算」の継続をお願いいたします。
- ・知的な遅れがあまりない発達障害の子を持つ親に対してのペアレントメンター養成、派遣を行える組織がほしい。もし当団体が請け負うときは財政的支援をしてほしい。
- ・少子化対策で国や自治体ごとに教育や給食費、保育料などの無償化が進められています。現在は3～5歳の障害児通所の利用者負担は無料になっていますが、他の年齢にも広げて下さい。
- ・就学後の専門職（リハビリテーション、心理）の個別指導、個別相談。
- ・私はまちづくり相談員として、各小学校へのユニバーサルデザイン出前講座に参加させていただきました。概ね効果を上げているのではないかと感じています。できれば父兄レベルにも広げられればと思います。
- ・支援や配慮を必要としている子どもたちの夏場の過ごすスペースがもっと多くあると良いです。健常の方と区切る必要はないと思いますが、やはり迷惑をかけてしまったり我慢をさせてしまうことがあるため、専用スペースがあると、更に良いと思います。障害児者おすすめの遊び場、マップなどがあると良いのではないかと。ヘルパーなど利用できるなど制度の、周知も未就学児の保護者の方には必要だと思う。
- ・特別支援学級の増設、及び支援級において障害生徒の支援を専門に行うスタッフ、支援員、心理的介助員の増員、待遇向上、安定雇用をしていただきたいです。
- ・ピアスタッフ人材の活用という観点から、特別支援級支援職員には、生徒と同じ障害を抱えている障害当事者を積極的に登用していただきたいです。
- ・小学生以上の療育、相談の場所が増えると良いと思います。
- ・支援の質や地域間の格差が大きい点が課題だと思います。発達特性のある子どもが増える一方で、専門職(特別支援教育コーディネーター、言語聴覚士、臨床心理士など)の配置が不足しており早期支援につながりにくい状況があると思います。
- ・当事業所を利用されているお子さんの中には長期に渡り登校ができていないご家庭や区外の私立小学校に通学されているお子さんもいます。お子さんや家族の選択ではあると思いますが、できれば区内の学校に通える事ができるように、サポート校の充実等を進めていただければと思います。
- ・小中学校等で手話通訳の派遣を念頭に入れていただきたい。
- ・児童に限らずですが医療的ケア児に関する教育・療育の整備が必要だと思います。区民誰もが教育やサービスを受けやすくしていくことが必要だと思います。
- ・医療的ケア児の対応が不十分。
- ・放課後等デイサービスのエリアの偏りや移動支援サービス不足の解消。
- ・医療的ケア児の短期入所施設が必要。
- ・障害児とそうでない子どもたちとのインクルーシブな教育が不十分。
- ・バリアフリー（ユニバーサルデザイン）公園の拡充。
- ・障害児の親の情報交換、交流の機会の充実。
- ・放課後等デイサービスは地域によっては不足しているようなので、格差がないように施設を整備してほしい。

問 10 団体の運営・活動上の課題等がありましたら、お聞かせください。

- ・人員確保と職員の待遇など安定した運営に、区の補助金の必要を感じます。緩和措置をお願いします。
- ・入所により会員の人数が少なくなり、活動が難しくなっています。肢体不自由児者の場合、成人になると家族の高齢、ご本人の体調面など多くの問題があり、今後の活動が懸念されています。
- ・毎年最低賃金が上がります。福祉事業所の報酬費はその上昇分の補充はありません。江東区で人件費の上昇分を補填して下さい。募集しても職員が集まらない、定着しない最大の要因は福祉事業所の職員の低賃金です。江東区としても職員の処遇改善をさらに充実して下さい。
- ・事業運営の事務局の強化。
- ・加入メンバーが減少して、運営が難しくなっております。どうやって増やすか、大きな課題です。
- ・当会は数年前までは会員数は十数人おりましたが、コロナ以降は休んでいたメンバーが戻らず現在は4人と激減しております。区報の「みんなの広場」に会員募集の掲載を試みましたが、なかなか順番も回ってこず掲載されても効果がありませんでした。何か強力な方法がないか模索しております。
- ・年に1回だれでも楽しめるコンサートを実施しております。区報への掲載や、賛助など区の、ご協力があると大変助かります。チラシ作成や周知が課題となっている。一度区報掲載をお願いしましたが、継続性がないと断られました。余暇活動として、音楽療法の実施をしているが、現在、口コミなどで活動している。活動をお知らせできる所があればありがたい
- ・私達の団体は営利を目的とした活動はしておらず、活動経費は自分達の献金だけで自立しております。区内の施設をお借りして活動しているので障害者割引に助けられています。ただ施設ごとに障害者団体登録をする必要も出てきたりするので、出来るなら一つの障害者団体登録で済むようになれば有難いです。また現在障害者割引が適用されない場所もあり、時に会場費を捻出するのに苦労する場合が出てまいります。
- ・活動の助成金について
障害支援団体は、障害者や家族が設立し経営することが多いですが、障害を負っていると様々な場面で差別によって社会進出を阻害され、経済的な不利を強いられています。活動資金の確保が団体経営上の課題となっています。障害支援団体が、その地域の福祉の向上の為に支援活動を行うにあたり、区から会場費や物品費用の支給をしていただきたいです。
- ・広報について
障害支援団体の活動は、単なる趣味サークルの集まりではなく、それ自体が貴重な地域福祉資源の1つであることから、区や保健所、社協が積極的に開催情報の発信、広報をすると良いかと思えます。具体的には、区報などに、支援会の開催日や場所、運営手伝いボランティアの募集記事を掲載するなどして頂けると、地域福祉の観点から望ましいと思えます。
- ・現在の訓練費、介護給付費では職員に人並みの給料を支払うことはできません。国の施策だからというのでしたら、国に働きかけてください。それ以外にも区独自の上乗せを考えてください。
- ・コロナ禍もあり、作業所の運営には厳しいものがあります。地域に根ざした作業所でありたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。
- ・場所の確保（予約）が大変です。月1回の活動をしています、区の施設を予約して、毎回違う場所になります。地域の学校等で安定して利用できる場所があると良いのですが。
- ・団体運営においては、人手不足と職員の負担増が大きな課題だと思います。特に福祉現場では支援員の確保が難しく、経験の浅い職員への教育やフォロー体制も十分ではありません。また、利用者

支援と事務作業の両立が難しく、多くの時間を取られることで、直接支援の質に影響が出ることがあります。改善策として ICT を活用した業務効率化や行政との情報共有の簡素化、職員の処遇改善、研修機会の充実が求められると思います。

- ・新しく利用を希望される方全員を受け入れる事が難しい状況が続いています。障害児通所支援に限った事ではないですが、様々な助成を行い、事業所の数が増える、事業所の経営が安定する事で、必要な人に必要なサービスが行き届くようにご尽力いただければと思います。
- ・どこの団体も同様なことですが、少子化高齢化対策がされていない。生活を安定することは確かに必要。子どもが増えない限り良くはならない。
- ・手話は言語であること
国では手話に関する施策の推進に関する法律が施行されている。江東区では手話言語普及及び意思疎通に関する条例がありますが、意思疎通に関するものが強く、手話の言語に関する条例がない。（意思疎通だけの問題ではないこと）手話講習会でもご協力をお願いを継続していきます。
- ・人材育成の場を強化が必要です。目の前の利用者さんの支援での大変さで、日々の業務に追われることがある中で、しっかりと時間をもって「職員間の意見交換」「多職種連携」等を行う場を設けていきたい。
- ・福祉で働く人たちが年々減少しています。事業所の支援員も高齢化となりますが、若い人たちがなかなか定着しません。
- ・民設民営、指定管理など運営形態の違う事業運営していますが、サービスの質を落とさず、職員への保障などをしていくための資金の確保が課題となっている。
- ・高齢障害者のための通所施設を運営しているが、介護保険との併用ができない部分もあり、現在は課題を抱えている。
- ・会の会員数が減少傾向にある。若年層の新規会員の獲得
- ・事業体においては人員不足で、人材確保が厳しい状況にある
- ・これまで頻繁に運動や手芸関係、医師や医療スタッフによる講演会を行ってきたが、資金不足でそれが叶わなくなり、会が停滞している。会員一人一人からの会費納入率が悪いことも一因である。

問 11 その他

- ・今後も多くの活動ができるように区主催のイベント、研修会の実施をお願いします。
- ・親なき後の暮らしの場が課題になっています。江東区の場合、重度障害者のグループホームも無く入所施設も開所されましたが、狭き門になっています。地域で親なき後も暮らすのは非常に難しい問題と感じています。区のお力を借り、住まいの場の拡充をこれからも会の課題として取り組んでいきたいと思います。
- ・旧優生保護法は成立当初から憲法違反であったことが最高裁判所で判決されました。最も身近な自活体である江東区に相談窓口を設けるべきです。
- ・障害児を育てている保護者の交流会。特に発達障害を中心にきょうだい児の会。
- ・世の流れで仕方ない事だと思いますが、喫煙所/喫煙スペースがある施設が少ないように感じています。喫煙に関して注意を払っていたにしても、逆に各個人の考え/行動で路上喫煙等の問題が出てくるように思えます。
- ・来年度から基幹相談支援センターがスタートしますが、ぜひそのスタッフに実際に現場で相談支援を行ってきた経験者を配置してください。区の窓口や、保健相談所で相談を受けているのとまったく別の、相談支援なりの課題があります。それに向き合ってもらえないと困るなあと思っています。
- ・障害者の就労には、まだまだ厳しいものがあります。これからもご支援のほど宜しくお願いします。
- ・職員の支援力や意識の差が大きく、事業所全体に影響している点があると思います。利用者一人ひとりに合わせた個別支援や地域との交流は一定程度は実現できていますが、支援員によって関わり方や配慮の仕方に差があり、それが利用者の安心感や作業意欲に影響する場面があります。また、職員の入れ替わりが多く、経験や知識の継承が十分に行われていないため、支援の質が安定しにくいと感じます。結果として、利用者よりも職員体制そのものに課題を感じる場面が少なくありません。
- ・最近では ICT・IT 機器の発達により、便利になることは喜ばしい限り。それらに傾倒しすぎると、使えなくなった時の状態が心配。
- ・2020 年代に入ってから発覚している「聴覚情報処理障害（APD）」聴こえているが情報が入らない症状も聴覚障害扱いになるか現時点での課題になっている。
- ・最低賃金の補償、または利用者から利用料を徴収するなど、緊急に対する支援を充実するためにも見直しが必要だと思います。
- ・臨海部の福祉サービスが圧倒的に不足していると感じています。サービスを受けるためにかかる移動時間や送迎サービス（ヘルパー含む）の不足を考えると臨海部にサービスがあるとよいと思われる。現状医療的ケアを受けている人が送迎バスで 30 分以上乗って通所したり、家族が送迎している現状がある。
- ・内臓疾患の患者が多いので、そのための料理教室を開催しようと、何度か今年度、調理室がある施設に応募を試みたが抽選で外れてばかりで、こちらも活動が停滞してしまった。

令和7年度
江東区地域生活に関する調査
(江東区障害者実態調査)
印刷物登録番号 (7) 120号

発行年月：令和8年3月
編集発行：江東区 障害福祉部 障害者施策課
〒135-8383 東京都江東区東陽 4-11-28
電 話：03-3647-4749 FAX：03-3699-0329